

目次

あ	アカデミックライティング	澤田帆奈美……	1	英語IV	阿部 美恵……	41
	アジア観光論B	大井 功……	2		ELEC……	42
	アジア文化研究A	大井 功……	3		岡部 佑人……	43
	アジア文化研究B	大井 功……	4		倉崎 祥子……	44
	アニメーション研究	小田切 博……	5	英語V	ELEC……	45
	アフリカ文化研究A	川添 裕子……	6	英語VI	ELEC……	46
	アフリカ文化研究B	川添 裕子……	7	英語学概論A	岡部 佑人……	47
	アメリカ観光論A	澤田 利彦……	8	英語学概論B	岡部 佑人……	48
	アメリカ観光論B	澤田 利彦……	9	英語コミュニケーションI	阿部 美恵……	49
	アメリカ文化研究A	栗屋 信子……	10	英語コミュニケーションII	阿部 美恵……	50
	アメリカ文化研究B	栗屋 信子……	11	英語コミュニケーションIII	倉崎 祥子……	51
	安全・安心の会社法及び関連法	新城 将孝……	12	英語コミュニケーションIV	倉崎 祥子……	52
	安全保障とリスク	高橋 敏哉……	13	英語スピーキングI	ELEC……	53
い	イギリス文化研究A	阿部 美恵……	14	英語スピーキングII	ELEC……	54
	イギリス文化研究B	阿部 美恵……	15	英語通訳I	田中 一郎……	55
	異文化共生論A	栗屋 信子……	16	英語通訳II	田中 一郎……	56
	異文化共生論B	栗屋 信子……	17	英語プレゼンテーションA	ELEC……	57
	異文化コミュニケーション論	栗屋 信子……	18	英語プレゼンテーションB	ELEC……	58
	異文化コミュニケーション論I	栗屋 信子……	19	英語プレゼンテーションC	ELEC……	59
	異文化コミュニケーション論II	栗屋 信子……	20	英語文学I	阿部 美恵……	60
	異文化論A	川添 裕子……	21	英語文学II	阿部 美恵……	61
	異文化論B	川添 裕子……	22	英語ライティングI	ELEC……	62
	インターネット心理学	加藤 尚吾……	23	英語ライティングII	ELEC……	63
	インターンシップ	鷺尾 裕子……	24	英語ライティングA	ELEC……	64
う	Webデザイン	岸 康人……	25	英語ライティングB	ELEC……	65
え	映画研究	堀口 悟士……	26	英語リスニングI	ELEC……	66
	英語I	阿部・廣本……	27	英語リスニングII	ELEC……	67
		ELEC……	28	英語リーディングI	ELEC……	68
		岡部 佑人……	29	英語リーディングII	ELEC……	69
		倉崎 祥子……	30	英語リーディングA	ELEC……	70
		田中 一郎……	31	英語リーディングB	ELEC……	71
	英語II	阿部・廣本……	32	映像心理学	野村 康治……	72
		ELEC……	33	エクイティ投資論I	橋口 宏行……	73
		岡部 佑人……	34	エコツーリズム	永井 恵一……	74
		倉崎 祥子……	35	M&A戦略論	榊原 稔……	75
		田中 一郎……	36	お 沖縄文化研究I	安倍 宰……	76
	英語III	阿部 美恵……	37	沖縄文化研究II	安倍 宰……	77
		ELEC……	38	音楽(子どもと音楽)	鹿戸 一範……	78
		岡部 佑人……	39	音楽で遊ぶ(音楽表現)	鹿戸 一範……	79
		倉崎 祥子……	40	音声学I	岡部 佑人……	80

音声学Ⅱ	岡部 佑人…… 81	漢文学研究Ⅰ	石村 貴博……125
か 会計学Ⅰ	桑原・高橋…… 82	漢文学研究Ⅱ	石村 貴博……126
会計学Ⅱ	桑原・高橋…… 83	管理会計論	川口 修……127
外国史	関口 宏道…… 84	き 企業金融論Ⅰ	白川 満伸……128
外国史論Ⅰ	関口 宏道…… 85	企業金融論Ⅱ	白川 満伸……129
外国史論Ⅱ	関口 宏道…… 86	企業組織法Ⅰ	藤原 俊雄……130
カウンセリング入門	中村 淳子…… 87	企業組織法Ⅱ	藤原 俊雄……131
家族心理学	水本 深喜…… 88	企業ファイナンス法Ⅰ	金子 勲……132
家族法	新城 将孝…… 89	企業ファイナンス法Ⅱ	金子 勲……133
神奈川文化論	鷺尾 裕子…… 90	企業文化論Ⅰ	小柏喜久夫……134
体で遊ぶ(身体表現)	塩野谷祐子…… 91	企業文化論Ⅱ	鈴木 毅……135
環境経営論Ⅰ	瀧口 洋…… 92	企業文化論Ⅱ	小柏喜久夫……136
	中藤 和重…… 93		鈴木 毅……137
環境経営論Ⅱ	瀧口 洋…… 94	基礎ゼミⅠ	……138
	中藤 和重…… 95	基礎ゼミⅡ	……140
観光英語Ⅰ	田中 一郎…… 96	キャリアデザイン基礎	
観光英語Ⅱ	田中 一郎…… 97	宝子山、菊本、薬師丸……142	
観光概論	古賀 学…… 98	キャリアデザイン研究	宝子山、菊本……143
観光経営論	白澤 恵一…… 99	教育課程・保育課程論	濱中啓二郎……144
観光経営論Ⅰ	白澤 恵一……100	教育実習Ⅰ(幼稚園)	
観光経営論Ⅱ	白澤 恵一……101	中村、永井、大沢、後田、野末……146	
観光経済論Ⅰ	白澤 恵一……102	教育実習事前事後指導Ⅰ(幼稚園)	
観光経済論Ⅱ	白澤 恵一……103	永井、大沢、後田、中村、野末……147	
観光産業論Ⅰ	古賀 学……104	教育心理	中村 淳子……148
観光産業論Ⅱ	薬師丸正二郎……105	行政法Ⅰ	高乗 智之……149
観光社会学Ⅰ	永井 恵一……106	行政法Ⅱ	高乗 智之……150
観光社会学Ⅱ	永井 恵一……107	近代文学研究A(散文)	徳本 善彦……151
観光情報論	立野 貴之……108	近代文学研究B(韻文)	徳本 善彦……152
観光文化史Ⅰ	高寺奎一郎……109	金融概論Ⅰ	中藤 和重……153
観光文化史Ⅱ	高寺奎一郎……110	金融概論Ⅱ	中藤 和重……154
観光文化論	古賀 学……111	金融政策論	石橋 春男……155
観光マーケティング論	澤田 利彦……112	金融統計学Ⅰ	岡 猛夫……156
	鷺尾 裕子……113	金融統計学Ⅱ	岡 猛夫……157
観光マーケティング論Ⅰ	澤田 利彦……114	く グローバル化と文化A	安倍 宰……158
	鷺尾 裕子……115	グローバル化と文化B	安倍 宰……159
観光マーケティング論Ⅱ	澤田 利彦……116	け 経営学	小柏喜久夫……160
	鷺尾 裕子……117	経営学総論Ⅰ	小柏喜久夫……161
韓国語Ⅰ	李 柱憲……118		白川 満伸……162
韓国語Ⅱ	李 柱憲……119	経営学総論Ⅱ	清水 健太……163
韓国語コミュニケーション	金 宰郁……120		小柏喜久夫……164
韓国語プレゼンテーション	金 宰郁……121		白川 満伸……165
韓国文化研究A	李 柱憲……122	経営管理論Ⅰ	清水 健太……166
韓国文化研究B	李 柱憲……123		清水 健太……167
監査論	大塚 良治……124		服部 治……168

経営管理論Ⅱ	清水 健太……169
	服部 治……170
経営社会学Ⅰ	坂本 隆行……171
経営社会学Ⅱ	坂本 隆行……172
経営組織論Ⅰ	清水 健太……173
	中村 元一……174
経営組織論Ⅱ	清水 健太……175
	中村 元一……176
経営文化論Ⅰ	小柏喜久夫……177
	鈴木 毅……178
経営文化論Ⅱ	小柏喜久夫……179
	鈴木 毅……180
経営分析論Ⅰ	石崎 忠司……181
経営分析論Ⅱ	石崎 忠司……182
経営リスクマネジメント論	宮林 正恭……183
景観論Ⅰ	斉藤 全彦……184
景観論Ⅱ	斉藤 全彦……185
経済学	案浦 崇……186
	坂本 隆行……188
経済学概論Ⅰ	中藤 和重……189
経済学概論Ⅱ	中藤 和重……190
経済原論Ⅰ	中藤 和重……191
経済原論Ⅱ	中藤 和重……192
経済数学Ⅰ	志築 学……193
経済数学Ⅱ	志築 学……194
経済政策	石橋 春男……195
経済法Ⅰ	新城 将孝……196
経済法Ⅱ	新城 将孝……197
刑事法Ⅰ	麻妻みちる……198
刑事法Ⅱ	麻妻みちる……199
芸術心理学	野村 康治……200
契約概論	藤原 俊雄……201
契約法Ⅰ	新城 将孝……202
契約法Ⅱ	新城 将孝……203
原価計算論Ⅰ	川口 修……204
	渋谷 武夫……205
原価計算論Ⅱ	川口 修……206
	渋谷 武夫……207
言語学	松浦恵津子……208
現代家族論	藤卷 静代……209
現代文学研究A(散文)	中村 龍一……210
現代文学研究B(韻文)	徳本 善彦……211
憲法	高乗 智之……212
憲法学Ⅰ	高乗 智之……213

憲法学Ⅱ	高乗 智之……214
こ 行動観察法	菅沼 憲治……215
行動観察法演習	菅沼 憲治……216
行動分析学	水本 深喜……217
国語(子どもとコミュニケーション)	古金 村木……218
国際開発経済論Ⅰ	坂本 隆行……219
国際開発経済論Ⅱ	坂本 隆行……220
国際関係論Ⅰ	伊藤 重行……221
	高橋 敏哉……222
国際関係論Ⅱ	伊藤 重行……223
	高橋 敏哉……224
国際観光論Ⅰ	澤田 利彦……225
国際観光論Ⅱ	澤田 利彦……226
国際経営論Ⅰ	中村 元一……227
国際経営論Ⅱ	中村 元一……228
国際経済論Ⅰ	案浦 崇……229
	坂本 隆行……230
国際経済論Ⅱ	案浦 崇……231
	坂本 隆行……232
国際政治学Ⅰ	伊藤 重行……233
	高橋 敏哉……234
国際政治学Ⅱ	伊藤 重行……235
	高橋 敏哉……236
古典文学研究A(散文)	石上 七鞆……237
古典文学研究B(韻文)	石上 七鞆……238
子どもコミュニケーションの指導	古金 悦子……239
言葉で遊ぶ(言語表現)	村木 桂子……240
子ども教育原理	大沢 裕……241
子ども教育社会学	深谷 野亜……242
子ども教育制度論	山下 文一……243
子ども教育相談	中村 淳子……244
子ども教育方法論	濱中啓二郎……245
子どもコミュニケーション表現法	小野 和……246
子どもの食と栄養	ヒューズ美代……247
子どもの保健Ⅰ	畑島富士子……248
子どもの保健Ⅱ	塩野谷祐子……250
子ども保育者論	山下 文一……251
コミュニケーション心理学	水本 深喜……252
コミュニケーション論	栗屋 信子……253
コンピュータグラフィックス	岸・立野・金……254
コンピュータプレゼンテーション	安村・岸・金……255
コンベンションビジネス論	澤田 利彦……256
さ 債権回収法Ⅰ	藤原 俊雄……257
債権回収法Ⅱ	藤原 俊雄……258

債券投資論 I	橋口 宏行……259	証券市場論 I	長谷川 清……303
財務管理論 I	白川 満伸……260	証券市場論 II	長谷川 清……304
財務管理論 II	白川 満伸……261	証券投資論 I	橋口 宏行……305
財務諸表論	桑原 常明……262	証券投資論 II	橋口 宏行……306
産業心理学 I	深澤 伸幸……263	消費者と安全	坂本 隆行……307
産業心理学 II	深澤 伸幸……264	食文化と観光	澤田 利彦……308
産業心理学概論	深澤 伸幸……265	書道 I	小川美年子……309
し C 言語	安村 薫……266	書道 II	小川美年子……310
ジェンダー研究	川添 裕子……267	情報基礎	安村・岸・金……311
自己の心理学	水本 深喜……268	情報検索論	岸 康人……312
事故の法的責任論	福島 崇宏……269	情報コミュニケーション論	加藤 尚吾……313
事故リスク危機マネジメント	宮林 正恭……270	情報システム概論	金 宰郁……314
持続可能な開発目標と国際社会	庵原・松浦……271	情報職業論	白澤 恵一……315
持続可能な開発目標と国際社会 A	庵原・松浦……272	情報処理	館 秀典……316
持続可能な開発目標と国際社会 B	庵原・松浦……273	情報処理概論	安村 薫……317
質的調査法	水本 深喜……274	情報セキュリティ概論	安村・岸・金……318
私法学 I	新城 将孝……275	情報理論	金 宰郁……319
	藤原 俊雄……276	情報倫理	金 宰郁……320
私法学 II	新城 将孝……277	人口問題	岸 康人……321
	藤原 俊雄……278	信託法 I	伊藤 重行……322
実用英語 I	田中 一郎……279	信託法 II	長岐 郁也……323
実用英語 II	田中 一郎……280	人的資源管理論 I	長岐 郁也……324
児童家庭福祉	鈴木 孝子……281	人的資源管理論 II	沈 瑛……325
児童文学研究	牛山 恵……282	心理学	沈 瑛……326
社会学	佃 直毅……283	心理学概論 I	菅沼 憲治……327
	深谷 野亜……284		野々村 新……328
社会学概論	佃 直毅……285	心理学概論 II	菅沼 憲治……329
	深谷 野亜……286		野々村 新……330
社会学概論 I	佃 直毅……287	心理学基礎 A	菅沼 憲治……331
	深谷 野亜……288	心理学基礎 B	菅沼 憲治……332
社会学概論 II	佃 直毅……289	心理学研究法	菅沼 憲治……333
	深谷 野亜……290	心理学実験演習	水本 深喜……334
社会心理学概論	深澤 伸幸……291	心理学実験法	野村 康治……335
社会心理学実験演習	水本 深喜……292	心理統計法	野村 康治……336
社会調査研究法演習	菅沼 憲治……293	す スポーツ実技	野村 康治……337
社会調査入門	深澤 伸幸……294	スポーツ実技 A	塩野谷祐子……338
社会調査法	深澤 伸幸……295		小泉・白井・小林……339
社会的養護	鈴木 孝子……296	スポーツ実技 B	塩野谷祐子……340
社会的養護内容	鈴木 孝子……297	スポーツ論	小泉・白井・小林……341
社会福祉概論	鈴木 孝子……298	図画工作(子どもと造形)	塩野谷祐子……342
集団の社会心理学	水本 深喜……299	せ 性格心理学	小野 和……343
集団間での対立と和解	菅沼 憲治……300	生活環境論	中村 淳子……344
障がい児支援教育	作間 祐子……301		金子 勲……345
障がい児保育	赫多久美子……302		中藤 和重……346

生活(子どもと生活)	野川 智子……347	中国語Ⅱ	但 継紅……392
政治学	伊藤 重行……348	中国語コミュニケーション	但 継紅……393
	高橋 敏哉……349	中国語プレゼンテーション	但 継紅……394
政治学概論Ⅰ	伊藤 重行……350	中国文化研究A	但 継紅……395
	高橋 敏哉……351	中国文化研究B	但 継紅……396
政治学概論Ⅱ	伊藤 重行……352	調査研究(フィールドワーク)	川添 裕子……397
	高橋 敏哉……353	地理学	飯田 貞夫……398
成人・老年期の心理	中村 淳子……354	地理学概論Ⅰ	飯田 貞夫……399
青年期の心理	水本 深喜……355	地理学概論Ⅱ	飯田 貞夫……400
生物学	金子 勲……356	て ディスカッション	澤田帆奈美……401
そ 造形で遊ぶ(造形表現)	小野 和……357	データサイエンス	松浦 広明……402
総合ゼミⅠ	……358	データ処理	安村・岸・金……403
相談援助	石橋 優子……360	データ処理入門	野村 康治……404
組織心理学	深澤 伸幸……361	データ分析	安村・岸・金……405
租税法Ⅰ	深沢 邦秀……362	デジタルアーカイブ論	安村 薫……406
租税法Ⅱ	深沢 邦秀……363	デジタル映像表現	立野 貴之……407
た 体育(子どもと運動)	塩野谷祐子……364	デジタルプレゼンテーション実践	立野 貴之……408
対人関係の心理学	水本 深喜……365	哲学	高村 夏輝……409
担保法	藤原 俊雄……366	哲学Ⅰ	高村 夏輝……410
ち 地域観光論	鷺尾 裕子……367	哲学Ⅱ	高村 夏輝……411
地域観光論Ⅰ	鷺尾 裕子……368	哲学A	高村 夏輝……412
地域観光論Ⅱ	鷺尾 裕子……369	哲学B	高村 夏輝……413
地域金融論	長谷川 清……370	デュアルキャリアマネジメント	野々村 新……414
地域子育て支援論	山下 文一……371	デリバティブ論	岡 猛夫……415
地域コミュニティ論	古賀 学……372	テレビ制作論	堀口 悟士……416
地域振興論Ⅰ	古賀 学……373	伝統文化	石上 七輔……417
地域振興論Ⅱ	古賀 学……374	と ドイツ語Ⅰ	関口 宏道……418
地域文化史Ⅰ	安倍 宰……375	ドイツ語Ⅱ	関口 宏道……419
地域文化史Ⅱ	安倍 宰……376	登記法Ⅰ	加藤 俊明……420
地域文化論	古賀 学……377	登記法Ⅱ	加藤 俊明……421
	福島 崇宏……378	統計学	岡 猛夫……422
地域文化論Ⅰ	古賀 学……379	読書と豊かな人間性	中村 龍一……423
	福島 崇宏……380	特別支援教育論	赫多久美子……424
地域文化論Ⅱ	古賀 学……381	特別実習Ⅰ	石上 七輔……425
	福島 崇宏……382	特別実習Ⅱ	石上 七輔……426
着地型・発地型観光論Ⅰ	大井 功……383	に 日本芸能論A	中村 龍一……427
着地型・発地型観光論Ⅱ	大井 功……384	日本芸能論B	中村 龍一……428
中級簿記Ⅰ	川口 修……385	日本語Ⅰ	松浦・澤田……429
	桑原・高橋……386	日本語Ⅱ	松浦・澤田……430
中級簿記Ⅱ	川口 修……387	日本語Ⅲ	松浦・澤田……431
	桑原・高橋……388	日本語Ⅳ	松浦・澤田……432
中国語Ⅰ	沈 瑛……389	日本語演習A	野川 智子……433
	但 継紅……390	日本語演習B	野川 智子……434
中国語Ⅱ	沈 瑛……391	日本語概論	澤田帆奈美……435

日本語基礎 I	松浦・澤田……436	発達と学習の心理	作間 祐子……482
日本語基礎 II	松浦・澤田……438	ひ 比較文化論 I	福島 崇宏……483
日本語教育実習指導	澤田帆奈美……440	比較文化論 II	福島 崇宏……484
日本語教育方法論 I	澤田帆奈美……441	ビジネストラベル論	澤田 利彦……485
日本語教育方法論 II	松浦恵津子……442	ビジネス法 I	新城 将孝……486
日本語教授法	澤田帆奈美……443	ビジネス法 II	新城 将孝……487
日本語研究 A (文法)	松浦恵津子……444	ビジュアル情報論	立野 貴之……488
日本語研究 B (待遇表現)	松浦恵津子……445	美術史	平野由里子……489
日本語研究 C (音声・音韻)	松浦恵津子……446	ふ ファイナンシャル・プランニング I	高原 和之……490
日本語研究 D (語彙・文字)	松浦恵津子……447	ファイナンシャル・プランニング II	高原 和之……491
日本語史	松浦恵津子……448	フィールドワーク	菅沼 憲治……492
日本語表現論 A (アカデミックライティング)	澤田帆奈美……449	物理学	安村 薫……493
日本語表現論 B (ディスカッション)	澤田帆奈美……450	不動産ファイナンス論	志築 学……494
日本語表現論 C (漢字・語彙力養成)	澤田帆奈美……451	フランス語 I	平野由里子……495
日本語表現論 D (手紙・メール)	澤田帆奈美……452	フランス語 II	平野由里子……497
日本語表現論 E (ビジネス会話・文書)	菊本 奈々……453	フランス語コミュニケーション	ブルゴス イヴ……498
日本語プレゼンテーション	石井みどり……454	フランス語プレゼンテーション	ブルゴス イヴ……499
日本史	石井みどり……455	プログラミング基礎	ブルゴス イヴ……500
	藤井 一二……456	文化遺産と観光	安村 ・ 岸……501
日本史概論 I	石井みどり……457	文学と観光	永井 恵一……502
日本史概論 II	石井みどり……458	文化交流史 A	高寺奎一郎……503
日本文化演習 A	古金 悦子……459	文化交流史 B	安倍 宰……504
日本文化演習 B	古金 悦子……460	文化心理学	安倍 宰……505
日本文化概論	石井みどり……461	文化人類学	菅沼 憲治……506
日本文学演習 A	古金 悦子……462	文化人類学 A	川添 裕子……507
日本文学演習 B	古金 悦子……463	文化人類学 B	安倍 宰……508
日本文学概論	石上 七鞆……464	文芸創作	安倍 宰……509
日本文学史	石上 七鞆……465	ほ 保育課程論	徳本 善彦……510
日本文化研究 A	石上 七鞆……466	保育原理	濱中啓二郎……511
日本文化研究 A (風俗史)	石上 七鞆……467	保育実習指導 I	大沢 裕……512
日本文化研究 B	石上 七鞆……468	保育実習 I (施設)	石橋・古金・後田・小野……513
日本文化研究 B (近世文化)	石上 七鞆……469	保育実習 I (保育所)	石橋・古金……514
日本文化研究 C (日本の宗教)	石上 七鞆……470	保育相談支援	石橋・古金・後田……515
日本文化研究 D (万葉の時代と文化)	石上 七鞆……471	保育内容(環境)	山下 文一……516
日本文化研究 E (東アジアと文化)	石上 七鞆……472	保育内容(健康)	山下 文一……517
日本文化研究 F (現代社会と文化)	野川 智子……473	保育内容(言葉)	塩野谷祐子……518
乳児保育	石橋 優子……474	保育内容(人間関係)	村木 桂子……519
認知情報演習	野村 康治……476	保育内容(表現)	大沢 裕……520
認知情報論	野村 康治……477	保育内容総論	後田 紀子……521
認知心理学	野村 康治……478	保育の心理学 I	山下 文一……522
ね ネットワーク技術	立野 貴之……479	保育の心理学 II	中村 淳子……523
ネットワーク構築論	岸 康人……480	法学	中村 淳子……524
は 発達心理学概論	中村 淳子……481		高乗 智之……525

法学	福島 崇宏……526	吉田松陰論	長谷川 勤……570
法学概論	高乗 智之……527	り リスク危機マネジメント基礎論 I	宮林 正恭……571
	福島 崇宏……528	リスク危機マネジメント基礎論 II	宮林 正恭……572
法の性格と役割	高乗 智之……529	リスク心理学	深澤 伸幸……573
ポートフォリオ・マネジメント論	岡 猛夫……530	リスクマネジメント論	宮林 正恭……574
簿記原理 I	川口 修……531	流通経済論 I	佐々木 悟……575
	桑原・高橋……532		宝子山嘉一……576
	渋谷 武夫……533	流通経済論 II	佐々木 悟……577
簿記原理 II	川口 修……534		宝子山嘉一……578
	桑原・高橋……535	旅行会社経営論 I	大井 功……579
	渋谷 武夫……536	旅行会社経営論 II	大井 功……580
保険市場論	志築 学……537	旅行業務基礎 I	大井 功……581
ホスピタリティ論	古賀 学……538	旅行業務基礎 II	大井 功……582
ホスピタリティ論 A	古賀 学……539	旅行業論 I	大井 功……583
ホスピタリティ論 B	澤田 利彦……540	旅行業論 II	大井 功……584
ホテル経営論 I	小林 信次……541	臨床心理学	作間 祐子……585
ホテル経営論 II	小林 信次……542		水本 深喜……586
ホテルサービス実務	小林 信次……543	倫理学	高村 夏輝……587
ボランティア論	木原 勇……544	倫理学 A	高村 夏輝……588
ま マーケティング論 I	佐々木 悟……545	倫理学 B	高村 夏輝……589
	宝子山嘉一……546	れ 歴史考古学	藤井 一二……590
マーケティング論 II	佐々木 悟……547	レストラン経営論 I	小林 信次……591
	宝子山嘉一……548	レストラン経営論 II	小林 信次……592
マクロ経済学 I	石橋 春男……549	レストランサービス実務	小林 信次……593
マクロ経済学 II	石橋 春男……550	ろ 労働経済論 I	中藤 和重……594
マルチメディア I (画像)	岸・立野・金……551	労働経済論 II	中藤 和重……595
マルチメディア II (映像)	立野 貴之……552	労働法 I	福島 崇宏……596
マルチメディア A (画像)	岸・立野・金……553	労働法 II	福島 崇宏……597
マルチメディア B (映像)	立野 貴之……554		
マンガ研究	小田切 博……555		
み ミクロ経済学 I	石橋 春男……556		
ミクロ経済学 II	石橋 春男……557		
民俗学	石上 七輔……558		
め メディア技術基礎	金 宰郁……559		
メディア社会学	深谷 野亜……560		
メディア情報論	岸 康人……561		
メディアワークショップ	立馬 歳郎……562		
ゆ UNIX システム論	舘 秀典……563		
よ 幼児・児童期の心理	作間 祐子……564		
幼小接続教育	山下 文一……565		
幼児理解	永井由利子……566		
ヨーロッパ観光論	高寺奎一郎……567		
ヨーロッパ文化研究 A	廣本 和枝……568		
ヨーロッパ文化研究 B	廣本 和枝……569		

【演習】

演習 I ……599～664

【教職課程科目】

英語科教育法 I 廣本 和枝……665
 英語科教育法 II 廣本 和枝……666
 英語科指導法 I 廣本 和枝……667
 英語科指導法 II 廣本 和枝……668
 教育課程論 野川 智子……669
 教育原理 米山 弘……670
 教育実習 I 深谷 野亜……671
 教育社会学 深谷 野亜……672
 教育心理学 野々村 新……673
 教育相談 野々村 新……674
 教育方法論 桑原 和也……675
 教師論 佃 直毅……676
 公民科教育法 I 高乗 智之……677
 公民科教育法 II 丹野 貴……678
 国語科教育法 A 中村 龍一……679
 国語科教育法 B 中村 龍一……680
 国語科教育法 C 中村 龍一……681
 国語科教育法 D 牛山 恵……682
 社会科教育法 I 清水 健太……683
 社会科教育法 II 丹野 貴……684
 情報科教育法 I 河村 一樹……685
 情報科教育法 II 河村 一樹……686
 生徒・進路指導論 佃 直毅……687
 道德教育指導法 深谷 野亜……688
 特別活動論 高野 安弘……689

【司書教諭科目】

学校図書館メディアの構成 徳本 善彦……690
 情報メディアの活用 森 寛和……691

【学芸員科目】

観光文化論 古賀 学……692
 経営文化論 I 小柏喜久夫……693
 歴史考古学 藤井 一二……694
 社会学 佃 直毅……695
 社会学概論 佃 直毅……696
 社会学概論 I 佃 直毅……697
 生涯学習概論 佃 直毅……698
 生活環境論 金子 勲……699
 日本文化研究 A 石上 七鞆……700

博物館概論 川添 裕子……701
 博物館教育論 石上 七鞆……702
 博物館経営論 白澤 恵一……703
 博物館実習 白澤 恵一……704
 博物館情報・メディア論 安村 薫……706
 博物館資料保存論 安村 薫……707
 博物館資料論 近松 鴻二……708
 博物館展示論 石井みどり……709
 美術史 平野由里子……710
 文化交流史 A 安倍 宰……711
 文化人類学 A 安倍 宰……712
 民俗学 石上 七鞆……713
 吉田松陰論 長谷川 勤……714

【社会教育主事科目】

介護福祉論 白澤 恵一……715
 社会教育演習 佐々木尚毅……716
 社会教育課題研究 佐々木尚毅……717
 社会教育計画 I 望月 厚志……718
 社会教育計画 II 望月 厚志……719
 社会教育の基礎 望月 厚志……720
 社会規範と行動 長岐 郁也……721
 生涯学習概論 佃 直毅……722
 スポーツ社会論 白岩 元……723
 博物館の施設と運営 白澤 恵一……724
 ボランティア論 木原 勇……725

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アカデミックライティング(Japanese Language Expression A (Academic Writing))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 実際に書かれたレポートや小論文を分析し、問題点とその原因・改善の方法を報告し合う。そして、わかりやすく説得力のある文章とは、どこがどう優れているのかを具体的に見出す。さらに、実作を通して効果的な書き方を考え、実践力を向上させる。ルーブリック・ポートフォリオによる評価を行う。									
授業目標： 1. アカデミックライティングとは何か、その目的・種類を理解し、レポート・論文を作成するための方法を考える。 2. レポート・論文作成の実践力を向上させる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション アカデミックライティングとは 事前自己評価					事前：シラバスを読んでくる 事後：レポートの文体の確認		講義	
2	レポートの形式 構成、見出しの立て方、説明の順序、論理性、参考文献について					事前：疑問点を洗い出す 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
3	レポートのテーマを考える					事前：関心のある事柄をあげる 事後：情報を集める		演習	
4	レポートの構想を練り、情報を集めるー情報の集め方ー					事前：なし 事後：情報を集める		演習	
5	情報を整理し、レポートの目標を定める					事前：なし 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
6	レポート作成① 文章を組み立てる パラグラフ・ライティング 文献引用のしかた					事前：アウトラインを考える 事後：レポート第一稿完成		演習	
7	レポート作成② 自己点検とピア活動 レポートの目的と書き方をまとめる					事前：レポートの自己点検 事後：レポートの加筆・修正		演習	
8	小論文の分析 論理的思考と文章構成の関係を探る、論理性や表現について検証する					事前：なし 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
9	小論文を書く①〈社会問題に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		演習	
10	小論文を書く②〈文化・言語に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		演習	
11	小論文を書く③〈生き方に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		演習	
12	レポート発表①					事前：レジメ作成 事後：発表コメントをまとめる		演習	
13	レポート発表②					事前：レジメ作成 事後：発表コメントをまとめる		演習	
14	レポート発表③					事前：レジメ作成 事後：発表コメントをまとめる		演習	
15	まとめ ポートフォリオの中身を振り返り、事後自己評価をする					事前：ポートフォリオの整理 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
教本： 資料とタスクシートを配付する。					参考文献： 大島弥生他（2014）『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]ープロセス重視のレポート作成』ひつじ書房 ￥1,728				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、提出物・自己評価表（20%）、実作のレポート・小論文（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レポート・論文の書き方を学びます。能動的にテーマを見つけ、論理的に文章をまとめる技能を身につけます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アジア観光論B (Asian Tourism Study B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 21世紀、世界はアジアを中心に大交流時代に入ります。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動基準を学ぶ。									
授業目標： アジアの文化を学び、アジアの人々と交流ができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを返す		講義	
2	アジアの宗教（Ⅰ）アジア各地で信じられている宗教を学び交流の仕方を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
3	アジアの宗教（Ⅱ）アジア各地で信じられている宗教を学び、交流の仕方を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
4	アジアの宗教（Ⅲ）アジア各地で信じられている宗教を学び、交流の仕方を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
5	レポート開発：南の島で開発されるリゾートとその問題点を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
6	途上国観光：途上国における観光の経済的価値と失われるものを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
7	人身売買：なぜ人身売買が起こるのか、人身売買をしてどうするのかを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
8	アジアの世界遺産：なぜ欧州に世界遺産は偏在するのか、アジアの代表的な世界遺産を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
9	麻薬問題：欧州では、なぜ、麻薬の取り締まりが緩和されつつあるのかを考える					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
10	水問題：今まで、石油の奪い合いが戦争に発展したが、今後は水の奪い合いが戦争になると言われるのか。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
11	アジア史：アジアのほとんどの国が植民地化された中で、なぜ、日本とタイだけが植民地化されなかったのか。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
12	ロングステイ：避暑、悲観などの気候や経済的理由などで居住地を変更する場合の課題を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
13	東南アジア：政治経済や文化で注目されている国々を取り上げ、実態を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
14	貧困問題：貧困から起きる問題を取り上げ、解決策を考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
15	白人略奪の歴史：アジアの資源、文化がどのように略奪されていったのかを考察される。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 1. 藤岡信勝著「教科書が教えない東南アジア」扶桑社 ￥1,500+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）(40%)、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	アジア文化研究 A (Asian Study A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 21世紀はアジアの時代と言われ、アジアを中心に世界が動き出す。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの人々の価値観や行動の基準を学ぶ。									
授 業 目 標 : アジアの文化を学び、アジアの人々と国際交流ができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを返す		講義	
2	アジアがわかる(I)：アジアの政治体制やアジア民族を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
3	アジアがわかる(II)：アジアの経済動向やアジアの貿易を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
4	アジアの女性たち：アジアの女性指導者、人身売買を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
5	イスラム文化：イスラム教徒の世界観や他の宗教との関係を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
6	仏教文化：輪廻転生、仏教の教えなどを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
7	ヒンドゥー教：カースト制度、サティ、ダウリ、幼児婚を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
8	ユダヤ文化：旧約聖書、バルフォア宣言、ユダヤ人を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
9	キリスト文化：新約聖書、宗教改革、キリスト教の矛盾を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
10	神道文化：穢れと差別、言霊、怨霊信仰、天皇崇拝を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
11	儒教文化：批林批孔、位牌のルーツ、忠孝一致を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
12	武士道：武士道と騎士道、名誉、切腹、内助の功を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
13	客 家：流浪の民、男女平等の中の貞女、客家系財閥を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
14	風 水：陰陽五行、風水都市、五行早生を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
15	チベット仏教：ダライ・ラマ14世、中道のアプローチを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを返す		講義	
教 本 : プリントを配布する。					参 考 文 献 : 1. 御堂龍児著「風水の秘密」 ごま書房 ¥866+税 2. 大井功著「チベット文化を読み解く」 祥伝社¥780+税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (授業参画度、小テスト等) (40%)、定期試験 (60%) 等									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : グローバルに活躍したい人、アジアを愛する人、楽しく学びましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ア ジ ア 文 化 研 究 B (Asian Study B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 21世紀はアジアの時代と言われ、アジアを中心に世界が動き出す。アジアの人々とのより良い交流のため、アジアの現状と課題を学ぶ。									
授 業 目 標 : アジアの課題を知り、解決策がわかる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ア ジ ア の 水 問 題 : 水 不 足 と 水 汚 染、地 下 水 の 危 機、国 際 河 川、水 道 の 民 営 化 を 考 察 す る。					事 前 : な し 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
2	タ ク シ ン と 国 王 : タ ク シ ン 逃 亡、ク ー デ タ ー、軍 の 利 権 を 考 察 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
3	麻 薬 文 化 : 阿 片 戦 争、日 本 と 阿 片、マ リ フ ア ナ と 喫 煙 を 考 察 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
4	人 身 売 買 : 子 供 の 誘 拐、臓 器 売 買、ベ ド フ ァ イ ル を 考 察 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
5	ア ジ ア の リ ゾ ー ト : リ ゾ ー ト 開 発 と 観 光 文 化 を 考 察 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
6	ア ジ ア の 世 界 遺 産 : 世 界 遺 産 リ ス ト の 問 題 点 を 考 察 す る。(ア ン コ ー ル ・ ワ ッ ト、タ ー ジ マ ハ ル な ど)					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
7	ロ ン グ ス テ イ : 日 本 人 移 民、シ ル バ ー コ ロ ン ビ ア 計 画、海 外 ロ ン グ ス テ イ を 考 察 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
8	途 上 国 観 光 : 途 上 国 の 観 光 資 源、観 光 の 波 及 効 果 を 考 察 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
9	華 人 : ア リ バ バ 商 法、ブ リ プ ミ、ペ ラ ナ カ ン な ど を 考 察 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
10	貧 困 : 物 乞 い と 宗 教、薬 物 依 存、児 童 労 働 な ど を 考 察 す る。。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
11	白 人 略 奪 の 歴 史 : マ ゼ ラ ン の 海 賊 行 為、イ エ ズ ス 会 と 殺 戮 な ど を 考 察 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
12	ア ジ ア 史 の 真 実 : 大 英 帝 国 と イ ン ド、日 露 戦 争 の 意 味 を 考 察 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
13	東 南 ア ジ ア 史 : 経 済 発 展、独 立、開 発 独 裁 を 考 察 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
14	チ ベ ッ ト 文 化 : 文 化 的 虐 殺、結 婚 制 度、葬 儀 を 考 察 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
15	シ ン ガ ポ ー ル の 歴 史 と 文 化 : ク リ ー ン & グ リ ー ン、カ ジ ノ を 考 察 す る。					事 前 : 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後 : 配 布 プ リ ン ト を 読 返 す		講 義	
教 本 : プ リ ン ト を 配 布 す る。					参 考 文 献 : 1. 柴 田 明 夫 著 「水 戦 争」 ¥760 + 税 2. 山 下 清 海 著 「チ ャ イ ナ タ ウ ン」 丸 善 ¥2,300 + 税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (授 業 参 画 度、小 テ ス ト 等) (40%)、定 期 試 験 (60%) 等									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : グ ロー バ ル に 活 躍 し た い 人、ア ジ ア を 愛 す る 人、楽 し く 学 び ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アニメーション研究 (Cartoon Study)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小田切 博								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>「アニメ」というメディアの具体的な仕組みから、テクノロジー。産業、釈迦雨滴受容の変化など、その文化としてのあり方を多角的に検証する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>「アニメ」とは何か、「アニメ」がどう社会と関係しているかを具体的に考えてもらうことを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	アニメーションの現状					事前：なし 事後：なし		講義	
2	「アニメ」とは何か					事前：なし 事後：なし		講義	
3	「アニメ」とは何か					事前：なし 事後：なし		講義	
4	メディアとしてのアニメ					事前：なし 事後：なし		講義	
5	メディアとしてのアニメ					事前：なし 事後：なし		講義	
6	戦後アニメ史					事前：なし 事後：なし		講義	
7	戦後アニメ史					事前：なし 事後：なし		講義	
8	戦後アニメ史					事前：なし 事後：なし		講義	
9	戦後アニメ史					事前：なし 事後：なし		講義	
10	戦後アニメ史					事前：なし 事後：なし		講義	
11	マーチャングッズ					事前：なし 事後：なし		講義	
12	マーチャングッズ					事前：なし 事後：なし		講義	
13	周辺文化					事前：なし 事後：なし		講義	
14	周辺文化					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ、総論					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>1. 小田切博『キャラクターとは何か』筑摩書房 ¥735</p>					<p>参考文献：</p> <p>1. 津堅信之『アニメーション学入門』平凡社 ¥903 他授業中に適宜指示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（40%）、小テスト・レポート等（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>できるだけ先入観をもたずにきてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	アフリカ文化研究 A (Introduction to African Culture & Society A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 添 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	世 界 史、地 理 の 基 礎 知 識 が 必 要 で す。							
授 業 概 要 :									
<p>人類は700万年前にアフリカで誕生したと言われています。約20万年前に誕生したホモ・サピエンスが世界に拡散していったのが5万年前です。アフリカは数百万年間先進地域でした。本授業では、アフリカの歴史、他地域との関係、人々の社会と文化について学びます。アフリカ社会、あなたとアフリカの人々、日本とアフリカ諸国の関係を捉え直すための知識と態度を養ってください。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> 1. アフリカの歴史を学ぶ 2. ステレオタイプなイメージとアフリカの現実の間の差について学ぶ 3. アフリカ社会を捉え直す 									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	イントロダクション					事前：シラバス確認 事後：配付資料・ノート復習		講義	
2	人類の誕生、「アフリカ起源」説、進化					事前：世界史 事後：配付資料・ノート復習		講義	
3	世界拡散、外見の違い					事前：世界史 事後：配付資料・ノート復習		講義	
4	食料獲得と暮らし方：狩猟採集、牧畜、農耕、デジタル革命					事前： 事後：配付資料・ノート復習		講義	
5	親族、親子、婚姻のかたち					事前： 事後：配付資料・ノート復習		講義	
6	古王国、「非」文字社会の歴史					事前： 事後：配付資料・ノート復習		講義	
7	小まとめ					事前： 事後：配付資料・ノート復習		講義	
8	「大航海時代」、「奴隷貿易」					事前：世界史 事後：配付資料・ノート復習		講義	
9	「植民地支配」、アフリカの分割、「民族」の創出					事前：世界史 事後：配付資料・ノート復習		講義	
10	土着宗教、世界宗教					事前： 事後：配付資料・ノート復習		講義	
11	アフリカ諸国の独立、南アフリカのアパルトヘイト					事前：世界史 事後：配付資料・ノート復習		講義	
12	「民族」紛争、「宗教」対立の背後にあるもの					事前： 事後：配付資料・ノート復習		講義	
13	レポート作業					事前： 事後：レポート作成		講義 (グループワーク)	
14	レポート発表、質疑応答、提出					事前：レポート作成 事後：		講義 (プレゼン、討論)	
15	まとめ					事前：配付資料・ノート復習 事後：試験準備		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。					松田素二編『アフリカ社会を学ぶ人のために』世界思想社、2014年、 ¥2,300+税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : <聞 く、読 む、考 え る、書 く、伝 え る、質 問 す る>力 を 養 っ て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	アフリカ文化研究 B (Introduction to African Culture & Society B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 添 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	世 界 史、地 理 の 基 礎 知 識 が 必 要 で す。アフリカ文化研究 A を 修 得 し て い る こ と が 望 ま し い。							
授 業 概 要 :									
人 類 は 700 万 年 前 に アフリカ で 誕 生 し た と い わ れ て い ま す。約 20 万 年 前 に 誕 生 し た ホモ ・ サピエンス が 世 界 に 拡 散 し て い っ た の が 5 万 年 前 で す。アフリカ は 数 百 万 年 間 先 進 地 域 で し た。本 授 業 で は、アフリカ の 歴 史 と 困 難、そ し て 潜 在 力 に つ い て 学 び ま す。ア ー ト や 音 楽 や ダ ン ス、松 蔭 大 学 の 協 定 校 に つ い て も 紹 介 し ま す。アフリカ の 人 々 を 共 に 生 き る 友 人 と し て み る 態 度 と 知 識 を 養 っ て く だ さ い。									
授 業 目 標 :									
1. アフリカ の 歴 史 を 学 ぶ 2. アフリカ の 多 様 性 を 学 ぶ 3. アフリカ 社 会 を 捉 え 直 す									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	イ ン ト ロ ダ ク シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス 確 認 事 後 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習		講 義	
2	人 類 史 か ら 見 た アフリカ : 人 類 誕 生 と 「先 進」 地 域					事 前 : 事 後 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習		講 義	
3	アフリカ の 困 難 : コロニアリズム (植 民 地 主 義)、独 立					事 前 : 世 界 史 事 後 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習		講 義	
4	アフリカ の 困 難 : ポ ス ト コロニアリズム、紛 争					事 前 : 事 後 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習		講 義	
5	アフリカ の 困 難 : 「開 発 援 助」 の 問 題					事 前 : 事 後 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習		講 義	
6	アフリカ の 困 難 : 「介 入」 の 問 題					事 前 : 事 後 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習		講 義	
7	アフリカ の 力 - 歴 史、多 文 化、資 源、若 さ					事 前 : 事 後 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習		講 義	
8	アフリカ の 力 : 太 鼓 言 葉、マ ル チ リ ン ガ ル (多 言 語 話 者)					事 前 : 事 後 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習		講 義	
9	アフリカ の 力 : ポ ピ ュ ラ ー ア ー ト (ダ ン ス、音 楽、シ ネ マ)					事 前 : 事 後 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習		講 義	
10	アフリカ の 力 : ポ ピ ュ ラ ー ア ー ト (ダ ン ス、音 楽、シ ネ マ)					事 前 : 事 後 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習		講 義	
11	小 ま と め : アフリカ の 光 と 影					事 前 : 世 界 史 事 後 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習		講 義	
12	協 定 校 を 知 ろ う : モ ロ ッ コ、セ ネ ガ ル					事 前 : 事 後 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習		講 義	
13	レ ポ ー ト 作 業					事 前 : 事 後 : レ ポ ー ト 作 成		講 義 (グ ル ー プ ワ ー ク)	
14	レ ポ ー ト 発 表、質 疑 応 答、提 出					事 前 : レ ポ ー ト 作 成 事 後 :		講 義 (プ レ ゼ ン、討 論)	
15	ま と め					事 前 : 配 付 資 料 ・ ノ ー ト 復 習 事 後 : 試 験 準 備		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
な し。					松 田 素 二 編 『アフリカ 社 会 を 学 ぶ 人 の た め に』 世 界 思 想 社、2014 年、 ¥2,300 + 税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : <聞 く、読 む、考 え る、書 く、伝 え る、質 問 す る>力 を 養 っ て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	アメリカ観光論A (Tourism in the United States A)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	澤田 利彦									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要： アメリカは観光の分野においてもその規模、先進性において常に他国をリードしてきた観光大国。アメリカで起こったことは他国でも起こることが少なくない。このためアメリカ観光論Aでは下記の授業計画のとおり交通、宿泊、旅行、コンベンションの各産業、連邦や州や市の観光政策、自然保護、歴史遺産の保護などについて幅広く学ぶ。</p>										
<p>授業目標： 観光の分野においても世界の最先端を走る米国の観光について学び、理解すること。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式 (注)WS：授業終了前15分程度で、与えられたテーマについて150字程度の文章を作成・提出										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション					事前：— 事後：—		講義		
2	アメリカ観光の概要1、まとめ、WS ^(注)					事前：予習 事後：復習		講義		
3	アメリカ観光の概要2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義		
4	アメリカの交通産業1、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義		
5	アメリカの交通産業2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義		
6	アメリカの宿泊産業1、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義		
7	アメリカの宿泊産業2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義		
8	アメリカの旅行産業、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義		
9	アメリカのコンベンション産業、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義		
10	アメリカの連邦・州・市の観光政策、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義		
11	アメリカの観光資源、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義		
12	事例研究：ビッグアップルグリーター協会、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義		
13	事例研究：ラスベガスとオーランド、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義		
14	事例研究：ロードスカラーとAARP、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義		
15	前期まとめ					事前：予習 事後：復習		講義		
<p>教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。</p>					<p>参考文献： 適宜、紹介する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（小テスト、授業参加状況、受講態度）（50%）と定期試験（50%）で総合的に評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス： 講義が一方通行にならぬようQ&Aの時間を毎回設けると共に随時ディスカッションの時間もとる予定。学生諸君の積極的な参加を期待します。</p>										
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アメリカ観光論B (Tourism in the United States B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	澤田 利彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： アメリカは観光の分野においてもその規模、先進性においても常に他国をリードしてきた観光大国である。アメリカで起こったことは他国でも起こることが少なくない。このためアメリカ観光論Bでは下記の授業計画のとおりアメリカ観光論Aでカバーしきれなかったテーマについてもカバーする。</p>									
<p>授業目標： 観光の分野においても世界の最先端を走る米国の観光について学び、理解すること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式 (注)WS：授業終了前15分程度で、与えられたテーマについて150字程度の文章を作成・提出									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：— 事後：—		講義	
2	アメリカの国内観光1、まとめ、WS ^(注)					事前：予習 事後：復習		講義	
3	アメリカの国内観光2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
4	アメリカのインバウンド観光1、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
5	アメリカのインバウンド観光2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
6	アメリカのアウトバウンド観光1、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
7	アメリカのアウトバウンド観光2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
8	アメリカの旅行メディア、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
9	アメリカの観光政策1、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
10	アメリカの観光政策2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
11	アメリカの観光資源1、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
12	アメリカの観光資源2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
13	アメリカのまちづくり、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
14	ブランソンとナッシュビル、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
15	後期まとめ					事前：予習 事後：復習		講義	
<p>教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。</p>					<p>参考文献： 適宜、紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（小テスト、授業参加状況、受講態度）（50%）と定期試験（50%）で総合的に評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 講義が一方通行にならぬようQ&Aの時間を毎回設けると共に随時ディスカッションの時間もとる予定。学生諸君の積極的な参加を期待します。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アメリカ文化研究 A (American Study A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	粟屋 信子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： アメリカの歴史を辿り、メディアの発達との関係にも着目しながら、人種、ジェンダー、宗教などの様々な領域、また地域、都市、州、連邦など異なった区分から、アメリカを多面的に観察し、理解する。</p>									
<p>授業目標： 日本にとって身近な国であるアメリカが、その成立から異なっていることを理解し、その歴史や社会を知る。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概要					事前：なし 事後：なし		講義	
2	アメリカ概論					事前：なし 事後：なし		講義	
3	アメリカ史以前					事前：レポート 事後：なし		講義	
4	アメリカ史前期					事前：なし 事後：なし		講義	
5	アメリカ史中期					事前：なし 事後：なし		講義	
6	アメリカ史後期					事前：なし 事後：なし		講義	
7	民族と人種					事前：なし 事後：レポート		演習	
8	言語と言語文化					事前：なし 事後：レポート		演習	
9	移民史前期					事前：なし 事後：レポート		演習	
10	移民史後期					事前：なし 事後：なし		講義	
11	移民史における日系人					事前：なし 事後：なし		演習	
12	テーマ研究：テーマ設定					事前：なし 事後：レポート		演習	
13	テーマ研究：研究方法					事前：レポート 事後：なし		演習	
14	テーマ研究発表					事前：レポート 事後：なし		演習	
15	まとめと展望					事前：レポート 事後：なし		演習	
<p>教本： 「The Americans :The Democratic Experience」 Daniel Boorstin 著 他、 随時指定。</p>					<p>参考文献： 「アメリカの社会と政治」五十嵐武ほか 有斐閣 ￥2,500 他著、随時プリント配布。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（70%）、小テスト・レポート等（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： アメリカに関するニュースに日ごろより注意を向けておく。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	アメリカ文化研究 B (American Study B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	粟屋 信子								
履 修 条 件	前提科目	異文化コミュニケーション論か異文化共生論、アメリカ研究 A							
	その他	異文化コミュニケーションの基礎理論を踏まえており、アメリカ概論を知っていることを望む。							
授業概要： アメリカの移民たちの歴史を主に日系史をたどりながら知り、アメリカの社会と文化の発展と変容に注目する。									
授業目標： 日本にとって身近な国であるアメリカが、その成立から異なっていることを移民史に焦点をあてながら理解する。移民史の中に、明治元年から始まった日系アメリカ人の移民の歴史や社会、文化があることを知り、現代アメリカと日本の現在を洞察する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	アメリカの移民概論					事前： 事後：		講義	
2	新移民たちと理由					事前： 事後：		講義	
3	社会改革の道のり					事前：レポート 事後：		講義	
4	ア第二次金ピカ時代と人種					事前： 事後：		講義	
5	ハーレムとアフリカ系の文化					事前： 事後：		講義	
6	真珠湾への道					事前： 事後：		講義	
7	日系人と日本人					事前： 事後：レポート		演習	
8	第二次大戦と日系アメリカ人					事前： 事後：レポート		演習	
9	冷戦時代					事前： 事後：		講義	
10	アメリカの生活文化					事前： 事後：		講義	
11	平等への戦いとアフリカ系アメリカ人					事前： 事後：レポート		講義	
12	50、60、70年代のアメリカとアジア系アメリカ人					事前：レポート 事後：		講義	
13	テーマ研究とその研究方法					事前：レポート 事後：		演習	
14	テーマ研究発表					事前：レポート 事後：		演習	
15	まとめと展望					事前：レポート 事後：		演習	
教本： 物語アメリカの歴史 猿谷要著（中公新書860円）ほか随時指定。 プリント配布。					参考文献： 「世界史年表地図」吉川弘文館 1,300円 他、随時プリント配布。				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（60%）、小テスト・レポート等（40%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： アメリカを持つ固定したイメージを破っていく。正確な知識を得て、新しい視点を切り開いていく姿勢を持ちたい。日本人が国際化されていく過程やその問題などを、日系史を通じて知りえるかもしれない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	安全・安心の会社法及び関連法 (Corporation law)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>資本主義経済社会における企業（会社）、中でも株式会社について概観する。条文・制度の趣旨を分かりやすく解説していきます。会社法の基本的な考え方、全体像（株式会社の機関まで）を理解できるように努める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>会社法の基本的な考え方、全体像（株式会社の機関まで）の理解・把握を目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（開講にあたって）					事前： 事後：事後の復習		講義	
2	企業形態と会社					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
3	会社の概念					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
4	会社の種類					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
5	会社の住所・商号					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
6	会社の使用人と代理商					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
7	事業と事業譲渡					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
8	会社における開示と公示（広告と登記）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
9	株式会社法概説					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
10	株式会社の規模とその規制					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
11	株式会社の設立					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
12	株式					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
13	株式会社の機関（総説）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
14	株式会社の機関（総会）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
15	株式会社の機関（、取締役会、役員等）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
<p>教本：</p> <p>六法を必ず準備してください。</p>					<p>参考文献：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業および授業内容等への参加を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習をお願いします。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	安 全 保 障 と リ ス ク (Security and Risks)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 敏 哉								
履 修 条 件	前 提 科 目	国 際 関 係 論 I の 事 前 履 修 が 望 ま し い。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>国際関係学の重要分野である安全保障に関し、リスクの観点がどのように取り入れられてきたかについて概説します。前半は、国際関係学での安全保障論の基本的な視点を学びます。次に、社会学の分野から生まれたリスク社会論について検証します。後半は、リスク評価の安全保障への当てはめとして、各安全保障のフィールド（拡大した安全保障）で、リスク論がどのような視点を提示しているかについて見ていきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 安全保障に関する伝統的な脅威論とリスク論の違いを理解する。 2. 安全保障の諸分野でどのようなリスクが議論されているのかを知る。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
2	国際関係学と安全保障					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
3	国際関係学と安全保障					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
4	安全保障と脅威②					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
5	リスク社会論					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
6	リスク社会論					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
7	安全保障への当てはめ					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
8	ミニテスト・前半のまとめをします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
9	軍事的安全保障とリスク					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
10	国内政治要因とリスク					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
11	経済的安全保障とリスク					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
12	環境の安全保障とリスク					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
13	社会的安全保障（移民）とリスク					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
14	安全保障でのリスク論の限界					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
15	安全保障とリスク：まとめ					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
各回ハンドアウトを配ります。					適宜指示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (25%)、定 期 試 験 (25%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : やや高度な議論になりますが、安全保障問題へ関心のある学生の参加を歓迎します。日本国内では他では学ぶことが難しい内容と思いますので、意欲のある皆さんは是非受講してみてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	イギリス文化研究 A (English Study A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>授業では、イギリスの文化を文学・自然・風土・伝説などのテーマごとに考察し、異文化への理解を図る。イギリスの文化をより深く理解するために、映像による作品鑑賞や原書講読を行う。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>多様性に富んだイギリスの文化を、歴史的・社会的・文化的に様々な角度から学ぶことによって、異なる文化を理解し、受容する態度を習得することを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の進め方についての説明					事前：シラバスの熟読 事後：授業の復習		講義	
2	4つの国					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
3	湖水地方					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
4	ストラッドフォード・アポン・エイボン					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
5	ロンドン					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
6	ウェセックス					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
7	ウインチェスター					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
8	オックスブリッジ					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
9	コッツウォルズ					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
10	カンタベリー					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
11	マンチェスター					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
12	シャーロック・ホームズ					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
13	グラストンヴェリー					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
14	ヨークシャー					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
15	ノッテンガム					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
<p>教本：</p> <p>テキストは使用せず、適宜プリントを配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（50%）、レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に臨んでください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									



開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	イギリス文化研究 B (English Study B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>授業ではイギリスの文化を、文学・自然・風土・伝説などのテーマごとに探索し、併せて時代背景や社会状況を解説します。文化を深く理解するために、映像による作品鑑賞や文学作品の原書の講読などを行います。</p>									
授 業 目 標 :									
イギリスの文化を概観し、イギリスの文化を通して異文化理解を図ることを授業の目標にします。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授業の進め方と評価方法についての説明					事前：シラバスの熟読 事後：授業の復習		講義	
2	Chapter 11 Sherlock Holmes					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
3	Chapter 12 Glastonbury					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
4	Chapter 13 Liverpool					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
5	Chapter 14 The Potteries(The Midlands)					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
6	Chapter 15 Yorkshire(Harworth)					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
7	Chapter 15 Yorkshire(Harworth)					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
8	映像による作品鑑賞					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
9	Chapter 16 Nottingham(Sherwood Forest)					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
10	Chapter 17 Edinburgh : The Athens of the North					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
11	Chapter 17 Edinburgh : The Athens of the North					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
12	Chapter 18 Scotch Whisky(Scotland)					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
13	Chapter 19 Dublin(The Republic of Ireland)					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
14	Chapter 20 Irish-American(Ireland)					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
15	まとめ					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
テキストは使用せず、適宜プリントを配布する。					初回講義日に伝える。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授業内容への参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 常に世界の出来事に関心を持ち、積極的に授業に臨んでください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	異文化共生論 A (Intercultural Understanding A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	粟屋 信子								
履 修 条 件	前提科目	異文化コミュニケーション論							
	その他	なし							
<p>授業概要： 地球という私たちの居場所には、異なった言語、民族、宗教、政治、社会が存在している。近來の目覚ましい情報の発達により、地球は狭くなったと言われるが、その反面、誤解や無理解が増幅し、亀裂を生むことが少なくない。異なった文化をお互いに理解し、生かし、共存、共生していく知恵や方法を学ぶ。</p>									
<p>授業目標： 自己とは何か。自己と他者、自文化と異なる文化の違いや共通性を認識して、共生への道を考える。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概要					事前：なし 事後：なし		講義	
2	自己とは何か 1					事前：なし 事後：なし		講義	
3	自己とは何か 2					事前：レポート 事後：なし		講義	
4	自文化を考える					事前：なし 事後：なし		講義	
5	自己と他者 1					事前：レポート 事後：なし		講義	
6	自己と他者 2					事前：なし 事後：なし		講義	
7	異なる文化を考える					事前：なし 事後：なし		講義	
8	時間と文化					事前：なし 事後：なし		講義	
9	時間を考える 1					事前：なし 事後：なし		講義	
10	空間と文化					事前：なし 事後：なし		講義	
11	空間を考える 1					事前：なし 事後：なし		講義	
12	空間を考える 2					事前：なし 事後：なし		講義	
13	グローバル社会を考える 1					事前：なし 事後：なし		講義	
14	グローバル社会を考える 2					事前：レポート 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本： 必要に応じてプリント配布。</p>					<p>参考文献： 1. 異文化コミュニケーション入門 池田理知子・E. M. クレーマ著</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（70%）、小テスト・レポート等（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 出席は必須。講義のノートは怠らないように。理解力と考える力を養いましょう。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	異文化共生論 B (Intercultural Understanding B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	粟屋 信子								
履 修 条 件	前 提 科 目	異文化共生論 A または 異文化共生論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 地球という私たちの居場所には、異なった言語、民族、宗教、政治、社会が存在している。近來の目覚ましい情報の発達により、地球は狭くなったと言われるが、その反面、誤解や無理解が増幅し、亀裂を生むことが少なくない。異なった文化をお互いに理解し、生かし、共存、共生していく知恵や方法を学ぶ。									
授業目標： 自己とは何か。自己と他者、自文化と異なる文化の違いや共通性を認識して、共生への道を考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概要					事前：なし 事後：なし		講義	
2	言語を考える 1					事前：なし 事後：なし		講義	
3	言語を考える 2					事前：レポート 事後：なし		講義	
4	言語と文化を考える					事前：なし 事後：なし		講義	
5	異文化体験を考える 1					事前：なし 事後：なし		講義	
6	異文化体験を考える 2					事前：レポート 事後：なし		講義	
7	異文化体験を考える 3					事前：なし 事後：なし		講義	
8	他者へのまなざし					事前：なし 事後：なし		講義	
9	自分へのまなざし					事前：なし 事後：なし		講義	
10	国際化を考える 1					事前：レポート 事後：なし		講義	
11	国際化を考える 2					事前：なし 事後：なし		講義	
12	国際化と地域					事前：レポート 事後：なし		講義	
13	考察とディスカッション 1					事前：なし 事後：なし		講義	
14	考察とディスカッション 2					事前：レポート 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 必要に応じてプリント配布。					参考文献： 1. 異文化コミュニケーション入門 池田理知子・E. M. クレーマ著				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（70%）、小テスト・レポート等（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 出席は必須。講義のノートは怠らないように。理解力と考える力を養いましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	異文化コミュニケーション論 (Intercultural Communication)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	粟屋 信子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 異文化理解のためのキーワードを示しながら、テーマごとにディスカッションし、そのプロセスの中から異文化コミュニケーションの基礎的な理論を学ぶ。多様な文化的背景を持った人々の体験を通じて、彼らとの交流に重きを置き、文化の多様性や異文化交流の意義について体験的に理解、学習する。									
授業目標： 人を最小の文化単位として捉え、異文化を理解しようとする際の基盤となる考え方を学ぶ。文化とは何か、異文化をどうとらえるかを、多様な文化背景を持った人々の体験を掘り起こし、彼らとの交流をテーマとし学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の概要					事前：なし 事後：なし		講義	
2	文化とは何か					事前：レポート 事後：なし		講義	
3	文化の構成要素					事前：なし 事後：なし		講義	
4	文化、異文化への視点					事前：なし 事後：なし		講義	
5	異文化体験の具体例報告					事前：なし 事後：なし		講義	
6	異文化体験と文化多様性への視点					事前：なし 事後：なし		講義	
7	異文化体験と異文化交流への意義					事前：レポート 事後：なし		講義	
8	カルチャーショックと文化摩擦					事前：なし 事後：なし		講義	
9	異文化とコミュニケーション					事前：なし 事後：なし		講義	
10	文化のステレオタイプ					事前：レポート 事後：なし		講義	
11	ステレオタイプと偏見					事前：なし 事後：なし		講義	
12	同化、異化、アイデンティティ					事前：レポート 事後：なし		講義	
13	文化とコンテクスト					事前：なし 事後：なし		講義	
14	文化とコンテクストとコミュニケーション					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』（石井敏、久米昭元 他著 有斐閣選書）									
参考文献： 『異文化コミュニケーションキーワード』（古田暁、石井敏、ほか著 有斐閣選書） その他、適宜、資料やディスカッション材料を配布する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内（小テスト、レポート、ディスカッションを含む）の学習状況（60％）と、定期試験（40％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 出席が大前提で、ノートをしっかりととりましょう。理解する力を見ます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	異文化コミュニケーション論 I (Intercultural Communication I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	粟屋 信子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 異文化理解のためのキーワードを示しながら、テーマごとにディスカッションし、そのプロセスの中から異文化コミュニケーションの基礎的な理論を学ぶ。多様な文化的背景を持った人々の体験を通じて、彼らとの交流に重きを置き、文化の多様性や異文化交流の意義について体験的に理解、学習する。									
授業目標： 人を最小の文化単位として捉え、異文化を理解しようとする際の基盤となる考え方を学ぶ。文化とは何か、異文化をどうとらえるかを、多様な文化的背景を持った人々の体験を掘り起こし、彼らとの交流をテーマとし学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の概要					事前：なし 事後：なし		講義	
2	文化とは何か					事前：レポート 事後：なし		講義	
3	文化の構成要素					事前：なし 事後：なし		講義	
4	文化、異文化への視点					事前：なし 事後：なし		講義	
5	異文化体験の具体例報告					事前：なし 事後：なし		講義	
6	異文化体験と文化多様性への視点					事前：なし 事後：なし		講義	
7	異文化体験と異文化交流への意義					事前：レポート 事後：なし		講義	
8	カルチャーショックと文化摩擦					事前：なし 事後：なし		講義	
9	異文化とコミュニケーション					事前：なし 事後：なし		講義	
10	文化のステレオタイプ					事前：レポート 事後：なし		講義	
11	ステレオタイプと偏見					事前：なし 事後：なし		講義	
12	同化、異化、アイデンティティ					事前：レポート 事後：なし		講義	
13	文化とコンテクスト					事前：なし 事後：なし		講義	
14	文化とコンテクストとコミュニケーション					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』（石井敏、久米昭元 他著 有斐閣選書）。									
参考文献： 『異文化コミュニケーションキーワード』（古田暁、石井敏、ほか著 有斐閣選書） その他、適宜、資料やディスカッション材料を配布する。									
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内（小テスト、レポート、ディスカッションを含む）の学習状況（60%）と、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 出席が大前提で、ノートをしっかりととりましょう。理解する力を見ます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	異文化コミュニケーション論Ⅱ (Intercultural Communication Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	粟屋 信子								
履 修 条 件	前提科目	異文化コミュニケーションⅠ							
	その他	なし							
授業概要： 異文化を理解する際の、もっとも土台となる異文化コミュニケーションの考え方を学ぶ。異文化理解のためのキーワードを示し、その概念を理解する。									
授業目標： 異文化コミュニケーションの基礎的な理論を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概要					事前：なし 事後：なし		講義	
2	文化とコミュニケーション1					事前：レポート 事後：なし		講義	
3	文化とコミュニケーション2					事前：なし 事後：なし		講義	
4	言語コミュニケーション1					事前：なし 事後：なし		講義	
5	言語コミュニケーション2					事前：なし 事後：なし		講義	
6	非言語コミュニケーション1					事前：なし 事後：なし		講義	
7	非言語コミュニケーション2					事前：なし 事後：なし		講義	
8	個人内コミュニケーション1					事前：なし 事後：なし		講義	
9	個人内コミュニケーション2					事前：なし 事後：なし		講義	
10	カルチャーショックと文化適応1					事前：なし 事後：なし		講義	
11	カルチャーショックと文化適応2					事前：なし 事後：なし		講義	
12	文化論1					事前：なし 事後：なし		講義	
13	文化論2					事前：なし 事後：なし		講義	
14	文化論を超えて					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 必要に応じてプリント配布。					参考文献： 1. 「はじめて学ぶ異文化コミュニケーション」石井敏ほか著 有斐閣選書 2. 「異文化コミュニケーション」古田暁監修 有斐閣選書など				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 出席が大前提で、ノートをしっかりととりましょう。理解する力を見ます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	異文化論 A (Cross Culture Theory A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 添 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	世 界 史 と 日 本 史 の 基 礎 知 識 が 必 要 で す。							
授 業 概 要 :									
この授業では、異なる集団がどのように出会い、関わり合い、描かれてきたのかを学びます。①毎回授業の終わりの約15分を使ってリアクションペーパー（授業を受けて考えたこと）を書いてもらいます。②課題レポートでは、授業で学んだことをもとに、日常生活についてまとめてもらいます。発表、質疑応答の機会も設けています。③定期試験は持ち込み不可です。									
授 業 目 標 :									
1. 異文化理解に必要な姿勢、視点、概念を理解する。 2. 授業で学んだことを自分の日常生活に実践できる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：シラバス確認 事後：配布資料		講義	
2	人類の誕生、移動、出会い					事前：世界史（先史時代） 事後：なし		講義	
3	文明の交差点としてのオリエント（中東）					事前：世界史（古代～中世） 事後：なし		講義	
4	「アラビアンナイト」の形成					事前：なし 事後：配布資料		講義	
5	「アラビアンナイト」の展開					事前：なし 事後：配布資料		講義	
6	大航海時代～植民地主義					事前：世界史（中世） 事後：なし		講義	
7	「オリエンタリズム」と「ジャポニズム」					事前：日本史 事後：配布資料		講義	
8	「身体技法」					事前：なし 事後：配布資料		講義	
9	課題レポート説明、事例紹介					事前：なし 事後：課題レポート		講義	
10	「日本人論」					事前：なし 事後：課題レポート		講義	
11	「グローバリズム」					事前：なし 事後：課題レポート		講義	
12	映像授業					事前：なし 事後：課題レポート		講義	
13	レポート作業					事前： 事後：レポート作成		講義（グループワーク）	
14	レポート発表、質疑応答、提出					事前：レポート作成 事後：		講義（プレゼン、討論）	
15	まとめ授業					事前：配付資料・ノート確認 事後：試験準備		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。					1. 住原則也他著、『異文化の学びかた・描き方』世界思想社、¥1,800+税。 その他は随時提示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : < 聞 く、読 む、考 え る、書 く、伝 え る、質 問 す る > 力 を 養 っ て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	異文化論B (Cross-Culture Theory B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 添 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	異文化論Aを修得、あるいは同時履修。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>日本の中の異文化に焦点を当てます。①毎回授業の最後15分を使ってリアクションペーパー（授業を受けて考えたこと）を書いてもらいます。②課題レポートでは、授業で学んだことをもとに、日常生活についてまとめてもらいます。発表、質疑応答の機会も設けています。③定期試験は持込み不可です。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 異文化の視点で、自文化を捉え直すことができる。 2. 授業で学んだことを日常生活に実践・応用できる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：シラバス確認 事後：配布資料		講義	
2	歴史を学ぶ：人類史					事前： 事後：配布資料		講義	
3	歴史を学ぶ：東アジアの歴史					事前： 事後：配布資料		講義	
4	日本の中の異文化：外国人					事前： 事後：配布資料		講義	
5	日本の中の異文化：先住民アイヌ					事前： 事後：配布資料		講義	
6	大学周辺の異文化：厚木市の歴史					事前： 事後：配布資料		講義	
7	大学周辺の異文化：街を歩く					事前：地図 事後：		講義	
8	組織の中の異文化：異文化トレーニング					事前： 事後：配布資料		講義	
9	組織の中の異文化：世代、性、障がい					事前： 事後：配布資料		講義	
10	課題レポート、事例紹介					事前： 事後：配布資料		講義	
11	身体と異文化：手話					事前： 事後：配布資料		講義	
12	身体と異文化：見る文化と触る文化					事前： 事後：配布資料		講義	
13	レポート作業					事前：レポート作成 事後：		講義（グループワーク）	
14	レポート発表、質疑応答、提出					事前：レポート作成 事後：		講義（プレゼン、討論）	
15	まとめ					事前：不明点の確認 事後：配布資料、ノート		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。					1. 『異文化の学びかた・描き方』住原則也他著、世界思想社、¥1,800+税。 その他は随時提示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : < 聞 く、読 む、考 え る、書 く、伝 え る、質 問 す る > 力 を 養 っ て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	インターネット心理学 (Psychology of the Internet)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	加藤 尚吾								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本授業では、特にコンピュータを媒介するコミュニケーション (Computer-Mediated Communication (CMC)) に関する研究から、インターネット上でのコミュニケーションの特徴に関して理解を深める。さらに、私たちが陥りやすいインターネット上での感情的なトラブルや、e ラーニング、不登校支援などの応用面についても考え、インターネットにおける心理面についての理解を深める。									
授業目標： コンピュータを媒介するコミュニケーション (Computer-Mediated Communication (CMC)) の心理面について理解し、CMC を適切に用いることができることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	はじめにーインターネット上のコミュニケーションとはー					事前：シラバスを読む 事後：授業で指示する		講義	
2	コミュニケーションの種類ーテキストとビジュアルオーディオ、同期と非同期ー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
3	リアルとバーチャルー行動と心理ー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
4	Computer-Mediated Communication (CMC)ー行動的な側面ー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
5	Computer-Mediated Communication (CMC)ー認知的な側面ー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
6	Computer-Mediated Communication (CMC)ー感情的な側面ー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
7	Computer-Mediated Communication (CMC)ー性差、文化差、年代差ー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
8	インターネット上のコミュニティーSense of communityー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
9	インターネット上のコミュニティーSocial presenceー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
10	ケータイコミュニケーションー携帯電話とPCは違うのかー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
11	応用ー感情的なトラブルはなぜ起こるかー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
12	応用ーe ラーニングの中のCMCー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
13	応用ーCMCを利用する不登校支援ー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
14	応用ーより良いCMCツールをデザインするー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
15	まとめーCMCの理論のまとめと今後のCMCー					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
教本： 使用しない。必要に応じて資料を配布する。					参考文献： 講義の中で適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (30%)、課題・レポート等 (70%) で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業で、参考文献や資料を指示・配布するので、読んで予習復習することを希望します。									
オフィスアワー： 毎回の授業終了後。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	インターンシップ (Internship)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鷲尾 裕子								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>授業で、企業での業務実施の前に必要な知識やマナー、企業研究ならびに提出書類の書き方を習得する。就職活動と同じように自分の希望する業種や企業選びなどをインターネットを活用して行う。習得後、夏休みに原則として2～4週間企業で業務する。</p> <p>初回時にインターンシップの意義を理解しているか、企業実習の心構えができていないかの確認を行う。その結果によっては履修を認めないこともある。</p> <p>最近のインターンシップ実習先 実習先として、大磯プリンスホテル、軽井沢プリンスホテル、ザ・プリンス箱根等、プリンスホテルを予定している。プリンスホテル以外での実習先は各自で見つけることが原則である。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>授業で社会人になるために必要なことを学び、夏休み期間中にインターンシップを実施する。実体験することにより、目標を持つことの大切さ、それを達成するための過程、確認と検証、新たな目標の作成を学び、就職活動に役立てる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	インターンシップ履修オリエンテーション					事前： 事後：配布資料の見直し		講義	
2	インターンシップ実施要綱					事前：前回の配布資料を見る 事後：今回の配布資料を見直す		講義	
3	第1回希望調査					事前：前回の配布資料を見る 事後：今回の配布資料を見直す		講義	
4	企業人としての心構えと働くことの意義					事前：前回の配布資料を見る 事後：今回の配布資料を見直す		講義	
5	企業研究					事前：希望の企業を選ぶ 事後：今回の配布資料を見直す		講義	
6	第2回希望調査					事前：希望の企業を選ぶ 事後：今回の配布資料を見直す		講義	
7	提出書類の作成 履歴書					事前：履歴書の項目を考える 事後：履歴書を清書する		講義	
8	提出書類の作成 自己紹介					事前：自己紹介を考える 事後：自己紹介書類を清書する		講義	
9	個別指導 (研修業種先グルーピング)					事前：研修業種を考える 事後：研修業種を研究する		講義	
10	個別指導 (研修先企業の研究)					事前：研修企業を絞り込む 事後：研修企業をもっと研究する		講義	
11	先輩からの体験報告					事前：研修企業について理解する 事後：体験報告をまとめる		講義	
12	提出書類の確認					事前：提出書類をまとめる 事後：提出書類のチェックをする		講義	
13	まとめ ※インターンシップの実施 (2～4週間)					事前：研修の準備をする 事後：研修報告書を書く		講義	
14	インターンシップ実施後、報告書提出					事前：研修報告書をまとめる 事後：研修報告書を訂正する		講義	
15	成果報告会					事前：研修報告書を仕上げる 事後：報告会の反省をする		講義	
<p>教本： 必要に応じて資料を配布する。「インターンシップのしおり」「インターンシップ賠償責任保険」の加入¥216 (変更の可能性あり)</p> <p>参考文献： なし。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (20%)、実習 (80%) で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 1回目から必ず出席すること。プレ社会人としてのモラルを求める。 初回時にインターンシップの意義を理解しているか、企業実習の心構えができていないかの確認を行う。その結果によっては、履修を認めないこともある。 出席状況によっては実習に参加できないこともある。 インターンシップは大学と企業の信頼関係のうえで実施される。遅刻や無断欠勤は社会人として許されない。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	Web デザイン (Web Design)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	岸 康 人								
履 修 条 件	前 提 科 目	プ ロ グ ラ ミ ン グ I を 履 修 済 だ る こ と が 望 ま し い							
	そ の 他	ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と							
授 業 概 要 :									
本 講 義 は、Web サ イ ト を 構 築 ・ 運 用 す る た め の 主 要 な 技 術 に つ い て、実 習 を 通 し て 学 習 す る。									
授 業 目 標 :									
近 年、Web サ イ ト や 関 連 す る 仕 組 み は、誰 も が 日 常 的 に 利 用 す る も の と な っ た。本 講 義 で は、こ れ ら を 支 え て い る 技 術 に つ い て 学 習 し、実 際 に Web サ イ ト を 試 作 す る こ と に よ っ て 習 得 す る こ と を 目 標 と す る。講 義 は、主 に フ ロ ン ト エ ン ド (ク ラ イ ア ン ト 側) の 技 術 を 中 心 に 進 め、サ ー バ 側 に つ い て は 講 義 内 で 触 れ る 程 度 と す る。ま た、Web デ ザ イ ナ ー 検 定 や Web ク リ エ イ タ ー 能 力 認 定 試 験 等 の 資 格 試 験 対 策 の た め の 知 識 に つ い て も 同 時 に 学 習 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：シラバスの確認 事後：PCの設定確認		講義	
2	Webサイトの仕組みと制作の工程					事前：資料の予習 事後：資料の復習		講義	
3	Webサイトの役割と分類、Webページの構成ファイルと特徴					事前：資料の予習 事後：資料の復習		講義	
4	HTMLでの基本的なマークアップ					事前：資料の予習 事後：復習と課題の作成		演習	
5	HTML5とメディア表示					事前：資料の予習 事後：復習と課題の作成		演習	
6	CSS：スタイルシートの基礎、色表現					事前：資料の予習 事後：復習と課題の作成		演習	
7	CSS3での表現、フォント					事前：資料の予習 事後：復習と課題の作成		演習	
8	画像の扱いとフィルター、CSSアニメーション					事前：資料の予習 事後：復習と課題の作成		演習	
9	JavaScript (1) Web ページでのスクリプトの実行					事前：資料の予習 事後：復習と課題の作成		演習	
10	JavaScript (2) タグへのイベント設定					事前：資料の予習 事後：復習と課題の作成		演習	
11	JavaScript (3) 外部データの取り込み					事前：資料の予習 事後：復習と課題の作成		演習	
12	環境の違いとレスポンシブデザイン					事前：資料の予習 事後：復習と課題の作成		演習	
13	フレームワークの利用					事前：資料の予習 事後：復習と課題の作成		演習	
14	CMSとコンテンツの再利用					事前：資料の予習 事後：復習と課題の作成		演習	
15	まとめ					事前：資料の予習 事後：資料の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
資料を印刷またはオンラインで配布する。					講義内で随時指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
ほ ぼ 毎 回 出 題 す る 課 題 の 提 出 (60%)、小 テ ス ト (40%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
実 習 を 伴 う 講 義 の た め、ま た 知 識 の 積 み 重 ね が 重 要 と な る た め、欠 席 は 原 則 認 め な い。や む を 得 な い 事 情 の 場 合、教 員 に 申 し 出 て、欠 席 分 の 課 題 を 提 出 す る こ と。提 出 物 が 欠 け て い る 場 合 は 単 位 認 定 し な い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	映画研究 (Cinema Literacy)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	堀口 悟士								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>とにかく映画を見ましょう。すべては、そこからです。そのうえで、シネマリテラシー、つまり映画の技法や語法を理解するための学習に入ります。併せて、これらの技法が映画をみている貴方にどのような効果を与えているかも読み解きます。「テレビ映像論」とともに、2学年以降の進路選択の参考にしてください。</p> <p>授業目標：</p> <p>諸君が日ごろ無意識に接している音や映像の背後には、制作者の練りに練った表現の工夫、フレーム、構図、カメラワークが隠されています。授業では、まず映画を見ることから始めたい。そこから、映画の批評、鑑賞、制作すべてに役立ついわばシネマを学びます。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	映画映像研究 カメラワーク、人物の動き					事前：なし 事後：なし		講義	
3	映画映像研究 構図・アングル					事前：なし 事後：なし		講義	
4	映画映像研究 照明・明と暗					事前：なし 事後：なし		講義	
5	映画映像研究 撮影方法					事前：なし 事後：なし		講義	
6	映画映像研究 編集技法 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
7	映画映像研究 編集技法 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
8	映画映像研究 編集技法 (3)					事前：なし 事後：なし		講義	
9	企画・構成					事前：なし 事後：なし		講義	
10	映像の演出と効果					事前：なし 事後：なし		講義	
11	サウンドと映像					事前：なし 事後：なし		講義	
12	演技論 舞台演技と映画演技					事前：なし 事後：なし		講義	
13	シナリオライティング 台詞と伏線					事前：なし 事後：なし		講義	
14	シナリオライティング 台本構成					事前：なし 事後：なし		講義	
15	① まとめ シネマリテラシー					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>適宜、指定します。</p>					<p>参考文献：</p> <p>1. 「映像の演出」吉村公三郎（岩波新書）、「映画づくりの実際」新藤兼人、「映画の読み方」佐藤忠男など</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>平常の授業内容への参加度を重視しながら総合的に評価する。（平常点50%、試験等50%）</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>繰り返しますが、とにかく映画を見ましょう。すべては、そこからです。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担当教員	阿部 美恵・廣本 和枝								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを確認し、日常生活で必要とされる程度の英語表現を習得するため練習を行います。									
授業目標： コミュニケーションに必要な英語の基本表現と語彙を理解し、必要な場面で英語を使えるようになることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 1 Welcome to the "Big Apple"					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
2	Unit 1 Welcome to the Big Apple"					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
3	Unit 2 What's the Boss like?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
4	Unit 2 What's the Boss like?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
5	Unit 3 Masa's First Day on the Job					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
6	Unit 3 Masa's First Day on the Job					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
7	Unit 4 Summer Fun					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
8	Unit 4 Summer Fun					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
9	Unit 5 Hotel Guest Satisfaction					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
10	Unit 5 Hotel Guest Satisfaction					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
11	Unit 6 Brainstorming					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
12	Unit 6 Brainstorming					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
13	Unit 7 Glad to be of Service					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
14	Unit 7 Glad to be of Service					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
15	Review					事前：テキストの予習 事後：前期の復習		演習	
教本： English Missions! Basic					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 多くの機会を利用して、英語に触れるように努めてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： コミュニケーションに必要な英語の基本表現と語彙について理解し、実際の場面で必要なときに応用できるようにすることを目指す。									
授業目標： 1. 身近な事柄について、情報のやり取りができるようにする。 2. 自分の置かれている状況や、その場で自分に必要なことについて説明できるようにする。 3. 身の周りの事についての文章や慣用的な表現を理解するための学習をする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Course Orientation, Classroom English (introduction, practice)					事前：なし 事後：本時の復習（課題含）		演習	
2	-ask, say and spell names, -use 'to be', possessive adjectives					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
3	-talk about where people are from and what they do -discuss people's names and jobs, -use subject pronouns					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
4	-ask for people's nationalities, phone numbers, email addresses, -use plural subject pronouns					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
5	-identify family members and their ages, -give information about family and friends, -use 'who' and 'how old' with 'be'					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
6	-ask about and identify everyday objects -use demonstratives, articles 'a' and 'an', and plurals					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
7	-talk about clothes and describe favourite possessions -use possessive pronouns, 'whose', ('s and s')					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
8	-Review materials from Lesson 2 to 7					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
9	-describe how people get around, -ask for and tell time -make simple present statements					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
10	-Q&A about routines, -describe things to do on weekends -ask simple present yes/no questions					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
11	-talk about online habits, -accept and decline help -use adverbs of frequency					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
12	-Q&A about leisure activities, -discuss how they use technology, -ask simple present wh-questions with 'do'					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
13	-identify jobs, -ask for someone on the telephone and have someone wait, -ask simple present wh-question with 'does'					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
14	-describe talents and abilities, -talk about study and work programs, -use 'can' for ability, 'and' 'but' and 'or'					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
15	Review for Final Exam					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
教本： Four Corners 1 (Cambridge University Press)					参考文献： 授業内で適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提となり、講師からの課題をこなすことが条件となります。テキストは毎回必ず持参してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>本演習では、英語の基本的な文法項目を紹介しつつ（拘束課題：教員担当）、様々な英語上の問題点（自由課題：学生提示）について議論を行い、広く英語の技能を身につけるとともに、より広い実践的な力をつけてもらうことを目標とする。その目標を達成するために、本授業では、ノートを正確に取ってもらうことを求める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>人前で英語に関する話題ができるようになること、人の話を正確に聞きとり、議論のテーブルに参加できることを求める。特に、人の話を聞けるようになることが最重要である。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Punctuation(拘束課題)・学生発表に關しての説明(自由課題) (以下、左側の記述は拘束課題、右側は自由課題)					事前：なし。 事後：ノートまとめ		演習	
2	Punctuation・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
3	8品詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
4	語・句・節・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
5	物質名詞と普通名詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
6	複数形・不定冠詞・定冠詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
7	5文型・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
8	Be動詞の意味・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
9	擬似補語・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
10	ネクサス関係・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
11	意味上の主語・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
12	There構文・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
13	新情報と旧情報・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
14	所有格・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
15	総まとめ及びコメント					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
<p>教本：</p> <p>『でる順 バス単 3級』旺文社</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業時に適宜、指示をします。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>ノートを取るようにしてください。シンプルなようですが、ここが一番大切なことです。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	倉崎 様子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： ・身近な事柄について、情報のやりとりができるようにします。 ・自分の置かれている状況や、その場で自分に必要なことについて説明できるようにします。 ・身近の事についての文章や慣用的な表現を理解するための学習をします。									
授業目標： コミュニケーションに必要な英語の基本表現と語彙について理解し、必要なときに使えるようにすることを授業の目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入授業					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
2	be 動詞					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
3	一般動詞					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
4	QUEEN MARY'S NECKLACE					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
5	5 文型 (1)					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
6	5 文型 (2)					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
7	THE MAN WHO FOUND NESSIE					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
8	前置詞					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
9	冠詞					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
10	THE SONG OF DEATH					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
11	形容詞					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
12	代名詞					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
13	AMAZING ESP					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
14	疑問代名詞 関係代名詞					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
15	まとめ					事前：単語や文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
教本： 1. Story Time Brian Powle 他著（南雲堂出版）¥1,400+ 税					参考文献： 随時 指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語辞書必携。予習、復習を欠かさず、ノートを丁寧に作成してください。音読も大切です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語 I (English I)						科目分類	基礎科目	
担当教員	田中 一郎								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 身近な事柄や自分の置かれている状況、その場で自分に必要なことについて英語で説明できるよう、英語の基礎や慣用表現を学習する。									
授業目標： コミュニケーションに必要な英語の基本表現と語彙について理解し、必要なときに使えるようになること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：一 事後：復習		演習	
2	Unit One 品詞 Exercise（授業終了前15分）					事前：一 事後：復習		演習	
3	Unit Two 現在形と現在進行形 Exercise（授業終了前15分）					事前：一 事後：復習		演習	
4	Unit Three 過去形と過去進行形 Exercise（授業終了前15分）					事前：一 事後：復習		演習	
5	Unit Four 現在完了形(1) Exercise（授業終了前15分）					事前：一 事後：復習		演習	
6	Unit Five 現在完了形(2) Exercise（授業終了前15分）					事前：一 事後：復習		演習	
7	Unit Six 過去完了形と完了形のまとめ Exercise（授業終了前15分）					事前：一 事後：復習		演習	
8	Unit Seven 第1文型と第2文型 Exercise（授業終了前15分）					事前：一 事後：復習		演習	
9	Unit One～Unit Sixの復習					事前：一 事後：復習		演習	
10	小テスト（60分、範囲はUnits One～Six）					事前：一 事後：復習		演習	
11	Unit Eight 第3文型、第4文型、第5文型 Exercise（授業終了前15分）					事前：一 事後：復習		演習	
12	Unit Nine 冠詞 Exercise（授業終了前15分）					事前：一 事後：復習		演習	
13	Unit Ten 代名詞 Exercise（授業終了前15分）					事前：一 事後：復習		演習	
14	Unit Eleven 前置詞 Exercise（授業終了前15分）					事前：一 事後：復習		演習	
15	Summary：重要なポイントの説明と全体のまとめ					事前：一 事後：復習		演習	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： この科目では英語の基礎をしっかり身に付けることを目標とする。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語Ⅱ (English II)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	阿部 美恵・廣本 和枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを確認し、日常生活で必要とされる程度の英語表現を習得するため練習を行います。									
授業目標： コミュニケーションに必要な英語の基本表現と語彙を理解し、必要な場面で英語を使えるようになることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 8 Socializing with Co-Workers					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
2	Unit 8 Socializing with Co-Workers					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
3	Unit 9 Vacation Spots					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
4	Unit 9 Vacation Spots					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
5	Unit 10 Sports Talk					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
6	Unit 10 Sports Talk					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
7	Unit 11 Tour Day					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
8	Unit 11 Tour Day					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
9	Unit 12 Party Time!					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
10	Unit 12 Party Time!					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
11	Unit 13 Office Meeting					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
12	Unit 13 Office Meeting					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
13	Unit 14 A Bit of History					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
14	Unit 15 Farewell, Masa and Lucy					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
15	Review					事前：テキストの予習 事後：前期の復習		演習	
教本： English Missions! Basic（金星堂） 参考文献：									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 多くの機会を利用して、英語に触れるように努めてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語Ⅱ (English II)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： コミュニケーションに必要な英語の基本表現や語彙を増やし、これらの理解に基づいて、必要な場面で使えるようにすることを目指す。									
授業目標： 1. 学生生活や趣味など、日頃親しんでいる事柄について、情報のやりとりができるようになる。 2. 家族や日常生活について、対話ができるようになる。 3. 身近な出来事についての文章を読むことができ、自分で文章を作成するための学習をする。 4. 経験や希望などを説明できるようになる。 5. 計画や目標などについて述べるができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	-say what meals they eat and their likes and dislikes -use countable and non-countable nouns, 'some' and 'any'					事前：なし 事後：本時の復習（課題含）		演習	
2	-talk about their eating habits and favourite foods -use 'how often', time expression					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
3	-give locations of and directions to neighbourhood places -use prepositions of location					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
4	-talk about and give a presentation on city attractions -use 'there is/are'					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
5	-describe what people are doing, -ask & explain if someone can talk or not, -make present continuous statements					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
6	-discuss what people are doing these days -ask present continuous questions					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
7	Review materials from Lesson 1 to Lesson 6					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
8	-say what they did last weekend, -show that they're listening, express surprise, -use simple past regular verbs					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
9	-talk about routine event in the past and past activities -use simple past irregular verbs, -ask yes/no questions					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
10	-describe where they were in the past, -react to news -use the past of 'be'					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
11	-talk about and describe vacations -ask simple past wh-questions					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
12	-talk about their plans for specific dates, -accept or decline invitations, -use 'be going to', -ask yes/no questions					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
13	-discuss and agree on plans, -describe traditional birthdays, -ask wh-questions with 'be going to', -use object pronouns					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
14・15	Review for Final Exam					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
教本： Four Corners 1 (Cambridge University Press)					参考文献： 授業内で適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提となり、講師からの課題をこなすことが条件となります。テキストは毎回必ず持参してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語Ⅱ (English Ⅱ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	岡部 佑人									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他									
<p>授業概要：</p> <p>本演習では、英語の基本的な文法項目を紹介しつつ（拘束課題：教員担当）、様々な英語上の問題点（自由課題：学生提示）について議論を行い、広く英語の技能を身につけるとともに、より広い実践的な力をつけてもらうことを目標とする。その目標を達成するために、本授業では、ノートを正確に取ってもらうことを求める。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>人前で英語に関する話題ができるようになること、人の話を正確に聞きとり、議論のテーブルに参加できることを求める。特に、人の話を聞けるようになることが最重要である。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	不定代名詞 one(拘束課題)・学生発表についての説明(自由課題)(以下、左側の記述は拘束課題、右側は自由課題)					事前：なし 事後：ノートまとめ		演習		
2	Some と any・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
3	It について・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
4	形容詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
5	副詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
6	前置詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
7	等位接続詞・従位接続詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
8	関係代名詞 who, which・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
9	関係副詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
10	接続詞 that, 関係詞 that・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
11	強調構文・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
12	強調表現・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
13	代用表現・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
14	取り扱っていない文法項目の紹介・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
15	総まとめ及びコメント					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
<p>教本：</p> <p>『でる順 バス単 3級』旺文社</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業時に適宜、指示をします。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>ノートを取るようになってください。シンプルなようですが、ここが一番大切なことです。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>質問がある場合は授業の前後で対応いたします。</p>										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語Ⅱ (English Ⅱ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	倉崎 祥子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 身近な事柄について、情報のやりとりができるようにします。 自分の置かれている状況や、その場で自分に必要なことについて説明できるようにします。 身近の事についての文章や慣用的な表現を理解するための学習をします。									
授業目標： コミュニケーションに必要な英語の基本表現と語彙について理解し、必要な時に使えるようにすることを授業の目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入授業					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
2	助動詞					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
3	現在分詞					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
4	THE PREDICTIONS OF NOSTRADAMUS					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
5	接続詞					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
6	副詞 副詞句					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
7	LIFE AFTER DEATH					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
8	母音の発音 アクセントの位置					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
9	相関語句 反意語					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
10	THE GREAT WALL OF CHINA					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
11	受動態					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
12	現在完了					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
13	THE MEDICAL MIRACLE OF ACUPUNCTURE					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
14	過去完了					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
15	まとめ					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
教本： 1. Story Time Brian Powle 他著（南雲堂出版）¥1,400+税					参考文献： 随時指示します。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 英語辞書必携。予習、復習を欠かさず、ノートを丁寧に作成してください。音読も大切です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅱ (English Ⅱ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 学 生 生 活 や 趣 味 、 家 族 な ど 日 頃 親 し ん で い る 事 柄 や 、 経 験 や 希 望 、 計 画 や 目 標 な ど を 英 語 で 述 べ る こ と が で き る よ う 、 必 要 な 英 語 表 現 を 学 習 す る 。									
授 業 目 標 : コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン に 必 要 な 英 語 の 基 本 表 現 や 語 彙 を 増 や し 、 こ れ ら の 理 解 に 基 づ い て 、 必 要 な 場 面 で 英 語 を 使 え る よ う に す る こ と 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	導 入 授 業 : 授 業 の 進 め 方 と 授 業 概 要 の 説 明					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
2	Unit One 受 動 態 (1) Exercise (授 業 終 了 前 15 分)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
3	Unit Two 受 動 態 (2) Exercise (授 業 終 了 前 15 分)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
4	Unit Three 未 来 形 Exercise (授 業 終 了 前 15 分)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
5	Unit Four 助 動 詞 (1) Exercise (授 業 終 了 前 15 分)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
6	Unit Five 助 動 詞 (2) Exercise (授 業 終 了 前 15 分)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
7	Unit Six to 不 定 詞 Exercise (授 業 終 了 前 15 分)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
8	Unit Seven 動 名 詞 Exercise (授 業 終 了 前 15 分)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
9	Unit One ~ Unit Seven の 復 習					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
10	小 テ ス ト (60 分 、 範 囲 は Units One ~ Seven)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
11	Unit Eight 接 続 詞 Exercise (授 業 終 了 前 15 分)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
12	Unit Nine 比 較 Exercise (授 業 終 了 前 15 分)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
13	Unit Ten 関 係 詞 (1) Exercise (授 業 終 了 前 15 分)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
14	Unit Eleven 関 係 詞 (2) Exercise (授 業 終 了 前 15 分)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
15	Summary : 重 要 な ポ イ ン ト の 説 明 と 全 体 の ま と め					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
教 本 : 教 科 書 は 使 用 し な い 。 プ リ ン ト を 配 付 す る 。					参 考 文 献 : 適 宜 、 紹 介 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 学 期 末 に 実 施 す る 「英 語 統 一 テ ス ト」 の 評 価 (50%)、並 び に 担 当 教 員 に よ る 評 価 (50%) を 総 合 し て 評 価 し ま す 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : こ の 科 目 で は 英 語 の 基 礎 を し っ か り 身 に 付 け る こ と を 目 標 と す る 。 毎 回 出 席 す る よ う 努 め よ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅲ (English Ⅲ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>英語 I・II で学習した英語のさらなる向上を図ります。授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを再確認し、リーディング・ライティング・リスニングの能力を習得するためのタスクを行います。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 語彙を増やし、リーディング力を強化します。 2. 文法・語法を確認し、英文を書くことでライティング力を習得します。 3. リズムや音声変化などの発音に慣れ、音読してリスニング力を習得します。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 1 Be 動 詞 (現 在 形 ・ 過 去 形)					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
2	Unit 1 Be 動 詞 (現 在 形 ・ 過 去 形)					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
3	Unit 2 一 般 動 詞 (現 在 形 ・ 過 去 形)					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
4	Unit 2 一 般 動 詞 (現 在 形 ・ 過 去 形)					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
5	Unit 3 未 来 形 ・ 進 行 形					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
6	Unit 3 未 来 形 ・ 進 行 形					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
7	Unit 4 助 動 詞					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
8	Unit 4 助 動 詞					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
9	Unit 5 能 動 態 ・ 受 動 態					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
10	Unit 5 能 動 態 ・ 受 動 態					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
11	Unit 6 動 名 詞 ・ 分 詞					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
12	Unit 6 動 名 詞 ・ 分 詞					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
13	Unit 7 不 定 詞					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
14	Unit 7 不 定 詞					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
15	Review					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 前 期 の 復 習		演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
English Grammar: Onward & Upward (CENGAGE Learning)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 学 期 末 に 実 施 す る 「英 語 統 一 テ ス ト」 の 評 価 (50%)、並 び に 担 当 教 員 に よ る 評 価 (50%) を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 多 く の 機 会 を 利 用 し て、英 語 に 触 れ る よ う に 努 め て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅲ (English Ⅲ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>自立した発話やコミュニケーションがとれるように、より広範囲の英語表現と語彙の習得を目指す。また、具体的な話題だけではなく、抽象的な話題も扱えるように、慣用的な表現や語彙を増やすことを目指す。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 日頃親しんでいる事柄について、標準的な発話や文章を理解できるようになる。 2. 旅行先で起こりうる問題に対応できるようになる。 3. 過去の経験や出来事、夢や希望について、説明できるようになる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Course Orientation, Classroom English (introduction, practice)					事前：なし 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
2	-ask/talk about interests, -ask for repetition or for someone to say something more slowly, -use the present form of 'be'					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
3	-ask and talk about sports, exercise habits & free-time activities, -use simple present					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
4	-ask/talk about personalities, -whether they think something is true, -use 'What...like?', 'be + adjective (+ noun)'					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
5	-ask and talk about people's appearances -use 'What...look like?', order of adjectives					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
6	-talk about the weather and seasons, -ask for and give an opinion, -use adverbs of intensity, quantifiers with verbs					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
7	-talk about what they would like to do or where to visit-use 'would like' + infinitive					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
8	-Review materials from Lesson 2 to 7					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
9	-Q&A about their homes, -make and agree to requests, -use 'how many/much', quantifiers before nouns					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
10	-talk about household chores, -describe a home -use separable two-word phrasal verbs					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
11	-give and follow instructions, -say how they feel and wish someone well, -use imperatives, adverbs of manner					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
12	-ask and talk about healthy habits and ways to manage stress, -ask 'how' questions					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
13	-talk about favourite TV show types, -agree or disagree with an opinion, -use verb + infinitive or gerund					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
14	-describe future plans, -give my opinions about popular TV shows, -use present continuous for future plans					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
15	Review for Final Exam					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
・ Four Corners 2 (Cambridge University Press)					授 業 内 で 適 宜、紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 学 期 末 に 実 施 す る 「英 語 統 一 テ ス ト」 の 評 価 (50%)、並 び に 担 当 教 員 に よ る 評 価 (50%) を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 欠 席 し な い こ と が 大 前 提 と な り、講 師 か ら の 課 題 を こ な す こ と が 条 件 で す。テ キ ス ト は 毎 回 必 ず 持 参 し て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語Ⅲ (English Ⅲ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他								
授業概要： 本演習では、英語の基本的な文法項目を紹介しつつ（拘束課題：教員担当）、様々な英語上の問題点(自由課題：学生提示)について議論を行い、広く英語の技能を身につけるとともに、より広い実践的な力をつけてもらうことを目標とする。その目標を達成するために、本授業では、ノートを正確に取ってもらうことを求める。									
授業目標： 人前で英語に関する話題ができるようになること、人の話を正確に聞きとり、議論のテーブルに参加できることを求める。 特に、人の話を聞けるようになることが最重要である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Punctuation(拘束課題)・学生発表に關しての説明(自由課題) (以下、左側の記述は拘束課題、右側は自由課題)					事前：なし。 事後：ノートまとめ		演習	
2	Punctuation・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
3	8品詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
4	語・句・節・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
5	物質名詞と普通名詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
6	複数形・不定冠詞・定冠詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
7	5文型・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
8	Be動詞の意味・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
9	擬似補語・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
10	ネクサス関係・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
11	意味上の主語・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
12	There構文・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
13	新情報と旧情報・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
14	所有格・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
15	総まとめ及びコメント					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習	
教本： 『でる順 バス単 準2級』 旺文社					参考文献： 授業時に適宜、指示をします。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： ノートを取るようにしてください。シンプルなようですが、ここが一番大切なことです。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅲ (English Ⅲ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	倉 崎 祥 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : コミュニケーションや読解に必要とされる文法や表現力の基礎を固め、講読、速読等も通して活用度の高い英語表現を多く学習する。									
授 業 目 標 : 状況や目的に応じて適切な英語表現ができる語学力の養成。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	導入授業 (授業の概要や進め方、評価方法等の説明)					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
2	Be 動詞					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
3	一般動詞					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
4	It's the Titanic!					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
5	進行形					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
6	未来形					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
7	A Floating Palace					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
8	助動詞					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
9	名詞・冠詞					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
10	Departure					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
11	代名詞					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
12	前置詞					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
13	Iceberg					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
14	形容詞・副詞					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
15	まとめ (復習・その他)					事前: 単語と文法の予習 事後: 学習内容の確認・整理		演習	
教 本 : プリントを配布する。					参 考 文 献 : 授業時に随時紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%)、並びに担当教員による評価 (50%) を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 英語への理解を深めるために、英英辞典も活用してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 Ⅳ (English Ⅳ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 英語Ⅰ・Ⅱで学習した英語のさらなる向上を図ります。授業では毎回焦点を絞って英文法の基本的なルールやフォームを再確認し、リーディング・ライティング・リスニングの能力を習得するためのタスクを行います。									
授 業 目 標 : ①語彙を増やし、リーディング力を強化します。 ②文法・語法を確認し、英文を書くことでライティング力を習得します。 ③リズムや音声変化などの発音に慣れ、音読してリスニング力を習得します。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 8 現在完了・過去完了.					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
2	Unit 8 現在完了・過去完了					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
3	Unit 9 名詞・冠詞・数詞					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
4	Unit 9 名詞・冠詞・数詞					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
5	Unit 10 代名詞					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
6	Unit 10 代名詞					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
7	Unit 11 形容詞・副詞					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
8	Unit 11 形容詞・副詞					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
9	Unit 12 前置詞					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
10	Unit 12 前置詞					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
11	Unit 13 接続詞					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
12	Unit 13 接続詞					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
13	Unit 14 比較					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
14	Unit 14 比較					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
15	Review					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
教 本 : English Grammar: Onward & Upward (CENGAGE Learning)					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%)、並びに担当教員による評価 (50%) を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 多くの機会を利用して、英語に触れるように努めてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 IV (English IV)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>他者に依存することなくコミュニケーションがとれ、知的な交流ができるようになるための英語表現や語彙の習得を目指す。また、様々な話題についての文章の構成や、要点が理解できるようにすることを目指す。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 日頃親しんでいる事柄について、標準的な発話が一定の流暢さでできるようになる。 2. 滞在先で起こりうる問題に対応できるようになる。 3. 経験や希望について、簡単な文章の作成ができるようになる。 4. 計画、意見、理由などを述べることができるようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	-describe and compare products, bargain -use comparative adjectives					事前：なし 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
2	-describe how clothing looks and fits, -discuss good places to shop, -use 'enough' and 'too'					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
3	-ask for and give recommendations -use 'should', 'can'					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
4	-make comparisons and discuss aspects of cities -use superlative adjectives					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
5	-ask and talk about people from the past, -express certainty and uncertainty, -use 'was/were born', past of 'be'					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
6	-describe people they admire and who have made a difference, -use simple past, 'go'-					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
7	Review of Lessons 1 to 6					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
8	-talk about menus and order food in a restaurant -use articles					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
9	-describe food and restaurant experiences -use present perfect for experience					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
10	-talk about their movie habits and opinions, -ask for and give suggestions, -use 'so', 'too', 'either' and 'neither'					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
11	-report the results of a survey, -describe important singers and musicians, -use determiners					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
12	-give reasons for personal changes, -react to good and bad news, -use infinitives of purpose					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
13	-make predictions about the future, -discuss their dreams for the future, -use 'will' for predictions, 'may' and 'might' for possibility					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
14 15	Review for Final Exam					事前：前時の復習 (課題含) 事後：本時の復習 (課題含)		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
・ Four Corners 2 (Cambridge University Press)					授 業 内 で 適 宜、紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 学 期 末 に 実 施 す る 「英 語 統 一 テ ス ト」 の 評 価 (50%)、並 び に 担 当 教 員 に よ る 評 価 (50%) を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 欠 席 し な い こ と が 大 前 提 と な り、講 師 か ら の 課 題 を こ な す こ と が 条 件 で す。テ キ ス ト は 毎 回 必 ず 持 参 し て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語Ⅳ (English Ⅳ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	岡部 佑人									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他									
授業概要： 本演習では、英語の基本的な文法項目を紹介しつつ（拘束課題：教員担当）、様々な英語上の問題点(自由課題：学生提示)について議論を行い、広く英語の技能を身につけるとともに、より広い実践的な力をつけてもらうことを目標とする。その目標を達成するために、本授業では、ノートを正確に取ってもらうことを求める。										
授業目標： 人前で英語に関する話題ができるようになること、人の話を正確に聞きとり、議論のテーブルに参加できることを求める。特に、人の話を聞けるようになることが最重要である。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	不定代名詞 one(拘束課題)・学生発表についての説明(自由課題) (以下、左側の記述は拘束課題、右側は自由課題)					事前：なし。 事後：ノートまとめ		演習		
2	Some と any・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
3	It について・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
4	形容詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
5	副詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
6	前置詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
7	等位接続詞・従位接続詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
8	関係代名詞 who, which・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
9	関係副詞・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
10	接続詞 that, 関係詞 that・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
11	強調構文・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
12	強調表現・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
13	代用表現・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
14	取り扱っていない文法項目の紹介・学生発表					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
15	総まとめ及びコメント					事前：発表の用意 事後：ノートまとめ		演習		
教本： 『でる順 バス単 準2級』 旺文社					参考文献： 授業時に適宜、指示をします。					
成績評価の方法、評価基準： 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価（50%）、並びに担当教員による評価（50%）を総合して評価します。										
学生へのアドバイス： ノートを取るようになってください。シンプルなようですが、ここが一番大切なことです。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 IV (English IV)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	倉 崎 祥 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : コミュニケーションや読解に必要とされる文法や表現力の基礎固め、講読、速読等も通して活用度の高い英語表現を多く学習する。									
授 業 目 標 : 状況や目的に応じて、適切な英語表現ができる語学力の養成。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	導入授業					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
2	比較					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
3	命令文・感嘆文					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
4	Lifeboat					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
5	接続詞					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
6	不定詞・動名詞					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
7	The Miracle of Philip Aks					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
8	受動態・現在完了形					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
9	5 文型					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
10	Mr. Smith's White Life					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
11	各種疑問文					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
12	It の特別用法					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
13	Together until the End of Their Lives					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
14	関係代名詞					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
15	まとめ (復習・その他)					事前：単語と文法の予習 事後：学習内容の確認・整理		演習	
教 本 : プリントを配布する。					参 考 文 献 : 授業時に随時紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 学期末に実施する「英語統一テスト」の評価 (50%)、並びに担当教員による評価 (50%) を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 英語学習への地道な継続的努力を期待しています。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 V (English V)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
リスニング力の伸長のためには、英語句の発音や使われ方を理解する力が必要です。この授業では、聞き取るためのポイントを理解する様々なリスニング・スキルを学習すると共に、実際に学習者が英語を使い、それらを体得するためのスピーキングの力も伸ばします。授業内では、制限されたタスクを通して練習を重ね、徐々に自由度の高いアウトプット・タスクを通して定着をはかります。									
授 業 目 標 :									
日常生活上の身近な話題についてのリスニングを聞き、その中で使われている語彙、文法、英語表現を学ぶ。 会話、アナウンス、インタビュー等、様々なリスニング・インプットを聞き取る為の具体的なスキルを身につける。 聞き取りたい英語の発音や語彙の使われ方等を習得する為、それらを使ってスピーキングの力も伸ばす。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 1, Listening 1 : Introductions; lexis: personality, recognizing main ideas in long texts					事前 : none 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
2	Unit 1, Listening 2 : words & phrases introducing reasons, "al" suffix					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
3	Unit 1, Speaking : present simple questions, making introductions, sentence stress					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
4	Unit 2, Listening 1 : lexis: surveys, listening for results					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
5	Unit 2, Listening 2 : use questions to predict main ideas, recognizing roots					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
6	Unit 2, Speaking : getting attention, asking permission, word stress, question intonation					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
7	Unit 3, Listening 1 : lexis: home, listening for special terms					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
8	Unit 3, Listening 2 : predicting, "house" & "home"					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
9	Unit 3, Speaking : quantifiers, linking consonants to vowels, making & responding to suggestions					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
10	Unit 4, Listening 1 : lexis: advertising & trends, predicting content from interview questions					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
11	Unit 4, Listening 2 : listening for advantages & disadvantages, prefixes "mini-" and "micro-"					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
12	Unit 4, Speaking : giving reasons for and against something, contractions & word stress in present continuous questions					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
13	Unit 5, Listening 1 : lexis: handwriting, listening for explanations & examples					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
14	Unit 5, Listening 2 : suffixes "-ology" & "-ologist", listening for a talk's main ideas					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
15	Unit 5, Speaking : asking for ideas & examples, syllable stress					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Skillful Listening & Speaking 1 (MacMillan 出版)					適 宜、授 業 内 で 紹 介 予 定。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平 常 点 (20%)、課 題 (15%)、学 期 内 に 複 数 回 実 施 す る リ ス ニ ン グ テ ス ト (25%)、定 期 試 験 (40%) を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠 席 を せ ず、復 習 や 課 題 を し っ か り 行 う こ と が 必 要 で す。テ キ ス ト は 毎 回 必 ず 持 参 し、英 語 読 解 力 を 養 う た め に 継 続 的 な 学 習 が 必 要 に な り ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語Ⅵ (English Ⅵ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前提科目	英語Ⅴ							
	その他	なし							
授業概要： リスニング力の伸長のためには、英語句の発音や使われ方を理解する力が必要です。この授業では、聞き取るためのポイントを理解する様々なリスニング・スキルを学習すると共に、実際に学習者が英語を使い、それらを体得するためのスピーキングの力も伸ばします。授業内では、制限されたタスクを通して練習を重ね、徐々に自由度の高いアウトプット・タスクを通して定着をはかります。									
授業目標： 日常生活上の身近な話題についてのリスニングを聞き、その中で使われている語彙、文法、英語表現を学ぶ。 会話、アナウンス、インタビュー等、様々なリスニング・インプットを聞き取る為の具体的なスキルを身につける。 聞き取りたい英語の発音や語彙の使われ方等を習得する為、それらを使ってスピーキングの力も伸ばす。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 6, Listening 1 : lexis: competitions, listening for tone of voice					事前：none 事後：本時の復習(課題含)		演習	
2	Unit 6, Listening 2 : listening for block organisation, prefixes “-ed” & “-ing”					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
3	Unit 6, Speaking : similarities & differences, reduced forms					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
4	Unit 7, Listening 1 : lexis: senses, recognizing different types of numbers					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
5	Unit 7, Listening 2 : listening for transition questions, suffixes that change adjectives to nouns					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
6	Unit 7, Speaking : asking for repetition & clarification, final consonant /t/ before another consonant					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
7	Unit 8, Listening 1 : lexis: memory, words used to classify items					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
8	Unit 8, Listening 2 : “-ex” words, preparing for listening					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
9	Unit 8, Speaking : pronouncing “can” & “can’t”, thinking before speaking					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
10	Unit 9, Listening 1 : lexis: poverty, listening to stories					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
11	Unit 9, Listening 2 : Listening for past & present time signals, identifying word families					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
12	Unit 9, Speaking : asking for more information, pronouncing “-ed” endings					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
13	Unit 10, Listening 1 : lexis: career fairs, listening to lists					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
14	Unit 10, Listening 2 : listening for the structure of a talk, future time markers					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
15	Unit 10, Speaking : introducing a talk, separating thought groups w/pauses					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習	
教本： Skillful Listening & Speaking 1 (MacMillan 出版)					参考文献： 適宜、授業内で紹介予定。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点 (20%)、課題 (15%)、学期内に複数回実施するリスニングテスト (25%)、定期試験 (40%) を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席をせず、復習や課題をしっかりと行うことが必要です。テキストは毎回必ず持参し、英語読解力を養うために継続的な学習が必要になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	英 語 学 概 論 A (English Linguistics A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 部 佑 人								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 : 音 声 ・ 単 語 ・ 文 法 ・ 意 味 等 , 様 々 な 観 点 か ら 英 語 学 について 講 義 する 。 ひ と つ ひ と つ の テ ー マ が 明 確 に 分 か れ ば , 英 語 学 が 狙 い と し て い る も の が 見 え て く る と 考 え る 。									
授 業 目 標 : 受 講 者 は 英 語 学 的 な 観 点 か ら 物 事 が 分 析 可 能 に な る こ と を 目 標 と する 。 英 語 学 と は 何 か を 理 解 可 能 に する こ と が テ ー マ である 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ , 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画 , 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 , 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction					事 前 : な し 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
2	音 声 学					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
3	音 韻 論					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
4	形 態 論 (1) 接 辞 及 び 語 幹					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
5	形 態 論 (2) か ば ん 語 な ど					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
6	形 態 論 (3) そ の 他 の 形 態 論					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
7	統 語 論 (1) 学 校 文 法					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
8	統 語 論 (2) 構 造 言 語 学					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
9	統 語 論 (3) 変 形 生 成 文 法 な ど					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
10	統 語 論 (4) コ ー バ ス 言 語 学 な ど					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
11	意 味 論 (1) 日 本 語 訳 を す る に あ た っ て					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
12	意 味 論 (2) 意 味 の 多 様 性					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
13	語 用 論 (1) 語 用 論 と は 何 か					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
14	語 用 論 (2) 実 際 に 語 用 論 を 用 い て 考 え る					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
15	形 態 論 ・ 統 語 論 ・ 意 味 論 ・ 語 用 論 の 総 ま と め					事 前 : ノ ー ト ま と め 事 後 : ノ ー ト を 読 み か え す		講 義	
教 本 : 『 新 え い ご ・ エ イ ゴ ・ 英 語 学 』 稲 木 昭 子 ・ 堀 田 知 子 ・ 沖 田 知 子 著 松 柏 社					参 考 文 献 : 授 業 中 に 適 宜 資 料 を 配 布 及 び 紹 介 する 。 特 に BBC News な ど の イン タ ー ネ ッ ト を 用 い て 無 料 で 学 習 可 能 な 教 材 を い く つ か 紹 介 し , 利 用 報 告 を し て も ら う 。				
成 績 評 価 の 方 法 , 評 価 基 準 : 定 期 試 験 (80%) , 毎 回 の 授 業 後 の レ ポ ー ト 等 (20%) で 総 合 評 価 する 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : よ く ノ ー ト を 取 る よ う に し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ます 。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	英語学概論B (English Linguistics B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 英語学とは何かということを説明する。そして、その英語学的な視点から物事を分析できるようになる。そのためには、ノートをしっかり取ることが重要です。</p>									
<p>授業目標： 受講者は英語学的な観点から物事が分析できるようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
2	世界の英語					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
3	英語史(1) 古英語					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
4	英語史(2) 中英語					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
5	英語史(3) 近代英語					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
6	英語史(4) 現代英語					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
7	英語の語源について					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
8	学生発表(1) まず発表					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
9	現代の英語学					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
10	社会言語学					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
11	学生発表(2) ノートの取り方を含む					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
12	コンピュータと英語学(1) BNC corpus					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
13	コンピュータと英語学(2) COHA, COCA など					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
14	学生発表(3)					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
15	世界の英語・英語史・現代の英語・社会言語学の総まとめ					事前：なし 事後：ノートを読みかえす		講義	
<p>教本： 『新 えいご・エイゴ・英語学』 稲木昭子・堀田知子・沖田知子著 松柏社</p>					<p>参考文献： 授業中に適宜資料を配布及び紹介する。特に、Dictionary.comなどのインターネットを用いて無料で学習できる教材をいくつか紹介し、実際に利用報告をしてもらう。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 定期試験（80%）、毎回の授業の最後のレポート等（20%）で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： よくノートを取るようになしてください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語コミュニケーションⅠ (English Communication I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 1. 保育園、幼稚園についての理解を深めます。 2. 日常生活で必要とされる英語表現を習得します。									
授業目標： 英語コミュニケーションⅠで習得した英語力を基礎に、英語による表現力をさらに高めることを目標にします。テキストは保育園や幼稚園だけでなく、日常生活にも関係する場面も扱っています。英語が必要な状況になった時にコミュニケーションが円滑にできる英語力を養います。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
2	Unit 1 What's your name?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
3	Unit 1 What's your name?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
4	Unit 2 Where are you from?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
5	Unit 2 Where are you from?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
6	Unit 3 Good morning!					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
7	Unit 3 Good morning!					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
8	Unit 4 Are you OK?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
9	Unit 4 Are you OK?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
10	Unit 5 What are you doing?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
11	Unit 5 What are you doing?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
12	Unit 6 How are you feeling?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
13	Unit 6 How are you feeling?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
14	Unit 7 What's she like?					事前：テキストの予習 事後：授業の復習		演習	
15	Unit 7 What's she like?					事前：テキストの予習 事後：前期の復習		演習	
教本： <i>Speaking of Childcare</i> (NAN'UN-DO)					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 多くの機会を利用して、英語に触れるように努めてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅱ (English Communication Ⅱ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
1. 保 育 園、幼 稚 園 に つ い て の 理 解 を 深 め ま す。 2. 日 常 生 活 で 必 要 と さ れ る 英 語 表 現 を 習 得 し ま す。									
授 業 目 標 :									
英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅰ で 習 得 し た 英 語 力 を 基 礎 に、英 語 に よ る 表 現 力 を さ ら に 高 め る こ と を 目 標 に し ま す。テ キ ス ト は 保 育 園 や 幼 稚 園 だ け で な く、日 常 生 活 に も 関 係 す る 場 面 も 扱 っ て い ま す。英 語 が 必 要 な 状 況 に な っ た 時 に コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン が 円 滑 に で き る 英 語 力 を 養 い ま す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 8 Do's and don'ts					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
2	Unit 8 Do's and don'ts					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
3	Unit 9 Let's eat lunch!					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
4	Unit 9 Let's eat lunch!					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
5	Unit 10 What do you want to do?					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
6	Unit 10 What do you want to do?					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
7	Unit 11 What do you have to do?					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
8	Unit 11 What do you have to do?					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
9	Unit 12 I need to go potty.					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
10	Unit 12 I need to go potty.					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
11	Unit 13 Good job!					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
12	Unit 13 Good job!					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
13	Unit 14 Injuries and emergencies					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
14	Unit 14 Injuries and emergencies					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		演 習	
15	Unit 15 We're going to go outside					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 前 期 の 復 習		演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
<i>Speaking of Childcare</i> (NAN'UN-DO)									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
多 く の 機 会 を 利 用 し て、英 語 に 触 れ る よ う に 努 め て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語コミュニケーションⅢ (English Communication Ⅲ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	倉崎 祥子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	子ども学科の学生のみ履修できます。							
授業概要： 英語を使って円滑にコミュニケーションがはかれるように、様々な場面や状況を想定し、その場に応じた適切で活用度の高い語彙や慣用表現を多く学ぶ。									
授業目標： 文法や発音についての基本的な知識を確実にし、英語の読解力や表現力を高める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入授業（授業の概要や進め方、評価方法等についての説明）					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
2	Karaoke					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
3	Be 動詞と一般動詞					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
4	The Survivor					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
5	否定文					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
6	Roommates					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
7	疑問文					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
8	Take Me Out to the Free Ball Game					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
9	助動詞					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
10	Cool Biz					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
11	第1文型と第2文型					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
12	Names on the Land					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
13	第3文型と第4文型					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
14	Working from Home					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
15	まとめ（復習・その他）					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
教本： Let's Enjoy English Tetuzou Sato 他著					参考文献： 授業時に随時、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 英語への理解を深めるために、英英辞典も活用してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英語コミュニケーションⅣ (English Communication Ⅳ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	倉 崎 祥 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	子 ども 学 科 の 学 生 の み 履 修 で き ます 。							
授 業 概 要 :									
コミュニケーションや読解に必要とされる文法や表現力の基礎を固め、講読、速読等も通して活用度の高い英語表現を多く学習する。									
授 業 目 標 :									
状況や目的に応じて適切な英語表現が出来る語学力を養成する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	導入授業					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
2	Hawaii and the Aloha Spirit					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
3	進行形					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
4	Football					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
5	受動態					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
6	Wedding Anniversaries and Family Harmony					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
7	第5文型					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
8	Japanese Food					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
9	完了形					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
10	No Red Pandas, Please					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
11	動名詞					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
12	Please Don't Talk and Drive					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
13	不定詞					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
14	分詞構文					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
15	まとめ					事前：単語と文法の予習 事後：学習事項の確認・整理		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Let's Enjoy English Tetuzou Sato 他著					授 業 時 に 随 時 紹 介 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。									
授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
英 語 へ の 理 解 を 深 め る た め に、英 英 辞 典 も 活 用 し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語スピーキング I (English Speaking I)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	ELEC									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 英語スピーキングの授業では、ロールプレイやディスカッション等のアクティビティを通してスピーキングのスキルを伸ばし、英語で基本的なコミュニケーションが取れるようになることを目指します。										
授業目標： 日常生活に関わる身近なトピックについて、英語で説明することができるようになる。 簡単なディスカッションや質疑応答などのやり取りを英語でできるようになる。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Unit 1, Listening : lexis: introducing oneself, listening for the main idea					事前：none 事後：本時の復習（課題含）		演習		
2	Unit 1, Speaking 1 : forming plurals, pronouncing plural endings					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
3	Unit 1, Speaking 2 : the verb "be", asking for repetition, speaking task					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
4	Unit 2, Listening : lexis: family, listening for details					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
5	Unit 2, Speaking 1 : organizing words, possessive adjectives					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
6	Unit 2, Speaking 2 : syllables, follow-up questions, speaking task					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
7	Unit 3, Listening: lexis : important items, activating prior knowledge					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
8	Unit 3, Speaking 1 : possessive pronouns					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
9	Unit 3, Speaking 2 : word stress, asking what something is called, speaking task					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
10	Unit 4, Listening : lexis: shopping, listening for numbers					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
11	Unit 4, Speaking 1 : using synonyms, demonstrative pronouns					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
12	Unit 4, Speaking 2 : intonation in questions, talking about prices, speaking task					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
13	Unit 5, Listening : lexis: taste & texture, listening to people's favourite snacks					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
14	Unit 5, Speaking 1 : changing nouns to adjectives by adding "-y"					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
15	Unit 5, Speaking 2 : asking for clarification, sentence stress, speaking task					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
教本： Skillful Listening & Speaking Foundation (MacMillan 出版)					参考文献： 適宜、授業内で紹介予定。					
成績評価の方法、評価基準： 平常点 (20%)、課題 (15%)、学期内に複数回実施するスピーキングテスト (25%)、定期試験 (40%) を総合して評価します。										
学生へのアドバイス： スピーキングの授業では積極的な発言が求められます。欠席をしないことは勿論、ペアやグループのアクティビティにも積極的に参加してください。テキストは毎回必ず持参してください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語スピーキングⅡ (English Speaking Ⅱ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	ELEC									
履 修 条 件	前提科目	英語スピーキングⅠ								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>英語スピーキングの授業では、ロールプレイやディスカッション等のアクティビティを通してスピーキングのスキルを伸ばし、英語で基本的なコミュニケーションが取れるようになることを目指します。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>日常生活に関わる身近なトピックについて、英語で説明することができるようになる。 簡単なディスカッションや質疑応答などのやり取りを英語でできるようになる。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Unit 6, Listening : lexis: hobbies, making inferences					事前：none 事後：本時の復習（課題含）		演習		
2	Unit 6, Speaking 1 : collocating with "go", "play" & "do", time prepositions					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
3	Unit 6, Speaking 2 : reacting appropriately, intonation patterns in reactions, speaking tasks					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
4	Unit 7, Listening : lexis: places, listening for and following directions					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
5	Unit 7, Speaking 1 : writing definitions, "can"					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
6	Unit 7, Speaking 2 : order sequence signal words, linking sounds, speaking task					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
7	Unit 8, Listening: lexis : television programmes , listening to confirm predictions					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
8	Unit 8, Speaking 1 : recognizing homophones, "so" & "neither"					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
9	Unit 8, Speaking 2 : expressing likes & dislikes, stress in responses, speaking task					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
10	Unit 9, Listening : lexis: household chores, listening for reasons					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
11	Unit 9, Speaking 1 : forming compound nouns, verb + infinitive					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
12	Unit 9, Speaking 2 : reduction of "have to", making, accepting & declining invitations, speaking task					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
13	Unit 10, Listening : lexis: festival holidays, listening to people discuss festival customs					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
14	Unit 10, Speaking 1 : identifying word families, quantifiers					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
15	Unit 10, Speaking 2 : reduction of "of" after quantifiers, summarizing information, speaking task					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
<p>教本：</p> <p>Skillful Listening & Speaking Foundation (MacMillan 出版)</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜、授業内で紹介予定。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>平常点 (20%)、課題 (15%)、学期内に複数回実施するスピーキングテスト (25%)、定期試験 (40%) を総合して評価します。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>スピーキングの授業では積極的な発言が求められます。欠席をしないことは勿論、ペアやグループのアクティビティにも積極的に参加してください。テキストは毎回必ず持参してください。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 通 訳 I (English Interpretation I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>国際化が進む中、旅行やビジネス、日常生活において外国人と接する機会が増えている。この授業では、実際に想定されるそれぞれの会話の場面においてよく用いられる英語表現を学びながら、逐次通訳の練習を行う。これによって、これらの場面における実用初級レベルの英日・日英の逐次通訳ができる能力を身につける。英語ニュースの通訳では、比較的ゆっくりした速度の英語ニュースを聞き、日本語に逐次通訳する練習をする。ニュースは毎回、新しい話題をテーマにした30秒程度のものを取り上げる。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>旅行等における日常会話の逐次英語通訳能力 (英日・日英) および英語ニュースの逐次通訳能力 (英日) の修得。レベルは実用初級レベル。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction : 授 業 の 進 め 方 と 授 業 概 要 の 説 明					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
2	Conversation (英日・日英逐次通訳) Riding a Train English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
3	Conversation (英日・日英逐次通訳) Riding a Train English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
4	Conversation (英日・日英逐次通訳) Taking an Airplane English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
5	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Ryokan English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
6	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Ryokan English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
7	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Hotel English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
8	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Tourist Info Center English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
9	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Tourist Info Center English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
10	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Travel Agency 小テスト (30分、範囲は1~10で学習したところ)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
11	Conversation (英日・日英逐次通訳) At a Travel Agency English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事 前 : な し 事 後 : 復 習		演 習	
12	Conversation (英日・日英逐次通訳) Sightseeing English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
13	Conversation (英日・日英逐次通訳) Sightseeing English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
14	Conversation (英日・日英逐次通訳) Sightseeing English News (英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
15	Summary : 重 要 な ポ イ ン ト の 説 明 と 全 体 の ま と め					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教科書は使用しない。プリントを配付する。					適宜、紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (小テスト、受講態度等) (50%) と 定 期 試 験 (50%) で 総 合 的 に 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 英 語 の 基 礎 を 修 得 し て い る こ と が 望 ま し い。毎 回 出 席 す る よ う 努 め よ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 通 訳 Ⅱ (English Interpretation Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>国際化が進む中、旅行やビジネス、日常生活において外国人と接する機会が増えている。この授業では、実際に想定されるそれぞれの会話の場面においてよく用いられる英語表現を学びながら、逐次通訳の練習を行う。これによって、これらの場面における実用中級レベルの英日・日英の逐次通訳ができる能力を身につける。</p> <p>英語ニュースの通訳では、ナチュラルスピードに近い英語ニュースを聞き、日本語に逐次通訳する練習をする。ニュースは毎回、新しい話題をテーマにした30秒程度のものを取り上げる。</p>									
授 業 目 標 :									
旅行、ビジネス等における会話の逐次英語通訳能力（英日・日英）および英語ニュースの逐次通訳能力（英日）の修得。レベルは実用中級レベル。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 （ 最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	Introduction：授業の進め方と授業概要の説明					事前：— 事後：復習		演習	
2	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Restaurant English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：復習		演習	
3	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Restaurant English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：復習		演習	
4	Conversation（英日・日英逐次通訳）At a Restaurant English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：復習		演習	
5	Conversation（英日・日英逐次通訳）Shopping English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：復習		演習	
6	Conversation（英日・日英逐次通訳）Shopping English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：復習		演習	
7	Conversation（英日・日英逐次通訳）Shopping English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：復習		演習	
8	Conversation（英日・日英逐次通訳）In the Office English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：復習		演習	
9	Conversation（英日・日英逐次通訳）In the Office English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：復習		演習	
10	Conversation（英日・日英逐次通訳）In the Office 小テスト（30分、範囲は1～10で学習したところ）					事前：— 事後：復習		演習	
11	Conversation（英日・日英逐次通訳）On the Street English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：復習		演習	
12	Conversation（英日・日英逐次通訳）Accidents and Emergency English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：復習		演習	
13	Conversation（英日・日英逐次通訳）Accidents and Emergency English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：復習		演習	
14	Conversation（英日・日英逐次通訳）Accidents and Emergency English News（英日逐次通訳、毎回話題を変えて練習）					事前：— 事後：復習		演習	
15	Summary：重要なポイントの説明と全体のまとめ					事前：— 事後：復習		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教科書は使用しない。プリントを配付する。					適宜、紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点（小テスト、受講態度等）（50%）と定期試験（50%）で総合的に評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
英語の基礎を修得していることが望ましい。毎回出席するよう努めよう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語プレゼンテーションA (English Presentation A)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	ELEC									
履 修 条 件	前提科目	基礎的なスピーキングの力があることを前提とします。英語スピーキングⅠ、Ⅱの履修を推奨します。								
	その他	なし								
授業概要： 様々なテーマに沿った英語でのプレゼンテーションを行うことで、英語で論理的な構成ができるようになり、学術的な内容に対しても分かりやすく話したり、質疑応答をしたりできるようになることを目指します。										
授業目標： スピーチの技法を体系的に学び、学術的なプレゼンテーションを作成できるようになる。 スピーチの準備として、英文エッセイを書き、個人やグループでのリハーサルを行えるようにする。 積極的に授業に参加し、毎週様々なトピックについて発言できるようにする。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Introduction to presentations 1 : introductions, brainstorming					事前：none 事後：本時の復習（課題含）		演習		
2	Unit 1-1 : topic focus: friends, lexis: personalities & interests					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
3	Unit 1-2 : introduction & conclusion					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
4	Unit 1-3 : note cards, eye contact					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
5	Unit 1-4 : practice presentation: presentation about a friend					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
6	Unit 2-1 : mini presentation 1, topic focus: a favourite place, lexis: place descriptions					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
7	Unit 2-2 : opener: general statements about people, closer: invitation					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
8	Unit 2-3 : gestures for descriptions, body language: posture & hand gesture					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
9	Unit 2-4 : practice presentation: presentation about a favourite place					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
10	Unit 3-1 : mini presentation 2, topic focus: prized possessions, lexis: describing objects					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
11	Unit 3-2 : opener: a question, closer: emphasise why something is special					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
12	Unit 3-3 : showing a possession, show-and-tell expressions					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
13	Unit 3-4 : practice presentation: presentation about a prized possession					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
14	Final presentation preparation: mini presentation 3, final presentation preparation					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
15	Final presentations (followed by feedback)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
教本： Present Yourself 1, 2nd edition (Cambridge 出版)					参考文献： 適宜、授業内で紹介予定。					
成績評価の方法、評価基準： 平常点 (20%)、各Unitのミニ・プレゼンテーション (20%)、期末プレゼンテーション (35%)、期末筆記試験 (25%) を総合して評価します。										
学生へのアドバイス： プレゼンテーションを行うにあたっては、欠席をしないことは勿論、復習や課題をしっかりと行うことが必要になります。テキストは毎回必ず持参してください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語プレゼンテーションB (English Presentation B)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	ELEC									
履 修 条 件	前提科目	英語プレゼンテーションA								
	その他	なし								
授業概要： 様々なテーマに沿った英語でのプレゼンテーションを行うことで、英語で論理的な構成ができるようになり、学術的な内容に対しても分かりやすく話したり、質疑応答をしたりできるようになることを目指します。										
授業目標： スピーチの技法を体系的に学び、学術的なプレゼンテーションを作成できるようになる。 スピーチの準備として、英文エッセイを書き、個人やグループでのリハーサルを行えるようにする。 積極的に授業に参加し、毎週様々なトピックについて発言できるようにする。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Unit 4-1 : topic focus: experiences, lexis: describing experiences & feelings					事前：none 事後：本時の復習(課題含)		演習		
2	Unit 4-2 : opener: mystery list, topic statement & preview, closer: "pass the mike"					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
3	Unit 4-3 : using your voice, using stress to emphasize intensifiers					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
4	Unit 4-4 : practice presentation: presentation about a memorable experience					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
5	Unit 5-1 : mini presentation 4, topic focus: skills & talents, lexis: skills					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
6	Unit 5-2 : opener: problem-raising questions, closer: call to action					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
7	Unit 5-3 : gestures for actions, checking understanding					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
8	Unit 5-4 : practice presentation: demonstrate how to do or make something					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
9	Unit 6-1 : mini presentation 5, topic focus: television, lexis: describing programmes					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
10	Unit 6-2 : opener: interesting facts, closer: recommendation					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
11	Unit 6-3 : sentence stress, phrasing with pauses					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
12	Unit 6-4 : practice presentation: review a movie or TV show you have seen					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
13	Asking and answering questions					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
14	Final presentation preparation: mini presentation 6, final presentation preparation:					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
15	Final presentations (followed by feedback)					事前：前時の復習(課題含) 事後：本時の復習(課題含)		演習		
教本： Present Yourself 1, 2nd edition (Cambridge 出版)					参考文献： 適宜、授業内で紹介予定。					
成績評価の方法、評価基準： 平常点 (20%)、各Unitのミニ・プレゼンテーション (20%)、期末プレゼンテーション (35%)、期末筆記試験 (25%) を総合して評価します。										
学生へのアドバイス： プレゼンテーションを行うにあたっては、欠席をしないことは勿論、復習や課題をしっかりと行うことが必要になります。テキストは毎回必ず持参してください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 プレゼンテーション C (English Presentation C)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
英語スピーキングの授業では、ロールプレイやディスカッション等のアクティビティを通してスピーキングのスキルを伸ばし、英語で基本的なコミュニケーションが取れるようになることを目指します。									
授 業 目 標 :									
日常生活に関わる身近なトピックについて、英語で説明することができるようになる。 簡単なディスカッションや質疑応答などのやり取りを英語でできるようになる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Unit 1, Listening : lexis: introducing oneself, listening for the main idea					事前 : none 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
2	Unit 1, Speaking 1 : forming plurals, pronouncing plural endings					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
3	Unit 1, Speaking 2 : the verb "be", asking for repetition, speaking task					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
4	Unit 2, Listening : lexis: family, listening for details					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
5	Unit 2, Speaking 1 : organizing words, possessive adjectives					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
6	Unit 2, Speaking 2 : syllables, follow-up questions, speaking task					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
7	Unit 3, Listening : lexis: important items, activating prior knowledge					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
8	Unit 3, Speaking 1 : possessive pronouns					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
9	Unit 3, Speaking 2 : word stress, asking what something is called, speaking task					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
10	Unit 4, Listening : lexis: shopping, listening for numbers					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
11	Unit 4, Speaking 1 : using synonyms, demonstrative pronouns					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
12	Unit 4, Speaking 2 : intonation in questions, talking about prices, speaking task					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
13	Unit 5, Listening : lexis: taste & texture, listening to people's favourite snacks					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
14	Unit 5, Speaking 1 : changing nouns to adjectives by adding "-y"					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
15	Unit 5, Speaking 2 : asking for clarification, sentence stress, speaking task					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
Skillful Listening & Speaking Foundation (MacMillan 出版)					適 宜、授 業 内 で 紹 介 予 定。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平 常 点 (20%)、課 題 (15%)、学 期 内 に 複 数 回 実 施 す る ス ピ ー キ ン グ テ ス ト (25%)、定 期 試 験 (40%) を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
ス ピ ー キ ン グ の 授 業 で は 積 極 的 な 発 言 が 求 め ら れ ま す。欠 席 を し な い こ と は 勿 論、ベ ア グ ル ー プ の ア ク テ ィ ビ テ ィ に も 積 極 的 に 参 加 し て く だ さ い。テ キ ス ト は 毎 回 必 ず 持 参 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	英 語 文 学 I (English Literature I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
授 業 で は 文 学 作 品 を 材 料 に、 内 容 を 理 解 す る た め の 設 問、 文 法 力 の 定 着 を 図 る 問 題、 リ ス ニ ン グ 力 を 向 上 さ せ る 練 習 問 題 に よ っ て、 様 々 な 英 語 表 現 の 習 得、 作 品 理 解、 多 様 な 文 化 の 理 解 を 図 る。									
授 業 目 標 :									
イ ギ リ ス、 ア メ リ カ を 代 表 す る 作 家 の 作 品 の 講 読 ・ 鑑 賞 を 通 じ て、 読 解 力 を 向 上 さ せ、 多 様 な 英 語 表 現 を 学 ぶ こ と を 目 標 と す る。 併 せ て、 そ れ ぞ れ の 作 家 や 作 品 に つ い て、 時 代 的、 社 会 的、 文 化 的 背 景 を 学 ぶ こ と に よ っ て、 多 様 な 文 化 へ の 理 解 を 深 め る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 進 め 方 に つ い て の 説 明					事 前 : シ ラ バ ス の 熟 読 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
2	『 動 物 農 場 』 の 講 読					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
3	『 動 物 農 場 』 に 関 す る 練 習 問 題					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
4	『 開 い た 窓 』 の 講 読					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
5	『 開 い た 窓 』 に 関 す る 練 習 問 題					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
6	『 アン ク ル ト ム の 小 屋 』 の 講 読					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
7	『 アン ク ル ト ム の 小 屋 』 に 関 す る 練 習 問 題					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
8	中 間 テ ス ト					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
9	『 理 想 の 家 族 』 の 講 読					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
10	『 理 想 の 家 族 』 に 関 す る 練 習 問 題					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
11	『 人 間 喜 劇 』 の 講 読					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
12	『 人 間 喜 劇 』 に 関 す る 練 習 問 題					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
13	『 ア メ リ カ の 息 子 』 の 講 読					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
14	『 ア メ リ カ の 息 子 』 に 関 す る 練 習 問 題					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
15	ま と め					事 前 : 前 時 間 の 授 業 の 復 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『 英 米 文 学 総 合 演 習 』 (三 修 社)					授 業 中 に 適 宜 資 料 を 配 布 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、 定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
常 に 世 界 の 出 来 事 に 関 心 を 持 ち、 積 極 的 に 授 業 に 参 加 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	英 語 文 学 II (English Literature II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	阿 部 美 恵								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
授 業 で は 文 学 作 品 を 材 料 に、 内 容 を 理 解 す る た め の 設 問、 文 法 力 の 定 着 を 図 る 問 題、 リ ス ニ ン グ 力 を 向 上 さ せ る 練 習 問 題 に よ っ て、 様 々 な 英 語 表 現 の 習 得、 作 品 理 解、 多 様 な 文 化 の 理 解 を 図 る。									
授 業 目 標 :									
イ ギ リ ス、 ア メ リ カ を 代 表 す る 作 家 の 作 品 の 講 読 ・ 鑑 賞 を 通 じ て、 読 解 力 を 向 上 さ せ、 多 様 な 英 語 表 現 を 学 ぶ こ と を 目 標 と す る。 併 せ て、 そ れ ぞ れ の 作 家 や 作 品 に つ い て、 時 代 的、 社 会 的、 文 化 的 背 景 を 学 ぶ こ と に よ っ て、 多 様 な 文 化 へ の 理 解 を 深 め る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	『このだらしなさを見てほしい』の講読					事前：シラバスの熟読 事後：授業の復習		講義	
2	『このだらしなさを見てほしい』に関する練習問題					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
3	『トム・ソーヤの冒険』の講読					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
4	『トム・ソーヤの冒険』に関する練習問題					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
5	『息子と恋人たち』の講読					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
6	『息子と恋人たち』に関する練習問題					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
7	中間テスト					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
8	『感謝祭の二人の紳士』の講読					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
9	『感謝祭の二人の紳士』に関する練習問題					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
10	『誰ために鐘は鳴る』の講読					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
11	『誰ために鐘は鳴る』に関する練習問題					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
12	『白鯨』の講読					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
13	『白鯨』に関する練習問題					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
14	世界文学について					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
15	まとめ					事前：前時間の授業の復習 事後：授業の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『英米文学総合演習』(三修社)					授 業 中 に 適 宜 資 料 を 配 布 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、 定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
常 に 世 界 の 出 来 事 に 関 心 を 持 ち、 積 極 的 に 授 業 に 参 加 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語ライティング I (English Writing I)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	ELEC									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 既習および新出の英語彙や英文法を使いながら、一般的で親しみやすいテーマについての英文（パラグラフ）を書く力をつけていくことを目指します。英文の構造や組み立て方を学び、繰り返し取り組むことを通して、ライティングスキルを身につけます。										
授業目標： 1. 基本的な英語彙や英文法を学習し、ライティングを通して、使いながら身につける。 2. 一般的なテーマについて、ある程度まとまったオリジナルの英文を書けるようになる。 3. 自分や他者が書いた英文を添削し、よりよい英文に仕上げるスキルを学ぶ										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Course Orientation – going through the syllabus, materials Pre-unit : Readiness (reviewing basic words, sentences)					事前：none 事後：本時の復習（課題含）		演習		
2	Unit 1 : People, Chapter 1) Who are you? (vocabulary related to describing self, I am + adj, I + V)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
3	Unit 1 : People, Chapter 1) Who are you? (Using 'and', writing a paragraph about yourself (draft))					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
4	Unit 1: People, Chapter 1) Who are you? (Formatting a paragraph, re-writing a paragraph about yourself)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
5	Unit 1 : People, Chapter 2) What describes your family? (vocabulary to describe family, we + V, they + V)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
6	Unit 1 : People, Chapter 2) What describes your family? (using we/our & they/their, paragraph about family (draft))					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
7	Unit 1 : People, Chapter 2) What describes your family? (plural nouns with 's', re-writing paragraph)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
8	Unit 1 : People, Chapter 3) Who is a good friend? (vocabulary to describe friends, he/she is + adj, he/she + V)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
9	Unit 1 : People, Chapter 3) Who is a good friend? (writing a topic sentence with adj, paragraph about a friend (draft))					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
10	Unit 1 : People, Chapter 3) Who is a good friend? (checking for 's' with 2 verbs, re-writing paragraph)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
11	Unit 2 : Geography, Chapter 4) What does your country look like? (vocabulary to describe your country, plural nouns)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
12	Unit 2 : Geography, Chapter 4) What does your country look like? (using there are + n, paragraph about your country)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
13	Unit 2 : Places, Chapter 4) What does your country look like? (using capital letters for places, re-writing paragraph)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
14	Unit 2 : Places, Chapter 5) What is your favorite city? (vocabulary to describe favorite city, singular count nouns)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
15	Review for End-of-Term Exam					事前：Semester 1 revision 事後：Exam preparation		演習		
教本： TRIO Writing 1 (Oxford 出版)					参考文献： 適宜、授業内で紹介予定					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点25%、課題およびパフォーマンス25%、定期試験50%を総合して評価します。										
学生へのアドバイス： 初めて英語のライティングに取り組む学生でも授業に取り組むことができるように進めていきます。欠席をせず、復習や課題をしっかりと行うことが必要です。テキストは毎回必ず持参し、継続的な学習が必要になります。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語ライティングⅡ (English Writing II)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 既習および新出の英語彙や英文法を使いながら、一般的で親しみやすいテーマについての英文（パラグラフ）を書く力をつけていくことを目指します。英文の構造や組み立て方を学び、繰り返し取り組むことを通して、ライティングスキルを身につけます。									
授業目標： 1. 基本的な英語彙や英文法を学習し、ライティングを通して、使いながら身につける。 2. 一般的なテーマについて、ある程度まとまったオリジナルの英文を書けるようになる。 3. 自分や他者が書いた英文を添削し、よりよい英文に仕上げるスキルを学ぶ									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 2 : Geography, Chapter 5) What is your favorite city? (simple sentences with 'and', paragraph about a city (draft))					事前：none 事後：本時の復習（課題含）		演習	
2	Unit 2 : Geography, Chapter 5) What is your favorite city? (prepositional phrases, re-write paragraph)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
3	Unit 2 : Geography, Chapter 6) Who is a good traveler? (Vocabulary to describe a good traveler, 'always' 'often' etc.)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
4	Unit 2 : Geography, Chapter 6) Who is a good traveler? (compound sentences with 'and', paragraph about travelers)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
5	Unit 2 : Geography, Chapter 6) Who is a good traveler? (re-write a paragraph about a good traveler)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
6	Unit 3 : Money, Chapter 7) Who gets a good deal? (vocabulary to describe a good deal, does not + V, V + about)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
7	Unit 3 : Money, Chapter 7) Who gets a good deal? (compound sentences with 'but', using 'for example', paragraph draft)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
8	Unit 3 : Money, Chapter 7) Who gets a good deal? (re-writing a paragraph about someone who gets a good deal)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
9	Unit 3 : Money, Chapter 8) What is your favorite restaurant? (vocabulary to describe restaurants, do not + V, the + nouns)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
10	Unit 3 : Money, Chapter 8) What is your favorite restaurant? (compound sentences with 'so', paragraph (draft))					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
11	Unit 3 : Money, Chapter 8) What is your favorite restaurant? (using 'first' etc., re-write paragraph about restaurant)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
12	Unit 3 : Money, Chapter 9) Where do you want to go? (vocabulary to describe travel plans, want to + V)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
13	Unit 3 : Money, Chapter 9) Where do you want to go? (using 'right now', paragraph about a place to visit (draft))					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
14	Unit 3 : Money, Chapter 9) Where do you want to go? (using 'right now', re-write paragraph about travel plans)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
15	Review for end-of-term exam					事前：Semester 2 revision 事後：Exam preparation		演習	
教本： TRIO Writing 1 (Oxford 出版)					参考文献： 適宜、授業内で紹介予定				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点25%、課題およびパフォーマンス25%、定期試験50%を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 初めて英語のライティングに取り組む学生でも授業に取り組むことができるように進めていきます。欠席をせず、復習や課題をしっかりと行うことが必要です。テキストは毎回必ず持参し、継続的な学習が必要になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語ライティング A (English Writing A)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 既習および新出の英語彙や英文法を使いながら、一般的で親しみやすいテーマについての英文（パラグラフ）を書く力をつけていくことを目指します。英文の構造や組み立て方を学び、繰り返し取り組むことを通して、ライティングスキルを身につけます。									
授業目標： 1. 基本的な英語彙や英文法を学習し、ライティングを通して、使いながら身につける。 2. 一般的なテーマについて、ある程度まとまったオリジナルの英文を書けるようになる。 3. 自分や他者が書いた英文を添削し、よりよい英文に仕上げるスキルを学ぶ									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Course Orientation – going through the syllabus, materials Pre-unit : Readiness (reviewing basic words, sentences)					事前：none 事後：本時の復習（課題含）		演習	
2	Unit 1 : People, Chapter 1) Who are you? (vocabulary related to describing self, I am + adj, I + V)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
3	Unit 1 : People, Chapter 1) Who are you? (Using 'and', writing a paragraph about yourself (draft))					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
4	Unit 1: People, Chapter 1) Who are you? (Formatting a paragraph, re-writing a paragraph about yourself)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
5	Unit 1 : People, Chapter 2) What describes your family? (vocabulary to describe family, we + V, they + V)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
6	Unit 1 : People, Chapter 2) What describes your family? (using we/our & they/their, paragraph about family (draft))					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
7	Unit 1 : People, Chapter 2) What describes your family? (plural nouns with 's', re-writing paragraph)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
8	Unit 1 : People, Chapter 3) Who is a good friend? (vocabulary to describe friends, he/she is + adj, he/she + V)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
9	Unit 1 : People, Chapter 3) Who is a good friend? (writing a topic sentence with adj, paragraph about a friend (draft))					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
10	Unit 1 : People, Chapter 3) Who is a good friend? (checking for 's' with 2 verbs, re-writing paragraph)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
11	Unit 2 : Geography, Chapter 4) What does your country look like? (vocabulary to describe your country, plural nouns)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
12	Unit 2 : Geography, Chapter 4) What does your country look like? (using there are + n, paragraph about your country)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
13	Unit 2 : Places, Chapter 4) What does your country look like? (using capital letters for places, re-writing paragraph)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
14	Unit 2 : Places, Chapter 5) What is your favorite city? (vocabulary to describe favorite city, singular count nouns)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
15	Review for End-of-Term Exam					事前：Semester 1 revision 事後：Exam preparation		演習	
教本： TRIO Writing 1 (Oxford 出版)					参考文献： 適宜、授業内で紹介予定				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点25%、課題およびパフォーマンス25%、定期試験50%を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 初めて英語のライティングに取り組む学生でも授業に取り組むことができるように進めていきます。欠席をせず、復習や課題をしっかりと行うことが必要です。テキストは毎回必ず持参し、継続的な学習が必要になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語ライティングB (English Writing B)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	ELEC									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 既習および新出の英語彙や英文法を使いながら、一般的で親しみやすいテーマについての英文（パラグラフ）を書く力をつけていくことを目指します。英文の構造や組み立て方を学び、繰り返し取り組むことを通して、ライティングスキルを身につけます。										
授業目標： 1. 基本的な英語彙や英文法を学習し、ライティングを通して、使いながら身につける。 2. 一般的なテーマについて、ある程度まとまったオリジナルの英文を書けるようになる。 3. 自分や他者が書いた英文を添削し、よりよい英文に仕上げるスキルを学ぶ										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Unit 2 : Geography, Chapter 5) What is your favorite city? (simple sentences with 'and', paragraph about a city (draft))					事前：none 事後：本時の復習（課題含）		演習		
2	Unit 2 : Geography, Chapter 5) What is your favorite city? (prepositional phrases, re-write paragraph)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
3	Unit 2 : Geography, Chapter 6) Who is a good traveler? (Vocabulary to describe a good traveler, 'always' 'often' etc.)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
4	Unit 2 : Geography, Chapter 6) Who is a good traveler? (compound sentences with 'and', paragraph about travelers)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
5	Unit 2 : Geography, Chapter 6) Who is a good traveler? (re-write a paragraph about a good traveler)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
6	Unit 3 : Money, Chapter 7) Who gets a good deal? (vocabulary to describe a good deal, does not + V, V + about)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
7	Unit 3 : Money, Chapter 7) Who gets a good deal? (compound sentences with 'but', using 'for example', paragraph draft)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
8	Unit 3 : Money, Chapter 7) Who gets a good deal? (re-writing a paragraph about someone who gets a good deal)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
9	Unit 3 : Money, Chapter 8) What is your favorite restaurant? (vocabulary to describe restaurants, do not + V, the + nouns)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
10	Unit 3 : Money, Chapter 8) What is your favorite restaurant? (compound sentences with 'so', paragraph (draft))					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
11	Unit 3 : Money, Chapter 8) What is your favorite restaurant? (using 'first' etc., re-write paragraph about restaurant)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
12	Unit 3 : Money, Chapter 9) Where do you want to go? (vocabulary to describe travel plans, want to + V)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
13	Unit 3 : Money, Chapter 9) Where do you want to go? (using 'right now', paragraph about a place to visit (draft))					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
14	Unit 3 : Money, Chapter 9) Where do you want to go? (using 'right now', re-write paragraph about travel plans)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
15	Review for end-of-term exam					事前：Semester 2 revision 事後：Exam preparation		演習		
教本： TRIO Writing 1 (Oxford 出版)					参考文献： 適宜、授業内で紹介予定					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点25%、課題およびパフォーマンス25%、定期試験50%を総合して評価します。										
学生へのアドバイス： 初めて英語のライティングに取り組む学生でも授業に取り組むことができるように進めていきます。欠席をせず、復習や課題をしっかりと行うことが必要です。テキストは毎回必ず持参し、継続的な学習が必要になります。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 リ ス ニ ン グ I (English Listening I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : リスニング力の伸長のためには、英語句の発音や使われ方を理解する力が必要です。この授業では、聞き取るためのポイントを理解する様々なリスニング・スキルを学習すると共に、実際に学習者が英語を使い、それらを体得するためのスピーキングの力も伸ばします。授業内では、制限されたタスクを通して練習を重ね、徐々に自由度の高いアウトプット・タスクを通して定着をはかります。									
授 業 目 標 : 1. 日常生活上の身近な話題についてのリスニングを聞き、その中で使われている語彙、文法、英語表現を学ぶ 2. 会話、アナウンス、インタビュー等、様々なリスニング・インプットを聞き取る為の具体的なスキルを身につける 3. 聞き取りたい英語の発音や語彙の使われ方等を習得する為、それらを使ってスピーキングの力も伸ばす									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Course Orientation. Unit 1 : Self (getting familiar with unit vocabulary, asking questions)					事前 : none 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
2	Unit 1 : Self (listening for the main idea to understand the overall topic)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
3	Unit 1 : Self (planning and practicing asking and answering interview questions)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
4	Unit 2 : Family (getting familiar with unit vocabulary, using possessive adjectives to talk about relationships)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
5	Unit 2 : Family (listening for details in report and interviews)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
6	Unit 2 : Family (planning and participating in an interview with follow-up questions)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
7	Unit 3 : Stuff (getting familiar with unit vocabulary, using possessive pronouns in everyday speech)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
8	Unit 3 : Stuff (activating learner knowledge to listen to English texts more carefully)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
9	Unit 3 : Stuff (preparing a simple presentation and answering questions about a familiar topic)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
10	Unit 4 : Money (getting familiar with unit vocabulary, using pronouns to specify what you are talking about)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
11	Unit 4 : Money (practicing listening for numbers in dialogues and advertisements)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
12	Unit 4 : Money (preparing and role-playing a sale dialogue)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
13	Unit 5 : Taste (getting familiar with vocabulary, using the simple present tense to describe habits and general truths)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
14	Unit 5 : Taste (practicing listening for times in interviews and presentations)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演 習	
15	Unit 5 : Taste (describing and discussing a familiar dish from your culture)					事前 : Semester 1 revision 事後 : Exam preparation		演 習	
教 本 : Skillful Listening & Speaking Founda (David Bohlke 著 MacMillan 出版) 参 考 文 献 : その他参考文献は適宜、授業内で紹介予定。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点25%、課題およびパフォーマンス25%、定期試験50%を総合して評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 欠席をせず、復習や課題をしっかりと行うことが必要です。テキストは毎回必ず持参し、英語読解力を養うために継続的な学習が必要になります。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語リスニングⅡ (English Listening II)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	ELEC									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： リスニング力の伸長のためには、英語句の発音や使われ方を理解する力が必要です。この授業では、聞き取るためのポイントを理解する様々なリスニング・スキルを学習すると共に、実際に学習者が英語を使い、それらを体得するためのスピーキングの力も伸ばします。授業内では、制限されたタスクを通して練習を重ね、徐々に自由度の高いアウトプット・タスクを通して定着をはかります。										
授業目標： 1. 日常生活上の身近な話題についてのリスニングを聞き、その中で使われている語彙、文法、英語表現を学ぶ 2. 会話、アナウンス、インタビュー等、様々なリスニング・インプットを聞き取る為の具体的なスキルを身につける 3. 聞き取りたい英語の発音や語彙の使われ方等を習得する為、それらを使ってスピーキングの力も伸ばす										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Unit 6 : Play (getting familiar with unit vocabulary and with using 'at', 'in', and 'on' to talk about time)					事前：none 事後：本時の復習（課題含）		演習		
2	Unit 6 : Play (listening to texts to make inferences about them)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
3	Unit 6 : Play (preparing and taking part in an interview, to share results afterwards)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
4	Unit 7 : Places (getting familiar with unit vocabulary, using 'can' to talk about ability, possibility, and offers/requests)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
5	Unit 7 : Places (listening to and following simple directions)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
6	Unit 7 : Places (preparing to give and following directions in a conversation)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
7	Unit 8 : Fun (getting familiar with unit vocabulary, using 'so' and 'neither' to express similarity)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
8	Unit 8 : Fun (making and confirming predictions while listening)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
9	Unit 8 : Fun (comparing and discussing likes and dislikes)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
10	Unit 9 : Plans (getting familiar with unit vocabulary, recognizing and using verb + infinitive structures')					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
11	Unit 9 : Plans (listening for reasons in dialogues and monologues)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
12	Unit 9 : Plans (discussing and sharing future plans)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
13	Unit 10 : Celebration (getting familiar with unit vocabulary, using quantifiers to discuss 'how much')					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
14	Unit 10 : Celebration (taking notes when listening to lectures and presentations)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
15	Unit 10 : Celebration (preparing and delivering a simple presentation about a special occasion)					事前：Semester 1 revision 事後：Exam preparation		演習		
教本： Skillful Listening & Speaking Founda (David Bohlke 著 MacMillan 出版)					参考文献： その他参考文献は適宜、授業内で紹介予定。					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点25%、課題およびパフォーマンス25%、定期試験50%を総合して評価します。										
学生へのアドバイス： 欠席をせず、復習や課題をしっかり行うことが必要です。テキストは毎回必ず持参し、英語読解力を養うために継続的な学習が必要になります。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 リーディング I (English Reading I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>基礎的な語彙力や文法力を伸ばしながら、ある程度まとまった英文を読み解く力をつけることを目指します。英文を読んで内容を把握し、それを自分の英語でまとめ、相手に伝える方法も学びます。また、英文読解特有のスキルも習得できるように指導します。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 基礎的な語彙や文法力を伸ばしながら、ある程度まとまった英語の文章を読めるようにする。 2. 既存の知識や自分の体験等とつなげて英文を理解し、リーディング内容を自らに取り込むように読み解く力をつける 3. 取り込んだ内容を、第三者に伝える方法を学ぶ</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Course Orientation – going through the syllabus, materials Pre-unit : Readiness (reviewing the basics)					事前 : none 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
2	Pre-unit : Readiness (reviewing the basics, sentences and paragraphs)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
3	Unit 1 : People, Chapter 1) How are family members alike? (Vocabulary about family, relating the text to yourself)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
4	Unit 1 : People, Chapter 1) How are family members alike? (collocations with 'get', finding the topic, We + V, They + V)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
5	Unit 1 : People, Chapter 1) How are family members alike? (summarizing and retelling, relating the text to the world)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
6	Unit 1 : People, Chapter 2) Who are your friends? (vocabulary about friendship, relating the text to yourself)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
7	Unit 1 : People, Chapter 2) Who are your friends? (using examples to find word meanings, identify main ideas)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
8	Unit 1 : People, Chapter 2) Who are your friends? (summarizing and retelling, text to the world)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
9	Unit 1 : People, Chapter 3) Why do we like art? (vocabulary about art, connecting text to self)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
10	Unit 1 : People, Chapter 3) Why do we like art? (identify synonyms, making inferences, S + adj, S + V)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
11	Unit 1 : People, Chapter 3) Why do we like art? (summarizing and retelling, relating text to the world)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
12	Unit 2 : Places, Chapter 4) What can we explore? (vocabulary about exploring, relating text to self)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
13	Unit 2 : Places, Chapter 4) What can we explore? (Words with multiple meanings, using pictures, There is/are + n)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
14	Unit 2 : Places, Chapter 4) What can we explore? (summarizing and retelling, relating text to the world)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
15	Review for End-of-Term Exam					事前 : Semester 1 revision 事後 : Exam preparation		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
TRIO Reading 1 (Oxford 出版)					適 宜、授 業 内 で 紹 介 予 定				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 25%、課 題 お よ び パ フ ォ ー マ ンス 25%、定 期 試 験 50% を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
初 め て 英 語 の 長 文 に 取 り 組 む 学 生 で も 授 業 に 取 り 組 む こ と が で き る よ う に 進 め て い き ま す。欠 席 を せ ず、復 習 や 課 題 を し っ か り 行 う こ と が 必 要 で す。テ キ ス ト は 毎 回 必 ず 持 参 し、英 語 読 解 力 を 養 う た め に 継 続 的 な 学 習 が 必 要 に な り ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	英語リーディングⅡ (English Reading Ⅱ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	ELEC									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 前期から引き続き、基礎的な語彙力や文法力を伸ばしながら、ある程度まとまった英文を読み解く力をつけることを目指します。英文を読んで内容を把握し、それを自分の英語でまとめ、相手に伝える方法も学びます。また、英文読解特有のスキルも習得できるように指導します。										
授業目標： 1. 基礎的な語彙や文法力を伸ばしながら、ある程度まとまった英語の文章を読めるようにする。 2. 既存の知識や自分の体験等とつなげて英文を理解し、リーディング内容を自らに取り込むように読み解く力をつける 3. 取り込んだ内容を、第三者に伝える方法を学ぶ										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Unit 2 : Places, Chapter 5) How does the world communicate? (vocabulary about communication)					事前：none 事後：本時の復習（課題含）		演習		
2	Unit 2 : Places, Chapter 5) How does the world communicate? (use a dictionary, count/noncount nouns)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
3	Unit 2 : Places, Chapter 5) How does the world communicate? (summarizing and retelling)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
4	Unit 2 : Places, Chapter 6) Why do we go on vacation? (vocabulary about vacation, relating text to self)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
5	Unit 2 : Places, Chapter 6) Why do we go on vacation? (comparative and superlative adj, visualizing)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
6	Unit 2 : Places, Chapter 6) Why do we go on vacation? (summarizing and retelling, relating text to the world)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
7	Unit 3 : Things, Chapter 7) What inventions changed the world? (vocabulary about inventions, text to self)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
8	Unit 3 : Things, Chapter 7) What inventions changed the world? (word families, signal words for time)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
9	Unit 3 : Things, Chapter 7) What inventions changed the world? (summarizing and retelling)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
10	Unit 3 : Things, Chapter 8) Jobs and Skills in the 21 st century (vocabulary about jobs, linking text to self)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
11	Unit 3 : Things, Chapter 8) Jobs and Skills in the 21 st century (suffix -er, identify pronoun references)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
12	Unit 3 : Things, Chapter 8) Jobs and Skills in the 21 st century (summarizing and retelling)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
13	Unit 3 : Things, Chapter 9) Money Matters (vocabulary about money, relating text to self)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
14	Unit 3 : Things, Chapter 9) Money Matters (financial collocations, analyze charts and spreadsheets)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習		
15	Review for End-of-Term Exam					事前：Semester 2 revision 事後：Exam preparation		演習		
教本： TRIO Reading 1 (Oxford 出版)					参考文献： 適宜、授業内で紹介予定					
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 平常点25%、課題およびパフォーマンス25%、定期試験50%を総合して評価します。										
学生へのアドバイス： 初めて英語の長文に取り組む学生でも授業に取り組むことができるように進めていきます。欠席をせず、復習や課題をしっかりと行うことが必要です。テキストは毎回必ず持参し、英語読解力を養うために継続的な学習が必要になります。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 リーディング A (English Reading A)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>基礎的な語彙力や文法力を伸ばしながら、ある程度まとまった英文を読み解く力をつけることを目指します。英文を読んで内容を把握し、それを自分の英語でまとめ、相手に伝える方法も学びます。また、英文読解特有のスキルも習得できるように指導します。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 基礎的な語彙や文法力を伸ばしながら、ある程度まとまった英語の文章を読めるようにする。 2. 既存の知識や自分の体験等とつなげて英文を理解し、リーディング内容を自らに取り込むように読み解く力をつける 3. 取り込んだ内容を、第三者に伝える方法を学ぶ</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Course Orientation – going through the syllabus, materials Pre-unit : Readiness (reviewing the basics)					事前 : none 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
2	Pre-unit : Readiness (reviewing the basics, sentences and paragraphs)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
3	Unit 1 : People, Chapter 1) How are family members alike? (Vocabulary about family, relating the text to yourself)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
4	Unit 1 : People, Chapter 1) How are family members alike? (collocations with 'get', finding the topic, We + V, They + V)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
5	Unit 1 : People, Chapter 1) How are family members alike? (summarizing and retelling, relating the text to the world)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
6	Unit 1 : People, Chapter 2) Who are your friends? (vocabulary about friendship, relating the text to yourself)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
7	Unit 1 : People, Chapter 2) Who are your friends? (using examples to find word meanings, identify main ideas)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
8	Unit 1 : People, Chapter 2) Who are your friends? (summarizing and retelling, text to the world)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
9	Unit 1 : People, Chapter 3) Why do we like art? (vocabulary about art, connecting text to self)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
10	Unit 1 : People, Chapter 3) Why do we like art? (identify synonyms, making inferences, S + adj, S + V)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
11	Unit 1 : People, Chapter 3) Why do we like art? (summarizing and retelling, relating text to the world)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
12	Unit 2 : Places, Chapter 4) What can we explore? (vocabulary about exploring, relating text to self)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
13	Unit 2 : Places, Chapter 4) What can we explore? (Words with multiple meanings, using pictures, There is/are + n)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
14	Unit 2 : Places, Chapter 4) What can we explore? (summarizing and retelling, relating text to the world)					事前 : 前時の復習 (課題含) 事後 : 本時の復習 (課題含)		演習	
15	Review for End-of-Term Exam					事前 : Semester 1 revision 事後 : Exam preparation		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
TRIO Reading 1 (Oxford 出版)					適 宜、授 業 内 で 紹 介 予 定				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 25%、課 題 お よ び パ フ ォ ー マ ン ス 25%、定 期 試 験 50% を 総 合 し て 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
初 め て 英 語 の 長 文 に 取 り 組 む 学 生 で も 授 業 に 取 り 組 む こ と が で き る よ う に 進 め て い き ま す。欠 席 を せ ず、復 習 や 課 題 を し っ か り 行 う こ と が 必 要 で す。テ キ ス ト は 毎 回 必 ず 持 参 し、英 語 読 解 力 を 養 う た め に 継 続 的 な 学 習 が 必 要 に な り ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語リーディングB (English Reading B)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	ELEC								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 前期から引き続き、基礎的な語彙力や文法力を伸ばしながら、ある程度まとまった英文を読み解く力をつけることを目指します。英文を読んで内容を把握し、それを自分の英語でまとめ、相手に伝える方法も学びます。また、英文読解特有のスキルも習得できるように指導します。									
授業目標： 1. 基礎的な語彙や文法力を伸ばしながら、ある程度まとまった英語の文章を読めるようにする。 2. 既存の知識や自分の体験等とつなげて英文を理解し、リーディング内容を自らに取り込むように読み解く力をつける 3. 取り込んだ内容を、第三者に伝える方法を学ぶ									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Unit 2 : Places, Chapter 5) How does the world communicate? (vocabulary about communication)					事前：none 事後：本時の復習（課題含）		演習	
2	Unit 2 : Places, Chapter 5) How does the world communicate? (use a dictionary, count/noncount nouns)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
3	Unit 2 : Places, Chapter 5) How does the world communicate? (summarizing and retelling)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
4	Unit 2 : Places, Chapter 6) Why do we go on vacation? (vocabulary about vacation, relating text to self)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
5	Unit 2 : Places, Chapter 6) Why do we go on vacation? (comparative and superlative adj, visualizing)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
6	Unit 2 : Places, Chapter 6) Why do we go on vacation? (summarizing and retelling, relating text to the world)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
7	Unit 3 : Things, Chapter 7) What inventions changed the world? (vocabulary about inventions, text to self)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
8	Unit 3 : Things, Chapter 7) What inventions changed the world? (word families, signal words for time)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
9	Unit 3 : Things, Chapter 7) What inventions changed the world? (summarizing and retelling)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
10	Unit 3 : Things, Chapter 8) Jobs and Skills in the 21 st century (vocabulary about jobs, linking text to self)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
11	Unit 3 : Things, Chapter 8) Jobs and Skills in the 21 st century (suffix -er, identify pronoun references)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
12	Unit 3 : Things, Chapter 8) Jobs and Skills in the 21 st century (summarizing and retelling)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
13	Unit 3 : Things, Chapter 9) Money Matters (vocabulary about money, relating text to self)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
14	Unit 3 : Things, Chapter 9) Money Matters (financial collocations, analyze charts and spreadsheets)					事前：前時の復習（課題含） 事後：本時の復習（課題含）		演習	
15	Review for End-of-Term Exam					事前：Semester 2 revision 事後：Exam preparation		演習	
教本： TRIO Reading 1 (Oxford 出版)					参考文献： 適宜、授業内で紹介予定				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 平常点25%、課題およびパフォーマンス25%、定期試験50%を総合して評価します。									
学生へのアドバイス： 初めて英語の長文に取り組む学生でも授業に取り組むことができるように進めていきます。欠席をせず、復習や課題をしっかりと行うことが必要です。テキストは毎回必ず持参し、英語読解力を養うために継続的な学習が必要になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	映 像 心 理 学 (Psychology of Visual Presentation)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 村 康 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>映像心理学とは映像と人間との関わりを、特に人間理解の観点からとらえようとする包括的な学問領域である。そこで重視されるのは映像に対する客観的視点である。本授業では、映像がどのように認識されるかについて説明し、映像表現に関する心理学的諸問題を検討する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①映像を客観的にとらえ、検討するために必要とされる知識と能力が獲得できる。 ②映像作品に対し、心理学的関心と探究心が持てるようになる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	映像と心理学との関り					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	視覚の生理学的基礎					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
3	映像理解に関わる人間の知覚特性（知覚の体制下など）					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
4	映像理解に関わる人間の知覚特性（知覚の恒常性など）					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
5	色覚のメカニズム					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
6	色が映像に与える印象					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
7	映像における空間知覚					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
8	映像における運動知覚					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
9	映像情報の認知的処理					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
10	映像操作がもたらす心理的効果					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
11	映像編集がもたらす心理的効果					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
12	映像表現の諸問題（生体への影響）					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
13	映像表現の諸問題（社会的影響）					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
14	授業のまとめ					事前：資料確認・作品視聴 事後：講義内容の復習		講義	
15	理解度の確認					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし					必要に応じて授業中に指示する				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (25%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (25%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
映 像 に 対 す る 考 察 力 は 多 くの 映 像 作 品 に 触 れ る こ と で 培 わ れ る。授 業 で 紹 介 し た 作 品 は、閲 覧 の 機 会 が あ れ ば 視 聴 し て ほ し い。ま た、興 味 深 い 映 像 作 品 を 見 つ け た ら、ぜ ひ 授 業 で も 紹 介 し て ほ し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	エクイティ投資論 I (Equity Investments I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	橋 口 宏 行								
履 修 条 件	前 提 科 目	債 券 投 資 論 I を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い。							
	そ の 他								
授 業 概 要 : エクイティ (株式とそのデリバティブ) についての、ファンダメンタルズ分析としての株式投資尺度、株価評価モデルについて学びます。また、テクニカル分析についても見ていきます。									
授 業 目 標 : 「株価は経済を映す鏡」といわれます。株価の動きを知り予測することは、経済を読むことと同じです。エクイティ投資の方法を学ぶことによって、世の中の動きを読めるようになることを目標とします。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、授業内容と進め方、キャッシュフローの合計値としての資産価格					事前：なし 事後：なし		講義	
2	株式の評価指標 (PER、PBR、ROE)					事前：なし 事後：復習		講義	
3~4	株式評価モデル (要求収益率、株式配当割引モデル、サステナブル成長率)					事前：なし 事後：復習		講義	
5	株価変動リスク (リスクとリターン、VIX 指数)					事前：なし 事後：復習		講義	
6~7	CAPMとマルチ・ファクター・モデル					事前：なし 事後：復習		講義	
8~9	株式ポートフォリオ構築 (パッシブ運用とアクティブ運用、バリュエーション投資とグロース投資)					事前：なし 事後：復習		講義	
10	効率的市場仮説とアノマリー					事前：なし 事後：復習		講義	
11	ファンダメンタル分析 (産業のライフサイクル、競争戦略論)					事前：なし 事後：復習		講義	
12~13	テクニカル分析 (ローソク足、MACD)					事前：なし 事後：復習		講義	
14	株式投資と資産形成					事前：なし 事後：復習		講義	
15	講座の総括と理解度の確認					事前：なし 事後：なし		演習	
教 本 : 『よくわかる！ファイナンス入門』(慶應義塾大学出版会、¥1,800+消費税)。 『新・証券投資論 I』(日本経済新聞社、¥4,000+消費税) 他に、レジユメを配布する。									
参 考 文 献 : 『よくわかる！ファイナンス入門』(慶應義塾大学出版会、¥1,800+消費税)。 『新・証券投資論 I』(日本経済新聞社、¥4,000+消費税) 他に、レジユメを配布する。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授業内容への参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (60%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : FP (ファイナンシャル・プランナー) 資格、証券外務員資格、証券アナリスト資格の各資格試験に役立つ。また、かつて企業の採用担当として面接官をしていたので、就職活動に関する相談にも乗ります。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	エコツーリズム (Ecotourism)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	永 井 恵 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>観光は自然環境に悪影響を及ぼす行為であると批判の対象にされることがあります。自然環境と観光、そして地域振興を含めた三者の共存のあり方を、「エコツーリズム」という概念を通じて考え、理解を深めます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. エコツアーの具体的な事例を踏まえながら、エコツーリズムの概念への理解を深める 2. エコツアーに特徴的なガイド手法であるインタープリテーションの技法を理解し、実践する 3. エコツーリズムとエコツアーの現状と課題に対する理解を深め、今後の観光のあるべき姿を考察する</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイドランス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	エコツーリズムとエコツアー					事前：なし 事後：なし		講義	
3~4	環境問題と観光 (世界編)					事前：なし 事後：なし		講義	
5	環境問題と観光 (日本編)					事前：なし 事後：なし		講義	
6~7	日本のエコツーリズム					事前：なし 事後：なし		講義	
8~9	世界のエコツーリズム					事前：なし 事後：なし		講義	
10	インタープリターの役割					事前：なし 事後：なし		講義	
11	エコツーリズムの評価と持続可能性					事前：なし 事後：なし		講義	
12	エコツーリズムの地域づくりへの活用					事前：なし 事後：なし		講義	
13~14	インタープリター実践					事前：レポート課題提出 事後：なし		演習	
15	エコツーリズムの今後の展望					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 :									
プリントを配布します。					参 考 文 献 :				
					適宜紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 プレゼンテーション (30%)、レポート (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
観光の社会的意義、観光資源の知識、そしてプレゼンテーションの技術を学ぶ機会ととらえ、積極的に授業に参加してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	M & A 戦略論 (M&A STRATEGY)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	礪原 稔								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 具体的な事例で講義します。									
授業目標： 学生時代のうちに M & A とはどんなことなのかを知っておく									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	M & A とは何か					事前：なし 事後：なし		講義	
2	買収先の店舗概要					事前：なし 事後：なし		講義	
3	仕入れ先、経費取引先					事前：なし 事後：なし		講義	
4	基本合意書					事前：なし 事後：なし		講義	
5	取引基本合意書					事前：なし 事後：なし		講義	
6	債権者リスト					事前：なし 事後：なし		講義	
7	BS、PL、営業権					事前：なし 事後：なし		講義	
8	トップからのメッセージ					事前：なし 事後：なし		講義	
9	営業譲渡申請					事前：なし 事後：なし		講義	
10	承継業務リスト					事前：なし 事後：なし		講義	
11	営業権価値					事前：なし 事後：なし		講義	
12	行動基準、プレス発表					事前：なし 事後：なし		講義	
13	スタート準備会議					事前：なし 事後：なし		講義	
14	営業譲渡対象外物件					事前：なし 事後：なし		講義	
15	総括					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 適宜資料配布					参考文献： 佐藤孝行著 M&Aがよくわかる講座 かんき出版				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（30%）、レポート・試験（70%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日本経済新聞には、M & A の記事が頻繁に出てきます。社会人になる前に、M & A とはなにものかを、知っておきたいものです。社会人になったときに、M & A を経験する可能性は高いです。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	沖縄文化研究 I (Okinawan Studies I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>この授業の目的は、とすれば観光やエゾチズムにのみ目の回りがちな沖縄文化を当事者の視点から捉えてみることです。皆さんのほとんどが「遊びに行くところ」と考えているかもしれません。しかし、当地の生活実感から生活世界を考えるなら、本土とも微妙に異なる世界が出現します。多面から考えてみましょう。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>ヒトが身体を通じて、どのように「世界」と関わっているのかを考える。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	沖縄文化の範囲					事前：なし 事後：授業資料		講義	
2	沖縄文化のステレオタイプと実際					事前：なし 事後：授業資料		講義	
3	沖縄文化のステレオタイプと実際 2					事前：なし 事後：授業資料		講義	
4	文化人類学からみた沖縄文化					事前：なし 事後：授業資料		講義	
5	沖縄の社会と文化					事前：なし 事後：授業資料		講義	
6	沖縄の社会と文化 2					事前：なし 事後：授業資料		講義	
7	始祖求心的文化					事前：なし 事後：授業資料		講義	
8	始祖求心的文化の現代版					事前：なし 事後：授業資料		講義	
9	民俗文化の創造					事前：なし 事後：授業資料		講義	
10	沖縄文化と「境界」					事前：なし 事後：授業資料		講義	
11	祖霊観と他界観					事前：なし 事後：授業資料		講義	
12	〈ニライカナイ〉の発想					事前：なし 事後：授業資料		講義	
13	沖縄と防衛問題					事前：なし 事後：授業資料		講義	
14	沖縄はパラダイスカ					事前：なし 事後：授業資料		講義	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 使用しません					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	沖 縄 文 化 研 究 II (Okinawan Studies II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 宰								
履 修 条 件	前 提 科 目	沖 縄 文 化 研 究 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>沖 縄 文 化 論 I を 受 け て、後 期 で は そ の 範 囲 を 宮 古 地 域 に 限 定 し て 考 察 し ま す。防 衛 問 題 の 議 論 に よ く み ら れ る 「本 土 - 沖 縄」とい う 二 分 法 で は 見 え に く い 沖 縄 の 姿 を、宮 古 地 域 を 中 心 に す え る こ と で 違 う 見 方 が で き る の で は な い だ ろ う か と い う 視 点 か ら 授 業 を 進 め て い き ま す。</p>									
授 業 目 標 :									
沖 縄 文 化 へ の よ り 深 い 理 解									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	宮 古 文 化 と 沖 縄 文 化					事 前 : 沖 縄 の 島 々 を 確 認 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
2	伊 良 部 島 の 文 化 バ リ エ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
3	村 落 祭 祀					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
4	シ ャ マ マ ニ ズ ム					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
5	世 界 観 と 歴 史					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
6	民 俗 的 小 宇 宙					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
7	本 土 文 化 と 民 俗 文 化					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
8	法 と 民 俗 文 化					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
9	法 と 民 俗 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
10	社 会 組 織 の 変 化 : 祭 祀					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
11	社 会 組 織 の 変 化 : 家 族					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
12	フ ィ ー ル ド 調 査					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
13	フ ィ ー ル ド 調 査 2					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
14	フ ィ ー ル ド 調 査 3					事 前 : な し 事 後 : 授 業 資 料		講 義	
15	ま と め と 復 習					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 か レ ポ ー ト	
教 本 :					参 考 文 献 :				
使 用 し ま せ ン					授 業 内 で 紹 介 す る。た く さ ん 読 ん で く だ さ い。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
私 た ち が い か に 常 識 や 良 識 に と ら わ れ て い る か、心 を 真 っ 白 に す る 努 力 を し て み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	音楽 (子どもと音楽) (Music)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鹿戸 一範								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 子どもの音楽活動を支える基礎的な技能として、ピアノの演奏技術の習得を目的とする。また、その習得のために必要な音楽の基礎的な知識（楽典）を学ぶ。									
授業目標： 様々な練習曲等を通して、保育現場で求められる基礎的なピアノ演奏技術を身につける事ができる。保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解の深め、楽譜を正確に読みピアノで演奏することができる。この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
2	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1～8					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
3	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9～16					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
4	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17～24					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
5	ハ長調の下属和音 教本 No.25～26					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
6	ヘ長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.27～32					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
7	ト長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.33～38					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
8	いろいろな伴奏形①・②・③・④ 教本 No.39～42					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
9	高い音の練習 教本 No.43～46					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
10	3/8拍子と6/8拍子 教本 No.47～48					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
11	付点4分音符を用いたリズム 教本 No.49～54					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
12	ハ長調の音階 教本 No.55～58					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
13	ヘ長調の音階 教本 No.59～61					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
14	ト長調の音階 教本 No.62～67					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
15	これまでの授業のまとめと発表					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
教本： 『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社）									
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	音楽で遊ぶ(音楽表現)(Play with music)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鹿戸 一範								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>保育現場で実際に使用されている「園生活のうた」「こどものうた」を主な題材とし、ピアノ伴奏、及び弾き歌いの技術を学ぶ。また、コードネームの基礎を学び、簡単な伴奏づけを実践する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>保育現場での音楽活動に対応できるよう様々な「生活のうた」「こどものうた」の弾き歌いの表現技術を身につける。この科目は、幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
2	園生活のうた 弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
3	園生活のうた 弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
4	園生活のうた 弾き歌い③ 「さよならのうた」他					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
5	あそびのうた① 「グーチョコキパーでなにつくろう」他					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
6	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
7	あそびのうた③ 「むすんでひらいて」「こぶたぬきつねこ」他					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
8	季節のうた(春) 弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
9	季節のうた(春) 弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
10	季節のうた(夏) 弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
11	季節のうた(夏) 弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
12	季節のうた(秋) 弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
13	季節のうた(秋) 弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
14	季節のうた(冬) 弾き歌い①					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
15	季節のうた(冬) 弾き歌い②					事前：課題曲の練習 事後：課題曲の仕上げ		演習	
教本： 「こどものうた200」チャイルド社					参考文献：				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
学生へのアドバイス：									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	音声学 I (Phonetics I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>英語の音声についてテキストを用いると同時に、それに伴うCDを聞きながら授業を進める。間違いやすい、あるいは難しい音声について実践練習をし、英語音の連結、脱落、弱化などの現象を理解するだけでなく、実際に練習を通して体得する。</p>									
<p>授業目標及びテーマ：</p> <p>中学校や高等学校で正しく英語の音声指導ができる力をつけることが目標である。英語の音素、アクセント、リズム、イントネーションなどの特徴を確認することがテーマであり、日本語との比較の視点を取り入れて授業を行う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクションー本科目を学ぶ意義と授業全体の構成について					事前：シラバスを確認する 事後：テキスト記入		講義	
2	音の発声ー母音と子音の種類					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
3	英語のアクセントー音節と強勢、子音結合、句の強勢					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
4	英語のリズム					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
5	紛らわしい母音					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
6	紛らわしい子音					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
7	つながって聞こえる音（連結）					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
8	変化して聞こえる音（同化）					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
9	聞こえなくなる音（1） 単語間の脱落					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
10	聞こえなくなる音（2） 単語内の脱落。短縮形					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
11	英語のイントネーションのパターン					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
12	英語のイントネーションと文中のポーズ					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
13	World Englishes					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
14	英語の数量表現の聞き取り					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
15	まとめと復習、音声実技試験					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
<p>教本：</p> <p>『English Sounds, English Minds』（杉森幹彦、大塚朋美、杉森直樹、Paul Evans 金星堂）</p>					<p>参考文献：</p> <p>敵宜、授業内で紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>レポート（10%）、音声実技試験（10%）、定期試験（60%）、小テスト（20%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>英語の音声をたくさん聴くようにしてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	音声学Ⅱ (Phonetics Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡部 佑人								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>英語の音声についてテキストを用いると同時に、それに伴うCDを聞きながら授業を進める。間違いやすい、あるいは難しい音声について実践練習をし、英語音の連結、脱落、弱化などの現象を理解するだけでなく、実際に練習を通して体得する。</p>									
<p>授業目標及びテーマ：</p> <p>中学校や高等学校で正しく英語の音声指導ができる力をつけることが目標である。英語の音素、アクセント、リズム、イントネーションなどの特徴を確認することがテーマであり、日本語との比較の視点を取り入れて授業を行う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクションー本科目を学ぶ意義と授業全体の構成について					事前：シラバスを確認する 事後：テキスト記入		講義	
2	音の発声ー母音と子音の種類					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
3	英語のアクセントー音節と強勢、子音結合、句の強勢					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
4	英語のリズム					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
5	紛らわしい母音					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
6	紛らわしい子音					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
7	つながって聞こえる音（連結）					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
8	変化して聞こえる音（同化）					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
9	聞こえなくなる音（1） 単語間の脱落					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
10	聞こえなくなる音（2） 単語内の脱落。短縮形					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
11	英語のイントネーションのパターン					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
12	英語のイントネーションと文中のポーズ					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
13	World Englishes					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
14	英語の数量表現の聞き取り					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
15	まとめと復習、音声実技試験					事前：ディクテーション予習 事後：テキスト記入		講義	
<p>教本：</p> <p>『English Sounds, English Minds』（杉森幹彦、大塚朋美、杉森直樹、Paul Evans 金星堂）</p>					<p>参考文献：</p> <p>敵宣、授業内で紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>レポート（10%）、音声実技試験（10%）、定期試験（60%）、小テスト（20%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>英語の音声をたくさん聴くようにしてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	会計学 I (Accounting I)						科目分類	専門科目	
担当教員	桑原 常明・高橋 琢也								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 財務会計、原価会計をシラバスに沿って順次解説していく。									
授業目標： 会計学の主要領域である、簿記、財務会計、原価会計などを簡単に理解できるように解説したい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 簿記					事前：なし 事後：なし		講義	
2	簿記（勘定科目の分類と説明）					事前：なし 事後：なし		講義	
3	簿記（仕訳から決算手続きまで）					事前：なし 事後：なし		講義	
4	財務会計（会計基準）					事前：なし 事後：なし		講義	
5	財務会計（企業会計原則一般原則）					事前：なし 事後：なし		講義	
6	財務会計（損益計算書原則、損益計算の本質）					事前：なし 事後：なし		講義	
7	財務会計（損益計算書作成原則）					事前：なし 事後：なし		講義	
8	財務会計（貸借対照表原則、科目分類の原則）					事前：なし 事後：なし		講義	
9	財務会計（資産評価の原則）					事前：なし 事後：なし		講義	
10	原価会計（基礎知識）					事前：なし 事後：なし		講義	
11	原価会計（費目別原価計算）					事前：なし 事後：なし		講義	
12	原価会計（部門別原価計算）					事前：なし 事後：なし		講義	
13	原価会計（総合原価計算、個別原価計算）					事前：なし 事後：なし		講義	
14	原価会計（標準原価計算）					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 会計の基礎ハンドブック 創成社					参考文献： 適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席しないこと、予習をすること、携帯電話の電源を切っておくこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	会 計 学 II (Accounting II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	桑 原 常 明 ・ 高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 監 査 論、税 効 果 会 計、経 営 分 析 を シ ラ バ ス に 沿 っ て 順 次 解 説 し て い く。									
授 業 目 標 : 会 計 学 I に 引 き 続 き、監 査 論、税 務 会 計 論、経 営 分 析 論 を 中 心 に 解 説 す る の で、会 計 の 基 礎 的 な 力 が 身 に つ く こ と、基 礎 力 養 成 に 目 標 を お い て い る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	会 計 監 査 論 (監 査 と は)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2	会 計 監 査 論 (監 査 の 実 施)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
3	税 務 会 計 論 (税 務 会 計 の 意 義 と 体 系)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
4	税 務 会 計 論 (課 税 所 得 と 企 業 利 益)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
5	税 務 会 計 論 (課 税 所 得 の 計 算)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
6	税 務 会 計 論 (損 益 の 期 間 帰 属 決 定 基 準)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
7	税 務 会 計 論 (税 務 会 計 上 の 諸 問 題)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
8	経 営 分 析 論 (経 営 分 析 の 基 礎)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
9	経 営 分 析 論 (財 務 諸 表 分 析 の 目 的 と 分 類)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
10	経 営 分 析 論 (安 全 性 分 析)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
11	経 営 分 析 (収 益 性 分 析)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
12	経 営 分 析 (効 率 性 分 析)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
13	経 営 分 析 (損 益 分 岐 点 分 析)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
14	経 営 分 析 (生 産 性 分 析)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
15	ま と め					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
教 本 : 会 計 の 基 礎 ハ ン ド ブ ッ ク 創 成 社					参 考 文 献 : 適 宜 指 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (30%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 欠 席 し な い こ と、予 習 を す る こ と、携 帯 電 話 の 電 源 を 切 っ て お く こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	外国史 (History of Europe)						科目分類	基礎科目	
担当教員	関口 宏道								
履修条件	前提科目								
	その他								
授業概要： 歴史は暗記物ではなく、感じるものであり、考えるものであり、想像（創造）するものである。考え想像（創造）するためには基本的な判断材料が必要である。授業では必須の歴史的知識や歴史概念をプリントで提供するが、それを基にして時代の特徴、変化を掴むようにしたい。本講義ではヨーロッパ中世世界の崩壊に至るまでの時代を扱う。									
授業目標： ヨーロッパは時間と空間の中で、様々な民族によって形成されてきた。あらゆる点で矛盾に満ちたヨーロッパの特徴は多様性と統一に見られる。そしてヨーロッパは地域主義を基本として国民国家を形成し、今や国民国家の枠を越えてヨーロッパ連合の安定に向けての歩みを続けている。こうしたヨーロッパの多様性を保持しつつ統一に向かう動き、ヨーロッパの基本的な精神、構造、変化を理解してゆきたい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ヨーロッパとは何か					事前： 事後：		講義	
2	古典古代 ギリシャ (1)					事前： 事後：		講義	
3	古典古代 ギリシャ (2)					事前： 事後：		講義	
4	古典古代 ローマ (1)					事前： 事後：		講義	
5	古典古代 ローマ (2)					事前： 事後：		講義	
6	古典古代 ローマ (3)					事前： 事後：		講義	
7	中間試験					事前： 事後：			
8	ヨーロッパ中世世界の成立 (1)					事前： 事後：		講義	
9	ヨーロッパ中世世界の成立 (2)					事前： 事後：		講義	
10	ヨーロッパ中世世界の確立 (1)					事前： 事後：		講義	
11	ヨーロッパ中世世界の確立 (2)					事前： 事後：		講義	
12	ヨーロッパ中世世界の確立 (3)					事前： 事後：		講義	
13	ヨーロッパ中世世界の崩壊 (1)					事前： 事後：		講義	
14	ヨーロッパ中世世界の崩壊 (2)					事前： 事後：		講義	
15	ヨーロッパ中世世界の崩壊 (3)					事前： 事後：		講義	
教本： テキストは使用せず、プリントを使用する。					参考文献： 必要に応じて授業中に紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 中間試験の評価（40%）と期末試験の評価（60%）を総合して評価する。 学生へのアドバイス：プリントに目を通すこと、学生としてのマナーを守ること、歴史のみならず世界の時事問題に関心を持てるように心がけて欲しい。									
学生へのアドバイス： 									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	外国史論 I (History of the World I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	関口 宏道								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>歴史は暗記物ではなく、感じるものであり、考えるものであり、想像（創造）するものである。考え想像（創造）するためには基本的な判断材料が必要である。授業では必須の歴史的知識や歴史概念をプリントで提供するが、それを基にして時代の特徴、変化を掴むようにしたい。本講義ではヨーロッパ中世世界の崩壊に至るまでの時代を扱う。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>ヨーロッパは時間と空間の中で、様々な民族によって形成されてきた。あらゆる点で矛盾に満ちたヨーロッパの特徴は多様性と統一に見られる。そしてヨーロッパは地域主義を基本として国民国家を形成し、今や国民国家の枠を越えてヨーロッパ連合の安定に向けての歩みを続けている。こうしたヨーロッパの多様性を保持しつつ統一に向かう動き、ヨーロッパの基本的な精神、構造、変化を理解してゆきたい。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ヨーロッパとは何か					事前：なし 事後：なし		講義	
2・3	古典古代 ギリシャ (1) (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
4	古典古代 ローマ (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
5	古典古代 ローマ (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
6	古典古代 ローマ (3)					事前：なし 事後：なし		講義	
7	中間試験					事前：なし 事後：なし		講義	
8・9	ヨーロッパ中世世界の成立 (1) (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
10	ヨーロッパ中世世界の確立 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
11	ヨーロッパ中世世界の確立 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
12	ヨーロッパ中世世界の確立 (3)					事前：なし 事後：なし		講義	
13	ヨーロッパ中世世界の崩壊 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
14	ヨーロッパ中世世界の崩壊 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
15	ヨーロッパ中世世界の崩壊 (3)					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>テキストは使用せず、プリントを使用する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>必要に応じて授業中に紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>中間試験の評価（40%）と期末試験の評価（60%）を総合して評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>プリントに目を通すこと、学生としてのマナーを守ること、 歴史のみならず世界の時事問題に関心を持てるように心がけて欲しい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	外国史論Ⅱ (History of the World Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	関口 宏道								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： ヨーロッパの歴史に関する基本的な知識を理解、習得出来るように、授業ではプリントを配布する。プリントを読み、歴史概念、時代の変化を理解するよう努めて欲しい。ヨーロッパの基本的価値、個人的自由、代議制民主主義、法の前平等、自己懐疑の精神などがいかんして形成されたのか、ヨーロッパがいかんして自己破壊への道をたどったのか、そしていかんして再生を果たそうとしたのかを考える。									
授業目標： ヨーロッパの歴史と現代的意義を考えてゆきたい。あらゆるものが変化してやまないという不変の法則の中で、ヨーロッパは空間と時間の中で、いかなる変化をしてきたのであろうか。万物は変化してやまないということを理解したい。 「すべての歴史は現代史である」とすれば、現代の我々の社会の有り様を考える上で、ヨーロッパの歴史は我々に何ほどの手掛かりを与えてくれるはずである。近代国家を越えたヨーロッパ連合への歩みの中で、なお戦争、人種の民族的な対立が消えていない現実の基底にあるものは何か、またヨーロッパはどこに行こうとしているのかを考えてゆきたい。本講義ではヨーロッパ近世以降、現代に至るまでの時代を考えてゆきたい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	近代ヨーロッパの成立 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
2	近代ヨーロッパの成立 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
3	近代ヨーロッパの成立 (3)					事前：なし 事後：なし		講義	
4・5	絶対主義の時代 (1) (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
6	中間試験					事前：なし 事後：なし		講義	
7	市民革命の時代 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
8	市民革命の時代 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
9	市民革命の時代 (3)					事前：なし 事後：なし		講義	
10・11	産業革命とナショナリズムの時代 (1) (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
12・13	帝国主義の時代 (1) (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
14・15	ファシズムと第二次世界大戦 (1) (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： テキストは使用せず、プリントを使用する					参考文献： 必要に応じて授業中に紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 中間試験の評価（40%）と期末試験の評価（60%）を総合して評価する。									
学生へのアドバイス： プリントに目を通すこと、学生としてのマナーを守ること、歴史ならびに世界の時事問題に関心を持てるように心がけて欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	カウンセリング入門 (introductory counseling)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 淳子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 私たちは人生の中で様々な問題に直面し、選択を迫られることがあります。そんな時、頼りになる相談相手がいたらどんなにか心強いことでしょう。カウンセリングとは、このような誰でもが遭遇する進路選択や“心の健康”に関わる問題にアプローチし、援助する活動をいいます。本講座では、カウンセリングの歴史的な背景や、様々な立場から生まれた理論及び技法（スキル）を習得し、よりよく生きるための「人間の心の健康」について考えていきます。カウンセリングは心理学の知見を基礎にし、実践に活用されるものです。本講座を受講することによって自身の成長及び他者への理解や援助につながることを目標とします。									
授業目標： 1. カウンセリングの意義や目的を理解し、実践への活用を考える。 2. 心理学を基盤としたカウンセリングの理論や技法（スキル）についての知識を習得し、理解する。 3. カウンセリングの効果と限界について考え、人間発達について洞察する。 4. 人間発達における自身の問題解決（対処）や他者への援助について考察し、実践に役立つ理解力と応用力を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	カウンセリングとは何か？ －意義と目的					事前： 事後：		講義	
2	カウンセリングの歴史 －起源と発展					事前： 事後：		講義	
3	臨床心理学とカウンセリングの関係 －心理療法とカウンセラー					事前： 事後：		講義	
4	カウンセリングの理論と技法 (1) －精神分析的カウンセリング①					事前： 事後：		講義	
5	〃 －精神分析的カウンセリング②					事前： 事後：講義3、4、5の復習		講義	
6	カウンセリングの理論と技法 (2) －行動主義的カウンセリング①					事前： 事後：		講義	
7	〃 －行動主義的カウンセリング②					事前： 事後：6、7の復習		講義	
8	カウンセリングの理論と技法 (3) －クライアント中心のカウンセリング①					事前： 事後：		講義	
9	〃 －クライアント中心のカウンセリング②					事前： 事後：8、9の復習		討議&講義	
10	カウンセリングの理論と技法 (4) －プレイセラピー、箱庭療法					事前： 事後：10の復習		講義	
11	カウンセリングの理論と技法 (5) －森田療法、内観法					事前： 事後：11の復習		討議&講義	
12	カウンセリングの理論と技法 (6) －家族療法、芸術療法					事前： 事後：12の復習		講義&演習	
13	カウンセリングの理論と技法 (7) －グループ療法					事前： 事後：		講義&演習	
14	カウンセラーの資格と倫理 －スーパーヴィジョン					事前： 事後：13、14の復習		討議&講義	
15	カウンセリングの課題と展望					事前： 事後：		講義	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。					参考文献： ・平木典子他編著 カウンセリングの基礎 北樹出版 ¥2,400 ・野々村新・中村淳子著 教職専門科目 教育カウンセリング論 日本大学 非売品				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業では、一方的な講義ではなく、学生に考えてもらう時間も用意します。また、単元によっては前もって発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともあります。中村から質問したり、学生からの意見を受けたりなど活気のある授業にしたいと思います。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。水曜日の昼休み									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	家 族 心 理 学 (Psychology of Family)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>個人の「こころ」は、その家族の歴史、現在の家族関係と切り離して考えることはできない。本講義では、個人を家族との関係から捉え、家族が形成されてから発達して行く過程、その過程で生じうる家族メンバーの相互作用や心理臨床の問題、支援法を学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>本講義の目標は、個人を家族との関係から理解し、支援するための基礎的な知識を得ることである。これにより、心理臨床の場における支援対象者の理解・支援の手がかりを得ることができる。さらに、身近な存在であるがゆえに客観視することが難しい家族との関係について心理学の理論に基づいて考えていくことは、他者理解のみでなく自己理解を深めることにも繋がると思われる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション、ジェノグラム					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	家族システム理論					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
3	家族をシステムから捉え、家族の問題を考える					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
4	独身の若い成人期、結婚による家族の成立期					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
5	家族をシステムから捉え、家族の問題を考える					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
6	小学生の子ども、若者世代とその家族					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
7	自立とは？ 親からの精神的自立					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
8	老年期の家族					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
9	家族への臨床的アプローチ					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
10	リフレーミング					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
11	夫婦関係の危機と援助					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
12	児童虐待					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
13	家族が経験するストレスと援助					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
14	現代の家族の問題（発表会）					事前：発表資料の作成 事後：講義内容の復習		講義・演習	
15	事例検討：不登校の事例					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。授業中に資料を配布する。					中益洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助』有斐閣ブックス				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講 義 に は、グ ル ー プ ワ ー ク、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 等 を 取 り 入 れ る。毎 回 の 講 義 終 了 時 に は、コ メ ン ト ペ ー パ ー に 講 義 内 容 か ら 考 え た こ と を 書 い て 提 出 し て い た だ く。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	家族法 (Family Law)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	可能であれば、民法関係科目の履修または同時履修が望ましい。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>日本の家族について法的視点を入れながら以下概観します。国籍、戸籍との関係、氏と戸籍との関係、婚姻と夫婦、そして親族関係と、日本の家族と家族法のあり方等を考えていくこととします。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>家族法についての概要の理解および法的ものの見方を身に付けることを目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（開講にあたって）					事前：事後：事後の復習		講義	
2	今日の家族事情					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
3	家族ってなんですか。（1：日本の家族）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
4	家族ってなんですか。（2：国籍と戸籍）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
5	家族ってなんですか。（3：氏と戸籍）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
6	家事紛争をめぐる裁判制度					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
7	法制度としての婚姻（成立・効力）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
8	法制度としての婚姻（夫婦財産制）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
9	法制度としての婚姻（離婚）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
10	夫婦と内縁関係					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
11	親子の効果（嫡出子と非嫡出子・親権）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
12	養子					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
13	親族関係					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
14	扶養					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
15	まとめ					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
<p>教本：</p> <p>「ポケット六法」（有斐閣）は、必ず準備してください。</p>					<p>参考文献：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>講義への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習もお願いします。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開講年次	2年次 後期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義/演習
授業科目(英文)	神奈川文化論 (Cultural Analysis of KANAGAWA)						科目分類	基礎科目	
担当教員	鷲尾 裕子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	1回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。事前学習に記載されたテーマについて考えてくること。							
<p>授業概要： 多くの名所、旧跡に恵まれた神奈川について学ぶ科目である。時代の先駆けとなって日本をリードしてきた地域の歴史遺産や現代の出来事を糸口に、今日に受け継がれるコミュニティの伝統と文化の深層を学び、神奈川の「文化」はどのような新しい価値を生み出すべきか考えていく。</p>									
<p>授業目標： 県全体の地誌を身につけるとともに、自分たちの生活と神奈川県とのつながりをより身近にとらえることができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクション（鷲尾）					事前：シラバスを読む 事後：県地図で市町村の確認		講義	
2	森の里でお散歩（白川）					事前：森の里市のイメージ 事後：ノートの確認		演習	
3	大山の風水（大井）					事前：大山のイメージ 事後：プリントの確認		講義	
4	港湾都市 横浜（田中）					事前：横浜のイメージ 事後：ノートの確認		講義	
5	神奈川県の歴史と伝承（石上）					事前：前回講義の確認 事後：ノートの確認		講義	
6	厚木市における川の文化（安村）					事前：厚木市周辺のイメージ 事後：ノートの確認		講義	
7	川崎市の仁義なき戦い：新百合ヶ丘 vs. たまプラーザ（高橋）					事前：前回講義の確認 事後：ノートの確認		講義	
8	神奈川県の農業・畜産業（佐々木）					事前：前回講義の確認 事後：ノートの確認		講義	
9	愛川町と多様な文化（石橋）					事前：前回講義の確認 事後：ノートの確認		講義	
10	神奈川県内自治体の友好交流先（韓国の6姉妹都市）（金）					事前：前回講義の確認 事後：ノートの確認		講義	
11	鶴巻温泉論（立野）					事前：前回講義の確認 事後：ノートの確認		講義	
12	秦野市民論（岸）					事前：前回講義の確認 事後：ノートの確認		講義	
13	県西地域の自然と環境（川口）					事前：前回講義の確認 事後：ノートの確認		講義	
14	町田領土紛争問題（松浦）					事前：前回講義の確認 事後：ノートの確認		講義	
15	まとめ（鷲尾）					事前：前回講義の確認 事後：ノートの確認		講義	
教本： なし。適宜、資料を配布する。					参考文献： 講義時、適宜、紹介する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（70%）で総合評価する。初回時、説明する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 担当者の都合により交替する事がある。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	体で遊ぶ(身体表現)(Physical Expression)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	塩野谷 祐子								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	特になし							
授業概要： 1. 学生自身の身体表現力を高めるため、テーマに対しての即興表現、様々なジャンルのダンス実習を行う。 2. 現場で行われる様々な身体を使った表現活動について実際に行ない、基礎的知識を理解する。									
授業目標： 保育者を目指す学生自身の身体表現力を高めるとともに、現場での身体表現活動に関する基礎的知識を理解し、皆で実践しながら現場に役立つ技能の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)				事前・事後学習(学習課題)			授業形態	
1	ガイダンス(授業の進め方、評価方法の説明、自己紹介)				事前:シラバスの確認 事後:友達の自己紹介を覚えておく			演習	
2	様々な歩き方・テーマに対する表現				事前:今までに経験した表現や模倣について思い出しておく 事後:様々な表現について理解する			演習	
3	ダンスの基本ステップ・幼児向けダンス				事前:今までに経験したダンスを思い出しておく 事後:幼児向けダンスの復習			演習	
4	現代的リズムのダンス①(基本ステップ)				事前:様々な現代的リズムのダンスについて調べておく 事後:現代的リズムのステップの復習			演習	
5	現代的リズムのダンス②(初心者向けダンス)				事前:ステップを思い出しておく 事後:現代的リズムのダンスの振りの復習			演習	
6	バレエ風ダンス①(基本姿勢、基本の動き)				事前:バレエの歴史や基礎知識に関して調べておく 事後:基本姿勢と動きの復習			演習	
7	バレエ風ダンス②(回転、ジャンプ、ワルツ)				事前:バレエの動きを思い出しておく 事後:バレエの振りの復習			演習	
8	フラ風ダンス①(基本ステップ)				事前:フラダンスの歴史や基礎知識を調べておく 事後:基本ステップの復習			演習	
9	フラ風ダンス②(初心者向けダンス)				事前:ステップを思い出しておく 事後:作品の振りの復習			演習	
10	音楽からの表現活動				事前:日常の音について意識して生活しておく 事後:表現の違いについて理解する			演習	
11	物語からの表現活動				事前:表現遊びに発展しやすい絵本を選んでおく 事後:実践したものの復習			演習	
12	手遊びからの表現活動				事前:手遊びについて調べておく 事後:実践したものの復習			演習	
13	歌に合わせた表現活動				事前:子ども向けの歌について調べておく 事後:実践したものの復習			演習	
14	身体活動による表現教材の創作				事前:今まで創作した内容の復習 事後:創作した遊びの復習			演習	
15	表現教材に関するまとめと知識の確認				事前:創作活動への自分の取り組みに関して振り返っておく 事後:表現を用いた活動に関して意識するようにする			演習・講義	
教本： 特に無し。適宜プリントを配布する。				参考文献： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(フレーベル館)、うきうきわくわく身体表現あそび 豊かに広げよう!子どもの表現世界 /高野牧子編著(同文書院)					
成績評価の方法、評価基準： 活動状況(70%)、表現教材の創作と発表(20%)、ノートとまとめレポート(10%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 演習科目のため、主体的かつ積極的に参加する意欲が必要となる。他の学生とのグループワークもあり、コミュニケーション力も大切となる。運動制限を伴う持病がある場合は事前に申告のこと。体育館シューズおよび運動着が必要。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	環境経営論 I (Sustainable Management I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	瀧口 洋								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>環境経営論 I では、産業における環境経営について主として論ずる。産業は、多大なエネルギーと多大な資源を投入して、製品やサービスを提供してくれるが、同時に多大な環境負荷を排出している。そこで、産業の歴史、公害を含む環境問題の歴史から論じて環境経営の必要性を説明し、続いて、第一次産業、第二次産業および第三次産業それぞれにおける環境問題を明らかにし、それへの取り組みについて論じ、最後に、地球環境問題の時代における企業の環境問題への取り組み方についても論じて、この授業を完結する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>地球環境時代における企業における環境問題とそれへの取り組み方を理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	「産業と環境」と題し、産業と企業、産業の発展と環境（明治中期から第一次大戦まで）、第二次大戦の廃墟からの復興。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
2	「産業構造変化と環境問題」と題し、高度経済成長期の変化、高度経済成長と公害発生、省エネ、省資源への取り組みの進展。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
3	「環境問題の系譜と企業」と題して、日本の環境問題、企業の環境問題への取り組み、産業の環境負荷について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
4	「持続可能な発展と環境」と題して、環境保護か開発か、産業活動における環境配慮を中心に論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
5	「循環型社会と環境経営」と題し、循環型社会とその形成、資源の有効利用の促進に関連する法律について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
6	「ものづくりの環境経営」と題し、ものづくり産業、ものづくり工程における環境配慮、社会の要求の変化について論ずる					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
7	「ものづくり」と環境設計」と題し、環境設計とその必要性、環境設計の進め方とその方向について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
8	「ものづくり」とエコマテリアル」と題して、エコマテリアルとその選択、エコマテリアルの例、ライフサイクル延長。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
9	「循環型社会確立とものづくり」と題して、製品のライフサイクルの長期化とそのシステム、ライフサイクル産業。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
10	「第一次産業と環境経営」と題して、第一次産業の特徴、農業と環境保全、環境保全型農業へのアプローチについて論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
11	「環境保全型農業の実践」と題して、農業に係る最近の情勢、環境保全型農業の問題点と対策、有機農業と地域社会。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
12	「有機農産物と環境」と題して、農政関連の定義、特別栽培農産物とそれに係る方策について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
13	「第三次産業と環境経営」と題して、第3次産業と環境保全、金融業と環境保全、環境リスクと保険について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
14	「金融機関と社会的責任投資」と題して、融資と環境リスク、金融機関での環境保全の内在化、社会的責任投資の推進。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
15	「環境経営と地球環境問題」と題して、日本の環境関連施策、地球環境問題の発生、日本の地球環境問題への取り組み。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
教本： 特には指定しない。					参考文献： 特には指定しない。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 毎回行うテストで平均6点（10点満点）であれば合格とする。但し、授業中およびテスト中にスマホを机の上に置いた場合は不正とみなし、その日のテストを0とする。</p>									
<p>学生へのアドバイス： いかなる産業も必ず環境負荷を行っており、いずれの企業は環境問題には多大な関心を持っている。</p>									
<p>オフィスアワー： 火曜日ランチタイム</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	環境経営論 I (Sustainable Management I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中藤 和重								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>環境経営論 I では、産業における環境経営について主として論ずる。産業は、多大なエネルギーと多大な資源を投入して、製品やサービスを提供してくれるが、同時に多大な環境負荷を排出している。そこで、産業の歴史、公害を含む環境問題の歴史から論じて環境経営の必要性を説明し、続いて、第一次産業、第二次産業および第三次産業それぞれにおける環境問題を明らかにし、それへの取り組みについて論じ、最後に、地球環境問題の時代における企業の環境問題への取り組み方についても論じて、この授業を完結する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>地球環境時代における企業における環境問題とそれへの取り組み方を理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	「産業と環境」と題し、産業と企業、産業の発展と環境（明治中期から第一次大戦まで）、第二次大戦の廃墟からの復興。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
2	「産業構造変化と環境問題」と題し、高度経済成長期の変化、高度経済成長と公害発生、省エネ、省資源への取り組みの進展。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
3	「環境問題の系譜と企業」と題して、日本の環境問題、企業の環境問題への取り組み、産業の環境負荷について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
4	「持続可能な発展と環境」と題して、環境保護か開発か、産業活動における環境配慮を中心に論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
5	「循環型社会と環境経営」と題し、循環型社会とその形成、資源の有効利用の促進に関連する法律について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
6	「ものづくり」の環境経営」と題し、ものづくり産業、ものづくり工程における環境配慮、社会の要求の変化について論ずる					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
7	「ものづくり」と環境設計」と題し、環境設計とその必要性、環境設計の進め方とその方向について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
8	「ものづくり」とエコマテリアル」と題して、エコマテリアルとその選択、エコマテリアルの例、ライフサイクル延長。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
9	「循環型社会確立とものづくり」と題して、製品のライフサイクルの長期化とそのシステム、ライフサイクル産業。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
10	「第一次産業と環境経営」と題して、第一次産業の特徴、農業と環境保全、環境保全型農業へのアプローチについて論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
11	「環境保全型農業の実践」と題して、農業に係る最近の情勢、環境保全型農業の問題点と対策、有機農業と地域社会。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
12	「有機農産物と環境」と題して、農政関連の定義、特別栽培農産物とそれに係る方策について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
13	「第三次産業と環境経営」と題して、第3次産業と環境保全、金融業と環境保全、環境リスクと保険について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
14	「金融機関と社会的責任投資」と題して、融資と環境リスク、金融機関での環境保全の内在化、社会的責任投資の推進。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
15	「環境経営と地球環境問題」と題して、日本の環境関連施策、地球環境問題の発生、日本の地球環境問題への取り組み。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理して復習。		講義	
<p>教本：</p> <p>特には指定しない。</p>					<p>参考文献：</p> <p>「現代日本の環境問題と環境政策」中藤和重他著、泉文堂、¥2,600+税</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>毎回行うテストで平均6点（10点満点）であれば合格とする。但し、授業中およびテスト中にスマホを机の上に置いた場合は不正とみなし、その日のテストを0とする。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>いかなる産業も必ず環境負荷を行っており、いずれの企業は環境問題には多大な関心を持っている。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>火曜日ランチタイム</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	環境経営論Ⅱ (Sustainable Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	瀧口 洋								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>環境経営論Ⅱでは、地球環境問題全体にも目を向け、とくに地球温暖化を取り上げ、国際的視点、国内的視点、さらに企業の視点で論ずる。さらに、企業の視点では、環境保全の内在化が重要事項であるので、これを取り上げ、環境経営を推進するための手段として、ライフサイクルアセスメント、環境報告書、環境会計、グリーン購入、PRTR、産業廃棄物、環境マネジメントシステムを取り上げ、企業の環境経営の有効な手段について論ずる。最後に、将来の環境経営の在り方について論じて、この授業を完結する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>地球環境時代の環境経営推進の必要性およびそのための方法、手段についてよく理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	「地球環境サミットと地球環境憲章」と題して、環境に関する国際的動き、国内の動き、国連地球環境サミットについて。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
2	「地球環境と企業の責任」と題して、地球環境への企業の対応、企業の責任、企業文化について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
3	「地球間尿問題発生と企業の取り組み」と題して、人口変化とその問題点、人類と環境、地球環境の現状、企業の取り組み。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
4	「地球温暖化とその影響」と題して、温室効果ガスと温暖化、地球温暖化とその影響、その影響の将来予測について。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
5	「地球温暖化への国際的取り組み」と題して、国際的取り組みの変遷、炭酸ガス排出量の比較、京都メカニズムについて。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
6	「地球温暖化への日本の取り組み」と題して、国の取り組み、民間の取り組み、企業の取り組みについて論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
7	「企業における環境保全の内在化」と題して、内在化のための企業の方針手法、内在化の進め方、環境情報の社会的インフラ。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
8	「ライフアセスメントと環境経営」と題し、LCAの定義、製品のライフサイクル、ISO14040について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
9	「環境報告書と環境経営」と題し、環境コミュニケーションの意義、環境報告書の作成、環境報告書の重要事項について。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
10	「環境会計とエコファンド」と題して、環境会計の定義と機能、環境会計の導入効果、環境コスト、エコファンドについて。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
11	「グリーン購入と環境ラベル」と題して、グリーン購入とその効果、グリーン購入と責務、環境ラベルについて論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
12	「PRTRと有害化学物質対策」と題して、PRTRの概要、PRTRの実際、PRTRと企業について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
13	「産業廃棄物とゼロエミッション」と題して、廃棄物の種類、ゼロエミッションの考え方、ゼロエミッション経営について。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
14	「環境マネジメントの導入と効果」と題して、環境マネジメント、環境マネジメントシステム、社会とEMSについて。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
15	「将来の環境経営」と題して、環境と経済の好循環を目指して、環境経営論のまとめを行う。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
教本： とくには指定しない。					参考文献： とくには指定しない。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 毎回行う小テスト（10点満点）で平均6点以上を取得した場合は合格とする。但し、授業中および毎日のテスト中、机上にスマホが置いてあった場合は不正とみなし、その日のテスト結果はなしとする。</p>									
<p>学生へのアドバイス： いずれの企業も必ず環境負荷をしており、いずれの企業も環境問題には深い関心を持っている。</p>									
<p>オフィスアワー： 火曜日ランチタイム。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	環境経営論Ⅱ (Sustainable Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中藤 和重								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>環境経営論Ⅱでは、地球環境問題全体にも目を向け、とくに地球温暖化を取り上げ、国際的視点、国内的視点、さらに企業の視点で論ずる。さらに、企業の視点では、環境保全の内在化が重要事項であるので、これを取り上げ、環境経営を推進するための手段として、ライフサイクルアセスメント、環境報告書、環境会計、グリーン購入、PRTR、産業廃棄物、環境マネジメントシステムを取り上げ、企業の環境経営の有効な手段について論ずる。最後に、将来の環境経営の在り方について論じて、この授業を完結する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>地球環境時代の環境経営推進の必要性およびそのための方法、手段についてよく理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	「地球環境サミットと地球環境憲章」と題して、環境に関する国際的動き、国内の動き、国連地球環境サミットについて。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
2	「地球環境と企業の責任」と題して、地球環境への企業の対応、企業の責任、企業文化について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
3	「地球間尿問題発生と企業の取り組み」と題して、人口変化とその問題点、人類と環境、地球環境の現状、企業の取り組み。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
4	「地球温暖化とその影響」と題して、温室効果ガスと温暖化、地球温暖化とその影響、その影響の将来予測について。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
5	「地球温暖化への国際的取り組み」と題して、国際的取り組みの変遷、炭酸ガス排出量の比較、京都メカニズムについて。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
6	「地球温暖化への日本の取り組み」と題して、国の取り組み、民間の取り組み、企業の取り組みについて論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
7	「企業における環境保全の内在化」と題して、内在化のための企業の方針手法、内在化の進め方、環境情報の社会的インフラ。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
8	「ライフアセスメントと環境経営」と題し、LCAの定義、製品のライフサイクル、ISO14040について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
9	「環境報告書と環境経営」と題し、環境コミュニケーションの意義、環境報告書の作成、環境報告書の重要事項について。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
10	「環境会計とエコファンド」と題して、環境会計の定義と機能、環境会計の導入効果、環境コスト、エコファンドについて。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
11	「グリーン購入と環境ラベル」と題して、グリーン購入とその効果、グリーン購入と責務、環境ラベルについて論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
12	「PRTRと有害化学物質対策」と題して、PRTRの概要、PRTRの実際、PRTRと企業について論ずる。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
13	「産業廃棄物とゼロエミッション」と題して、廃棄物の種類、ゼロエミッションの考え方、ゼロエミッション経営について。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
14	「環境マネジメントの導入と効果」と題して、環境マネジメント、環境マネジメントシステム、社会とEMSについて。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
15	「将来の環境経営」と題して、環境と経済の好循環を目指して、環境経営論のまとめを行う。					事前：シラバスをみて予習 事後：ノート整理で復習		講義	
<p>教本：</p> <p>とくには指定しない。</p>					<p>参考文献：</p> <p>「現代日本の環境問題と環境政策」中藤和重著、泉文堂、¥2,600+税</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>毎回行う小テスト（10点満点）で平均6点以上を取得した場合は合格とする。但し、授業中および毎日のテスト中、机上にスマホが置いてあった場合は不正とみなし、その日のテスト結果はなしとする。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>いずれの企業も必ず環境負荷をしており、いずれの企業も環境問題には深い関心を持っている。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>火曜日ランチタイム。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	観 光 英 語 I (English for Tourism I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
外国人観光客と接する際などによく使われる実用初級レベルの英語表現を修得する。場面ごとの会話練習により、実際の状況ですぐに使える英語表現を修得する。練習問題により、旅行・観光ビジネスで使われる実用初級レベルの英語の表現や用語を学ぶ。日本の観光地の説明が英語でできるよう、英文旅行案内書を利用し実用初級レベルの英語の表現を学ぶ。									
授 業 目 標 :									
国際旅行・観光で使われる実用初級レベルの英語表現を修得すること。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction : 授 業 の 進 め 方 と 授 業 概 要 の 説 明					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
2	Conversation (At Hotel Front Desk) Task (練 習 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
3	Conversation (At Hotel Front Desk) English Guidebook Reading (Imperial Palace, Ginza)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
4	Conversation (At Hotel Front Desk) Task (練 習 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
5	Conversation (At Hotel Front Desk) English Guidebook Reading (Ueno, Asakusa, Shinjuku)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
6	Conversation (Complaints/Problems) Task (練 習 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
7	Conversation (Complaints/Problems) English Guidebook Reading (Shibuya, Roppongi, Odaiba)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
8	Conversation (Hotel Services) Task (練 習 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
9	Conversation (Hotel Services) English Guidebook Reading (Disney Resort, Yokohama)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
10	Conversation (Going Out for a While) 小 テ ス ト (30 分、範 囲 は 1 ~ 10 で 学 習 し た と 所 ろ)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
11	Conversation (Checking Out) English Guidebook Reading (Kamakura, Hakone, Mt. Fuji)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
12	Conversation (At Information Center) Task (練 習 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
13	Conversation (At Information Center) English Guidebook Reading (Izu, Kusatsu, Nikko)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
14	Conversation (At Information Center) Task (練 習 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
15	Summary : 重 要 な ポ イ ン ト の 説 明 と 全 体 の ま と め					事 前 : 一 事 後 : 復 習		演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教 科 書 は 使 用 し な い。プ リ ン ト を 配 付 す る。					適 宜、紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (小 テ ス ト、授 業 内 容 へ の 受 講 態 度 等) (50%) と 定 期 試 験 (50%) で 総 合 的 に 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
英 語 の 基 礎 を 修 得 し て い る こ と が 望 ま し い。毎 回 出 席 す る よ う 努 め よ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	観 光 英 語 Ⅱ (English for Tourism Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>“Welcome to Sawanoya, Welcome to Japan” (外国人旅行者を受け入れている日本旅館の奮闘記。英文) をテキストに用い、日本の文化や習慣を外国人旅行者に英語でどう説明したらよいか、外国人旅行者とどう接したらよいかなどを学ぶ。また、日本の文化や習慣を説明できる実用中級レベルの英語表現力を、会話練習を通して修得する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 国際旅行・観光で使われる、実用中級レベルの英語表現を修得すること。 2. 日本の文化や習慣を英語で外国人旅行者に説明できるようになること。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction : 授業の進め方と授業概要の説明 Reading (Sawanoya's Beginnings)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
2	Reading (Prosperous Days) Conversation (Rice and Miso Soup)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
3	Reading (Prosperous Days) Conversation (Rice and Miso Soup)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
4	Reading (A Decision) Conversation (Revolving Sushi Restaurant)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
5	Reading (Morning in the Dining Room) Conversation (Revolving Sushi Restaurant)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
6	Reading (Morning in the Dining Room) Conversation (Izakaya)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
7	Reading (No-Shows) Conversation (Izakaya)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
8	Reading (No-Shows) Conversation (Japanese Fast Food)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
9	Reading (Sawanoya Springs Back to Life) Conversation (Japanese Fast Food)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
10	Reading (Sawanoya Springs Back to Life) 小テスト (30分、範囲は1~10で学習したところまで)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
11	Reading (Self-Service) Conversation (Japanese Spas)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
12	Reading (Helping Overseas Guests) Conversation (Japanese Spas)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
13	Reading (Helping Overseas Guests) Conversation (Convenience Stores, etc)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
14	Reading (Warm and Welcoming) Conversation (Convenience Stores, etc)					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
15	Summary : 重要なポイントの説明と全体のまとめ					事前 : 一 事後 : 復習		演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教科書は使用しない。プリントを配付する。					適宜、紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (小テスト、受講態度等) (50%) と 定 期 試 験 (50%) で 総 合 的 に 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 英語の基礎を修得していることが望ましい。毎回出席するよう努めよう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	観光概論 (Tourism)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	古賀 学									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>江戸時代からの旅の変遷を学習することにより、これから観光を本格的に学ぶために必要な基礎について学ぶ。観光でよく使われる言葉の意味や定義、構造等について習得する。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>1. 観光を学ぶために必要な基礎を習得する。 2. 観光にかかわる言葉の意味・意義を習得する。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎						○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	観光の構造					事後：今回の授業内容		講義		
2	観光の定義					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
3	旅の変遷～旅から観光へ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
4	旅と旅人					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
5	旅人と観光（芭蕉の旅）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
6	江戸時代の旅のインフラ整備					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
7	江戸時代における宿場町と宿泊施設					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
8	宗教と旅の構造					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
9	伊勢講と門前町					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
10	大山講と門前町					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
11	富士講と門前町					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
12	温泉資源と温泉の効果					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
13	温泉地の変遷					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
14	温泉の利用と温泉観光地の形成					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
15	温泉文化の形成					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義		
教本： 特になし。					参考文献： その都度指示する。					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト（40%）、定期試験（60%）及び授業態度（出席等）を加味して総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス： 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。これから自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。</p>										
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光経営論 (Tourism Management)						科目分類	専門科目	
担当教員	白澤 恵一								
履修条件	前提科目	経営学概論Ⅰを履修していることが好ましい							
	その他	なし							
授業概要： 現代における観光経営の意義について触れ、観光産業について認識を深めることを前提にして、観光の歴史、観光市場の実態について学ぶ。									
授業目標： 観光経営と地域観光や観光事業との関係を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション・観光とは					事前：なし 事後：1～2頁精読		講義	
2	観光の意義と関連概念					事前：57頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
3	観光現象とその構成要素					事前：10頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
4	多様な観光形態					事前：12頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
5	観光研究の分野					事前：15頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
6	新しい観光の考え方					事前：16頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
7	観光研究の対象と方法					事前：18頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
8	観光教育					事前：22頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
9	観光研究・教育のための統計調査資料					事前：27頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
10	観光・旅行者の分類					事前：31頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
11	多様な観光・レジャー行動					事前：33頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
12	観光者の行動と心理					事前：35頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
13	観光需要					事前：9頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
14	観光調査					事前：40頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：テスト範囲と復習		講義	
教本： 1. 白澤恵一『観光経営』高文堂出版社					参考文献： 必要に応じて指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 教科書を良く読むこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光経営論 I (Tourism Management I)						科目分類	専門科目	
担当教員	白澤 恵一								
履修条件	前提科目	経営学概論 I を履修していることが好ましい							
	その他	なし							
授業概要： 現代における観光経営の意義について触れ、観光産業について認識を深めることを前提にして、観光の歴史、観光市場の実態について学ぶ。									
授業目標： 観光経営と地域観光や観光事業との関係を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション・観光とは					事前：なし 事後：1～2頁精読		講義	
2	観光の意義と関連概念					事前：57頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
3	観光現象とその構成要素					事前：10頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
4	多様な観光形態					事前：12頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
5	観光研究の分野					事前：15頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
6	新しい観光の考え方					事前：16頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
7	観光研究の対象と方法					事前：18頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
8	観光教育					事前：22頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
9	観光研究・教育のための統計調査資料					事前：27頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
10	観光・旅行者の分類					事前：31頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
11	多様な観光・レジャー行動					事前：33頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
12	観光者の行動と心理					事前：35頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
13	観光需要					事前：9頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
14	観光調査					事前：40頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：テスト範囲と復習		講義	
教本： 1. 白澤恵一『観光経営』高文堂出版社					参考文献： 必要に応じて指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 教科書を良く読むこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 経 営 論 II (Tourism Management II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	白 澤 恵 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	経 営 学 概 論 II を 履 修 し て い る こ と が 好 ま し い							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 観 光 資 源、観 光 地、観 光 開 発 な ど の 概 念 に つ い て 学 び、各 種 宿 泊 業 や 観 光 交 通、そ の 他 関 連 産 業 な ど に つ い て 学 ぶ。 地 域 社 会、地 域 文 化、観 光 福 祉、観 光 政 策 過 程 に つ い て 検 討 す る。									
授 業 目 標 : 観 光 産 業 の 経 営 に つ い て 具 体 的 に 学 び、今 後 の 観 光 経 営 に つ い て 考 え る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	観 光 対 象 と し て の 観 光 資 源 ・ 施 設					事 前 : な し 事 後 : 45 頁 精 読		講 義	
2	観 光 資 源 の 保 護					事 前 : 48 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
3	観 光 資 源 保 護 の た め の 国 際 的 取 り 組 み					事 前 : 54 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
4	多 様 な 観 光 形 態					事 前 : 55 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
5	観 光 経 営 の 概 念 に つ い て					事 前 : 57 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
6	観 光 地 の 経 営					事 前 : 58 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
7	観 光 経 営 と 地 域 社 会					事 前 : 64 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
8	観 光 経 営 の マ ー ケ テ ィ ン グ					事 前 : 66 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
9	観 光 産 業 の 概 念					事 前 : 71 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
10	旅 行 業					事 前 : 73 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
11	宿 泊 業					事 前 : 76 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
12	交 通 業					事 前 : 83 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
13	観 光 政 策 と 主 な 観 光 関 連 法 規					事 前 : 91 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
14	観 光 政 策 過 程 の 検 討					事 前 : 100 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
15	ま と め					事 前 : テ ス ト 範 囲 と 復 習 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
教 本 : 1. 白 澤 恵 一 『観 光 経 営』 高 文 堂 出 版 社									
参 考 文 献 : 必 要 に 応 じ て 指 示 す る。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (10%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 観 光 経 営 論 I を 取 得 し て い な く て も よ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光経済論 I (Tourism Economics I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白澤 恵一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 観光と経済学、観光客、供給者、観光客の受け入れ社会の仕組み等の視点から具体的に展開する。									
授業目標： 観光経済論 I は、経済学の基礎理論を観光現象について具体的に応用して展開する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：プリント教材について		講義	
2	観光と経済学の基礎概念について					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
3	観光商品の特徴について					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
4	娯楽観光に対する需要について					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
5	国際観光需要を決めるほかの要因について					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
6	バック旅行を利用する理由について					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
7	なぜ日本人にはバック旅行が人気があるのか					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
8	旅行会社を利用する理由について					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
9	インターネットの旅行会社への影響について					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
10	旅行期間の決定要因について					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
11	日本人の観光客支出の経済的要因について					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
12	観光産業と製品差別化について					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
13	観光の参入障壁と市場環境の問題					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
14	観光客の旅行手段選択の決定要因について					事前：プリント教材精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
15	前期のまとめ					事前：なし 事後：授業内容のまとめ		講義	
教本： 開講時に指示する。					参考文献： 必要に応じて指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 筆記試験の成績70%とレポート（毎時間提出）30%により評価する。									
学生へのアドバイス： 経済学や経営学を修得しておくことが望ましい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光経済論Ⅱ (Tourism Economics Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白澤 恵一								
履 修 条 件	前提科目	観光経済論Ⅰを取得しておくことが好ましい。							
	その他	なし							
授業概要： 国際観光と経済学、観光客、供給者、観光客の受け入れ社会の仕組み等の視点から具体的に展開する。									
授業目標： 観光経済論Ⅱは、経済学の基礎理論を観光現象、特に国際観光について具体的に応用して展開する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	国際観光旅行に対する障壁について					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
2	韓国と台湾、日本と中国の障壁について					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
3	観光の受入経済に占める位置について					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
4	世界全体の旅行・観光の経済的重要性について					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
5	観光課税の政治経済について					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
6	観光課税の経済的理由について					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
7	観光と自然環境について					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
8	人気と混雑と収容能力について					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
9	持続可能な観光について					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
10	社会的公平と貧困について					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
11	テロリズムと観光の将来について					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
12	観光の将来を形成する諸力について					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
13	観光と持続可能性・環境問題					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
14	生活者の視点から観光経済を考える					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
15	後期のまとめ					事前：プリント教材精読 事後：講義内容のまとめ		講義	
教本： 開講時に指示する。					参考文献： 必要に応じて指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 筆記試験の成績70%とレポート（毎時間提出）30%により評価する。									
学生へのアドバイス： 観光経済学Ⅰや経済学や経営学を取得しておくことが望ましい。なお、観光経済論Ⅰを取得していなくても聴講できる。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光産業論 I (Tourism Industry I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>サービス産業の経営基礎を踏まえ、観光産業における他産業と異なる特徴、観光関連産業の構成などの基礎を理解するとともに、個別観光関連産業の現状、内容等について理解する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. サービス産業としての観光産業の特徴・特殊性を理解する。 2. 観光産業を構成する個別の産業についての理解を深める。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	観光と観光産業					事後：今回の授業内容		講義	
2	観光産業の構造					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	観光産業の市場特性					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	観光産業の商品特性					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	観光産業と波及効果					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	観光産業と観光消費					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	日本人の宿泊観光旅行マーケットの現状					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	外国人マーケットの現状					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	観光産業における経営構造 1					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	観光産業における経営構造 2					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	宿泊産業の構造					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	宿泊業法と宿泊産業の現状					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	旅行業の構造					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	旅行業の現状と課題					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	これからの観光産業					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
教本： 各回プリント配布。					参考文献： 必要時に指示。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（40%）、定期試験（60%）に授業態度（出席状況等）を加味して総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 観光産業の基礎を学ぶことにより、観光産業の特異性を理解する。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 産 業 論 II (Tourism Industry II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	薬 師 丸 正 二 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
様 々 な 観 光 の 形 態 を 学 ぶ こ と に よ り、観 光 に 関 連 す る 様 々 な 産 業 が ど の よ う に 関 っ て い る か に つ い て、そ の 特 徴 を 理 解 し、現 状 と 課 題 に つ い て 考 え る。									
授 業 目 標 :									
様 々 な 形 態 の 観 光 を 検 討 し ま す。そ れ ぞ れ の 形 態 の 中 で 観 光 関 連 企 業 が ど の よ う な 形 で 関 与 し て い る か、そ の 現 状 と 課 題 に つ い て 問 題 意 識 を 持 っ て 考 え る 力 を 養 う こ と を 目 標 に し て い ま す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：授業の進め方や成績評価の仕方についてオリエンテーションを行う。					事前：シラバスを読む 事後：なし		講義	
2	観光資源：持続的に発展し続ける観光を実現するために不可欠な魅力を高める観光資源とは何かを考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
3	食と観光：もっとも地域の特性を出し易い重要な観光資源の一つである「食」について考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
4	温泉と観光：日本を代表する観光資源である温泉と観光について現状と課題について考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
5	歴史・文化遺産と観光：歴史的・文化的価値のある寺社仏閣等文化財を観光資源とする伝統的な観光形態について考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
6	エコツーリズム「環境」と調和した観光という考え方について考える。観光が環境保護・保全に果たした役割について考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
7	グリーンツーリズム：農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動について考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
8	産業遺産・産業観光：歴史的・文化的価値のある産業文化財（産業遺構）等を観光資源とする新しい観光形態について考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
9	ヘルスツーリズム：医療や健康産業と結びつく形で新しい旅行形態について、現状と課題について考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
10	観光のユニバーサルデザイン化：障害者のための観光事業の可能性について、現状と課題について考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
11	都市と観光：「観光まちづくり」とも呼ばれるタウンツーリズムの実践と課題について考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
12	ビジネストラベル：MICE = Meeting (会議等)、Incentive tour (報奨・招待旅行)、Convention (大会・学会)、Exhibition (展示会)を内容とするビジネストラベルについて考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
13	コンテンツツーリズム：映画、マンガ、アニメの作品に登場する舞台の地域を訪れる旅行形態について考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
14	民泊：円安による旅行者の増加、airbnbの登場により、注目される民泊について、現状と課題について考える。					事前：事前配布資料の精読 事後：配布資料の復習		講義	
15	まとめと課題					事前：全配布資料の精読 事後：全配布資料の精読		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
テキストなし。講義中にプリントを配布する。					参考図書・文献については、講義の中で適宜紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト (30%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 中 に 発 表 を し て も ら う 場 合 も あ る の で、常 に 問 題 意 識 を 持 っ て 授 業 に 出 席 し て ほ し い。授 業 計 画 に 該 当 す る 内 容 を 事 前 に 新 聞、ニ ュ ー ス、書 籍 等 か ら 探 し て 読 ん で お い て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	観光社会学 I (Sociology of Tourism I)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	永井 恵一									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： そもそも観光とはどのような現象なのでしょう。様々な側面から観光をとらえ、理解を深めます。										
授業目標： 1. 観光という現象が、現代社会においてどのような意味を持っているのかを考察する 2. 観光や観光に関係する人々がどのような責任を有しているのかを考察する 3. 観光地の魅力の伝え方、伝わり方について考察する										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	ガイドランス					事前：なし 事後：なし		講義		
2	観光とは、社会学とは					事前：なし 事後：なし		講義		
3～5	観光の歴史					事前：なし 事後：なし		講義		
6	観光の経済学					事前：なし 事後：なし		講義		
7	観光産業とその社会的責任					事前：なし 事後：なし		講義		
8	環境問題と観光					事前：なし 事後：なし		講義		
9	グローバル化と観光					事前：なし 事後：なし		講義		
10	メディアと観光					事前：なし 事後：なし		講義		
11	ブランドとイメージ					事前：なし 事後：なし		講義		
12	観光地の真正性					事前：なし 事後：なし		講義		
13～14	プレゼンテーション					事前：レポート課題提出 事後：なし		演習		
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		演習		
教本： プリントを配布します。					参考文献： 適宜紹介します。					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 観光の社会的意義、観光資源の知識、そしてプレゼンテーションの技術を学ぶ機会をとらえ、積極的に授業に参加してください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 社 会 学 II (Sociology of Tourism II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	永 井 恵 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	観 光 社 会 学 I (Sociology of Tourism I)							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
聖地巡礼やダークツーリズムの事例を通して、地域社会における観光の役割と可能性について考察を深める。									
授 業 目 標 :									
1. 各宗教の概要を理解し、宗教的な聖地についての理解を深める									
2. 聖地という言葉がどのように変化してきたのか、多様な事例から考察する									
3. 戦争や災害による遺構や、悲惨な記憶を遺す意義について考察する									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	宗教と観光 日本の宗教と聖地					事前：なし 事後：なし		講義	
3～4	宗教と観光 世界の宗教と聖地					事前：なし 事後：なし		講義	
5	映画・アニメと観光					事前：なし 事後：なし		講義	
6	ディズニーランドの真正性					事前：なし 事後：なし		講義	
7～8	聖地巡礼の多様性					事前：なし 事後：なし		講義	
9～10	戦争・災害と観光					事前：なし 事後：なし		講義	
11	風化と風評被害					事前：なし 事後：なし		講義	
12	聖地の意味と課題					事前：なし 事後：なし		講義	
13～14	プレゼンテーション					事前：レポート課題提出 事後：なし		演習	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 :									
プリントを配布します。					参 考 文 献 :				
					適宜紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
プレゼンテーション (30%)、レポート (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
観光の社会的意義、観光資源の知識、そしてプレゼンテーションの技術を学ぶ機会ととらえ、積極的に授業に参加してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 情 報 論 (Tourism Informatics)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	立 野 貴 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>この授業では観光における情報システムの考え方を中心に、国内外の観光情報システムにどのようなものがあるかを講義や事例研究を通して理解する。新しい観光情報システムの提案や観光情報を発信する方法論を実際に提案することによって、効果的な観光情報システムを創造する視点を身に付ける。講義計画に沿って観光情報システムの事例についての講義を行い、国内外の事例やグループによる実地調査、ディスカッションを通して、観光情報システムの在り方について考える。最終的には、レポートにまとめ、グループまたは、個人でのプレゼンテーションを行う。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>観光情報論では、観光と情報通信技術をキーワードに、今後の観光における情報システムの考え方や、その活用方法を学ぶことを目的とする。具体的には、観光情報メディアとしての情報通信機器の利用、観光情報提供システム構築、観光情報収集システムの仕組みなどについて学習し、その在り方を考える。観光分野で適応できる普遍的方法論や、情報通信技術を利用した事例を通して、観光における実践的な情報通信技術の活用を考える能力を身に付ける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイドンス/観光分野と情報通信技術					事前：なし 事後：配布プリント		講義	
2・3	社会活動における観光情報 文化・芸術・スポーツなどの観光情報					事前：観光情報の定義を考察 事後：配布プリント		講義	
4・5	まちづくり活動に対する情報技術支援 グループディスカッション					事前：観光情報の事例を調査 事後：グループワーク		演習	
6	観光地での自然災害における情報通信技術の考え方					事前：グループ課題 事後：配布プリント		講義	
7	情報技術における観光産業・観光地域の被害把握の方法論					事前：ICTについて考察 事後：配布プリント		講義	
8	情報技術観光産業復興支援					事前：ICT活用について考察 事後：配布プリント		講義	
9・10	グループディスカッション&プレゼン準備					事前：グループワーク 事後：プレゼン準備		演習	
11	個人プレゼンテーション					事前：リハーサル 事後：フィードバック確認		演習	
12・13	国内外の観光と情報科学技術 観光産業分野における最新の情報通信技術の事例					事前：ICT活用事例の考察 事後：配布プリント		講義	
14	グループディスカッション&プレゼン準備					事前：グループワーク 事後：グループワーク		演習	
15	グループプレゼンテーション					事前：リハーサル 事後：なし		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
ガイドンスで指示する。					講義中に指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
平常点 (30%)、提出課題 (20%)、個人プレゼン (20%)、グループプレゼン (30%) の評価から判断する。									
平常点：授業課題、授業への参画度									
提出課題：講義中の課題、レポートなど									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
個人プレゼンとグループプレゼンは、単位修得にあたり必須とします。また、授業のグループワークでは、欠席などでグループのメンバーに迷惑をかけないよう努力してください。やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、または、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにしてください。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 文 化 史 I (History of Tourism Culture I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 寺 奎 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
日本における旅と観光の歴史を以下の視点から考察する。									
① どんな形態の旅行、観光が発達していたか									
② 旅行、観光はどの範囲の人々まで可能だったのか									
③ 旅行、観光の容易化は、どこまで進んでいたか (交通、宿泊、情報等)									
④ 旅行、観光関連ビジネスは、どこまで発達していたか									
⑤ 旅行、観光はその時代の社会、文化にどのような影響を及ぼしたか									
授 業 目 標 :									
今日の日本の観光文化を生みだした歴史的背景を理解することを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 計 画 の 説 明					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2	日本における街道 (江戸時代以前) とローマ街道					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
3	日本における宿泊施設 (江戸時代以前) と同時代の欧州の宿					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
4	室町時代の旅人と中世欧州の旅人					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
5	江戸時代の街道の発達					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
6	江戸時代の宿泊施設の特徴					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
7	参勤交代が日本の観光の発展に果たした役割					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
8	お伊勢参りが日本の観光の発展に果たした役割					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
9	日本人の温泉旅行とローマ人の温泉旅行					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
10	外国人による江戸時代の日本旅行					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
11	明治・大正時代のホテルの発展					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
12	日本の観光の発展に果たした鉄道の役割					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
13	海水浴の歴史					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
14	日本人の海外旅行の歴史					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
15	授業の総括					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
な し					な し				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、期 末 レ ポ ー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 で 取 り 上 げ た 史 跡 の し つ を 訪 ね て み る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光文化史Ⅱ (History of Tourism Culture Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高寺 奎一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>授業概要：旅と観光の歴史を以下の視点から考察する。</p> <p>① その時代、どんな形態の旅行、観光が発達していたか</p> <p>② その時代、旅行、観光はどの範囲の人々まで可能だったのか</p> <p>③ その時代、旅行、観光の容易化は、どこまで進んでいたか（交通、宿泊、情報等）</p> <p>④ その時代、旅行、観光関連ビジネスは、どこまで発達していたか</p> <p>⑤ 旅行、観光はその時代の社会、文化にどのような影響を及ぼしたか</p>									
<p>授業目標：</p> <p>今日の世界の観光文化を生みだした歴史的背景を理解することを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業計画の説明					事前：なし 事後：なし		講義	
2	有史前（イーストサイドストーリーからエジプト時代まで）					事前：なし 事後：なし		講義	
3	ギリシャ時代の旅（海の旅、世界を知るための旅）					事前：なし 事後：なし		講義	
4	ローマ時代の旅（ローマ街道、温泉旅行、古代遺跡の旅）					事前：なし 事後：なし		講義	
5	中世の聖地エルサレム観光ツアー					事前：なし 事後：なし		講義	
6・7	英国貴族子弟によるグランドツアー					事前：なし 事後：なし		講義	
8	文人の旅					事前：なし 事後：なし		講義	
9・10	イスラム社会の旅					事前：なし 事後：なし		講義	
11	有給休暇の発展					事前：なし 事後：なし		講義	
12	バカンスの誕生					事前：なし 事後：なし		講義	
13	鉄道と観光					事前：なし 事後：なし		講義	
14	第二次大戦後の国際観光の発達					事前：なし 事後：なし		講義	
15	事業の総括					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： なし	参考文献： なし								
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（50%）、期末レポート等（50%）で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>歴史年表をながめること。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光文化論 (Tourism and Culture)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 観光と文化（社会）の様々な関係について、観光客という視点から観光活動の現状や歴史的な経緯、各種文化の特性等を踏まえて、よりよき観光文化形成のあり方について探求する。</p>									
<p>授業目標： 1. 観光客の行動特性、観光の効果について習得する。 2. よりよき観光文化の形成のあり方について習得する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	観光文化の構造					事後：今回の需要内容		講義	
2	観光文化の関連要素					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	観光の発生の構造					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	観光の発生の要因					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	観光旅行の行動形態					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	観光ルートと観光コース					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	観光コースと旅行商品					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	観光地の構造					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	観光地の変容構造					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	世界遺産と観光地の変容					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	災害と観光					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	観光旅行の変容					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	ユニバーサルツーリズム					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	観光の波及効果					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	よりよき観光文化の形成と地域振興					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
<p>教本： 各回プリント配布。</p>					<p>参考文献： 必要時に指示。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト等（40%）、定期試験（60%）に授業態度（参加状況等）を加味して総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： ここで扱う観光文化は、観光客が行動することにより形成されてくる総てであり、最も基本的なことでもある。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 マーケティング論 (Tourism Marketing)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	澤 田 利 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : マーケティング論は、モノやサービスの売れるしくみづくりを色々な側面から考える研究領域。 旅行・観光という消費者が事前に見本を見たり触ったりできない、イメージと期待感で売れる商品に応用可能なマーケティング手法を中心に講義を行う。 事例紹介は旅行・観光分野を中心に行う予定。									
授 業 目 標 : 旅行・観光分野に必要なマーケティングの基礎知識の習得と事例研究を通じた実践力と応用力の獲得。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式 (注)WS : 授 業 終 了 前 15 分 程 度 で、与 え ら れ た テー マ に つ い て 150 字 程 度 の 文 章 を 作 成 ・ 提 出									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	導 入 授 業 : 授 業 の 進 め 方 と 授 業 概 要 の 説 明					事 前 : 一 事 後 : 一		講 義	
2	マ ー ケ ティ ン グ 発 達 史、ま と め、WS ^(注)					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
3	マ ー ケ ティ ン グ の 基 礎 1 ニーズとシーズ、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
4	マ ー ケ ティ ン グ の 基 礎 2 環 境 分 析、3 C、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
5	マ ー ケ ティ ン グ の 基 礎 3 顧 客 分 析、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
6	マ ー ケ ティ ン グ の 基 礎 4 競 合 分 析、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
7	マ ー ケ ティ ン グ の 基 礎 5 STP、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
8	マ ー ケ ティ ン グ の 基 礎 6 4 P、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
9	市 場 調 査 1 定 量 調 査 の 手 法 と 特 徴、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
10	市 場 調 査 2 アンケート調査、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
11	市 場 調 査 3 定 性 調 査 の 手 法 と 特 徴、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
12	製 品 戦 略 の 基 礎 1 ヒット、ロングセラー商品、新商品、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
13	製 品 戦 略 の 基 礎 2 製 品 の ライフサイクル、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
14	製 品 戦 略 の 基 礎 3 ブランド、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
15	前 期 ま と め					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
教 本 : 教 科 書 は 使 用 し な い。プ リ ン ト を 配 付 す る。					参 考 文 献 : 適 宜、紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (小 テ ス ト、受 講 態 度 等) (50%) と 定 期 試 験 (50%) で 総 合 的 に 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講 義 が 一 方 通 行 に な ら ぬ よう Q & A の 時 間 を 毎 回 設 け る と 共 に 随 時 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン の 時 間 も と る 予 定。学 生 諸 君 の 積 極 的 な 参 加 を 期 待 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光マーケティング論 (Tourism Marketing)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鷲尾 裕子								
履 修 条 件	前提科目	(メディア情報文化学科の学生は後期開講分を履修すること)							
	その他	1 回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。指示のあった場合は、パソコンを持って来ること。地域観光論Ⅱ履修時のノートを使用する。事前学習に記載されたテーマについて考えたり、調べてくること。							
授業概要： ○マーケティングの基礎知識の習得、○観光まちづくり先進地の事例研究を盛り込む。ノートをしっかりと取ること。15回の授業終了時にはノートが1冊の資料集となるように丁寧にまとめること。課題発表ない場合は、単位は拾得できない。									
授業目標： 1. 観光まちづくりにおけるマーケティングの基本的な考え方の理解を深める。 2. マーケティングの一つの手法であるヒアリング調査の実施について学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション マーケティングとは。					事前：シラバスを読む 事後：ノートの確認		講義	
2	観光マーケティング事例研究① 神奈川県					事前：GWに行きたいところ 事後：ノートの確認		講義	
3	観光マーケティング事例研究② 神奈川県					事前：家族連れで行きたい 事後：ノートの確認		講義	
4	観光マーケティング事例研究③ 神奈川県					事前：地域観光論Ⅱの見直し 事後：ノートの確認		講義	
5	テーマパークとマーケティング (USJ)					事前：地域観光論Ⅱの見直し 事後：ノートの確認		講義	
6	テーマパークとマーケティング (県内事例)					事前：GWの人出 事後：ノートの確認		講義	
7	温泉とマーケティング (由布院温泉)					事前：地域観光論Ⅱの見直し 事後：ノートの確認		講義	
8	温泉とマーケティング (県内事例)					事前：アンケートの思い出 事後：ノートの確認		講義	
9	マーケティング調査の実施① アンケート調査票の作成					事前：他のアンケート調査 事後：ノートの確認		講義	
10	マーケティング調査の実施② アンケート調査事前準備					事前：調査のリハーサル 事後：ノートの確認		講義・演習	
11	マーケティング調査の実施③ アンケート調査実施					事前：調査のリハーサル 事後：ノートの確認		講義	
12	アンケート結果から考える					事前：アンケートに目を通す 事後：ノートの確認		講義	
13	アンケート結果のまとめ					事前：アンケートに目を通す 事後：ノートの確認		講義	
14	松蔭祭のテーマを考える (課題)					事前：松蔭祭のいいところ 事後：ノートの確認		講義	
15	課題の発表					事前：発表準備 事後：テスト準備		講義	
教本：					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。初回時、説明する。									
学生へのアドバイス： 観光まちづくりについての基礎知識の習得状況によっては、全国の観光資源についての復習を授業内に実施する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 マーケティング論 I (Tourism Marketing I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	澤 田 利 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : マーケティング論は、モノやサービスの売れるしくみづくりを色々な側面から考える研究領域。 旅行・観光という消費者が事前に見本を見たり触ったりできない、イメージと期待感で売れる商品に応用可能なマーケティング手法を中心に講義を行う。 事例紹介は旅行・観光分野を中心に行う予定。									
授 業 目 標 : 旅行・観光分野に必要なマーケティングの基礎知識の習得と事例研究を通じた実践力と応用力の獲得。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式 (注)WS : 授 業 終 了 前 15 分 程 度 で、与 え ら れ た テー マ に つ い て 150 字 程 度 の 文 章 を 作 成 ・ 提 出									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	導 入 授 業 : 授 業 の 進 め 方 と 授 業 概 要 の 説 明					事 前 : ー 事 後 : ー		講 義	
2	マ ー ケ ティ ン グ 発 達 史、ま と め、WS ^(注)					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
3	マ ー ケ ティ ン グ の 基 礎 1 ニーズとシーズ、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
4	マ ー ケ ティ ン グ の 基 礎 2 環 境 分 析、3 C、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
5	マ ー ケ ティ ン グ の 基 礎 3 顧 客 分 析、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
6	マ ー ケ ティ ン グ の 基 礎 4 競 合 分 析、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
7	マ ー ケ ティ ン グ の 基 礎 5 STP、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
8	マ ー ケ ティ ン グ の 基 礎 6 4 P、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
9	市 場 調 査 1 定 量 調 査 の 手 法 と 特 徴、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
10	市 場 調 査 2 アンケート調査、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
11	市 場 調 査 3 定 性 調 査 の 手 法 と 特 徴、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
12	製 品 戦 略 の 基 礎 1 ヒット、ロングセラー商品、新商品、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
13	製 品 戦 略 の 基 礎 2 製 品 の ライフサイクル、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
14	製 品 戦 略 の 基 礎 3 ブランド、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
15	前 期 ま と め					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
教 本 : 教 科 書 は 使 用 し な い。プ リ ン ト を 配 付 す る。					参 考 文 献 : 適 宜、紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (小 テ ス ト、受 講 態 度 等) (50%) と 定 期 試 験 (50%) で 総 合 的 に 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講 義 が 一 方 通 行 に な ら ぬ よ う Q & A の 時 間 を 毎 回 設 け る と 共 に 随 時 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン の 時 間 も と る 予 定。学 生 諸 君 の 積 極 的 な 参 加 を 期 待 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光マーケティング論Ⅰ (Tourism Marketing I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鷲尾 裕子								
履 修 条 件	前提科目	地域観光論Ⅱ (未取得者は相談してください) (観光文化学科の学生は前期開講分を履修すること)							
	その他	1 回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。指示のあった場合は、パソコンを持って来ること。地域観光論Ⅱ履修時のノートを使用する。事前学習に記載されたテーマについて考えたり、調べてくること。							
授業概要： ○マーケティングの基礎知識の習得、○観光まちづくり先進地の事例研究を盛り込む。ノートをしっかりと取ること。15回の授業終了時にはノートが1冊の資料集となるように丁寧にまとめること。課題発表ない場合は、単位は拾得できない。									
授業目標： 1. 観光まちづくりにおけるマーケティングの基本的な考え方の理解を深める。 2. マーケティングの一つの手法であるヒアリング調査の実施について学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション マーケティングとは。					事前：シラバスを読む 事後：ノートの確認		講義	
2	観光マーケティング事例研究①神奈川県					事前：GWに行きたいところ 事後：ノートの確認		講義	
3	観光マーケティング事例研究②神奈川県					事前：家族連れで行きたい 事後：ノートの確認		講義	
4	観光マーケティング事例研究③神奈川県					事前：地域観光論Ⅱの見直し 事後：ノートの確認		講義	
5	テーマパークとマーケティング (USJ)					事前：地域観光論Ⅱの見直し 事後：ノートの確認		講義	
6	テーマパークとマーケティング (県内事例)					事前：GWの人出 事後：ノートの確認		講義	
7	温泉とマーケティング (由布院温泉)					事前：地域観光論Ⅱの見直し 事後：ノートの確認		講義	
8	温泉とマーケティング (県内事例)					事前：アンケートの思い出 事後：ノートの確認		講義	
9	マーケティング調査の実施①アンケート調査票の作成					事前：他のアンケート調査 事後：ノートの確認		講義	
10	マーケティング調査の実施②アンケート調査事前準備					事前：調査のリハーサル 事後：ノートの確認		演習	
11	マーケティング調査の実施③アンケート調査実施					事前：調査のリハーサル 事後：ノートの確認		講義	
12	アンケート結果から考える					事前：アンケートに目を通す 事後：ノートの確認		講義	
13	アンケート結果のまとめ					事前：アンケートに目を通す 事後：ノートの確認		講義	
14	松蔭祭のテーマを考える (課題)					事前：松蔭祭のいいところ 事後：ノートの確認		講義	
15	課題の発表					事前：発表準備 事後：テスト準備		講義	
教本：					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。初回時、説明する。									
学生へのアドバイス： アンケート調査を予定している。プレ社会人としてしっかり臨むこと。 観光まちづくりについての基礎知識の習得状況によっては、全国の観光資源についての復習を授業内に実施する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光マーケティング論Ⅱ (Tourism Marketing Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	澤田 利彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： マーケティング論は、モノやサービスの売れるしくみづくりを色々な側面から考える研究領域です。旅行・観光は、消費者が事前に見本を見たり触ったりできない、イメージと期待感で売れる商品です。そのためマーケティングが特に大切な産業です。観光マーケティング論Ⅱでは、旅行・観光分野を中心に事例紹介も多数取りまぜる予定です。</p>									
<p>授業目標： 旅行・観光分野に必要なマーケティングの基礎知識の習得と事例研究を通じた実践力と応用力の獲得。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
<p>授業計画、事前学習・事後学習、形式 (注)WS：授業終了前15分程度で、与えられたテーマについて150字程度の文章を作成・提出</p>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	価格戦略の基礎1、まとめ、WS ^(注)					事前：— 事後：復習		講義	
2	価格戦略の基礎2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
3	プロモーション戦略の基礎1 まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
4	プロモーション戦略の基礎2 メディア、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
5	プロモーション戦略の基礎3 広告1、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
6	プロモーション戦略の基礎4 広告2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
7	プロモーション戦略の基礎5 広報PR1、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
8	プロモーション戦略の基礎6 広報PR2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
9	デスティネーション・マーケティング1、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
10	デスティネーション・マーケティング2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
11	デスティネーション・マーケティング3、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
12	宿泊業マーケティング、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
13	旅行業マーケティング、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
14	交通業マーケティング、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
15	後期まとめ					事前：予習 事後：復習		講義	
<p>教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。</p>					<p>参考文献： 適宜、紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（小テスト、受講態度等）（50％）と定期試験（50％）で総合的に評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 講義が一方通行にならぬようQ&Aの時間を毎回設けると共に随時ディスカッションの時間もとる予定。学生諸君の積極的な参加を期待します。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 マーケティング論 II (Tourism Marketing II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鷲 尾 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	観 光 マーケティング論 I (履 修 者 で 単 位 未 取 得 者 は 相 談 し て く だ さ い)							
	そ の 他	1 回 目 から 出 席 の こ と 。 出 席 の な い 場 合 は 、 履 修 を 認 め な い 。 松 蔭 祭 で の ヒアリング調査を予定している。指示があれば必ずパソコンを持って来ること。地域観光論 II 及び観光マーケティング論 I のノートを使用する。事前学習に記載されたテーマについて考えたり、調べてくること。							
授 業 概 要 :									
○ マーケティングの基礎知識の習得、○ 観光関連業種。企業の事例研究を盛り込む。ノートをしっかりと取り、15 回の授業終了時にはノートが 1 冊の資料集となるように丁寧にまとめること。課題発表ない場合は、単位は修得できない。									
授 業 目 標 :									
1. 観光まちづくりにおけるマーケティングの基本的な考え方を理解を深める。 2. マーケティングの一つの手法であるヒアリング調査の実施について学ぶ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 観光マーケティング論 I で学んだこと。					事前：シラバスを読む 事後：ノートの確認		講義	
2	イベントの実施報告書から学ぶ					事前：GW に行きたい 事後：ノートの確認		講義	
3	松蔭祭の報告書づくり (必要な項目、調査)					事前：家族連れで行きたい 事後：ノートの確認		講義	
4	ヒアリング調査					事前：地域観光論 II の見直し 事後：ノートの確認		講義・演習	
5	調査のまとめ					事前：地域観光論 II の見直し 事後：ノートの確認		講義	
6	報告書作成					事前：GW の人出 事後：ノートの確認		講義	
7	イベントとマーケティング					事前：地域観光論 II の見直し 事後：ノートの確認		講義	
8	イベント会社のマーケティング					事前：アンケートの思い出 事後：ノートの確認		講義	
9	旅行業者のマーケティング					事前：他のアンケート調査 事後：ノートの確認		講義	
10	宿泊業者のマーケティング					事前：調査のリハーサル 事後：ノートの確認		講義	
11	厚木市での新規イベント企画 (厚木市の特徴)					事前：グラフの種類 事後：ノートの確認		講義	
12	厚木市での新規イベント企画 (何を売るか)					事前：効果的なグラフの使い方 事後：ノートの確認		講義	
13	厚木市での新規イベント企画 (必要なマーケティング)					事前：あなたの町のキャッチフレーズ 事後：ノートの確認		講義	
14	厚木市での新規イベント企画づくり					事前：松蔭祭のいいところ 事後：ノートの確認		講義	
15	課題の発表					事前：発表準備 事後：テスト準備		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。適宜、資料を配付する。					講義時、適宜、紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。初回時、説明する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 松蔭祭の実施時期に合わせて、授業の進行を変更する可能性がある。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	韓 国 語 I (Korean I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	李 柱 憲								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 韓 国 語 の 文 字 と 発 音 な ど 基 礎 を し っ か り と 身 に 付 け 、 文 法 ・ 短 文 の 作 文 練 習 な ど を 行 う 。									
授 業 目 標 : 前 期 15 回 通 じ て 単 語 の 読 み 書 き が で き る こ と を 目 標 と す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1・2	ガイダンス&韓国語の概要 母音の形態と発音 (基本母音)					事前: 事後:p.8-9 母音を暗記		講義&演習	
3・4	子音の形態と発音 (基本子音)					事前: 事後:p.10-14 子音を暗記		講義&演習	
5	子音の形態と発音 (激音・濃音)					事前: 事後:p.15-19 子音を暗記		講義&演習	
6・7	パッチム (終声)					事前: 事後:p.20-24 読み方を暗記		講義&演習	
8	母音の形態と発音 (複合母音)					事前: 事後:p.25-27 母音を暗記		講義&演習	
9	発音変化の規則					事前: 事後:授業内容確認		講義&演習	
10	挨拶					事前: 事後:授業内容確認		講義&演習	
11	第1課 定義の表現 (文語の肯定文:叙述文・疑問文)					事前:p.41 暗記 事後:授業内容確認		講義&演習	
12	第2課 定義の表現 (文語の否定文)					事前:p.45、49 暗記 事後:授業内容確認		講義&演習	
13	第3課 定義の表現 (口語の肯定文・否定文)					事前:p.51、55 暗記 事後:授業内容確認		講義&演習	
14	間接引用文を使った定義の表現					事前: 事後:授業内容確認		講義&演習	
15	定義の表現まとめ					事前: 事後:授業内容確認		講義&演習	
教 本 : 1. 「できる韓国語 初級 I」 DEKIRU 出版					参 考 文 献 : プリントを配布する。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、 定 期 試 験 (80%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 授 業 で 学 習 し た 内 容 は 当 週 に 覚 え ま し ょ う 。 予 習 よ り 復 習 に 力 を 入 れ ま し ょ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 非 常 勤 講 師 室 に て 授 業 終 了 後 15 分 程 度 。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	韓 国 語 Ⅱ (Korean Ⅱ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	李 柱 憲								
履 修 条 件	前 提 科 目	韓 国 語 Ⅰ							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 文 法 ・ 短 文 の 作 文 練 習 な ど を 行 い 、 短 文 の 表 現 が で き る 能 力 を 養 う こ と を 目 指 し て 学 習 す る 。									
授 業 目 標 : 後 期 15 回 を 通 じ て 短 文 の 読 み 書 き が で き る こ と を 目 標 と す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	前 期 の 復 習 Ⅰ					事 前 : 事 後 : 授 業 内 容 確 認		講 義 & 演 習	
2	第 4 課 存 在					事 前 : p.57、61 暗 記 事 後 : 授 業 内 容 確 認		講 義 & 演 習	
3・4	第 5 課 存 在 と 位 置					事 前 : p.63 暗 記 事 後 : 授 業 内 容 確 認		講 義 & 演 習	
5・6	第 6 課 動 詞 の 現 在 形 (文 語)					事 前 : p.69、73 暗 記 事 後 : 授 業 内 容 確 認		講 義 & 演 習	
7	助 詞 「に」と「で」					事 前 : 事 後 : 授 業 内 容 確 認		講 義 & 演 習	
8	動 詞 の 並 列					事 前 : 事 後 : 授 業 内 容 確 認		講 義 & 演 習	
9	第 6 課 形 容 詞 の 現 在 形 (文 語)					事 前 : 事 後 : 授 業 内 容 確 認		講 義 & 演 習	
10	第 7 課 否 定 (文 語)					事 前 : p.75 暗 記 事 後 : 授 業 内 容 確 認		講 義 & 演 習	
11~13	第 9 課 動 詞 ・ 形 容 詞 の 現 在 形 (口 語)					事 前 : p.79、87 暗 記 事 後 : 授 業 内 容 確 認		講 義 & 演 習	
14	第 18 課 目 的 の 語 尾 「に」					事 前 : 事 後 : 授 業 内 容 確 認		講 義 & 演 習	
15	ま と め & 復 習					事 前 : 事 後 : 授 業 内 容 確 認		講 義 & 演 習	
教 本 : 1. 「で き る 韓 国 語 初 級 Ⅰ」 DEKIRU 出 版									
参 考 文 献 : プ リ ン ト を 配 布 す る 。									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、定 期 試 験 (80%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 授 業 で 学 習 し た 内 容 は 当 週 に 覚 え ま し ょ う 。 予 習 よ り 復 習 に 力 を 入 れ ま し ょ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 非 常 勤 講 師 室 に て 授 業 終 了 後 15 分 程 度 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	韓 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (Korean Communication)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 韓 国 語 の 挨拶 ・ 自 己 紹 介 な ど 自 分 の 意 志 表 現 が で き る 能 力 を 養 い 、 韓 国 語 で プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン が で き る こ と を 目 指 し て 学 習 す る 。									
授 業 目 標 : こ の 授 業 は 韓 国 語 の 理 解 を 目 標 と し 、 韓 国 語 で プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン の 技 術 を 並 行 し て 学 習 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、韓国語プレゼンテーションの意義と目標					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
2	プレゼンの準備					事前：プレゼンの注意事項 事後：教科書・資料の確認		講義	
3	韓国語で挨拶、自己紹介					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
4	第1回プレゼン実践①(個人)					事前：プレゼンの注意事項 事後：発表の振り返り		講義	
5	第1回プレゼン実践②(個人)					事前：プレゼンの注意事項 事後：発表の振り返り		講義	
6	プレゼンの効果的作成方法①					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
7	プレゼンの企画立案					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
8	プレゼンの構成の見直し					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
9	第2回プレゼン実践①(グループ)					事前：リハーサル 事後：教科書・資料の確認		講義	
10	第2回プレゼン実践②(グループ)					事前：リハーサル 事後：教科書・資料の確認		講義	
11	プレゼンの効果的作成方法②					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
12	プレゼンの効果的作成方法②と準備①					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
13	プレゼンの効果的作成方法②と準備①					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
14	第3回プレゼン実践①(個人)					事前：リハーサル 事後：発表の振り返り		講義	
15	第3回プレゼン実践②(個人)、まとめ					事前：リハーサル 事後：発表の振り返り		講義	
教 本 : 「ソウルアカデミー韓国語1、金宰郁他、蒼学舎、¥2,000」					参 考 文 献 : 「ソウルアカデミー韓国語1 Workbook、金宰郁他、蒼学舎、¥1,000」				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、作 品 ・ 発 表 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 語 学 は 聞 い て か ら 話 す も の の で と り あ え ず CD を 聞 く こ と で す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	韓 国 語 プレゼンテーション (Korean presentation)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 韓国語の挨拶・自己紹介など自分の意志表現ができる能力を養い、韓国語でプレゼンテーションができることを目指して学習する。									
授 業 目 標 : この授業は韓国語の理解を目標とし、韓国語でプレゼンテーションの技術を並行して学習する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、韓国語プレゼンテーションの意義と目標					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
2	プレゼンの準備					事前：プレゼンの注意事項 事後：教科書・資料の確認		講義	
3	韓国語で挨拶、自己紹介					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
4	第1回プレゼン実践①(個人)					事前：プレゼンの注意事項 事後：発表の振り返り		講義	
5	第1回プレゼン実践②(個人)					事前：プレゼンの注意事項 事後：発表の振り返り		講義	
6	プレゼンの効果的作成方法①					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
7	プレゼンの企画立案					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
8	プレゼンの構成の見直し					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
9	第2回プレゼン実践①(グループ)					事前：リハーサル 事後：教科書・資料の確認		講義	
10	第2回プレゼン実践②(グループ)					事前：リハーサル 事後：教科書・資料の確認		講義	
11	プレゼンの効果的作成方法②					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
12	プレゼンの効果的作成方法②と準備①					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
13	プレゼンの効果的作成方法②と準備①					事前：教科書の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
14	第3回プレゼン実践①(個人)					事前：リハーサル 事後：発表の振り返り		講義	
15	第3回プレゼン実践②(個人)、まとめ					事前：リハーサル 事後：発表の振り返り		講義	
教 本 : 「ソウルアカデミー韓国語1、金宰郁他、蒼学舎、¥2,000」					参 考 文 献 : 「ソウルアカデミー韓国語1 Workbook、金宰郁他、蒼学舎、¥1,000」				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、作 品 ・ 発 表 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 語 学 は 聞 い て か ら 話 す も の の で と り あ え ず CD を 聞 く こ と で す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	韓国文化研究A (Korean Study A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	李 柱憲								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 韓国の歴史と文化や韓国人の思考、生活などを紹介していきます。									
授業目標： 韓国の異文化を理解し、グローバルな考え方を育てることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	歴史：現代史（朝鮮戦争）					事前：テーマ関連質問用意 事後：		講義	
3・4	歴史：現代史（南北関係）					事前：テーマ関連質問用意 事後：		講義	
5	文字（ハングル）とパソコンの打ち方					事前：テーマ関連質問用意 事後：		講義&体験	
6・7	世界遺産と歴史名所					事前：テーマ関連質問用意 事後：		講義	
8・9	伝統文化					事前：テーマ関連質問用意 事後：		講義	
10	大衆文化（コンテンツ産業&日本大衆文化開放）					事前：テーマ関連質問用意 事後：		講義	
11~13	大衆文化（映画）					事前：テーマ関連質問用意 事後：		講義&体験	
14・15	大衆文化（TV放送とDrama）					事前：テーマ関連質問用意 事後：		講義&体験	
教本： プリント配布。					参考文献： 1. 「韓国を知る辞典」（金容権、東海大学出版会） 2. 徹底比較「日本VS韓国」（高月靖、河出書房新社）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日ごろ気になった韓国の文化や韓国人の考え方について積極的に質問し討論しましょう。									
オフィスアワー： 非常勤講師室にて授業終了後15分程度。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	韓 国 文 化 研 究 B (Korean Study B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	李 柱 憲								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 韓 国 の 歴 史 と 文 化 や 韓 国 人 の 思 考 や 生 活 な ど を 紹 介 し て い き ま す 。									
授 業 目 標 : 韓 国 の 異 文 化 を 理 解 し 、 グ ロ ー バ ル な 考 え 方 を 持 て る こ と を 目 標 と す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	経 済 と 産 業					事 前 : テ ー マ 関 連 質 問 用 意 事 後 :		講 義	
2・3	社 会 I (政 治 と 民 主 化)					事 前 : テ ー マ 関 連 質 問 用 意 事 後 :		講 義	
4	社 会 II (教 育)					事 前 : テ ー マ 関 連 質 問 用 意 事 後 :		講 義	
5	社 会 (冠 婚 葬 祭 ・ 民 間 信 仰 ・ 宗 教)					事 前 : テ ー マ 関 連 質 問 用 意 事 後 :		講 義	
6・7	社 会 と 生 活					事 前 : テ ー マ 関 連 質 問 用 意 事 後 :		講 義	
8・9	ス ポ ー ツ					事 前 : テ ー マ 関 連 質 問 用 意 事 後 :		講 義	
10	韓 国 人 の 人 間 関 係 と 呼 称					事 前 : テ ー マ 関 連 質 問 用 意 事 後 :		講 義	
11・12	大 衆 文 化 (K-POP)					事 前 : テ ー マ 関 連 質 問 用 意 事 後 :		講 義	
13	大 衆 文 化 (演 歌)					事 前 : テ ー マ 関 連 質 問 用 意 事 後 :		講 義	
14	伝 統 遊 び & 娯 楽					事 前 : テ ー マ 関 連 質 問 用 意 事 後 :		講 義 & 体 験	
15	飲 食 文 化					事 前 : テ ー マ 関 連 質 問 用 意 事 後 :		講 義	
教 本 : プ リ ン ト 配 布 。					参 考 文 献 : 1. 「韓 国 を 知 る 辞 典」(金 容 権、東 海 大 学 出 版 会) 2. 徹 底 比 較 「日 本 VS 韓 国」(高 月 靖、河 出 書 房 新 社)				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 日 ご ろ 気 に な っ た 韓 国 の 文 化 や 韓 国 人 の 考 え 方 に つ い て 積 極 的 に 質 問 し 討 論 し ま し ょ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 非 常 勤 講 師 室 に て 授 業 終 了 後 15 分 程 度 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	監 査 論 (Auditing)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 塚 良 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 財 務 諸 表 の 解 説 から 出 発 し、監 査 論 の 全 体 像 と 企 業 会 計 制 度 と の か か わ り に つ い て 解 説 し ま す。									
授 業 目 標 : 財 務 諸 表 の 適 正 性 を 保 証 す る 監 査 の 概 要 に つ い て 理 解 を 深 め る こ と を 目 標 と し ま す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 会計監査とは何か、会計制度との関係について学びます。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
2	財務諸表の復習Ⅰ 会計監査が対象とする財務諸表について解説します。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
3	財務諸表の復習Ⅱ 第2回の講義を踏まえて、財務諸表への理解を更に深めます。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
4	経済事件の発生と会計監査 会計制度を揺るがした粉飾決算の歴史を概説します。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
5	コーポレートガバナンスと会計監査 経営者を規律する制度と監査の関係について学びます。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
6	内部統制 会社内部で不正を防止する仕組みや制度を学びます。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
7	企業財務とディスクロージャー制度 資本市場を支える制度インフラとしての会計制度を学びます。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
8	会計監査の必要性 会計制度を支える会計監査の必要性について解説します。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
9	監査を取り巻く制度 会計監査を規制する法律や制度について学習します。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
10	会計監査の担い手としての公認会計士 会計監査を担う公認会計士制度について概観します。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
11	監査を取り巻く組織 会計監査を支える組織や組織を規制する制度を学びます。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
12	一般に認められた会計原則Ⅰ 財務諸表作成の拠り所となる会計原則について解説します。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
13	一般に認められた会計原則Ⅱ 第12回を基に、会計原則への理解を深めます。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
14	監査概念 監査の概念について解説します。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
15	総括 前期の学習を振り返り、知識の再確認を行います。					事前：なし 事後：配布レジюме復習		講義	
教本： レジюме配布。					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト (50%)、レポート (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 新聞やテレビニュースを毎日チェックする習慣が監査論への理解を深めます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。 講義終了後、講師控室で対応します。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	漢 学 研 究 Ⅰ (Classical Chinese Ⅰ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 村 貴 博								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	漢 和 辞 典 を 持 参 す る こ と。							
授 業 概 要 :									
漢 和 辞 典 を 引 き な が ら、返 り 点 ・ 送 り 仮 名 に 従 っ て 漢 詩 文 を 読 解 し、中 国 文 学 の 特 色 と 日 本 に 与 え た 影 響 を 理 解 す る。									
授 業 目 標 :									
訓 点 の 付 いた 漢 文 を 書 き 下 し 文 に し て、口 語 訳 で き る よ う に な る こ と。 漢 和 辞 典 を 使 い こ な せ る よ う に な る こ と。漢 詩 文 の 基 礎 知 識 を 習 得 す る こ と。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、孟浩然「春曉」					事前：教科書の用意 事後：学習内容の復習		講義	
2	「漢文の基本構造」、「訓読の仕方」(1)「置き字」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
3	訓読の仕方(2)「再読文字」、「成句・格言を読む」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
4	故事成語(1)「虎の威を借る狐」(『戦国策』)					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
5	故事成語(2)「蛇足」(『戦国策』)					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
6	漢詩(1) 王維「送元二使安西」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
7	漢詩(2) 李白「送孟浩然之廣陵」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
8	漢詩(3) 杜甫「春望」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
9	思想(1)『論語』(1)「学」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
10	思想(2)『論語』(2)「政」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
11	思想(3)『論語』(3)「仁」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
12	散文(1) 韓愈「雑説」(1)					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
13	散文(2) 韓愈「雑説」(2)					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
14	講義内容の総括、試験事前指導					事前：学習内容の復習 事後：試験対策学習		演習	
15	期末試験、およびその事後指導。					事前：試験対策学習 事後：試験の復習		試験	
教 本 :					参 考 文 献 :				
三上英司編著『詳説漢文句法』(筑摩書房) 田部井文雄ほか『漢詩漢文小百科』(大修館書店)					戸川芳郎監修『全訳漢辞海』(三省堂)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (25%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (25%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
わ か ら な い 言 葉 は 辞 書 で 調 べ る 習 慣 を 身 に 付 け よ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	漢 学 研 究 II (Classical Chinese II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 村 貴 博								
履 修 条 件	前 提 科 目	漢 学 研 究 I							
	そ の 他	漢 和 辞 典 を 持 参 す る こ と。							
授 業 概 要 : 漢 和 辞 典 を 引 き な が ら、返 り 点 ・ 送 り 仮 名 に 従 っ て 漢 詩 文 を 読 解 し、中 国 文 学 の 特 色 と 日 本 に 与 え た 影 響 を 理 解 す る こ と。									
授 業 目 標 : 訓 点 の 付 いた 漢 文 を 正 確 に 書 き 下 し 文 に し て、口 語 訳 で き る よ う に な る こ と。 漢 和 辞 典 を 使 い こ な せ る よ う に な る こ と。漢 詩 文 の 基 礎 知 識 を 習 得 す る こ と。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、小話「饅頭を畏る」(『笑府』)					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		講義	
2	史話「晏子之御」(『史記』)					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
3	故事成語「孟母断機」(『列女伝』)					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
4	漢詩(1) 李白「静夜思」「子夜呉歌」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
5	漢詩(2) 王維「九月九日憶山東兄弟」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
6	漢詩(3) 杜甫「登高」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
7	思想(1) 孟子「性善説」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
8	思想(2) 荀子「性悪説」					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
9	思想(3) 『老子』第十八章、第七十八章					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
10	思想(4) 『老子』第八十章					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
11	思想(5) 『莊子』					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
12	散文(1) 屈原「漁父辞」(1)					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
13	散文(2) 屈原「漁父辞」(2)					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
14	講義内容の総括、期末試験事前指導					事前：配布プリントの予習 事後：学習内容の復習		演習	
15	期末試験、およびその事後指導					事前：試験対策学習 事後：試験の復習		試験	
教 本 : 三上英司編著『詳説漢文句法』(筑摩書房) 田部井文雄ほか『漢詩漢文小百科』(大修館書店)					参 考 文 献 : 戸川芳郎監修『全訳漢辞海』(三省堂)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (25%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (25%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : わ か ら ない 言 葉 は 辞 書 で 調 べ る 習 慣 を 身 に 付 け よ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	管理会計論 (Managerial Accounting)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記原理Ⅰ、Ⅱ、経営管理論Ⅰ、Ⅱ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>この講義では、企業の目的とそれを達成するために遂行される経営者職能と会計の役立ちを論ずる。企業の活動は、資金の調達から生産・販売・流通に至る広範囲なものであり、最近では製品の廃棄処分に至るまでの過程を考慮することが求められるようになってきている。このような活動を計画しそれを実現・統制するために経営者が存在する。経営者職能は経営の階層によってそれぞれ異なるが、各階層での職務を効率的に遂行するために会計情報が必要とされる。</p> <p>管理会計とは、この会計情報をいう。この講義では、Top Managementの職能に焦点を当てて講義を行う。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>企業の経営管理者にとってその職務遂行に会計情報は、必須のものである。この講義では、経営者の職務・目的の理解とその遂行に必要な会計情報の関連を論ずる。企業経営で行われる管理会計の実務を理解し、その基礎にある考え方を理解することを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	序					事前：テキストの予習 事後：管理会計の理解		講義	
2	財務会計と管理会計					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
3	企業とその目標					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
4	会計情報システム					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
5	管理会計の意義					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
6	経営者職能					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
7	意思決定と計画					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
8	統制					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
9	問題発見のための会計 ①					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
10	問題発見のための会計 ②					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
11	問題発見のための会計 ③					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
12	収益性分析 ①					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
13	安全性分析 ②					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
14	安全性分析 ①					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
15	生産性分析 ②					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
<p>教本：</p> <p>1. 「管理会計」 岡本・広本・尾畑・俣著 中央経済社</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜指示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20％）定期試験（80％）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>休まないことと、予習・復習の実施を希望する。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企 業 金 融 論 I (Corporate Finance I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	白 川 満 伸								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 企 業 金 融 論 I で は、主 に 他 人 資 本 調 達 す な わ ち 金 融 機 関 か ら の 借 り 入 れ や 社 債 に よ る 資 金 調 達 を 取 り 上 げ ま す。な お、企 業 金 融 論 II で は、内 部 金 融 や 株 式 金 融 を 取 り 扱 い ま す。									
授 業 目 標 : 「 企 業 が ど の よ う な 資 金 を 必 要 と し、そ れ を ど の よ う な 手 段 に よ っ て 調 達 す る の か 」 と い う 資 金 調 達 の 問 題 を 中 心 に し て 授 業 を 進 め ま す。で き る だ け 抽 象 理 論 を 避 け、我 が 国 企 業 の 実 態 に 即 し た 問 題 を 取 り 上 げ ま す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2	企 業 金 融 と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
3	株 式 会 社 の 特 徴					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
4	企 業 の 資 金 需 要					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
5	資 金 調 達 の 形 態 ① 内 部 資 金					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
6	資 金 調 達 の 形 態 ② 外 部 資 金					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
7	財 務 諸 表 の 見 方					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
8	キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
9	借 入 金 の 種 類					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
10	利 息 の 計 算 方 法					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
11	メ イ ン バ ン ク 制					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
12	担 保					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
13	社 債 と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
14	社 債 の 種 類、格 付 け					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
15	ま と め					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
教 本 : 1. 中 島 真 志 著 「 入 門 企 業 金 融 論 」 東 洋 経 済 新 報 社、2,800 円					参 考 文 献 : 追 っ て 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 ① 平 常 点 30%、 ② 筆 記 試 験 成 績 70%									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 企 業 金 融 論 II も 履 修 す る こ と を 希 望 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企 業 金 融 論 II (Corporate Finance II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	白 川 満 伸								
履 修 条 件	前 提 科 目	企 業 金 融 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 企 業 金 融 論 I で 学 ん だ 知 識 を 前 提 と し て 、 企 業 金 融 論 II で は 、 自 己 資 本 調 達 す な わ ち 自 己 金 融 と 株 式 金 融 を 中 心 に 取 り 上 げ ま す 。									
授 業 目 標 : 「 企 業 が ど の よ う な 資 金 を 必 要 と し 、 そ れ を ど の よ う な 手 段 に よ っ て 調 達 す る の か 」 と い う 資 金 調 達 の 問 題 を 中 心 に し て 授 業 を 進 め ま す 。 で き る だ け 抽 象 理 論 を 避 け 、 我 が 国 の 実 態 に 即 した 問 題 を 取 り 上 げ ま す 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2	株 式 発 行 の 枠 組 み					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
3	株 主 の 権 利					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
4	株 価					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
5	株 式 の 種 類 ①					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
6	株 式 の 種 類 ②					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
7	株 式 公 開					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
8	企 業 の 合 併 ・ 買 収					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
9	自 己 金 融 ① 内 部 留 保					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
10	自 己 金 融 ② 減 価 償 却					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
11	ア セ ッ ト ・ フ ァ イ ナ ン ス					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
12	資 産 の 流 動 化 ・ 証 券 化					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
13	ベン チャ ー ・ フ ァ イ ナ ン ス ①					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
14	ベン チャ ー ・ フ ァ イ ナ ン ス ②					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
15	ま と め					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
教 本 : 1. 中 島 真 志 著 「 入 門 企 業 金 融 論 」 東 洋 経 済 新 報 社 、 2,800 円					参 考 文 献 : 追 っ て 紹 介 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 ① 平 常 点 30%、 ② 筆 記 試 験 成 績 70%									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 企 業 金 融 論 I も 履 修 す る こ と を 希 望 し ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企 業 組 織 法 I (Corporate Law I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	藤 原 俊 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>企業組織法とは会社法のことです。会社法とは、会社という企業の組織・運営に関する法律であり、会社を通じた経済活動のインフラを提供するというかたちで、国民経済にとって極めて重要な役割を果たしています。この講義ではそのような会社法の内容について学習します。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>本講義では、会社とくに株式会社に関する法制度を学習することによって、受講生が会社法に関する法の規制について基本的な知識、会社法の考え方を習得することを目標としています。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 会社とは					事前 事後：復習		講義	
2	会社の種類					事前 事後：復習		講義	
3	株式会社の設立手続の流れ					事前 事後：復習		講義	
4	発起設立と募集設立					事前 事後：復習		講義	
5	株式とは何か 株券とは					事前 事後：復習		講義	
6	株式の種類 その利用目的					事前 事後：復習		講義	
7	株主の権利 反対株主の株式買取請求権など					事前 事後：復習		講義	
8	株式会社の機関 なぜ機関が必要なのか					事前 事後：復習		講義	
9	株主総会 総会の招集手続 総会の決議事項					事前 事後：復習		講義	
10	総会の議題と議案 総会決議の瑕疵					事前 事後：復習		講義	
11	取締役、取締役会 取締役会の決議事項					事前 事後：復習		講義	
12	代表取締役 表見代表取締役					事前 事後：復習		講義	
13	監査役 会計監査人 会計参与					事前 事後：復習		講義	
14	監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社					事前 事後：復習		講義	
15	執行役 代表執行役					事前 事後：復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
丸山秀平『やさしい会社法第13版』(法学書院 2017、¥2,000)					授業の際に適宜紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、定 期 試 験 (80%) 等 で 総 合 評 価 す る。な お、と き お り 小 テ ス ト を 行 う こ と が あ り ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 授 業 へ の 集 中 と 事 後 の 復 習 は 欠 か せ ま せ ぬ。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	企業組織法Ⅱ (Corporate Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤原 俊雄								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>企業組織法とは会社法のことです。会社法とは、会社という企業の組織・運営に関する法律であり、会社を通じた経済活動のインフラを提供するというかたちで、国民経済にとって極めて重要な役割を果たしています。この講義ではそのような会社法の内容について学習します。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>本講義では、会社とくに株式会社に関する法制度を学習することによって、受講生が会社法に関する法の規整について、知識を習得することを目標としています。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	競争取引・利益相反取引					事前： 事後：復習		講義	
2	取締役の報酬規制					事前： 事後：復習		講義	
3	役員等の会社に対する責任					事前： 事後：復習		講義	
4	役員等の第三者に対する責任					事前： 事後：復習		講義	
5	株主代表訴訟制度					事前： 事後：復習		講義	
6	会社の計算 貸借対照表・損益計算書 配当規制					事前： 事後：復習		講義	
7	募集株式の発行等 募集事項の決定・割当て・出資の履行等					事前： 事後：復習		講義	
8	募集株式の不正発行等 どのような場合を不正というのか					事前： 事後：復習		講義	
9	新株予約権 新株予約権とはどのような権利か					事前： 事後：復習		講義	
10	新株予約権の発行 募集事項の決定等					事前： 事後：復習		講義	
11	新株予約権の不正発行 どのような場合が「不正」なのか					事前： 事後：復習		講義	
12	組織再編(1) 事業譲渡・合併					事前： 事後：復習		講義	
13	組織再編(2) 会社分割・株式交換・株式移転					事前： 事後：復習		講義	
14	社債 社債とは 社債管理者・社債権者集会					事前： 事後：復習		講義	
15	会社の解散と清算 清算手続 会社解散命令					事前： 事後：復習		講義	
<p>教本：</p> <p>丸山秀平『やさしい会社法第13版』（法学書院 2017、¥2,000）</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業の際に適宜紹介します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（20%）、定期試験（80%）で評価します。ときおり小テストをすることがあります。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業への集中と事後の復習が不可欠です。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	企業ファイナンス法 I (Corporate Finance Law I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金子 勲								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： この講義では、企業の資金調達（ファイナンス）方法にはどのようなものがあるのか、その方法・仕組みに関する基本知識と、それぞれの方法につき問題となる法律の基礎を解説する。・ファイナンスに関する法律は膨大な法領域を形成しているので、関連する諸法をファイナンスという視点から再構成し、会社、契約、有価証券、市場という四つのキーワードをもとに展開することにする。									
授業目標： この講義においては、企業とりわけ会社その資金を調達する（ファイナンス）際に関係する法のシステムについて、基礎的な知識を習得することを目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンスおよび講義内容の学科カリキュムにおける位置づけ					事前：シラバス精読 事後：シラバス再読		講義	
2	「企業ファイナンス」そして「企業ファイナンス法」とは何か					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
3	企業をめぐる法にはどのようなものがあるか					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
4	企業のうち会社とは何か、とくに会社が法人であるという意味を理解する					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
5	会社が資金を調達するにはどのような方法があるか					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
6	資金調達と契約：民法					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
7	資金調達と有価証券：商法・有価証券法					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
8	資金調達と会社組織：会社法・商法					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
9	資金調達と市場：金融商品取引法					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
10	資金調達と会社法の役割					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
11	株式とは何か					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
12	株式による資金調達①：株式に関する規整のあらまし					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
13	株式による資金調達②：新株発行・自己株式等					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
14	社債とは何か、社債による資金調達					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
15	企業ファイナンスの諸問題、「企業ファイナンス法Ⅱ」への橋渡し					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
教本： 使用しないが、毎回、講義時にレジユメを配布する。					参考文献： 1. 講義中に必要に応じ紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（20%）、定期試験等（80%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 熱心な聴講を期待する。 講時のマナーについては各自考えておくこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	企業ファイナンス法Ⅱ (Corporate Finance Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金子 勲								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>この講義では、主として金融商品取引法について、その適用範囲を画する概念である「有価証券」等について説明した上で、株式等が売買される市場に関する規整を中心に、その内容を解説する。市場について、どのような規整の仕組みが設けられているのか、何を目的としてこうした規整が行われるのか、この部分に力点を置いて講義を展開したい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>この講義は、企業ファイナンス法Ⅰに接続する科目として、金融商品取引法についての基礎的理解を得ることを目指す。証券市場（資本市場）における資金調達を中心のテーマとなり、基礎となる「証券」・「市場」という仕組み・機構について理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス:講義内容の学科カリキュムにおける位置づけ					事前：シラバス精読 事後：シラバス再読		講義	
2	「企業ファイナンス法Ⅰ」の発展として「同法Ⅱ」では何を問題にするのか					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
3	「証券」とは何か、企業ファイナンスにおける「証券」の役割を理解する					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
4	資本・証券市場とは何か、その仕組み・機能を考える					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
5	資本・証券市場と「金融商品取引法」、「金融商品取引法」とはどのような法律か					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
6	「金融商品取引法」と「会社法」はどう違うか					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
7	企業の資金調達と「金融商品取引法」、規整の仕組み					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
8	上場会社とは何か、金融商品取引所の自主規制					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
9	企業内容開示制度の概要①：発行市場における開示					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
10	企業内容開示制度の概要②：流通市場における開示					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
11	株式の公開買付けとは何か					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
12	不公正な証券取引①、インサイダー取引					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
13	不公正な証券取引②、相場操縦等					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
14	企業ファイナンスと会計制度					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
15	まとめ—企業のファイナンス活動と公正な市場					事前：配布資料通読 事後：資料により内容要約		講義	
<p>教本：</p> <p>使用しないが、毎回、講義時にレジユメを配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>講義中に必要に応じ紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（20%）、定期試験等（80%）で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>熱心な聴講を期待する。 講時のマナーについては各自考えておくこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	企業文化論 I (Corporate Culture I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 個人にも個性があるように、企業も個々に企業文化を有しアイデンティティの確立を図っています。またその一方で、従来の組織構造、コントロール・システム、評価システム、戦略技法の枠組みでは捉えきれない世界を考察するためにも、企業文化の視点の重要性が指摘されています。そこで、この授業では、まず企業文化に関する諸問題を洗い出し、次いでそれらを理解する枠組みを歴史的・理論的視点から整理したうえで、企業文化論の内容を具体的に学習していきます。									
授業目標： 企業文化論のフレームワークを通して企業文化理解の基礎力を要請します。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	企業文化論の背景					事前：シラバス 事後：ノート		講義	
2	企業文化論の諸相					事前：教科書 事後：ノートおよび教科書		講義	
3	企業文化論の生成 (1)					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
4	企業文化論の生成 (2)					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
5	企業文化概念——概念の多義・多様性と定義づけ					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
6	企業文化の構成要素と構造 (1)					事前：教科書 事後：ノートおよび教科書		講義	
7	企業文化の構成要素と構造 (2)					事前：教科書 事後：ノートおよび教科書		講義	
8	企業文化の機能 (1)					事前：教科書 事後：ノートおよび教科書		講義	
9	企業文化の機能 (2)					事前：教科書 事後：ノートおよび教科書		講義	
10	企業文化の逆機能					事前：教科書 事後：ノートおよび教科書		講義	
11	企業文化の類型 (1)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
12	企業文化の類型 (2)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
13	企業文化のダイナミズム (1)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
14	企業文化のダイナミズム (2)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
15	企業と文化、企業の文化					事前：教科書 事後：ノートおよび教科書		講義	
教本： 1. E. H. シャイン『企業文化』白桃書房、¥2,800+税					参考文献： 授業の中で随時紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価します。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	企業文化論 I (Corporate Culture I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 毅								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>企業の発展にとって、企業文化が大きく関係していることを解明する。企業は発展のゆえに崩壊する。企業文化は企業の崩壊にも関係している。この矛盾を解消するのが、トヨタの矛盾力の経営である。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>企業の倒産は企業文化に問題があること。企業の発展と生き残りに企業文化が不可欠であることを理解することが出来る。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	企業文化の歴史ーバーナード、人間関係論者、文化人類学者、エクセレント・カンパニー、シンボリック・マネジャー					事前：なし 事後：なし		講義	
2	企業倒産と企業文化の劣化					事前：なし 事後：なし		講義	
3	企業文化力は企業の神経系					事前：なし 事後：なし		講義	
4	企業文化力がしめす企業力のシグナル					事前：なし 事後：なし		講義	
5	企業文化に影響した農業思想					事前：なし 事後：なし		講義	
6	日本の企業文化に潜む危険性					事前：なし 事後：なし		講義	
7	企業の進化論的な発展と組織パラダイムの転換					事前：なし 事後：なし		講義	
8	企業進化論からみる企業文化力					事前：なし 事後：なし		講義	
9	主要企業の永続的競争優位の実態					事前：なし 事後：なし		講義	
10	産業別永続的競争優位性の評価					事前：なし 事後：なし		講義	
11	企業文化力の社会学的分析					事前：なし 事後：なし		講義	
12	トヨタの矛盾力の経営 (1)ー結合力					事前：なし 事後：なし		講義	
13	トヨタの矛盾力の経営 (2)ー拡張力					事前：なし 事後：なし		講義	
14	企業文化の本質					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ、総括講義					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>1. 勝又壽良・篠原勲『企業文化力と経営新時代』</p>					<p>参考文献：</p> <p>1. E. H. シャイン『企業文化』白桃書房</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>寝ている学生、携帯電話、私語等に夢中な学生は退室してもらいます。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	企業文化論Ⅱ (Corporate Culture Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 「企業文化のダイナミズムを読み解き、そのダイナミズムをマネジメントすることがリーダーないし経営者の仕事である」と言われます。その意味の理解を事例・モデル学習によりながら深め、企業が自らの文化の確認・形成・再生・変革・創造を行う過程で「変わらぬもの」と「変わるもの」の見極めを通して企業文化のあり方を追求している姿を見ていきます。									
授業目標： 企業文化の構造と機能の理解を深め、企業文化のダイナミズムをマネジメントする応用力を養成します。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	企業文化のダイナミズムとリーダーシップ					事前：教科書 事後：ノートおよび教科書		講義	
2	企業文化の形成と定着					事前：教科書 事後：ノートおよび教科書		講義	
3	事例学習1 ――アサヒビールの再生(1)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび教科書		講義	
4	事例学習1 ――アサヒビールの再生(2)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび教科書		講義	
5	企業文化の固定化と逆機能					事前：教科書 事後：ノートおよび教科書		講義	
6	事例学習2 ――三菱自動車の不祥事(1)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
7	事例学習2 ――三菱自動車の不祥事(2)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
8	企業文化の変革					事前：教科書 事後：ノートおよび教科書		講義	
9	事例学習3 ――パナソニックの変革(1)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
10	事例学習3 ――パナソニックの変革(2)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
11	エスノグラフィ解析(1)――H.ミンツバーク『マネージャーの仕事』					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
12	エスノグラフィ解析(2)――G.クンダ『洗脳のマネジメント』					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
13	企業文化論における個人と組織(1)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
14	企業文化論における個人と組織(2)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
15	企業文化論のこれから					事前：教科書 事後：ノートおよび教科書		講義	
教本： 1. E. H. シャイン『企業文化』白桃書房、¥2,800+税					参考文献： 授業の中で随時紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価します。 授業内容への参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(60%)等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企 業 文 化 論 II (Corporate Culture II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 毅								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 企 業 の ケー ス ・ ス タ デ イ の 検 証 か ら 、 企 業 文 化 の 重 要 性 を 証 明 す る 。 創 業 者 の 経 営 理 念 の 継 承 が 企 業 永 続 の 要 で あ る こ と が 理 解 で き る 。 し か し 、 社 会 ・ 政 治 ・ 経 済 の セ ク タ ー に お け る 変 化 に 適 応 で き な い 企 業 文 化 は 、 企 業 を 崩 壊 へ と 導 く 。									
授 業 目 標 : 具 体 的 企 業 の ケー ス ・ ス タ デ イ か ら 企 業 文 化 の 重 要 性 を 明 ら か に す る 。 更 に 、 飛 躍 的 企 業 の ケー ス ・ ス タ デ イ か ら 、 そ の 企 業 文 化 の 本 質 を 明 ら か に す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	企 業 文 化 の 重 要 性 — 企 業 の ケー ス ・ ス タ デ イ か ら の 検 証					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2	サ ン ト リ ー 、 ソ ニ ー 、 ホ ン ダ 、 京 都 企 業					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
3	東 レ 、 日 清 紡 ホ ー ル デ ン グ 、 ユ ニ ク ロ					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
4	ヤ マ ト ホ ー ル デ ン グ					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
5	武 田 薬 品 、 エ ー ザ イ 、 パ ナ ソ ニ ッ ク ス					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
6	イ ト ー ヨ ー カ 堂 グ ル ー プ 、 セ プ ン ア イ ・ ホ ー ル デ ン グ					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
7	カ ネ ボ ウ 、 日 本 航 空					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
8	シ ュ ナ イ ダ ー エ レ ク ト リ ッ ク 、 ザ ラ 、 B M W					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
9	飛 躍 型 企 業 の 登 場 と 没 落 す る 企 業 : イ リ ジ ュ ウ ム 、 コ グ ッ ク 、 ポ ラ ロ イ ド 、 フ ィ ル コ 、 ノ キ ア					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
10	飛 躍 型 企 業 の ケー ス ・ ス タ デ イ : グ ー グ ル 、 フェ イ ス ブ ッ ク 、 ス テ ラ 、 ウ ー バ ー 、 オ キ ュ ラ ス リ フ ト					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
11	飛 躍 型 企 業 の 最 新 テ ク ノ ロ ジ ー を 駆 使 す る 企 業 文 化 の 登 場					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
12	人 工 知 能 の 発 展 と シ ン ジ ュ ラ リ テ イ					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
13	飛 躍 型 企 業 文 化 を 導 入 す る 企 業 : コ カ ・ コ ー ラ 、 ハ イ ア ー ル 、 ガ ー デ イ ア ン 、 G E 、 ア マ ゾ ン 、 ザ ッ ポ ス 、 タ ン ジ ェ リ ア ン					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
14	ブ レ ー ク ス ル ー 技 術 : セ ン サ ー 、 I O T 、 人 工 知 能 、 仮 想 現 実 、 ニ ュ ロ フ ィ ー ル ド バ ッ ク 、 3 D 、 ロ ボ ッ ト カ ー 、 決 済 シ ス テ ム					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
15	イ ノ ベ ー シ ョ ン の 自 動 化 ・ 限 界 費 用 ゼ ロ 下 に お け る 変 貌 す る 企 業 と 包 括 的 企 業 文 化					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
教 本 : 1. 前 掲 『 企 業 文 化 力 と 経 営 新 時 代 』 、 サ リ ム ・ イ ス マ イ ル 他 『 飛 躍 す る 方 法 』 日 経 B P									
参 考 文 献 : 成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%) 、 定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 寝 て い る 学 生 、 携 帯 電 話 、 私 語 等 に 夢 中 な 学 生 は 退 室 し て も ら い ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年次 通年	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	基礎ゼミ I (Preliminary Seminar I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員									
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>初めての大学生活に適応できるように、ポートフォリオによる自己管理をしながら自己肯定感を高め、多様な活動によってコミュニケーション力の向上を図る。</p> <p>また、「教えてもらう」から「主体的な学び」への意識の転換を図り、基礎学力の向上と、具体的な学修スキルを身に付けていく。基礎学力としての「読み・書き・プレゼンテーション力」は、実感を伴った学びを重ねて向上するようにする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①大学生活に適応するようにポートフォリオを活用して、目標管理、人間関係づくりをすすめる。</p> <p>②基礎学力（漢字力、語彙力、図書館活用等）とプレゼンテーション力の向上を図る。</p> <p>③大学生としての学修スキル（ノートの取り方、レポートの書き方、パワーポイント作成等）を身に付ける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（基礎ゼミの意義、大学生活、学び方など）					事前：なし 事後：ノート整理		講義	
2	履修指導（時間制作成、個別支援）					事前：なし 事後：登録（教務部）		講義・演習	
3	ポートフォリオ（目標カード）（個別支援）					事前：なし 事後：目標の内容を再考		講義・演習	
4	ポートフォリオ（目標カード）（個別支援）					事前：なし 事後：清書して提出		演習	
5	スポーツ大会準備					事前：準備を進める 事後：準備を進める		実習	
6	基礎力（ノートの取り方）					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
7	スポーツ大会					事前：準備を進める 事後：なし		実習	
8	基礎力（図書館利用）					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
9	基礎力（レポートの書き方）					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
10	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
11	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
12	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
13	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
14	基礎力（プレゼンテーション・個人レポート発表）					事前：資料や原稿のチェック 事後：振り返りをする		演習	
15	目標カード評価（個別支援・相互評価）					事前：前期を振り返る 事後：清書して提出する		演習	

16	ポートフォリオ（目標カード）（後期の目標設定、個別）	事前：目標を考える 事後：清書して提出する	講義・演習
17	基礎力（パワーポイント作成の方法）	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	講義・演習
18	基礎力	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
19	松蔭祭（準備）	事前：準備を進める 事後：準備を進める	実習
20	松蔭祭（準備）	事前：準備を進める 事後：反省会をする	実習
21	基礎力	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
22	基礎力	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
23	基礎力	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
24	基礎力	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
25	外部講師による講演（税の話）	事前：なし 事後：感想文を書く	講義
26	プレゼン大会（参観）	事前：なし 事後：感想文を書く	演習
27	基礎力	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
28	基礎力（パワーポイントで、グループプレゼンテーション）	事前：資料や原稿のチェック 事後：振り返りをする	演習
29	ポートフォリオ（個別支援）	事前：後期を振り返る 事後：下書きする	演習
30	ポートフォリオ（2年次に向けての豊富を発表する）	事前：下書きする 事後：清書して提出する	演習
教本： 必要な資料を配付します。		参考文献： 授業時に指示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参画状況等（40%）、小テスト・レポート（60%）等で総合評価します。			
学生へのアドバイス： 基礎ゼミは、有意義な大学生活を送るために、自分で生活を管理し、基礎力を確かにして、学び合う場です。遅刻や欠席をしないで楽しく、真剣に、学び続けることが大事です。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	2 年次 通年	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	基礎ゼミⅡ (Preliminary Seminar Ⅱ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員									
履 修 条 件	前提科目	基礎ゼミⅠ							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>ポートフォリオ（目標カード）で次のステップでの自分をイメージし、自律した大学生活を通して自己理解を深める。 学修面では、専門科目への興味・関心を持ち、専門用語の理解、論理的な考えの展開の仕方等を学び、いっそうの基礎力向上とプレゼンテーション能力を高める。また、3年次に向けて卒業後のキャリアデザインを考えていく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①大学生活の充実を図るよう、自己目標を設定、管理して、人間関係を広げたり協働したりして自己理解を深める。 ②基礎学力の向上とともに、学修スキルとして、論理的なレポートの書き方や、専門科目の理解、グループワーク、プレゼンテーション力のいっそうの向上を図る。 ③3年次に向けて、職業の選択肢を検討し、具体的な進路登録カードが作成できるようにする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス・履修指導					事前：なし 事後：登録（教務部）		講義・演習	
2	ポートフォリオ（目標カード）（個別支援）					事前：なし 事後：目標の内容を再考		講義・演習	
3	ポートフォリオ（目標カード）（個別支援）					事前：なし 事後：清書して提出		講義・演習	
4	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
5	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		実習	
6	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
7	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		実習	
8	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
9	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
10	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
11	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
12	基礎力					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
13	プレゼンテーション（個人発表・相互批評）					事前：資料や原稿のチェック 事後：振返りをする		演習	
14	プレゼンテーション（個人発表・相互批評）					事前：資料や原稿のチェック 事後：振返りをする		演習	
15	ポートフォリオ（目標カード）（個別支援・相互評価）					事前：前期を振り返る 事後：清書して提出する		演習	

16	ポートフォリオ（目標カード）（後期の目標設定・個別支援）	事前：目標を考える 事後：清書して提出する	講義・演習
17	基礎力	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
18	基礎力	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
19	松蔭祭（準備）	事前：準備を進める 事後：準備を進める	実習
20	松蔭祭（準備）	事前：準備を進める 事後：反省会を行う	実習
21	基礎力（プレゼン大会に向けて）	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
22	基礎力（プレゼン大会に向けて）	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
23	基礎力（プレゼン大会に向けて）	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
24	基礎力（プレゼン大会に向けて）	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
25	基礎力（リハーサル）	事前：資料や原稿のチェック 事後：振り返りをする	演習
26	プレゼン大会（発表）	事前：資料や原稿のチェック 事後：振り返りをする	演習
27	基礎力	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
28	外部講師による講演（生き方、仕事等）	事前：なし 事後：感想文を書く	講義
29	進路登録カード作成	事前：進路について考える 事後：担当教員に提出	講義・演習
30	ポートフォリオ（3年次に向けての抱負を話し合う）	事前：ポートフォリオの記入 事後：なし	演習
教本： 必要な資料を配付します。		参考文献： 授業時に指示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート（60%）等で総合評価します。			
学生へのアドバイス： 2年次は基礎から専門へのかけ橋になる学年です。自らの目標に向かって学んで行くことを支えます。 授業の時間を大切にすること、分からないときや困ったときには自分から行動することが大事になります。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	2 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	キャリアデザイン基礎 (Introduction to Career Design)						科 目 分 類	基礎科目	
担 当 教 員	宝子山嘉一・薬師丸正二郎・菊本奈々								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他								
授業概要： ライフキャリア（人生を通じたキャリア形成）の視点からキャリアをとらえ、自己理解のツールを活用することによって自己について深く見つけ直す機会を持ち、自らのキャリアを築くためのマインドを養う。									
授業目標： ①自らのキャリアの在り方を言語化できる。 ②さまざまな自己理解ツールを体験的に知り、他社に説明できる。 ③自分のキャリアプランを立てられる。 ④これらを通して自己表現力を高める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：授業の概要を把握する 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
2	社会とつながる					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
3	「ありたい自分」を展開する					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
4	ライフキャリアの考え方					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
5	キャリアデザインの意義と必要性					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
6	社会が求めるキャリア					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
7	自分探し①（自分史）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
8	自分探し②（価値観分析）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
9	自分探し③（イメージネーションツリー）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
10	自分探し④（will, can, must 分析）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
11	キャリアプラン① キャリアプランの作成					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
12	キャリアプラン② グループで自分のキャリアプランをシェア					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
13	キャリアプラン③ グループでキャリアプランを作成					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
14	キャリアプラン④ シェアリングと評価					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
15	これまでのまとめ					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
教本： 教材は授業時に配布する					参考文献： 参考文献：参考資料は適宜紹介する				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、授業態度（30%）、演習成果の提出物（40%）総合評価する。出席回数が2/3以上に満たない場合は評価の対象としない。以上詳細については第1回ガイダンスで説明するので、必ず出席すること。									
学生へのアドバイス： 変化の激しい現在の世の中では、自分のキャリアは自分の力で考えて作っていくことが求められます。自分の将来や大学生活を豊かにしていくためにはどうしたらよいか、講義を通じて考えていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	キャリアデザイン研究 (Study of Career Design)						科 目 分 類	基礎科目	
担 当 教 員	宝子山嘉一・菊本奈々								
履 修 条 件	前 提 科 目	キャリアデザイン基礎							
	そ の 他								
授業概要： 学生のキャリア及び就職に関する意識を醸成することによって、就職活動マインドを育み、就職活動へのスムーズな踏み出しを支援する。									
授業目標： ①働くことの意義、社会で求められる能力、企業・業界・職種に関する知識について理解し、就職活動準備をする。 ②自分自身について理解する。 ③コミュニケーションとは何かを理解し、グループワークやプレゼンテーションを通じて実践する力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス（「キャリアデザイン研究」の位置づけ）					事前：授業の概要を把握する 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
2	社会と仕事を知る① 働くとは					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
3	社会と仕事を知る② 社会で求められる能力					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
4	コミュニケーション力をつける① コミュニケーションの基礎					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
5	コミュニケーション力をつける② アサーション					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
6	コミュニケーション力をつける③ グループワーク①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
7	社会と仕事を知る③ 会社・業界					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
8	社会と仕事を知る④ 職種・資格					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
9	コミュニケーション力をつける④ グループワーク②					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
10	社会と仕事を知る⑤ ゲストスピーカー					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
11	自分を知る① ライフラインチャート					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
12	自分を知る② 自分の強み					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
13	キャリアをデザインする① 情報収集					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
14	キャリアをデザインする② キャリアプランと行動計画					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
15	キャリアデザイン課題発表					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義・演習	
教本： 教材は授業時に配布する					参考文献： 参考資料は適宜紹介する				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、授業態度（30%）、演習成果の提出物（40%）総合評価する。出席回数が2/3以上に満たない場合は評価の対象としない。以上詳細については第1回ガイダンスで説明するので、必ず出席すること。									
学生へのアドバイス： 自分のキャリアは自分の力で考えて作っていくことが求められます。自分の将来や大学生活を豊かにしていくためにはどうしたらよいか、講義を通じて考え、今後の就職活動につなげましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	講義	
授業科目(英文)	教育課程・保育課程論 (Curriculum and Early Childhood Education courses)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	濱中 啓二郎									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>保育の計画の意義と必要性、保育の計画の歴史を理解し、実際の教育課程、保育課程、指導計画を例に取った分析や評価・改善について学ぶ。また、保育の計画の基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の基本を理解する。保育制度が急激に変化している中、教育課程・保育課程を知ることで、新しい保育を考え、組み立てる力を養うとともに、保育の計画全体を把握することで、保育の基本を見直す機会とする。</p> <p>授業目標：</p> <p>教育課程・保育課程の意味、果たす役割をとらえ、教育課程・保育課程の編成の重要性を理解するとともに、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえた教育課程・保育課程の編成の在り方、評価・改善していくためのカリキュラム・マネジメントについて理解する。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	本授業のガイダンス、カリキュラムとは何か					事前： 事後：本授業の復習		講義		
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針における基本原理とカリキュラム・マネジメント					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義、グループ討議		
3	子どもを取り巻く環境とカリキュラム・マネジメント					事前：現代の保育問題の理解 事後：本授業の復習		講義		
4	幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義		
5	認定こども園、子ども子育て支援新制度					事前： 事後：本授業の復習		講義		
6	学習指導要領の意義、歴史的変遷、幼小連携					事前：学習指導要領の理解 事後：本授業の復習		講義		
7	幼稚園、保育所の歴史・思想					事前： 事後：本授業の復習		講義		
8	教育課程編成における基本原理と実際					事前： 事後：本授業の復習		講義		
9	教育内容の配列、選択					事前： 事後：本授業の復習		講義		
10	乳幼児期の子どもの発達と指導計画					事前： 事後：本授業の復習		講義		
11	教育課程における幼児期の遊びと学					事前： 事後：本授業の復習		講義		
12	指導計画作成にあたっての基本的な考え方					事前： 事後：本授業の復習		講義		
13	幼稚園、保育所における教育課程編成					事前： 事後：本授業の復習		講義		
14	幼保連携型認定こども園と教育課程、保育計画					事前： 事後：本授業の復習		講義		
15	幼稚園における指導計画作成の基本的な考え方と留意点					事前： 事後：本授業の復習		講義		
16	幼稚園における指導計画の事例と比較検討					事前： 事後：本授業の復習		講義		
17	幼稚園における指導計画作成の実際					事前： 事後：本授業の復習		講義		
18	保育所における指導計画の基本的な考え方と留意点					事前： 事後：本授業の復習		講義		
19	保育所における指導計画の事例と比較検討					事前： 事後：本授業の復習		講義		

20	保育所における指導計画作成の実際	事前： 事後：本授業の復習	講義
21	幼保連携型こども園と指導計画作成	事前： 事後：本授業の復習	講義
22	子どもの道徳性、命を大切にするカリキュラム	事前： 事後：本授業の復習	講義
23	子どもの人権とカリキュラム	事前： 事後：本授業の復習	講義
24	自然環境を生かしたカリキュラム編成	事前： 事後：本授業の復習	講義
25	地域社会を生かしたカリキュラム編成	事前： 事後：本授業の復習	講義
26	子どもの学力とカリキュラム	事前： 事後：本授業の復習	講義
27	学校化社会とカリキュラム	事前： 事後：本授業の復習	講義
28	教育課程・保育課程と小学校の課程	事前： 事後：本授業の復習	講義
29	教育課程・保育課程と小学校の課程	事前：自分の考えをまとめておく 事後：本授業の復習	講義、グループ討議
30	まとめ：教育課程・保育課程の今後の展望	事前：自分の考えをまとめておく 事後：本授業の復習	講義、グループ討議
教本： 『コンパクト版保育者養成シリーズ教育・保育課程論』大沢裕・高橋弥生編著 一藝社		参考文献：	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」には目を通しておいください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	実習
授業科目(英文)	教育実習 I (Teaching Practice at Kindergarten I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	永井由利子・大沢 裕・後田紀子・中村淳子・野末晃秀								
履 修 条 件	前提科目	教育実習事前事後指導 I							
	その他	2 年次末までに修得しなければならない専門科目 (卒業必修科目) 38単位のうち30単位以上を修得していること。							
<p>授業概要：</p> <p>幼稚園教諭一種免許状取得のためには、教育実習 I と教育実習 II をそれぞれ 3 年生と 4 年生でそれぞれ 2 週間ずつ履修しなければならない。教育実習 I (幼稚園) 2 週間の観察実習及び参加実習等を通して、授業で学んだ幼児の発達や幼児への関わりなどをより具体的な場面で学び、幼稚園教育がどのような目標のもとに実現されていくのかを確認し実際の幼稚園教諭の仕事の仕方にも触れながら将来への希望や期待をもって自己課題を模索していくものとする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>教育実習 I (幼稚園) では保育観察・保育参加・部分実習を基本とし、主に以下について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の役割や機能、一日の流れについて。 ・幼稚園教諭の役割や職務内容の理解。 ・幼児の発達段階に応じた環境や教材について学ぶ。 ・幼児とのかかわりを通して幼児理解の目を養うとともに幼児期にふさわしい保育内容及び指導・援助を学ぶ。 									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の計画…3 年次 2 週間の教育実習計画について知る。 2 事前学習：事前に実習園でのオリエンテーションを受ける…実習園の特徴や保育方法や教育方針について理解する。実習中の行事や予定や生活の流れ事前準備などについて確認する。 3 3 歳児とのかかわり…①遊びに参加することで 3 歳児の遊びの楽しさはどこになるのか、それを通した学びとはどのようなものであるのかを考察する。 担任の動きや援助の実際を学ぶ。 ② 3 歳児の興味にあった手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。 4 4 歳児とのかかわり…① 4 歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで 4 歳児の遊びの楽しさを感じ取る。 また、担任の動きや援助の実際を学ぶ。 ② 4 歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。 5 5 歳児とのかかわり…① 5 歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで 4 歳児の遊びの楽しさを感じ取るとともに担任の動きや援助の実際を学ぶ。また、「修了までに育てほしい 10 の姿」を実際の遊びの中から考察する。 ② 5 歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。 6 部分指導案の作成…部分指導案を作成し、実習園からの指導を受け、部分実習に向けた準備を行う。 7 部分実習 I …指導案に沿って実際の保育を展開する、反省評価をする、実習園からの指導を受ける。 8 部分実習 II …改善した新たな指導案の下、新たな部分実習を行う。反省評価をする、実習園からの指導を受ける。 9 2 週間の振り返り…教育実習 I 全体について実習園の担当教員より指導を受け、自ら振り返り今後の課題を明確にする。 <p>※事前事後指導については教育実習事前事後指導 I の授業で行う。</p>									
<p>教本：</p> <p>久富陽子編、2014『学びにつける保育者をめざす実習の本ー保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 (ISBN : 4893471996)</p> <p>久富陽子編、2009『幼稚園・保育所実習一指導計画の考え方・立て方』萌文書林 (ISBN : 4893471333)</p>					<p>参考文献：</p> <p>「幼稚園教育要領解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説」</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習園からの評価 (60%)、実習日誌による評価 (40%) (実習日誌に部分指導案を添付することを評価の条件とする)。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年時から学んできた幼稚園教育の目標や幼児期の子どもの発達、指導計画の作成などについて復習しておく。 ・紙芝居、絵本手遊びなど授業で体験してきたことをもとにパネルシアターやペープサートなどの教材を事前にいくつか作成しておく。 ・ピアノなど保育技術を磨き、オリエンテーションで示された曲が弾けるように事前に練習し実習に臨む。 									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。 実習前に必ず面接し、準備したことが確認できるよう、オフィスアワーの活用を呼び掛ける。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	授業・演習
授業科目(英文)	教育実習事前事後指導 I (Pre- & Post-Guidance on Teaching Practice I (Kindergarten))							科目分類	教育実習
担 当 教 員	永井由利子・大沢 裕・後田紀子・中村淳子・野末晃秀								
履 修 条 件	前提科目	2 年次までに修得しなければならない専門科目 (卒業必修科目) 38単位のうち30単位以上を習得していること。							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>教育実習の意義や目的について理解し、幼稚園における実習生として自分がどのように学んでいくか、明確な課題をもって取り組めるように意識を高めていく。</p> <p>指導計画から指導案までの仕組みを理解するとともに、実習ノートの書き方について理解するようになる。さらに、幼児の発達段階に応じた指導内容を理解し、ふさわしいねらいを立てて指導案を作成することができるよう部分指導案の作成の仕方を学ぶ。</p> <p>作成した指導案をもとに保育の展開、環境構成がふさわしいか模擬保育を通して振り返り改善していく。また、幼児の気持ちの理解や担任としての言葉使いなど保育に必要な基礎的技術を学び、実習への意欲付けをしていく。</p> <p>実習後の振り返りを通して自己課題を見出し、次の実習に向けての準備をどのようにしていくか考える機会を持つ。お礼状の書き方など具体的に学び、実習後の実習生としての姿勢やあり方を確認していく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>幼児理解に基づき、幼稚園において教育実習生として保育観察、参加を経て部分実習を行うために必要な実践的指導力を身につける。日々教育活動が展開されている園において教員としての自覚と幼児への愛情をもって関わることのできる基礎を身につけていく。教育実習の学びを通して教育者としての資質・能力や適性を自覚し、振り返りを通して自己課題を見出しさらなる実践力を高めるための意欲を持つようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション、教育実習1の意義と目的・内容について学ぶ。幼稚園の一日の流れ					事前：教育実習の手引きを読んでおく 事後：一日の流れのプリントを仕上げ次回提出		講義	
2	指導案の作成 (1) ねらいと内容、保育の展開、環境の構成、など書き方の基本を学ぶ。 ①「朝の受け入れ」の部分指導案を作成する					事前：一日の流れを復習しておく 事後：(1)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
3	指導案の作成 (2) 降園時の活動の指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び実技①②					事前：手遊び実技の担当者は練習しておく 事後：(2)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
4	指導案の作成 (3) 紙芝居、絵本の読み聞かせの部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び③④					事前：手遊び実技の担当者は練習しておく 事後：(3)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
5	指導案の作成 (4) 歌の指導、ゲームなど部分指導についての部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑤⑥					事前：実技の担当者は練習しておく 事後：指導案(4)-1、2を仕上げ次回提出		講義・演習	
6	模擬保育 (1) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑦⑧					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
7	模擬保育 (2) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑦⑧					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
8	模擬保育 (3) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑦⑧					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
9	模擬保育 (4) ロールプレイから振り返り、保育に必要な基本的技能や言葉使いについて学ぶ。ピアノ弾き歌い・手遊び⑨⑩					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
10	個人調書の書き方・幼稚園教育実習の個人目標の設定 実習日誌の書き方・保育記録・実習生の気づき 絵本・紙芝居の実演①②③④					事前：実習の手引きを持参する 事後：教科書と手引きと日誌を照らしあわせる		講義・演習	
11	一日の振り返り・実習全体の反省・お礼状の書き方などについて学ぶ 絵本・紙芝居の実演⑤⑥⑦					事前：実技の準備をしておく 事後：実技を振り返り改善する		講義・演習	
12	絵本・紙芝居の実演⑧⑨⑩					事前：実技の練習に向き合う 事後：実技を振り返り改善する		演習	
13	実習の手引きを熟読し身だしなみの確認 実習準備にあたる教材の作成・指導案の作成					事前：教材を作成して持参する 事後：指導案を作成して持参する		講義	
14	実習後の評価表に基付き個別の振り返りをして次回の実習へ課題をもてるようにする。 実習日誌の提出、個別面談 (1)					事前： 事後：実習後の反省		教員との面談	
15	実習後の評価表に基付き個別の振り返りをして次回の実習へ課題をもてるようにする。 個別面談 (2)					事前： 事後：実習後の反省		教員との面談	
<p>教本：</p> <p>「幼稚園教育実習の手引き」松蔭大学作成 「質の高い幼児期の教育～3、4、5歳児の指導と環境構成・実践例」ななみ書房 「実習日誌の書き方」明文書林</p>					<p>参考文献：</p> <p>「幼稚園教育要領解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等 (20%)、実技・模擬保育等 (40%)、指導案作成・提出物 (40%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>教育実習生として事前に身につける必要な指導案の作成ができているか、実際のロールプレイを通して実践的な力を身につけたか、実際の教材を作成しているか確認していく。</p> <p>教育実習に向けて具体的な自己課題を持って実習に臨むことができたか、実習後の振り返りと園からの評価票に基づき個別面談を通して実習の成果を確認する。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。指導案作成など具体的な内容について個別指導できるようオフィスアワーを設けている。活用して十分な準備ができるようにする。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	教育心理 (Educational Psychology)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	中村 淳子									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>教育心理学は教育実践と深く結びついた学問です。教育者を目指す人は、より良い教育活動を行うために子どもや児童・生徒を深く理解し、その発達援助に貢献しなくてはなりません。そのため本講座では、人の発達過程、学習行動、学級集団がもたらす人間関係の発達や不適応問題など様々な側面から教育実践に関する知識と理解を深めることを目指します。また、「合理的配慮」の法案が成立したことの意義も鑑みて、発達障害等の理解、特別支援教育についても事例を踏まえて学んでいきます。</p>										
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の発達や成長の過程を学び、教育活動に生かす方法を考える。 2. 学習行動のメカニズムや集団の心理を学び、効果的な教授法を考える。 3. 問題行動や障害について理解を深め、支援方法について学ぶとともに教育者としての資質について考える。 4. この科目は、①幼児期の子どもの発達について、多角的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。 										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			◎			○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	教育心理学とは？－教育心理学の意義					事前： 事後：		講義		
2	発達を知ること－(1)発達理論					事前：発達理論の予習 事後：		講義		
3	発達を知ること－(2)各時期の発達の様相（乳児期～学童期）					事前： 事後：		講義		
4	発達を知ること－(3)各時期の発達の様相（思春期～老年期）					事前： 事後：講義2、3、4の復習		講義		
5	学習行動を知ること－(1)学習理論					事前： 事後：		講義		
6	学習行動を知ること－(2)教授理論					事前： 事後：		討議・講義		
7	学習行動を知ること－(3)動機づけ理論					事前： 事後：5、6、7の復習		討議・講義		
8	知能と学力の関係を知ること－(1)知能の理論					事前： 事後：		講義		
9	知能と学力の関係を知ること－(2)知能と学力の関係					事前： 事後：8、9の復習		討議・講義		
10	教えることと評価すること－(1)評価することの意味					事前： 事後：		講義		
11	教えることと評価すること－(2)より良い授業実践とは？					事前：授業実践の工夫を考えてくる。 事後：		討議・講義		
12	学級集団と人間関係を知ること－人間関係の発達と集団					事前： 事後：10、11、12の復習		討議・講義		
13	問題行動と生徒理解－(1)適応・不適応と生徒理解					事前：適応・不適応について考えてくる。 事後：		発表・講義		
14	問題行動と生徒理解－(2)教育相談					事前： 事後：13、14の復習		討議・講義		
15	障害理解と支援－障害の種類と支援の方法					事前： 事後：		講義		
<p>教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。</p> <p>参考文献： 田中智志／橋本美保監修 遠藤司編著 新・教職課程シリーズ 教育心理学 一藝社 ¥2,200 子安増生／田中俊也／南風原朝和／伊東裕司著 ベーシック現代心理学 教育心理学第3版 有斐閣 ¥2,100</p>										
<p>成績評価の方法、評価基準：評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス： 授業では、一方的な講義ではなく、学生に考えてもらう時間も用意します。また、単元によっては前もって発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともあります。中村から質問したり、学生からの意見を受けたりなど活気のある授業にしたいと思っています。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてください。</p>										
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。水曜日の昼休み。</p>										

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	行 政 法 I (Administrative Law I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 乗 智 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 行政法は、国や地方自治体の行政の目的を達成するための手段であるとともに、行政活動を行う国や自治体と個人との法律問題に関する枠付けである。本講義では、行政法総論（一般理論）のうち、行政法の基本原理、行政行為、行政手続について説明し、行政法の基本的理解を深めることを目的とする。									
授 業 目 標 : 1. 行政組織に関する基礎的法概念、行政組織の内部関係法について理解を深めること 2. 行政組織に関する法律論の基礎的な枠組みの修得をすること									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	行政法総論 —行政事件 行政組織 行政法と法律—					事前：なし 事後：概念の整理		講義	
2	行政法の歴史的展開					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
3	権力分立と行政の位置づけ —法律による行政の原理—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
4	国の行政組織					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
5	地方の行政組織					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
6	行政主体と行政機関					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
7	行政主体の種類					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
8	行政機関の概念					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
9	行政機関の権限					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
10	行政機関の分類					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
11	行政手続の法理					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
12	行政行為の概念					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
13	行政行為の効力					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
14	行政裁量					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
15	行政機関の指揮監督					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
教 本 : 特になし。					参 考 文 献 : 授業中に適宜指示。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることを法的視点で分析して行きたいと思う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 授業の前後15分									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	行政法Ⅱ (Administrative Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高乗 智之								
履 修 条 件	前提科目	なし (行政法Ⅰの単位取得が望ましい)							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>授業概要：本講義では、「行政救済法」として位置づけられる内容を講義する。具体的には、行政不服審査法、行政事件訴訟法および国家賠償法といった実定法を通じ、違法・不当な行政活動から国民の権利・自由と利益を「救済」する法システムを学ぶ。前半は概論的な説明をし、後半は事例研究を中心に一緒に考えていきたいと思う。ここでは、行政法的な法解釈・思考方法の理解や習得をめざしたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 公共紛争の現状を分析する際の前提となる法的救済手続きの仕組みを知ること</p> <p>2. 憲法学や行政法Ⅰで学んだ知識を現実の問題に適用して考える能力を養うこと</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	行政救済法総論 —損害賠償と行政救済の違い—					事前：なし 事後：概念の整理		講義	
2	行政上の不服申立て					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
3	行政不服審査法の基本構造					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
4	憲法と行政訴訟					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
5	行政訴訟の類型					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
6	客観的訴訟要件					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
7	主観的訴訟要件					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
8	取消訴訟の審理、終了、仮の救済					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
9	当事者訴訟、無効確認訴訟、不作為の違法確認訴訟					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
10	義務付け訴訟、差止訴訟、民衆訴訟、機関訴訟					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
11	裁判権の限界					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
12	国家賠償法 (1)					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
13	国家賠償法 (2)					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
14	損失補償 (1)					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
15	損失補償 (2)					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
教本： 特になし。					参考文献： 授業中に適宜指示。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることを法的視点から分析して行きたいと思う。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>授業の前後15分。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	近 代 文 学 研 究 A (散 文) (Modern Literature Study A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	徳 本 善 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<ul style="list-style-type: none"> 日本近代文学史を踏まえ、明治～戦後の小説を題材にして、現代につながる近代文学（小説）の意味を考える。 基本的な文学批評の知識を学び、演習を通じて自分の「読み」を実践する。 									
授 業 目 標 :									
<ul style="list-style-type: none"> 日本近代における小説の役割を理解し、基本的な文学批評の方法を身につける。 題材とするテキストの同時代を調査することで、現代社会につながる問題を理解する。 									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	日本の近代化と文学					事前：なし 事後：なし		講義	
3	坪内逍遙「小説神髓」と言文一致					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
4	明治期の小説Ⅰ					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
5	明治期の小説Ⅱ					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
6	明治期の小説Ⅲ					事前：なし 事後：レポート課題		講義・演習	
7	大正期の小説Ⅰ					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
8	大正期の小説Ⅱ					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
9	大正期の小説Ⅲ					事前：なし 事後：レポート課題		講義・演習	
10	昭和初年代の小説Ⅰ					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
11	昭和初年代の小説Ⅱ					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
12	昭和初年代の小説Ⅲ					事前：なし 事後：レポート課題		講義・演習	
13	戦間期の小説Ⅰ					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
14	戦間期の小説Ⅱ					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
15	総合演習					事前：なし 事後：レポート課題		講義・演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授業時にプリントを配布。					授業時に提示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授業参加状況等 (20%)、レポート課題 (30%)、定期試験 (レポート) (50%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 近代文学を学ぶことで、小説を「読む」方法を身につけます。読むだけでなく、自分で考えたことを表現する「書く」力も身につくよう指導します。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	近 代 文 学 研 究 B (韻 文) (Study of Modern Japanese Literature)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	徳 本 善 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
(1) 日 本 近 代 文 学 に お け る 詩 の 流 れ を 学 び、代 表 的 詩 人 の 作 品 を 鑑 賞 す る。(2) 作 品 を 精 読 し、声 に 出 し て 読 む こ と で 言 葉 の 新 し い 価 値 を 見 出 し、詩 の 世 界 を よ り 深 く 理 解 す る。									
授 業 目 標 :									
(1) 日 本 近 代 詩 史 を 踏 ま え、近 代 詩 人 の 代 表 的 作 品 を 鑑 賞 す る。(2) 基 本 的 な 詩 の 「読 み」か た を 習 得 し、レ ポ ー ト 課 題 を 通 し て 自 分 な り の 作 品 論 を 書 く。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	「新 体 詩 抄」と 近 代 詩 の 始 ま り (オ リ エ ン テ ー シ ョ ン)					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義	
2	北 村 透 谷 「内 部 生 命 論」					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義	
3	鳥 崎 藤 村 と 浪 漫 主 義					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : 復 習		講 義 + 演 習	
4	象 徴 主 義 の 移 入					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : 復 習		講 義 + 演 習	
5	北 原 白 秋 の 作 品					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : レ ポ ー ト 提 出		講 義 + 演 習	
6	石 川 啄 木 と 短 歌					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : 復 習		講 義 + 演 習	
7	萩 原 朔 太 郎 の 作 品					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : 復 習		講 義 + 演 習	
8	萩 原 朔 太 郎 の 詩 論					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : 復 習		講 義 + 演 習	
9	室 生 犀 星 「小 景 異 情」					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : 復 習		講 義 + 演 習	
10	高 村 光 太 郎 「道 程」					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : レ ポ ー ト 提 出		講 義 + 演 習	
11	宮 沢 賢 治 「永 訣 の 朝」					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : 復 習		講 義 + 演 習	
12	高 橋 新 吉 と タ ダ					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : 復 習		講 義 + 演 習	
13	西 脇 順 三 郎 と シ ュ ル レ ア リ ス ム					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : 復 習		講 義 + 演 習	
14	中 原 中 也 の 作 品					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : 復 習		講 義 + 演 習	
15	草 野 心 平 と 〈か え る〉					事 前 : 作 品 を 読 む 事 後 : レ ポ ー ト 提 出		講 義 + 演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『教 科 書 で 出 会 っ た 名 詞 100 選』 (石 原 千 秋 編 新 潮 文 庫)					教 室 で 提 示 し ま す。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 授 業 で 詩 を じ っ く り 読 ん で、レ ポ ー ト 課 題 に 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	金融概論 I (Practical Finance Business Introduction I)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	中藤 和重									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： ビジネスマンになった際、身につけておかなければならない必須知識を講義、具体的な事例。所謂、ケースメソッドで講義。										
授業目標： 学生時代のうちにビジネス全般にわたる広い知識を学んでおく、その結果、スムーズに社会人になれることを目標とする。学生時代から経済に関心をもってビジネスマンになった人、一方、大学卒業まで経済に全く興味を示さずに働きはじめた人とは、入社1年目のスタートで驚くべき差が出てしまう。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			◎			○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	日本経済新聞の読み方					事前：なし 事後：なし		講義		
2	経済誌の読み方（日経ビジネス、東洋経済、ダイヤモンド）					事前：なし 事後：なし		講義		
3	会社四季報の読み方					事前：なし 事後：なし		講義		
4	企業観相力					事前：なし 事後：なし		講義		
5	M&A					事前：なし 事後：なし		講義		
6	企業の再建					事前：なし 事後：なし		講義		
7	不良債権					事前：なし 事後：なし		講義		
8	決算短信の読み方					事前：なし 事後：なし		講義		
9	営業はヘッドワーク、フットワークではない					事前：なし 事後：なし		講義		
10	IQとEQ					事前：なし 事後：なし		講義		
11	ウソ、インチキ、ゴマカシはバレる、コンプライアンス					事前：なし 事後：なし		講義		
12	社会人の偏差値					事前：なし 事後：なし		講義		
13	若手社員時代から学んだビジネスマナー、センス					事前：なし 事後：なし		講義		
14	管理職時代から学んだビジネスマナー、センス					事前：なし 事後：なし		講義		
15	総括					事前：なし 事後：なし		講義		
教本： 適宜、資料を配布。					参考文献： 石橋春男著『よくわかるファイナンス入門』慶應義塾大学出版会、 ¥1,800+税					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験を80%、平常点を20%として総合評価を行う。										
学生へのアドバイス： 30回にわたる講義から、金融に関する様々なことを学んだと思います。この資料を保存しておいて、時折、復習して読んでみてください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	金融概論Ⅱ (Practical Finance Business Introduction Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中藤 和重								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： ビジネスの現場を説明。現場を知らずして実戦ビジネスを理解できない。前期同様、具体的な事例で講義。									
授業目標： 前期は総論、鳥瞰図であったので、後期は各論で研究。業界の調査から様々な会社をウォッチする。ビジネスマンは目標達成を目指して、常に考えて行動している。 →学生時代から考える癖を養っておく。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	円安、円高					事前：なし 事後：なし		講義	
2	銀行業界					事前：なし 事後：なし		講義	
3	小売業界					事前：なし 事後：なし		講義	
4	不動産業界					事前：なし 事後：なし		講義	
5	上場会社、非上場会社					事前：なし 事後：なし		講義	
6	個人・法人の資産運用					事前：なし 事後：なし		講義	
7	ブラック企業					事前：なし 事後：なし		講義	
8	デリバティブ					事前：なし 事後：なし		講義	
9	購買力平価					事前：なし 事後：なし		講義	
10	金利の推移から金融史					事前：なし 事後：なし		講義	
11	株価の推移から金融史					事前：なし 事後：なし		講義	
12	赤字会社					事前：なし 事後：なし		講義	
13	オーナー会社、サラリーマン会社					事前：なし 事後：なし		講義	
14	出世するタイプ					事前：なし 事後：なし		講義	
15	総括					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 適宜、資料を配布。					参考文献： 石橋春男著『よくわかるファイナンス入門』慶應義塾大学出版会、 ¥1,800+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験を80%、平常点を20%として総合評価を行う。									
学生へのアドバイス： 30回にわたる講義から、金融に関する様々なことを学んだと思います。この資料を保存しておいて、時折、復習して読んでみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	金 融 政 策 論 (Theory of Monetary Policy)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 春 男								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
金融政策のトランスミッションメカニズム (政策波及経路) を理解することがこの講義の目的である。日本銀行の金融政策が内外の経済に与える影響や効果を分析する。加えて、ケインジアンとマネタリストの金融政策の枠組みを理論的に整理し、両者の比較・検討を行う。本講義は、現実の金融動向を把握しながら理論とのすり合わせも必要となる。									
授 業 目 標 :									
金融政策を理解していくためには、金融の基本理論や金融用語の修得が前提になる。これらについては授業のたびに繰り返して解説をするが、各自ノートの作成・整理も必要となる。前期は特に金融政策の操作目標、中間目標、最終目標の政策変数の波及効果が重要なポイントとなってくる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	金融政策のフレームワーク 金融理論と金融政策の関連性					事前：なし 事後：関連事項の学習		講義	
2	経済と金融					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
3	貨幣の概念と歴史					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
4	貨幣の産業的流通と金融的流通					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
5	間接金融市場					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
6	直接金融市場					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
7	信用創造					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
8	資本市場					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
9	貯蓄と投資					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
10	金融政策の手段					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
11	貸付基準金利操作					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
12	法定準備率操作					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
13	公開市場操作 売りオペと買いオペのメカニズム					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
14	量的金融緩和政策 金融緩和政策の弊害					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
15	金融政策の功罪 前期講義の総まとめ					事前：前期のノート整理 事後：前期試験の準備		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
1. 石橋春男・高木信久・橋口宏行著『よくわかるファイナンス入門』 慶應義塾大学出版会、¥1,800					1. 翁邦雄著『日本銀行』ちくま新書、¥880 2. 石橋春男・関谷喜三郎監修『マクロ経済学』成文堂、¥3,300				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 毎 週、予 習 復 習 を す る 習 慣 を 身 に つ け 授 業 に 臨 む よ う に す る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	金融統計学 I (Statistics for Finance I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡 猛夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>金融統計学 I では、広く金融経済の分野で利用されている統計手法の体系と主な項目の役割を基本から学習し、統計手法の実用化に向けた基礎力を身につける。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>金融商品のリスク・リターン問題などを取り上げながら、順次、基本統計量、確率分布、推定・検定や多変量解析などの役割を具体的に明らかにし、金融統計手法に対する理解を一段と深める。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	統計学の体系・データの見方					事前：なし 事後：なし		講義	
2	データと基本統計量 (i) 平均値、中央値					事前：なし 事後：なし		講義	
3	データと基本統計量 (ii) 標準偏差、偏差値					事前：なし 事後：なし		講義	
4	データと基本統計量 (iii) 相関係数					事前：なし 事後：なし		講義	
5	データのグラフ表現					事前：なし 事後：なし		講義	
6	確率入門 (i) 標本空間、事象					事前：なし 事後：なし		講義	
7	確率入門 (ii) 乱数、ベイズの定理					事前：なし 事後：なし		講義	
8	重要な確率分布 (i) 二項分布					事前：なし 事後：なし		講義	
9	重要な確率分布 (ii) ポアソン分布					事前：なし 事後：なし		講義	
10	重要な確率分布 (iii) 正規分布					事前：なし 事後：なし		講義	
11	推定・検定 (i) 区間推定、仮設検定					事前：なし 事後：なし		講義	
12	推定・検定 (ii) 平均の検定					事前：なし 事後：なし		講義	
13	推定・検定 (iii) 適合度検定、独立性検定					事前：なし 事後：なし		講義	
14	多変量解析 (i) 相関回帰					事前：なし 事後：なし		講義	
15	多変量解析 (ii) 重回帰分析					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>1. 涌井 貞美「意味がわかる統計解析」ベレ出版</p>					<p>参考文献：</p> <p>追って案内する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>統計は、日常生活にも幅広く利用されており、その考え方を学びます。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	金 融 統 計 学 II (Statistics for Finance II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 猛 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 統計データの信頼性の許容範囲を測定・分析するためのいろいろな統計手法について、まず、分散、標準偏差を勉強した後、投資リスク、検定、推定、回帰分析の解説を進める。									
授 業 目 標 : 基本的な理解をふまえて、金融分野での統計学の適用について、理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	分散と標準偏差					事前：なし 事後：なし		講義	
3	リスク指標としての標準偏差					事前：なし 事後：なし		講義	
4・5	正規分布					事前：なし 事後：なし		講義	
6	仮説検定					事前：なし 事後：なし		講義	
7	区間推定					事前：なし 事後：なし		講義	
8・9	標本平均の考え方					事前：なし 事後：なし		講義	
10・11	カイ二乗分布					事前：なし 事後：なし		講義	
12・13	t分布					事前：なし 事後：なし		講義	
14・15	回帰分析					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 : レジュメを配布する。									
参 考 文 献 : 追って連絡する。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト (35%)、定 期 試 験 (35%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 統計データのもつ意味、信頼性について普段から考えるようにしてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	グローバル化と文化A (Globalization and Culture A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： グローバル化という言葉は日々、耳にします。しかし、よくある「グローバルスタンダードに従うにはどうすればいいのか」という言説には一定の疑いを持ってみる必要を説くことを主な目的とします。文化人類学の立場から、広いまなざしで考察してみましよう。									
授業目標： 1. 何をもってグローバル化と考えるのか、その基準を自分自身の中に作り上げること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	グローバル化とはどのような現象か					事前：特になし 事後：なし		講義	
2	文化のグローバル化					事前：特になし 事後：ノート		講義	
3	経済人類学と交易港					事前：なし 事後：授業資料		講義	
4	経済のグローバル化と文化のグローバル化					事前：なし 事後：ノート		講義	
5	リージョナリズムとローカリズム					事前：安倍論文（配布） 事後：ノート		講義	
6	文化の支配－被支配					事前：なし 事後：授業資料		講義	
7	文化資本化の現象					事前：なし 事後：授業資料		講義	
8	世界的価値変動					事前：なし 事後：授業資料		講義	
9	SNSがグローバル化に果たしている役割					事前：なし 事後：授業資料		講義	
10	民俗文化とグローバル化					事前：なし 事後：授業資料		講義	
11	民俗文化とグローバル化2					事前：なし 事後：授業資料		講義	
12	グローバル化を前にした生活文化の変容					事前：なし 事後：授業資料		講義	
13	グローバル化を前にした生活文化の変容2					事前：なし 事後：授業資料		講義	
14	コスプレ文化はグローバルなものか					事前：自分とコスプレ 事後：授業資料		講義	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート	
教本： 使用しません。					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 多面的な人間社会の現実に照らし合わせて考えてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	グローバル化と文化B (Globalization and Culture B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 幸								
履 修 条 件	前提科目	グローバル化と文化 I							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>グローバル化と文化 I を受けて、世界の文化のなかにおける日本文化の地位を論じてゆく。映画、アニメ、音楽などの海外向け日本文化と日本人にとっての日本文化は、どこが同じでどこが異なるのかを考えていきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 何をもってグローバル化と考えるのか、その基準を自分自身の中に作り上げること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	グローバル化と文化 I の復習					事前：なし 事後：ノート		講義	
2	日本映画のグローバル化					事前：なし 事後：ノート		講義	
3	日本映画のグローバル化 2					事前：なし 事後：ノート		講義	
4	映画にみる日本文化					事前：なし 事後：ノート		講義	
5	「ゴジラ」の国際的評価					事前：なし 事後：ノート		講義	
6	「ゴジラ」の国際的評価 2					事前：なし 事後：ノート		講義	
7	「大魔神」					事前：なし 事後：ノート		講義	
8	「大魔神」の国際的評価					事前：なし 事後：ノート		講義	
9	「グレンダイザー」というアニメの物語					事前：なし 事後：授業資料		講義	
10	J-pop の成立					事前：なし 事後：授業資料		講義	
11	日本におけるロック					事前：なし 事後：授業資料		講義	
12	J-pop の国際的評価					事前：なし 事後：授業資料		講義	
13	洋楽と日本のポップミュージック					事前：なし 事後：授業資料		講義	
14	コスプレ文化とグローバル化					事前：なし 事後：授業資料		講義	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：使用しません。</p>					<p>参考文献：授業内で紹介する。たくさん読んでください。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営学 (Management)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 環境の複雑性と変化速度が増すビジネスの世界で起きている事象を理解し、社会のなかでの企業経営のあり方を考えていきます。具体的な事例を取り上げ、その理解を通して、経営とは何か、経営学の体系はどのように構成されているのか、を学習していきます。									
授業目標： ①経営学の基礎概念を理解する。 ②経営学の体系を理解する。 ③経営とは何か、を考える力を養う。 この科目は、3. 家庭や地域社会の子育て・教育力の向上に貢献できる資質と専門性を有する人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：テキスト、序章精読 事後：ノート整理		講義	
2	経営学の体系					事前：前回ノート再読 事後：ノート整理		講義	
3	事例：フォードとGM					事前：テキスト64-72頁精読 事後：ノート整理		講義	
4	環境・戦略・組織					事前：テキスト72-78頁精読 事後：ノート整理		講義	
5	事例：ヤマト運輸の宅急便事業					事前：テキスト79-90頁精読 事後：ノート整理		講義	
6	新しい事業の創造					事前：テキスト90-94頁精読 事後：ノート整理		講義	
7	事例：マクドナルドとモスバーガー					事前：テキスト95-106頁精読 事後：ノート整理		講義	
8	いかに競争するか					事前：テキスト106-109頁精読 事後：ノート整理		講義	
9	事例：GEの企業革新					事前：テキスト110-119頁精読 事後：ノート整理		講義	
10	事業のリストラクチャリングと組織改革					事前：テキスト120-127頁精読 事後：ノート整理		講義	
11	事例：デジタル化への富士写真フィルムの対応					事前：テキスト145-157頁精読 事後：ノート整理		講義	
12	破壊的技術への対応とドメインの再定義					事前：テキスト157-162頁精読 事後：ノート整理		講義	
13	事例：ノキアの国際戦略					事前：テキスト163-175頁精読 事後：ノート整理		講義	
14	いかに国際化するか					事前：テキスト175-181頁精読 事後：ノート整理		講義	
15	経営とは何か					事前：キーワード整理 事後：ノート整理		講義	
教本： 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（新版）』有斐閣、¥2,600+税					参考文献： 随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強く自己学習能力を高めるよう期待します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

け

開 講 年 次	1 年次 半期	選 択 ・ 必 修		単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経営学総論 I (Principle of Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 環境の複雑性と変化速度が増すビジネスの世界で起きている事象を理解し、社会のなかでの企業経営のあり方を考えていきます。経営戦略の具体的な事例を取り上げ、その理解を通して、経営とは何か、経営学の体系はどのように構成されているのか、を学習していきます。									
授業目標： ①経営学、特に経営戦略論の基礎概念を理解する ②経営学の体系を理解する ③経営とは何か、を考える力を養う									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：テキスト、序章精読 事後：ノート整理		講義	
2	経営学の特質					事前：前回ノート再読 事後：ノート整理		講義	
3	事例：フォードとGM					事前：テキスト64-72頁精読 事後：ノート整理		講義	
4	環境・戦略・組織					事前：テキスト72-78頁精読 事後：ノート整理		講義	
5	事例：ヤマト運輸の宅急便事業					事前：テキスト79-90頁精読 事後：ノート整理		講義	
6	新し事業の創造					事前：テキスト90-94頁精読 事後：ノート整理		講義	
7	事例：マクドナルドとモスバーガー					事前：テキスト95-106頁精読 事後：ノート整理		講義	
8	いかに競争するか					事前：テキスト106-109頁精読 事後：ノート整理		講義	
9	事例：GEの企業革新					事前：テキスト110-119頁精読 事後：ノート整理		講義	
10	事業のリストラクチャリングと組織改革					事前：テキスト120-127頁精読 事後：ノート整理		講義	
11	事例：デジタル化への富士写真フィルムの対応					事前：テキスト145-157頁精読 事後：ノート整理		講義	
12	破壊的技術への対応とドメインの再定義					事前：テキスト157-162頁精読 事後：ノート整理		講義	
13	事例：ノキアの国際戦略					事前：テキスト163-175頁精読 事後：ノート整理		講義	
14	いかに国際化するか					事前：テキスト175-181頁精読 事後：ノート整理		講義	
15	経営とは何か					事前：キーワード整理 事後：ノート整理		講義	
教本： 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（新版）』有斐閣、2,600円＋税					参考文献： 随時提示する				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強く自己学習能力を高めるよう期待します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修		単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営学総論 I (Principle of Management I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白川 満伸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 1. 株式会社という仕組みを理解することは、経営学を学ぶ上で最も基礎的な問題と言える。株式会社における資本調達仕組みや、株式会社の所有・支配の問題を取り上げる。 2. 経営学はその成立から長い歴史をもっているが、そこで展開された主要な学説の概要について学ぶ。									
授業目標： 経営学の入門科目として、その研究対象である企業・経営に関する基礎的な問題を学ぶ。その内容としては、現代株式会社に関する基礎的な理解と、経営学の発展に即した主要学説の流れをテーマとして講義する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	経営学の対象と領域					事前：なし 事後：なし		講義	
3	企業の分類					事前：なし 事後：なし		講義	
4	株式会社の特徴					事前：なし 事後：なし		講義	
5	株式会社金融					事前：なし 事後：なし		講義	
6	所有と経営の分離					事前：なし 事後：なし		講義	
7	企業の統治					事前：なし 事後：なし		講義	
8	社会的責任					事前：なし 事後：なし		講義	
9	経営目的					事前：なし 事後：なし		講義	
10	経営管理の学説と人間観					事前：なし 事後：なし		講義	
11	科学的管理法					事前：なし 事後：なし		講義	
12	管理過程論					事前：なし 事後：なし		講義	
13	人間関係論					事前：なし 事後：なし		講義	
14	動議づけ理論					事前：なし 事後：なし		講義	
15	組織的意思決定論 定期試験					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 初回講義日に伝える。					参考文献： 追って指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 ①授業参画状況等（30%）と②筆記試験（70%）により評価する。									
学生へのアドバイス： 質問あれば、放置せず、挙手して積極的に発言してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修		単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経営学総論 I (Principle of Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	清水 健太								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、19世紀末から現在まで多種多様な展開をみせているアメリカ経営学を中心に「経営学の生成と展開」について解説する。経営理論を単なる学説史的な知識として習得するだけでなく、それらが企業の実践的要請にどのように応えてきたのか、現実の企業経営にどのような影響を与えてきたのか、そして現在の経営課題とどのように関連づけることができるかについて、理解し思考することが本講義の目標である。									
授業目標： 【知識・理解】 経営学の生成と展開をわかりやすく説明できる。 【思考・判断】 経営に関する諸理論・諸学説がどのように生成し展開したかを述べることができる。 【関心・意欲】 現実の企業経営のケースを経営理論と結び付けて考えることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション；経営学の学び方					事前：参考書の確認 事後：配布資料の確認		講義	
2	生産と管理の合理化 (1) 科学的管理法：テイラー					事前：労働者の怠業問題 事後：科学的管理法について		講義・小テスト	
3	生産と管理の合理化 (2) 大量生産体制：フォード					事前：大量生産体制 事後：科学的管理法との関係		講義・小テスト	
4	生産と管理の合理化 (3) 管理過程と管理原則：ファヨール					事前：管理過程とは何か 事後：科学的管理法との関連		講義・小テスト	
5	人間の理論 (1) 人間性への着目：人間関係論					事前：人間関係論の背景 事後：科学的管理法の問題点		講義・小テスト	
6	人間の理論 (2) 行動科学的思想：マズローとマグレガー					事前：経済仮説との関係 事後：欲求階層説について		講義・小テスト	
7	組織の理論 (1) 公式組織論：バーナード					事前：組織の定義 事後：人間協働の意味		講義・小テスト	
8	組織の理論 (2) 意思決定論：サイモン					事前：最適化原理 事後：満足化原理		講義・小テスト	
9	組織の理論 (3) 組織の環境適合：コンティンジェンシー理論					事前：環境変化とは何か 事後：理想の組織は何か		講義・小テスト	
10	戦略の理論 (1) 戦略計画学派：アンゾフ① アンゾフの成長マトリックス					事前：戦略論の背景 事後：多角化戦略の意味		講義・小テスト	
11	戦略の理論 (2) 戦略計画学派：アンゾフ② 多角化戦略					事前：多角化の様々な形態 事後：多角化とリスクの関係		講義・小テスト	
12	戦略の理論 (3) ポジショニング・ビュー：ポーター① 5つの競争要因					事前：ポーターの基礎理論 事後：5つの競争要因		講義・小テスト	
13	戦略の理論 (4) ポジショニング・ビュー：ポーター② 競争戦略					事前：競争戦略全般 事後：ポーターの基礎理論		講義・小テスト	
14	戦略の理論 (5) リソース・ベースト・ビュー：ハメル&ブラハラード					事前：資源ベース論 事後：模倣困難性の意味		講義・小テスト	
15	全体のまとめ					事前：全体の内容 事後：		講義	
教本： 講義資料は、教員が事前に作成し、アップロードもしくは前の週に配布する（初回の講義に指示する）。					参考文献： ①北野利信編『経営学説入門』有斐閣 ②渡辺峻・角野信夫・伊藤健市編『やさしく学ぶマネジメントの学説と思想』ミネルヴァ書房他				
成績評価の方法、評価基準： 下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。 小テスト（6点×13回：78%）、定期試験（22%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなる									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営学総論Ⅱ (Principle of Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 環境の複雑性と変化速度が増すビジネスの世界で起きている事象を理解し、社会のなかでの企業経営のあり方を考えていきます。企業論、事業論、組織論および管理論の各領域における具体的な事例を取り上げ、その理解を通して、経営とは何か、経営学の体系はどのように構成されているのか、を学習していきます。									
授業目標： 1. 経営学の基礎概念を理解する 2. 営学の体系を理解する 3. 経営とは何か、を考える力を養う									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	イントロダクション					事前：テキスト、序章精読 事後：ノート整理		講義	
2	経営学の体系					事前：前回ノート再読 事後：ノート整理		講義	
3	事例：大学発ベンチャーのビジネス・モデル					事前：テキスト10-19頁精読 事後：ノート整理		講義	
4	企業を起こす					事前：テキスト19-29頁精読 事後：ノート整理		講義	
5	事例：プロデューサーの株式上場					事前：テキスト30-38頁精読 事後：ノート整理		講義	
6	企業形態を変える					事前：テキスト38-48頁精読 事後：ノート整理		講義	
7	事例：ロックフェラーとスタンダード・オイル					事前：テキスト49-58頁精読 事後：ノート整理		講義	
8	現代企業の発生					事前：テキスト58-62頁精読 事後：ノート整理		講義	
9	事例：シャープの製品開発マネジメント					事前：テキスト216-227頁精読 事後：ノート整理		講義	
10	企業の知識体系					事前：テキスト227-231頁精読 事後：ノート整理		講義	
11	事例：セブン-イレブン・ジャパンの単品管理					事前：テキスト248-260頁精読 事後：ノート整理		講義	
12	消費者の変化に対応する事業システム					事前：テキスト260-265頁精読 事後：ノート整理		講義	
13	事例：ライオンの「部屋干しトップ」のマーケティング					事前：テキスト266-276頁精読 事後：ノート整理		講義	
14	ニーズの絞り込みによる市場創造					事前：テキスト276-286頁精読 事後：ノート整理		講義	
15	再び、経営とは何か					事前：キーワード整理 事後：ノート整理		講義	
教本： 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（新版）』有斐閣、¥2,600+税					参考文献： 随時提示する				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強く自己学習能力を高めるよう期待します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営学総論Ⅱ (Principle Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白川 満伸								
履 修 条 件	前提科目	経営学総論Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 1. 最初に、伝統的組織論および近代組織論に分けて、「組織とは何か」について学ぶ。その後、経営組織の基本形態、最高管理組織、部門管理組織に関する基礎知識を理解する。 2. 経営戦略論の基礎的な問題について学習し、 3. 財務管理や人的資源管理などの個別管理論の概要を紹介する。									
授業目標： 経営学の内容を大きく分ければ、企業論の分野と経営管理論の分野がある。経営学Ⅰでは企業論に関する問題を取り上げたが、経営学Ⅱでは、管理と組織および戦略の問題を中心に講義する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	経営組織とは何か					事前：なし 事後：なし		講義	
3	組織形成の原則					事前：なし 事後：なし		講義	
4	組織の基本形態					事前：なし 事後：なし		講義	
5	トップマネジメントの組織					事前：なし 事後：なし		講義	
6	ミドルマネジメントの組織①（職能別部門組織）					事前：なし 事後：なし		講義	
7	ミドルマネジメントの組織②（事業部制組織）					事前：なし 事後：なし		講義	
8	経営戦略とは何か					事前：なし 事後：なし		講義	
9	製品・市場戦略					事前：なし 事後：なし		講義	
10	多角化とシナジー					事前：なし 事後：なし		講義	
11	製品ポートフォリオ・マネジメント①					事前：なし 事後：なし		講義	
12	製品ポートフォリオ・マネジメント②					事前：なし 事後：なし		講義	
13	個別管理論①（財務管理）					事前：なし 事後：なし		講義	
14	個別管理論②（人事管理）					事前：なし 事後：なし		講義	
15	日本の経営 定期試験					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 初回講義日に伝える。					参考文献： 追って指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 ①授業参画状況等（30%）と②筆記試験（70%）の成績により評価する。									
学生へのアドバイス： 質問あれば、放置せず、挙手して積極的に発言してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営学総論Ⅱ (Principle of Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	清水 健太								
履 修 条 件	前提科目	経営学総論Ⅰを履修していることが望ましい							
	その他	なし							
授業概要： 経営学総論Ⅱでは、経営学総論Ⅰで経営学の基礎理論を学んだ学生を前提として、企業の実態を学ぶ企業論に近い内容に重点を置き、企業の行動原理や企業の仕組みを理解することを目的とする。									
授業目標： 1. 企業の行動原理について説明できる。 2. 日本企業の課題や特徴について説明できる。 3. 経営学の専門科目を学ぶ基礎的知識や学習方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：経営学の学び方					事前：参考図書の確認 事後：講義計画の確認		講義	
2	企業の行動原理①株式会社の成立					事前：企業と株主の関係 事後：株主の有限責任		講義・小テスト	
3	企業の行動原理②起業と資金調達					事前：企業と銀行の関係 事後：株主からの資金調達		講義・小テスト	
4	企業の行動原理③投資家と株式公開					事前：株主の行動原理 事後：株式公開とは何か		講義・小テスト	
5	コーポレート・ガバナンス①企業統治の仕組み					事前：所有と経営の分離 事後：企業統治の形態		講義・小テスト	
6	コーポレート・ガバナンス②経営者報酬の仕組み					事前：所有と経営の分離 事後：経営者報酬の形態		講義・小テスト	
7	企業グループの形成①持株会社の成立					事前：独占禁止法との関係 事後：全社戦略と事業戦略		講義・小テスト	
8	企業グループの形成②多角化経営と事業ポートフォリオ					事前：PPM分析 事後：金のなる木の衰退		講義・小テスト	
9	企業グループの形成③選択と集中の戦略					事前：シナジーとは何か？ 事後：長期の戦略との関係		講義・小テスト	
10	イノベーション①経営環境の変化とイノベーションシステム					事前：イノベーションの定義 事後：イノベーションの定義		講義・小テスト	
11	イノベーション②オープン・イノベーションへの変化					事前：オープン・イノベーションとは何か？ 事後：オープン・イノベーションとは何か？		講義・小テスト	
12	イノベーション③大企業からの新事業創造					事前：現代のイノベーションシステム 事後：現代のイノベーションシステム		講義・小テスト	
13	企業の戦略①成長戦略					事前：アンゾフの成長マトリクス 事後：アンゾフの成長マトリクス		講義・小テスト	
14	企業の戦略②競争戦略					事前：5つの競争要因 事後：5つの競争要因		講義・小テスト	
15	全体のまとめ					事前：全体の内容 事後：全体の内容		講義	
教本： 講義資料は、教員が事前に作成し、アップロードもしくは前の週に配布する（初回の講義に指示する）。					参考文献： ①忽那憲治他『ベンチャーキャピタルハンドブック』 ②柿崎洋一『企業論』 ③井上善海・大杉奉代『経営戦略入門』				
成績評価の方法、評価基準： 下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。 小テスト（6点×13回：78%）、定期試験（22%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなる									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 管 理 論 I (Business Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	清 水 健 太								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>経営管理論では、経営管理論の学説史的な発展を理解することを目的としている。講義内容についての理解度を問う小テストを毎回行うことにより、基礎的な理解力を高めることを目的とする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>① 経営管理論の基本的な理論を説明できる。 ② 経営管理論の史的発展過程を説明できる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：経営管理論の学び方					事前：参考書の確認 事後：講義スケジュールの確認		講義	
2	経営管理論の発展の概観					事前：経営管理論の背景 事後：経営管理論の流れ		講義・小テスト	
3	経営管理者の仕事：ドラッカー					事前：経営管理者の役割 事後：ドラッカーの経営学		講義・小テスト	
4	テイラーの科学的管理：① 課業管理					事前：動作研究等 事後：差別的出来高給制度		講義・小テスト	
5	テイラーの科学的管理：② 職能別職長制					事前：専門的組織の意義 事後：職能別職長制の課題		講義・小テスト	
6	ファヨールの経営管理過程論：① 管理過程					事前：管理過程の流れ 事後：管理原則と管理論		講義・小テスト	
7	ファヨールの経営管理過程論：② 管理原則					事前：管理原則の内容 事後：大量生産方式との関連		講義・小テスト	
8	フォードの大量生産方式					事前：科学的管理の関係 事後：専門化の原則		講義・小テスト	
9	メイヨーらの人間関係論：ホーソン実験					事前：古典的管理の問題点 事後：人の感情と管理論		講義・小テスト	
10	人間関係論と近代管理論					事前：欲求階層説 事後：科学的管理との関係		講義・小テスト	
11	近代管理論と目標管理					事前：X理論の限界 事後：Y理論と目標管理		講義・小テスト	
12	バーナードの組織論					事前：組織と共通目的 事後：組織の3要素		講義・小テスト	
13	サイモンの意思決定論					事前・事後：満足化原理		講義・小テスト	
14	事例研究					事前・事後：全体のまとめ		講義・小テスト	
15	全体のまとめ					事前・事後：全体のまとめ		講義	
教 本 :									
講義資料は、教員が事前に作成し、アップロードもしくは前の週に配布する(初回の講義に指示する)。					参 考 文 献 :				
					渡辺峻 他『やさしく学ぶマネジメントの学説と思想』、 佐久間信夫・壽永欣三郎編『現代経営学の基礎』他				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 下 記 の 基 準 を 満 た し て い る の か に つ い て 総 合 的 に 判 断 す る。									
小テスト(6点×13回:78%)、定期試験(22%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなる。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 管 理 論 I (Business Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	服 部 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 経 営 管 理 論 I で は 経 営 学 の 理 論 と 実 践 と が 結 合 し た 成 功 事 例 を 中 心 に 学 生 諸 君 に 継 承 す る よ う な 気 持 で 講 義 す る。									
授 業 目 標 : 1. 経 営 学 検 定 試 験 中 級 合 格 程 度									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン ; 経 営 管 理 論 の 学 び 方					事 前 : 事 後 :		講 義	
2	管 理 者 の 役 割					事 前 : 事 後 :		講 義	
3	管 理 者 育 成 (資 質 の 向 上)					事 前 : 事 後 :		講 義	
4	ピ ラ ミ ッ ド 型 組 織 と ダイ ナ ミ ッ ク 組 織					事 前 : 事 後 :		講 義	
5	ピ ラ ミ ッ ド 型 組 織 と ダイ ナ ミ ッ ク 組 織					事 前 : 事 後 :		講 義	
6	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン の 重 要 性 と 応 用					事 前 : 事 後 :		講 義	
7	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン の 重 要 性 と 応 用					事 前 : 事 後 :		講 義	
8	リ ー ダ ー シ ッ プ の 涵 養 と 育 成					事 前 : 事 後 :		講 義	
9	経 営 計 画 ・ ポ リ シ ー と の 関 係					事 前 : 事 後 :		講 義	
10	目 標 管 理 の 理 論 と 実 践					事 前 : 事 後 :		講 義	
11	目 標 管 理 の 理 論 と 実 践					事 前 : 事 後 :		講 義	
12	人 事 考 課 制 度 の 理 論 と 実 践					事 前 : 事 後 :		講 義	
13	人 事 考 課 制 度 の 理 論 と 実 践					事 前 : 事 後 :		講 義	
14	新 入 社 員 教 育 と 就 職 活 動					事 前 : 事 後 :		講 義	
15	事 例 研 究					事 前 : 事 後 :			
教 本 :					参 考 文 献 :				
1. 長 坂 寛 「革 新 経 営 へ の ミ ド ル の 道」学 文 社 ¥2,300+ 税					必 要 に 応 じ て 指 示 す る。				
2. 長 坂 寛 「ダイ ナ ミ ッ ク 組 織 と 管 理 者 行 動」頒 価 ¥1,200									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 画 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 就 職 活 動 に 役 立 つ 講 義 内 容 だ と 思 い ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 月 曜 日 の 昼 休 み。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営管理論Ⅱ (Business Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	清水 健太								
履 修 条 件	前提科目	経営管理論Ⅰ (Business Management Ⅰ) を履修していることが望ましい							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>後期の経営管理論は前期に学習した内容をベースに、より実践的な内容を紹介する。ただ知っているだけの知識ではなく、様々な経営学の分野の知識を吸収するための応用力をつけることを目的にする。また近年、伝統的な経営管理論を非営利組織に応用する取組みなどが行われている。これらの意義や問題点など、まだ検討段階の問題を考察することにより、学生一人一人にこれまで学んだ知識を応用し、考えてもらう講義を目指す。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>① 経営組織論における基本的理論を応用し、自分の意見を持てる。 ② 経営組織論における基本的理論を応用し、日本企業の組織の課題を議論できる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション：経営管理論の学び方				事前・事後： 講義スケジュールの確認			講義	
2	経営管理論の概要				事前・事後： 前期の復習			講義・小テスト	
3	官僚制と経営管理論				事前・事後官： 官僚制における古典的管理論の役割			講義・小テスト	
4	コンティンジェンシー理論の意義				事前・事後： コンティンジェンシー理論の内容の理解			講義・小テスト	
5	官僚制の課題と経営管理論				事前・事後： 官僚制の課題とは何か			講義・小テスト	
6	経営管理論と人間仮説				事前・事後： 人間仮説の理解			講義・小テスト	
7	事例研究：パナソニック （3回目、4回目、5回目講義の内容に該当）				事前： 事例の企業の概略を理解してくる			講義・小テスト	
8	事例研究：シャープ・日立製作所 （4回目、6回目講義の内容に該当）				事前： 事例の企業の概略を理解してくる			講義・小テスト	
9	リーダーシップ理論				事前・事後： リーダーシップ理論の位置づけと意義			講義・小テスト	
10	変革期のリーダーシップ論				事前・事後： 変革期に求められるリーダーシップとは？			講義・小テスト	
11	事例研究：日産自動車 （9回目、10回目講義の内容に該当）				事前： 事例の企業の概略を理解してくる			講義・小テスト	
12	経営管理論の非営利組織への応用				事前・事後： 非営利組織などへの応用としての経営管理論を考える			講義・小テスト	
13	非営利組織における経営管理				事前・事後： 非営利組織における経営管理の課題を考える			講義・小テスト	
14	事例：NPO法人の経営管理 （12回目、13回目講義の内容に該当）				事前： 事例で紹介するNPO法人の概略を理解してくる			講義・小テスト	
15	全体のまとめ				事前・事後： 全体のまとめ			講義	
<p>教本： 講義資料は、教員が事前に作成し、アップロードもしくは前の週に配布する（初回の講義に指示する）。</p>					<p>参考文献： 渡辺峻 他『やさしく学ぶマネジメントの学説と思想』、 佐久間信夫・壽永欣三郎編『現代経営学の基礎』他</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。 小テスト（6点×13回：78%）、定期試験（22%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなる。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営管理論Ⅱ (Business Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	服部 治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	経営学総論Ⅰの履修者を除く							
授業概要： 経営管理論Ⅱでは経営学を履修した者が社会生活において活用できる程度の思考と知識が習得できるよう講義する。									
授業目標： 1. 経営学検定試験中級合格程度									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 事例研究(1)					事前： 事後：		講義	
2	テイラーの科学的管理法					事前：教本 P.1～23 事後：		講義	
3	テイラーの科学的管理法					事前：教本 P.1～23 事後：		講義	
4	ファイヨールの管理論					事前：教本 P.25～42 事後：		講義	
5	ファイヨールの管理論					事前：教本 P.25～42 事後：		講義	
6	フォード・システム					事前：教本 P.43～69 事後：		講義	
7	メイヨールの人間管理論					事前：教本 P.71～95 事後：		講義	
8	メイヨールの人間管理論					事前：教本 P.71～95 事後：		講義	
9	動機づけ理論					事前：教本 P.97～171 事後：		講義	
10	動機づけ理論					事前：教本 P.97～171 事後：		講義	
11	バーナードの組織論					事前：教本 P.173～197 事後：		講義	
12	バーナードの組織論					事前：教本 P.173～197 事後：		講義	
13	サイモンの意思決定論					事前：教本 P.199～220 事後：		講義	
14	サイモンの意思決定論					事前：教本 P.199～220 事後：		講義	
15	事例研究(2)					事前： 事後：		講義	
教本： 1. 喬 晋建「経営学の開拓者たち」日本評論社 ¥2,800+税					参考文献： 必要に応じて指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参画状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 意欲的に受講すれば生涯役立つ知識が習得できるはずです。									
オフィスアワー： 月曜日の昼休み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 社 会 学 I (Sociology of Business I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	坂 本 隆 行								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>企業とは経済機能体としての側面だけではなく、自由意志を持ちときに非合理的行動を行う人間集団の側面も多分に持ち合わせている。また経営行動は、経営者や従業員等企業組織の構成員らが市場トレンドや社会文化、個々の顧客や企業内部の人間関係などの諸影響を受けることで、常に変化する。本講義は、このような人間集団としての経営活動を、社会的に解説する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 企業経営を人間集団の側面からとらえることができる。 2. 企業経営を社会学の観点から理解できる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：受講意識の整理 事後：受講目的の確認		講義	
2	共同主義と人間主義（日本企業の組織集団）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
3	企業文化（企業文化戦略とCI）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
4	経営理念（経営理念の必要性和意義）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
5	企業の経営形態（企業の諸類型と中小企業の二重構造問題）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
6	企業の所有・支配・統治（企業集団と企業の系列化）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
7	経営者と管理者（経営者・管理者の職能と昇進）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
8	企業官僚制と大企業病（企業組織の課題と改革）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
9	日本的経営の特徴 1（長期安定雇用慣行と同質化管理）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
10	日本的経営の特徴 2（年功昇進と職能主義）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
11	職場集団とモラル（権限委譲と従業員教育）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
12	企業の社会的逸脱行為（過当競争と企業犯罪）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
13	企業と地場経済（企業城下町の功罪）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
14	「倒産」のメカニズム					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
15	まとめ					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
プリントを配布する。					問 宏 著 『経 営 社 会 学 現 代 企 業 の 理 解 の た め に』 有 斐 閣 その他必要の都度、参考図書・資料等を紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講 義 内 容 を た だ 暗 記 す る の で は な く、繋 がり を 持 っ た 内 容 と し て 捉 え る よ う 心 掛 け る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営社会学Ⅱ (Sociology of Business Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	坂本 隆行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 一般に、企業を社会集団として捉えた場合、企業の数だけ企業文化が存在し、この企業文化は企業組織の経営判断を決定づける要因として経営行動に対し影響力を持っている。本講義は以上のような視点に基づき、社会集団としての企業を理解し分析できる様々な社会学的理論を概説する。									
授業目標： 1. 企業経営を人間集団の側面からとらえることができる。 2. 企業経営を社会学の観点から理解し、説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：受講意識の整理 事後：受講目的の確認		講義	
2	企業の人間的側面（企業行動の非合理性）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
3	企業集団の意識（ゲマインシャフトとゲゼルシャフト）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
4	企業経営と生産意欲（人間共同体の持つ「製作本能」）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
5	人間集団としての企業の行動特性（集団への同一化傾向）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
6	企業の集団特性（グレイナーの企業進化モデルと集団特性の変質過程）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
7	中小企業の経営特性（不完全機構と非自律性）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
8	経営者の能力と資質 1（企業家精神）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
9	経営者の能力と資質 2（経営者能力と後継者問題）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
10	経営の社会性（経営診断の視点による考察）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
11	企業経営の社会学 1（リーダーシップ理論）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
12	企業経営の社会学 2（マートン・アノミー）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
13	企業経営の社会学 3（ゲシュタルト心理学（クルト・レヴィン））					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
14	企業の社会的責任（ミッション経営）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
15	まとめ					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 竹内毅著『中小企業の経営』同文館 その他必要の都度、参考図書・資料等を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義内容をただ暗記するのではなく、繋がりを持った内容として捉えるよう心掛けること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 組 織 論 I (Management Organization I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	清 水 健 太								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 : 経 営 組 織 論 にお け る 理 論 的 発 展 を 学 習 す る こ と を 目 的 に す る 。									
授 業 目 標 : 【知 識 ・ 理 解】 経 営 組 織 論 の 基 本 的 な 理 論 を わ か り や す く 説 明 で き る 。 【思 考 ・ 判 断】 経 営 組 織 論 に 関 す る 諸 理 論 ・ 諸 学 説 が ど の よ う に 生 成 し 展 開 し た か を 述 べ る こ と が で き る 。 【関 心 ・ 意 欲】 現 実 の 企 業 経 営 の ケ ー ス を 経 営 組 織 論 と 結 び 付 け て 考 え る こ と が で き る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン : 組 織 論 の 学 び 方			事 前 : 組 織 論 を 学 ぶ う え で 重 要 な 点 を 理 解 す る 。 事 後 : 組 織 論 を 学 ぶ う え で 重 要 な 点 を 理 解 す る 。			講 義		
2	組 織 と は 何 か ?			事 前 : 組 織 の 定 義 ・ 概 念 に つ い て 理 解 す る 。 事 後 : 組 織 の 定 義 ・ 概 念 に つ い て 理 解 す る 。			講 義 ・ 小 テ ス ト		
3	組 織 構 造 の 設 計			事 前 : 組 織 構 造 の 様 々 な 形 態 を 理 解 す る 事 後 : 組 織 構 造 の 様 々 な 形 態 を 理 解 す る			講 義 ・ 小 テ ス ト		
4	官 僚 制 組 織 の 発 展			事 前 : 官 僚 制 組 織 の 意 義 事 後 : 官 僚 制 組 織 の 課 題			講 義 ・ 小 テ ス ト		
5	外 部 の 不 確 実 性 へ の 対 応 と 経 営 組 織			事 前 : 外 部 環 境 と 組 織 の 関 係 を 理 解 す る 事 後 : 外 部 環 境 と 組 織 の 関 係 を 理 解 す る			講 義 ・ 小 テ ス ト		
6	コ ン テ ン ジ ェ ン シ ー 理 論 : 環 境 変 化 へ の 適 応			事 前 : 環 境 変 化 と 組 織 の 関 係 事 後 : 環 境 変 化 と 組 織 の 関 係			講 義 ・ 小 テ ス ト		
7	事 例 分 析 : コ ー エ ー テ ク モ ホ ー ル デ ィ ン グ ス (コ ン テ ン ジ ェ ン シ ー 理 論 : 環 境 変 化 へ の 適 応)			事 前 : 事 例 の 企 業 の 概 略 を 理 解 し て く る 事 後 :			講 義 ・ 小 テ ス ト		
8	資 源 ベ ー ス 論 (リ ソ ー ス ・ ベ ー ス ド ・ ビ ュ ー)			事 前 : 事 後 : 資 源 ベ ー ス 論 に お け る 組 織 の 役 割 を 理 解 す る			講 義 ・ 小 テ ス ト		
9	コ ア ・ コ ン ビ タ ン ス 経 営			事 前 : 事 後 : コ ア ・ コ ン ビ タ ン ス と は 何 か ?			講 義 ・ 小 テ ス ト		
10	事 例 分 析 : サ ン リ オ (資 源 ベ ー ス 論)			事 前 : 事 例 の 企 業 の 概 略 を 理 解 し て く る 事 後 :			講 義 ・ 小 テ ス ト		
11	合 併 ・ 買 収 と 大 規 模 企 業 グ ル ー プ の 形 成			事 前 : 企 業 グ ル ー プ の 形 成 に お け る 合 併 ・ 買 収 の 意 味 を 理 解 す る 事 後 : 企 業 グ ル ー プ の 形 成 に お け る 合 併 ・ 買 収 の 意 味 を 理 解 す る			講 義 ・ 小 テ ス ト		
12	組 織 文 化 の 統 合 と 合 併 ・ 買 収			事 前 : 合 併 ・ 買 収 に お け る 組 織 文 化 の 問 題 を 理 解 す る 事 後 : 合 併 ・ 買 収 に お け る 組 織 文 化 の 問 題 を 理 解 す る			講 義 ・ 小 テ ス ト		
13	ダ イ ナ ミ ッ ク ・ ケ イ バ ビ リ テ ィ ・ ア プ ロ ー チ			事 前 : 3 つ の 研 究 分 野 か ら な る 経 営 組 織 の 考 え 方 を 理 解 す る 事 後 : 3 つ の 研 究 分 野 か ら な る 経 営 組 織 の 考 え 方 を 理 解 す る			講 義 ・ 小 テ ス ト		
14	事 例 分 析 : 京 セ ラ (ダ イ ナ ミ ッ ク ・ ケ イ バ ビ リ テ ィ ・ ア プ ロ ー チ)			事 前 : 事 例 の 企 業 の 概 略 を 理 解 し て く る 事 後 :			講 義 ・ 小 テ ス ト		
15	全 体 の ま と め			事 前 : 全 体 の ま と め 事 後 : 全 体 の ま と め			講 義		
教 本 : 講 義 資 料 は 、 教 員 が 事 前 に 作 成 し 、 ア ッ プ ロ ー ド も し く は 前 の 週 に 配 布 す る (初 回 の 講 義 に 指 示 す る) 。									
参 考 文 献 : 柿 崎 洋 一 『 企 業 論 』 、 井 上 善 海 ・ 大 杉 奉 代 『 経 営 戦 略 入 門 』 、 萩 原 俊 彦 『 多 角 化 戦 略 と 経 営 組 織 』 、 他									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 下 記 の 基 準 を 満 た し て い る の か に つ い て 総 合 的 に 判 断 す る 。 小 テ ス ト (6 点 × 13 回 : 78%) 、 定 期 試 験 (22%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 意 欲 を 持 っ て 参 加 す れ ば 、 学 ぶ こ と が 楽 し く な る									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営組織論 I (Management Organization I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 元一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	下記「学生へのアドバイス」を除き、特になし							
授業概要：									
1. 90分の授業のうち、最初の60分間は、テキストの重要事項および配布論文・事例に関し、学生諸兄弟による「理解—共感—共鳴—共有の輪」を広げることに注力する。									
2. 最後の30分間は、上記1に関する学生諸兄弟の小レポートの執筆と提出に充てる。									
3. 上記2の小レポートは、次回にコメント付きで各位にフィードバックする。									
授業目標：									
1. 経営組織に関する研究には、いくつかの接近方法（アプローチ）があるが、この講義では「組織開発の視点によるダイナミックなアプローチ」を採用する。									
2. すなわち、「生身の人間集団としての組織の生きざま」を取り上げる。									
3. 上記1+2の姿勢に基づき、学生諸兄弟が、近い将来にビジネスパーソンの1人として、企業経営への貢献を通じて、個人の自己実現および社会への貢献を追求・実現できる素地を涵養する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の全体像の展望					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
2	コンセプト研究 ①					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
3	コンセプト研究 ②					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
4	コンセプト研究 ③					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
5	事例研究 ①					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
6	事例研究 ②					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
7	事例研究 ③					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
8	中間点による自己評価					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
9	コンセプト研究 ④					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
10	コンセプト研究 ⑤					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
11	コンセプト研究 ⑥					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
12~14	事例研究 ④ ⑤ ⑥					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
15	授業の全体像の回顧・反省					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
教本： 開講時に指示する。					参考文献： 中村元一執筆の文献などの関連部分のコピーを必要に応じて配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 100点満点：＜内訳＞筆記試験50点＋受講姿勢（＝小レポートを含む平常点）50点									
学生へのアドバイス： 現実企業を対象とする「真剣勝負の講義」なので、「緊張力×持続力の鍛錬の場」に臨む心構えが不可欠。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 組 織 論 II (Management Organization II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	清 水 健 太								
履 修 条 件	前 提 科 目	経 営 学 総 論 I を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
後 期 の 経 営 組 織 論 は 多 角 化 経 営 な ど に よ り 複 雑 に 変 化 し た 企 業 組 織 の 問 題 を 理 解 す る こ と を 目 的 に し て い る。									
授 業 目 標 :									
【知 識 ・ 理 解】 経 営 組 織 論 の 基 本 的 な 理 論 を わ か り や す く 説 明 で き る。【思 考 ・ 判 断】 経 営 組 織 論 に 関 す る 諸 理 論 ・ 諸 学 説 が ど の よ う に 生 成 し 展 開 し た か を 述 べ る こ と が で き る。【関 心 ・ 意 欲】 現 実 の 企 業 経 営 の ケ ー ス を 経 営 組 織 論 と 結 び 付 け て 考 え る こ と が で き る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン : 組 織 論 の 学 び 方				事 前 : 講 義 ス ケ ジ ュ ー ル の 確 認 事 後 : 講 義 ス ケ ジ ュ ー ル の 確 認			講 義	
2	組 織 と は 何 か ?				事 前 : 前 期 の 復 習 事 後 : 前 期 の 復 習			講 義 ・ 小 テ ス ト	
3	産 業 資 本 主 義 の 発 展 と 企 業 成 長				事 前 : 企 業 成 長 と 産 業 資 本 主 義 の 関 係 事 後 : 企 業 成 長 と 産 業 資 本 主 義 の 関 係			講 義 ・ 小 テ ス ト	
4	単 一 事 業 の 限 界 と 多 角 化 戦 略				事 前 : 企 業 成 長 と 多 角 化 経 営 の 関 係 事 後 : 企 業 成 長 と 多 角 化 経 営 の 関 係			講 義 ・ 小 テ ス ト	
5	多 角 化 戦 略 と 事 業 ポ ー ト フ ォ リ オ の 最 適 化				事 前 : 事 業 ポ ー ト フ ォ リ オ に 関 す る 理 解 事 後 : 事 業 ポ ー ト フ ォ リ オ に 関 す る 理 解			講 義 ・ 小 テ ス ト	
6	事 業 ポ ー ト フ ォ リ オ の 最 適 化 と PPM 分 析				事 前 : PPM 分 析 に お け る 金 の なる 木 の 意 味 事 後 : PPM 分 析 に お け る 金 の なる 木 の 意 味			講 義 ・ 小 テ ス ト	
7	事 例 分 析 1 : カ プ コ ン (企 業 成 長 と 多 角 化 戦 略)				事 前 : 事 例 企 業 の 概 略 を 理 解 し て く る 事 後 :			講 義 ・ 小 テ ス ト	
8	事 例 分 析 2 : ソ フ ト バ ン ク (事 業 ポ ー ト フ ォ リ オ の 最 適 化 と PPM 分 析)				事 前 : 事 例 企 業 の 概 略 を 理 解 し て く る 事 後 :			講 義 ・ 小 テ ス ト	
9	組 織 に お け る 経 営 者 の 役 割				事 前 : 経 営 者 と 経 営 理 念 事 後 :			講 義 ・ 小 テ ス ト	
10	持 株 会 社 形 態 の 発 展 と 企 業 グ ル ー プ の 形 成				事 前 : 持 株 会 社 形 態 の 意 義 を 理 解 す る 事 後 : 持 株 会 社 形 態 の 意 義 を 理 解 す る			講 義 ・ 小 テ ス ト	
11	全 社 戦 略 と 事 業 戦 略				事 前 : 持 株 会 社 形 態 に お け る 戦 略 レ ベ ル の 違 い を 理 解 す る 事 後 : 持 株 会 社 形 態 に お け る 戦 略 レ ベ ル の 違 い を 理 解 す る			講 義 ・ 小 テ ス ト	
12	オ ー プ ン ・ イ ノ ベ シ ョ ン と 組 織 を 超 え た ネ ッ ト ワ ー ク				事 前 : 企 業 と い う 組 織 を 超 え た イ ノ ベ シ ョ ン シ ス テ ム を 理 解 す る 事 後 : 企 業 と い う 組 織 を 超 え た イ ノ ベ シ ョ ン シ ス テ ム を 理 解 す る			講 義 ・ 小 テ ス ト	
13	事 例 分 析 1 : 株 式 会 社 バ ン ダ イ ナ ム コ ホ ー ル デ ィ ン グ ス (持 株 会 社 形 態 と 経 営 戦 略)				事 前 : 事 例 企 業 の 概 略 を 理 解 し て く る 事 後 :			講 義 ・ 小 テ ス ト	
14	事 例 分 析 2 : KDDI (オ ー プ ン ・ イ ノ ベ シ ョ ン と 組 織 を 超 え た ネ ッ ト ワ ー ク)				事 前 : 事 例 企 業 の 概 略 を 理 解 し て く る 事 後 :			講 義 ・ 小 テ ス ト	
15	全 体 の ま と め				事 前 : 全 体 の ま と め 事 後 : 全 体 の ま と め			講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
講 義 資 料 は、教 員 が 事 前 に 作 成 し、ア ッ プ ロ ー ド も し く は 前 の 週 に 配 布 す る (初 回 の 講 義 に 指 示 す る)。					柿 崎 洋 一 『 企 業 論 』、井 上 善 海 ・ 大 杉 奉 代 『 経 営 戦 略 入 門 』、萩 原 俊 彦 『 多 角 化 戦 略 と 経 営 組 織 』、他				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
下 記 の 基 準 を 満 た し て い る の か に つ い て 総 合 的 に 判 断 す る。 小 テ ス ト (6 点 × 13 回 : 78%)、定 期 試 験 (22%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
意 欲 を 持 っ て 参 加 す れ ば、学 ぶ こ と が 楽 し く な る									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営組織論Ⅱ (Management Organization II)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 元一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	下記「学生へのアドバイス」を除き特になし							
授業概要：									
1. 90分の授業のうち、最初の60分間は、テキストの重要事項および配布論文・事例に関し、学生諸兄弟による「理解—共感—共鳴—共有の輪」を広げることに注力する。									
2. 最後の30分間は、上記1に関する学生諸兄弟の小レポートの執筆と提出に充てる。									
3. 上記2の小レポートは、次回にコメント付きで各位にフィードバックする。									
授業目標：									
1. 経営組織に関する研究には、いくつかの接近方法（アプローチ）があるが、この講義では「組織開発の視点によるダイナミックなアプローチ」を採用する。									
2. すなわち、「生身の人間集団としての組織の生きざま」を取り上げる。									
3. 上記1+2の姿勢に基づき、学生諸兄弟が、近い将来にビジネスパーソンの1人として、企業経営への貢献を通じて、個人の自己実現および社会への貢献を追求・実現できる素地を涵養する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の全体像の展望					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
2	コンセプト研究 ①					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
3	コンセプト研究 ②					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
4	コンセプト研究 ③					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
5	事例研究 ①					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
6	事例研究 ②					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
7	事例研究 ③					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
8	中間点による自己評価					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
9	コンセプト研究 ④					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
10	コンセプト研究 ⑤					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
11	コンセプト研究 ⑥					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
12~14	事例研究 ④ ⑤ ⑥					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
15	授業の全体像の回顧・反省					事前：なし 事後：当日の講義内容		講義	
教本： 開講時に指示する。					参考文献： 中村元一執筆の文献などの関連部分のコピーを必要に応じて配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 100点満点：＜内訳＞筆記試験50点＋受講姿勢（＝小レポートを含む平常点）50点									
学生へのアドバイス： 現実企業を対象とする「真剣勝負の講義」なので、「緊張力×持続力の鍛錬の場」に臨む心構えが不可欠。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修		単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営文化論 I (Business Culture I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 経営と文化との関係づけを通して現実の経営における諸問題について学習していきます。この学習は、企業活動の国際化の進展・深化ならびに社会関係の複雑化とともに重要性をより増しています。そこで、この授業では、経営と文化の関係づけの基礎となる見方・考え方・感じ方・決め方を検討し、授業計画に示した各課題をひとつずつ解説していきます。									
授業目標： 1. 経営を文化の視座からアプローチすることにより、経営の諸問題に対応可能な実践知を身につけていきます。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	経営文化論と松蔭大学					事前：シラバス 事後：シラバス		講義	
2	経営文化論の背景					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
3	経営と文化					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
4	経営と文化の諸問題					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
5	経営における効率性原理と人間性原理に関する文化基準					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
6	二つのアプローチ					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
7	日米比較経営論と日本的経営論					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
8	経営文化の変容モデル					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
9	多文化組織の経営					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
10	国際経営組織の心理と文化					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
11	事例学習 1 —— 小糸製作所のコーポレート・ガバナンス：日本の経営者 vs 米国の株主 (1)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
12	事例学習 1 —— 小糸製作所のコーポレート・ガバナンス：日本の経営者 vs 米国の株主 (2)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
13	事例学習 2 —— ソニーの海外事業買収と経営文化 (1)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
14	事例学習 2 —— ソニーの海外事業買収と経営文化 (2)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
15	経営文化学の構想					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
教本： 印刷資料を用います。					参考文献： 1. 村山元英・小柏喜久夫『経営文化論序説』文眞堂、¥3,800+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修		単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 文 化 論 I (Business Culture I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 毅								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 日 本 的 経 営 の 歴 史 的 発 展 の 考 察 か ら 、 日 本 的 経 営 に は 文 化 ・ 社 会 ・ 政 治 ・ 経 済 へ と 進 む ラ イ フ ・ サ イ ク ル が あ る こ と が 判 明 し た 。 日 本 人 の コ ア の 文 化 は 、 ふ た 度 、 新 し い 日 本 的 経 営 の ラ イ フ ・ サ イ ク ル が 開 始 さ れ た 。									
授 業 目 標 : 1 . 日 本 的 経 営 を 考 察 す る こ と に よ っ て 、 経 営 文 化 の 本 質 が 理 解 で き る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	日 本 的 経 営 と は 何 か 。					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2	日 本 的 経 営 の 特 徴					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
3	日 本 的 経 営 の 構 成 要 素					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
4	日 本 的 経 営 の 諸 機 能					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
5	日 本 人 の 究 極 的 物 の 見 方 ・ 考 え 方					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
6	日 本 的 経 営 の 孵 化 ー 平 安 時 代					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
7	日 本 的 経 営 の 誕 生 ー 江 戸 時 代					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
8	日 本 的 経 営 の 成 長 ー 明 治 維 新					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
9	日 本 的 経 営 の 発 展 ー 準 大 戦 時 ・ 大 戦 時					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
10	日 本 的 経 営 の 成 熟 ー 高 度 成 長 期					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
11	日 本 的 経 営 の 衰 退 ー バ ブ ル 崩 壊 後					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
12	日 本 的 経 営 の 崩 壊 ー グ ロ ー バ ル 時 代					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
13	新 日 本 的 経 営 の 孵 化 ー 日 本 人 の 究 極 的 物 の 見 方 考 え 方 の 進 化					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
14	新 日 本 的 経 営 の 誕 生 ー コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 革 命 ・ エ ネ ル ギ ー 革 命					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
15	新 日 本 的 経 営 と 諸 機 能 の 変 化					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
教 本 : 1 . 中 川 敬 一 朗 著 『 日 本 的 経 営 』 日 本 経 済 社					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30 %) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10 %) 、 定 期 試 験 (60 %) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 寝 て い る 学 生 、 携 帯 電 話 、 私 語 等 に 夢 中 な 学 生 は 退 室 し て も ら い ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 文 化 論 II (Business Culture II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>経営文化論Ⅰの理解を基礎にして、日本の経営文化を表層にとどまることなく深層から理解すべく、これまでのフィールドワークの成果に基づき、日本の経営文化の諸問題の現在と今後の課題について考えていきます。経営理念および思考様式、意思決定方式、経営教育ならびにマーケティング・人事・生産・財務などの各職能分野に及ぶ日本の経営文化の諸問題を体系化された枠組みをもって認識する一方で、事例学習によりその理解を確かめていきます。</p>									
授 業 目 標 :									
日本の経営文化を理解し、時代の変化のなかで、そのパラダイム・シフトの方向について考える力をつけていきます。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	日本の経営文化 ― 経営理念および経営思考様式					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
2	― 意思決定方式					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
3	― 経営者教育および能力開発					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
4	― マーケティング構造					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
5	― 生産方式					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
6	― 人事管理制度					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
7	― 財務管理システム					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
8	― 経営報告システム					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
9	― 中小企業経営およびベンチャー・ビジネス					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
10	日本の経営文化の特質					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
11	事例学習 1 ― 日立製作所の日本的経営(1)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
12	事例学習 1 ― 日立製作所の日本的経営(2)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
13	事例学習 2 ― トヨタ式生産方式(1)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
14	事例学習 2 ― トヨタ式生産方式(2)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
15	パラダイム・シフトの方向					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
印刷資料を用います。					村山元英・小柏喜久夫『経営文化論序説』文真堂、¥3,800+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業内容への参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (60%) 等で総合評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠席しないことが大前提です。積極的に取り組み、自己学習能力を高めるよう期待します。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 文 化 論 II (Business Culture II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 毅								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 変化しない文化と変化する文化を統合する日本的経営文化の特質について言及する。次に、コア文化は変化しないが、国によりコア文化が違うことから各国コア文化の理解は、紛争の回避と相互理解のために必要不可欠であります。他方、文化・社会・政治・経済の4領域の均衡を崩させている要因と文化の変化について言及する。									
授 業 目 標 : 日本の経営文化の本質を理解することにより、21世紀のグローバル社会にどのように生きていけばよいか分かる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	日 本 的 経 営 文 化 の 本 質 変 化 し な い 文 化 と 変 化 す る 文 化 の 統 合					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2	変 化 し な い 文 化 (総 合 的 思 考)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
3	変 化 す る 文 化 (分 析 的 思 考)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
4	2 つ の 文 化 を 統 合 す る 日 本 的 経 営 文 化					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
5	コ ア 文 化 は 変 化 し な い が、コ ア 文 化 は 国 に よ り 違 う					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
6	日 本 人 の コ ア 文 化					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
7	西 欧 人 の コ ア 文 化					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
8	中 国 ・ 韓 国 の コ ア 文 化					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
9	イ ス ラ ム ・ ア フ リ カ ・ 中 南 米 の コ ア 文 化					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
10	第 3 次 産 業 革 命 に よ り 文 化 は 変 化 す る					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
11	政 治 セ ク タ ー の 変 化 に よ り 文 化 は 変 化 す る					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
12	経 済 セ ク タ ー の 変 化 に よ り 文 化 は 変 化 す る					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
13	社 会 セ ク タ ー の 変 化 に よ り 文 化 は 変 化 す る					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
14	日 本 的 経 営 文 化 の 役 割 と 機 能					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
15	21 世 紀 グ ロ ー バ ル 社 会 を 先 導 す る 日 本 的 経 営 文 化					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
教 本 : 麻 生 川 静 男 『社 会 人 の リ ベ ラ ル ・ ア ー ツ』 祥 伝 社					参 考 文 献 : 1. ス ト ー ク ス 「世 界 に 比 類 な き 日 本 文 化」 祥 伝 社 新 書 2. ミ ン ツ バ ー グ 「私 たち は ど こ ま で 資 本 主 義 に 従 う の か」 ダ イ ヤ モ ン ド 社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 し ま す。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 寝 て い る 学 生、携 帯 電 話、私 語 等 に 夢 中 な 学 生 は 退 室 し て も ら い ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営分析論 I (Business Analysis I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石崎 忠司								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>毎回、企業に関する新聞のニュースや経済誌の情報を材料にして、企業の経営活動の良否を見る目を養えるようにします。経営分析は、経営学、会計学の両分野にまたがっていますから、幅広く学んできたことを利用し、経営者、債権者、従業員、消費者などの視点から企業の良否を検討します。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>日経新聞の企業関係のニュースや情報に関心を持ち、就職活動に役立てるようにします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	経営分析の目的と重要性					事前：なし 事後：なし		講義	
2	経営分析の体系					事前：なし 事後：なし		講義	
3	分析のための資料					事前：なし 事後：なし		講義	
4	伸びる会社の分析(1)					事前：なし 事後：なし		講義	
5	伸びる会社の分析(2)					事前：なし 事後：なし		講義	
6	伸びる会社の分析(3)					事前：あり 事後：あり		演習	
7	伸びる会社の分析(4)					事前：あり 事後：あり		演習	
8	利益の大きい会社の分析(1)					事前：なし 事後：なし		講義	
9	利益の大きい会社の分析(2)					事前：なし 事後：なし		講義	
10	利益の大きい会社の分析(3)					事前：あり 事後：あり		演習	
11	利益の大きい会社の分析(4)					事前：あり 事後：あり		演習	
12	強い会社と良い会社(1)					事前：なし 事後：なし		講義	
13	強い会社と良い会社(2)					事前：なし 事後：なし		講義	
14	強い会社と良い会社(3)					事前：あり 事後：あり		演習	
15	成長性・収益性・社会性					事前：なし 事後：あり		講義・演習	
<p>教本：</p> <p>『エッセンシャル経営分析』同文館</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業の折に指示</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>会社に関心を持ち、入社試験に備えるための授業と考えて欲しい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営分析論Ⅱ (Business Analysis Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石崎 忠司								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>前期の成長性、収益性を中心にした分析を復讐した後、倒産の恐れがないかどうかに関する分析、生産・販売の効率性に関する分析を取り上げます。会社の良否を総合的に判断できるようにします。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>入社試験に備えて、会社選びができるようにします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	成長企業の特徴					事前：なし 事後：なし		講義	
2	成長企業の事例					事前：なし 事後：なし		講義	
3	株価と利益の関係					事前：なし 事後：なし		講義	
4	従業員にとって良い会社					事前：なし 事後：あり		講義	
5	消費者にとって良い会社					事前：なし 事後：あり		講義	
6	環境にやさしい会社					事前：なし 事後：なし		講義	
7	倒産の概念・倒産の実態					事前：なし 事後：なし		講義	
8	倒産の原因					事前：なし 事後：なし		講義	
9	安全性の分析					事前：なし 事後：なし		講義	
10	安全性の分析					事前：なし 事後：なし		講義	
11	安全性の分析					事前：なし 事後：あり		講義	
12	会社の分析（事例研究）					事前：あり 事後：あり		演習	
13	会社の分析（事例研究）					事前：あり 事後：あり		演習	
14	会社の分析（事例研究）					事前：あり 事後：あり		演習	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 『エッセンシャル経営分析』同文館					参考文献： 授業の折に指示します。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 就職のための心構えを持ってください。授業を受ける態度は面接時の態度に現れます。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営リスクマネジメント論 (The Risk and Crisis Management for Business Administration)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： ビジネスには、リスクはつきものである。また、大きな収益を狙おうとすれば、より高いリスクを許容せざるを得ないのが通常である。リスクは発現し危機となる可能性であるから、ビジネスにおいては、時には危機となることもありうる。この授業では、ビジネスに於ける、リスク・コントロールなどリスクの取り扱いの仕方、リスクのある状況の中での組織の運営、そして、万一、危機が発生したときの経営の仕方やあり方ならびにその関連事項について学ぶ。なお、本年度、かなり大幅の内容の改訂を行っている。</p>									
<p>授業目標：①経営におけるリスクと危機の概念を理解する。 ②経営におけるリスクや危機はどのようなものがあり、それらがどのような特性を持っているか理解する。 ③経営におけるリスクや危機をどのようにコントロールするかを理解する。 ④リスクを低減するためのマネジメント手法および危機になった時の行動の仕方について理解する。 ⑤リスクコミュニケーション、クライシスコミュニケーションなどリスクや危機に際しての対外関係のあり方の理解をする。 ⑥その他、経営におけるリスクや危機に関する関連事項を理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 経営におけるリスクおよび危機の存在					事前： 事後：		講義	
2	経営の際のリスクマネジメント 事業継続マネジメント					事前：予習 事後：復習		講義	
3	ガバナンスリスク（その発現、内部統制、監査システム）					事前：予習 事後：復習		講義	
4	人に絡むリスク					事前：予習 事後：復習		講義	
5	市場リスク					事前：予習 事後：復習		講義	
6	投資リスク					事前：予習 事後：復習		講義	
7	技術関連リスク					事前：予習 事後：復習		講義	
8	環境・社会関連、リスク					事前：予習 事後：復習		講義	
9	災害リスク					事前：予習 事後：復習		講義	
10	未来社会リスク					事前：予習 事後：復習		講義	
11	リスクの取り扱いに関する考え方					事前：予習 事後：復習		講義	
12	リスクの取り扱いの方法論					事前：予習 事後：復習		講義	
13	リスクへの備え (危機マニュアル、リスクファイナンス、リスクコミュニケーション、リスク監視)					事前：予習 事後：復習		講義	
14	企業（組織）の危機時の行動のあり方					事前：予習 事後：復習		講義	
15	全体のまとめ					事前：予習 事後：復習		講義	
教本： なし。					参考文献： リスク危機マネジメントのすすめ（宮林正恭、丸善出版） また、必要に応じ授業において追加指示する。				
<p>成績評価の方法、評価基準： 中間レポート（30%）、期末レポートまたは試験（40%）、演習（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： ビジネスの世界は常に動いている。それを題材にするので、社会の経済ニュースに常に興味を持って新聞、テレビ、SNS、雑誌などにより、情報を入力し、理解するように努めてほしい。</p>									
<p>オフィスアワー： 別途掲示される予定になっているのでその時間帯に来てください。可能な限り、電話またはショートメールで事前に連絡をくれるとありがたい。 連絡先：080-4732-3423 メールアドレス：mmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室 3810室。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	景観論 I (Landscape Studies I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	斉藤 全彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>観光産業において観光資源はいろいろあるが、その中でも景観は観光資源の最も重要な資源の一つである。前期は風景から景観に変遷してゆく過程を学び、景観がいかに日常生活の中で重要な要素を果たしているかを認識して、具体的に小田原市においてフィールドワークを実践し、レポートを作成する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 観光資源の重要かつ大きな要素でもある景観の基礎を学ぶ 2. 景観が日常生活でいかに重要な位置を占めるかを学ぶ 3. 観光業の資源として“風景”が“景観”になることによって世界遺産などの観光最重要物になることを学ぶ</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：景観論の全般について 世界遺産のDVDを見る					事前：Text はじめに 事後：なし		講義	
2	①風景以前の「風景」					事前：Text 2p-14p 事後：なし		講義	
3	②風景の発見					事前：Text 17p-34p 事後：なし		講義	
4	③規範としての風景					事前：Text 33p-48p 事後：なし		講義	
5	④歴史が作る風景					事前：Text 51p-65p 事後：なし		講義	
6	世界遺産のDVDをみてディスカッション					事前：なし 事後：なし		演習	
7	⑤近代主義が作る眺め					事前：Text 69p-81p 事後：なし		講義	
8	⑥都市の風景化					事前：Text 85p-96p 事後：なし		講義	
9	⑦風景から景観へ					事前：Text 99p-111p 事後：なし		講義	
10	⑧集落と生活景					事前：Text 115p-129p 事後：なし		講義	
11	世界遺産のDVDを見てディスカッション					事前：なし 事後：なし		演習	
12	⑨郊外風景の没場所性					事前：Text 133p-142p 事後：なし		講義	
13	⑩仮構される風景					事前：Text 145p-157p 事後：なし		講義	
14	⑪生態的風景					事前：Text 161p-175p 事後：なし		講義	
15	⑫自分が風景になる／まとめ					事前：Text 179p-194p 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>中川理著『風景学』共立出版 ¥3,300+ 税</p>					<p>参考文献：</p> <p>小林克己著『世界遺産一度は行きたい100選ヨーロッパ』 JTB（アジア・アフリカ／南北アメリカ・オセアニア）</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、レポート（70%）で総合評価する。定期試験はございません。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>景観論 I の受講者は是非とも景観論 II も受講してください。続いておりますので。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	景観論Ⅱ (Landscape Studies Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	斉藤 全彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 観光産業において観光資源はいろいろあるが、その中でも景観は観光資源の最も重要な資源の一つである。後期は、具体的に景観をどのように分析評価するかを学び、景観法、景観行政、そして具体的に自然景観・都市景観・文化的景観などを考察し、行政が提出している景観計画を厚木市・小田原市などの具体的事例を用い考察する。学んだ諸概念を用い、フィールドワークを実践しレポートを作成する。									
授業目標： 1. 観光資源の重要かつ大きな要素でもある景観の基礎を学ぶ 2. 具体的な都市・自然景観などの分析評価を学ぶ 3. 役所が実施している景観行政を理解できる景観の基礎を習得 4. 持続可能な観光事業のための景観論を学ぶ 5. 小田原市などの景観調査を実践する 6. 景観が日常生活でいかに重要な位置を占めるかを学ぶ									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義全般の説明 世界遺産のDVDを見る					事前：なし 事後：なし		講義	
2	①景観概念とその捉え方					事前：Text 9p-37p 事後：なし		講義	
3	②景観の分析・予測・評価					事前：Text 39p-95p 事後：なし		講義	
4	③景観の法制度と体制					事前：Text 97p-117p 事後：なし		講義	
5	④文化財と文化的景観					事前：Text 120p-135p 事後：なし		講義	
6	世界遺産のDVDをみてディスカッション					事前：なし 事後：なし		演習	
7	⑤自然景観・田園景観					事前：Text 137p-169p 事後：なし		講義	
8	⑥都市の景観					事前：Text 170p-207p 事後：なし		講義	
9	⑦道の景観					事前：Text 208p-231p 事後：なし		講義	
10	⑧河川の景観					事前：Text 232p-251p 事後：なし		講義	
11	世界遺産のDVDを見てディスカッション					事前：なし 事後：なし		演習	
12	⑨港の景観					事前：Text 252p-267p 事後：なし		講義	
13	⑩構造物と景観					事前：Text 268p-291p 事後：なし		講義	
14	⑪景観意味論					事前：Text 293p-313p 事後：なし		講義	
15	⑫伝統風景／まとめ					事前：Text 314p-335p 事後：なし		講義	
教本： ○篠原修著『景観用語事典 増補改訂版』彰国社 ¥3,600+税					参考文献： ケヴィン・リンチ著『都市のイメージ<新装版>』岩波書店				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、レポート（70%）で総合評価する。定期試験は実施しない。									
学生へのアドバイス： 景観論Ⅰを受講する人は是非ともこの景観論Ⅱを受講してください。観光に役立ちます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経済学 (Economics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	案浦 崇								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 経済の分野には、各自の身近な経済生活問題と国レベルの経済問題がある。各自の経済生活問題は、日常生活に係わってくるものであり、必要に応じて各自の価値判断でその選択行為が迫られる。しかし、この問題も、雇用、教育、医療、年金などの国全体の動きがよく分かっていないと正しい経済行為はできない。したがって、本講義はマクロ経済の分析を中心に進め、資本主義の発生・発展の歴史的経過の中で、特に、産業革命、世界恐慌、ケインズ理論、アメリカにおける民主党および共和党の経済政策等について説明する。									
授業目標： 1. マクロ的視点から経済の現状を理解し、説明ができる。 2. 経済学、国際経済学の基礎的な概念や理論を理解し、説明ができる。 この科目は、5つの人材像の中の3つ目の項目、すなわち家庭や地域社会の子育て・教育力の向上に貢献できる資質と専門性を有する人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 〔1〕 経済社会の変容 (1) 資本主義経済の成立と独占化 18世紀後半に第一次産業革命が起こり産業資本主義が誕生した。19世紀後半には重化学工業を中心として第二次産業革命が起こったことを説明する。					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
2	(2) 現代資本主義 世界恐慌が起こり、アメリカのルーズベルト大統領は、ニューディール政策を実施した。その政策の背景には、ケインズの有効需要の原理があったことを説明する。					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
3	〔2〕 マクロ経済学の特徴 (1) 有効需要の原理と投資乗数 有効需要は、消費需要、公共投資需要、民間設備投資需要から構成され、投資が行われるとそれに数倍する国民所得の増加がもたらされること（投資乗数）を説明する。					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
4	(2) 資本の限界効率と流動性選好説 民間の設備投資を決定させるものは資本の限界効率（予想利潤率）と利率であることを説明する。					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
5	(3) フィリップス曲線とIS曲線・LM曲線 マクロ経済政策の有効性を表わすのがフィリップス曲線であり、IS曲線・LM曲線が財政政策・金融政策の根拠を与えていることを説明する。					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
6	(4) 賃金と雇用 1) 完全雇用の実現 古典派の労働市場の理論とケインズの労働市場の理論を完全雇用を前提とするか否かから比較検討する。					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
7	〔3〕 アメリカの経済政策 (1) 恐慌前のアメリカ 思想の源流を辿る。東部から西部への開拓が始まり、やがてフロンティアが消滅し、社会における様々な対立・矛盾が激化するなか制度学派が誕生したことを説明する。					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
8	(2) ニューディール政策とケインズ革命 ニューディール政策の背景には、ケインズ理論、第二次世界大戦があったが、戦後、主流派ケインジアンが形成され、ヒックス、サミュエルソン等が古典派との継ぎ木をしたことを説明する。					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
9	(3) ケネディ政権とニュー・エコノミックス ケネディ・ジョンソン政権においてニューディールのリベラリズムが最高潮に達した。ケインズ経済学、新古典派総合の理論や計量経済学を統合しニュー・エコノミックスが誕生したことを説明する。					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
10	(4) ニクソン政権下のマネタリズム ニクソン政権下で物価の高騰を抑制するためにマネタリズムが経済政策の中心に据えられたことを説明する。					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
11	(5) レーガノミックス 1) サプライサイド経済学、2) 合理的期待学派 レーガン政権は、強いアメリカ、経済の再生、モラルの回復を唱え、サプライサイド経済学、合理的期待学派、マネタリストの金融政策や古典派的な経済政策を融合してレーガノミックスを実施したことを説明する。その中心に位置したのがサプライサイダーと合理的期待学派であった。					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	

12	(6) ジョージ・ブッシュの経済政策 ブッシュ政権は、レーガノミックスを継承し、反税、自由貿易を唱えたことを説明する。	事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。	講義
13	(7) クリントノミックスとニュー・エコノミー クリントノミックスは、マクロ政策（財政政策、金融政策）とミクロ政策（包括競争力強化策、通商政策）から構成されており、ニューデュー政策の現代版であることを説明する。	事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。	講義
14	(8) ジョージ・ウォーカー・ブッシュの経済政策 ブッシュ政権は、9.11によるテロへの対策に追われたが、経済政策として減税、自由貿易政策、強いドル政策を実施したことを説明する。	事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。	講義
15	(9) オバマとトランプの経済政策 オバマ政権は、9.15の金融危機に対しある程度克服したが、新たな中東問題の対応に苦慮した。経済政策としては財政・金融政策を中心としながら長期投資を推進したことを説明する。 トランプ政権は、インフラ整備への投資と大規模な減税により個人消費や企業の投資を拡大して、雇用創出や景気の回復を目指していることを説明する。	事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。	講義
教本： プリントを配布する。		参考文献： 千種義人著『経済学入門』同文館、 宮本邦男著『現代アメリカ経済入門』日本経済新聞社、 岡田泰男著『アメリカ経済史』慶應義塾大学出版会。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（70%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 毎回、出席をし、ノートをとること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経済学 (Economics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	坂本 隆行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本講義は、経済学の基礎理論と経済政策を体系的に理解できるよう、はじめに資本主義経済の基礎理論を概説し、次に財政政策の概要・金融政策・市場トレンド・景気変動といった、経済メカニズムについて解説する。									
授業目標： 1. 経済学の基礎的知識を習得する。 2. 経済政策を理解し、経済学の観点から説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：受講意識の整理 事後：受講目的の確認		講義	
2	資本主義経済の成立（アダム＝スミスとイギリス産業革命）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
3	資本主義経済の発展と問題点（自由放任主義と恐慌）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
4	資本主義経済の変化（ニューディール政策と混合経済体制）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
5	現代資本主義の特徴 1（ケインズ経済学）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
6	現代資本主義の特徴 2（フリードマンによるマネタリズム）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
7	社会主義経済の成立と崩壊（計画経済体制の崩壊と社会主義市場経済）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
8	財政の仕組みと推移（財政の役割と財政支出）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
9	財政政策と金融政策（IS-LM分析）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
10	通貨制度の役割（金融市場と資金の循環）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
11	中央銀行の機能と金融政策（オープン・マーケット・オペレーション）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
12	金融の自由化と金融不安対策（日本版金融ビッグバン～金融庁設立）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
13	トレンドの仕組み（ネルソン＝プロッサー理論）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
14	景気循環メカニズム（景気周期＜好況・後退・不況・回復＞の理解）					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
15	まとめ					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 福田慎一・照山博司著『マクロ経済学・入門』有斐閣 その他必要の都度、参考図書・資料等を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義内容をただ暗記するのではなく、繋がりを持ったものとして捉えるよう心掛けること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	経済学概論 I (Economics I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中藤 和重								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、主に消費者の視点から経済学の基本的な考え方や枠組みを基礎から履修していく。そのうち、経済学 I では、財市場の概念、最適な消費者行動、財の価格変動や所得と消費の関係や消費者心理とは何かを修得する。									
授業目標： 経済主体である消費者の日々の経済行動がどのような影響を個人や経済全体に及ぼすのかを理解できる幅広い知識を身に付けることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	講義計画：半年間の授業概要を説明し、日常の経済生活との結び付きを説明する。					事前：なし 事後：なし		講義	
2・3	経済社会と消費者の活動： 社会の経済活動、市場経済活動、需要と供給の法則、消費者の利益、消費経済学の課題					事前：新聞の経済記事を用意する。 事後：なし		講義	
4～6	消費者の最適行動： 消費者とは何か、予算制約、消費者の選好と無差別曲線、最適な消費の決定、所得・価格の変化と消費選択					事前：なし 事後：「最適行動」の意義を課題として与える		講義	
7～9	市場価格と消費： 価格・消費曲線、代替効果と所得効果、需要曲線、価格弾力性、交差弾力性、インフレ・デフレと消費					事前：なし 事後：「市場価格」の意義を課題として与える		講義	
10～12	所得と消費： エンゲル曲線、所得弾力性、現在所得と消費、生涯所得・恒常所得・相対所得と消費					事前：なし 事後：「所得弾力性」の意義を課題として与える		講義	
13・14	消費者の心理と消費行動： 消費者と購買活動、商品と製品・サービスの違い、消費者心理					事前：なし 事後：なし		講義	
15	トピックス：半年間の授業を通して受講生が持った、この授業に関する印象を幅広く聴取する。					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 『消費と消費者』 鳥村紘輝、酒井 徹編著、慶應義塾大学出版会、¥2,400+税					参考文献： 『暮らしの経済学』 高木信久著、八千代出版 ¥2,100+税 『マクロ経済学』 中藤和重他訳、成文堂 ¥3,200+税				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日常の経済記事に関心を持って積極的に発言して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経済学概論Ⅱ (Economics Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中藤 和重								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>経済学概論Ⅱでは、労働力供給と雇用、貯蓄と資産選択、情報の非対称性と消費活動、消費と社会生活、更に経済成長と消費との関係にまで踏み込んで学習する。</p> <p>経済学概論Ⅰ→経済学概論Ⅱの履修順序が望ましい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>消費者各自の個別行動から消費全体が経済（GDP）に及ぼすまでの一連の経済活動を幅広く学習し、日常の経済事象に対する理解力を深めていく。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	講義計画：経済学概論Ⅱにおける授業要点を総括的に説明したうえで、特に消費の日本経済に及ぼす影響の大きさを述べる。					事前：なし 事後：なし		講義	
2～4	家計の労働供給と雇用：家計の2面性、最適な労働時間の決定、賃金変化に対する代替効果と所得効果、労働供給曲線の導出、労働需要と雇用の決定、労働市場の需給調整機能、賃金の硬直性、自然失業率					事前：新聞の経済記事を用意させる。 事後：なし		講義	
5～7	消費者の貯蓄と資産：消費と貯蓄の2期間モデル、異時転換の予算制約と効用最大化、消費者の最適貯蓄。消費の決定、家計の資産とマクロ経済、資産価値と消費（資産効果対逆資産効果）					事前：なし 事後：なし		講義	
8～10	情報と消費者の活動：完全競争市場と不完全情報の市場、逆選択とその解決策、モラルハザードとその解決策、商品情報の収集のための手段、情報検索とその費用、情報化時代の消費者行動					事前：完全競争の意義についてレポート提出 事後：なし		講義	
11～13	消費と「食」と社会生活：「食」と消費、消費者ニーズと生産の多様化、食料消費とエンゲル係数、ライフスタイルの変化と消費、アメニティと消費					事前：なし 事後：なし		講義	
14・15	経済成長と消費：生活水準とGDP、生活水準の国際比較、投資効率の低下と定常状態、新古典派の想定、ソロー型モデル、内生的技術進歩と経済成長					事前：経済成長モデルにおける消費の役割について課題提出 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>『経済と消費者』鳥村紘輝、酒井 徹編著、慶應義塾大学出版、¥2,400+税</p>					<p>参考文献：</p> <p>『暮らしの経済学』高木信久著、¥2,100+税 『マクロ経済学』中藤和重他訳、成文堂 ¥3,200+税</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>日常生活の中で経済記事は多数見受けられます。関心を持って吸収し、就職活動にも役立たせて下さい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。火曜日昼休み</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 済 原 論 I (Economics Theory I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 藤 和 重								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 経済学の理論編として、経済原論 I では経済学の基本原理 (「経済学の10大原理」) に続いてミクロ経済学の包括的な体系 (市場メカニズム、公共政策、市場の効率性・余剰と外部性) について網羅的に学習する。経済原論 I → 経済原論 II の履修順序が望ましい。									
授 業 目 標 : 経済学の基本概念を確実に理解したうえで、ミクロ経済学の枠組みや機能の意義を修得して、日々の経済現象を理解出来る応用力を身に付ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	講義計画：半年間に亘る授業の概要 (経済学の基本的な考え方とミクロ経済学の枠組み) を説明する。					事前：なし 事後：なし		講義	
2・3	経済学の10大原理：経済主体の意思決定の仕方、経済の相互影響の効果、経済の全体としての動き)					事前：新聞の経済記事を活用 事後：なし		講義	
4	経済学の考え方：科学的方法とは？、ミクロ経済学対マクロ経済学、実証的分析対規範的分析)					事前：なし 事後：なし		講義	
5	相互依存と交易からの利益：絶対優位と比較優位、機会費用、比較優位の事例					事前：TPP等の事例を取り上げる 事後：なし		講義	
6・7	市場における需要・供給の作用：競争市場、需要量、需要法則、需要表、需要曲線、供給量、供給法則、供給表、供給曲線、均衡、均衡価格、均衡取引量、需要と供給の法則					事前：なし 事後：なし		講義	
8・9	需要・供給及び政府の政策：価格規制、家賃規制、最低賃金、税金 (買い手への税金及び売り手への税金)、弾力性と税の帰着					事前：なし 事後：なし		講義	
10・11	弾力性：需要の価格弾力性、増収効果と減収効果、需要の所得弾力性、需要の交差弾力性、供給の価格弾力性					事前：なし 事後：なし		講義	
12・13	厚生経済学と市場の効率性：支払い許容額、需要曲線による消費者余剰の測定、売り手の費用、供給曲線による生産者余剰の測定、市場の効率性の測定、均衡、市場の失敗					事前：市場効率性の事例を取り上げる 事後：なし		講義	
14・15	外部性：外部性と市場の非効率性、当事者間による外部性の解決法、コースの定理、外部性に対する公共政策、ピグー税					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 : 参考文献： 『暮らしの経済学』高木信久著、八千代出版、¥2,100+税 『よくわかるミクロ経済学入門』中藤和重他著、慶應義塾大学出版会 ¥1,800+税									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授業内容への参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 実社会に出てから役立ちますので積極的な発言を期待します。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。火曜日昼休み									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 済 原 論 II (Economics Theory II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 藤 和 重								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 経済学の理論編として、経済原論IIではマクロ経済学に関する包括的な体系 (GDP、消費者物価指数、生産と成長、貯蓄・投資・金融システム及び総需要・総供給のモデル) について経済の実態に即し乍ら学習していく。									
授 業 目 標 : マクロ経済学の基本概念と枠組みや機能を習得して日常的な経済現象が適切に理解出来る実践的な応用力を身に付けることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	講義計画：半年間に亘る授業の概要 (マクロ経済学の基本概念と枠組み) について実例を取り上げながら説明する。					事前：なし 事後：なし		講義	
2～4	国民所得の決定：経済の所得と支出、国内総生産 (GDP) の測定、市場価値で測定、付加価値の合計、GDPの構成要素、実質GDP対名目GDP、GDPデフレーター、GDPと経済的福祉、GDPの国際的格差と生活の質					事前：なし 事後：なし		講義	
5・6	生計費の測定：消費者物価指数 (CPI)、CPIのバスケットの中身と算定方法、生計費測定の問題、GDPデフレーター対CPIの比較、インフレの影響に対する経済変数の補正、名目利率対実質利率					事前：新聞の経済記事を活用 事後：なし		講義	
7～9	生産と成長：経済成長の国際比較、生産性の役割、生産性を押し上げる4つの決定要因、天然資源の取り扱い、経済成長に寄与する公共政策 (7項目)、人口成長の問題、長期的経済成長の重要性、限界生産力逓減の法則					事前：資料によって経済成長率の国際比較をする。 事後：なし		講義	
10～12	貯蓄・投資と金融システム：金融システム (金融市場と金融仲介機関) の役割、国民所得勘定における貯蓄と投資の位置付け、貯蓄インセンティブ、投資インセンティブ及び財政赤字・財政黒字の各政策の効果、古典派の二分法と貨幣の中立性					事前：なし 事後：なし		講義	
13～15	総需要と総供給のモデル：経済変動とは？、経済変動に関する3つの重要な事実、経済変動の基本モデル、総需要曲線の動きと総供給曲線の動き、長期の総供給曲線の位置付け					事前：資料によってGDPの成長と景気変動を確認する		講義	
教 本 : 参考文献： 『暮らしの経済学』高木信久著、八千代出版、¥2,100+税 『よくわかるミクロ経済学』中藤和重他著、慶應義塾大学出版会 ¥1,800+税									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授業内容への参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 社会に出てから必要とされる科目ですので、積極的に取り組んで下さい。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。火曜日昼休み									

開 講 年 次	1 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経済数学 I (Mathematics For Economics I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	志築 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>まず経済学の理論的発展が古くから数学と関わってきたこと、したがって数学の不可欠な分野が極めて広範にわたっていることを学ぶ。さらに経済学の理解に不可欠な基礎的数学を学び、それらの経済学への応用を学ぶ。特に微分法の経済学への適用を重視する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. まず経済学と数学の深い関わりを十分に理解したうえで、経済学の習得に必要な最低限の基礎的数学の習得とその経済学への応用の方法を学ぶ。 2. 特に微分法と限界概念の相似性を学ぶことで経済学への理解を深める。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	本講義の意義と全体像および講義方法、講義の基本的スタンス等についての説明					事前：経済理論（主にミクロ）の復習 事後：関心テーマとのすり合わせ		講義	
2	経済学の発展と数学の関わり i)－歴史的観点から概観する（微分と限界概念の相似性等）					事前：前回配布したレジメに目を通す 事後：理解度をチェックし、不明点を質問する。		講義	
3	経済学の発展と数学の関わり ii)－関数、式と経済学の体系					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習		講義	
4	関数の基礎概念 i)－1 次関数、2 次関数、直角双曲線等々					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習		講義	
5	関数の基礎概念 ii)－グラフを描いてみよう（予算制約式と無差別曲線）					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習		講義	
6	関数、グラフの経済学への応用－最適消費問題（効用極大化）					事前：関数についての疑問点チェック 事後：レジメ、ノートの復習		講義	
7	6 の演習					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習		講義	
8	微分の基礎 i)－速度、傾斜角度の概念から学ぶ微分の定義					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習		講義	
9・10	微分の基礎 ii)－微分の基本公式（べき乗の微分、和の微分、積の微分等々）					事前： 事後：レジメ、ノートの復習		講義	
11	微分の基礎 iii)－極大値と変曲点					事前： 事後：レジメ、ノートの復習		講義	
12	微分の応用 i)－限界収入、限界費用					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習		講義	
13	微分の応用 ii)－企業の利潤極大化問題					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習		講義	
14	12、13の演習					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習		講義	
15	全体的な復習、重要ポイント、試験内容等についての解説					事前：全体にわたって質疑応答 事後：試験についての質問		講義	
<p>教本：</p> <p>レジメやパワーポイントを用いるので特に指定しないが、できるだけ次に示す参考書を読むことが望ましい。</p>					<p>参考文献：</p> <p>鈴木 孝弘著『高校数学からはじめるやさしい経済数学テキスト』 オーム社 2014年（第1刷）¥2,000+税</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>特定の数学的知識を前提とせず、ほとんどゼロベースで、平易にかつ楽しく講義を行うので、安心して受講して欲しい。試験もあらかじめ課題を与えるなど、数学が苦手だと感じている受講者にもあまり負担を与えないように考慮する。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 後期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経済数学Ⅱ (Mathematics For Economics Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	志 築 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 経済学と数学の関係について若干の歴史的考察を再度行う。次に関数、微分法の復習、展開と各分野での応用を学ぶ。時間が許せば、積分の基礎と経済学への応用をも学ぶ。復習には力を入れるので、(Ⅰ)を履修していない人も躊躇せずに参加して欲しい。</p>									
<p>授業目標： 1. 経済数学Ⅰと同様、まず経済学と数学との古く深く、かつ広いつながりを理解した上で、(Ⅰ)の復習と基礎数学の経済学への更なる応用を学ぶ。 2. (Ⅰ)と同様、微分、積分と経済学体系の関連を深く理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)			授業形態
1	本講義の意義と全体像および講義方法、講義の基本的スタンス (特に(Ⅰ)との関連、位置づけ等) についての説明					事前：経済数学(Ⅰ)の復習 事後：関心テーマとのすり合わせ			講義
2	経済学と数学の関係についての復習—理論体系の全体に関わっていることを確認					事前：前回配布したレジメに目を通す 事後：理解度をチェックし、不明点を質問する。			講義
3	関数の基礎についての復習 i) — グラフによる理解と無差別曲線、予算制約線、費用曲線					事前：経済学と数学の関わり方の疑問点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
4	関数の基礎についての復習 ii) — 最大値、最小値問題を中心に					事前：前回の疑問点、不明点のチェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
5	最大値、最小値問題と経済学への応用 i) — 消費者の効用最大化					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
6	4、5の演習					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
7	微分の基礎 i) — 速度概念と微分の定義 (復習)					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
8	微分の基礎 ii) — 微分の基本公式 (べき乗の微分、和の微分、積の微分、商の微分等)					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
9	微分の基礎 iii) — 合成関数の微分					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
10	微分の経済学への応用 i) — 限界費用、限界収入の算出と利潤最大化					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
11	微分の経済学への応用 ii) — 異時点間の消費と効用の最大化					事前：微分とその応用の疑問点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
12	積分の定義と基本公式					事前：前回の疑問点、不明点のチェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
13・14	積分とその経済学への応用—消費者、生産者余剰の算出等および演習					事前：積分の疑問点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
15	講義の全体整理と試験内容についての説明					事前：全体にわたって質疑応答 事後：試験についての質問			講義
<p>教本： レジメやパワーポイントを用いるので特に指定しないが、できるだけ次に示す参考書を読むことが望ましい。</p>					<p>参考文献： 鈴木 孝弘著『高校数学からはじめるやさしい経済数学テキスト』 オーム社 2014年 (第1刷) ¥2,000+税</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (30%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： (Ⅰ)の履修を必ずしも履修条件としない (復習を頻繁に行う)。特定の数学的知識を前提とせず、ほとんどゼロベースで、平易に講義を行うので、安心して受講して欲しい。試験もあらかじめ課題を与えるなど、数学が苦手な受講者にも負担を与えないように配慮する。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 済 政 策 (Economic Policy)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 春 男								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
この講義は、経済学的应用編と理解すると分かりやすい。経済理論とは、「～である」ことを学ぶ学問である。これに対して、経済政策は、「～であるべきだ」を思考する学問である。									
例えば、インフレの場合に、経済理論ではなぜインフレになるか、インフレのメリットやデメリットとは何かを学習する。経済政策でインフレを扱うときには、インフレを阻止する経済的手段は何か、財政的手段は何か、金融的手段は何か、それらのさまざまな選択肢からインフレ対策のベスト・ポリシーを思考する。つまり、経済政策は、経済学のディープラーニングである。									
授 業 目 標 :									
この講義の目標は3つある。一つ目は、経済政策の根幹はケインズ経済学から構成されている。そのためにケインズ理論の枠組みを知る必要がある。二つ目は、ケインズ理論がモノの世界を重視していることに対して、カネの世界を重視するマネタリストの理論と経済政策を知る必要がある。そして、最後に過去の政府・日銀の経済政策の足跡を追うことである。財政金融政策は失敗を重ねながら実施されているが、その原因・要因を冷静に見つめることが必要である。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	規範的経済学としての経済政策 理論経済学と規範経済学の区分					事前：なし 事後：規範的経済学の学習		講義	
2	経済政策の領域 財政政策、金融政策、環境政策、貿易政策、社会政策					事前：経済政策の領域 事後：財政・金融政策		講義	
3	ケインズの経済政策 (1) 有効需要管理政策					事前：世界大恐慌 事後：有効需要		講義	
4	ケインズの経済政策 (2) 労働市場と雇用政策					事前：失業 事後：非自発的失業		講義	
5	IS-LM 分析による経済政策 財政政策の有効性の検証					事前：減税政策 事後：公共事業		講義	
6	IS-LM 分析による経済政策 金融政策の有効性の検証					事前：金融緩和政策 事後：買いオペ		講義	
7	AD-AS 分析による経済政策 フリップス曲線の解釈と検証					事前：フィリップス 事後：インフレと失業		講義	
8	AD-AS 分析による経済政策 スタグフレーションの検証と対策					事前：不況 事後：ハイパーインフレ		講義	
9	AD-AS 分析による経済政策 リセッションの検証と対策					事前：景気後退 事後：景気循環		講義	
10	AD-AS 分析による経済政策 景気過熱の検証と対策					事前：好況 事後：経済成長		講義	
11	石油危機時の経済政策 インフレと失業の検証と政策					事前：ローマクラブ 事後：資源制約		講義	
12	バブル時の経済政策 投機に対する検証と政策					事前：株価と地価 事後：日経平均株価		講義	
13	リーマンショック時の経済政策 デリバティブ商品の検証と政策					事前：住宅価格 事後：住宅ローン		講義	
14	総復習(1)					事前：ケインジアン 事後：マネタリスト		質疑・応答	
15	総復習(2)					事前：『経済財政白書』 事後：		質疑・応答	
教 本 :					参 考 文 献 :				
講義資料を必要に応じて配布する。					石橋春男編著『現代経済分析』				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業内容への参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (70%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
内外の政治・経済・社会のニュースに関心を持つ習慣を身に付ける。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 済 法 I (Economic Law I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新 城 将 孝								
履 修 条 件	前 提 科 目	可 能 な 限 り、商 法 科 目 ・ 会 社 法 科 目 の 履 修 ま た は 同 時 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い で す。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 経 済 法 は 資 本 主 義 の 進 展 に 伴 い、市 民 法 原 理 を 修 正 し た 国 家 に よ る 市 場 秩 序 を 促 進 す る た め の 法 で す。そ の 中 心 は 独 占 禁 止 法 に あ る と い わ れ ま す。講 義 は 独 占 禁 止 法 を 中 心 と し た 展 開 と な り ま す。									
授 業 目 標： 市 民 法 原 理 の 修 正 の 法 と し て の 概 要 お よ び 規 制 の 中 で の 経 済 活 動 の 促 進 と し て の 作 用 を 理 解 し、営 業 の 自 由 と 財 産 権 へ の 理 解 を 深 め て い く。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス (開講にあたって)					事前： 事後：講義の復習		講義	
2	経済法の意義					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
3	社会法の形成と経済法					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
4	経済的自由権と経済法					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
5	独占禁止法の概要					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
6	独占禁止法の歩み					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
7	独占禁止法の目的と基本概念 (1)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
8	独占禁止法の目的と基本概念 (2)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
9	私的独占の禁止 (1：概要等)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
10	私的独占の禁止 (2：行為類型等)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
11	私的独占の禁止 (3：違法要件等)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
12	不当な取引制限の禁止 (1：概要等)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
13	不当な取引制限の禁止 (2：カルテルの形態等)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
14	不当な取引制限の禁止 (3：事業者団体の活動規制等)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
15	まとめ					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
教 本： 「ポケット六法」(有斐閣)は、必ず準備してください。					参 考 文 献： 初回講義日に伝えます。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 授 業 へ の 参 加 等 を 積 極 的 と し、特 に 六 法 の 活 用 を 心 が け て く だ さ い。予 習 ・ 復 習 も お 願 い し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経済法Ⅱ (Economic Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	経済法Ⅰ (必須ではありません。原則、承継・継続して講義します。留意をお願いします。)							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>経済法は資本主義の進展に伴い、市民法原理を修正して国家による市場秩序への介入等に関する規制の法です。その中心は独占禁止法にあるといわれます。経済法Ⅰを受け継ぎ（継続とし）、独占禁止法を中心とした展開となります。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>市民法原理の修正の法としての概要および規制の中での経済活動の促進としての作用を理解し、営業の自由と財産権への理解を深めていく。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（開講にあたって）					事前： 事後：講義の復習		講義	
2	不公正な取引方法の禁止（1：概要）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
3	不公正な取引方法の禁止（2：不当な差別的な取り扱い等）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
4	不公正な取引方法の禁止（3：不当対価取引等）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
5	不公正な取引方法の禁止（4：不当な取引誘因等）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
6	不公正な取引方法の禁止（5：優越的地位の濫用等）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
7	不公正な取引方法の禁止（6：不当な取引妨害等）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
8	企業結合規制（1：概要）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
9	企業結合規制（2：各則）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
10	独占禁止法の適用除外（1：概要）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
11	独占禁止法の適用除外（2：協同組合・再販適用除外制度等）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
12	独占禁止法の執行等（1：概要）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
13	独占禁止法の執行等（2：排除措置・課徴金等）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
14	経済のグローバル化と独占禁止法					事前：講義の予習 事後：講義の復習			
15	まとめ					事前：講義の予習 事後：講義の復習			
<p>教本：</p> <p>「ポケット六法」（有斐閣）は、必ず準備してください。</p>					<p>参考文献：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習もお願いします。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義																																														
授業科目(英文)	刑法法Ⅰ (Criminal Law I)						科目分類	専門科目																																															
担 当 教 員	麻妻 みちる																																																						
履 修 条 件	前提科目	特になし、初めて法を学ぶ方で構いません。																																																					
	その他	「法学」「法学概論」を既習されているか、もしくは同時に履修されることをお勧めします。																																																					
<p>授業概要：</p> <p>本講座は、法学概論の部分に触れながらの、刑法総論の講義です。法学の基礎を確認しながら授業を進めます。</p> <p>授業内容としては、まず、『犯罪白書』『警察白書』から日本の犯罪と刑罰の現状を知りましょう。あらゆる法律上の制裁のうち最も苛酷な「刑罰」は、必要やむを得ない場合においてのみ適用されるべきといわれます。そのため、「犯罪」が成立するための要件は非常に厳格です。この犯罪の成立要件を学ぶ刑法総論の概要をわかりやすく解説します。初めて聞く言葉も多いでしょうが、繰り返し説明、復習しますし、難解な概念や論点については、裁判例や事例問題を一緒に検討することで抽象的な議論を具体的に頭に描けるように努めます。なお、刑法には刑法各論もありますし、刑事法には、このほか刑事訴訟法、刑事政策等も入ります。そのうち刑法各論で扱う個別の犯罪類型については適宜本講座でも触れますが、主にこれらについては「刑法法Ⅱ」の授業に譲ります。</p> <p>授業目標：</p> <p>刑事法を初めて学習する方を対象に、「犯罪」の成立要件を学ぶことをテーマとして、「刑法総論」の基本知識を定着させ、体系的に理解することを目的とします。たとえば、人を殺しても殺人罪とならない場合があります。刑法総論は、抽象的な学問で初学者には難解といわれますが、具体的な事例も織り交ぜて、犯罪とは何か、一見犯罪でありそうなのに犯罪とならない行為がどうしてありうるのか、ゆっくり楽しんで勉強しましょう。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width:33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width:33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align:center;">◎</td> <td style="text-align:center;">○</td> </tr> </table> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">授業回数</th> <th style="width:50%;">授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th style="width:20%;">事前・事後学習（学習課題）</th> <th style="width:20%;">授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス、犯罪と刑罰の現状、人の始期と終期</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>犯罪と刑罰、国家はなぜ個人に刑罰を適用できるのか、被害者はなぜ加害者に自分で復讐してはいけないのか</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>刑法の基本原則、罪刑法定主義</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>犯罪の成立要件とは</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5～9</td> <td>構成要件、法律上の犯罪の成立要件は何か；実行行為、不作為犯、間接正犯、因果関係、故意・過失、錯誤など</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10・11</td> <td>違法性、犯罪とは何が悪いことなのか；違法性の本質、違法性阻却事由、正当行為、正当防衛、緊急避難など</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12・13</td> <td>責任、どのような場合に犯罪者を非難できないのか；責任の概念、責任能力、違法性の意識など</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>未遂犯、不能犯、中止犯</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>共犯</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p>教本：教科書は特に指定しません。毎回レジュメを配布しますが、法律は本を通して勉強するものですので、右記を参考に基本書の該当箇所を精読復習してください。</p> <p>参考文献：井田良「基礎から学ぶ刑法（第6版）」有斐閣 ￥1,944 井田良ほか「よくわかる 刑法（第3版）」ミネルヴァ書房 ￥2,808</p> <p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、レポートもしくはリアクションペーパー（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。 ①平常点は、授業への取り組み状況などから判断します。 ②全体を通じて取り組んでいただく課題については、①第2回で提示する重要判例について学習した内容を第10回授業で提出する「レポート課題」か、②毎回授業の最後に授業に対する意見、疑問、感想等を記し提出する「リアクションペーパー課題」、①と②いずれにするかを、最初の授業で履修者と相談のうえ決定します。 ③定期試験については、事前に参考問題を公表しますので、試験勉強の参考にしてください。試験当日は、六法のみ持込み可とします。</p> <p>学生へのアドバイス： 世の中で起っている犯罪や事件、裁判に興味、関心をもってください。</p> <p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		◎	○	授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	ガイダンス、犯罪と刑罰の現状、人の始期と終期	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	2	犯罪と刑罰、国家はなぜ個人に刑罰を適用できるのか、被害者はなぜ加害者に自分で復讐してはいけないのか	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	3	刑法の基本原則、罪刑法定主義	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	4	犯罪の成立要件とは	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	5～9	構成要件、法律上の犯罪の成立要件は何か；実行行為、不作為犯、間接正犯、因果関係、故意・過失、錯誤など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	10・11	違法性、犯罪とは何が悪いことなのか；違法性の本質、違法性阻却事由、正当行為、正当防衛、緊急避難など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	12・13	責任、どのような場合に犯罪者を非難できないのか；責任の概念、責任能力、違法性の意識など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	14	未遂犯、不能犯、中止犯	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	15	共犯	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																					
	◎	○																																																					
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																				
1	ガイダンス、犯罪と刑罰の現状、人の始期と終期	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																				
2	犯罪と刑罰、国家はなぜ個人に刑罰を適用できるのか、被害者はなぜ加害者に自分で復讐してはいけないのか	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																				
3	刑法の基本原則、罪刑法定主義	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																				
4	犯罪の成立要件とは	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																				
5～9	構成要件、法律上の犯罪の成立要件は何か；実行行為、不作為犯、間接正犯、因果関係、故意・過失、錯誤など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																				
10・11	違法性、犯罪とは何が悪いことなのか；違法性の本質、違法性阻却事由、正当行為、正当防衛、緊急避難など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																				
12・13	責任、どのような場合に犯罪者を非難できないのか；責任の概念、責任能力、違法性の意識など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																				
14	未遂犯、不能犯、中止犯	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																				
15	共犯	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																				

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義																																																						
授業科目(英文)	刑事法Ⅱ (Criminal Law and Criminal Procedure Ⅱ)						科目分類	専門科目																																																							
担 当 教 員	麻妻 みちる																																																														
履 修 条 件	前提科目	特になし																																																													
	その他	刑法を体系的に理解するため、刑事法Ⅰをぜひ履修していただきたいです。																																																													
<p>授業概要：</p> <p>刑事法とは、犯罪と刑罰にかかわる法分野の総称をいいます。本講座では、手続法である刑事訴訟法と刑法各論の重要論点のうち、具体的な事例を中心に学習しましょう。犯罪が我々の社会に対する大変な脅威であることは言うまでもありませんが、とはいえ、国家による捜査活動や刑罰を科すための刑事手続が、個人の基本権を侵害することのないよう十分配慮する必要があります。日ごろから、テレビや新聞等による犯罪報道に関心をもつ姿勢が、本講座における最も大切なモチベーションとなります。</p> <p>授業目標：</p> <p>まず、「捜査」を中心に刑事手続の全体構造や手続上の原理・原則を学び、その上で、犯罪類型を定めた刑罰法規の解釈を通して、各犯罪の具体的な内容、成立要件、犯罪類型相互の関係を理解するという刑法各論の法解釈の方法を体得することを目標とします。刑事法Ⅱは、抽象的な概念理論の吸収というよりは、具体的な事例を検討します。実際の犯罪事例を紹介しながら双方向授業を行いますので、皆さんも自分で考えながら積極的に授業に参加してください。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1" style="width:100%;"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th>事前・事後学習（学習課題）</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>我が国の犯罪動向、刑事手続の流れ、刑事手続に関与する者(裁判官、検察官、弁護人、被疑者被告人)の役割、被害者の地位</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>捜査1 任意捜査と強制捜査（職務質問、所持品検査、自動車検問、おとり捜査）</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>捜査2 逮捕と勾留、捜索と押収、逮捕に伴う捜索押収</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>捜査3 科学的捜査(強制採尿・採血、写真撮影、通信傍受など)</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>捜査4 被疑者取調べ、被疑者段階の弁護権と接見交通権</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>公訴手続 検察官の訴追裁量とその規律、訴因制度</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>公判の構造、公判の流れ</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8～12</td> <td>個人的法益に対する罪：殺人罪、傷害罪、過失致死罪、堕胎罪、保護責任者遺棄罪、脅迫罪、業務妨害罪、窃盗罪、強盗罪、器物損壊罪、詐欺罪、横領罪、背任罪など</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>社会的法益・国家的法益に対する罪：放火罪など</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>裁判の執行、死刑制度、犯罪者の処遇など</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>少年による犯罪、裁判員制度と検察審査会など</td> <td>事前：なし 事後：該当箇所精読</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p>教本： 教科書は特に指定しません。毎回レジュメを配布しますが、法律は本を通読して勉強するものですので、右記を参考に基本書の該当箇所を精読復習してください。</p> <p>参考文献： 井田良「基礎から学ぶ刑事法(第6版)」有斐閣 ￥1,944 井田良ほか「よくわかる 刑法(第3版)」ミネルヴァ書房 ￥2,808 椎橋隆幸「よくわかる 刑事訴訟法(第2版)」ミネルヴァ書房 ￥2,808</p> <p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、レポートもしくはリアクションペーパー（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。 ①平常点は、授業への取り組み状況などから判断します。 ②全体を通じて取り組んでいただく課題については、①第2回で提示する重要判例について学習した内容を第10回授業で提出する「レポート課題」か、②毎回授業の最後に授業に対する意見、疑問、感想等を記し提出する「リアクションペーパー課題」、①と②いずれにするかを、最初の授業で履修者と相談のうえ決定します。 ③定期試験については、事前に参考問題を公表しますので、試験勉強の参考にしてください。試験当日は、六法のみ持込み可とします。</p> <p>学生へのアドバイス： 報道されている事件や実際の警察活動に直接関係する講座です。社会の動きに大いに関心をもってください。</p> <p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養		◎	○	授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	我が国の犯罪動向、刑事手続の流れ、刑事手続に関与する者(裁判官、検察官、弁護人、被疑者被告人)の役割、被害者の地位	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	2	捜査1 任意捜査と強制捜査（職務質問、所持品検査、自動車検問、おとり捜査）	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	3	捜査2 逮捕と勾留、捜索と押収、逮捕に伴う捜索押収	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	4	捜査3 科学的捜査(強制採尿・採血、写真撮影、通信傍受など)	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	5	捜査4 被疑者取調べ、被疑者段階の弁護権と接見交通権	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	6	公訴手続 検察官の訴追裁量とその規律、訴因制度	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	7	公判の構造、公判の流れ	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	8～12	個人的法益に対する罪：殺人罪、傷害罪、過失致死罪、堕胎罪、保護責任者遺棄罪、脅迫罪、業務妨害罪、窃盗罪、強盗罪、器物損壊罪、詐欺罪、横領罪、背任罪など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	13	社会的法益・国家的法益に対する罪：放火罪など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	14	裁判の執行、死刑制度、犯罪者の処遇など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義	15	少年による犯罪、裁判員制度と検察審査会など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																													
	◎	○																																																													
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																												
1	我が国の犯罪動向、刑事手続の流れ、刑事手続に関与する者(裁判官、検察官、弁護人、被疑者被告人)の役割、被害者の地位	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																												
2	捜査1 任意捜査と強制捜査（職務質問、所持品検査、自動車検問、おとり捜査）	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																												
3	捜査2 逮捕と勾留、捜索と押収、逮捕に伴う捜索押収	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																												
4	捜査3 科学的捜査(強制採尿・採血、写真撮影、通信傍受など)	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																												
5	捜査4 被疑者取調べ、被疑者段階の弁護権と接見交通権	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																												
6	公訴手続 検察官の訴追裁量とその規律、訴因制度	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																												
7	公判の構造、公判の流れ	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																												
8～12	個人的法益に対する罪：殺人罪、傷害罪、過失致死罪、堕胎罪、保護責任者遺棄罪、脅迫罪、業務妨害罪、窃盗罪、強盗罪、器物損壊罪、詐欺罪、横領罪、背任罪など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																												
13	社会的法益・国家的法益に対する罪：放火罪など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																												
14	裁判の執行、死刑制度、犯罪者の処遇など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																												
15	少年による犯罪、裁判員制度と検察審査会など	事前：なし 事後：該当箇所精読	講義																																																												

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	芸術心理学 (Psychology of Art)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野村 康治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>芸術表現に関わる様々な心理学的知見を紹介していく。心理学は極めて広範な研究分野と多様な研究方法を持つ学問である。心理学がどのように芸術的な問題を検討し、どのような知見を見出してきたのかを学ぶことは、芸術作品に対する洞察力を磨くとともに、心理学という学問の理解を深めることにも役立つと思われる。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①芸術表現に対する心理学的諸考察を理解、説明できるようになる。 ②芸術表現に対し、心理学的関心と探究心が持てるようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	心理学はどのように芸術的な問題をとらえてきたか					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	芸術理解の生理学的基礎					事前：資料確認・作品鑑賞 事後：講義内容の復習		講義	
3	感覚と感性（感じとる心の働き）					事前：資料確認・作品鑑賞 事後：講義内容の復習		講義	
4	色彩の心理学的問題					事前：資料確認・作品鑑賞 事後：講義内容の復習		講義	
5	絵画からとらえる人間の知覚特性					事前：資料確認・作品鑑賞 事後：講義内容の復習		講義	
6	文章理解と物語理解					事前：資料確認・作品鑑賞 事後：講義内容の復習		講義	
7	文芸作品の理解（比喩と類推）					事前：資料確認・作品鑑賞 事後：講義内容の復習		講義	
8	映像作品の物語理解					事前：資料確認・作品鑑賞 事後：講義内容の復習		講義	
9	芸術表現と心の病理					事前：資料確認・作品鑑賞 事後：講義内容の復習		講義	
10	芸術作品に対する精神分析的解釈					事前：資料確認・作品鑑賞 事後：講義内容の復習		講義	
11	芸術心理学の研究手法					事前：資料確認・作品鑑賞 事後：講義内容の復習		講義	
12	芸術心理学の分析手法					事前：資料確認・作品鑑賞 事後：講義内容の復習		講義	
13	芸術作品に対する心理学的考察と討論1					事前：発表準備 事後：発表内容の検討		演習	
14	芸術作品に対する心理学的考察と討論2					事前：発表準備 事後：発表内容の検討		演習	
15	芸術作品に対する心理学的考察と討論3					事前：発表準備 事後：発表内容の検討		演習	
教本： なし			参考文献： 必要に応じて授業中に指示する。						
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>日ごろから多くの芸術作品に触れてほしい。単に好き嫌いで作品を評価するのではなく、授業内容を踏まえた鑑賞を行うことで、より深い作品理解ができるようになると思う。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修		単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	契 約 概 論 (Contract Law General)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	藤 原 俊 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : たとえば売店で買物をするというのが契約の典型例である (売買契約)。それ以外にも契約にはいろいろのものがああります。この講義では、契約に関する基本問題について検討していきます。									
授 業 目 標 : 契約に関する基本問題について理解することが、この授業の目標です。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	私法とは、公法とは。					事前： 事後：復習		講義	
2	私法上の権利とは。					事前： 事後：復習		講義	
3	人と人との関係。 契約、不法行為					事前： 事後：復習		講義	
4	売買契約。					事前： 事後：復習		講義	
5	私法上の権利 = 私権とはどのようなものか。					事前： 事後：復習		講義	
6	自然人と法人。					事前： 事後：復習		講義	
7	契約の成立要件。					事前： 事後：復習		講義	
8	契約の有効要件。					事前： 事後：復習		講義	
9	取消しと無効。					事前： 事後：復習		講義	
10	心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫。					事前： 事後：復習		講義	
11	契約の効果帰属要件 代理制度、無権代理・表見代理。					事前： 事後：復習		講義	
12	契約の効果発生要件。					事前： 事後：復習		講義	
13	債権の消滅原因。					事前： 事後：復習		講義	
14	債権の効力としての問題が生じたときの扱い。					事前： 事後：復習		講義	
15	債務不履行					事前： 事後：復習		講義	
教 本 : 伊藤真『伊藤真の民法入門 補訂版』(日本評論社、2017、¥1,700)					参 考 文 献 : 授業が始まってから紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (30%)、定期試験 (70%) で総合評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : この授業は法学系の授業です。少しとっつきにくいと思う人もいでしょう (私も最初はそうでした)。慣れるが勝ち! そのためにはしっかり講義を聴くことと、事後の復習が大事です。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	契約法 I (Contract Law I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	可能であれば、民法関係科目・商法関係科目の履修または同時履修が望ましい。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>民法典の中に点在する個々の法制度および概念を契約の成立から終了まで流れに沿って集約し、契約に関する基本的な知識等を修得できるようにします。今般の改正法にも対応できるよう努めます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>契約法についての概要の理解および法的ものの見方を身に付けることを目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（開講にあたって）					事前：事後：講義の復習		講義	
2	契約法理解のために（1：民法典と契約法等）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
3	契約法理解のために（2：権利主体と権利客体等）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
4	契約法理解のために（3：法律行為等）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
5	契約法理解のために（4：債権総則等）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
6	契約法理解のために（5：物権総則・権利の変動等）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
7	契約の世界へ（1：契約とはなにか。債権の発生原因・契約）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
8	契約の世界へ（2：各種の契約）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
9	契約の世界へ（3：契約の成立）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
10	契約の世界へ（4：契約の内容）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
11	契約の世界へ（5：契約の履行）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
12	契約の世界へ（6：契約履行の確保）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
13	契約の世界へ（7：契約の終了）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
14	契約の世界へ（8：債権の消滅時効）					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
15	まとめ					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
<p>教本：</p> <p>「ポケット六法」（有斐閣）は、必ず準備してください。</p>					<p>参考文献：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習もお願いします。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	契約法Ⅱ (Contract Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	契約法Ⅰ (必須ではありません。原則、承継・継続して講義します。留意をお願いします。)							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>民法典の中に点在する個々の法制度および概念を契約の成立から終了まで流れに沿って集約し、契約に関する基本的な知識、契約各側等を修得できるようにします。今般の改正法にも対応できるよう努めます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>契約法についての概要の理解および法的もの見方を身に付けることを目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス (開講にあたって)					事前：事後：講義の復習		講義	
2	契約の基本類型 (総説)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
3	契約の基本類型 (1：売買(1))					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
4	契約の基本類型 (2：売買(1))					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
5	契約の基本類型 (2：売買(2))					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
6	契約の基本類型 (2：売買(3))					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
7	契約の基本類型 (2：売買(4))					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
8	契約の基本類型 (3：贈与・交換)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
9	契約の基本類型 (4：賃貸借・消費貸借・使用貸借)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
10	契約の基本類型 (5：雇用・請負)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
11	契約の基本類型 (6：委任)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
12	契約の基本類型 (7：寄託)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
13	契約の基本類型 (8：組合)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
14	契約の基本類型 (9：終身定期金・和解)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
15	まとめ					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
<p>教本：</p> <p>「ポケット六法」(有斐閣)は、必ず準備してください。</p>					<p>参考文献：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習もお願いします。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	原価計算論 I (Cost Accounting I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記原理 I、II							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>工業簿記は、資本の調達・運用・返還についての記帳は商業と同じであるが、製造過程という内部活動を有していることが特徴である。その製造現場での価値移転の記録計算が必要とされる。すなわち、原価計算の領域である。原価計算では、原価を材料費・労務費・経費の3つに分類して計算把握し、その消費額を製品（給付）と関連づける計算を行う。この原価計算と財務会計との関連について論じ、具体的な計算例を使用して講義する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>工業の簿記会計の理解がテーマである。簿記検定2級工業簿記の範囲を理解することを目標として講義を行う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	序、工業簿記の特色					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
2	原価計算基準と原価の一般概念					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
3	原価の要素・種類					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
4	原価の態様、非原価項目					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
5	原価計算の意義と目的、原価計算の種類					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
6	工業簿記の構造、材料費の計算 I					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
7	材料費の計算 II					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
8	労務費の計算 I					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
9	労務費の計算 II					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
10	経費の計算					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
11	製造間接費の配賦計算 I					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
12	製造間接費の配賦計算 II					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
13	製造間接費の配賦計算 III					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
14	部門別計算					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
15	個別原価計算					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
<p>教本：</p> <p>柳田 仁編著『原価計算ガイダンス』中央経済社、¥2,600+税</p>					<p>参考文献：</p> <p>岡本清・廣本敏郎編著 新検定『簿記講義（2級工業簿記）』</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20％）定期試験（80％）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>簿記原理 I・II を理解していることが前提となる。簿記を学んでから履修することを希望する。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	原価計算論 I (Cost Accounting I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	渋谷 武夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 原価計算制度を中心とした実際原価計算の諸方法を、工業簿記と関連付けて講義する。すなわち、費目別計算から製品別計算までの基本的諸方法を取り上げる。									
授業目標： 製品の実際製造原価がどのように構成されるかの理解を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	原価計算の基礎概念					事前：実際原価とは 事後：原価		講義	
3～5	費目別原価計算					事前：なし 事後：材料費・労務費・経費		講義	
6・7	製造間接費の配賦					事前：製造間接費の内容 事後：予定配賦		講義	
8	演習					事前：なし 事後：なし		講義	
9	個別原価計算					事前：受注生産形態とは 事後：指図書別原価計算		講義	
10～12	総合原価計算					事前：大量生産形態とは 事後：仕掛品の評価		講義	
13・14	演習					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 渋谷武夫編著『スタディガイド原価計算』中央経済社					参考文献： 初回講義日に伝える。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 遅刻・欠席をしないこと。電卓を用意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	原 価 計 算 論 II (Cost Accounting II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
工業簿記は、資本の調達・運用・返還についての記帳は商業と同じであるが、製造過程という内部活動を有していることが特徴である。その製造現場での価値移転の記録計算が必要とされる。すなわち、原価計算の領域である。原価計算では、原価を材料費・労務費・経費の3つに分類して計算把握し、その消費額を製品(給付)と関連づける計算を行う。この原価計算と財務会計との関連について論じ、具体的な計算例を使用して講義する。「工業簿記I」で学んだことを基礎にさらに総合原価計算・標準原価計算などを学ぶ。									
授 業 目 標 :									
工業の簿記会計の理解がテーマである。簿記検定2級工業簿記の範囲を理解することを目標として講義を行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	工業簿記Iの復習					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
2	総合原価計算I(総合原価計算の意義)					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
3	総合原価計算II(単一工程単純総合原価計算、平均法と先入先出法)					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
4	総合原価計算III(特級別計算・組別計算)					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
5	総合原価計算IV(工程別計算)					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
6	総合原価計算V(仕損品の処理)					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
7	標準原価計算I(意義)					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
8	標準原価計算II(材料費差異・労務費差異)					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
9	標準原価計算III(間接費差異I)					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
10	標準原価計算IV(間接費差異II)					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
11	CVP分析(損益分岐点分析)					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
12	直接原価計算I					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
13	直接原価計算II					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
14	営業費計算					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
15	まとめ					事前:テキストの予習 事後:復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
柳田 仁編著『原価計算ガイダンス』中央経済社、¥2,600+税					岡本清・廣本敏郎編著 新検定『簿記講義(2級工業簿記)』				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 工業簿記Iを履修・理解していることが前提となる。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	原価計算論Ⅱ (Cost Accounting Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	渋谷 武夫								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 標準原価計算、損益分岐分析、差額原価収益分析などの原価計算の諸方法をできるだけ平易に講義する。									
授業目標： 原価管理・利益管理・意思決定などへの原価計算の利用方法の習得を目指す。同時に、中級簿記検定試験受験に対応できるよう指導する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	損益分岐分析					事前：変動費・固定費とは 事後：損益分岐点		講義	
3	演習					事前：なし 事後：なし		講義	
4～6	標準原価計算					事前：標準原価とは 事後：差異分析		講義	
7	演習					事前：なし 事後：なし		講義	
8	差額原価収益分析					事前：なし 事後：機会原価・埋没原価		講義	
9	演習					事前：なし 事後：なし		講義	
10～12	設備投資の経済性計算					事前：キャッシュフローとは 事後：割引現在価値		講義	
13・14	演習					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 渋谷武夫編著『スタディガイド原価計算』中央経済社					参考文献： 初回講義日に伝える。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席・遅刻をしないこと。電卓を用意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	3 ・ 2 年 : 選 択 4 年 : 必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	言 語 学 (Linguistics)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	松 浦 恵 津 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 語 概 論							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
第 1 回 ~ 第 5 回 で 言 語 の 特 性 や 言 語 の 類 型 に つ い て 扱 っ た あ と、分 野 別 に 中 心 的 な 項 目 に つ い て 考 え る。そ し て、ふ だ ん 使 っ て い る 身 近 な 存 在 で あ る 言 語 が、学 問 の 対 象 と し て 豊 か で 奥 深 い 内 容 を 擁 し て い る こ と に 気 づ い て い く。									
授 業 目 標 :									
1. 諸 言 語 か ら 共 通 し て 取 り 出 せ る 言 語 の 特 徴 を 理 解 し、ど の よ う な し く み で 人 が 言 語 を 産 出 ・ 理 解 し て い る の か を 学 ぶ。									
2. 言 語 学 の 基 礎 的 な 考 え 方、言 語 を 客 観 的 に 観 察 す る た め の 方 法 に つ い て 学 ぶ。									
3. 中 学 校 ・ 高 等 学 校 国 語 教 員 志 望 者 の 教 材 研 究 に 必 要 な 知 識 と 方 法 を 身 に つ け る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 世 界 の 言 語 (分 布 ・ 系 統)					事 前 : 世 界 の 言 語 を 調 べ る 事 後 : ノ ー ト ・ プ リ ン ト の 整 理		講 義	
2	言 語 の 特 性 (記 号 ・ 恣 意 性 ・ 分 節 ・ 体 系 ・ 構 造)					事 前 : 言 語 の 特 性 を 調 べ る 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
3	言 語 の 機 能					事 前 : 言 語 の 機 能 に つ い て 考 え る 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
4	言 語 学 の 対 象 (ラ ン グ ・ パ ロ ー ル ・ 共 時 態 ・ 通 時 態)					事 前 : キ ー ワ ー ド を 調 べ る 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
5	言 語 の 類 型					事 前 : 2 つ 以 上 の 言 語 の 比 較 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
6	言 語 学 の 諸 分 野					事 前 : 言 語 学 の 諸 分 野 を 調 べ る 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
7	形 態 論 ① (形 態 素)					事 前 : 形 態 論、形 態 素 と は 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
8	形 態 論 ② (語 構 成)					事 前 : 語 構 成 に つ い て 調 べ る 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
9	形 態 論 ③ (文 法 的 意 味 を も つ 形 態 素)					事 前 : な し 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
10	形 態 論 ④ (文 法 的 カ テ ゴ リ ー)					事 前 : 文 法 的 カ テ ゴ リ ー と は 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
11	統 語 論 ① (文 の 構 造)					事 前 : 統 語 論 と は 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
12	統 語 論 ② (日 本 語 文 法 に お け る 統 語 論)					事 前 : な し 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
13	意 味 論					事 前 : 意 味 論 と は 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
14	社 会 言 語 学					事 前 : 社 会 言 語 学 と は 事 後 : キ ー ワ ー ド の 説 明		講 義	
15	ま と め					事 前 : 練 習 問 題 事 後 : 総 復 習、期 末 試 験 準 備		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
プ リ ン ト を 配 布 す る。					佐 久 間 淳 一、加 藤 重 広、町 田 健 (2004) 『言 語 学 入 門』 研 究 社 ¥1,944 佐 久 間 淳 一 (2008) 『言 語 学 基 本 問 題 集』 研 究 社 ¥2,052				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ 提 出 物 等 (35%)、定 期 試 験 (45%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
人 間 の 言 語 の し く み を 考 え ます。日 本 語 や 知 っ て い る 外 国 語 を 具 体 例 と し て 考 え る の で、興 味 が も て る と 思 っ ます。人 間 の 言 語 の、機 能 的 で 精 巧 な つ く り に 驚 か さ れ る で し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	現 代 家 族 論 (Home Economics)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	藤 巻 静 代								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>女性の生き方の多様化に伴い、各自がライフプランを構築する機会をすることにより、新しい家族のあり方を考察する。講義では、自分の意見を持ち、発言する力を養うと同時に友人の意見も大切にできるような環境のなかで、自立した人間を育てることを目的とする。</p> <p>現代社会は、「男は仕事、女は家庭」という伝統的な性別役割分業社会から、男女による性別にとらわれず、人間としての役割の多様性に力点を置いた共生社会への転換期である。この共生社会に適応する現代家族のあり方を中心に講義する。特に、女性の就労が家族に及ぼす影響について考察する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>共生社会に適応する家族関係のあり方をおとして人間力を育てること。</p> <p>人生100年時代の理想のライフプランを各自作成すること。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：シラバス精読 事後：プリント1配布		講義	
2・3	新しい家族の流れ					事前：プリント1精読 事後：〃		講義	
4・5	理想とする人生及び現実になりそうな人生の8タイプ					事前：〃 事後：プリント2配布		講義	
6	フルタイムーA子さんの場合					事前：プリント2精読 事後：プリント3配布		グループワーク	
7	夫婦別姓の将来					事前：プリント3精読 事後：プリント4配布		グループワーク	
8	さまざまな離婚					事前：プリント4精読 事後：プリント5配布		グループワーク	
9	ワーキングカップルの記録					事前：プリント5精読 事後：プリント6配布		グループワーク	
10	自分のことは自分で：「人間力」を育てる親の役割					事前：プリント6精読 事後：プリント7配布		グループワーク	
11	親子のコミュニケーション					事前：プリント7精読 事後：プリント8配布		グループワーク	
12	女性介護から社会介護へ					事前：プリント8精読 事後：プリント9配布		講義	
13	心の癒やし「傾聴ボランティア」					事前：プリント9精読 事後：プリント10配布		講義	
14	老後は「粋」な輝き					事前：プリント10精読 事後：プリント11配布		講義	
15	「ミッション」をみつめる親の役割					事前：プリント11精読 事後：プリント1～11精読		講義	
教 本 :									
資料 (プリント) 1～11					参 考 文 献 :				
					随 時 提 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (30%)、受 講 態 度 (10%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
母 親 が 働 く と 家 族 に ど ん な 影 響 を 与 え る か、こ れ か ら 家 族 は ど の よ う に 変 化 し て い く の か な ど 共 生 社 会 に 適 応 し た 家 族 関 係 を 作 る こ と に 関 心 を 持 つ よ う 期 待 し て い ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。火 曜 日 3 限									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	現代文学研究 A (散文) (Contemporary Literature Research A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 龍 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
(1)現代小説を「語り論」の「〈読み〉の原理」で読む。(2)物語と小説の概念を学び、現代文学の世界認識を読み解く。(3)レポート発表を基にディスカッションで、現代を生きる人間の問題の認識を深める。									
授 業 目 標 :									
(1)「語り論」をテーマに現代小説の代表的作品を講読し、語り合う。(2)現代人の生きる課題を追求し、自らの生き方を問い直す。(3)レポート、ディスカッションの表現力・対話力の向上を目指す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	現代小説の作家たち (オリエンテーション)					事前:なし 事後:資料精読		講 義	
2	「物語と格闘する語り手」を読む					事前:なし 事後:復習		講 義	
3	物語と小説の峻別とは何か					事前:なし 事後:復習		講 義	
4	「デューク」(江國香織)を読む					事前:作品を読む 事後:なし		演 習 ・ 講 義	
5	「デューク」(江國香織)ブックトーク					事前:作品を読む 事後:作品論を書く		演 習 ・ 講 義	
6	「「デューク」(江國香織)論」合評会					事前:なし 事後:レポート提出		演 習 ・ 講 義	
7	「赤い繭」(安部公房)を読む					事前:作品を読む 事後:なし		演 習 ・ 講 義	
8	「赤い繭」(安部公房)ブックトーク					事前:作品を読む 事後:作品論を書く		演 習 ・ 講 義	
9	「「赤い繭」(安部公房)論」合評会					事前:なし 事後:レポート提出		演 習 ・ 講 義	
10	「運転手は吸血鬼」(村上春樹)を読む					事前:作品を読む 事後:なし		演 習 ・ 講 義	
11	「運転手は吸血鬼」(村上春樹)ブックトーク					事前:作品を読む 事後:作品論を書く		演 習 ・ 講 義	
12	「象の消滅」(村上春樹)を読む					事前:作品を読む 事後:なし		演 習 ・ 講 義	
13	「象の消滅」(村上春樹)ブックトーク					事前:作品を読む 事後:作品論を書く		演 習 ・ 講 義	
14	「村上春樹論」合評会					事前:「村上春樹論」を書く 事後:レポート提出		演 習 ・ 講 義	
15	まとめ「現代小説と《他者》」					事前:なし 事後:なし		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『語り論』がひらく文学の授業』(中村龍一著 ひつじ書房)					教室で指示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (40%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : レ ポ ー ト 課 題 の 提 出 を し っ か り す る こ と で す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	現代文学研究B (韻文) (Study of Contemporary Japanese Literature)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	徳本 善彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： (1) 戦後文学における詩の流れを学び、代表的詩人の作品を鑑賞する。 (2) 作品を精読し、声に出して読むことで言葉の新しい価値を見出し、詩の世界をより深く理解する。									
授業目標： (1) 戦後詩史を踏まえ、現代詩人の代表的作品を鑑賞する。 (2) 基本的な詩の「読み」かたを習得し、レポート課題を通して自分なりの作品論を書く。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	「詩のことば」とは (オリエンテーション)					事前：なし 事後：復習		講義	
2	戦争と詩					事前：なし 事後：復習		講義	
3	戦後詩の流れ					事前：なし 事後：復習		講義+演習	
4	鮎川信夫の詩					事前：なし 事後：復習		講義+演習	
5	田村隆一の詩					事前：なし 事後：復習		講義+演習	
6	谷川俊太郎の詩 I					事前：なし 事後：復習		講義+演習	
7	谷川俊太郎の詩 II					事前：なし 事後：復習		講義+演習	
8	まど・みちおの詩					事前：なし 事後：復習		講義+演習	
9	入沢康夫の詩					事前：なし 事後：復習		講義+演習	
10	川崎洋の詩					事前：なし 事後：復習		講義+演習	
11	茨木のり子の詩					事前：なし 事後：復習		講義+演習	
12	石垣りんの詩					事前：なし 事後：復習		講義+演習	
13	伊藤比呂美の詩					事前：なし 事後：復習		講義+演習	
14	荒川洋治の詩					事前：なし 事後：復習		講義+演習	
15	現代詩の現状					事前：なし 事後：レポート課題		講義+演習	
教本： 『教科書で出会った名詞100選』(石原千秋編 新潮文庫)					参考文献： 教室で提示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業で詩をじっくり読んで、レポート課題に取り組みましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	憲 法 (Constitutional Law)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	高 乗 智 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
この講義では、国家社会の基本法である日本国憲法の基本原理と大綱について理解が得られるように解説をする。ここでは、日本国憲法の基本構造と、その課題を共有し、自らの力で憲法問題を考えることを中心目的とする。前半は、「法的なもの考え方」の習得を目指し基礎理論の理解を目的とした説明を行う。その後、日本国憲法の全体像を把握するため、人権や統治の基本事項を扱う。本講義では、立憲主義の原理原則、制度の背後にある理念、人権思想を基にして、個々の事例について共に考えていきたい。									
授 業 目 標 :									
(1)「法的思考」の習得と自らの言葉で憲法論を展開すること、(2)「憲法とは何か」についての理解を深めること、(3)日本国憲法の成立過程、日本国憲法の具体的内容(憲法性格と特色)、問題点などについて共に考えていくこと									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	憲法とは何か —憲法学習の勧め、憲法学習の基礎、憲法と法律の違い—					事前：なし 事後：概念の整理		講義	
2	国家と国家権力と憲法 —国家と憲法と国家機関の違い、憲法の本質、憲法の前提—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
3	憲法の任務 —法の支配と法治主義—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
4	大日本帝国憲法の基本構造と日本国憲法の成立過程 —憲法成立の法理—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
5	憲法9条と自衛隊 —自衛権と憲法9条—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
6	憲法9条と安保法制 —集団的自衛権を中心に—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
7	個人の尊厳と平等 —マイノリティの人権保障—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
8	精神的自由権 —ヘイトスピーチを考える—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
9	身体的自由権 —死刑制度を考える—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
10	経済的自由権 —経済活動の特別な制限を中心に—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
11	社会権 —教育現場における憲法論—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
12	国会・内閣・裁判所 —総論—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
13	国会・内閣・裁判所 —各論—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
14	憲法改正問題(1) —憲法9条改正論、家族条項—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
15	憲法改正問題(2) —あるべき憲法を考える—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
高乗正臣・奥村文男編『プラクティス 法学実践教室Ⅱ—憲法編—』 (誠文堂) ¥1,900+税					授 業 中 に 適 宜 指 示				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
小テスト・レポート等(30%)、定期試験(70%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることに目を向け、共に考えて行きたいと思う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	憲 法 学 I (Japanese Constitution I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 乗 智 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本講義は、国の根本法といわれる憲法の規定のうち、主として基本的人権の保障について理解が得られるように解説をし、日本国憲法の基本的人権の保障構造、規範内容、実際の運用とその問題点を明らかにすることを目的とする。本講義の中心的目的は、学説・判例理論(具体的事例)の検討を通じて、その論理構造の問題点と課題を明らかにすることに重点をおき、憲法学的思考方法の理解を深めることにある。具体的事例の考察を通じ、自らの力で憲法論を展開し、問題解決能力を養う点にある。</p>									
授 業 目 標 :									
(1)「法的思考」の習得と自らの言葉で憲法論を展開すること、(2)「憲法とは何か」についての理解を深めること、(3)日本国憲法の人権保障とその課題などについて共に考えていくこと									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	憲法総論 —憲法学習の基礎、憲法と法律の違い—					事前：なし 事後：概念の整理		講義	
2	国家と憲法 —国家と憲法と国家機関の違い、憲法の前提、主権概念—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
3	立憲主義と人権保障 —人の支配と法の支配、民主政治の原理—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
4	基本的人権総論(1) —基本的人権の歴史的発展、権利の法的性質—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
5	基本的人権総論(2) —基本的人権の限界、公共の福祉の概念—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
6	憲法14条と平等原則 —合理的差別と不合理な差別—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
7	精神的自由権(1) —思想良心の自由と起立斉唱職務命令—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
8	精神的自由権(2) —表現の自由とその限界—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
9	精神的自由権(3) —信教の自由と政教分離—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
10	身体的自由権(1) —罪刑法定主義、適正手続主義—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
11	身体的自由権(2) —死刑制度と憲法、罪刑法定主義、適正手続主義—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
12	経済的自由権 —二重の基準論、営業の自由と薬事法—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
13	社会権 —生存権と生活保護、教育を受ける権利と教育権—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
14	参政権 —国民主権と参政権、外国人の参政権問題—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
15	新しい人権					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
高乗正臣・奥村文男編『プラクティス 法学実践教室Ⅱ—憲法編—』(誠文堂) ¥1,900+税					授業中に適宜指示				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小テスト・レポート等(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることに目を向け、共に考えて行きたいと思う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
授 業 の 前 後 15 分									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	憲 法 学 II (Japanese Constitution II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 乗 智 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本講義は、国の根本法といわれる憲法の規定のうち、主として統治機構について理解が得られるように解説をし、日本国憲法下における政治権力のあり方、理念、実際の運用とその問題点を明らかにすることを目的とする。制度は必ず伝統や哲学によって支えられているため、その制度的特徴を理解した上で、憲法解釈論を展開できるようになることを目指す。</p>									
授 業 目 標 :									
(1)「法律的思考」の習得と自らの言葉で憲法論を展開すること、(2)「憲法とは何か」についての理解を深めること、(3)日本国憲法の統治構造とその課題などについて共に考えていくこと									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	憲法総論 —政治・統治・人権保障—					事前：なし 事後：概念の整理		講義	
2	憲法と国家哲学 —国家・憲法・国家機関・国家権力・主権・国民—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
3	立憲主義と統治機構の淵源 —代表の理念と立憲主義、数の政治と理の政治—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
4	天皇 (1) —天皇の憲法上の地位、立憲君主制の本質—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
5	天皇 (2) —国事行為の法的性質—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
6	憲法9条 (1) —自衛隊の合憲性—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
7	憲法9条 (2) —自衛権・安全保障法制と憲法9条—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
8	国会 (1) —国会の地位と組織—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
9	国会 (2) —議院の権能とその限界—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
10	内閣 (1) —議院内閣制の本質—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
11	内閣 (2) —内閣の権能とその限界—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
12	裁判所 (1) —司法権の独立—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
13	裁判所 (2) —違憲立法審査権の本質—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
14	地方自治 —地方自治の本旨、地方自治の仕組み—					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
15	憲法改正論					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
高乗正臣・奥村文男編『プラクティス 法学実践教室II—憲法編—』(誠文堂) ¥1,900+税					授業中に適宜指示				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることに目を向け、共に考えて行きたいと思う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
授 業 の 前 後 15 分									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	行動観察法 (Behavior Observation Method)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>一般論として観察にはメガネが必要である。先人の心理学者は、理論構築の枠組みを、メガネにし、行動観察の業績を残している。本講義は、ERIC BERNEにより生み出された交流分析の基礎理論を学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>交流分析 (TRANSACTIONAL ANALYSIS: TA) における行動観察のポイントを学習する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	TAの発展に関する考察					事前：シラバスの精読 事後：復習する		講義	
2	自律性とはなにか					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
3	TAの定義と哲学 (基本理念)					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
4	脚本の起源					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
5	ストローク					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
6	値引き					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
7	4つの受動的行動					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
8	構造分析					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
9	交流の分析					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
10	脚本の発達					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
11	ラケット分析					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
12	ゲーム分析					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
13	社交上の時間の構造化					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
14	契約的手法					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
15	まとめ					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義	
<p>教本：</p> <p>『TA ベイシックス』、深沢道子監修、日本TA協会</p>					<p>参考文献：</p> <p>『エリック・バーン 人生脚本のすべて』、江花昭一監訳、星和書店</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等 (60%)、小テスト・レポート等 (40%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>自己分析と他者及び状況観察への取り組みが大切な授業です。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	行 動 観 察 法 演 習 (Practical Training of Behavior Observation)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菅 沼 憲 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	行 動 観 察 法 を 履 修 済 み で あ る こ と							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 行 動 観 察 は、心 理 学 の 有 力 な 研 究 方 法 で あ る 以 上 に 心 理 面 接 技 法 と し て 発 展 し て い る。本 講 義 は、心 理 面 接 を 対 象 と し て 行 動 記 録 を 映 像 と 音 声 で 記 録 し 検 討 す る こ と に よ り 行 動 観 察 の ス キ ル を 習 得 す る。									
授 業 目 標 : 心 理 面 接 の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 2 側 面 で あ る プ ロ セ ス と コ ン テ ッ ツ を 理 解 す る こ と で 行 動 観 察 リ テ ラ シ ー を 習 得 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス の 精 読 事 後 : 復 習 す る		講 義	
2	心 理 面 接 に 関 す る 包 括 的 問 題 点 と は					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
3	面 接 の 始 ま り と 守 秘 義 務					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
4	ラ ポ ー ル、共 感、リ フ レ ク シ ョ ン					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
5	主 訴 の 歴 史					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
6	病 歴					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
7	精 神 状 態 の 査 定					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
8	イ ン テ ー ク 面 接 の ま と め 方					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
9	防 衛 的 に な る こ と へ の 対 処					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
10	多 弁 な ク ラ イ エ ン ト に 対 処 す る					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
11	面 接 を 終 わ ら せ る					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
12	い つ 紹 介 す る か を 知 る					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
13	治 療 タ ー ゲ ッ ト を 定 め る					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
14	ケ ー ス フ ォ ー ミ ュ レ ー シ ョ ン の 意 味					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
15	ま と め					事 前 : 事 後 : 復 習		講 義	
教 本 : 『臨 床 面 接 の す す め 方』、M ハ ー セ ン ・ V. B. ヴ ァ ン ・ ハ ッ セ ン 著、日 本 評 論 社					参 考 文 献 : 授 業 中 に 随 時 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (60%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 記 録 し た 資 料 を 分 析 し 気 づ い た 点 を 考 察 す る 姿 勢 を 持 ち つ つ 授 業 に 参 加 す る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	行 動 分 析 学 (Behavior Analysis)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>私たちが日常生活で何気なくしている行動、どうしてもやめられない行動は、どのようにして形成されたものなのだろうか。行動分析学では、行動の原因を個体の内部ではなく環境との関係から理解する。その理論は、子どもの発達支援等、多くの分野に応用されている。本講義では、行動分析学に基づき、行動がどのように形成され、行動をどのような方法で変容させることができるのかについて学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>行動形成のメカニズムを分析し、行動変容の手段を考えることができるようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	行動とは何か					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
3	学習理論					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
4	行動随伴性					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
5	強化子出現による強化					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
6	弱化学子消失による強化					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
7	弱化学子出現による弱化学					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
8	強化子消失による弱化学					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
9	消去と復帰					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
10	強化スケジュール					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
11	刺激弁別と刺激般化学					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
12	言語行動					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
13	行動分析を用いた発達支援①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義・演習	
14	行動分析を用いた発達支援②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義・演習	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教 本 :									
なし。授業中に資料を配布する。					参 考 文 献 :				
<p>なし。授業中に資料を配布する。 杉山尚子『行動分析学入門』—ヒトの行動の思いがけない理由 集英社新書</p>									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
<p>授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (50%) で総合評価する。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>講義には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。</p>									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
<p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	15	授業形態	演習
授業科目(英文)	国語 (子どもとコミュニケーション) (Japanese)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古金 悦子、村木 桂子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本授業では、母国語の特質とその役割について理解させ、そのうえで母国語の力を育むことの意味を考えさせる。また幼児期の言語力育成の観点から、「話す・聞く・読む・書く」に分けて概説し、幼児教育者に必要な知識・理論を身につけるよう授業を行う。幼児の言葉・コミュニケーション力の発達の過程を理解させ、幼児の母国語力を高めるために必要な知識・理論を教授する。授業形式は、講義と演習を組み合わせる。									
授業目標： <ul style="list-style-type: none"> 母国語の重要性を理解し、幼児の言葉の特質及び言葉の教育の持つ意味を理解する。 乳幼児の言語・コミュニケーション発達の発達過程を知る。 就学までに身につけさせたいコミュニケーション能力と、それを育む教育内容を理解する。 									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	母国語の特質と母国語力を育む意味（担当：古金）					事前：シラバスを読む 事後：授業ポイントの復習		演習	
2	幼稚園教育要領の概要と、母国語の教育（担当：古金）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
3	幼児の言葉・コミュニケーション力の発達（担当：古金）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
4	言語の特徴―「話す」・「聞く」・「書く」・「読む」こと（担当：村木）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
5	会話表現―幼児期の「話す」・「聞く」（担当：古金）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
6	会話表現―幼児の会話とその援助（担当：古金）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
7	幼児が文字に接するとき―日常生活（担当：村木）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
8	児童文学に親しむ―絵本の読み聞かせ・素話の場合（担当：古金）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
9	幼児期に言葉で自分を表現し、自分の気持ちを現すことを支援するためには（担当：古金）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
10	幼児が触れる美しい文字・正しい表記について（担当：村木）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
11	幼児と平仮名、片仮名、漢字表現の関わり（担当：村木）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
12	幼児が親しむ敬語の種類・敬語の働き（担当：村木）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
13	幼児のコミュニケーション力と協調性・社会性の関係（担当：古金）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
14	人的環境としての幼児教育者―その必要な言語表現力（担当：古金）					事前：前時の復習 事後：授業ポイントの復習		演習	
15	就学までに身につけたい言語力とは―幼児教育者の援助（担当：古金）					事前：前時の復習 事後：これまでの総復習		演習	
教本： 保育者になるための国語表現 田神貞一郎著 萌文書林					参考文献： 幼稚園教育要領・小学校国語学習指導要領				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日頃からニュースや新聞など身の回りの言葉に興味を持ち、過ごしてほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際開発経済論 I (International Economic Development I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	坂本 隆行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>世界では、所得格差や貧困による様々な惨事が見受けられる。本講義は、開発途上国が直面する貧困問題がどのような要因で生じ、それに対して開発途上国にはどのような経済政策が行われるのかを、開発経済学の視点より説明する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 開発経済の基礎的知識と貧困の現状を理解する。 2. 国際的な貧困問題における経済政策とその課題点について、具体的に説明することができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：受講意識の整理 事後：受講目的の確認		講義	
2	国際開発経済学の課題（開発途上国と開発経済学）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
3	社機システムの発展過程（相互依存モデル）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
4	誘発的革新理論（技術革新と制度革新）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
5	公共財の供給（利益の直接帰属）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
6	経済成長と構造変化（1人当りGDPの水準と成長率）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
7	経済成長と投資・貯蓄（資本の増加とインフレーション）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
8	人的資本開発（投資による人間の技能・健康の向上）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
9	人口と食料（人口成長と食料問題）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
10	食料生産問題（科学的農業の展望）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
11	「緑の革命」（食物の近代的品種開発と普及）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
12	アフリカの農業改革（アフリカへのアジア開発技術の移転）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
13	余剰資源の利用と依存 1（資源依存型経済成長の限界）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
14	余剰資源の利用と依存 2（資源輸出と国内産業衰退）					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
15	まとめ					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
<p>教本：速水佑次郎『新版 開発経済学』創文社</p>					<p>参考文献： A. V. バナシー／E. デュフロ著 山形浩成訳『貧乏人の経済学—もう一度貧困問題を根っこから考える—』みすず書房 その他必要の都度、参考図書・資料等を紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 講義内容をただ暗記するのではなく、繋がりを持った「出来事」として捉えるよう心掛けること。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際開発経済論Ⅱ (International Economic Development Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	坂本 隆行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本講義では、国際的な貧困問題への取り組みを理解するため、はじめに経済発展による問題を資本蓄積や所得分配の理論で解説し、その上で世界各国の政府や民間団体がやっている貧困問題への具体的取り組み (IMF やマイクロファイナンスの活動等) を説明する。									
授業目標： 1. 国際的な貧困問題への取り組みを、理論と具体例の両面から説明できる。 2. 経済的豊かさについて、持論を展開できること。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス					事前：受講意識の整理 事後：受講目的の確認		講義	
2	資本蓄積と経済発展 (シムペーター 『経済発展理論』)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
3	所得分配の論理 (人的分配と要素分配)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
4	所得分配の不平等 (経済の二重問題と農民・非農人格差)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
5	経済発展の停滞と貧困 (近代農業技術と所得分配)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
6	途上国の環境問題 (貧困化と工業化による環境汚染)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
7	環境保全への国際協力 (汚染者保証原則と京都会議)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
8	世界銀行とIMF (構造調整政策の有効性)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
9	途上国の発展と金融危機 (NIEs・ASEANの経済成長と危機)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
10	共同体の役割 (経済発展と共同体の役割)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
11	途上国農村の構造 (大規模農家と小作農家)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
12	マイクロファイナンスとグラミン銀行 (運用と課題点)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
13	日本政府による開発支援 (ODAとJICA)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
14	「幸せな人生」とは何か					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
15	まとめ					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
教本： 速水佑次郎『新版 開発経済学』創文社					参考文献： A. V. バナシー／E. デュフロ著 山形浩成訳『貧乏人の経済学—もう一度貧困問題を根っこから考える—』みすず書房 その他必要の都度、参考図書・資料等を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義内容をただ暗記するのではなく、繋がりを持った「出来事」として捉えるよう心掛けること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修		単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 関 係 論 I (International Relations I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	伊 藤 重 行								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に ない。							
	そ の 他	特 に ない。							
授 業 概 要 :									
<p>国際社会や国際的共同体で生じている問題点を分かりやすく論じながら21世紀の時代的特徴を理論的、現実的に理解できることを目標とした授業を展開する。この講義を通じて日本以外の外国の国々とそれらと日本との関係を理解し、関心を持つことができるようにする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>国家間の諸関係は、いつも新聞やテレビのニュースになって現れてくる。人間の社会生活は、自分の興味や好みのみならず、外的要因によっても変化がもたらされる。自分の興味や好み以外の政治的出来事にも目を向けるように、世界で起こっている現象から国際関係を理解する事を目標とする。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	国際関係論入門					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
2	国際関係論の成立の背景					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
3	国際関係論の歴史					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
4	国際関係と自己安定性					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
5	国際関係と自己組織性					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
6	自己安定・自己組織システム					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
7	アジア太平洋の秩序					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
8	ジョン万次郎と日米関係					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
9	中浜万次郎と黒船来航					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
10	ペリーと吉田松陰					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
11	戦略国家としての米国					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
12	米国の五つの観念					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
13	アジア太平洋と大来佐武郎					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
14	日本・大韓民国・アメリカ合衆国の未来					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
15	まとめ					事前：講義報告の構想 事後：講義報告の提出		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
伊藤重行『自己安定・自己組織システム』志學社、¥2,000					渡部トメ他『ツルになったおばあちゃん』中西出版、¥1,000				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (10%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : テ キ ス ト や 参 考 文 献 な ど を 購 入 し、よ く 読 む 努 力 を し て 欲 し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国際関係論 I (International Relations I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 敏 哉								
履 修 条 件	前 提 科 目	特になし							
	そ の 他	世界史その他の国際関係に関する科目の履修経験がなくとも構いません。							
授業概要： 国際関係論の入門を身近な素材を使いながら進めます。国際情勢を理解することから始め、国際関係の基本概念を学んでいきます。後半は、国家と国際システムの対比をしながら、現実主義や自由主義の国際関係論のパースペクティブについて学びます。									
授業目標： 1. 国際関係の諸問題への関心を高める。 2. 国際関係論のパースペクティブである現実主義と自由主義の概略を知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：国際関係論はどのようなことを学ぶのか、なぜ生まれたのかを中心に話します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
2	日本の周りの国際情勢①：日本の周りの国際関係の変化に関し、主として安全保障の面からお話します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
3	日本の周りの国際情勢②：日本の周りの国際関係の変化に関し、主として国際政治経済の面からお話します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
4	国家と国際システム：国家と国際システムという国際関係論の枠組みについて学びます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
5	ウェストファリア体制：ウェストファリア体制とは何か、その意味と由来について考えます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
6	グローバル政治とポスト・ウェストファリア体制：ウェストファリア体制の揺らぎと今日の変化について考えてみます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
7	ミニ・テスト①：前半のまとめをします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
8	現実主義のパースペクティブ①：現実主義の思想家の考え方を見ていきます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
9	現実主義のパースペクティブ②：現実主義の思想家の考え方を見ていきます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
10	現実主義のパースペクティブ③：現実主義の理論のポイントを考えてみます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
11	自由主義のパースペクティブ①：自由主義の思想家の考え方を見ていきます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
12	自由主義のパースペクティブ②：自由主義の理論のポイントを考えてみます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
13	自由主義のパースペクティブ③：自由主義の理論のポイントを考えてみます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
14	ミニ・テスト②：後半のまとめをします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
15	国際関係の諸課題をどう見るか：国際関係を見るために我々が持つべき視点を整理します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
教本： 毎回ハンドアウト（配布資料）に従って進めます。					参考文献： 各回の講義の中で必要に応じお知らせします。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価します。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 国際関係論はこれからの時代にとっても重要なものです。講義の効果を上げるためには、普段からテレビ、新聞、ネットでの国際関係に関するニュースに気に留めておくことが大事です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 関 係 論 II (International Relations II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	伊 藤 重 行								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に ない。							
	そ の 他	特 に ない。							
授 業 概 要 :									
<p>国際社会や国際的共同体で生じている問題点を分かりやすく論じながら21世紀の時代的特徴を理論的、現実的に理解できることを目標とした授業を展開する。この講義を通じて日本以外の外国の国々とそれらと日本との関係を理解し、関心を持つことができるようにする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>国家間の諸関係は、いつも新聞やテレビのニュースになって現れてくる。人間の社会生活は、自分の興味や好みのみならず、外的要因によっても変化がもたらされる。自分の興味や好み以外の政治的出来事にも目を向けるように、世界で起こっている現象から国際関係を理解する事を目標とする。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
2	国際関係論入門					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
3	国際関係論の成立の背景					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
4	日米の政治的関係					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
5	日米の政治的交渉					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
6	日本的思考の政治					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
7	日本文明と政治					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
8	日本文化と日本的政治					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
9	水の政治学					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
10	森の政治学					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
11	システム政治と地球社会					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
12	日本的思考と世界政治					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
13	システム思考の政治					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
14	地球時代の人間の倫理					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
15	まとめ					事前：講義報告の構想 事後：講義報告の提出		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
伊藤重行『日本からの新しい文明の波』勁草書房、¥2,060					K. ドイツェ 『サイバネティクスの政治理論』(伊藤他訳) 早稲田大学出版会、¥3,000				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (10%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : テ キ ス ト や 参 考 文 献 な ど を 購 入 し、よ く 読 む 努 力 を し て 欲 し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 後 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 関 係 論 II (International Relations II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 敏 哉								
履 修 条 件	前 提 科 目	担 当 教 員 による 国 際 関 係 論 I を 履 修 して いる こと。そ れ が ない 場 合 は 本 講 義 の 理 解 は 困 難 で す。							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>国 際 関 係 論 の 基 礎 を グローバル 政 治 の 観 点 から 体 系 的 に 学 び ます。国 際 関 係 論 I で 学 んだ 現 実 主 義 と 自 由 主 義 の パースペクティブ を 確 認 した 後、安 全 保 障、軍 縮 ・ 軍 備 管 理、国 際 政 治 経 済、国 際 協 力、環 境 問 題、貧 困 ・ 飢 餓 問 題、移 民 ・ 難 民 問 題、人 権 問 題 などの 各 分 野 を 概 説 して いきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 国 際 関 係 の 諸 分 野 を 体 系 的 に 学 習 する。</p> <p>2. 国 際 関 係 の 問 題 を 「知 る」に 留 ま ら ず、ど の よう に 「解 決 す べ き か」とい う 点 から 考 え る。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション (教科書 1 章) : 講義全体の流れと、国際関係論の諸分野の概略をお話しします。					事前 : 特になし 事後 : ハンドアウト復習		講義	
2	現実主義と自由主義 (教科書 3 章) : 国際関係論 I で学習した現実主義と自由主義に関して概略を確認します。					事前 : 特になし 事後 : ハンドアウト復習		講義	
3	安全保障① (教科書 7 章) : 国際関係論の中心にある安全保障問題について、理論的枠組みと政策の現実について学びます。					事前 : 教科書予習 事後 : 教科書復習		講義	
4	安全保障② (教科書 8 章) : 国際関係論の中心にある安全保障問題について、理論的枠組みと政策の現実について学びます。					事前 : 教科書予習 事後 : 教科書復習		講義	
5	軍縮・軍備管理 : 安全保障の課題でありながら、別の政策として分断されがちな軍縮・軍備管理の概要を学びます。					事前 : 特になし 事後 : ハンドアウト復習		講義	
6	軍縮・軍備管理 : 安全保障の課題でありながら、別の政策として分断されがちな軍縮・軍備管理の概要を学びます。					事前 : 特になし 事後 : ハンドアウト復習		講義	
7	国際政治経済① (教科書 10 章) : 国際関係論の重要分野である国際政治経済について、その仕組みと考え方を学びます。					事前 : 教科書予習 事後 : 教科書復習		講義	
8	国際政治経済② (教科書 10 章) : 国際関係論の重要分野である国際政治経済について、その仕組みと考え方を学びます。					事前 : 教科書予習 事後 : 教科書復習		講義	
9	国際協力と国際関係① (教科書 11 章) : 国際協力の様々な制度と歴史、またその国際関係での意味を学びます。					事前 : 教科書予習 事後 : 教科書復習		講義	
10	国際協力と国際関係② (教科書 11、13 章) : 国際協力の様々な制度と歴史、またその国際関係での意味を学びます。					事前 : 教科書予習 事後 : 教科書復習		講義	
11	環境問題 (教科書 12 章) : 国際関係の環境問題について、「国家」対「国際社会」の図式から検討します。					事前 : 教科書予習 事後 : 教科書復習		講義	
12	貧困・飢餓問題 : 国際関係の貧困・飢餓問題について、「国家」対「国際社会」の図式から検討します。					事前 : 特になし 事後 : ハンドアウト復習		講義	
13	移民・難民問題 (教科書 14 章) : 国際関係の移民・難民問題について、「国家」対「国際社会」の図式から検討します。					事前 : 教科書予習 事後 : 教科書復習		講義	
14	人権問題 (教科書 9 章) : 国際関係の人権問題について、「国家」対「国際社会」の図式から検討します。					事前 : 教科書予習 事後 : 教科書復習		講義	
15	国際関係のあるべき秩序とは : 学習した内容を踏まえ、グローバル化した国際関係をいかに安定させるかを考えていきます。					事前 : 特になし 事後 : ハンドアウト復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『国際政治学への扉』永山博之他 (一藝社) ¥2,600。受講は購入が前提です。					毎 回 ハ ン ド ア ウ ト を 配 布 し ます。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 する。									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 し ます。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
国 際 関 係 論 I を 更 に 深 め ます。日 本 の 周 り の 国 際 環 境 は 大 き く 変 わ る べ し と して います。こ の 講 義 は 国 際 関 係 を 考 え る た め の 視 点 を 養 う こ と に 力 点 を 置 いて います。自 ら 考 え て いく こ と が 将 来 の 皆 さ ん に 重 要 な こ と で す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え ます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 観 光 論 Ⅰ (International Tourism Ⅰ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	澤 田 利 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
21世紀はヒト、モノ、カネ、情報が大量に国境を越えて行き来する地球大交流時代である。国際観光論Ⅰにおいては、国際観光とは何か、世界および日本における国際観光の現状、マーケティング、日本の国際観光政策など国際観光についての概要を学ぶ。									
授 業 目 標 :									
国際観光の意義と現状および課題について理解すること									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	序					事前：特になし 事後：特になし		講義	
2	観光（ツーリズム）とは何か					事前：特になし 事後：特になし		講義	
3	国際観光の意義					事前：特になし 事後：特になし		講義	
4	世界の国際観光の動向と変遷 1					事前：特になし 事後：特になし		講義	
5	世界の国際観光の動向と変遷 2					事前：特になし 事後：特になし		講義	
6	日本の国際観光の動向と変遷 1					事前：特になし 事後：特になし		講義	
7	日本の国際観光の動向と変遷 2					事前：特になし 事後：特になし		講義	
8	ツーリズムマーケティング 1					事前：特になし 事後：特になし		講義	
9	ツーリズムマーケティング 2					事前：特になし 事後：特になし		講義	
10	ツーリズムマーケティング 3					事前：特になし 事後：特になし		講義	
11	日本の国際観光政策 1					事前：特になし 事後：特になし		講義	
12	日本の国際観光政策 2					事前：特になし 事後：特になし		講義	
13	日本政府観光局 (JNTO) 1					事前：特になし 事後：特になし		講義	
14	日本政府観光局 (JNTO) 2					事前：特になし 事後：特になし		講義	
15	まとめ					事前：特になし 事後：特になし		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
必要に応じプリントを配布する。					適宜、紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講義が一方通行にならぬよう Q&A の時間を毎回設けると共に随時ディスカッションの時間もとる予定。学生諸君の積極的参加を期待します。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 観 光 論 Ⅱ (International Tourism II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	澤 田 利 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>世界中で1年間に11億人以上が国際観光(観光)旅行をしており、今後さらに増えることが予想される。国際観光には、経済効果・雇用促進効果と国際相互理解(ひいては世界平和)への貢献という大きな意義があり、各国が国際観光の促進に力を入れている。日本も例外ではない。国際観光論Ⅱでは、主要訪日旅行マーケットの現状、国際会議誘致、地方における国際観光への取り組み、観光産業における国際観光など、国際観光に関する具体的かつ詳細な内容について学び、日本の国際観光を発展させるためにどのようなことができるかを考える。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 訪日旅行マーケット、国際会議等誘致、地方の取り組み、観光産業での国際観光、国際観光と環境を理解すること 2. 日本にとっての国際観光の重要性を認識し、日本の国際観光を発展させるためにはどうしたらよいかを考えること</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式 (注)WS:授 業 終 了 前 15分 程 度 で、与 え ら れ た テー マ に つ い て 150字 程 度 の 文 章 を 作 成 ・ 提 出									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	導 入 授 業 : 授 業 の 進 め 方 と 授 業 概 要 の 説 明					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
2	第 1 章 主 要 訪 日 旅 行 マー ケ ッ ト の 規 模 と 特 性 : 韓 国 ・ 台 湾 マー ケ ッ ト、WS ^(注)					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
3	第 1 章 主 要 訪 日 旅 行 マー ケ ッ ト の 規 模 と 特 性 : 中 国 ・ 香 港 マー ケ ッ ト、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
4	第 1 章 主 要 訪 日 旅 行 マー ケ ッ ト の 規 模 と 特 性 : タイ ・ シン ガ ポー ル ・ 豪 州 マー ケ ッ ト、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
5	第 1 章 主 要 訪 日 旅 行 マー ケ ッ ト の 規 模 と 特 性 : 米 国 ・ カ ナ ダ ・ 英 国 ・ フ ラ ン ス ・ ド イ ツ マー ケ ッ ト、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
6	第 2 章 国 際 会 議 ・ イン セン ティ ブ ト ラ ベ ル (報 奨 旅 行) : MICE の 意 義、世 界 に お け る 国 際 会 議、日 本 に お け る 国 際 会 議、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
7	第 2 章 国 際 会 議 ・ イン セン ティ ブ ト ラ ベ ル (報 奨 旅 行) : イン セン ティ ブ ト ラ ベ ル (報 奨 旅 行)、MICE の 誘 致、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
8	第 3 章 地 方 に お け る 国 際 観 光 に 対 す る 取 り 組 み : 北 海 道、東 北、中 部、関 西、中 国、四 国、九 州、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
9	第 3 章 地 方 に お け る 国 際 観 光 に 対 す る 取 り 組 み : 沖 縄 県、東 京 都、神 奈 川 県、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
10	第 4 章 国 際 観 光 と 交 通 産 業 ・ 宿 泊 業 ・ 旅 行 業 : 交 通 産 業。小 テ ス ト (30分、範 囲 第 1 章 ~ 3 章)					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
11	第 4 章 国 際 観 光 と 交 通 産 業 ・ 宿 泊 業 ・ 旅 行 業 : 宿 泊 業、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
12	第 4 章 国 際 観 光 と 交 通 産 業 ・ 宿 泊 業 ・ 旅 行 業 : 旅 行 業、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
13	第 5 章 ツー リ ズ ム 調 査 : ツー リ ズ ム 調 査 と は、ツー リ ズ ム 調 査 の プ ロ セ ス、ツー リ ズ ム 調 査 の 方 法、日 本 の ツー リ ズ ム 調 査 統 計、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
14	第 6 章 国 際 観 光 と 環 境 : エ コ ツー リ ズ ム、持 続 可 能 な 発 展 の た め の 実 践 の 現 状、日 本 の 取 り 組 み、ま と め、WS					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
15	全 体 の ま と め : 第 1 章 ~ 6 章 全 体 を 振 り 返 り、重 要 な ポ イ ン ト を 説 明。ツー リ ズ ム 関 連 機 関 を 整 理 し て 説 明。					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教 科 書 は 使 用 し な い。プ リ ン ト を 配 付 す る。					適 宜、紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (小 テ ス ト、受 講 態 度) (50%) と 定 期 試 験 (50%) で 総 合 的 に 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 世 界 の 他 の 国 々 と 同 様 に 日 本 に お い て も 国 際 観 光 は ま す ま す 重 要 な 産 業 と な っ て き て い る。学 生 諸 君 も 日 本 の 国 際 観 光 の 発 展 の た め に 何 が で き る か を 考 え て み よ う。毎 回 出 席 す る よ う 努 め よ う。									
オ フ ィ ス ア ワー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際経営論 I (International Management I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 元一								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	下記「学生へのアドバイス」を除き、特になし							
授業概要： (1) 90分の授業のうち、最初の60分間は、テキストの重要事項および配布論文・事例に関し、学生諸兄弟による「理解—共感—共鳴—共有の輪」を広げること に注力する。 (2) 最後の30分間は、上記(1)に関する学生諸兄弟の小レポートの執筆と提出に充てる。 (3) 上記(2)の小レポートは、次回にコメント付きで各位にフィードバックする。									
授業目標： (1) グローバル市民の一人として、企業の経営および行動に関し、グローバルな視点からその本質を理解できるための適切な日利き力を獲得すること。 (2) 近い将来にビジネスパーソンの一員として、グローバル経営に貢献できるための適切なコンセプトと技能を体得すること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の全体像の展望					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
2	コンセプト研究 ①					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
3	コンセプト研究 ②					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
4	コンセプト研究 ③					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
5	事例研究 ①					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
6	事例研究 ②					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
7	事例研究 ③					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
8	中間点による自己評価					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
9	コンセプト研究 ④					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
10	コンセプト研究 ⑤					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
11	コンセプト研究 ⑥					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
12	事例研究 ④					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
13	事例研究 ⑤					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
14	事例研究 ⑥					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
15	授業の全体像の回顧・反省					事前：なし 事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
教本： 開講時に指示する。					参考文献： 中村元一執筆の文献などの関連部分のコピーを必要に応じて配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 100点満点：＜内訳＞筆記試験50点＋受講姿勢（＝小レポートを含む平常点）50点									
学生へのアドバイス： 現実企業を対象とする「真剣勝負の講義」なので、「緊張力×持続力の鍛錬の場」に臨む心構えが不可欠。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	国際経営論Ⅱ (International Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 元一								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	下記「学生へのアドバイス」を除き、特になし							
授業概要： (1) 90分の授業のうち、最初の60分間は、テキストの重要事項および配布論文・事例に関し、学生諸兄弟による「理解—共感—共鳴—共有の輪」を広げること に注力する。 (2) 最後の30分間は、上記(1)に関する学生諸兄弟の小レポートの執筆と提出に充てる。 (3) 上記(2)の小レポートは、次回にコメント付きで各位にフィードバックする。									
授業目標： (1) グローバル市民の一人として、企業の経営および行動に関し、グローバルな視点からその本質を理解できるための適切な日利き力を獲得すること。 (2) 近い将来にビジネスパーソンの一員として、グローバル経営に貢献できるための適切なコンセプトと技能を体得すること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の全体像の展望					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
2	コンセプト研究①					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
3	同上 ②					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
4	同上 ③					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
5	事例研究①					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
6	同上 ②					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
7	同上 ③					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
8	中間点による自己評価					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
9	コンセプト研究④					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
10	同上 ⑤					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
11	同上 ⑥					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
12	事例研究④					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
13	同上 ⑤					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
14	同上 ⑥					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
15	授業の全体像の回顧・反省					事後：当日の講義内容		上記「授業概要」参照	
教本： 開講時に指示する。					参考文献： 中村元一執筆の文献などの関連部分のコピーを必要に応じて配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 100点満点：＜内訳＞筆記試験50点＋受講姿勢（＝小レポートを含む平常点）50点									
学生へのアドバイス： 現実企業を対象とする「真剣勝負の講義」なので、「緊張力×持続力の鍛錬の場」に臨む心構えが不可欠。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 経 済 論 I (International Economics I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	案 浦 崇								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>ヨーロッパを中心に形成された国際化社会においては、二度の大戦の反省から国際連盟、国際連合が誕生し、世界平和が維持されている。一方、戦後の国際経済の秩序は、ブレトン・ウッズ協定によって成立した(1)IMF=GATT体制によって確立したが、その後の動きとしては(2)経済統合の進展、(3)国連貿易開発会議 (UNCTAD) の開催、(4)直接投資の拡大がある。それらの動きを説明する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. マクロ的視点から国際経済の現状を理解し、基礎的知識を修得できている。 2. 国際経済学の基礎的な概念や理論を説明することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス [1] 国際秩序の再編成 (1) 国際社会の成立					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
2	(2) IMF = GATT 体制の生成、発展					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
3	(3) 国連貿易開発会議 (UNCTAD) の経過					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
4	(4) サミット、G20 (G7)、WTO の意義					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
5	[2] 経済統合 (1) ECSC から EEC、EC へ					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
6	(2) マーストリヒト条約から EU へ					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
7	(3) APEC					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
8	[3] 戦後の国際経済の変遷 (1) GATT の多国間貿易交渉					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
9	(2) 世界貿易機関 (WTO) の発足					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
10	[4] 日米経済摩擦 (1) 摩擦の山は変化する					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
11	(2) アメリカの通商政策					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
12	[5] 国際収支					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
13	[6] 国際金融市場と国際資本市場 (1) 拡大する国際金融取引					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
14	(2) 国際金融市場の仕組みと機能					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
15	(3) 国際資本移動と為替レート					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
プリントを配布する。					1. 伊東元重著『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
毎 回、出 席 を し、ノ ー ト を と る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 経 済 論 I (International Economics I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	坂 本 隆 行								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>現代の国々は、財・サービス・労働力・資本が国境を越えて移動するボーダレスな経済活動によって大きな影響を与え合っている。本講義は、国際経済の理論と現状を、国際間の取引や為替相場の決定要因といった国際経済学の基礎理論にくわえ、EUに見られる国境の障壁低下等、国境を超えた経済統合の現状にも言及して解説する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 国際経済の基礎的理論・歴史・現状を理解する。 2. 国際経済を俯瞰して理解し、説明することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：受講意識の整理 事後：受講目的の確認		講義	
2	国際経済と貿易 (リカードの比較生産説・リストの保護貿易政策)					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
3	外国為替相場 (外国為替相場の変動のしくみと影響)					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
4	国際収支 (対外経済取引の概念 日米の国際収支比較)					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
5	国際経済体制の変遷 1 (ブロック経済とIMF・GATT体制)					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
6	国際経済体制の変遷 2 (国際通貨危機)					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
7	南北問題 (経済格差とUNCTADの設立)					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
8	発展途上国の経済 (アジアNIEsと中国経済)					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
9	世界貿易機関 (WTO) の機能 (貿易自由化と互恵性)					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
10	アメリカ経済の後退 (サミットの開催と国際政策協調)					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
11	経済統合の試み 1 (欧州共同体 (EU))					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
12	経済統合の試み 2 (アジア・環太平洋)					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
13	自由貿易協定 (WTOとFTA・EPAの関係)					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
14	日本経済の国際化 (貿易・経済摩擦)					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
15	まとめ					事前：配布プリントを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
プリントを配布する。					伊東元重著『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社。 その他必要の都度、参考図書・資料等を紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 し ます。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講 義 内 容 を た だ 暗 記 す る の で は な く、繋 がり を 持 っ た 「出 来 事」 と し て 捉 え る よ う 心 掛 け る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 経 済 論 II (International Economics II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	案 浦 崇								
履 修 条 件	前 提 科 目	国 際 経 済 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>国際経済の二大分野である国際貿易と国際金融について理論的に及び実証的に概説する。国際貿易については、実務的な貿易取引の流れ、外国為替取引の仕組み、及び貿易理論を説明する。国際金融については、最近のアメリカやヨーロッパの金融情勢を説明する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. マクロ的視点から国際経済の現状を理解し、基礎的知識を修得できている。 2. 国際経済学の基礎的な概念や理論を説明することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 〔1〕 貿易取引 (1) 新しい貿易取引の方向					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
2	(2) 貿易取引の流れ i. マーケティング段階、ii. 契約段階					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
3	iii. 船積み段階、iv. 代金回収段階					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
4	v. 事後処理段階					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
5	〔2〕 為替相場変動の歴史とそのメカニズム (1) 円とドルの為替相場の始まり					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
6	(2) 外国為替の仕組み					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
7	(3) 為替相場のメカニズム					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
8	〔3〕 アメリカの金融危機					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
9	〔4〕 ヨーロッパの金融危機					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
10	〔5〕 通貨制度と金融制度					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
11	〔6〕 古典派の貿易理論 (1) 国際分業と比較生産費の原理					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
12	〔7〕 分業利益への異論 (1) マノイレスコの国民生産力論、グラハムの可変生産費観念					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
13	〔8〕 貿易の近代理論 (1) ハーバラーの代替費用と貿易					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
14	(2) ヘクシャー＝オリーンの均衡理論と貿易					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
15	(3) ハロッドの国民所得と貿易					事前：配布プリントを精読すること。 事後：授業内容をまとめること。		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
プリントを配布する。					1. 伊東元重著『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 毎 回、出 席 を し、ノ ー ト を と る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 経 済 論 II (International Economics II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	坂 本 隆 行								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本講義では、国際経済学を体系的に理解するため、為替や国際収支、国際金融取引といった国際経済学の基礎理論を概説したのち、通貨危機や貿易摩擦などを例に、国際経済と日本の経済活動の関係やその在り方について様々な視点から解説する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 国際経済学の基礎理論を理解する。 2. 国際経済を俯瞰して理解し、日本経済と関連付けて説明することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：受講意識の整理 事後：受講目的の確認		講義	
2	為替レートメカニズム (為替レートの決定と変動)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
3	外国為替市場への介入 (政府による外為介入と外貨準備)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
4	アセット・アプローチ (為替レートの将来予想)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
5	為替レート決定理論 (需要・供給曲線の仕組みと応用)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
6	国際収支 (貿易収支と経常収支)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
7	為替レートと経常収支 (Jカーブ効果と景気変動)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
8	国際金融取引 (ヘッジファンドと株式市場)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
9	アジア通貨危機 (通貨危機とIMFの介入)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
10	貿易摩擦 (「日米」から「日中」へ)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
11	寡占産業と政策介入 (寡占産業の企業行動とダンピング)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
12	貿易政策 1 (貿易政策の基本的手段と効果)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
13	貿易政策 2 (輸出入と国際価格)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
14	多国籍企業の特徴 (多国籍企業の行動原理)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
15	まとめ					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
伊東元重著『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社。					必要の都度、参考図書・資料等を紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 し ます。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講 義 内 容 を た だ 暗 記 す る の で は な く、繋 がり を 持 っ た 「出 来 事」 と し て 捉 え る よ う 心 掛 け る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ます。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際政治学 I (International Politics I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 重行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>国際政治学 I では国民国家の発達とその問題点について講義し、国際政治を考察するための哲学的モデルを提示する。ここでは具体的に近代に起こった戦争を取り上げ、戦争の結果世界秩序がどのように変化したかを授業の中で解明する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>国際政治学のキーファクターは、アクターとしての国家である。国家は「くに」という形式で有史以来存在し、発展してきた。ここでは国民国家を中心にした国際政治の支配と服従、戦争と平和、そして植民地の歴史的経緯について理解できるように講義する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	19世紀の国際政治と植民地					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
2	20世紀の国際政治と戦争					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
3	明治維新と国際政治					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
4	日清戦争の原因					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
5	日清戦争の結果					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
6	日露戦争の原因					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
7	日露戦争の結果					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
8	第二次世界大戦と日本					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
9	第二次世界大戦と世界秩序					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
10	朝鮮戦争の原因					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
11	朝鮮戦争の結果					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
12	ベトナム戦争の原因					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
13	ベトナム戦争の結果					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
14	国際政治と政治的秩序					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
15	まとめ					事前：講義報告の構想 事後：講義報告の提出		講義	
<p>教本：</p> <p>1. 吉村昭『ポーツマスの旗』新潮文庫、¥552</p>					<p>参考文献：</p> <p>1. 松岡完『ベトナム戦争』中公新書、¥945</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>テキストや参考文献などを購入し、よく読む努力をして欲しい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 政 治 学 I (International Politics I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 敏 哉								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に 限 定 は し ま せ ん が 、 で き る だ け 国 際 関 係 論 I の 履 修 が 済 ん で い る 方 が 望 ま し い で す 。							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>国際政治学の入門を理論的な枠組みを学びながら行います。基本的な概念を学んだ後、戦争・平和、安全保障、国際秩序の話の時事的な問題にも触れながら探究していきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 国際政治学を現実主義と自由主義という理論的な視点（パースペクティブ）から分析する力を養う。 2. 自ら国際政治・外交政策のあるべき姿を考えることができる素地を作る。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：講義の概要や進め方について説明します。							講義	
2	国際政治学の基本概念（教科書6章）：国際政治学の基本的な概念や議論の枠組みについて、基礎的な知識を学びます。							講義	
3	現実主義とその思想（教科書3章）：国際政治の最も重要な視点である現実主義の考え方とその思想を見ていきます。							講義	
4	現実主義とバランス・オブ・パワー（教科書3章）：バランス・オブ・パワーについて学び、また関連する諸概念にも触れます。							講義	
5	現実主義とバランス・オブ・パワー（教科書3章）：バランス・オブ・パワーについて学び、また関連する諸概念にも触れます。							講義	
6	安全保障と現実主義（教科書7章）：抑止論、安全保障のジレンマについて説明します。							講義	
7	アジア太平洋地域の安全保障と現実主義：現実主義からアジア太平洋地域の国際秩序の可能性を一緒に考えてみます。							講義	
8	ミニ・テスト：前半のまとめをします。							講義	
9	国際政治の歴史①（教科書2章）：国際政治の戦争と平和の歴史について概略します。							講義	
10	国際政治の歴史②（教科書2章）：国際政治の戦争と平和の歴史について概略します。							講義	
11	自由主義と国際制度（教科書5章）：自由主義の安全保障へのアプローチの一つである自由主義的制度論を紹介します。							講義	
12	自由主義と民主的平和論：同じく安全保障へのアプローチとして民主的平和（デモクラティック・ピース）論を紹介します。							講義	
13	自由主義と民主的平和論：同じく安全保障へのアプローチとして民主的平和（デモクラティック・ピース）論を紹介します。							講義	
14	グローバリゼーションと国際政治の変容（教科書15章）：グローバル化で国際政治がいかに変容したかについて学びます。							講義	
15	グローバリゼーションと国際政治の変容（教科書15章）：グローバル化で国際政治がいかに変容したかについて学びます。							講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『国際政治学への扉』 永山博之他（一藝社）¥2,600。教科書の購入が無い場合は					各回の講義の中でハンドアウトを配ります。				
<p>受講を認めません。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 日本の周辺で起きている国際政治を理解し、自分なりの意見を持てるようにするための講義です。少しでも関心を持ってそうでしたら講義に参加してみてください。暗記より考えることを重視した講義になります。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際政治学Ⅱ (International Politics Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 重行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 国際政治学Ⅱでは国民国家の発達とその問題点について講義し、国際政治を考察するための哲学的モデルを提示する。特に国際政治学ではウエストファリア講話条約を理解し、それに基づく国民国家の形成について講義する。									
授業目標： 国際政治学のキーファクターは、アクターとしての国家である。国家は「くに」という形式で有史以来存在し、発展してきた。ここでは国民国家を中心にした国際政治の支配と服従、戦争と平和、そして植民地の歴史的経緯について理解できるように講義する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	国際政治学入門					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
2	主権と国家					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
3	主権と国民国家					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
4	ウエストファリア講和条約と国民国家					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
5	国民国家と哲学モデル					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
6	システム哲学と国際連合					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
7	モデルー全体、秩序、非還元性					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
8	モデルー自己安定性					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
9	モデルー自己組織性					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
10	モデルー重箱型階層性					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
11	国際政治と自由論					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
12	国際政治と価値論					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
13	システム哲学と地球社会の政治					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
14	地球社会の政治の目標					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		講義	
15	まとめ					事前：講義報告の構想 事後：講義報告の提出		講義	
教本： 1. 伊藤重行『システム哲学序説』勁草書房、¥3,500					参考文献： 1. 松岡完『ベトナム戦争』中公新書、¥945				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： テキストや参考文献などを購入し、よく読む努力をして欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国際政治学Ⅱ (International Politics Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 敏 哉								
履 修 条 件	前 提 科 目	国際政治学Ⅰの履修済みであること。また、国際関係論Ⅰか国際関係論の事前受講が望ましい。							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>国際秩序と戦争、安全保障の側面に焦点を当て、国際政治の失敗と成功とは何かを学びます。国際政治史の重要項目である第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦などに関し基礎的な学習をしていきます。また国際政治への重要な視点である「力」や「制度」といったものがどのような役割を果たし、また限界を示したかについて見ていきます。</p> <p>授業目標：</p> <p>1. 国際政治学の入門として、国際関係史の戦争と平和に関わる重要項目を理解する。 2. 国際政治的視点から国際秩序のあり方を分析する力を養う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：講義の概略と国際政治の学習範囲や学習の仕方についてお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
2	戦争・紛争とは何か：戦争・紛争とは何か。戦争の定義と概念の系譜を追います。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
3	ヨーロッパ近代国際システムとクラウゼヴィッツ的戦争：17～19世紀の欧州の国際秩序とクラウゼヴィッツの戦争概念を学習します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
4	第一次世界大戦：もはや大戦はないと考えられていた20世紀初頭の欧州で起きた第一次世界大戦の背景を分析します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
5	第一次世界大戦と平和の構想：国際連盟など第一次世界大戦の間に生まれた平和のための構想について説明します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
6	『危機の20年 (1919-39)』：戦間期での国際連盟を中心とする平和のための実践とその限界について学習していきます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
7	ミニ・テスト①：前半のまとめをします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
8	第二次世界大戦の勃発：日本の太平洋戦争を含んだ第二次世界大戦の背景を説明していきます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
9	第二次世界大戦と平和の構想：太平洋戦争の経緯と第二次世界大戦の終盤に生まれた国際連合の構想について説明します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
10	冷戦：第二次世界大戦の直後に始まった米ソ対立の冷戦について概略します。キューバ危機などにも触れます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
11	冷戦の終焉：冷戦後期の日本の周囲の状況、またなぜ冷戦は終わったのかについては幾つかの議論を紹介します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
12	ミニ・テスト②：後半のまとめをします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
13	冷戦後の国際政治の諸問題①：冷戦後の世界の安全保障問題、国際秩序への新たな脅威の問題をお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
14	冷戦後の国際政治の諸問題②：冷戦後の世界の安全保障問題、国際秩序への新たな脅威の問題をお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
15	戦争と平和へのアプローチ：全体のまとめを行います。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
<p>教本：</p> <p>毎回ハンドアウト（配布資料）に従って進めます。</p>					<p>参考文献：</p> <p>講義の中で必要に応じ紹介します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。</p> <p>授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>国際関係論より覚える知識を増やしている講義ですが、力点は単なる暗記より考える部分に置いています。ここで学ぶ知識は将来必ず役に立つものだから、是非、頑張ってください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	古 典 文 学 研 究 A (散 文) (Classical Literature research A (Prose))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 鞆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
物語の発生からその展開について解説する。特に古代以来の言語伝承である神話、伝説等を理解する。長編物語と短編物語、男性の物語と女性の物語の比較、また日記文学や随筆について講義・演習を通じて古典文学を深く理解する。講義のほか、学生の研究発表の形式を採る。									
授 業 目 標 :									
1. 日本の古典文学(散文)について、時代別、ジャンル別・作品別にその特質を理解する。古典の形態や表現の特徴を理解し、理解に必要な方法や知識を習得する。古典の生成と展開を把握し、その全体像を理解する。古典の発生と歴史を作者や作品に即して理解する。									
2. 古典の理念と変遷を理解する。古典の背景としての歴史・環境・風土を理解する。古典の各分野(物語・和歌・随筆・日記等)の展開や価値を理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	日 本 文 学 の 発 生、「古 事 記」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
2	「日 本 書 紀」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
3	「風 土 記」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
4	「日 本 靈 異 記」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
5	「竹 取 物 語」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
6	「伊 勢 物 語」を 読 む					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
7	「源 氏 物 語」を 読 む 1 (概 論、成 立、作 者 紫 式 部、男 源 氏、女 源 氏)					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
8	「源 氏 物 語」を 読 む 2 (桐 壺 卷、帚 木 卷、夕 顔 卷、若 紫 卷、若 菜 卷、玉 鬘、浮 舟)					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
9	「平 家 物 語」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
10	「大 鏡」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
11	「土 佐 日 記」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
12	「更 級 日 記」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
13	「枕 草 子」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
14	「方 丈 記」「徒 然 草」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
15	散 文 文 学 の ま と め。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授 業 時 に プ リ ン ト を 配 布。					1. 『日本の原点』石上七鞆著 マイナビ新書 ¥872 2. 『日本文学史の基礎知識』秋山虔ほか著 有斐閣ブックス ¥2,520				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小 テ ス ト (15%)、授 業 へ の 参 加 度 (25%)、試 験 (60%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と。欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す。最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 水 曜 日 昼 休 み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	古 典 文 学 研 究 B (韻 文) (Classical Literature research B (Verses))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 鞘								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
詩 歌 の 発 生 や 作 品 に 見 ら れ る 文 学 歌 謡 を 理 解 す る 。 講 義 の ほ か 、 学 生 に よ る テ ー マ 発 表 を 行 う 。									
授 業 目 標 :									
1. 日 本 の 文 学 史 に つ い て 、 時 代 や ジ ャ ン ル 別 ・ 作 品 別 理 念 と そ の 特 質 を 理 解 す る 。 2. 古 典 文 学 の 形 態 や 表 現 の 特 徴 を 理 解 し 、 理 解 に 必 要 な 応 報 や 知 識 を 習 得 す る 。 古 典 文 学 の 生 成 と 展 開 を 把 握 し 、 そ の 全 体 像 を 理 解 す る 。 古 典 文 学 の 発 生 と 歴 史 を 作 者 や 作 品 に 即 して 理 解 す る 。 古 典 文 学 の 理 念 と 変 遷 を 理 解 す る 。 古 典 文 学 の 背 景 と し て の 歴 史 ・ 環 境 ・ 風 土 を 理 解 す る 。 古 典 文 学 の 各 分 野 (物 語 ・ 和 歌 ・ 随 筆 ・ 日 記 等) の 展 開 や 価 値 を 理 解 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	日 本 文 学 の 発 生 、 「古 事 記」 歌 謡 を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
2	「日 本 書 紀」 歌 謡 を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
3	「風 土 記」 歌 謡 を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
4	「万 葉 集」 を 読 む 1 (概 論 、 成 立 、 編 者 、 部 立 、 万 葉 仮 名) 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
5	「万 葉 集」 を 読 む 2 (卷 一 、 卷 二 、 卷 十 四 、 卷 十 六) 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
6	第 6 回 : 「古 今 和 歌 集」 を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
7	第 7 回 : 「新 古 今 和 歌 集」 を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
8	第 8 回 : 「百 人 一 首」 を 読 む 1 ((概 論 、 成 立 、 編 者) 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
9	第 9 回 : 「百 人 一 首」 を 読 む 2 (天 智 天 皇 、 持 統 天 皇 他) 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
10	第 10 回 : 「梁 塵 秘 抄」 を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
11	第 11 回 : 「閑 吟 集」 を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
12	第 12 回 : 「奥 の 細 道」 を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
13	第 13 回 : 「去 来 抄」 を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
14	第 14 回 : 「三 冊 子」 を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
15	第 15 回 : 韻 文 文 学 の ま と め 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
な し 、 プ リ ン ト 配 付 。					1. 『日 本 古 典 文 学 史 の 基 礎 知 識』 秋 山 虔 ほ か 著 、 有 斐 閣 ブ ッ ク ス 、 ¥ 2,520 2. 『日 本 の 原 点』 石 上 七 鞘 著 マ イ ナ ビ 新 書 ¥ 830 + 税 3. 『日 本 古 典 文 学 大 系』 岩 波 新 書 『日 本 古 典 文 学 全 集』 小 学 館				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 小 テ ス ト (15%)、 授 業 内 容 へ の 参 加 度 (25%)、 試 験 (60%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と 。 欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す 。 最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 水 曜 日 昼 休 み 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	子 ども コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 指 導 (Guidance on Communication with Children)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 金 悦 子								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 : 保 育 者 と し て の 子 ど も と の 関 わ り や 保 育 者 同 士 の 連 携 、 保 護 者 と の 信 頼 関 係 を 築 く た め の 関 わ り な ど 、 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 基 本 を 知 り 、 そ の 方 法 に つ い て 学 ぶ 。 講 義 を 基 本 に ア ク テ ィ ブ ラ ー ニ ン グ を 行 う 。									
授 業 目 標 : 子 ども 、 保 護 者 、 保 育 者 同 士 な ど と 関 わ る 上 で 保 育 者 と し て 必 要 な コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を 理 解 す る 。 信 頼 関 係 を 築 く た め の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 手 法 を 身 に 付 け る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	[授 業 の 日 程 と 各 回 の テ ー マ ・ 内 容 ・ 授 業 方 法] ガ イ ダ ン ス ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン と は 何 か					事 前 : シ ラ バ ス を 読 ん で お く 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		講 義 と グ ル ー プ ワ ー ク	
2	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 上 手 に な る た め に ・ 他 者 と の か か わ り と 自 己 開 示					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		体 験 を 通 じ て 学 ぶ	
3	自 分 を 知 る ・ 自 己 紹 介 を し て み よ う ・ ク ラ ス 全 員 の 前 で					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		演 習 形 式	
4	自 分 の 世 界 を 広 げ る ・ 他 者 を 理 解 す る た め に					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		講 義 と グ ル ー プ ワ ー ク	
5	子 ども を 知 る ・ 発 達 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		講 義 を 中 心 に	
6	表 現 遊 び ・ 遊 び の 指 導 か ら 考 え る					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		講 義 を 中 心 に	
7	言 葉 遊 び ・ 遊 び の 指 導 か ら 考 え る					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		講 義 を 中 心 に	
8	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 遊 び ① ・ 乳 児 を 対 象 に					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		ワ ー ク シ ョ ッ プ	
9	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 遊 び ① ・ 幼 児 を 対 象 に					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		ワ ー ク シ ョ ッ プ	
10	聞 く 技 術 ・ 保 護 者 と の 連 携 の た め に					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		講 義 と グ ル ー プ ワ ー ク	
11	伝 え る 技 術 ① ・ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 力 を つ け る					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		講 義 と グ ル ー プ ワ ー ク	
12	伝 え る 技 術 ② ・ ア サ ー シ ョ ン の 考 え 方 を 理 解 し 実 践 す る					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		講 義 と グ ル ー プ ワ ー ク	
13	子 ども の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 力 を 育 て る ・ 遊 び を 通 じ て コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		ワ ー ク シ ョ ッ プ	
14	保 育 者 と し て 必 要 な コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 配 付 資 料 の 復 習		講 義 を 中 心 に	
15	学 習 の ま と め と 振 り 返 り					事 前 : 前 時 の 振 り 返 り 事 後 : 学 修 の ま と め 記 録 作 成		演 習 形 式	
教 本 : コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 基 本 テ キ ス ト 五 十 嵐 健 著 日 本 能 率 協 会 マ ネ ジ メ ン ト セ ン タ ー					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (40%) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 入 り 口 は 笑 顔 で す 。 毎 回 、 体 調 を 整 え て さ わ や か な 笑 顔 で 受 講 で き る よ う に 準 備 し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	言 葉 で 遊 ぶ (言 語 表 現) (Play with Words (Expression in Language))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	村 木 桂 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	保 育 内 容 (言 葉)							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
乳 幼 児 期 の 言 語 発 達 の 道 筋 や 特 徴 な ど に つ い て 学 ば せ、子 ども の 「言 葉」を 育 て る た め の 「言 葉 遊 び」や 言 語 表 現 を 用 い た 様 々 な 教 材 を、体 系 的 に 理 解 さ せ る。言 葉 に 関 す る 教 材 の 理 論 を 教 授 す る。保 育 者 と し て 表 現 技 術 指 導 の 基 礎 的 知 識 を 身 に 付 け、実 際 に 活 用 す る た め の 基 礎 力 を 養 成 す る。入 門 的 言 語 表 現 教 材 の 開 発 の 理 論 と 知 識 を 学 ば せ る。									
授 業 目 標 :									
1. 幼 児 期 の 言 語 の 特 徴 を 理 解 し、子 ども の 遊 び を 豊 かに 展 開 す る た め に 必 要 な 理 論 ・ 知 識 を 習 得 す る。 2. 言 語 表 現 の 表 現 活 動 に 関 す る 様 々 な 理 論 や 知 識 を 習 得 し、理 解 を 深 め る。 3. 表 現 活 動 に 係 わ る 教 材 (絵 本、紙 芝 居、人 形 劇、ス ト ー リー テ リ ン グ 等) 等 の 活 用 の た め の 理 論 や 知 識 を 学 ぶ。 4. 子 ども が 自 ら 児 童 文 化 財 等 に 親 し む 環 境 構 成 及 び 具 体 的 展 開 の た め の 知 識 を 習 得 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	本 科 目 の 目 標、授 業 の 概 要、受 講 上 の 心 得、授 業 形 式 の 提 示					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
2	子 ども の 発 達 と 様 々 な 「言 葉 遊 び」を 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
3	幼 児 の 教 材 の 価 値 や 意 義					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
4	絵 本 ・ 紙 芝 居 の 特 質、絵 本 ・ 紙 芝 居 を 読 む た め に 必 要 な こ と を 理 解 す る					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
5	パ ネ ル シ ア ター の 仕 組 み や 活 用 の 仕 方 を 考 え る					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
6	教 材 研 究 ① パ ネ ル シ ア ター の 作 り 方 を 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
7	エ プ ロ ン シ ア ター、ス ト ー リー テ リ ン グ の 基 本 を 理 解 す る					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
8	ペ ー プ サ ー ト の 仕 組 み や 活 用 の 仕 方 を 考 え る					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
9	教 材 研 究 ② ペ ー プ サ ー ト の 作 り 方 を 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
10	ペ ー プ サ ー ト の 実 際 を 体 験 的 に 理 解 す る					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
11	人 形 劇 の 仕 組 み や 活 用 の 仕 方 を 考 え る					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
12	教 材 研 究 ③ 人 形 の 作 り 方 を 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
13	人 形 を 用 い た 話 に つ い て 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
14	人 形 で 表 現 あ そ び を す る た め に 必 要 な 理 論 と 知 識					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
15	人 形 劇 の 演 じ 方 を 学 ぶ					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 授 業 ポ イ ン ト の 復 習		講 義 + 演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
幼 稚 園 教 育 要 領 解 説、保 育 所 保 育 指 針 解 説 必 要 に 応 じ て 資 料 を 配 布 す る。					松 本 和 美 編 著 『保 育 に 役 立 つ 言 語 表 現 教 材』(第 2 版) み ら い、2018 古 橋 和 夫 著 『保 育 者 の た め の 言 語 表 現 の 技 術』萌 文 書 林、2018				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
定 期 試 験 (60%)、課 題 提 出 ・ 発 表 (30%)、授 業 へ の 参 加 意 欲 (10%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
演 習 に 積 極 的 に 参 加 す る こ と で、実 践 力 を 身 に つ け て ほ し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修		単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	子ども教育原理 (Principles of Childhood Education)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	大沢 裕									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>教育の理念と意味、教育思想の歴史の変遷（我が国と欧米の場合）、教育の目的・内容・方法の関連、教育制度・法規の実際、生涯学習社会における教育のあり方、現代の教育の喫緊の課題などを、特に幼児の教育に視点を合わせて理解させる。この過程を通して、教育に関する基礎的・基本的概念の習得をさせ、教育活動における実践原理の体系的な理解を促す。教育現場との関連性を意識しながら教授する。授業形態は、講義の他に、グループ討論と発表、VTR視聴とその検討を含む。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>子どもの教育の意義、理念について理解し、教育の思想と歴史の変遷について学び、子ども教育の基礎的理論を理解する。子どもの教育の制度・法規について理解する。教育実践の様々なあり方を知る。生涯学習社会の教育の現状と課題について認識する。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	子どもの教育の本質と意義					事前：教育の記事を読んでおく 事後：ノートを読み返す			講義	
2	教育の目的・理念					事前：望ましい人間像を考える 事後：ノートを読み返す			講義	
3	家庭教育（家族の教育）					事前：家庭で受けた教育を思い出しておく 事後：ノートを読み返す			VTR 視聴・ グループ討論	
4	学校教育					事前：家庭と学校の違いを考える 事後：ノートを読み返す			講義	
5	社会教育					事前：地域の行事を考える 事後：ノートを読み返す			講義	
6	諸外国の子どもの教育思想と歴史（古代）					事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義	
7	諸外国の子どもの教育思想と歴史（中世とルネッサンス期）					事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義	
8	諸外国の子どもの教育思想と歴史（近代）					事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義	
9	我が国の子どもの教育思想と歴史					事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す			講義	
10	子どもの人権教育					事前：人権に関する新聞記事を読む 事後：討論の結果を振り返る			グループ討論と 発表	
11	近代の教育制度・教育法規の基礎					事前：教育法規を調べておく 事後：ノートを読み返す			講義	
12	子どもの教育の内容					事前：望ましい経験について考えておく 事後：ノートを読み返す			講義	
13	子どもの教育の方法					事前：教育方法について事前学習する 事後：ノートを読み返す			講義	
14	子どもの教育実践の様々な取り組み					事前：PCで世界の教育を調べてみる 事後：討論の結果を振り返る			VTR 視聴・ グループ討論	
15	生涯学習と現代の教育課題					事前：教育の時事問題を調べてみる 事後：			グループ討論・ 講義	
<p>教本：</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』（最新版） 『教育原理』（大沢裕編著、一藝社）</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜、授業時に指示する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 幼児教育者として必須の、子どもの教育に関わる基礎的事項が理解でき、教育的なものの方・考え方が身についているかを討論の発表内容、複数回提出させるレポートの内容、筆記試験によって総合的に評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>教育の時事問題に関心を持つこと。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	子ども教育社会学 (Sociology of Child Education)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	深谷 野亜									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： この授業では現代の公教育を支える社会構造を理解した上で、学生一人一人が主体的に考え、答えを導き出す姿勢を身につけることを促していく。授業ではグループディスカッションやプレゼンテーションを多用し、参加型授業の実現を目指していきたい。										
授業目標： 教師がどのような制度／法律の下でこどもの教育に携わるのかを理解し、各自が自らの見識を持てるようになることを目的としている。具体的には、以下の5つを①学校教育に与える社会の影響を理解する②制度や法律と学校教育の関わりについて理解する③学校改善のための取り組みについて理解する④地域と学校の連携の重要性を理解する⑤安心・安全な学校づくりへの取り組みを理解する。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	社会変化と学校					事前：なし 事後：配布資料に明記		講義		
2	家族変化と学校					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習		
3	公教育の原理について考える					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		講義		
4	日本の教育制度とは何か					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		講義		
5	諸外国の教育改革と課題を考える					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習		
6	教育政策と教育行政					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		講義		
7	日本国憲法と教育基本法					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		講義		
8	学校教育法と関連法規					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		講義		
9	学級経営とは何か					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		講義		
10	教育課題と学級経営					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		講義		
11	学校評価というシステムーPDCA サイクルを考えてみるー					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		講義		
12	チームとしての学校という視点					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		講義		
13	開かれた学校ー地域の教育力の活用ー					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		講義		
14	開かれた学校ー学校評議員・コミュニティスクール・学社連携への模索ー					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		講義		
15	開かれた学校と安心・安全な学校づくり					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		講義		
教本： 事前に配付した資料を使用する。			参考文献： 高妻紳二郎「新・教育制度論：教育制度を考える15の視点」、ミネルヴァ書房、2014年。 その他、授業中に適宜関連図書を紹介する。							
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 社会的思考を自ら実践することを狙いととしています。授業には積極的に参加し、それぞれの課題をそれぞれが自覚し、着実に力をつけていきましょう。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	子ども教育制度論 (Childhood Education System)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	山下 文一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： この授業では現代の公教育及び保育を支える社会構造と制度を理解した上で、学生一人一人が主体的に考え、答えを導き出す姿勢を身につけることを促していく。授業ではグループディスカッションやプレゼンテーションを多用し、参加型授業の実現を目指す。									
授業目標： 教育・保育制度の変遷と現状を理解し、現在の子どもたちを取り巻く社会状況について考え、これらの課題解決を図るために地域や社会全体と一体となった教育・保育の在り方について理解する。また子どもたちが安全で、安心した生活をおくることができるための学校、家庭、地域の連携、危機管理等の在り方について考え理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	就学前の教育・保育の現状と課題					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
2	家族変化と子どもの育ちの変化					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
3	保育制度のこれまでの経過と現在					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
4	教育基本計画と教育大綱					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
5	こども子育て支援法					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
6	就学前の教育・保育制度を支える国の行政組織					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
7	就学前の教育・保育制度を支える地方の行政組織					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
8	就学前教育・保育の制度の現状と課題					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
9	地域の子育て拠点としての幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
10	教育課題と学級経営					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
11	学校保健安全法					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
12	災害に対する危機管理体制と学校経営					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習	
13	学校管理下で起こる事故例と裁判事例 ①（授業における危機管理）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習	
14	学校管理下で起こる事故例と裁判事例 ①（行事、学校外活動における危機管理）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習	
15	今後における学校安全教育					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		演習	
教本： 教育行政と学校経営（放送大学）小川正人（著）、勝野正章（著） 『幼稚園教育要領』（最新版）文部科学省 『保育所保育指針解説書』（最新版）厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省 事前に配付した資料を使用する。					参考文献： 勝野正回、本典裕編『教育行政学』学文社				
成績評価の方法、評価基準：評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	子 ども 教 育 相 談 (Educational counseling of children)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 淳 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
本 講 座 で は、子 ども ・ 児 童 生 徒 が 人 と し て 望 ま し く 成 長 す る た め の 支 援 方 法 と し て 保 育 ・ 教 育 者 が 身 に つ け る べ き 教 育 相 談 活 動 に つ い て 基 本 的 な 理 論 や 知 識 を 学 ぶ て い く。さ ら に は 相 談 活 動 に 必 要 な カ ウ ン セ リ ン グ の 方 法 を ロ ー ル プ レ イ や グ ル ー プ ワ ー ク な ど で 体 験 的 に 学 習 し て い く。									
授 業 目 標 :									
1. 教 育 相 談 の 基 礎 的 な 知 識 や 理 論 等 を 学 び、子 ども ・ 児 童 生 徒 の 支 援 に つ い て 考 え る。 2. 子 ども ・ 児 童 生 徒 の 悩 み や 問 題 行 動 に つ い て 理 解 し、教 育 者 と し て 対 処 で き る 相 談 技 術 を 習 得 す る。 3. 個 別 的 な 対 応 だ け で な く 集 団 へ の 対 応 を も 視 野 に 入 れ た 相 談 活 動 を 習 得 し、各 専 門 機 関 な ど と の 連 携 を 学 ぶ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	教 育 相 談 と は — 保 育 ・ 教 育 相 談 の 意 義					事 前 : 事 後 : 復 習		講 義	
2	教 育 相 談 に 関 わ る 心 理 学 の 基 礎 理 論					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
3	教 育 相 談 と カ ウ ン セ リ ン グ マ イ ン ド — 保 育 所 ・ 幼 稚 園、学 校 場 面					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
4	カ ウ ン セ リ ン グ の 基 礎 — 代 表 的 な カ ウ ン セ リ ン グ 理 論 と 技 法 (傾 聴、受 容、共 感 的 理 解)					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
5	子 ども ・ 児 童 生 徒 の 理 解 の 方 法 (1) — 発 達 ・ 成 長 を 見 据 え た 支 援					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
6	子 ども ・ 児 童 生 徒 の 理 解 の 方 法 (2) — 問 題 行 動 発 生 の メ カ ニ ズ ム					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
7	子 ども ・ 児 童 生 徒 の 理 解 の 方 法 (3) — ア セ ス メ ン ト の 方 法 — SOS (シ グ ナ ル) を 察 知 す る 力					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
8	教 育 (保 育) 相 談 活 動 の 実 際 (1) 発 達 障 害 へ の 対 応					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
9	教 育 (保 育) 相 談 活 動 の 実 際 (2) 虐 待、い じ め へ の 対 応					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
10	教 育 (保 育) 相 談 活 動 の 実 際 (3) 不 登 校 (登 園 し ぶ り)、学 業 不 振 (知 的 晚 稲) へ の 対 応					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
11	教 育 (保 育) 相 談 活 動 の 実 際 (4) 支 援 目 標、立 案、支 援 計 画 の 策 定					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
12	保 護 者 支 援 の あ り 方 — 保 護 者 と の 連 携 と 支 援					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
13	教 育 相 談 に 活 か す グ ル ー プ 体 験 — グ ル ー プ 体 験 の 基 礎 知 識					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
14	教 育 相 談 に 活 か す 多 職 種 及 び 他 機 関 と の 連 携 (1) 医 療 ・ 福 祉 ・ 心 理 職 者 と の 連 携					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
15	教 育 相 談 に 活 か す 多 職 種 及 び 他 機 関 と の 連 携 — (2) 地 域、自 治 体 の 機 関、児 童 相 談 所 他 専 門 機 関 と の 連 携					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
使 用 し な い。適 宜、参 考 資 料 を 配 布。					田 中 智 志 / 橋 本 美 保 監 修 羽 田 紘 一 編 著 新 ・ 教 職 課 程 シ リ ー ズ 教 育 相 談 一 藝 社 ¥ 2,200 他				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 で は、一 方 的 な 講 義 で は な く、学 生 に 考 え て も ら い ま す。単 元 に よ っ て は 発 表 者 を 決 め て お き、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン を 行 っ て も ら う こ と も あ り ま す。受 け 身 な 態 度 で は な く、自 身 の 考 え を 表 現 で き る よ う に 心 が け て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	子 ども 教 育 方 法 論 (Curriculum method of teaching)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	濱 中 啓 二 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 現 代 の 教 育 、 保 育 の 現 状 及 び 子 ども の 実 情 を 踏 ま え 、 教 育 の 方 法 に 関 す る 基 礎 的 な 理 論 や 技 術 を 学 ぶ 。 具 体 的 に は 子 ども の 認 識 や 学 力 に 合 わ せ た カ リ キ ュ ラ ム の 立 案 方 法 、 教 科 ・ 領 域 の 特 性 に 合 わ せ た 教 育 方 法 を 理 解 し 、 模 擬 保 育 を 通 し て の 改 善 方 法 及 び 評 価 方 法 、 さ ら に 現 時 点 に お け る 最 新 の 情 報 機 器 等 の 活 用 方 法 や 在 り 方 、 注 意 事 項 な ど に つ い て も 学 ぶ 。 ま た そ れ ぞ れ が 教 員 の 職 務 内 容 と し て 責 任 を 持 ち 、 自 分 の 教 育 ・ 保 育 方 法 を 立 案 し 、 展 開 が で き る 様 に 、 よ り 実 践 的 で 、 具 体 的 な 内 容 を 学 び 、 そ の 求 め ら れ る 資 質 能 力 や 役 割 に つ い て も 考 え て い き た い 。									
授 業 目 標 : 幼 稚 園 教 育 要 領 及 び 保 育 所 保 育 指 針 に 示 さ れ た 内 容 を 基 本 と し 、 教 育 方 法 に つ い て の 専 門 的 な 知 識 の 習 得 、 及 び 認 識 を 深 め る 。 具 体 的 な 指 導 案 の 作 成 方 法 や 、 教 材 研 究 の 方 法 の 習 得 、 情 報 通 信 機 器 等 の 活 用 方 法 、 を 作 成 ・ 応 用 が で き る 基 本 を 習 得 が で き る よ う に し 、 各 自 の 教 育 実 践 や 教 育 研 究 な ど に 結 び づ け て 、 具 体 的 な 指 導 場 面 に 展 開 が で き る こ と を 目 標 と す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	本 授 業 の ガ イ ダ ン ス 教 育 方 法 と は 何 か					事 前 : 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義	
2	幼 稚 園 教 育 要 領 と 子 ども 、 遊 び 、 環 境					事 前 : 指 針 、 要 領 の 講 読 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義	
3	教 育 方 法 と 教 師 の 専 門 性					事 前 : 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義	
4	教 育 方 法 の 基 礎 的 理 論 : 思 想 、 歴 史					事 前 : 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義	
5	年 齢 別 の 教 育 方 法 、 環 境 構 成 の 意 義 、 絵 本 を 用 いた 教 育 方 法					事 前 : 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義	
6	育 み た い 資 質 ・ 能 力 、 幼 児 期 の 終 わ り ま で に 育 っ て ほ し い 姿					事 前 : 指 針 、 要 領 の 講 読 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義	
7	子 ども の 興 味 ・ 関 心 と 教 育 方 法 、 教 育 評 価					事 前 : 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義	
8	様 々 な 教 育 方 法 、 学 習 指 導 理 論					事 前 : 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義	
9	保 護 者 に 理 解 と 基 礎 的 な 対 応					事 前 : 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義	
10	遊 び や 環 境 を 通 し た 教 育 方 法 の 実 例					事 前 : 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義	
11	地 域 の 連 携 と 特 色 あ る 教 育 方 法 ・ 実 践 例					事 前 : 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義	
12	計 画 、 指 導 案 の 重 要 性 (日 案 ・ 週 案 ・ 長 期 計 画 の 作 成)					事 前 : 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 、 個 人 活 動 、 発 表	
13	情 報 機 器 の 操 作 と 教 育 方 法 : 諸 注 意 、 実 践 例 、 計 画					事 前 : 情 報 機 器 操 作 の 確 認 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義	
14	情 報 機 器 の 操 作 と 教 育 方 法 : 教 材 の 作 成					事 前 : 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 、 グ ル ー プ 活 動	
15	ま と め 、 「 よ い 教 育 方 法 」 の 模 索					事 前 : 事 後 : 本 授 業 の 復 習		講 義 、 グ ル ー プ 活 動	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「 幼 稚 園 教 育 要 領 」 (フ レ ー ベ ル 館) 「 保 育 所 保 育 指 針 」 (フ レ ー ベ ル 館) 「 幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 教 育 ・ 保 育 要 領 」 (フ レ ー ベ ル 館)									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (10%) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%) 、 定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 「 保 育 所 保 育 指 針 」 や 「 幼 稚 園 教 育 要 領 」 に は 目 を 通 し て お い て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	子どもコミュニケーション表現法 (Communication Method for Children)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小野 和								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>子どもコミュニケーション表現法の視点による造形表現と保育教材の検討・制作・活用を体験し、子どもとの関わりの中で豊かなコミュニケーション表現を実践する力を養う。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>子どもコミュニケーション表現法の意義を理解する。保育におけるコミュニケーションツールの役割を学び、子どもとの関わりの中で実践する力を養う。この科目は、4.次世代育成支援等において地域コミュニティづくりに指導的役割が発揮できる人材を育成する科目である。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	子どもコミュニケーション表現法とは					事前：なし 事後：本時の復習		講義	
2	子どもコミュニケーション表現法によるコミュニケーションツールの役割					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
3	子どもコミュニケーション表現法の造形表現と保育教材の検討 (1) 画材・素材検討					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
4	子どもコミュニケーション表現法の造形表現と保育教材の検討 (2) 内容検討					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
5	子どもコミュニケーション表現法の造形表現と保育教材の制作 (1) 下図作成					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
6	子どもコミュニケーション表現法の造形表現と保育教材の制作 (2) 裁断・下塗り等					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
7	子どもコミュニケーション表現法の造形表現と保育教材の制作 (3) 上塗り・縫製等					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
8	子どもコミュニケーション表現法の造形表現と保育教材の制作 (4) 仕上げ					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
9	子どもコミュニケーション表現法の造形表現と保育教材の制作 (5) 細部仕上げ					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
10	子どもコミュニケーション表現法の造形表現と保育教材の活用 (1) 受容					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
11	子どもコミュニケーション表現法の造形表現と保育教材の活用 (2) 共感					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
12	子どもコミュニケーション表現法の造形表現と保育教材の活用 (3) 乳児への対応					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
13	子どもコミュニケーション表現法の造形表現と保育教材の活用 (4) 幼児への対応					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
14	造形表現の鑑賞					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
15	まとめ					事前：前時の復習 事後：本時の復習		講義	
<p>教本：</p> <p>特になし</p>					<p>参考文献：</p> <p>『保育所保育指針』</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：受講者全員から作品・レポートの提出を求め、内容を成績評価に考慮する。 授業内容への参加状況・授業態度等（40%）、課題作品・レポート・定期試験等（60%）、等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>個人で使用する材料・用具等については授業の中で説明するので、各自で準備すること。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修		単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習	
授業科目(英文)	子どもの食と栄養 (Food and Nourishment for Children)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	ヒューズ 美代									
履 修 条 件	前提科目	乳幼児の食事 (講義) を修得していること								
	その他	なし								
授業概要： 乳幼児の食事 (講義) の内容をふまえ、演習を通して、乳幼児の食に関する知識や技術についてより実践的、応用的に活用できる力を養う。さらに保育所における食育の意義と実践についても学び、展開できる力を深めていく。										
授業目標： 1. 乳幼児期に必要な栄養についての基礎的知識を活用できる。 2. 保育所における食育について理解し、基礎的力を持つ。										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態		
1・2	乳幼児の食事 (演習) の概要と目標について					事前：なし 事後：授業内容復習		講義		
3・4	乳幼児の心身の発達と食生活について					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
5・6	調乳、授乳の意義と実践					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
7・8	離乳食の意義と実践					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
9・10	乳幼児期の間食の意義と実践					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
11・12	献立、調理の基本と幼児のお弁当作成					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
13・14	乳幼児期の食の問題に関する演習 ①					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
15・16	乳幼児期の食の問題に関する演習 ②					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
17・18	特別な配慮を要する子どもの食と栄養に関する演習 ① 食物アレルギーへの対応					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
19・20	特別な配慮を要する子どもの食と栄養に関する演習 ② 障害のある子どもへの対応					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
21・22	食育の意義と実践に関する演習 ①					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
23・24	食育の意義と実践に関する演習 ②					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
25・26	食育の意義と実践に関する演習 ③					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
27・28	食育の意義と実践に関する演習 ④					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
29・30	総括					事前：テキスト精読 事後：授業内容復習		講義と演習		
教本： 前年度「乳幼児の食事 (講義)」で使用した教科書に変更して下さい。 (新たに購入する必要はありません)					参考文献：					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等、レポート課題、発表等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 保育活動における食育の重要度は近年ますます高まっています。保育士を目指す学生として、身近な食の問題に関心を持ち、授業で身に付けた知識や技術を日常の食生活にも取り入れ活かしてください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	4	時 間 数	60	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	子 童 小 児 の 保 健 I (Child Health I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	畑 島 富 士 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 現 代 の 子 童 小 児 の 健 康 問 題 を 把 握 し、小 児 期 の 子 童 小 児 の 心 身 の 健 康 づ くり と 保 健 活 動 の 重 要 性 に つ い て 学 ぶ。具 体 的 に は、乳 幼 児 期 の 身 体 発 育 ・ 生 理 的 機 能 の 発 達、小 児 期 に 多 い 疾 病 に つ い て 学 び、子 童 小 児 も 理 解 を 深 め る。ま た、事 故 防 止 と 安 全 対 策 に つ い て 学 び、快 適 で 安 全 な 保 育 環 境 に つ い て 理 解 す る。子 童 小 児 の 心 の 健 康 と 保 育 者 の 役 割、地 域 に お け る 健 康 づ くり ・ 家 庭 と の 連 携 の 必 要 性 に つ い て 考 え る。									
授 業 目 標 : 1. 子 童 小 児 の 心 身 の 健 康 増 進 を 図 る 保 健 活 動 の 意 義 を 理 解 す る。 2. 子 童 小 児 の 身 体 発 育 や 生 理 機 能 及 び 運 動 機 能 並 び に 精 神 機 能 の 発 達 と 保 健 に つ い て 理 解 す る。 3. 子 童 小 児 の 疾 病 と そ の 予 防 法 及 び 適 切 な 対 応 に つ い て 理 解 す る。 4. 子 童 小 児 の 精 神 保 健 と そ の 課 題 等 に つ い て 理 解 す る。 5. 保 育 に お け る 環 境 及 び 衛 生 管 理 並 び に 安 全 管 理 に つ い て 理 解 す る。 6. 施 設 等 に お け る 子 童 小 児 の 心 身 の 健 康 及 び 安 全 の 実 施 体 制 に つ い て 理 解 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 自己紹介 シラバスの確認					事前：シラバスの確認 事後：自己紹介		講義	
2	子どもの健康と保健の意義 生命保持と母性・父性の育成					事前：9P までの予習 事後：9P までの復習		講義	
3	子どもの健康と保健の意義 子どもの健康概念と健康指標					事前：10P～16P までの予習 事後：10P～16P までの復習		講義	
4	子どもの発育・発達 生物としてのヒトの成り立ち					事前：指定資料での予習 事後：指定資料での復習		講義	
5	子どもの発育・発達 発育期の区分 発育、発達の経過と速度					事前：18P～19P までの予習 事後：18P～19P までの復習		講義	
6	子どもの発育・発達 発育の原則 新生児期の身体発育					事前：19P～21P までの予習 事後：19P～21P までの復習		講義	
7	子どもの発育・発達 乳児期の身体発育					事前：21P～23P までの予習 事後：21P～23P までの復習		講義	
8	子どもの発育・発達 幼児期の身体発育					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	
9	子どもの発育・発達 学童期の身体発育 青年期の身体発育					事前：23P～27P までの予習 事後：23P～27P までの復習		講義	
10	子どもの発育・発達 思春期の身体発育 身体発育とその評価					事前：指定資料での予習 事後：指定資料での復習		講義	
11	生理機能の発達 呼吸機能 循環機能					事前：29P～31P までの予習 事後：29P～31P までの復習		講義	
12	生理機能の発達 免疫機能					事前：32P～33P までの予習 事後：32P～33P までの復習		講義	
13	生理機能の発達 消化機能 尿排泄機能 水分代謝 体温調節					事前：34P～39P までの予習 事後：34P～39P までの復習		講義	
14	生理機能の発達 内分泌機能					事前：40P～41P までの予習 事後：40P～41P までの復習		講義	
15	生理機能の発達 睡眠リズム 感覚機能					事前：42P～44P までの予習 事後：42P～44P までの復習		講義	

16	生理機能の発達	神経機能	事前：45P～48P までの予習 事後：45P～48P までの復習	講義
17	生理機能の発達	精神機能	事前：49P～53P までの予習 事後：49P～53P までの復習	講義
18	生理機能の発達	情緒・行動発達	事前：54P～56P までの予習 事後：54P～56P までの復習	講義
19	小児の主な病気	小児の病気の特徴	事前：57P～65P までの予習 事後：57P～65P までの復習	講義
20	小児の主な病気	保育現場でよくある疾患	事前：65P～81P までの予習 事後：65P～81P までの復習	講義
21	小児の主な病気	保育現場でよくある疾患	事前：81P～84P までの予習 事後：81P～84P までの復習	講義
22	子どもの精神保健	子どもの生活環境と精神保健	事前：85P～89P までの予習 事後：85P～89P までの復習	講義
23	子どもの精神保健	子どもの心の健康とその課題	事前：89P～98P までの予習 事後：89P～98P までの復習	講義
24	子どもの精神保健	子どもの心の健康とその課題	事前：99P～102P までの予習 事後：99P～102P までの復習	講義
25	環境と衛生管理・安全管理	保育の環境整備と保健 保育現場における衛生管理	事前：103P～118P までの予習 事後：103P～118P までの復習	講義
26	環境と衛生管理・安全管理	保育現場の自己防止と安全対策	事前：119P～133P までの予習 事後：119P～133P までの復習	講義
27	健康及び安全の実施体制	職員間の連携と組織的取組	事前：135P～136P までの予習 事後：135P～136P までの復習	講義
28	健康及び安全の実施体制	主な母子保健対策と保育	事前：136P～141P までの予習 事後：136P～141P までの復習	講義
29	健康及び安全の実施体制	家庭・専門機関・地域との連携 子どもの福祉や健康、母子保健に関連する法規	事前：141P～147P までの予習 事後：141P～147P までの復習	講義
30	まとめ		事前：全体の復習 事後：なし	講義
<p>教本： 子どもの保健Ⅱ 編著：佐藤益子 発行所：ななみ書房 ￥2,200 参考文献： 随時紹介します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート・発表等（40%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>				
<p>学生へのアドバイス： 子どもの心と体の健康を育むことは保育の基本です。意欲的に取り組むことを望みます。</p>				
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>				

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	子どもの保健Ⅱ (Child Health II)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	塩野谷 祐子								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	特になし							
<p>授業概要： 子どもの体調観察の仕方、養護技術、病気や怪我の対応と予防に関する技術を学ぶ。また、連絡帳の記入や保健だよりの作成を通して家庭との連携の仕方や保健知識の伝達方法を理解する。</p>									
<p>授業目標： 子どもの体調観察の仕方、養護技術、病気や怪我の対応と予防に関する技術、また、連絡帳や保健だよりによる家庭への伝達方法の習得がなされているかを達成課題とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（授業の進め方、評価方法の説明）					事前：シラバスの確認 事後：保健に関する知識の確認		講義	
2	子どもの健康観察と健康管理（バイタルサインの測定と連絡帳の活用）					事前：自分の連絡帳の内容確認 事後：学んだ内容の復習		演習	
3	子どもの養護と教育①（子どもの抱っことおんぶ、寝かせ方について学ぶ）					事前：教科書該当箇所の予習 事後：学んだ内容の復習		演習	
4	子どもの養護と教育②（排泄とおむつ交換について学ぶ）					事前：教科書該当箇所の確認 事後：学んだ内容の復習		演習	
5	子どもの養護と教育③（沐浴の仕方と衣服の着脱について学ぶ）					事前：教科書該当箇所の確認 事後：学んだ内容の復習		演習	
6	子どもの発育・発達の観察と評価（身体計測と母子手帳の活用）					事前：自分の母子手帳の内容を確認 事後：学んだ内容の復習		演習	
7	子どもの体調不良などへの対応①（アナフィラキシーショックへの対応方法を学ぶ）					事前：子どもの事故について調べる 事後：学んだ内容の復習		演習	
8	子どもの体調不良への対応②（嘔吐物の処理、手洗いの仕方を学ぶ）					事前：感染性胃腸炎について調べる 事後：学んだ内容の復習		演習	
9	安全対策①（チャイルドマウスとチャイルドビジョンから子どもの安全対策を学ぶ）					事前：乳幼児の動きに注目する 事後：学んだ内容の復習		演習	
10	安全対策②（危険チェック図の作成から安全対策を学ぶ）					事前：危険チェック図の作成 事後：学んだ内容の復習		演習	
11	心とからだの健康づくりのために①（健康づくりに役立つ保健便りの作成を行う）					事前：保健だよりの題材集め 事後：保健だよりの仕上げを行う		演習	
12	心とからだの健康づくりのために②（作成した保健だよりの発表を行う）					事前：発表練習をしておく 事後：保健だよりの内容の復習		演習	
13	応急手当①（怪我への対応の仕方を学ぶ）					事前：怪我について調べておく 事後：学んだ内容の復習		演習	
14	応急手当②（乳幼児の心肺蘇生法を学ぶ）					事前：教科書該当箇所の予習 事後：学んだ内容の復習		演習	
15	学んだ知識と技術のまとめ（学んだ内容の復習とまとめを行う）					事前：知識と技術の復習 事後：学んだことを現場で活用できるよう適宜内容の復習		演習・講義	
<p>教本： 「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ」（第2版） 鈴木美枝子編著（創成社）</p>					<p>参考文献： 適宜紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、提出課題（20%）、実技課題（30%）、筆記試験（20%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 演習科目のため、主体的かつ積極的に参加する意欲が必要となる。他の学生とのグループワークもあり、コミュニケーション力も大切となる。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	子ども保育者論 (Childcare Workers)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	山下 文一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 時代とともに変わる保育のさまざまな実態にも機敏に対応していける保育者について学ぶとともに、専門性とコンプライアンスに基づいた確固たる使命感と熱意を持ち、保育を行うことのできる実践の在り方について学ぶ。授業方法は、演習、話し合い活動、グループ学習等を設定する。									
授業目標： 教職の意義の意義、現代課題に基づく保育者の役割、職務内容、必要とされる資質能力について身に付ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	我が国における教職の社会的意義					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
2	専門職としての幼稚園教諭、保育教諭、保育士					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
3	今日的課題を踏まえた幼稚園教諭、保育教諭、保育士の役割					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
4	幼稚園教諭、保育士、保育教諭の資質・能力					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
5	チーム学校への対応と園における公務分掌					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
6	教職員研修の意義と制度					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
7	幼稚園教諭、保育教諭、保育士の服務と身分保障					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
8	幼稚園教諭、保育教諭、保育士のコンプライアンス					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
9	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園において求められる役割と職務内容					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
10	組織マネジメントと保育者					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習	
11	地域の中で子育てを支える保育者					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義	
12	園長を招いて話を聞く（組織の一員としての責任と自覚）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習	
13	幼稚園教諭を招いて話を聞く（園内における役割、保護者への支援）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習	
14	ライフステージに応じたキャリア形成					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習	
15	これから求められる幼稚園教諭、保育教諭、保育士の役割と資質・能力							講義演習	
教本： 小田豊、笠間浩幸、柏原栄子編著『保育者論』[新版] 北大路書房					参考文献： 『幼稚園教育要領』（最新版）文部科学省、 『保育所保育指針解説書』（最新版）厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼稚園教諭・保育教諭のための研修ガイド～質の高い教育・保育の実現のために～」 保育教諭養成課程研究会				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	コミュニケーション心理学 (Psychology of Communication)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、私たちが日常的に行っているコミュニケーションに関する社会心理学の理論を学びながら、コミュニケーション場面で生じていることを理解し、より快適なコミュニケーションをとるためにはどうしたらよいかについて演習を通して考える。									
授業目標： コミュニケーション場面で何が生じているのかについて心理学的に理解し、より円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの精読 事後：講義内容の復習		講義	
2	コミュニケーションとは					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
3	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
4	説得的コミュニケーション					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
5	自己開示と自己呈示					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
6	インターネットによるコミュニケーション					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
7	交流分析①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
8	交流分析②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義と演習	
9	リフレーミング①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義と演習	
10	リフレーミング②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義と演習	
11	アサーション①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義と演習	
12	アサーション②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義と演習	
13	家族のコミュニケーション①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
14	家族のコミュニケーション②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義と演習	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教本： なし。授業中に資料を配布する。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義には、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	コミュニケーション論 (Communications)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	栗屋 信子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 年齢・職業・場面を問わず、コミュニケーションの重要性が高まっている現代社会において、学生として国内外の政治・経済・社会の実相を的確に捉え、自身の考えを他者と適切に調和しながら伝達するコミュニケーション力をつけるにはどうするか。この課題に対処するため、マスメディアの代表的な媒体である新聞を中心に各マスメディアの特徴、機能、公共性との関係などについて考察します。									
授業目標： メディアが現代社会で果たしている役割と問題点を説明できる。コミュニケーションの各種形態と特徴、コミュニケーション能力とは何かについて自身の言葉で説明できる。各種マスメディアに親しむことで自身のコミュニケーション力向上に役立つ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション／コミュニケーションとメディアについて学ぶ意義					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し		講義	
2	コミュニケーションの態様とコミュニケーション能力					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し		講義	
3	マス・コミュニケーションの機能と効果 (1)					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し		講義	
4	マス・コミュニケーションの機能と効果 (2)					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し 課題Ⅰの作成、次回授業提出		講義	
5	ジャーナリズムとニュース (1)					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し		講義	
6	ジャーナリズムとニュース (2)					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し		講義	
7	マスメディアの公共性とメディアリテラシー (1)					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し		講義	
8	マスメディアの公共性とメディアリテラシー (2)					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し		講義	
9	表現・報道の自由と知る権利					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し 課題Ⅱの作成、次回授業提出		講義	
10	メディア各論・新聞 (1)					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し		講義	
11	メディア各論・新聞 (2)					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し		講義	
12	メディア各論・フリーペーパー					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し 課題Ⅲの作成、次回授業提出		講義	
13・14	メディア各論・放送 (1) (2)					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し		講義	
15	メディア各論・出版／映像／音楽／インターネット／授業のまとめ					事前：教科書の精読 事後：プリント読み直し 課題Ⅳの作成、試験時に提出		講義	
教本：					参考文献：				
1. 望月義人著『メディア学のすすめーコミュニケーション力をつけるために』 人間社 ￥1,200									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日ごろから各種メディアに接することで自分の「引き出し」を多くし、今後の人生において重要視されるコミュニケーション力をつけるようにしよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	コンピュータグラフィックス (Computer Graphics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岸 康人・立野 貴之・金 宰郁								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： コンピュータグラフィックスの基本的な知識と汎用性の高いグラフィックソフトを利用して、デジタル画像・映像の作成や編集に関する操作方法を習得し、それらを活用した作品制作を行う。演習を通してコンピュータグラフィックス処理の理解を深めることを目的とする。</p>									
<p>授業目標： 最近のコンピュータの発達により、様々な分野でコンピュータ画像処理の技術が高まっている。この授業では、マルチメディアやコンピュータビジョンで必要とされる画像処理の基礎及びコンピュータグラフィックスの基礎について講義を行う。さらに実習を通して、コンピュータを用いて様々な図形や画像生成や編集処理する技術を学ぶ。また、高度な映像表現技法の実践的開発に取り組み、映像コンテンツの内容分析を通じて、映像メディアの諸相を理解し、作品制作を行う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス／コンピュータグラフィックスに関して					事前：なし 事後：メールのログインを確認		演習	
2	コンピュータグラフィックス (CG) とは					事前：CG という表現概観 事後：CG という表現考察		演習	
3	静止画と動画					事前：拡張子を調べておく 事後：拡張子を復習しておく		演習	
4・5	映像と音声のデジタル化 (1) 講義 (2) 演習					事前：デジタル機器の準備 事後：課題を完成させておく		演習	
						事前：画像素材の収集 事後：課題を完成させておく		演習	
6・7	コンピュータアニメーション (1) 講義 (2) 演習					事前：gif アニメを調べておく 事後：練習 gif アニメを作成		演習	
						事前：gif アニメ素材収集 事後：gif アニメを完成		演習	
8・9	映像処理と編集 (1) 講義 (2) 演習					事前：画像処理ソフトを操作 事後：課題を完成させておく		演習	
						事前：レイヤーを調べておく 事後：課題を完成させておく		演習	
10・11	映像処理と編集 (3) (4) 作品制作					事前：レイヤーを復習しておく 事後：課題を完成させておく		演習	
						事前：写真撮影と取り込み 事後：課題を完成させておく		演習	
12	ビジュアルデザイン					事前：タグを調べておく 事後：タグを復習しておく		演習	
13	プレゼンテーションデザイン					事前：タグを調べておく 事後：タグを復習しておく		演習	
14	メディアデザイン					事前：映像処理を復習しておく 事後：作品を完成させておく		演習	
15	まとめ					事前：アップロード方法確認 事後：なし		演習	
<p>教本： ガイダンスで指示する。</p>					<p>参考文献： 講義中に指示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点 (30%)、提出課題 (30%)、最終課題 (40%) の評価から判断する。 平常点：授業課題、授業への参加度 提出課題：小テスト、レポートなど</p>									
<p>学生へのアドバイス： コンピュータ演習が中心となるため、欠席をすると授業についていけなくなる可能性があります。やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、または、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにしてください。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。定員が超えた場合は、初回の授業に抽選を行いますので、初回の授業は必ず出席してください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	コ ン ピ ュ ー タ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン (C o m p u t e r P r e s e n t a t i o n)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	安 村 薫 ・ 岸 康 人 ・ 金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	情 報 基 礎							
	そ の 他	情 報 基 礎、ま た は、高 校 の 情 報 科 目 で 基 本 的 な コ ン ピ ュ ー タ 操 作 を 学 習 済 み で あ る こ と が 望 ま し い。							
授 業 概 要： コ ン ピ ュ ー タ と イ ン タ ー ネ ッ ト を 道 具 と し て 活 用 す る た め の 基 礎 的 技 術 と 我 々 を と り ま く 情 報 を 扱 う た め の 手 法 を 習 得 す る。こ の 講 義 で は 情 報 技 術 (IT) を コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン、情 報 獲 得、デ ー タ 表 現、情 報 公 開 の た め の 道 具 と し て 位 置 付 け、情 報 社 会 に 生 き、か つ 看 護 学 を 専 攻 す る 学 生 と し て、そ れ ら を 活 用 す る た め の 手 法 を 学 習 す る。ま た、PC の 操 作 方 法 の み な ら ず、情 報 の 取 捨 選 択 や 適 切 な 表 現 の 仕 方、倫 理 的 な 情 報 管 理 方 法 な ど、広 い 意 味 で の 情 報 を 扱 う 能 力 を 養 う。									
授 業 目 標：こ の 授 業 は 下 記 の 理 解 を 目 標 と し、コ ン ピ ュ ー タ の 利 用、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン の 技 術 を 並 行 し て 学 習 す る。 1. 情 報 を 伝 え る 方 法 と し て、コ ン ピ ュ ー タ を 活 用 手 法 2. デ ジ タ ル プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン の ス キ ル 3. 情 報 発 信 の た め の ツ ー ル の 正 確 な 利 用 方 法 4. 本 質 的 な コ ン ピ ュ ー タ の 活 用									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	デ ジ タ ル プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン と は					事 前：教 科 書 の 準 備 事 後：教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
2・3	ス ラ イ ド の 基 本 操 作 ス ラ イ ド の 操 作 と 1 回 目 の プ レ ゼ ン 準 備					事 前：ID ・ パ ス ワ ー ド の 準 備 事 後：教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
4・5	第 1 回 プ レ ゼ ン 実 践 ① (個 人) 第 1 回 プ レ ゼ ン 実 践 ② (個 人)					事 前：プ レ ゼ ン の 注 意 事 項 事 後：発 表 の 振 り 返 り		講 義	
6	ス ラ イ ド の 効 果 的 作 成 方 法 ①					事 前：提 出 課 題 の 準 備 事 後：教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
7	グ ル ー プ ワ ー ク (企 画 立 案)					事 前：提 出 課 題 の 準 備 事 後：教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
8	グ ル ー プ ワ ー ク (構 成 の 見 直 し)					事 前：グ ル ー プ ワ ー ク 事 後：教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
9	グ ル ー プ ワ ー ク (準 備)					事 前：グ ル ー プ ワ ー ク 事 後：教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
10・11	第 2 回 プ レ ゼ ン 実 践 ① (グ ル ー プ 発 表) 第 2 回 プ レ ゼ ン 実 践 ② (グ ル ー プ 発 表)					事 前：リ ハ ー サ ル 事 後：教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
12・13	ス ラ イ ド の 効 果 的 作 成 方 法 ② ス ラ イ ド の 効 果 的 作 成 方 法 ③ と 準 備					事 前：最 終 発 表 内 容 の 準 備 事 後：教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
14・15	第 3 回 プ レ ゼ ン 実 践 ① (個 人) 第 3 回 プ レ ゼ ン 実 践 ② (個 人)					事 前：リ ハ ー サ ル 事 後：発 表 の 振 り 返 り		講 義	
教 本： 1. 『文 系 学 生 の た め の 情 報 活 用』 (共 立 出 版) そ の ほ か は 随 時 提 示 す る。					参 考 文 献： 講 義 中 に 指 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 授 業 に 対 す る 姿 勢 (30%)、提 出 課 題 (10%)、3 回 の プ レ ゼ ン (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。 出 席：講 義 を 全 体 の 3 分 の 1 以 上 欠 席 の 場 合 は 自 動 的 に 不 可 課 題：講 義 中 に 作 成 し た ファ イ ル の 提 出、レ ポ ー ト な ど 発 表：効 果 的 な デ ジ タ ル プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン か ど う か に よ っ て 評 価 * 発 表 は 全 部 で 3 回 行 い、課 さ れ た 発 表 を 行 わ な か っ た 場 合 は 自 動 的 に 不 可									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： デ ジ タ ル プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン の ス キ ル を 身 に 付 け る た め に、自 宅 学 習、ま た は、グ ル ー プ に よ る 授 業 外 で の 準 備 が 必 要 に な り ま す。PC が 苦 手 な 方 に と っ て は 大 変 な 授 業 に な る と 思 い ま す が、1 回 1 回 プ レ ゼ ン を 経 験 す る こ と で、確 実 に 能 力 が 身 に 付 き ま す。PC が 不 得 手 で も や る 気 の あ る 方 は 大 歓 迎 で す。ま た、や む を 得 ず 欠 席 し た 授 業 内 容 な ど に 関 し て は、授 業 内 容 に 関 し て 友 人 に 確 認、教 員 に 質 問 を す る な り し て、欠 席 の 遅 れ を 取 り 戻 す よ う に し て く だ さ い。授 業 の グ ル ー プ ワ ー ク で は、欠 席 な ど で グ ル ー プ の メ ン バ ー に 迷 惑 を かけ な い よ う 努 力 し て く だ さ い。定 員 が 超 え た 場 合 は、初 回 の 授 業 に 抽 選 を 行 い ま す の で、初 回 の 授 業 は 必 ず 出 席 し て く だ さ い。質 問 は、メ ー ル ま た は、オ フ ィ ス ア ワ ー に 受 け 付 け ま す。* USB メ モ リ を 各 自 で 用 意 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	コンベンションビジネス論 (Convention Business)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	澤 田 利 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : コンベンションビジネス (MICE) は一般的には各種団体や学会、企業などが主催する大小の会議、各種大会、展示会や見本市、企業主催のインセンティブツアーを扱うものであるが、より広義には、スポーツイベントや文化イベント、フェスティバルや祭りなども含む。多くの人が一堂に集うと当然、地元への直接・間接の経済波及効果も小さくないため多くの都市が地域活性化の切り札の一つとして大規模コンベンション施設やスポーツ施設を建設すると共にコンベンションビューローを設立して官民合同でコンベンションの誘致に取り組んでいる重要な分野である。									
授 業 目 標 : 1. コンベンションビジネス (MICE) の意義と現状および課題について理解すること。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式 (注)WS : 授 業 終 了 前 15 分 程 度 で、与 え ら れ た テ ー マ に つ い て 150 字 程 度 の 文 章 を 作 成 ・ 提 出									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	イントロダクション					事前：— 事後：—		講義	
2	コンベンションビジネスの全体像1、まとめ、WS ^(注)					事前：予習 事後：復習		講義	
3	コンベンションビジネスの全体像2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
4	会議ビジネスの需要サイドと供給サイド、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
5	展示会ビジネスの需要サイドと供給サイド、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
6	コンベンション関連ビジネス、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
7	インセンティブツアー、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
8	イベントの誘致、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
9	イベントの創出、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
10	コンベンションビューロー、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
11	会議施設、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
12	展示施設品、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
13	コンベンション・マーケティング1、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
14	コンベンション・マーケティング2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
15	前期まとめ					事前：予習 事後：復習		講義	
教 本 : 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参 考 文 献 : 適宜、紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (小テスト、受講態度) (50%) と 定 期 試 験 (50%) で 総 合 的 に 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講義が一方通行にならぬよう Q & A の 時 間 を 毎 回 設 け る と 共 に 随 時 デ ィ ス カ ュ シ ョ ン の 時 間 も と る 予 定。学 生 諸 君 の 積 極 的 な 参 加 を 期 待 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	債権回収法 I (Creditor Relief Law I)						科目分類	専門科目	
担当教員	藤原 俊雄								
履修条件	前提科目	契約法 I・II、担保法の知識が求められます。							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>債権回収とは、取引の相手から商品やサービスの代金を支払ってもらうこと、あるいは強制的に取り立てることをいいます。この講義では、そのための方法について学びます。いかにも法律学といった感じの相当に技術的な内容となります。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>債権回収に関わる諸制度の基本を把握することです。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	債権回収の基本的流れ					事後：復習		講義	
2	取引を開始する					事後：復習		講義	
3	債権を管理する					事後：復習		講義	
4	話し合いによる債権回収					事後：復習		講義	
5	担保による債権回収					事後：復習		講義	
6	強制的に債権を回収する					事後：復習		講義	
7	仮差押え・仮処分					事後：復習		講義	
8	民事調停・支払催促・通常の民事訴訟・強制執行					事後：復習		講義	
9	取引先が倒産した場合はどうするか					事後：復習		講義	
10	取引開始時の債権保全 所有権留保・保証金・保証人					事後：復習		講義	
11	取引中の債権を管理する 与信管理の重要性					事後：復習		講義	
12	将来の訴訟に備えた書類の整理					事後：復習		講義	
13	手形・小切手を受け取ったときの不備の有無のチェック					事後：復習		講義	
14	時効の援用 時効の中断					事後：復習		講義	
15	時効制度の改正について 消滅時効期間・時効の援用					事後：復習		演習	
<p>教本：</p> <p>『債権回収基本のき 第4版』 権田修一（商事法務、2017） ¥3,200</p>					<p>参考文献：</p> <p>講義中に適宜紹介します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（20%）、定期試験（80%）で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>教科書は絶対に必要です。上記のように、科目の性質上講義内容は相当に複雑かつ技術的ですので、事後の復習は不可欠です。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

そ

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	債権回収法Ⅱ (Creditor Relief Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤原 俊雄								
履 修 条 件	前提科目	契約法Ⅰ・Ⅱ、担保法、債権回収法Ⅰの知識が求められます。							
	その他	なし							
授業概要： 債権回収法Ⅰと同様に、科目の性質上、いかにも法律学といった相当に法技術的な問題を扱います。									
授業目標： 債権回収に関わる諸制度の基本を把握することです。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	担保の取得 動産・不動産・債権					事後：復習		講義	
2	不動産を担保にとる場合について 抵当権・根抵当権					事後：復習		講義	
3	動産譲渡担保 取引先が使用している機械。設備を担保にとる					事後：復習		講義	
4	集合動産譲渡担保 取引先の在庫商品を担保にとる					事後：復習		講義	
5	担保権の実行による債権回収 抵当権等の実行による					事後：復習		講義	
6	動産譲渡担保権の実行による債権回収					事後：復習		講義	
7	動産先取特権を実行しての債権回収					事後：復習		講義	
8	裁判所を利用した債権回収					事後：復習		講義	
9	訴訟なしの強制執行					事後：復習		講義	
10	少額訴訟 手形訴訟					事後：復習		講義	
11	民事訴訟の提起 訴訟提起のための証拠の収集					事後：復習		講義	
12	訴訟の流れ 強制執行					事後：復習		講義	
13	倒産時の債権回収 破産手続における債権回収					事後：復習		講義	
14	民事再生手続に入ったとき 民事再生手続の流れ					事後：復習		講義	
15	民事再生手続における債権回収					事後：復習		講義	
教本： 『債権回収基本のき 第4版』 権田修一（商事法務、2017） ¥3,200					参考文献： 講義中に適宜紹介します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、定期試験（80%）で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 教科書は絶対に必要です。Ⅰと同様、相当に複雑かつ技術的な内容を扱いますので、少なくとも復習はしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	債 券 投 資 論 I (Fixed Income Investments I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	橋 口 宏 行								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 債 券 の 種 類 や 仕 組 み 、 取 引 方 法 を 見 な が ら 、 債 券 投 資 論 の 基 本 で あ る キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー と そ の 評 価 方 法 に つ い て 学 び ま す 。 そ し て 、 債 券 の 各 種 の リ ス ク を 勉 強 し な が ら 、 最 も 大 き な 価 格 変 動 要 因 で あ る 金 利 に つ い て 学 び ま す 。									
授 業 目 標 : 金 利 は 経 済 状 況 を 図 る 大 き な 要 因 で す 。 債 券 の 動 き を 通 し て 、 日 本 や 世 界 経 済 の 見 方 を 習 得 す る こ と を 目 標 と し ま す 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、授業内容と進め方、貨幣価値としての金利					事前：なし 事後：なし		講義	
2	債券の種類と仕組み					事前：なし 事後：復習		講義	
3	株式会社と債券・株式					事前：なし 事後：復習		講義	
4	キャッシュフローの合計値としての債券価格					事前：なし 事後：復習		講義	
5	金利の期間構造（スポットレートとフォワードレート）					事前：なし 事後：復習		講義	
6~7	財務諸表とデフォルトリスク、格付け					事前：なし 事後：復習		講義	
8	金利変動と債券価格、デュレーション					事前：なし 事後：復習		講義	
9	イールドカーブと債券ポートフォリオ構築					事前：なし 事後：復習		講義	
10	ダンベル型・ブレード型・ラダー型					事前：なし 事後：復習		講義	
11	イミュニゼーション戦略とマッチング戦略					事前：なし 事後：復習		講義	
12	債券先物によるリスクヘッジ戦略					事前：なし 事後：復習		講義	
13~14	証券化商品と世界金融危機					事前：なし 事後：復習		講義	
15	講座の総括と理解度の確認					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 : 『よくわかる！ファイナンス入門』（慶應義塾大学出版会、¥1,800+消費税）。 他に、レジユメを配布する。									
参 考 文 献 : 『新・証券投資論I』（日本経済新聞社、¥4,000+消費税）									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 の 参 加 状 況 等 (20%) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%) 、 定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : FP (ファイナンシャル ・ プランナー) 資 格 、 証 券 外 務 員 資 格 、 証 券 ア ナ リ ス ト 資 格 の 各 資 格 試 験 に 役 立 つ 。 ま た 、 か つ て 企 業 の 採 用 担 当 と し て 面 接 官 を し て い た の で 、 就 職 活 動 に 関 す る 相 談 に も 乗 り ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	財務管理論 I (Financial Management I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白川 満伸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>企業を構成する人、もの、金、情報などの要素を維持発展させていくための企業活動は、企業を維持していくための基本活動である。このうち財務管理はカネすなわち資本的要素に関する経営学の専門研究分野として、資本循環すなわち企業資本の調達やその運用および利益処分についての諸問題を取り扱う。前期では、証券金融（株式・社債）や借入金融等の株式会社金融の問題を中心に、後期では、財務分析および財務計画の基本問題について学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>テ ー マ：企業財務の基礎知識について学ぶ。</p> <p>到達目標：新聞の経済記事に関心をもって読めるようになることも目標の一つである。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	資本構成とレバレッジ (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
3	資本構成とレバレッジ (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
4	資本源泉の選択基準					事前：なし 事後：なし		講義	
5	会社証券の意義					事前：なし 事後：なし		講義	
6	株式資本の調達					事前：なし 事後：なし		講義	
7	株主権					事前：なし 事後：なし		講義	
8	新株発行の枠組み					事前：なし 事後：なし		講義	
9	優先株					事前：なし 事後：なし		講義	
10	無額面株					事前：なし 事後：なし		講義	
11	自己株式					事前：なし 事後：なし		講義	
12	社債資本の調達					事前：なし 事後：なし		講義	
13	社債の募集・担保・格付け					事前：なし 事後：なし		講義	
14	期末のまとめ (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
15	期末のまとめ (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>プリントを中心に講義する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>追って紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>①平常点 (30%) と②筆記試験成績 (70%) により評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>欠席すると授業に付いて行けなくなる可能性があります。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	財務管理論Ⅱ (Financial Management Ⅱ)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	白川 満伸									
履 修 条 件	前提科目	財務管理論Ⅰ								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>企業を構成する人、もの、金、情報などの要素を維持発展させていくための企業活動は、企業を維持していくための基本活動である。このうち財務管理はカネすなわち資本的要素に関する経営学の専門研究分野として、資本循環すなわち企業資本の調達やその運用および利益処分についての諸問題を取り扱う。前期では、証券金融（株式・社債）や借入金融等の株式会社金融の問題を中心に、後期では、財務分析および財務計画の基本問題について学ぶ。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>テ ー マ：企業財務の基礎知識について学ぶ。 到達目標：新聞の経済記事に関心をもって読めるようになることも目標の一つである。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	新株予約権付社債Ⅰ（転換社債）					事前：なし 事後：なし		講義		
2	新株予約権付社債Ⅱ（ワラント債）					事前：なし 事後：なし		講義		
3	借入金融の諸形態					事前：なし 事後：なし		講義		
4	株式市場と株価形成					事前：なし 事後：なし		講義		
5	財務計画の構造					事前：なし 事後：なし		講義		
6	目標利益の設定					事前：なし 事後：なし		講義		
7	損益分岐点分析					事前：なし 事後：なし		講義		
8	資金計画の意義					事前：なし 事後：なし		講義		
9	資金繰り表、資金運用表					事前：なし 事後：なし		講義		
10	収益性分析比率					事前：なし 事後：なし		講義		
11	流動性分析比率					事前：なし 事後：なし		講義		
12	流動資産への運用と管理					事前：なし 事後：なし		講義		
13	固定資産への運用と管理					事前：なし 事後：なし		講義		
14	期末のまとめ(1)					事前：なし 事後：なし		講義		
15	期末のまとめ(2)					事前：なし 事後：なし		講義		
<p>教本：</p> <p>プリントを中心に講義する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>追って紹介する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 ①平常点（30％）と②筆記試験成績（70％）により評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>欠席すると授業に付いて行けなくなる可能性があります。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	財務諸表論 (Financial Accounting)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	桑原 常明								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>財務会計は企業の利害関係者に当該企業の経営成績及び財政状態に関する真実な情報を提供することを目的としている。今日、財務会計情報利用者は、経済の国際化及び企業規模の拡大に伴って増加している。本授業は、企業会計（財務会計と管理会計に分かれる）のうち、財務会計を中心に、その体系を総合的に学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>会計の基礎力を養成することを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	会計と財務諸表					事前：なし 事後：なし		講義	
2	財務諸表の種類					事前：なし 事後：なし		講義	
3	財務諸表の体系					事前：なし 事後：なし		講義	
4	わが国の企業会計制度（金融商品取引法）					事前：なし 事後：なし		講義	
5	わが国に企業会計制度（会社法会計）					事前：なし 事後：なし		講義	
6	貸借対照表(1) 資産					事前：なし 事後：なし		講義	
7	資産の評価基準					事前：なし 事後：なし		講義	
8	債権					事前：なし 事後：なし		講義	
9	有価証券・棚卸資産					事前：なし 事後：なし		講義	
10	有形固定資産					事前：なし 事後：なし		講義	
11	減価償却					事前：なし 事後：なし		講義	
12	無形固定資産					事前：なし 事後：なし		講義	
13	貸借対照表(2) 負債					事前：なし 事後：なし		講義	
14	負債の評価					事前：なし 事後：なし		講義	
15	引当金					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>1. テキスト 入門会计学 中央経済社</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜、指示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>欠席をしないこと、予習をすること、携帯電話の電源を切っておくこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	産 業 心 理 学 I (Occupational Psychology I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 澤 伸 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	心 理 学 概 論 I、II を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業と組織心理学とは不可分のものである。本授業では、主に企業組織において求められる人材とは何かを中心として学びを進めることにします。内容としては、企業トップがしばしば陥る判断誤り、産業場面において事故多発者と無事故者におけるパーソナリティの差異や、動機づけの仕組み、リーダーシップと生産効率等を中心に学びを進めていきます。授業形態は講義を中心としますが、討議法も随時使い、「分かりやすい授業」を目指します。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①生産効率にかかわる社員のパーソナリティ特性、②社員にやる気をもたらす動機づけの仕組み、③リーダーシップの働きまでが理解できることを、本授業の到達目標とします。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 進 め 方、授 業 内 容 等 に 関 す る オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : 教 科 書 の 準 備 事 後 : シ ラ バ ス の 確 認		講 義	
2	産 業 心 理 学 史 I、テ イ ラ ー、科 学 的 管 理 法					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
3	産 業 心 理 学 史 II、ミ ュ ン ス タ ー バ ー グ、ホ ー ソ ン 実 験					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
4	産 業 場 面 で 発 生 す る 労 働 災 害 の 推 移、企 業 ト ッ プ の 判 断 誤 り					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
5	事 故 多 発 者 の パ ー ソ ナ リ テ ィ 特 性、多 面 評 価 法					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
6	「安 全」と「リ ス ク」の 関 係、active safety、passive safety					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
7	認 知 心 理 学、内 部 情 報 処 理 過 程、エ ラ ー 行 動 の 発 生					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
8	動 機 と 動 機 づ け、動 機 づ け の 仕 組 み、マ ズ ロ ー と 欲 求 階 層 理 論					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
9	内 発 的 動 機 づ け、外 発 的 動 機 づ け					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
10	能 力 開 発、社 内 研 修、目 標 管 理 制 度、PDCA サ イ ク ル					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
11	リ ー ダ ー シ ョ ン の 定 義、レ ビ ン 他 の リ ー ダ ー シ ョ ン 研 究					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
12	PM 理 論、マ ネ ジ リ ア ル グ リ ッ ド 理 論					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
13	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 仕 組 み、説 得 的 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
14	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 促 進 要 因、抑 制 要 因					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
15	全 体 の ま と め					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
教 本 :									
『改訂 ヒューマンエラーの心理学入門』深澤伸幸、杏林舎、¥2,300					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
定 期 試 験 (100%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠 席 回 数 が 全 体 の 1/3 を 超 え る 場 合 に は、受 験 し て も 評 価 し な い の で、注 意 さ れ た い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	両 方
授 業 科 目 (英 文)	産 業 心 理 学 II (Occupational Psychology II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 澤 伸 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	産 業 心 理 学 概 論 を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業も産業心理学とは不可分の関係にあります。そこで本授業では、組織とは何かから始め、組織内において生じる対人関係の在り方、精神的ストレスの定義と対処法、組織集団が抱えるリスク等を学びます。授業形態は講義を中心としますが、討議や実習を随時行い、「分かりやすい授業」を目指します。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>組織構造や組織規範、対人関係から生じる精神的なストレスの意味を把握すると共に、ストレスからの脱出方法までを学ぶ。加えて、組織集団が有するリスク知覚とリスク回避方法までを正しく理解できることを到達目標とします。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 進 め 方、授 業 内 容 等 に 関 す る オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス の 精 査 事 後 : シ ラ バ ス の 確 認		講 義	
2	組 織 構 造、組 織 規 範					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
3	用 語 と し て の ス ト レ ス の 意 味 と 変 遷、ス ト レ ス の 構 造					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
4	セ リ エ、医 学 的 ス ト レ ス モ デ ル					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
5	精 神 的 ス ト レ ス の 定 義、ラ イ フ イ ベ ン ト 研 究、ス ト レ ス 測 定					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 ・ 実 習	
6	ラ ザ ラ ス、心 理 学 的 ス ト レ ス モ デ ル					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
7	ソ ー シ ャ ル サ ポ ー ト、T H P、ス ト レ ス チ ェ ッ ク					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
8	組 織 集 団 が 抱 え る リ ス ク					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
9	組 織 風 土、安 全 風 土 醸 成 プ ロ グ ラ ム、風 通 し の 良 い 職 場 づ く り					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
10	企 業 ト ッ プ の 判 断 ミ ス、リ ス ク 評 価 (リ ス ク パ ー セ プ シ ョ ン)					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
11	リ ス ク パ ー セ プ シ ョ ン 研 究、社 会 事 象 へ の リ ス ク 評 価 実 習					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 ・ 演 習	
12	リ ス ク パ ー セ プ シ ョ ン の 国 際 比 較					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
13	ヒ ュ ー マ ン エ ラ ー (人 的 過 誤) の 定 義					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
14	組 織 過 誤 の 現 状、コ ン プ ラ イ ア ン ス 違 反					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
15	全 体 の ま と め					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
講 義 資 料 を 配 布 し ます。					【改 訂】ヒ ュ ー マ ン エ ラ ー の 心 理 学 入 門】深 澤 伸 幸、杏 林 舎、¥ 2,300				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 定 期 試 験 (100%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 欠 席 回 数 が 全 体 の 1 / 3 を 超 え る 場 合 に は、受 験 し て も 評 価 し な い の で、注 意 さ れ た い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	産 業 心 理 学 概 論 (Occupational Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 澤 伸 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	心 理 学 概 論 I、II を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業と組織心理学とは不可分のものである。本授業では、主に企業組織において求められる人材とは何かを中心として学びを進めることにします。内容としては、企業トップがしばしば陥る判断誤り、産業場面において事故多発者と無事故者におけるパーソナリティの差異や、動機づけの仕組み、リーダーシップと生産効率等を中心に学びを進めていきます。授業形態は講義を中心としますが、討議法も随時使い、「分かりやすい授業」を目指します。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①生産効率にかかわる社員のパーソナリティ特性、②社員にやる気をもたらす動機づけの仕組み、③リーダーシップの働きまでが理解できることを、本授業の到達目標とします。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 進 め 方、授 業 内 容 等 に 関 す る オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : 教 科 書 の 準 備 事 後 : シ ラ バ ス の 確 認		講 義	
2	産 業 心 理 学 史 I、テ イ ラ ー、科 学 的 管 理 法					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
3	産 業 心 理 学 史 II、ミ ュ ン ス タ ー バ ー グ、ホ ー ソ ン 実 験					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
4	産 業 場 面 で 発 生 す る 労 働 災 害 の 推 移、企 業 ト ッ プ の 判 断 誤 り					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
5	事 故 多 発 者 の パ ー ソ ナ リ テ ィ 特 性、多 面 評 価 法					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
6	「安全」と「リスク」の 関 係、active safety、passive safety					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
7	認 知 心 理 学、内 部 情 報 処 理 過 程、エ ラ ー 行 動 の 発 生					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
8	動 機 と 動 機 づ け、動 機 づ け の 仕 組 み、マ ズ ロ ー と 欲 求 階 層 理 論					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
9	内 発 的 動 機 づ け、外 発 的 動 機 づ け					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
10	能 力 開 発、社 内 研 修、目 標 管 理 制 度、PDCA サ イ ク ル					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
11	リ ー ダ ー シ ッ プ の 定 義、レ ビ ン 他 の リ ー ダ ー シ ッ プ 研 究					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
12	PM 理 論、マ ネ ジ リ ア ル グ リ ッ ド 理 論					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
13	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 仕 組 み、説 得 的 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
14	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 促 進 要 因、抑 制 要 因					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
15	全 体 の ま と め					事 前 : 当 該 箇 所 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
教 本 :									
『改訂 ヒューマンエラーの心理学入門』深澤伸幸、杏林舎、¥2,300					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
定 期 試 験 (100%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠 席 回 数 が 全 体 の 1/3 を 超 え る 場 合 に は、受 験 し て も 評 価 し な い の で、注 意 さ れ た い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	C 言 語 (Introduction to C Language)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	安 村 薫								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他	ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と 、 教 科 書 を 購 入 す る こ と							
授 業 概 要 :									
<p>プログラミング言語のデファクトスタンダードとされているC言語を元に基本的な文法と記述方法について実際のプログラムを例にしてプログラムが動く簡単なくみなどの基本事項について学習させる。その後、実際にプログラムを作成し実行するための環境や手順について学習を行い、最終的に簡単な計算処理などが自分の考え方で実現できるようになることを目標としている。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>コンピュータ言語 (C言語) を使ってコンピュータの動作がどのようなものであるか、理解することを目標とする。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：シラバスの確認 事後：パソコンの設定確認		講義	
2	利用コンパイラのインストール					事前：テキスト・資料の予習 事後：ネットワークの確認		講義	
3	基本的なプログラム					事前：テキスト・資料の予習 事後：ネットワークの確認		講義	
4	基本的なプログラム (課題作成)					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
5	演算子					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
6	演算子 (課題作成)					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
7	課題提出					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
8	制御文					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
9	制御文					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
10	制御文 (課題作成)					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
11	配列					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
12	配列 (課題作成)					事前：模擬試験の確認 事後：復習		講義	
13	課題提出					事前：試験の確認 事後：復習と課題の作成		講義	
14	関数について					事前：模擬試験の確認 事後：公開した課題の確認		講義	
15	最終試験					事前：課題の統合的チェック 事後：なし		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「解きながら学ぶC言語」 柴田 望洋 (ソフトバンククリエイティブ) ¥1,944 (税込)					講義中に指示します。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 と 課 題 提 出 (25%)、レポ ー ト (75%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠 席 を し な い こ と 。 15 回 の 授 業 の 初 め か ら 、 確 実 に 、 課 題 の 作 業 を 一 つ ひ と つ 確 認 し な が ら 行 っ て い く こ と 。 (連 続 し て 欠 席 し た り 、 課 題 を 行 わ ず に た め て お く と 、 履 修 を 続 け る こ と は ほ と ん ど 困 難 に な り ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ジェンダー研究 (Gender Studies)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	性愛を含む性的な事柄についても取り扱います。							
授業概要： 性差についての考え方を学び、「男」/「女」であることの経験を捉え直していきます。①毎回授業の最後15分を使ってリアクションペーパー（授業を受けて考えたこと）を書いてもらいます。②課題レポートでは、授業で学んだことをもとに、日常生活について調べてまとめてもらいます。発表、質疑応答の機会も設けています。③定期試験は持込み不可です。									
授業目標： 1. 人類史から身体的（生物学的）性差と社会的性差について理解する。 2. 性差とその関係や経験につて捉え直すために視点を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：シラバス確認 事後：『闇の左手』		講義	
2	動物としての人間の特徴					事前： 事後：配布資料		講義	
3	「生物学的性差、社会的性差」の区別					事前： 事後：配布資料		講義	
4	性別分業（相互補完から一方的な依存へ）					事前： 事後：配布資料		講義	
5	「男らしさ」、「女らしさ」の多様性と変遷					事前： 事後：配布資料		講義	
6	病理化された性と偏見					事前： 事後：配布資料		講義	
7	近代化と「近代家族」像					事前： 事後：配布資料		講義	
8	性差別					事前： 事後：配布資料		講義	
9	課題レポートの説明、事例紹介					事前： 事後：課題		講義	
10	教育、スポーツ					事前： 事後：配布資料		講義	
11	組織や職場の問題Ⅰ					事前： 事後：配布資料		講義	
12	組織や職場の問題Ⅱ					事前： 事後：配布資料		講義	
13	レポート作業					事前： 事後：レポート作成		講義（グループワーク）	
14	レポート発表、質疑応答、提出					事前：レポート作成 事後：		講義（プレゼン、討論）	
15	まとめ					事前：配付資料、ノート復習 事後：試験準備		講義	
教本： 伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学【全訂新版】』、 世界思想社、¥1,800+税。					参考文献： 随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ＜聞く、読む、考える、書く、伝える、質問する＞力を養ってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	自 己 の 心 理 学 (Psychology of self)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 「自分は何者か」という問いについてある程度明確な信念を持つことは、青年期の発達課題である。本講義では、自分を客観的にみるための手掛かりを、心理学の切り口から提供する。									
授 業 目 標 : 本講義で提供する手掛かりを用い、「自己」のいくつかの側面について客観的に見ていく中で、「自分らしさ」を見出し、かけがえのない自分の人生をどのように歩んでいくのかを考えていく時間を持つことを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：自分の価値観について考える					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	友人関係					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
3	親との関係					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
4	恋愛関係					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
5	アタッチメントと愛情のネットワーク					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
6	考え方のくせ					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
7	アサーション：適切な自己主張					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
8	様々なコミュニケーション					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
9	リフレーミング：多角的な視点					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
10	学生のプレゼンテーション：準備					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
11	学生のプレゼンテーション：発表					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
12	学生のプレゼンテーション：発表					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
13	学生のプレゼンテーション：発表					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
14	学生のプレゼンテーション：発表					事前：課題について考える 事後：自己を振り返る		演習	
15	まとめ					事前：今期の学習を振り返る 事後：自己を振り返る		演習	
教 本 : 遠 藤 健 治 編 『 対 人 関 係 を 通 じ て の 自 己 理 解 ワ ー ク ブ ッ ク : ひ と の こ こ ろ と 授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る 。 ふれあう私』 培風館									
参 考 文 献 : 成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (60%)、レポート (40%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 演習では、心理テストなどのワークやディスカッションを通して自己理解を深めていく。また、グループまたは個人でプレゼンテーションを行っていた だき、内容に応じて評価に加点する。授業終了時には、授業を通して自己について考察したリアクションペーパーを提出していただく。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	事 故 の 法 的 責 任 論 (Legal Responsibility of the Accident)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト 基 礎 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>私たちの日常生活では、さまざまな事故に遭遇する。交通事故や契約上のトラブルなどがその代表であろう。そのような事故に遭遇した場合、どのような法律を基に当事者間の紛争を解決すればよいのかについて、①底流を流れる法理論の把握とともに、②実際に起きた紛争についてどのような判断がなされ、またどのような問題点をはらんでいるのかについて主体的に考える機会を提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 紛争の解決に向けた判断基準となる法概念を身につける。 2. 実社会で起きている紛争をもとに、論点と解決策を提示できる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	事 故 の 法 的 責 任 論 を 学 ぶ に 当 た っ て (導 入)					事 前 : 教 本 pp.242~253精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
2	刑 罰 の 意 味					事 前 : 教 本 pp.4~17精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
3	罪 刑 法 定 主 義					事 前 : 教 本 pp.17~34精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
4	刑 事 裁 判 の 進 め 方					事 前 : 教 本 pp.35~51精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
5	公 判 手 続					事 前 : 教 本 pp.51~71精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
6	私 人 間 の 紛 争 解 決					事 前 : 教 本 pp.74~95精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
7	人 身 損 害 の 賠 償					事 前 : 教 本 pp.95~109精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
8	私 的 自 治 - 契 約 自 由 の 原 則					事 前 : 教 本 pp.110~124精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
9	製 造 物 責 任					事 前 : 教 本 pp.124~138精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
10	家 族 間 の 法					事 前 : 教 本 pp.139~166精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
11	統 治 機 構 と 紛 争 解 決					事 前 : 教 本 pp.168~205精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
12	基 本 的 人 権 と 法 ①こ ども と 人 権					事 前 : 教 本 pp.206~213精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
13	基 本 的 人 権 と 法 ②死 ぬ 権 利					事 前 : 教 本 pp.214~236精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
14	事 例 研 究 ① 契 約 に お け る 紛 争					事 前 : 報 告 資 料 の 作 成 事 後 : 報 告 内 容 の 再 検 討		講 義	
15	事 例 研 究 ② 人 権 と 紛 争					事 前 : 報 告 資 料 の 作 成 事 後 : 報 告 内 容 の 再 検 討		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「はじめの法律学 -HとJの物語 第5版」 松井茂記、松宮孝明、曾野裕夫 (有斐閣、2017年)					授業中に適宜紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 レ ポ ー ト (30%)、期 末 レ ポ ー ト (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 自 ら の 周 り で 起 き る 紛 争 に つ い て、な ぜ 起 き た の か、ど の よ う な 解 決 法 が あ る の か、と い う 視 点 を 養 成 す る こ と が 重 要 で あ る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	事故リスク危機マネジメント (Risk and crisis management in the study of accidents and disasters)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	リスク危機マネジメント基礎論Ⅰが前提、リスク危機マネジメント基礎論Ⅱも出来る限り学んでほしい							
	その他	なし							
授業概要： 事項及び災害のリスクマネジメントおよびクライシスマネジメント（危機管理）について学ぶ。									
授業目標： 事故や災害など主として保険の保護対象となるようなリスクについて把握し、それらによる被害をできるだけ抑えるためのリスク管理、及び、そのリスクが発現したとき、すなわち危機となったときの対応のあり方を理解して、事故や災害についてのリスク管理および危機管理を行なえる基本素養を身につけること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方など） 事故や災害の性格とリスク、危機					事前： 事後：復習		講義	
2	労働災害事故					事前：予習 事後：復習		講義	
3	交通関係事故					事前：予習 事後：復習		講義	
4	火災爆発					事前：予習 事後：復習		講義	
5	原子力事故					事前：予習 事後：復習		講義	
6	化学品事故、ほかその他の事故					事前：予習 事後：復習		講義	
7	医療事故					事前：予習 事後：復習		講義	
8	サイバー事故					事前：予習 事後：復習		講義	
9	地震と津波					事前：予習 事後：復習		講義	
10	風水害					事前：予習 事後：復習		講義	
11	環境、汚染事故					事前：予習 事後：復習		講義	
12	パンデミック、火山爆発、その他の災害					事前：予習 事後：復習		講義	
13	緊急対応					事前：予習 事後：復習		講義	
14	事故及び災害のリスクと危機に対するの公的制度と組織 保険とリスクファイナンス					事前：予習 事後：復習		講義	
15	まとめ					事前：予習 事後：復習		講義	
教本： なし。					参考文献： 必要に応じ授業中に指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 事故や災害のニュースは必ず詳細を知るように努めてください。									
オフィスアワー： 別途掲示される予定になっているのでその時間帯に来てください。あらかじめ、電話またはメールで、あるいは、研究室へのメッセージの投函で事前連絡をくれるとありがたいです。電話番号は080-4732-3423、メールアドレスはmmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室は3810室です。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	持 続 可 能 な 開 発 目 標 と 国 際 社 会 (SDGs and International Community)							科 目 分 類	基 礎 科 目
担 当 教 員	庵 原 宏 義、松 浦 広 明								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	メー ル お よ び 授 業 Website を 定 期 的 に チェック する 事 が でき る こと							
授 業 概 要 :									
<p>2015年9月25日、日本を含む193か国の指導者たちは、2030年までに達成すべき17個の目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」の採択に合意しました。本講義では、2030年におけるSDGsの達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取組みについて概観します。また、現在、第一線で活躍されている経験豊富なプロフェッショナルの方々を招いて、直接、現場の体験を聞くことにより、将来、自らの専門性を生かし、SDGsの達成に自分がどのように貢献していけるのか、国際開発の世界でどうキャリアを築いていくのか、その道を模索する為のヒントと将来のキャリア像を提供します。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた日本および世界全体の取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。</p> <p>2. 国連機関とのパートナーシップ等、松蔭大学が持っているリソースを利用して、学生として大学を通し、どのようにSDGsに貢献していけるかを考え、最終的に実行に結びつけること。</p> <p>3. 海外での大学院進学や国際開発のキャリアを歩んでいきたい学生に必要な情報とネットワークを作る機会を与えること。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	持 続 可 能 な 開 発 目 標 (SDGs) に 向 け て					事 前 : Ch. 1. 事 後 : な し		講 義	
2	経 済 成 長 ・ 発 展 と そ の 決 定 要 因					事 前 : Ch. 3、Ch.4 事 後 : な し		講 義	
3	貧 困 と 不 平 等					事 前 : Ch. 5. 事 後 : な し		講 義	
4	国 際 機 関 の 取 り 組 み (国 連、国 際 機 関)					事 前 : な し 事 後 : 課 題		講 義	
5	人 口 と 経 済					事 前 : UNFPA (2012) 事 後 : な し		講 義	
6	移 民 政 策					事 前 : 課 題 事 後 : な し		講 義	
7・8	海 外 移 住 資 料 館 見 学 ・ ワーク ショ ッ プ I (開 発 課 題 分 析①)					事 前 : 課 題 事 後 : な し		講 義	
9・10	厚 木 市 の 外 国 人 コ ミ ュ ニ テ ィ ー と の 交 流					事 前 : 課 題 事 後 : な し		講 義	
11	教 育 と 労 働					事 前 : Ch. 8 事 後 : な し		講 義	
12	こ ど も と 女 性					事 前 : セン 第 8 章 事 後 : な し		講 義	
13	法 と 人 権					事 前 : Handout 事 後 : な し		講 義	
14	グ ロー バ ル ・ ヘ ル ス の 挑 戦					事 前 : Ch. 9 事 後 : な し		講 義	
15	ま と め					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
教 本 :						参 考 文 献 :			
Sachs, J. "The Age of Sustainable Development" Columbia University Press, New York, USA; 2015.						コ ー ス ウェブ サイト に 記 載。			
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 でき た か を 評 価 する。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レポ ー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 する。									
学 生 へ の アド バ イ ス : 授 業 評 価 の 半 分 は 土 曜 日 に 行 わ れ る JICA 横 浜 等 で の 課 外 学 習 の 課 題 に て 行 い ます。定 期 的 に メー ル ・ 授 業 ウェブ サイト を 確 認 でき る こと。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	持続可能な開発目標と国際社会 A (SDGs and International Community A)							科目分類	基礎科目
担 当 教 員	庵原宏義、松浦広明								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	メールおよび授業 Website を定期的にチェックすることができること							
授業概要： 2015年9月25日、日本を含む193か国の指導者たちは、2030年までに達成すべき17個の目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」の採択に合意しました。本講義では、2030年におけるSDGsの達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取組みについて概観します。また、現在、第一線で活躍されている経験豊富なプロフェッショナルの方々を招いて、直接、現場の体験を聞くことにより、将来、自らの専門性を生かし、SDGsの達成に自分がどのように貢献していけるのか、国際開発の世界でどうキャリアを築いていくのか、その道を模索する為のヒントと将来のキャリア像を提供します。									
授業目標： 1. 持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた日本および世界全体の取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。 2. 国連機関とのパートナーシップ等、松蔭大学が持っているリソースを利用して、学生として大学を通し、どのようにSDGsに貢献していけるかを考え、最終的に実行に結びつけること。 3. 海外での大学院進学や国際開発のキャリアを歩んでいきたい学生に必要な情報とネットワークを作る機会を与えること。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	持続可能な開発目標 (SDGs) に向けて					事前：Ch. 1. 事後：なし		講義	
2	経済成長・発展とその決定要因					事前：Ch. 3、Ch.4 事後：なし		講義	
3	貧困と不平等					事前：Ch. 5. 事後：なし		講義	
4	国際機関の取り組み (国連、国際機関)					事前：なし 事後：課題		講義	
5	人口と経済					事前：UNFPA (2012) 事後：なし		講義	
6	移民政策					事前：課題 事後：なし		講義	
7・8	海外移住資料館見学・ワークショップ I (開発課題分析①)					事前：課題 事後：なし		講義	
9・10	厚木市の外国人コミュニティとの交流					事前：課題 事後：なし		講義	
11	教育と労働					事前：Ch. 8 事後：なし		講義	
12	こどもと女性					事前：セン 第8章 事後：なし		講義	
13	法と人権					事前：Handout 事後：なし		講義	
14	グローバル・ヘルスの挑戦					事前：Ch. 9 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： Sachs, J. "The Age of Sustainable Development" Columbia University Press, New York, USA; 2015.						参考文献： コースウェブサイトに記載。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (50%) で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業評価の半分は土曜日に行われる JICA 横浜等での課外学習の課題にて行います。定期的にメール・授業ウェブサイトを確認できること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	持続可能な開発目標と国際社会B (SDGs and International Community B)							科目分類	基礎科目
担 当 教 員	庵原宏義、松浦広明								
履 修 条 件	前提科目	持続可能な開発目標と国際社会A							
	その他	メールおよび授業 Website を定期的にチェックすることができること							
授業概要： 2015年9月25日、日本を含む193か国の指導者たちは、2030年までに達成すべき17個の目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」の採択に合意しました。本講義では、2030年におけるSDGsの達成に向け、世界が直面している課題と、それに対する日本および世界の取組みについて概観します。また、現在、第一線で活躍されている経験豊富なプロフェッショナルの方々を招いて、直接、現場の体験を聞くことにより、将来、自らの専門性を生かし、SDGsの達成に自分がどのように貢献していけるのか、国際開発の世界でどうキャリアを築いていくのか、その道を模索する為のヒントと将来のキャリア像を提供します。									
授業目標： 1. 持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた日本および世界全体の取り組みを理解し、その中で自分がどのように貢献できるかを考え、最終的に実行に結びつけること。 2. 国連機関とのパートナーシップ等、松蔭大学が持っているリソースを利用して、学生として大学を通し、どのようにSDGsに貢献していけるかを考え、最終的に実行に結びつけること。 3. 海外での大学院進学や国際開発のキャリアを歩んでいきたい学生に必要な情報とネットワークを作る機会を与えること。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	企業の役割：企業の社会的責任と持続可能な開発目標					事前：Handout 事後：グループワーク		講義	
2	紛争とテロ					事前：なし 事後：課題		講義	
3	国際防災協力とレジリエントな都市					事前：Ch. 11 事後：なし		講義	
4	JICAと国際協力					事前：なし 事後：Handoutを読む		講義	
5	NPO/NGOとその取り組み					事前：なし 事後：Handoutを読む		講義	
6・7	青年海外協力隊OB・OGとの交流会・技術研修員・日系研修員との交流会					事前：課題 事後：なし		講義	
8・9	ワークショップ (開発課題分析③)・日系研修員との交流会*					事前：課題 事後：なし		講義	
11	人口と食糧					事前：Ch. 10 事後：課題		講義	
12	地球環境問題Ⅰ (地球温暖化など)					事前：Ch. 12 事後：課題		講義	
13	地球環境問題Ⅱ (生物多様性など)					事前：Ch. 13 事後：課題		講義	
14	国際観光					事前：世界観光ランキング (World Tourism Barometer) 事後：なし		講義	
15	松蔭大学、厚木市、持続可能な開発目標					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 1. Sachs, J. "The Age of Sustainable Development" Columbia University Press, New York, USA; 2015. 2. アマルティア・セン『自由と経済開発』石塚雅彦訳、日本経済新聞社、2000年						参考文献： コースウェブサイトに記載。			
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (50%) で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業評価の半分は土曜日に行われるJICA横浜等での課外学習の課題にて行います。定期的にメール・授業ウェブサイトを確認できること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	質 的 調 査 法 (Qualitative Survey Methods)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
質 的 研 究 法 と は、数 値 データ を 分 析 す る 量 的 研 究 法 と は 異 な り、人 の 語 り や 記 述 な ど の 言 語 データ を 分 析 す る 研 究 法 で あ る。本 講 義 で は 質 的 研 究 法 の 基 本 に つ い て、概 論 の 講 義 と 質 的 研 究 法 を 用 い た 研 究 論 文 に よ り 学 び、そ の 上 で 代 表 的 な 質 的 研 究 法 の ひ と つ で あ る KJ 法 を 実 際 に 体 験 す る。									
授 業 目 標 :									
質 的 研 究 法 に つ い て 理 解 し、代 表 的 な 質 的 研 究 法 の ひ と つ で あ る KJ 法 が で き る よ う に な る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
2	量 的 研 究 と 質 的 研 究					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
3	様 々 な 質 的 調 査 法					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
4	事 例 研 究 法					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
5	質 的 調 査 法 を 用 い た 研 究 論 文 紹 介 ①					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
6	質 的 調 査 法 を 用 い た 研 究 論 文 紹 介 ②					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
7	質 的 調 査 法 を 用 い た 研 究 論 文 を 検 索 し、ま と め る (グ ル ー プ ワーク)					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 ・ 演 習	
8	質 的 調 査 法 を 用 い た 研 究 論 文 を 検 索 し、ま と め る (グ ル ー プ ワーク)					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 ・ 演 習	
9	発 表 会					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 ・ 演 習	
10	KJ 法 を 用 い た 研 究 の 実 施 (グ ル ー プ ワーク)					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 ・ 演 習	
11	KJ 法 を 用 い た 研 究 の 実 施 (グ ル ー プ ワーク)					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 ・ 演 習	
12	KJ 法 を 用 い た 研 究 の 実 施 (グ ル ー プ ワーク)					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 ・ 演 習	
13	発 表 会					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 ・ 演 習	
14	結 果 を レ ポー ト に ま と め る					事 前 : 発 表 資 料 の 作 成 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
15	ま と め					事 前 : 授 業 全 般 の 復 習 事 後 : 理 解 の 補 完		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
な し。授 業 中 に 資 料 を 配 布 す る。					授 業 中 に、適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講 義 に は、グ ル ー プ ワーク、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン、プ レ ゼ ン テー シ ョ ン 等 を 取 り 入 れ る。毎 回 の 講 義 終 了 時 に は、コ メ ン ト ペー パー に 講 義 内 容 か ら 考 え た こ と を 書 い て 提 出 し て い た だ く。									
オ フ ィ ス ア ワー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選 択 ・ 必 修		単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	私 法 学 I (Private Law I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新 城 将 孝								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
私法の学び方について概説をする。その道しるべとなることを強く意識する。日常生活の中での法、法類型の中での私法、法以外の規範との関わり、権利・義務等について概観する。									
授 業 目 標 :									
財産法を中心とし、特に資本主義経済社会の法としての視点から、私法、民法への理解を深めます。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス (開講にあたって)					事前: 事後:事後の復習		講義	
2	私法の学び方 (定義や法律概念)					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
3	何のために法 (私法) はあるのか。(1:日常生活と法A)					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
4	何のために法 (私法) はあるのか。(1:日常生活と法B)					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
5	何のために法 (私法) はあるのか。(2:法の類型と機能A)					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
6	何のために法 (私法) はあるのか。(2:法の類型と機能B)					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
7	何のために法 (私法) はあるのか。(3:法と法以外の規範A)					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
8	何のために法 (私法) はあるのか。(3:法と法以外の規範B)					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
9	私法の淵源 (私法存在形式)					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
10	私法規範の体系					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
11	権利と義務 (1:公権・私権)					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
12	権利と義務 (2:私権)					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
13	私法の効力					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
14	私法の解釈					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
15	まとめ					事前:事前の予習 事後:事後の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「ポケット六法」(有斐閣)は、必ず準備してください。					初回講義日に伝えます。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業内容への参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講義への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習もお願いします。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	半期	選択・必修		単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	私法学 I (Private Law I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤原 俊雄								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>授業回数15回の最初の5回を法とは何か、そのうち私法といわれる法分野について解説します。それ以降の10回は個人と法的権利との関係ならびに権利行使に関する規制についてみていくことにします。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>法制度における私法の位置付け、②私法全体を貫く原理、③私法における権利の主体と権利行使についての法制度について理解することが目標です。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	国家における法制度はどのようになっているか。					事前：なし 事後：復習		講義	
2	法と道徳の違い。					事前：なし 事後：復習		講義	
3	国家における法制度の構成はどのようになっているか。					事前：なし 事後：復習		講義	
4	私法と公法の違いはどのように理解したらよいか。					事前：なし 事後：復習		講義	
5	私法上の権利＝私権とはどのようなものか。					事前：なし 事後：復習		講義	
6	私法と公法で適用上具体的な相違点はどのようになるか。					事前：なし 事後：復習		講義	
7	人はいつからいつまで私法上の権利が与えられるか。					事前：なし 事後：復習		講義	
8	行方不明者の権利関係と、その及ぼす影響。					事前：なし 事後：復習		講義	
9	保有する権利を行使する条件はどのようになっているか。					事前：なし 事後：復習		講義	
10	未成年者が単独で権利行使できないのは、どうしてか。					事前：なし 事後：復習		講義	
11	成年被保佐人に対する保佐制度はどのようになっているか。					事前：なし 事後：復習		講義	
12	被保佐人の法律行為に対する法律上の規制について。					事前：なし 事後：復習		講義	
13	精神上の障がい者の権利行使に対する法律の対応。					事前：なし 事後：復習		講義	
14	行為能力が制限されている者との取引での相手方の保護。					事前：なし 事後：復習		講義	
15	私法学の基本原理の再確認。					事前：なし 事後：復習		講義	
<p>教本：</p> <p>伊藤真『伊藤真の法学入門 補訂版』（日本評論社、2017、¥1,700）</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業が始まってから紹介します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（30%）、定期試験（70%）で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>講義に集中することと事後の復習が大事です。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	私法学Ⅱ (Private Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ (必須ではありません。原則、承継・継続して講義します。留意をお願いします。)							
	その他								
授業概要： 民法の通則としての総則領域を概観します。権利主体・権利客体、そして、法律行為、期間・条件、時効等を中心にみていきたいと思ひます。									
授業目標： 民法の通則を学ぶところから、特に資本主義経済社会の法としての視点から、私法、民法への理解を深めます。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス (開講にあたって)					事前： 事後：事後の復習		講義	
2	民法の基本原則					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
3	権利主体 (1：自然人と法人)					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
4	権利主体 (2：団体と法人)					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
5	権利主体 (3. 権利能力なき団体)					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
6	権利客体 (物)					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
7	法律行為の概説					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
8	制限行為能力者制度 (1：総説)					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
9	制限行為能力者制度 (1：未成年者)					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
10	制限行為能力者制度 (2：成年者・任意後見制度)					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
11	代理についての概説					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
12	表見代理についての概観					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
13	期間と条件					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
14	時効					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
15	まとめ					事前：事前の予習 事後：事後の復習		講義	
教本： 「ポケット六法」(有斐閣)は、必ず準備してください。					参考文献： 初回講義日に伝えます。				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習もお願いします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	私法学Ⅱ (Private Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤原 俊雄								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 授業回数15回において、①法律行為、②意思表示、③代理、④無効と取消、⑤条件・期限などにつき解説します。									
授業目標： 法制度における私法の位置付け、②私法全体を貫く原理、③私法における権利の主体と権利行使についての法制度等について理解することが目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	法律上の権利・義務が発生する行為とはどのようなものか					事前： 事後：事後の復習		講義	
2	法律行為を分類すると、どのような構成になるか。					事前： 事後：事後の復習		講義	
3	法律行為と公序良俗との関係はどのようにになっているか。					事前： 事後：事後の復習		講義	
4	意思表示とはどういうことをいうのか。					事前： 事後：事後の復習		講義	
5	意思表示に欠陥がある場合、その効果はどうなるのか。					事前： 事後：事後の復習		講義	
6	詐欺・脅迫により意思表示をした場合の効果はどうなるか。					事前： 事後：事後の復習		講義	
7	代理とはどのようなことをいうのか。					事前： 事後：事後の復習		講義	
8	代理権の発生事由と消滅事由について。					事前： 事後：事後の復習		講義	
9	代理権がない者のに代理人として行った行為の効果はどうなるのか。					事前： 事後：事後の復習		講義	
10	表見代理と無権代理について。					事前： 事後：事後の復習		講義	
11	法律行為の無効とはどのような意味で、どのような効果が発生するか。					事前： 事後：事後の復習		講義	
12	意思表示の無効とはどのようなことか。					事前： 事後：事後の復習		講義	
13	家族の法律問題					事前： 事後：事後の復習		講義	
14	姓、夫婦、親子関係など					事前： 事後：事後の復習		講義	
15	相続の法律問題					事前： 事後：事後の復習		講義	
教本： 伊藤真『伊藤真の民法入門 第6版』（日本評論社、2017、¥1,700）					参考文献： 授業が始まってから紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（30%）、定期試験（70%）で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 授業への集中と事後の予習が重要です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	実 用 英 語 I (Practical English I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>実用英語技能検定 (通称・英検) 準 2 級合格を目指し、実用英語能力を身に付けるための授業を行う。英検は、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四つの技能を、筆記・リスニング・スピーキング (面接) のテストで測定する。準 2 級の試験は一次試験 (筆記試験とリスニング) と二次試験 (英語での面接) から成る。授業では、一次試験対策として、出題傾向の分析に基づいて、よく出される単語・熟語・構文・会話表現を学習する。また、二次試験攻略のための練習もする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>実社会で役立つ実用英語能力の測定資格試験として定着している実用英語技能検定 (通称・英検) の準 2 級に合格すること、あるいは同程度の実用英語能力を身に付けること</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	導 入 授 業 : 授 業 の 進 め 方 と 授 業 概 要 の 説 明					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
2	筆 記 (語 法 ・ 文 法 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
3	筆 記 (語 法 ・ 文 法 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
4	筆 記 (会 話 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
5	筆 記 (語 順 整 序 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
6	筆 記 (長 文 穴 埋 め 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
7	筆 記 (長 文 穴 埋 め 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
8	筆 記 (長 文 読 解 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
9	筆 記 (長 文 読 解 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
10	リ ス ニ ン グ (対 話 の 応 答 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
11	リ ス ニ ン グ (対 話 の 内 容 一 致 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
12	リ ス ニ ン グ (英 文 内 容 一 致 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
13	ス ピ ー キ ン グ (面 接)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
14	模 擬 試 験 (過 去 問 題)					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
15	模 擬 試 験 (過 去 問 題)、ま と め					事 前 : 一 事 後 : 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教 科 書 は 使 用 し な い。プ リ ン ト を 配 付 す る。					適 宜、紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
平 常 点 (小 テ ス ト、受 講 態 度) (50%) と 定 期 試 験 (50%) で 総 合 的 に 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
真 剣 に 英 検 合 格 を 目 指 す 学 生 諸 君 の 履 修 登 録 を 求 め ま す。英 検 3 級 を 取 得 し て い る こ と あ る い は 同 程 度 の 能 力 の あ る こ と が 望 ま し い。毎 回 出 席 す る よ う 努 め よ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	実用英語Ⅱ (Practical English Ⅱ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	田中 一郎									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>実用英語技能検定（通称・英検）2級合格を目指し、実用英語能力を身に付けるための授業を行う。英検は、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四つの技能を、筆記・リスニング・スピーキング（面接）のテストで測定する。2級の試験は一次試験（筆記試験とリスニング）と二次試験（英語での面接）から成る。授業では、一次試験対策として、出題傾向の分析に基づいて、よく出される単語・熟語・構文・会話表現を学習する。また、二次試験攻略のための練習もする。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>実社会で役立つ実用英語能力の測定資格試験として定着している実用英語技能検定（通称・英検）の2級に合格すること、あるいは同程度の実用英語能力を身に付けること</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：一 事後：復習		講義		
2	筆記（短文の語句空所補充）					事前：一 事後：復習		講義		
3	筆記（短文の語句空所補充）					事前：一 事後：復習		講義		
4	筆記（短文中の語句整序）					事前：一 事後：復習		講義		
5	筆記（短文中の語句整序）					事前：一 事後：復習		講義		
6	筆記（長文の語句空所補充）					事前：一 事後：復習		講義		
7	筆記（長文の語句空所補充）					事前：一 事後：復習		講義		
8	筆記（長文の内容一致選択）					事前：一 事後：復習		講義		
9	筆記（長文の内容一致選択）					事前：一 事後：復習		講義		
10	リスニング（会話の内容一致選択）					事前：一 事後：復習		講義		
11	リスニング（会話の内容一致選択）					事前：一 事後：復習		講義		
12	リスニング（文の内容一致選択）					事前：一 事後：復習		講義		
13	リスニング（文の内容一致選択）					事前：一 事後：復習		講義		
14	まとめ スピーキング（面接）					事前：一 事後：復習		講義		
15	模擬試験（過去問題）					事前：一 事後：復習		講義		
<p>教本：</p> <p>教科書は使用しない。プリントを配付する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜、紹介する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（50%）と定期試験（50%）で総合的に評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>真剣に英検合格を目指す学生諸君の履修登録を求めます。英検準2級を取得していることあるいは同程度の能力のあることが望ましい。毎回出席するよう努めよう。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	児 童 家 庭 福 祉 (Child and family welfare)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 孝 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>児童家庭福祉の基本的な理念や歴史、制度、施設等の運営、ソーシャルワークなどについて体系的に学びます。また、少子化、保育問題、障がい児、児童虐待、子どもの貧困等を取り上げ、今日の子どもの問題の現状と課題について具体的事例の考察を通して保育に必要な知識を修得します。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①児童福祉の歴史を踏まえ、保育における児童家庭福祉について理解し説明する事ができる。②児童家庭福祉に関する幅広い視野と的確な視点を持てるようになる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	現代社会と児童家庭福祉① 少子高齢社会から見える子どもと家庭を取り巻く現状について学びます					事前：テキスト1章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
2	現代社会と児童家庭福祉② 子どもと家庭を取り巻く環境の変化と生活問題について学びます。					事前：テキスト第1章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
3	子どもの人権 子どもへの視点の変化や権利の動向について学びます。					事前：テキスト第2章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
4	児童家庭福祉の成立と展開 児童家庭福祉の歴史的展開について学びます。					事前：テキスト第3章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
5	児童家庭福祉の法体系、行財政、機関・施設① 児童家庭福祉の法体系、実施体制について学びます。					事前：テキスト第4章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
6	児童家庭福祉の法体系、行財政、機関・施設② 児童家庭福祉の機関と施設について学びます					事前：テキスト第4章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
7	子育て支援・次世代育成支援と保育施策 子育て支援施策と新制度における保育施策について学びます。					事前：テキスト第5章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
8	母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策 母子保健サービス、ひとり親家庭福祉について学びます。					事前：テキスト第6章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
9	子ども虐待とDV問題の防止施策① 児童虐待について学びます。					事前：テキスト第7章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
10	子ども虐待とDV問題の防止施策② DV問題について学びます。					事前：テキスト第7章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
11	社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策 社会的養護の体系と現状及び課題について学びます。					事前：テキスト第8章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
12	障害がある子どもへの福祉施策① 今日における障害観、障害福祉サービスについて学びます。					事前：テキスト第9章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
13	障害がある子どもへの福祉施策② 障害児保育、療育について学びます。					事前：テキスト第9章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
14	心理治療の必要性や非行問題を抱える子どもへの支援 心理治療を必要とする子どもへの支援について学びます。					事前：テキスト第10章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
15	児童家庭福祉の専門職と連携 児童家庭福祉を担う専門職と連携の必要性について学びます。					事前：テキスト第11章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
みらい×子どもの福祉ボックス「児童家庭福祉」喜多一憲・監修 堀場純矢・編集 みらい ¥2,100 (税別)					授業中に適宜資料を配布する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業内容への参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
児童福祉、保育、教育などに関する施策は「子どもの最善の利益の尊重」がうたわれています。子どもにとっての利益とは何かを真摯に問い直し一緒に学びましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	児童文学研究 (Children's Literature Research)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	牛山 恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： (1) 児童文学の作品講読による演習を中心に講義を進める。 (2) 浜田広介、佐野洋子、新美南吉、あまんきみこ、斉藤隆介、今西祐行、椋鳩十、安房直子、宮沢賢治等の国語教科書に掲載された作品を取り上げる。									
授業目標： (1) 明治24年の巖谷小波「こがね丸」を近代児童文学の始まりとし、現在のファンタジー童話に至る日本児童文学史をたどる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	児童文学とは何か（オリエンテーション）					事前：なし 事後：資料を読む		講義	
2	児童文学の歴史を振り返る					事前：なし 事後：資料を読む		講義	
3	「広介童話」の世界に親しむ					事前：作品を読む 事後：作品論を書く		演習＋講義	
4	佐野洋子の童話を読む					事前：作品を読む 事後：作品論を書く		演習＋講義	
5	あまんきみこの童話を読む ①					事前：作品を読む 事後：なし		演習＋講義	
6	あまんきみこの童話を読む ②					事前：作品を読む 事後：作品論を書く		演習＋講義	
7	今西祐行の童話を読む ①					事前：作品を読む 事後：なし		演習＋講義	
8	今西祐行きの童話を読む ②					事前：作品を読む 事後：作品論を書く		演習＋講義	
9	宮澤賢治童話の世界 ①					事前：作品を読む 事後：資料を読む		講義	
10	宮澤賢治童話の世界 ②					事前：作品を読む 事後：作品論を書く		演習＋講義	
11	斉藤隆介の童話を読む					事前：作品を読む 事後：なし		演習＋講義	
12	新美南吉の童話を読む					事前：作品を読む 事後：作品論を書く		演習＋講義	
13	椋鳩十の童話を読む					事前：作品を読む 事後：作品論を書く		演習＋講義	
14	安房直子の童話を読む					事前：作品を読む 事後：作品論を書く		演習＋講義	
15	児童文学の魅力（まとめ）					事前：なし 事後：レポート提出		講義	
教本：					参考文献： 『アプローチ児童文学』翰林書房				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、レポート等（70%）、で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に参加し、レポート課題の提出をしっかりとすることです。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学 (Sociology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	佃 直毅								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>社会と文化は人間の行為を通して制度という標準化された行為様式によって形づくられてきたものである。標準化され、制度化された人間の行為の集積が社会構造をつくり変動させ、社会としての機能を支えている。本授業科目では、社会を人間の行為を基盤においた社会のとらえ方を、いくつかの社会的構造や機能を通して学習する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>社会学の視点で、身の回りの社会の様子を見て、社会の理解を深めることができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	社会学的なものの見方					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
2	家族とは何か					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
3	家族のはたらき					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
4	家族関係の日本の特質					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
5	消えゆく「里」と「村人」たち					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
6	都市とは何か					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
7	コミュニティーの変貌					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
8	組織の中の人間労働					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
9	職場の中の緊張関係					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
10	職場生活・職業生活の変化					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
11	労働における人間の復権					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
12	歴史と社会の変動					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
13	近代化という変動					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
14	社会学と社会病理の解明					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
15	社会学の研究方法					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
<p>教本：</p> <p>秋元律郎他著「社会学入門」（新版）有斐閣新書</p>					<p>参考文献：</p> <p>姜尚中著「トーキョー・ストレンジャー」集英社 他は授業内で適宜紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>現実の社会生活に目を向けて、学んだ内容をあてはめてみる。テキストを読んでから授業に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	社会学 (Sociology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 社会学Ⅰでは、社会学のベーシックな部分を取り扱います。授業は①社会学とは何か②どのように社会の影響を受けているのか（社会化）③社会学的な考え方や手法といった3つの観点を中心に授業をすすめていきます。									
授業目標： 社会学的想像力／社会学的思考を身につけることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配付資料を読む		講義	
2	社会的存在としての自己					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
3	社会学的想像力とはなにか					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
4	文化と社会					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
5	社会化とはなにか					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
6	ジェンダーの社会化					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
7	家庭における社会化					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
8	学校における社会化					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
9	情報化社会の中の私					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
10	社会学史Ⅰ					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
11	社会学史Ⅱ					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
12	社会学史Ⅲ					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
13	社会学の手法Ⅰ					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
14	社会学の手法Ⅱ					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
15	まとめ					事前：配付資料を読み見直す 事後：振り返り自己評価する		講義	
教本： 配布プリントを使用します					参考文献： アンソニーギテンス「社会学（第五版）」而立書房 ¥3,888 その他適宜授業中に紹介します				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 社会学の狙いの一つは、社会学的思考を身につけることです。独学では難しいので、授業中、積極的に参加をし、一緒に考えていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学概論 (Sociology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	佃 直毅								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>社会と文化は人間の行為を通して制度という標準化された行為様式によって形づくられてきたものである。標準化され、制度化された人間の行為の集積が社会構造をつくり変動させ、社会としての機能を支えている。本授業科目では、社会を人間の行為を基盤においた社会のとらえ方を、いくつかの社会的構造や機能を通して学習する。</p> <p>授業目標：</p> <p>社会学の視点で、身の回りの社会の様子を見て、社会の理解を深めることができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	社会学的なものの見方					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
2	家族とは何か					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
3	家族のはたらき					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
4	家族関係の日本の特質					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
5	消えゆく「里」と「村人」たち					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
6	都市とは何か					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
7	コミュニティーの変貌					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
8	組織の中の人間労働					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
9	職場の中の緊張関係					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
10	職場生活・職業生活の変化					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
11	労働における人間の復権					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
12	歴史と社会の変動					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
13	近代化という変動					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
14	社会学と社会病理の解明					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
15	社会学の研究方法					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
<p>教本：</p> <p>秋元律郎他著「社会学入門」（新版）有斐閣新書</p>					<p>参考文献：</p> <p>姜尚中著「トーキョー・ストレンジャー」集英社 他は授業内で適宜紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>現実の社会生活に目を向けて、学んだ内容をあてはめてみること。テキストを読んでから授業に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学概論 (Sociology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>社会学概論Ⅰでは、社会学のベーシックな部分を取り扱います。授業は①社会学とは何か②どのように社会の影響を受けているのか（社会化）③社会的な考え方や手法といった3つの観点を中心に授業をすすめていきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>社会的想像力／社会的思考を身につけることを目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配付資料を読む		講義	
2	社会的存在としての自己					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
3	社会的想像力とはなにか					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
4	文化と社会					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
5	社会化とはなにか					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
6	ジェンダーの社会化					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
7	家庭における社会化					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
8	学校における社会化					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
9	情報化社会の中の私					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
10	社会学史Ⅰ					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
11	社会学史Ⅱ					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
12	社会学史Ⅲ					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
13	社会学の手法Ⅰ					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
14	社会学の手法Ⅱ					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
15	まとめ					事前：配付資料を読み見直す 事後：振り返り自己評価する		講義	
<p>教本：</p> <p>配布プリントを使用します</p>					<p>参考文献：</p> <p>アンソニーギテンス「社会学（第五版）」而立書房 ¥3,888 その他適宜授業中に紹介します</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>社会学の狙いの一つは、社会的思考を身につけることです。独学では難しいので、授業中、積極的に参加をし、一緒に考えていきましょう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学概論 I (Sociology I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	佃 直毅								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>社会と文化は人間の行為を通して制度という標準化された行為様式によって形づくられてきたものである。標準化され、制度化された人間の行為の集積が社会構造をつくり変動させ、社会としての機能を支えている。本授業科目では、社会を人間の行為を基盤においた社会のとらえ方を、いくつかの社会的構造や機能を通して学習する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>社会学の視点で、身の回りの社会の様子を見て、社会の理解を深めることができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	社会学的なものの方					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
2	家族とは何か					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
3	家族のはたらき					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
4	家族関係の日本の特質					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
5	消えゆく「里」と「村人」たち					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
6	都市とは何か					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
7	コミュニティーの変貌					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
8	組織の中の人間労働					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
9	職場の中の緊張関係					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
10	職場生活・職業生活の変化					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
11	労働における人間の復権					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
12	歴史と社会の変動					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
13	近代化という変動					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
14	社会学と社会病理の解明					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
15	社会学の研究手法					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
<p>教本：</p> <p>秋元律郎他著「社会学入門」（新版）有斐閣新書</p>					<p>参考文献：</p> <p>姜尚中著「トーキョー・ストレンジャー」集英社 他は授業内で適宜紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>現実の社会生活に目を向けて、学んだ内容をあてはめてみること。テキストを読んでから授業に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学概論 I (Sociology I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>社会学概論 I では、社会学のベーシックな部分を取り扱います。授業は①社会学とは何か②どのように社会の影響を受けているのか（社会化）③社会的な考え方や手法といった3つの観点を中心に授業をすすめていきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>社会的想像力／社会的思考を身につけることを目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配付資料を読む		講義	
2	社会的存在としての自己					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
3	社会的想像力とはなにか					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
4	文化と社会					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
5	社会化とはなにか					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
6	ジェンダーの社会化					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
7	家庭における社会化					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
8	学校における社会化					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
9	情報化社会の中の私					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
10	社会学史 I					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
11	社会学史 II					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
12	社会学史 III					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
13	社会学の手法 I					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
14	社会学の手法 II					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
15	まとめ					事前：配付資料を読み見直す 事後：振り返り自己評価する		講義	
<p>教本：</p> <p>配布プリントを使用します</p>					<p>参考文献：</p> <p>アンソニーギテンス「社会学（第五版）」而立書房 ¥3,888 その他適宜授業中に紹介します</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>社会学の狙いの一つは、社会的思考を身につけることです。独学では難しいので、授業中、積極的に参加をし、一緒に考えていきましょう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	社会学概論Ⅱ (Sociology Ⅱ)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	佃 直毅									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>本科目では、身近に起こっている出来事を手がかりにしながら、社会の実像や人間の姿にせまろうとするものである。男女差、民族、宗教など、社会の移り変わりや文化変容などをとらえるなかで、人間のあり方についても考察を行ってゆく。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>現代の社会が直面している身近な問題（たとえば高齢社会問題、技能革新に伴う急激な社会変化、生き方の多様化など）を通して、社会の現実や社会を個人との新たな相互作用の特質について学ぶことを目標としている。</p> <p>この学習を通して社会を見る目、人々の行動への対応の仕方など、社会学的なものの見方を身につけることが到達目標である。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	文化の研究としての社会学					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
2	文化の伝承と統制					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
3	社会と文化の相互関係					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
4	セックスとジェンダー・ジェンダーフリー社会					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
5	女らしさと男らしさによる職業のステレオタイプ					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
6	エスニシティーと文化					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
7	在日外国人との関わり方の歴史的考案					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
8	在日外国人の文化適応と世代差					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
9	宗教と文化					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
10	資本主義の発展と信仰のエトス					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
11	コミュニティ感情と地域社会					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
12	都市化とコミュニティの崩壊					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
13	ファッションと新たな文化の創造					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
14	スポーツ文化と社会変容					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
15	メディア社会との遭遇					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義		
<p>教本：</p> <p>伊藤高雄、橋本満編「はじめて出会う社会学」有斐閣双書</p>					<p>参考文献：</p> <p>刈谷剛彦他著「教育の社会学」有斐閣アルマ その他は必要に応じ適宜紹介する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>予習と復習（テキストを読む）は、かならず行って下さい。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学概論Ⅱ (Sociology Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	社会学概論Ⅰを履修していないと、授業についていくことは難しい							
	その他	なし							
授業概要： 社会学概論Ⅱでは社会学概論Ⅰで学習した社会的なスキルを実践し、一人一人が活用できるようにすることを目的とするため、ディスカッションやグループ作業を多く取り入れます。授業は①社会学とは何か(社会学Ⅰの復習)②家族の社会学③教育の社会学④社会変化と私たちといった、4領域を扱うことを考えています。									
授業目標： 社会的想像力/社会的思考を身につけることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配付資料を読む		講義	
2	社会学とは何かⅠ 社会的存在としての自己					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
3	社会学とは何かⅡ 社会的想像力					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
4	家族の社会学Ⅰ 現代家族の多様化					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
5	家族の社会学Ⅱ 少子化社会					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
6	家族の社会学Ⅲ 未婚化					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
7	家族の社会学Ⅳ 子どもの貧困					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
8	教育の社会学Ⅰ 家庭教育					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
9	教育の社会学Ⅱ 学校の社会的機能					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
10	教育の社会学Ⅲ ヒドゥンカリキュラム					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
11	教育の社会学Ⅳ 教育と権力					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
12	社会変化と私たちⅠ ジェンダー					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
13	社会変化と私たちⅡ 情報化社会					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
14	社会変化と私たちⅢ					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
15	まとめ					事前：配付資料を読み直す 事後：振り返り自己評価する		講義	
教本： 配布プリントを使用します					参考文献： アンソニーギテンス「社会学(第五版)」而立書房 ¥3,888 その他適宜授業中に紹介します				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等(50%)、小テスト・レポート等(20%)、定期試験(30%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 社会学の狙いの一つは、社会的思考を身につけることです。独学では難しいので、授業中、積極的に参加をし、一緒に考えていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社会心理学概論 (Social Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>社会心理学はその研究対象が極めて広いため、幾つかのトピックスを取り上げて授業を行う。本授業では主に、個人における対人認知のあり方や、集団内における対人関係性のあり方、及び集団が個人に対する意見や態度変容を促す要因や仕組みを学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>各トピックスが内包する心理学的な知識の習得にとどまらず、各事例が有する問題点に気づき、自分なりに考え、解釈することが出来るようになるまでが目標である。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授業の進め方、授業内容等に関するオリエンテーション					事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義	
2	社会心理学の歴史、社会心理学の扱うテーマ・方法					事前：教科書pp.8-18 事後：ノートの整理・復習		講義	
3	傍観者効果、多元的無知					事前：教科書pp.20-23 事後：ノートの整理・復習		講義	
4	社会的促進、社会的抑制、注意のコンフリクト					事前：教科書pp.24-27 事後：ノートの整理・復習		講義	
5	ホーソン実験、人間関係論、メイヨー、レスリスパーガー					事前：教科書pp.28-31 事後：ノートの整理・復習		講義	
6	同調行動、集団斉一性、集団規範、集団凝集性					事前：教科書pp.34-37 事後：ノートの整理・復習		講義	
7	認知的不協和理論、フェスティンガー、反態度的行動					事前：教科書pp.38-41, 86-7 事後：ノートの整理・復習		講義	
8	態度、認知的成分、感情的成分、行動的成分					事前：教科書pp.74-77 事後：ノートの整理・復習		講義	
9	社会的アイデンティティ、ハイダー、バランス理論					事前：教科書pp.80-85 事後：ノートの整理・復習		講義	
10	自己知覚理論、内発的動機づけ、自己効力感					事前：教科書pp.88-93 事後：ノートの整理・復習		講義	
11	内集団、外集団、ステレオタイプ、偏見、社会的比較					事前：教科書pp.106-111 事後：ノートの整理・復習		講義	
12	集団的浅慮、心理的拘泥現象、集団意思決定					事前：教科書pp.142-147 事後：ノートの整理・復習		講義	
13	説得的コミュニケーション、精緻化見込みモデル					事前：教科書pp.118-121 事後：ノートの整理・復習		講義	
14	スタンフォード監獄実験、ジンバルド、没個性化					事前：教科書pp.60-61 事後：ノートの整理・復習		講義	
15	全体のまとめ					事前： 事後：		講義	
<p>教本：</p> <p>山岸俊男監修「徹底図解 社会心理学」(新星出版)</p>					<p>参考文献：</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>定期試験(100%)等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験をしても評価はしないこととするので、注意されたい。授業は教科書を用いて行う。授業を通じて学ぶ知識と、日常生活で生じる様々な出来事とを関連付けて考えるように心がけることを希望する。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	社会心理学実験演習 (Social Psychology Experimentation)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	心理学実験法、心理学統計法、データ処理入門を履修していることが望ましい							
	その他	なし							
授業概要： 本演習では、社会心理学の基本的な研究方法について、グループでの演習を行いながら学ぶ。基本的には、実験や調査によるデータ取得の方法とあわせてそのデータの解析方法を学び、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」から成る研究レポートを提出していただく。									
授業目標： 実験・調査を体験し、研究レポートを作成することにより、人間の行動や内的状態を測定し、得られたデータから結論を導き出すプロセスを体得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、レポートの書き方					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	社会心理学実験・調査①：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習	
3	社会心理学実験・調査①：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習	
4	社会心理学実験・調査①：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習	
5	社会心理学実験・調査①：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習	
6	社会心理学実験・調査②：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習	
7	社会心理学実験・調査②：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習	
8	社会心理学実験・調査②：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習	
9	社会心理学実験・調査②：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習	
10	社会心理学実験・調査③：実施					事前：資料確認 事後：実施内容のまとめ		演習	
11	社会心理学実験・調査③：データ分析					事前：分析法の確認 事後：分析結果のまとめ		演習	
12	社会心理学実験・調査③：結果のまとめ					事前：図表作成法の確認 事後：図表の作成		演習	
13	社会心理学実験・調査③：考察ディスカッション、レポート作成					事前：結果の考察 事後：レポート作成		演習	
14	予備日					事前：資料確認・課題検討 事後：演習内容の復習		演習	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		演習	
教本： なし。授業中に資料を配布する。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、レポート（60%）で総合評価する。授業の3分の2以上に出席し、かつ3本のレポート全てを提出した場合にのみ、成績評価の対象となる。									
学生へのアドバイス： グループで行った実験・調査の結果をレポートにまとめていく演習であるため、授業への出席は、非常に重要である。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	社会調査研究法演習 (Practical Training of Field Work)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	菅沼 憲治									
履 修 条 件	前提科目	フィールドワーク (調査研究) を履修していること								
	その他									
授業概要： 緊急事態の公的支援に当たる職業人が消防職員である。消防職員のストレスマネジメント研究から今後の研究に役立つ知見を学ぶことにする。										
授業目標： ①地域社会から派生した課題解決に向けた調査研究の仕方を学ぶ ②先行研究から学んだ点を活かし研究発表に必要な資質を育てる。										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			○			◎				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態		
1	オリエンテーション					事前：シラバス精読 事後：復習		講義		
2	心理学とストレス研究					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
3	惨事ストレス対策					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
4	デフュージング実施の手順					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
5	デブリーフィングとは何か					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
6	グループ・アプローチの必要性					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
7	アウトリーチ・カウンセリング					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
8	消防職員と惨事ストレス					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
9	惨事ストレスが発生しやすい緊急事態					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
10	惨事ストレスによるストレス反応の理解					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
11	包括的な惨事ストレス対策					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
12	緊急事態支援活動後の心身のケア					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
13	ストレス予防・対処法					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
14	震災等大規模災害発生時の消防職員に対する対処事例					事前：なし 事後：コメントシート記入		講義と演習		
15	授業のまとめ					事前：なし 事後：なし		講義		
教本： 教科書は使用せず、資料を配付する。					参考文献： 「消防士を救え」加藤 寛、東京法令出版					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (60%)、レポート等 (40%)、で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 授業内での取り組みが大切です。積極的な授業参加を期待します。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	両方
授業科目(英文)	社会調査入門 (Primary Social Research)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	統計に関わる授業を履修していることが望ましい							
	その他	各自 PC を持参すること							
授業概要： 社会調査とは何か、また調査結果をどのような形で分析に繋げることが出来るのか、という一連の過程を学ぶ。具体的には、得られた調査結果をエクセルのシート上に入力することに始まり、各人で初歩の統計法を用いることで調査対象が有する潜在的な特性を明らかにする。社会調査に関わる知識のみにとどまらず、PCを用い、各自で表数計算用のエクセルの活用ができるまでとする。									
授業目標： 社会調査の意味や手続きに加え、初歩の統計に関わる知識も学ぶ。この過程において、各自でPCを用い、エクセル上で初歩の分析ができ、かつ結果を正しく解釈できるまでを授業目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の進め方、授業内容等に関するオリエンテーション					事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義	
2	社会調査の目的・種類、調査実施方法、統計法					事前：教科書 pp.2-10 事後：ノートの整理・復習		講義	
3	社会調査研究のプロセス、操作的定義と仮説の設定					事前：教科書 pp.11-20 事後：ノートの整理・復習		講義	
4	社会調査の倫理、インフォームド・コンセント					事前：教科書 pp.20-29 事後：ノートの整理・復習		講義	
5	量的調査の性質、平均値、分散、標準偏差					事前：教科書 pp.32-38 事後：ノートの整理・復習		講義・演習	
6	平均値・分散の意味、平均値や分散に関する計算実習					事前：配布資料の予習 事後：ノートの整理・復習		講義・演習	
7	ヒストグラム分布作成手順と作成作業実習					事前：配布資料の予習 事後：ノートの整理・復習		講義・演習	
8	ヒストグラム分布作図作業実習					事前：配布資料の予習 事後：ノートの整理・復習		講義・演習	
9	統計検定法、t検定法、F検定法					事前：配布資料の予習 事後：ノートの整理・復習		講義・演習	
10	t検定法を用いた計算実習					事前：配布資料の予習 事後：ノートの整理・復習		講義・演習	
11	SD法、カラーイメージの測定実習					事前：配布資料の予習 事後：ノートの整理・復習		講義・演習	
12	カラーイメージ測定結果の処理手続きの実習					事前：配布資料の予習 事後：ノートの整理・復習		講義・演習	
13	カラーイメージ結果の空間表示作業の実習					事前：配布資料の予習 事後：ノートの整理・復習		講義・演習	
14	カラーイメージ測定結果に対する t 検定法実施の実習					事前：配布資料の予習 事後：ノートの整理・復習		講義・演習	
15	全体のまとめ					事前：教科書・資料の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
教本： 宮本和彦・梶原隆之・山村豊編「社会福祉士シリーズ5 社会調査の基礎」(弘文堂)					参考文献： 日花弘子著「できるビジネスパーソンのためのExcel統計解析入門」(SBクリエイティブ)				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1/3を超える場合には、受験しても評価しないこととする。本授業は、演習時間が大半を占めることにより、必ず出席するように希望する。加えて本授業では演習が多いため、各人でPCを持参することとする。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	両 方
授 業 科 目 (英 文)	社 会 調 査 法 (Social Research)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 澤 伸 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	社 会 調 査 入 門							
	そ の 他	各 自 PC を 持 参 す る こ と							
授 業 概 要 :									
<p>社会調査入門では、調査結果が量的数値として得られる場合を学んできたが、本授業では主に郵送調査や電話調査、様々なアンケートにおいて得られる質的数値での調査法を学ぶ。本授業においては社会調査に関わる知識のみにとどまらず、PCを用い、各自で表数計算用のエクセルの活用ができるまでとする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>社会調査の意味や手続きに加え、初歩の統計に関わる知識も学び、最終的に各人で質問項目を作成・実施し、かつ分析できるまでを授業目標とする。その過程でエクセルシートを活用し、データ入力、分析、結果のまとめとしても作図・作表方法を習得する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 進 め 方 、 授 業 内 容 等 に 関 す る オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス の 精 査 事 後 : シ ラ バ ス の 確 認		講 義	
2	調 査 の 企 画 ・ 準 備 、 調 査 票 の 作 成					事 前 : 教 科 書 pp.38-54 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
3	調 査 の 実 施 、 母 集 団 と 標 本 、 無 作 為 抽 出 法					事 前 : 教 科 書 pp.55-68 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
4	統 計 的 検 定 法 、 記 述 統 計 、 推 測 統 計					事 前 : 教 科 書 pp.68-80 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
5	質 的 調 査 の 特 徴 ・ 種 類 、 観 察 法 の 実 施 ・ 記 録 法					事 前 : 教 科 書 pp.84-100 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
6	面 接 法 の 実 施 ・ 記 録 法 、 信 頼 性 ・ 妥 当 性					事 前 : 教 科 書 pp.101-120 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
7	質 問 紙 調 査 と プ ロ セ ス 、 調 査 票 の 基 本 構 成					事 前 : 教 科 書 pp.126-149 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
8	質 的 社 会 調 査 の 実 際 例 、 研 究 デ ザ イン 、 デ ー タ 取 集 方 法					事 前 : 教 科 書 pp.162-172 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
9	研 究 テ ー マ の 設 定 作 業					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 ・ 演 習	
10	調 査 項 目 の 作 成 作 業					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 ・ 演 習	
11	調 査 票 の 作 成 作 業 と 実 施					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 ・ 演 習	
12	上 記 で 得 ら れ た 調 査 デ ー タ の 入 力 、 基 本 統 計 量 の 算 出					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 ・ 演 習	
13	基 本 統 計 量 の 算 出 、 作 図 ・ 作 表 実 習					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 ・ 演 習	
14	得 ら れ た 結 果 に 対 す る 考 察 実 習					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 ・ 演 習	
15	全 体 の ま と め					事 前 : 教 科 書 ・ 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
宮 本 和 彦 ・ 梶 原 隆 之 ・ 山 村 豊 編 「社 会 福 祉 士 シ リ ー ズ 5 社 会 調 査 の 基 礎」 (弘 文 堂)					日 花 弘 子 著 「で き る ビ ジ ネ ス パ ー ソ ン の た め の Excel 統 計 解 析 入 門」 (SB ク リ エ イ テ ィ ブ)				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、 定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠 席 回 数 が 全 体 の 1/3 を 超 え る 場 合 に は、 受 験 し て も 評 価 し な い こ と と す る。 本 授 業 は、 演 習 時 間 が 大 半 を 占 め る こ と に よ り、 必 ず 出 席 す る よ う に 希 望 す る。 加 え て 本 授 業 で は 演 習 が 多 い た め、 各 人 で PC を 持 参 す る こ と と す る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社会的養護 (Social care)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴木 孝子								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 保護者がいない子どもや保護者がいても適切な養育を得られない子どもがいます。また、一方で、子どもの養育に大きな困難を抱える保護者もいます。このような子どもや保護者の問題状況の解決や緩和をめざす社会的養護の包括的な取り組みについて学びます。また、児童福祉施設における児童養護の実践について学びます。									
授業目標： ①社会的養護に関する制度・施策について述べることができる。②援助内容の理解をふまえて、保育に必要な知識を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	社会的養護の基本原則とその現状① 社会的養護の概念およびその理念と原理について学びます。					事前：テキスト第1章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
2	社会的養護の基本原則とその現状② 社会的養護の現状について学びます。					事前：テキスト第1章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
3	社会的養護の歴史的 わが国の社会的養護のあゆみについて学びます。					事前：テキスト第2章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
4	子どもの権利養護 社会的養護における子どもの権利保障について学びます。					事前：テキスト第3章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
5	社会的養護の体系と実践① 措置制度や社会的養護に関する法律について学びます					事前：テキスト第4章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
6	社会的養護の体系と実践② 施設養護と家庭養護について学びます。					事前：テキスト第4章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
7	社会的養護の領域と概要①-1 養護系施設について学びます。					事前：テキスト第5章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
8	社会的養護の領域と概要①-2 養護系施設について学びます。					事前：テキスト第5章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
9	社会的養護の領域と概要①-3 養護系施設について学びます。					事前：テキスト第5章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
10	社会的養護の領域と概要② 家庭養護について学びます					事前：テキスト第6章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
11	社会的養護の領域と概要③ 障害系施設について学びます。					事前：テキスト第7章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
12	社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理 社会的養護に関わる専門職、職業倫理について学びます。					事前：テキスト第8章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
13	社会的養護とソーシャルワーク① 社会的養護におけるソーシャルワークの意義を学びます。					事前：テキスト第9章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
14	社会的養護とソーシャルワーク② ソーシャルワークの各援助について学びます。					事前：テキスト第9章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
15	施設の運営管理 施設運営について学びます。					事前：テキスト第10章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
教本： みらい×子どもの福祉ボックス「社会的養護」喜多一憲・監修 堀場純矢・編集 みらい ¥2,100（税別）					参考文献： 授業中に適宜資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日常的に何気なく繰り返されている家庭生活を見つめ直しつつ、社会的養護の元で生活する子どもの心に思いを寄せてともに学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	社会的養護内容 (Social care)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 孝子								
履 修 条 件	前提科目	社会的養護							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>児童福祉施設を利用する子どもとその家族は様々な事情や問題を抱えています。この授業では社会的養護を必要とする子どもとその家族への具体的な支援内容について学びます。さらにグループワークにおいて事例検討等を行い、児童福祉施設における保育士の役割と意義を理解し、支援方法や援助技術についての基本的姿勢を修得します。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について説明することができる。</p> <p>②社会的養護における保育士の専門性について自分の考えを述べるができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	子どもの養護と保育士					事前： 事後：授業の要点をまとめる		演習	
2	施設養護のプロセスの理解					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
3	保育士の基本的な社会的養護援助・支援					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
4	こころの援助					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
5	親子関係の援助					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
6	地域・学校との関係作り・整備の援助					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
7	自己実現・自立への支援・援助					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
8	児童福祉施設の運営管理					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
9	児童福祉施設における保育士の資質と倫理					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
10	ケーススタディ① 乳児院のケース					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
11	ケーススタディ② 児童養護施設のケース					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
12	ケーススタディ③ 障害児施設のケース					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
13	ケーススタディ④ 児童相談所のケース					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
14	ケーススタディ⑤ 里親制度に関するケース					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
15	今後の社会的養護の展望と課題					事前：配布プリントの予習 事後：授業の要点をまとめる		演習	
<p>教本：</p> <p>なし。授業時にプリントを配布。</p>					<p>参考文献：</p> <p>「社会的養護」みらい×子どもの福祉ボックス（2年次に使用した教科書）</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>2年次において学んだ「社会的養護」を基礎に主にグループ討議を行うので積極的な発言を期待します。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社会福祉概論 (Social Welfare Introduction)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴木 孝子								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>社会福祉の理念、歴史、制度・政策、援助実践などを総論的に学び、現代社会における社会福祉の全体像を体系的に理解します。合わせて日常的に起こる様々な事例を取り上げ解説し、社会福祉の課題が身近なところにあることを学びます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①社会福祉にかかわる諸問題、制度、法律などの概要を説明できる。②現代社会福祉の意味を知り、保育を実践する上で関連づけすることができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	保育における社会福祉 保育における社会福祉について学びます。					事前：テキスト序章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
2	子どもと家族の福祉① 社会福祉と関連法について学びます。					事前：テキスト第1章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
3	子どもと家族の福祉②-1 子どもの貧困、児童家庭福祉に関わる行政機関等について学びます。					事前：テキスト第2章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
4	子どもと家族の福祉②-2 子どもの権利、児童虐待について学びます。					事前：テキスト第2章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
5	子どもと家族の福祉②-3 社会福祉サービスの利用の仕組みと社会的養護について学びます。					事前：テキスト第2章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
6	社会保障 社会保障、年金制度、医療保険の仕組みについて学びます。					事前：テキスト第3章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
7	障がい児・者福祉① 障害のとりえ方、障害児・者福祉の考え方について学びます。					事前：テキスト第4章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
8	障がい児・者福祉② 障害の種類、障害児・者福祉の法律・制度について学びます。					事前：テキスト第4章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
9	女性への福祉的支援 DVとその対策について学びます。					事前：テキスト第4章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
10	地域福祉 地域福祉と地域福祉を支える機関・団体について学びます。					事前：テキスト第5章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
11	ソーシャルワーク① ソーシャルワークとは何か、保育相談支援について学びます。					事前：テキスト第6章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
12	ソーシャルワーク② 保育者にとってなぜソーシャルワークが必要か学びます。					事前：テキスト第6章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
13	低所得者の福祉① 生活保護の歴史と仕組みについて学びます。					事前：テキスト第7章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
14	低所得者の福祉② ホームレスへの対策等について学びます。					事前：テキスト第7章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
15	高齢者福祉 介護保険制度、利用者保護制度について学びます。					事前：テキスト第8章を読む 事後：要点をまとめる		講義	
<p>教本：</p> <p>図解で学ぶ保育「社会福祉 第2版」直島正樹・原田句哉 編著 明文書 授業中に適宜資料を配布する。 林 ¥2,100 (税別)</p>					<p>参考文献：</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>幅広い視野に立つことが保育の実践において望まれます。社会福祉を学ぶことはその基礎作りです。新聞、テレビなどとおして社会福祉に関する時事問題をフォローしておきましょう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	集団の社会心理学						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本講義では、多文化が共存する場面や環境で、どのような心の動きや行動が生じ、それらが人間形成にどのように関わるのかについて学ぶ。									
授業目標： 多文化が共存する場面で生じていることについて、心理学的に説明することができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	文化とは何か					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
3	文化と自己					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
4	文化と幸福感					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
5	同調					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
6	ステレオタイプと偏見					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
7	異文化接触・異文化体験					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
8	異文化適応とカルチュア・ショック					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
9	異文化間コミュニケーション					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
10	多文化の中の人間					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
11	文化的アイデンティティ					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
12	バイカルチュラリズムとバイリンガリズム					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
13	異文化遭遇とメンタルヘルス					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
14	異文化間カウンセリングと異文化間トレーニング					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教本： なし。授業中に資料を配布する。					参考文献： 鈴木一代『異文化間心理学へのエントランス －多文化社会と心理学へのアプローチ』おうふう				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義には、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	集団間の対立と和解 (Conflict and Compromise for Groups)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	「文化心理学」を履修済みであること							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>多文化共存場面では、対人的葛藤が起きて当たり前である。この対立が和解に向かうと望ましいが、逆に紛争に発展すると不健康になる。自助・共助・公助の支援段階でまず自助努力がWIN-WINに至る過程であることを学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>対人葛藤を解決するには、WIN-WINを目的にしたコミュニケーションが大切であることを理解する。さらに、セルフ・アサーション・トレーニングにより自己成長を促進する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの精読 事後：復習する		講義	
2	セルフ・アサーション・トレーニングの目的					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
3	アサーティブ行動とは何か					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
4	金魚鉢方式のロールプレイング					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
5	セルフに気づく					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
6	さわやかなアサーション					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
7	しなやかなアサーション					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
8	すこやかなアサーション					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
9	日本文化とアサーション					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
10	アサーティブ行動の査定					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
11	アサーションいろはかるたの実習					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
12	ファシリテーターになる					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
13	トレーニングの倫理綱領					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
14	セルフ・アサーション・トレーニング研究					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本： 参考文献：</p> <p>『セルフ・アサーション・トレーニング 増補改訂』菅沼憲治著、東京図書 授業中に随時紹介する。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（60%）、小テスト・レポート等（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>自己の気づき体験を記録した資料を分析し考察する姿勢を持ちつつ授業に参加する。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	障がい児支援教育 (Special Needs Education for Handicapped Children)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	作間 祐子								
履 修 条 件	前提科目	発達と学習の心理							
	その他	なし							
授業概要： 心身の発達に障がいがある、または疑われる子どもの状態像を理解するために、乳幼児期の発達の問題を通して人の成り立ちについての理解を深める。更に様々な障がいの原因と症状、早期発見、対応の仕方、発達支援の制度などについて、事例を通して学習する。									
授業目標： 1 心身の発達に障がいや偏りのある子どもの状態像を理解できる。 2 保護者やほかの専門家と連携して発達支援ができるように、障害児支援教育にける基礎的・実践的な力を得ることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	障がい児支援教育を学ぶ意義と、学ぶための海図を作成する					事前：期待する事のまとめ 事後：疑問点の整理		講義	
2	人の成り立ち：発達障がいを理解するのに必要な脳と神経系・感覚器などの知識について					事前：資料を読む 事後：疑問点の整理		講義	
3	発達上の問題点を理解するのに必要な知識としての発達について					事前：資料を読む 事後：疑問点の整理		講義	
4	統合保育の事例と、各自の身近な事例を挙げての検討					事前：資料を読む 事後：疑問点の整理		講義	
5	発達障がいについて(1)原因・発現時期による分類に基づく各論					事前：資料を読む 事後：疑問点の整理		講義	
6	発達障がいについて(2) 症状・状態像による分類に基づく各論					事前：資料を読む 事後：疑問点の整理		講義	
7	自閉スペクトラム症の理解と対応について：事例も含めて					事前：資料を読む 事後：疑問点の整理		講義とビデオ	
8	注意欠陥多動障がいの理解と対応について：事例も含めて					事前：資料を読む 事後：疑問点の整理		講義	
9	精神遅滞（知的障がい）の理解と対応について：事例も含め					事前：資料を読む 事後：疑問点の整理		講義	
10	言語発達障がい：幼児期に多い言語発達上の諸問題の理解と対応について					事前：資料を読む 事後：疑問点の整理		講義	
11	発達診断：様々な視点（家族・生育歴・発達レベル・質的差異）による検討に仕方について					事前：資料を読む 事後：疑問点の整理		講義	
12	早期発見・対応のためのシステムと専門家との連携について					事前：資料を読む 事後：疑問点の整理		講義	
13	保護者への対応について：事例検討					事前：資料を読む 事後：疑問点の整理		講義と討論	
14	クラスの中の障がい児をめぐる子どもたちとの関わりについて					事前：事例をさがす 事後：意見をまとめる		講義と討論	
15	様々な能力をうまく生かして生きていくことについて……自分も含めて					事前：発表の準備		討論	
教本： 毎回作成のプリントや資料を使用					参考文献： 渡部信一他、新保育ライブラリー『障害児保育』北大路書房、2014				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 発達障がいを学ぶことを通じて人間をより詳しく理解したいという気構えで受講してほしい									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	障がい児保育 (Childcare of disabled children)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	赫多 久美子								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 障がい児保育の基本と取り組み方、保育内容、方法について基本的な知識を習得するとともに、様々な障がいのある子どもに対する正しい理解と適切な支援の仕方の基本を身につけることを目的とします。									
授業目標： 1. 障がいを正しく理解し、基本的な保育内容・方法について説明できる。 2. 障がい児を適切に支援できる心構えが身についている。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「障がい」の概念、ICFの生活機能構造モデルについて					事前：テキスト第1章の予習 事後：講義の復習		講義・グループ ディスカッション	
2	障がい児保育の歴史と現状 ノーマライゼーション、インクルーシブによる保育について					事前：テキスト第9章の予習 事後：講義の復習		講義・グループ ディスカッション	
3	障がい児の通う療育・保育機関とかわかる人々との連携 地域の専門機関、他職種とのネットワーク構築について					事前：テキスト第4章の予習 事後：講義の復習		講義・グループ ディスカッション	
4	障がい児保育の基本と取り組み方 適切な保育環境、クラス経営、保育者間の協同について					事前：テキスト第6・7章の予習 事後：講義の復習		講義・グループ ディスカッション	
5	障がい児保育の内容 生活習慣の形成、他者との関係の形成、行事の参加等について					事前：テキスト第5章の予習 事後：講義の復習		講義・グループ ディスカッション	
6	視覚障がい児の保育の実際 見ることに困難を抱える子どもたちの理解と支援について					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・演習	
7	聴覚障がい児の保育の実際 聞くことに困難を抱える子どもたちの理解と支援について					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・演習	
8	知的障がい児の保育の実際 知的に遅れを伴う子どもたちの理解と支援について					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・演習	
9	肢体不自由児の保育の実際 四肢の動きに困難を抱える子どもたちの理解と支援について					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・演習	
10	病弱児の保育の実際 病気による困難を抱える子どもたちの理解と支援について					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・演習	
11	重度重複障がい児の保育の実際 医療的ケアの必要な子どもたち等の理解と支援について					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・演習	
12	発達障がい児の保育の実際 (1) 自閉症スペクトラム等の子どもの理解と支援について					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・演習	
13	発達障がい児の保育の実際 (2) LD, ADHD等の子どもの理解と支援について					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・演習	
14	障がいのある子どもの家族支援 保護者・きょうだいの理解と支援について					事前：テキスト第3章の予習 事後：講義の復習		講義・演習	
15	まとめ 障がい児保育の課題と展望					事前：これまでの復習 事後：講義の復習		講義・グループ ディスカッション	
教本： 講義の中で提示する。					参考文献： 講義の中で提示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、発表・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 障がいのある子供たちの保育・教育に関する書籍、ニュース、新聞報道等にアンテナを張って、積極的に情報にアクセスするようにしてください。毎回、簡単な宿題を提示します。また講義内容に関するリアクションペーパーの提出を求めます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2-3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	証券市場論 I (Securities Markets I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	長谷川 清								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>証券市場論 I は、現代人が身に付けなければならない金融リテラシーの基本部分である公社債について易しく講義するとともに、利回り計算の方法を易しく指導する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 証券市場で売買される有価証券の基礎的な知識を習得する。 2. 時々の金融問題について、新聞記事等を材料に学生諸君と一緒に考え、証券取引に対する関心と理解を醸成する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス (現代人にとって不可欠な金融リテラシーと証券市場論 I で学ぶ事柄を紹介する)					事前：参加意識の整理 事後：作成ノートの精読		講義	
2	金融取引の基本 (金融取引が誕生した歴史てき経緯、有価証券が果たした役割等を学ぶ)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
3	有価証券の歴史と概念整理 (有価証券が誕生した歴史的経緯、経済社会における有価証券の役割等を学ぶ)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
4	金融商品取引法 (わが国証券市場を語る際に不可欠な金融商品取引法の基本を学ぶ)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
5	金融商品取引法の関連法規 (金融商品取引法に隣接する金融商品販売法、会社法、投資信託法等の基本を学ぶ)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
6	公社債 I（世界の証券市場において大きな柱となっている公社債に関する基本を学ぶ)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
7	公社債 II（公社債の価格形成と利回りの関係を学ぶ)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
8	公社債 III（公社債の利回り計算について易しい事例を通じて習得する)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
9	公社債 IV（前回に続いて、公社債の利回り計算について易しい事例を通じて習得する)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
10	国債 I（わが国国債市場についてその発展経過と流通市場の現況を学ぶ)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
11	国債 II（国債の保有構造を学ぶ)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
12	国債 III（財政問題と国債発行の関係、流通市場における諸課題等を学ぶ)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
13	地方債（われわれの暮らしに直結している地方債についてその基本と現況を学ぶ)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
14	社債（将来発展が期待される社債市場の現況を学ぶ)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
15	わが国公社債市場の将来性 (国際的な視点からわが国公社債市場を眺め、その将来性を考える)					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
<p>教本：</p> <p>毎回レジュメを配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>必要の都度、参考図書・資料を紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>証券市場論は、金融経済学科の学生だけでなく、ビジネス学科、経営法学科の学生諸君も受講できることから、多くの学生が受講することを期待する。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	2-3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	証券市場論Ⅱ (Securities Markets Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	長谷川 清								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 証券市場論Ⅱでは、資本主義経済の中核である株式について掘り下げた講義を行った後、投資信託、証券化商品、投資ファンド等の基礎および証券取引を巡る不正行為とその規制等を学ぶ。									
授業目標： 1. 現代人にとって不可欠な金融リテラシーの中で株式取引に係る基本知識を身に付ける。 2. 時々の金融問題について、新聞記事等を材料に学生諸君と一緒に考え、株式市場の動きを考察する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	株式Ⅰ（資本主義経済の基盤である株式についての基本を学ぶ）					事前：参加意識の整理 事後：作成ノートの精読		講義	
2	株式Ⅱ（株式を上場する社会的な意味、企業経営者の責任等を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
3	株式市場Ⅰ（上場された株式が売買される株式市場の仕組みについて東京株式市場を例に学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
4	株式市場Ⅱ（わが国株式市場の構造変化とその問題点等について学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
5	株式の信用取引（上場株式の信用取引と一般投資家が留意しなければならない事柄について学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
6	株式先物（デリバティブ取引の一種である株式の先物取引について学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
7	株価（株式市場で形成される株価がもつ意味、株価の動きを表す株価指標等について学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
8	理論株価Ⅰ（株式市場で成立した株価を前提にしたマーケットアプローチによる理論株価について学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
9	理論株価Ⅱ（コストアプローチとインカムアプローチによる理論株価について学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
10	投資信託Ⅰ（株式や公社債を対象にした投資信託の基本スキームを学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
11	投資信託Ⅱ（株式投信、公社債投信等の投資信託の現況と課題を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
12	投資ファンドⅠ（投資ファンドを組成する各種の法規制とファンドの関係を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
13	投資ファンドⅡ（事例を通じて投資ファンドの商品内容、諸課題を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
14	違法行為（国民生活センター等の相談事例を基に証券取引を巡る犯罪・不正事件の現状を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
15	市場規制（環境の変化に対応した新たな規制を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
教本： 毎回レジュメを配布する。					参考文献： 必要の都度、参考図書・資料を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 証券市場論Ⅱでは、多くの社会人が興味をもち、投資家として利益を追求している株式市場を中心に実践的な講義を行う。多くの学生が参加することを期待する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	証券投資論 I (Principles of Investments I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	橋口 宏行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>証券投資論の基本概念である時間価値。リスクとリターンについて学びます。また、効率的市場仮説とリスク回避を前提に、平均・分散アプローチや相関関係等の資本市場論を通じて効用と評価について学びます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>証券投資論の基本概念を学び、リスク分散を理解しながらポートフォリオ理論等の基礎を習得していきます。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、授業内容と進め方、暮らしと投資					事前：なし 事後：なし		講義	
2	貨幣と証券、リスクとリターン					事前：なし 事後：復習		講義	
3	信用創造と市場リスク					事前：なし 事後：復習		講義	
4	金融危機と貨幣数量説					事前：なし 事後：復習		講義	
5	株式会社と負債契約・株式契約					事前：なし 事後：復習		講義	
6	時間価値と将来価値 現在価値と割引率					事前：なし 事後：復習		講義	
7	証券投資の収益率（リターン）とリスク					事前：なし 事後：復習		講義	
8	標準偏差、偏差値、t検定					事前：なし 事後：復習		講義	
9	平均・分散アプローチ					事前：なし 事後：復習		講義	
10	相関係数とリスク分散効果					事前：なし 事後：復習		講義	
11	効率的フロンティア、分離定理					事前：なし 事後：復習		講義	
12	市場モデル、CAPM					事前：なし 事後：復習		講義	
13	投資家の選好と効用無差別曲線					事前：なし 事後：復習		講義	
14	証券投資の評価（シャープレシオ、 α 値、IR）					事前：なし 事後：復習		講義・演習	
15	講座の総括と理解度の確認					事前：なし 事後：なし		演習	
<p>教本： 参考文献：</p> <p>『よくわかる！ファイナンス入門』（慶應義塾大学出版会、¥1,800+消費税） 『新・証券投資論 I』（日本経済新聞社、¥4,000+消費税） 税）。他に、レジユメを配布する。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>FP（ファイナンシャル・プランナー）資格、証券外務員資格、証券アナリスト資格の各資格試験に役立つ。また、かつて企業の採用担当として面接官をしていたので、就職活動に関する相談にも乗ります。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	証券投資論Ⅱ (Principles of Investments II)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	橋口 宏行								
履 修 条 件	前提科目	証券投資論Ⅰを履修していることが望ましい							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>株式や債券の価格が、キャッシュフローの現在価値の合計であることを学びながら、アセットアロケーションや国際分散投資について学びます。また、リスクヘッジのための各種デリバティブ取引を紹介し、日本の証券市場論を通じて投資環境について学びます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>証券投資とは「敗者のゲーム」であることから、ポートフォリオやデリバティブによるリスクヘッジを理解することを目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、証券投資Ⅰのポイント復習					事前：なし 事後：復習		講義	
2・3	債券と株式の理論価格の計算					事前：なし 事後：復習		講義	
4・5	アセットアロケーション					事前：なし 事後：復習		講義	
6・7	リスクヘッジ：先物編					事前：なし 事後：復習		講義	
8・9	リスクヘッジ：オプション編					事前：なし 事後：復習		講義	
10・11	国際分散投資					事前：なし 事後：復習		講義	
12	パフォーマンス測定と評価					事前：なし 事後：復習		講義	
13・14	証券市場論と投資環境					事前：なし 事後：復習		講義	
15	講座の総括と理解度の確認					事前：なし 事後：なし		演習	
教本：					参考文献：				
『よくわかる！ファイナンス入門』（慶應義塾大学出版会、¥1,800+消費 税）他に、レジユメを配布する。									
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>FP（ファイナンシャル・プランナー）資格、証券外務員資格、証券アナリスト資格の各資格試験に役立つ。また、かつて企業の採用担当として面接官をしていたので、就職活動に関する相談にも乗ります。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	消 費 者 と 安 全 (Thy Theory of Consumer's protection)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	坂 本 隆 行								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>現代社会において、人々が生活を営むためには必ず消費行動が伴う。衣・食・住から教育・趣味に至るまで、すべて私たちの消費行動は、事業者にお金を払い商品・サービスを受取る。現代社会の消費行動は複雑かつ多様化しており、様々なトラブルや被害が確認される。本講義は、消費者利益の観点から、消費者契約の問題点と課題について説明する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 現代社会における消費行動の実情を把握し、関連する法律等の知識を習得する。 2. 消費者・事業者の両者の立場から、消費者利益について説明できる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：受講意識の整理 事後：受講目的の確認		講義	
2	消費者の安全 (消費者保護について学ぶ)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
3	消費者問題 (消費者問題の現状の理解する)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
4	消費者契約 (消費者契約の概要と民法を学ぶ)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
5	消費者契約の類型 (特定商取引法と照らし合わせて理解する)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
6	消費者と金銭貸付 (消費者金融・支払い決済について学ぶ)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
7	消費者の生活設計 (主に家計・保健・年金について学ぶ)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
8	事業者の消費者保護観点 (事業者の立場で消費者の安全を考える)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
9	事業者と消費者法 (ビジネスにおける順法精神を考える)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
10	道徳経営と消費者保護 (主に近江商人の経営哲学から消費者保護を捉える)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
11	消費者被害の実態Ⅰ (商品・サービス購入トラブルの実態を知る)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
12	消費者被害の実態Ⅱ (金銭トラブルの実態を知る)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
13	消費者権利 (消費者が持っている様々な権利を知る)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
14	消費者被害と救済 (消費者被害の実態を把握し救済方法を学ぶ)					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
15	まとめ					事前：テキストを精読すること 事後：授業内容をまとめること		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
国民生活センター著『19年版くらしの豆知識』国民生活センター					必要の都度、参考図書・資料等を紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 自 身 の 日 々 の 消 費 行 動 と 講 義 内 容 を 照 ら し 合 わ せ、当 事 者 意 識 を 強 く 持 っ て 講 義 に 参 加 す る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	食文化と観光 (Food Culture and Tourism)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	澤 田 利 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
日本人の旅行動機の65%は旅行先で、その土地の美味しい料理を食べたい。であり、訪日外国人の60%以上が日本の料理を楽しみにしている。訪日外国人が2015年に2000万人に迫ろうとしており、2020年には3200万人が目標となっている。世界の食文化を理解するとともに、世界遺産に登録された日本の食文化の歴史や背景、地域による特徴などを学んでもらいたい。									
授 業 目 標 :									
地域振興の要素としてその地域の「食文化」や「B級グルメ」が重要な役割を果たしている。観光文化を学ぶ上で、食文化の果たす役割を理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	何故「和食」が世界無形文化遺産に登録されたのか？					事前：シラバスを読む 事後：ノートを読み返す		講義	
2	食文化とその歴史					事前：前回のノートを読む 事後：ノートを読み返す		講義	
3	世界の四大料理とは					事前：前回のノートを読む 事後：ノートを読み返す		講義	
4	ヨーロッパの食文化					事前：欧州の地理・歴史 事後：ノートを読み返す		講義	
5	中国の食文化					事前：中国の地理・歴史 事後：ノートを読み返す		講義	
6	エスニック料理とハラール					事前：世界の歴史・地理 事後：ノートを読み返す		講義	
7	日本の食文化 I					事前：日本の歴史・地理 事後：ノートを読み返す		講義	
8	日本の食文化 II					事前：日本の歴史・地理 事後：ノートを読み返す		講義	
9	食文化と酒					事前：世界史と世界地図 事後：ノートを読み返す		講義	
10	日本酒の特徴					事前：日本史と地理 事後：ノートを読み返す		講義	
11	世界の手食文化					事前：世界地理 事後：ノートを読み返す		講義	
12	観光における食の重要性					事前：これまでを振り返る 事後：レポートを読み返す		講義	
13	B級グルメが地方を救う					事前：これまでを振り返る 事後：ノートを読み返す		講義	
14	21世紀の食文化					事前：これまでを振り返る 事後：ノートを読み返す		講義	
15	まとめと後期提出の演題					事前：これまでを振り返る 事後：演題レポート記入		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし					「食文化入門」(東京堂出版) ¥1,800 (税別)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 観 光 を 学 ぶ と い う こ と は、地 理 と 歴 史 が 絶 対 的 要 素 で す。楽 し く 料 理 と 酒 を 通 じ て 学 び ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	書道 I (Calligraphy I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小川 美年子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 世界に於ける文字の起源を観察したのち、文字表現の実用的側面のみならず、芸術的書道的側面を実技に於いて学ぶ。									
授業目標： 日本歴史の伝える書写書道教育が我が国の伝統文化に果たした役割を理解し、日常生活に必須である日本の文字や書を習得することによって、国語力の基礎を養い、これを土台に美に対する想像力・表現力を培う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 書写では何を学ぶか。文房四宝について 用具用材の扱い方					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
2	漢字の起源と書体の変遷 楷書基本用筆 ① 用筆の演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
3	漢字書道の歴史 楷書基本用筆 ② 用筆の演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
4	臨書について（意義と方法） 楷書 古典から学ぶ字形・筆法 九成宮禮泉銘臨書					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
5	楷書 古典から学ぶ字形・筆法 顔氏家廟碑臨書					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
6	楷書 古典から学ぶ字形・筆法 雁塔聖教序臨書					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
7	臨書を基にした書写指導について 字形 筆法の演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
8	中学校書写の楷書指導 模擬授業演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
9	中学校書写の楷書指導 模擬授業演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
10	行書 基本用筆 演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
11	行書 古典から学ぶ 蘭亭序臨書					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
12	行書 蘭亭序臨書					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
13	日本の行書 風信帖 臨書					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
14	日本の行書 風信帖 臨書 三筆 三蹟について					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
15	漢字書 楷書 行書のまとめ					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
教本： 1. 書 I 光村図書出版					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 積極的に学ぶ姿勢・書写技術の向上をめざしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	書道Ⅱ (Calligraphy Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小川 美年子								
履 修 条 件	前提科目	書道Ⅰを履修							
	その他	なし							
授業概要： 書道Ⅰを履修した生徒を対象に漢字書道から仮名書道へと発展し日本の文字文化に理解を深め実用的側面のみならず芸術的側面を実技を通して学ぶ。									
授業目標： 日本の歴史を伝える書写書道教育が我が国の伝統文化に果たした役割を理解し、日常生活に必須である日本の文字や書を習得することによって、国語力の基礎を養い、これを土台にびに対する想像力・表現力を養う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	仮名文字の発生と変遷 仮名の筆使い演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
2	ひらがな いろは 演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
3	変体仮名 読み方 書き方の演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
4	変体仮名 読み方 書き方の演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
5	仮名古筆について 名前の由来 伝承筆者について 高野切れ 臨書					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
6	高野切れ臨書					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
7	仮名の美の要素について 三色紙から学ぶ 散らし書き演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
8	仮名作品演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
9	漢字仮名交じりの書 漢字と仮名の調和					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
10	漢字仮名交じりの書 漢字と仮名の調和 表現方法の演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
11	中学校書初め指導について 指導方法と実践					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
12	中学校書初め指導について 指導方法と実践					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
13	硬筆演習 1 漢字楷書					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
14	硬筆演習 2 漢字行書					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
15	硬筆演習 3 仮名					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
教本： 書Ⅰ 光村図書出版					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 積極的に課題に取り組み技術の向上に努めること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 基 礎 (Basic Course of Information Technologies)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	安 村 薫 ・ 岸 康 人 ・ 金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他	高 校 の 情 報 科 目 の 基 本 的 な コ ン プ ュ ー タ ス キ ル の 習 得 が 不 十 分 な 学 生 は 必 ず 履 修 す る こ と を 進 め る 。							
授 業 概 要 :									
学 生 活 に お い て 不 可 欠 で あ る コ ン プ ュ ー タ お よ び イ ン タ ー ネ ッ ト を 活 用 す る 基 本 能 力 の 育 成 を 目 標 と し、コ ン プ ュ ー タ 利 用 の 基 礎 と な る 技 術 を 学 ぶ と と も に、コ ン プ ュ ー タ 利 用 の マ ナ ー や 情 報 倫 理 な ど を 中 心 に 講 義 を 進 め る。今 後、高 度 情 報 化 社 会 へ 進 む 上 で の 第 一 歩 を 踏 み 出 す た め の 基 本 に つ い て、演 習 を 通 じ て 学 習 す る。									
授 業 目 標 :									
具 体 的 に は 下 記 の 項 目 を 身 に つ け る こ と を 目 標 と し、授 業 を 行 う。									
1. コ ン プ ュ ー タ 利 用 の マ ナ ー や 情 報 倫 理 の 理 解									
2. コ ン プ ュ ー タ を 用 い た 文 書 作 成 や 表 計 算 の 利 用 ス キ ル									
3. イ ン タ ー ネ ッ ト 活 用 ス キ ル									
4. 学 生 生 活 ・ 社 会 生 活 に 必 要 な ICT を 活 用 す る 基 本 ス キ ル									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	コ ン プ ュ ー タ の 基 本 操 作					事 前 : 教 科 書 の 準 備 事 後 : 配 布 資 料 の 確 認		講 義	
2	タイピング練習 *事 前 事 後 に 各 自 で 自 首 す る こ と					事 前 : USB メモリ の 準 備 事 後 : タイピング練習		講 義	
3	情 報 検 索、電 子 メ ー ル の 利 用、情 報 倫 理					事 前 : ID ・ パ ス ワ ー ド の 準 備 事 後 : 教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
4	ワ ー ド の 基 本、文 書 の 作 成					事 前 : 提 出 課 題 の 準 備 事 後 : 配 布 資 料 の 確 認		講 義	
5・6	文 書 の 編 集 と そ の 提 出 方 法 案 内 状 な ど の 書 類 作 成					事 前 : 提 出 課 題 の 準 備 事 後 : 教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
7・8	英 文 ファ イ ル の 編 集 画 像 を 利 用 し た 広 告 の 作 成					事 前 : 提 出 課 題 の 準 備 事 後 : 教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
9	レポ ー ト の 作 成					事 前 : 提 出 課 題 の 準 備 事 後 : 教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
10	総 合 演 習					事 前 : 提 出 課 題 の 準 備 事 後 : 教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
11	タイピングテスト					事 前 : 提 出 課 題 の 準 備 事 後 : 教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
12	表 計 算 の 基 本					事 前 : 提 出 課 題 の 準 備 事 後 : 教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
13	表 計 算 の 機 能					事 前 : 提 出 課 題 の 準 備 事 後 : 教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
14	他 の ア プ リ ケ ー シ ョ ン と の 連 携					事 前 : 提 出 課 題 の 準 備 事 後 : 教 科 書 ・ 資 料 の 確 認		講 義	
15	最 終 総 合 演 習					事 前 : 総 合 演 習 課 題 の 作 成 事 後 : 総 合 演 習 課 題 の 提 出		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
1. 『文 系 学 生 の た め の 情 報 活 用』(共 立 出 版) そ の ほ か は 随 時 提 示 す る。					講 義 中 に 指 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
出 席、授 業 に 対 す る 姿 勢、タイピングテスト、提 出 課 題 の 評 価 に て 判 断 す る。									
出 席・授 業 に 対 す る 姿 勢 (30%)、タイピングテスト (20%)、提 出 課 題 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
タイピングスキルを身に付けるために、自宅または自習時間でのタイピング練習が必要になります。タイピングはコンピュータを活用するための第一歩です。他の課題も含め地味に辛いですが、辛抱強く頑張ってください。また、やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにしてください。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。 * USB メモリを各自で用意してください。									
オ フィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	情報検索論 (Theories of the Information Retrieval)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	岸 康人									
履 修 条 件	前提科目									
	その他									
授業概要： 様々な種類のデータから目的とする情報を検索する技術について、実践を交えながら学習する。										
授業目標： コンピュータの発展とともに蓄積されるデータの量は膨大化している。これに伴って検索技術も発展を遂げているが、多種多様なデータから必要な情報をどのように検索すればよいか、という疑問を解決するためには、それぞれの検索についての特徴を知り、使用方法について熟達しておく必要がある。本講義の目標は、検索方法とその仕組みについて理解し、必要な情報を検索によってみつけ出し、適切な方法で記録することができるようになることである。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	ガイダンス、情報と検索技術					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習		講義		
2	コンピュータ以前の情報検索、歴史と変遷					事前：図書館で本を探す 事後：資料の復習		講義		
3	情報の種類とメタデータ					事前：データの種類を考える 事後：資料の復習		講義		
4	検索の概念とクエリ					事前：資料の予習 事後：資料の復習		講義		
5	メタデータの検索					事前：文献情報を閲覧 事後：資料の復習		講義		
6	文献データの記録とレポート・論文等での利用					事前：OPACで文献検索 事後：課題		講義		
7	文献検索の実践					事前：学術論文の検索 事後：課題		演習		
8	統計データの検索					事前：統計データについて検索 事後：検索の振り返り		講義・演習		
9	全文検索とインデックス、その仕組み					事前：特定の語を文献から検索 事後：資料の復習		講義		
10	Web ページの検索、ハイパーリンク					事前：検索スコアについて調べる 事後：資料の復習		講義		
11	Web 検索の実践					事前：調べたいことをまとめる 事後：検索結果をまとめる		演習		
12	検索エンジン個別の特徴					事前：複数の検索エンジン利用 事後：資料の復習		講義		
13	文献情報の標準フォーマット					事前：論文検索 事後：課題		講義		
14	発表とディスカッション					事前：発表準備 事後：発表の振り返り		演習		
15	まとめ					事前：不明な点をまとめる 事後：資料の復習		講義		
教本： 初回のガイダンスで指示する。					参考文献： 講義内で随時指示する。					
成績評価の方法、評価基準： ほぼ毎回出題する課題の提出（60%）、小テスト（40%）で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 概念を理解した上で、実際に多くの検索を実行することで学習効果上がる。不明な点、検索できない等は随時質問すること。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報コミュニケーション論 (Information and Communication)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	加藤 尚吾								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本講義では、情報リテラシーとデジタルデバイドの現状と対策、インターネットや携帯電話、またスマートフォンやソーシャルメディアなど新しいコミュニケーション手段とのより良い付き合い方、そして著作権や知的財産権、プライバシーや個人情報保護、違法情報や有害情報へのアクセスの規制と表現の自由、さらにそれらに関する法律や制度、倫理についての理解を深める。									
授業目標： 情報社会のコミュニケーションについて理解することを目標とする。また、著作権や知的財産権、個人情報保護などの法律や制度、倫理についても理解することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業全体に関する説明、コミュニケーションとは					事前：シラバスを読む 事後：授業で指示する		講義	
2	対面コミュニケーション					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
3	情報社会とコミュニケーション					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
4	情報リテラシーとデジタル・デバイス					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
5	20年前、10年前と現在のコミュニケーションを考える 1					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
6	20年前、10年前と現在のコミュニケーションを考える 2					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
7	インターネット上のコミュニケーション、CMC 1					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
8	インターネット上のコミュニケーション、CMC 2					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
9	携帯電話からケータイ、そしてスマホへ					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
10	法律、情報倫理、制度 1（表現の自由）					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
11	法律、情報倫理、制度 2（プライバシー、個人情報保護）					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
12	法律、情報倫理、制度 3（著作権、知的財産権）					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
13	今後の展望 1					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
14	今後の展望 2					事前：前の授業で指示する 事後：授業内容を復習する		講義	
15	まとめ					事前：前の授業で指示する 事後：レポートを執筆する		講義	
教本： 使用しない。必要に応じて資料を配布する。					参考文献： 講義の中で適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、課題・レポート等（70%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業で、参考文献や資料を指示・配布するので、読んで予習復習することを希望します。									
オフィスアワー： 毎回の授業終了後									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 シ ス テ ム 概 論 (Introduction to Computer Systems)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
この授業では、企業経営における情報システムの役割、情報技術、情報リテラシーの必要性、情報収集・加工・分析、情報の表現、論理的思考、ネットワーク化による資源の共有、インターネットの概要、電子メールによる業務の効率化、グループウェアとその機能などについて講義する。また講義は、なるべく各企業での活用事例などを交え、スライド等を使いながら、双方向で分かりやすい授業を心がける。また、情報処理課題に対して、配布プリントを確認しながらフローチャートとプログラムを作成する能力を学習しながら情報システムの効率的な開発・運用・改善などをめざす。									
授 業 目 標 :									
1. 情報システムの構成要素であるコンピュータなどのハードウェア、ネットワークそして、ソフトウェアまでの基本的な知識が理解・修得ができて、また実際のビジネスの中で情報システムがどのように活用されているか、理解できるよう学習する。									
2. 経営における情報システムの意味が理解できるよう学習する。									
3. その高度な情報処理スキルを身につけるために、表計算ソフト Excel に付属するプログラミング言語 VBA の使用方法も学習する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	情報の歴史					事前：なし 事後：なし		講義	
3	情報処理と情報システムの概要					事前：なし 事後：なし		講義	
4	情報リテラシー					事前：なし 事後：なし		講義	
5	コンピュータ・システム					事前：なし 事後：なし		講義	
6	ネットワーク利用					事前：なし 事後：なし		講義	
7	表計算ソフトの限界					事前：なし 事後：なし		講義	
8	Iプログラミング能力の必要性和プログラムの書き方					事前：なし 事後：なし		講義	
9	エクセル関数とプログラムを作る 1					事前：なし 事後：なし		講義	
10	エクセル関数とプログラムを作る 2					事前：なし 事後：なし		講義	
11	アルゴリズムとフローチャート					事前：なし 事後：なし		講義	
12	フローチャートと変数表を作る					事前：なし 事後：なし		講義	
13	プログラム設計 1					事前：なし 事後：なし		講義	
14	プログラム設計 2					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし					「ビジネスプロセスのモデリングと設計」、小林隆、コロナ社、¥2,700				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (60%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (40%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 情 報 シ ス テ ム の 基 礎 知 識 を 事 前 に 調 べ る こ と。予 習 ・ 復 習 を 行 い、授 業 に は 欠 席 し な い こ と。課 題 で 授 業 の 内 容 を も う 一 度 理 解 し て 確 認 す る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報職業論 (Information vocational theory)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白澤 恵一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	プリントを渡す							
授業概要： 情報に関わる職業人として必要なコミュニケーション能力やプロジェクトマネジメント能力、情報技術者としての職業倫理について理解を深め、高校生に対して行う具体的な職業指導方法を習得する。さらに、高校生に対しての職業指導の具体的な方法を習得することを目標とする。									
授業目標： 情報と職業の関わりとして、雇用環境と法律、情報関連産業の実態と展望、情報技術者としての職業倫理をテーマとするとともに、高校生に求められる人材の育成と職業指導を目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：シラバスの確認 事後：なし		講義	
2	情報社会と情報システム					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
3	情報化によるビジネス環境の変化Ⅰ					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
4	情報化によるビジネス環境の変化Ⅱ					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
5	企業における情報活用Ⅰ					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
6	企業における情報活用Ⅱ					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
7	ネットビジネス					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
8	働く労働環境と労働観の変化					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
9	情報社会における犯罪と法制度Ⅰ					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
10	情報社会における犯罪と法制度Ⅱ					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
11	情報社会における犯罪と法制度Ⅲ					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
12	情報社会におけるリスクマネジメントⅠ					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
13	情報社会におけるリスクマネジメントⅡ					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
14	明日の情報社会					事前：プリントの予習 事後：プリントの復習		講義	
15	まとめ					事前：プリントの予習 事後：なし		講義	
教本： プリント。					参考文献： 授業中指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、レポート等（80%）、で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 高校教師としての心構えを身につける。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報職業論 (Information vocational theory)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	舘 秀典								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	教科書を必ず購入すること							
授業概要： 現実の社会情勢の推移および科学技術の発達と現状を認識し、柔軟かつ的確に対応できる資質・能力を習得してもらうことを狙いとしている。この科目では、「情報」および情報技術 (IT) が果たしている役割や影響を企業での具体的事例をベースに理解させ、情報化の進展に主体的に対応できる基本的能力を育成することを目的とする。									
授業目標： 情報関連産業の実態や企業における情報業務に関して理解を深め、就職活動の知識となることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス					事前：シラバスの確認 事後：なし		講義	
2	コンピュータの歴史					事前：テキスト・資料の予習 事後：ネットワークの確認		講義	
3	情報産業の現状と将来 I					事前：テキスト・資料の予習 事後：ネットワークの確認		講義	
4	情報産業の現状と将来 II					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
5	IT の職種 I					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
6	IT の職種 II					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
7	中間テスト					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
8	情報モラル I					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
9	情報モラル II					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
10	情報モラル III					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
11	情報産業における業務の把握 I					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
12	情報産業における業務の把握 II					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
13	IT 技術者の勤労観 I					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
14	IT 技術者の勤労観 II					事前：作成した課題の確認 事後：公開した課題の確認		講義	
15	まとめ					事前：課題の統合的チェック 事後：なし		講義	
教本： 「情報と職業 (SCC Books 378)」 廣石良雄 (エスシーシー) ¥2,376 (税込)					参考文献： 講義中に指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況と課題提出 (15%)、小テスト等 (35%)、レポート (50%) で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席をしないこと。15回の授業の初めから、確実に、課題の作業を一つひとつ確認しながら行っていくこと。 (連続して欠席したり、課題を行わずにためておくと、履修を続けることはほとんど困難になります。)									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	情 報 処 理 (Basic Course of Information Technologies)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	安 村 薫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	ノ ー ト パ ソ コ ン (大 学 推 奨 ス ペ ッ ク の も の) を 用 意 す る こ と							
授 業 概 要 :									
<p>学生生活において不可欠であるコンピュータ及びインターネットを活用する基本能力の育成を目標とし、コンピュータ利用の基礎となる技術を学ぶとともに、コンピュータ利用のマナーや情報倫理なども身に付けることを目指した講義を行なう。各自のノートパソコン (PC) を利用し、今後、高度情報化社会へ進む第一歩を踏み出すための基礎となることを、演習を通して学習する。</p> <p>1. コンピュータ利用のマナーや情報倫理を理解する 2. コンピュータを用いた文書作成や表計算の利用スキルを身につける 3. インターネット活用スキルを身につける 4. 学生生活・社会生活に必要なとされる ICT 活用の基本スキルを身につける 5. 自分ノート PC の適切な管理・利用ができるようにする</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス/情報社会とコンピュータリテラシー					事前: 事後: 配布資料の確認		講義	
2	コンピュータの基本操作 タッチタイピング *事前・事後に各自で自習すること					事前: USB メモリの準備 事後: タイピング連流		講義・演習	
3	インターネットの仕組みとサービス/情報検索、 電子メールの利用 (1)、情報倫理、セキュリティ対策					事前: ID/パスワードの準備 事後: 資料の確認		講義・演習	
4	電子メールの利用 (2)メールのマナー					事前: 提出課題の準備 事後: 配布資料の確認		講義・演習	
5	パーソナルコンピュータのハードウェア、 Windowsの基本設定と利用/ファイルとフォルダの管理					事前: 提出課題の準備 事後: 配布資料の確認		講義・演習	
6	ワープロ (Word) の基本、文書の作成と提出					事前: 提出課題の準備 事後: 配布資料の確認		講義・演習	
7	ビジネス文書の基本と作成/英文ファイルの編集					事前: 提出課題の準備 事後: 配布資料の確認		講義・演習	
8	画像ファイル、画像の取込みと利用、個人情報の保護					事前: 提出課題の準備 事後: 配布資料の確認		講義・演習	
9	レポートの作成					事前: 提出課題の準備 事後: 配布資料の確認		講義・演習	
10	総合演習					事前: 提出課題の準備 事後: 配布資料の確認		講義・演習	
11	タイピングテスト					事前: 提出課題の準備 事後: 配布資料の確認		講義・演習	
12	表計算の基本					事前: 提出課題の準備 事後: 配布資料の確認		講義・演習	
13	表計算の応用/アプリケーション間の連携					事前: 提出課題の準備 事後: 配布資料の確認		講義・演習	
14	知的財産権、著作権、					事前: 提出課題の準備 事後: 配布資料の確認		講義・演習	
15	最終総合演習					事前: 総合演習課題の作成 事後: 総合演習課題の提出		講義・演習	
教本: 随時資料を配布する					参考文献: 講義中に指示する				
<p>成績評価の方法、評価基準: 以下の到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況と授業に対する姿勢 (25%)、タイピングテスト (20%)、提出課題 (40%) 試験 (定期試験または小テスト等) (15%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス: タイピングなどは自宅または自習時間での練習が必要。タイピングはコンピュータを活用するための第一歩。他の課題も含め、地道に辛抱強く頑張ること。やむを得ず欠席した授業内容に関しては、授業のウェブページで確認、友人に確認、教員に質問するなによりおぎない、すべての課題を提出するように務めること。質問は、メールまたはオフィスアワーに受け付けます。</p>									
<p>オフィスアワー: 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報処理概論 (Basic Course of Informaiton Technologies)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安村 薫・岸 康人・金 幸郁								
履 修 条 件	前提科目								
	その他	高校の情報科目の基本的なコンピュータスキルの習得が不十分な学生は必ず履修することを進める。							
授業概要： 学生生活において不可欠であるコンピュータおよびインターネットを活用する基本能力の育成を目標とし、コンピュータ利用の基礎となる技術を学ぶとともに、コンピュータ利用のマナーや情報倫理などを中心に講義を進める。今後、高度情報化社会へ進む上での第一歩を踏み出すための基本について、演習を通して学習する。									
授業目標： 具体的には下記の項目を身につけることを目標とし、授業を行う。 1. コンピュータ利用のマナーや情報倫理の理解 2. コンピュータを用いた文書作成や表計算の利用スキル 3. インターネット活用スキル 4. 学生生活・社会生活に必要な ICT を活用する基本スキル									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	コンピュータの基本操作					事前：教科書の準備 事後：配布資料の確認		講義	
2	タイピング練習 *事前事後に各自で自首すること					事前：USB メモリの準備 事後：タイピング練習		講義	
3	情報検索、電子メールの利用、情報倫理					事前：ID・パスワードの準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
4	ワードの基本、文書の作成					事前：提出課題の準備 事後：配布資料の確認		講義	
5・6	文書の編集とその提出方法 案内状などの書類作成					事前：提出課題の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
7・8	英文ファイルの編集 画像を利用した広告の作成					事前：提出課題の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
9	レポートの作成					事前：提出課題の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
10	総合演習					事前：提出課題の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
11	タイピングテスト					事前：提出課題の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
12	表計算の基本					事前：提出課題の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
13	表計算の機能					事前：提出課題の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
14	他のアプリケーションとの連携					事前：提出課題の準備 事後：教科書・資料の確認		講義	
15	最終総合演習					事前：総合演習課題の作成 事後：総合演習課題の提出		講義	
教本： 1. 『文系学生のための情報活用』(共立出版) そのほかは随時提示する。					参考文献： 講義中に指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 出席、授業に対する姿勢、タイピングテスト、提出課題の評価にて判断する。 出席・授業に対する姿勢 (30%)、タイピングテスト (20%)、提出課題 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： タイピングスキルを身に付けるために、自宅または自習時間でのタイピング練習が必要になります。タイピングはコンピュータを活用するための第一歩です。他の課題も含め地味に辛いですが、辛抱強く頑張ってください。また、やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにしてください。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。 * USB メモリを各自で用意してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報セキュリティ概論 (Introduction to Information Security)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	デジタル認証技術基礎							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>情報セキュリティの歴史や、暗号の歴史、認証、ウイルス、電子透かし等の脅威やOS、アプリケーション、プログラミングレベルでのセキュリティ対策等の技術的な対策要素について学ぶ。また、技術演習を行い、実際の対策も経験する。そして、情報通信倫理や情報セキュリティ技術動向といった、全体的な観点について、企業における実際の考え方やアプローチを学ぶ。学んだ知識を使い、実際の対策に関する発表を行うことで、理解度を把握する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>情報セキュリティの必要性を理解し、その基礎となる暗号理論、認証、電子透かしなどについて学ぶ。最近の情報セキュリティ技術動向を理解する。さらに、個人情報やプライバシー及びそれに関連する法律を覚える。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	情報セキュリティの概要と基礎理論					事前：なし 事後：なし		講義	
3	暗号の歴史					事前：なし 事後：なし		講義	
4	共通鍵暗号、公開鍵暗号					事前：なし 事後：なし		講義	
5	認証 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
6	認証 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
7	個人情報とプライバシー					事前：なし 事後：なし		講義	
8	ネットワークセキュリティ					事前：なし 事後：なし		講義	
9	電子透かし (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
10	電子透かし (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
11	情報通信倫理					事前：なし 事後：なし		講義	
12	情報セキュリティの技術動向 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
13	情報セキュリティの技術動向 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
14	発表					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： なし					参考文献： 使用しない				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（60%）、小テスト・レポート等（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 情報セキュリティの概要と基礎理論の基礎知識（定義）を事前に調べる。予習・復習を行い、授業には欠席しないこと。課題で授業の内容をもう一度理解して確認すること。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報理論 (Information Theory)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>現在のメディアの状況をより明確に理解するために、メディアの発生からそのメディア技術までの軌跡をたどり、さらには電子メディアのあり方とその進展の道筋を多様なメディア技術と社会と人間の関係を技術の視点から基礎から学習する。とくにメディア技術を人と世界の関係、人間の認識や感覚、伝達や記憶の仕組みまでを含んだ包括的な新しいメディア技術の全体図を提示することで、単なるメディア技術史やメディア表現史に終わらない新しい技術を学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. メディアの特性およびメディアが伝える情報の内容を正しく理解するため、メディアとコミュニケーション理論の基礎を学ぶ。 2. 具体例を通じてメディア技術を習得することを学習する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	メディア技術の概要					事前：なし 事後：なし		講義	
3	メディア技術の社会的・技術的な背景 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
4	メディア技術の社会的・技術的な背景 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
5	画像・映像処理の最近の動向 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
6	画像・映像処理の最近の動向 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
7	ディジタル処理技術に関する研究の動向 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
8	ディジタル処理技術に関する研究の動向 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
9	ディジタル処理技術に関する研究の動向 (3)					事前：なし 事後：なし		講義	
10	メディア技術処理基礎 (1) ー情報圧縮技術					事前：なし 事後：なし		講義	
11	メディア技術処理基礎 (2) ー音声・音響符号化・復号化技術					事前：なし 事後：なし		講義	
12	メディア技術処理基礎 (3) ー画像圧縮・符号化					事前：なし 事後：なし		講義	
13	メディア技術処理基礎 (4) ー復号化					事前：なし 事後：なし		講義	
14	メディア技術処理基礎 (5) ーまとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： なし					参考文献： 使用しない				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（60%）、小テスト・レポート等（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： メディア技術の基礎知識（定義）を事前に調べる。予習・復習を毎回行い、授業には欠席しないこと。課題で授業の内容をもう一度理解して確認すること。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 倫 理 (Information Ethics)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岸 康 人								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>テキストや映像資料での事例研究を通じ、インターネット特有の犯罪等の問題を明らかにし、その対策について学習する。また、社会的・法的側面から問題を考察する。</p> <p>情報化社会で生きていく上では、現実世界での倫理観同様に、インターネットにおける倫理観が不可欠である。インターネットがなければ起こり得ない犯罪や社会問題が多々起こっている中、主体的に情報倫理を学習することにより、ネット上あるいは現実での適切な行動を考えられるようになることが本講義の目標となる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、情報化社会における倫理の必要性					事前：シラバスを読む 事後：倫理について考える		講義	
2	情報化社会の現状、ネットワークの仕組み					事前：教本該当箇所を読む 事後：資料を復習		講義	
3	サイバー犯罪の現状とメディア・リテラシー					事前：教本該当箇所を読む 事後：資料を復習		講義	
4	ネットワーク犯罪：不正アクセス、個人情報の漏洩					事前：教本該当箇所を読む 事後：資料を復習		講義	
5	ネットワーク犯罪：出会い系サイト、架空・不正請求、ネット詐欺					事前：教本該当箇所を読む 事後：資料を復習		講義	
6	ネットワーク犯罪：知的財産権の侵害、SNS等の問題					事前：教本該当箇所を読む 事後：資料を復習		講義	
7	グループ・ディスカッション					事前：身の回りの事例を考える 事後：他の人の意見を振り返る		演習	
8	コンピュータ・ウイルスとその対策					事前：教本該当箇所を読む 事後：資料を復習		講義	
9	情報セキュリティ					事前：教本該当箇所を読む 事後：資料を復習		講義	
10	小テストと解説					事前：テスト対策 事後：誤答箇所の修正		小テスト・課題解説	
11	インターネットと法律：不正アクセス禁止法、著作権法					事前：教本該当箇所を読む 事後：資料を復習		講義	
12	インターネットと法律：掲示板での誹謗中傷と管理責任、個人情報保護法					事前：教本該当箇所を読む 事後：資料を復習		講義	
13	インターネットと法律：古物営業法、電子消費者契約法、特定電子メールの送信に関わる法律					事前：教本該当箇所を読む 事後：資料を復習		講義	
14	グループ・ディスカッション					事前：身の回りの事例を考える 事後：他の人の意見を振り返る		演習	
15	まとめ					事前：全体の疑問点を考える 事後：行動指針に反映		講義	
<p>教本：「モバイルネットワーク時代の情報倫理」山住 富也著、近代科学社、¥1,728</p> <p>参考文献：講義内で随時指示する。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>ほぼ毎回出題する課題の提出及び授業への貢献 (70%)、小テスト (30%) で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>提出物が欠けている場合、ディスカッションへの参加が欠けている場合は単位を認定しない。教本は授業の問題を考えるための入り口であり、授業前に一読しておくこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	人口問題 (Population Problems)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 重行								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	特になし							
<p>授業概要：</p> <p>人口問題に関心を持った学者は、18世紀半ばのトマス・ロバート・マルサスであった。彼は、近代国家形成期と同時に、大英帝国植民地主義の時代に台頭した学者であった。ここでは古典の人口論を素描し、現代の人口問題を考察する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>マルサスの基本概念を理解し、現代の人口問題の理解を深める。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	人口論入門					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
2	マルサスの基礎概念Ⅰ					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
3	マルサスの基礎概念Ⅱ					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
4	マルサスの人口の等比級数的増加					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
5	マルサスの食糧の等差数列の増加					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
6	マルサスの社会貧困論					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
7	ウエストファリア国民国家と植民地					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
8	国民国家と植民地と戦争					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
9	国民国家と独立と平和					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
10	ローマ・クラブと人口問題解決シナリオ					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
11	人口と資源と環境の連関					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
12	人口移動と移民問題					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
13	人口移動と人種問題					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
14	多国籍企業と国家企業の役割					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
15	まとめ					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
<p>教本：</p> <p>マルサス『人口論』永井義雄訳、中公文庫 ¥700 メドウズ他『成長の限界』ダイヤモンド社 ¥1,000</p>					<p>参考文献：</p> <p>伊藤重行『システム哲学序説』勁草書房 ¥3,500</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：出席態度重視 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>テキストや参考文献などを購入し、よく読む努力をして欲しい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。テキストや参考文献などを購入し、よく読む努力をして欲しい。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	信託法 I (Law of Trust I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	長岐 郁也								
履 修 条 件	前提科目	私法学 I・II、不動産法、契約法を履修していることが望ましい。							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>信託法は、イギリスにおいて生成され、アメリカにおいて展開された法理であるとも言われ、大陸法系に属する日本の法体系に馴染むものではないと指摘されることもあった。その意味で、信託の基本的構造について重点的に解説するものとする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>信託の基本的構造の理解</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前： 事後：講義の復習		講義	
2	信託制度の沿革					事前： 事後：講義の復習		講義	
3	信託の枠組み					事前： 事後：講義の復習		講義	
4	信託の設定					事前： 事後：講義の復習		講義	
5	信託財産の範囲					事前： 事後：講義の復習		講義	
6	信託財産の独立性					事前： 事後：講義の復習		講義	
7	受託者の役割					事前： 事後：講義の復習		講義	
8	受託者の義務					事前： 事後：講義の復習		講義	
9	受託者の責任					事前： 事後：講義の復習		講義	
10	受益者の権利					事前： 事後：講義の復習		講義	
11	信託の変更等					事前： 事後：講義の復習		講義	
12	信託の終了・清算					事前： 事後：講義の復習		講義	
13	信託の機能1					事前： 事後：講義の復習		講義	
14	信託の機能2					事前： 事後：講義の復習		講義	
15	総括					事前： 事後：講義の復習		講義	
<p>教本：</p> <p>道垣内弘人・信託法入門（日経文庫、2007年） 信託法が掲載されている六法</p>					<p>参考文献：</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>定期試験のみで評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>民法、特に財産法に関する基礎的な理解が求められるので、事前に復讐をしておくこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	信託法Ⅱ (Law of Trust Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	長岐 郁也								
履修条件	前提科目	私法学Ⅰ・Ⅱ、不動産法、契約法、信託法Ⅰを履修していることが望ましい。							
	その他								
授業概要： 信託法Ⅰで学んだ信託の基本的事項について、実務としてどのように扱われているのかという視点から、講義を進める。また、講義の後半では、判例を用いて実際の係争について外観する									
授業目標： 信託が実務上、どのように取り扱われているのかを理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前： 事後：講義の復習		講義	
2	資産承継・相続のための信託1					事前： 事後：講義の復習		講義	
3	資産承継・相続のための信託2					事前： 事後：講義の復習		講義	
4	資産形成・資産運用のための信託1					事前： 事後：講義の復習		講義	
5	資産形成・資産運用のための信託2					事前： 事後：講義の復習		講義	
6	公益信託					事前： 事後：講義の復習		講義	
7	福祉のための信託1					事前： 事後：講義の復習		講義	
8	福祉のための信託2					事前： 事後：講義の復習		講義	
9	判例研究1					事前： 事後：講義の復習		講義	
10	判例研究2					事前： 事後：講義の復習		講義	
11	判例研究3					事前： 事後：講義の復習		講義	
12	判例研究4					事前： 事後：講義の復習		講義	
13	判例研究5					事前： 事後：講義の復習		講義	
14	判例研究6					事前： 事後：講義の復習		講義	
15	総括					事前： 事後：講義の復習		講義	
教本： 道垣内弘人・信託法入門（日経文庫、2007年） 信託法が掲載されている六法					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： レポート（20%）、定期試験（80%）で評価する。									
学生へのアドバイス： 民法、特に財産法に関する基礎的な理解が求められるので、事前に復讐をしておくこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義他
授業科目(英文)	人的資源管理論 I (Human Resources Management I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>本講義では事例を活用しながら、企業などの組織における人的資源管理とは何かについて考えてみる。前半は人的資源管理の基本を理解し、後半は人的資源管理の各分野を知る。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 企業の人的資源管理への関心を高める。 2. 事例研究を通して、企業が直面する人的資源管理に関する課題を知る。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（人的資源管理論の研究対象と学び方）					事前：特になし 事後：復習		講義	
2	経営活動に影響を与えている環境要因					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
3	産業構造・経営構造転換と経営課題					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
4	トップ・マネジメントの役割・取り組むべき課題					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
5	経営活動と企業倫理 ①					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
6	経営活動と企業倫理 ②					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
7	ミニテスト ①（前半のまとめをする）					事前：特になし 事後：復習		講義	
8	人的資源管理に対する理念・方針					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
9	優良企業の研究－事例研究－ ①					事前：テキストの精読 事後：復習		講義・グループ研究	
10	優良企業の研究－事例研究－ ②					事前：テキストの精読 事後：復習		講義・グループ研究	
11	人的資源管理活動 ①					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
12	人的資源管理活動 ②					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
13	雇用形態と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
14	ミニテスト ②（後半のまとめをする）					事前：特になし 事後：復習		講義	
15	人的資源管理の諸課題をどう見るか (企業を見るために私たちが持つべき視点を整理する)					事前：特になし 事後：復習		講義	
教本： 開講時に提示する。					参考文献： 授業中に適宜文献を紹介する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 講義の効果を上げるためには、普段からテレビ、新聞、ネットでの企業に関するニュースに気に留めておくことが大事です。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義他
授業科目(英文)	人的資源管理論Ⅱ (Human Resources Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	担当教員による人的資源管理Ⅰを履修していること							
	その他	なし							
授業概要： 人的資源管理論Ⅰの内容を深め、企業が抱える経営課題を整理しながら人的資源管理の問題を掘り下げる。社会の状況を踏まえつつ、人的資源管理の方向性を考えていく。									
授業目標： 1. グローバリゼーションが人的資源管理に与えた影響を理解する。 2. 企業における人的資源管理の重要性を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（①講義全体の流れ、②人的資源管理の諸分野の概略）					事前：特になし 事後：特になし		講義	
2	モチベーション戦略と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
3	グローバリゼーションの進展と人的資源管理 ①					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
4	グローバリゼーションの進展と人的資源管理 ②					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
5	経営戦略の展開とミドル・マネジメント ①					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
6	経営戦略の展開とミドル・マネジメント ②					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
7	ミニテスト ①（前半のまとめをする）					事前：特になし 事後：特になし		講義	
8	就業形態多様化と人的資源管理 ①					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
9	就業形態多様化と人的資源管理 ②					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
10	女性労働者の能力活用と人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
11	優良企業の研究－事例研究－ ①					事前：テキストの精読 事後：復習		講義・グループ研究	
12	優良企業の研究－事例研究－ ②					事前：テキストの精読 事後：復習		講義・グループ研究	
13	外国人労働者の人的資源管理					事前：テキストの精読 事後：復習		講義	
14	ミニテスト ②（後半のまとめをする）					事前：特になし 事後：特になし		講義	
15	全体のまとめ（人的資源管理の方向性について考える）					事前：特になし 事後：復習		講義	
教本： 開講時に提示する。					参考文献： 授業中に適宜文献を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義の効果を上げるためには、普段からテレビ、新聞、ネットでの企業に関するニュースに気に留めておくことが大事です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	心理学 (Psychology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 心理学の抽象的理論や諸概念を受講者自身の発達と人生経験に結びつけるには、体験学習によるエクササイズが適していると考えられる。そこで、ウィラード・B・フリック著『Personality Theories Journeys Into Self An Experiential Workbook』の和訳資料に基づき受講者の自己洞察を促し自己成長が達成出来ることを目的に授業を行う。									
授業目標： 1. 心理学とは、何かを自分の経験に関連させて理解する態度を育成する。 2. 心理学の基礎知識や理論が、心理職の実践5大職域に関連する仕組みと役割を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	子ども時代の記憶と体験					事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義	
2	ジークムント・フロイトと精神分析					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
3	アルフレッド・アドラーと個人心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
4	カール・ユングと分析心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
5	カレン・ホーナヒと精神分析的な社会理論					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
6	エリック・エリクソンと心理社会理論					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
7	アルバート・バンデューラと社会的学習理論					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
8	ゴードン・オルポートと特性論					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
9	アブラハム・マズローと自己実現理論					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
10	カール・ロジャーズと自己理論					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
11	医療・保健領域と心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
12	福祉領域と心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
13	教育・学校領域と心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
14	司法・矯正領域と心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
15	産業・組織領域と心理学					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
教本： テキストは使用しない。					参考文献： 授業中に随時紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 小テストとレポート（40%）、定期試験（60%）等により総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業は、世界で活躍した9名の心理学者の人物像と心理学への功績を学ぶことで、人間力の育成を目指す。そこで、受講者自身の自己洞察力を向上する努力を望む。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	心理学概論 I (Introduction to Psychology I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野々村 新								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： この講義では、心理学の基本となる「行動」についてそのメカニズムと、行動の変容を起こさせる「学習」の問題に焦点を当てて講義を行う。									
授業目標： 現代の心理学は、理系の学問と言ってもいいくらいの学問である。学生諸君が、心理学がどのような学問であり、人の「心」をどのような方法で研究し、どのような分野で応用されているかを理解するとともに、「心」とその顕在した「行動」について認識することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	心理学の意義および講義内容の説明					事前：p. 1～8を読む 事後：p. 8～19を読む		講義	
2	行動の意味と行動のメカニズム					事前：p. 41～72を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
3	フラストレーションと葛藤					事前：p. 66～69を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
4	適応機制					事前：p. 69～72を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
5	不適応とそのタイプ					事前：p. 238～248を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
6	適応回復の方法ーカウンセリングー					事前：p. 295～299を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
7	学習（行動変容）の意味とそのメカニズム (1)					事前：p. 123～130を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
8	学習のメカニズム (2)					事前：p. 130～137を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
9	学習の成立・促進の要因 (1)					事前：p. 137～140を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
10	学習の成立・促進の要因 (2)					事前：p. 141～145を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
11	学習の成立・促進の要因 (3)					事前：p. 145～149を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
12	記憶のはたらきとメカニズム					事前：p. 107～113を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
13	忘却とその原因					事前：p. 114～118を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
14	記憶内容の変容とその原因					事前：p. 118～121を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
15	全体のまとめ					事前：ノート全体の整理を行う 事後：ノート全体を確認する		講義	
教本： 新訂 こころへのアプローチ」野々村新 編著 田研出版株式会社 ￥2,400					参考文献： 適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（80%）と授業内容への参加状況等（20%）で総合的に評価を行う。									
学生へのアドバイス： 教科書必携で受講すること。受講の態度・マナーに留意すること。事前学習と事後学習を必ず行うこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	心理学概論 I (Introduction to Psychology I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>日常生活で「心」について関心を持った時、科学としての心理学の知見が生活者としての人生を豊かにする。そこで自分を大事、他者を大事、社会を大事にする人間力の育成に役立つ心理学を学ぶことにする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 人間の心を理解する心理学の基礎知識を各種エクササイズを通じて体験学習する。 2. 心理学は、実証科学として他分野・多職種と連携して進化し続ける学際的学問であることを学ぶ。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の進め方・内容に関するガイダンス					事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義	
2	テーマ：自分ってどんな人					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
3	テーマ：認知モデル（バデスキー&ムーニー提案）を使い自己理解する					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
4	テーマ：対自的コミュニケーション					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
5	テーマ：対他的コミュニケーション					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
6	テーマ：対集団的コミュニケーション					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
7	テーマ：対家族内コミュニケーション					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
8	テーマ：対人支援の心理学について					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
9	テーマ：心理面接とは何か					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
10	テーマ：心理観察とは何か					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
11	テーマ：心理査定とは何か					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
12	テーマ：パーソナリティとは何か					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
13	テーマ：パーソナリティとは何か					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
14	テーマ：心理的障害とは何か					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
15	テーマ：心理学 I で解説した内容の確認と振り返り					事前：配付資料の確認 事後：ノートの整理・復習		講義	
<p>教本：</p> <p>テキストは使用しない。随時資料を配布する。</p>					<p>参考文献：</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>定期試験（100％）等により総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>本授業は、エクササイズを活用したグループ・ワークや小集団討議が教授方法である。そこで、欠席が総授業回数の1/3を超えると受講しても評価しない。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	心理学概論Ⅱ (Introduction to Psychology Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野々村 新								
履 修 条 件	前 提 科 目	この科目は「心理学概論Ⅰ」を履修済みであることを条件とする。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 学生諸君の現在の適応に必要な問題、および将来の職業選択に必要な自己分析の基本に焦点を当てて講義を行う。									
授業目標： 人間が環境（自然環境、社会的環境、人間的環境）に適応するための諸問題と、パーソナリティの内容とその発達に関する認識を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	環境の認知 感覚・知覚・認知					事前：p.87～91を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
2	知覚の成立条件					事前：p.91～100を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
3	知覚の諸相（錯角・恒常性など）					事前：p.100～107を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
4	社会的知覚					事前：前回のノートの確認 事後：ノート整理を行う		講義	
5	対人認知					事前：p.187～190を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
6	パーソナリティの意味とその発達					事前：p.159～160を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
7	発達の規定要因					事前：p.160～162を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
8	発達段階と発達課題					事前：p.163～169を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
9	知能とその発達					事前：p.174～178を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
10	知能と適性					事前：前回のノートの確認 事後：ノート・プリントの整理を行う		講義	
11	知能の診断—知能検査					事前：p.252～255を読む 事後：ノート・プリントの整理を行う		講義	
12	性格の意味と性格理論					事前：p.180～183を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
13	性格形成の要因					事前：p.178～179を読む 事後：ノート整理を行う		講義	
14	性格の診断—性格の検査					事前：p.255～262を読む 事後：ノート・プリントの整理を行う		講義	
15	全体のまとめ					事前：ノート全体とプリントを確認する 事後：ノート全体の整理を行う		講義	
教本： 1. 新訂「こころへのアプローチ」野々村新 編著 田研出版株式会社 ￥2,400					参考文献： 適宜紹介する。プリントの配布も行う。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（80%）と授業内容への参加状況等（20%）で総合的に評価を行う。									
学生へのアドバイス： 教科書必携で受講すること。事前学習と事後学習を必ず行うこと。受講の態度・マナーに留意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	心 理 学 概 論 II (Introduction to Psychology II)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	菅 沼 憲 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	心 理 学 I を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>心理学 I を履修している前提で講義する。日常生活で「心」について関心を持った時、科学としての心理学の知見が生活者としての人生を豊かにする。そこで、認知行動療法の祖父と呼ばれる ELLI. A. が、1955年に創始した REBT 心理学を学ぶことにする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 心の健康が意味する心理学的知見について理解する。 2. 対人援助理論及び技法として発展している認知行動療法について広く学ぶ。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 進 め 方 ・ 内 容 に 関 し た ガ イ ダ ン ス					事 前 : シ ラ バ ス の 精 査 事 後 : シ ラ バ ス の 確 認		講 義	
2	テ ー マ : 認 知 行 動 療 法 の 発 展 の 歴 史					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
3	テ ー マ : ELLIS. A. と REBT に つ い て					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
4	テ ー マ : A - B - C 理 論					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
5	テ ー マ : ク ラ イ エ ン ト に 問 題 を 尋 ね る					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
6	テ ー マ : 目 標 問 題 の 定 義 付 け 及 び 同 意					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
7	テ ー マ : C を 査 定 す る					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
8	テ ー マ : A を 査 定 す る					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
9	テ ー マ : メ タ 感 情 問 題 を 確 認 し 査 定 す る					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
10	テ ー マ : B - C の 関 連 を 教 え る					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
11	テ ー マ : ビ リ ー フ を 査 定 す る					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
12	テ ー マ : イ ラ シ ョ ナ ル ビ リ ー フ と C を 関 連 付 け る					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
13	テ ー マ : イ ラ シ ョ ナ ル ビ リ ー フ を 論 駁 す る					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
14	テ ー マ : ラ シ ョ ナ ル ビ リ ー フ へ の 確 信 を 深 め る た め の 用 意 を す る					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
15	テ ー マ : 新 し い 知 識 の 実 践、宿 題、徹 底 操 作 過 程 を 促 す					事 前 : 配 付 資 料 の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『論 理 療 法 ト レ ー ニ ン グ』ワ レ ン / デ ジ サ ッ ピ / ド ラ イ デ ン 著、東 京 図 書					授 業 の 中 で 随 時 配 布 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
定 期 試 験 (100%) 等 に よ り 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
本 授 業 は、系 統 的 な 講 義 と 小 集 団 討 議 が 授 業 方 法 の 柱 で あ る。そ こ で、欠 席 が 総 授 業 回 数 の 1/3 を 超 え る と 受 講 し て も 評 価 し な い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	心理学基礎A (Introduction to Psychology A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 生物-心理-社会モデルはEngel, G.L. が1970年代に提唱した。現代心理学は、医療・教育・福祉・産業と組織・司法と矯正などの5大領域を中心に進化した。見えない心をどのように研究し、そこで蓄積された知見をどのように生活者の支援に応用するかを柱に、実証科学である心理学を解説する。									
授業目標： 1. 心理学とは何か、心理学の目的、心のモデル、研究方法について理解する。 2. 心理学の基礎知識及び実践分野に加え多職種連携の意義を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の進め方・内容に関するガイダンス					事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義	
2	心理学の歴史・原理・研究法					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
3	学習の仕組み					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
4	認知とは何か					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
5	感覚・知覚の仕組み					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
6	発達心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
7	教育心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
8	社会心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
9	パーソナリティ					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
10	感情					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
11	臨床心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
12	障害心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
13	心理職への道					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
14	心理学を創った人物群像					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
15	心理学の基礎Aで解説した内容の確認と振り返り					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
教本： 『心理学』、子安増生編著、勁草書房					参考文献： 授業の中で随時配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 小テストとレポート（40%）、定期試験（60%）等により総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業は、科学としての心理学を含め日々進化している実践心理学について論じる。そこで、生活者である自分のエピソード体験と関連させた知識の理解を勧める。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	心理学基礎B (Introduction to Psychology B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	心理学基礎Aを履修していること							
	その他	なし							
授業概要： 心理学の基礎Aを履修している前提で講義する。心理学の知見は、生活者としての人生を確実に豊かにしていると言えるだろう。そこで基礎心理学から実践心理学への発展の経緯を概観し学ぶことにする。									
授業目標： 1. 実践心理学の動向について知見を得る。 2. 21世紀の心理学の潮流であるポジティブ心理学を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ポジティブ心理学とは何か					事前：シラバスの精査 事後：シラバスの確認		講義	
2	皮膚の下の物語である神経・生理について					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
3	心理現象の測定					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
4	産業・組織心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
5	健康心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
6	福祉心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
7	犯罪・非行心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
8	司法心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
9	カウンセリング心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
10	災害心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
11	ストレスの心理学の基礎					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
12	最近の心理学研究動向					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
13	世界の心理学					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
14	心理学の資格について					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
15	心理学の基礎Bで解説した内容の確認と振り返り					事前：教本の予習 事後：ノートの整理・復習		講義	
教本： 『心理学』、子安増生編著、勁草書房					参考文献： 授業の中で随時配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テストとレポート（40%）、定期試験（60%）等により総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本授業は、系統的な講義と小集団討議が教授方法の柱である。そこで、欠席が総授業回数の1/3を超えると受講しても評価しない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	心 理 学 研 究 法 (Approaches to Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 本 講 義 で は、心 理 学 の 研 究 法、心 理 学 の 研 究 論 文 の 検 索 方 法、論 文 の 読 み 方、論 文 の ま と め 方 を 学 ぶ。									
授 業 目 標 : 心 理 学 研 究 の 論 文 を 検 索 し、読 ん で 理 解 す る こ と が で き る よ う に な る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
2	心 理 学 に お け る 研 究 と は					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
3	様 々 な 心 理 学 研 究 法 ① 実 験 法					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
4	様 々 な 心 理 学 研 究 法 ② 質 問 紙 法					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
5	様 々 な 心 理 学 研 究 法 ③ 観 察 法					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
6	様 々 な 心 理 学 研 究 法 ④ 検 査 法					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
7	様 々 な 心 理 学 研 究 法 ⑤ 面 接 法					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
8	研 究 倫 理					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
9	様 々 な 心 理 学 研 究 論 文、検 索 方 法					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
10	心 理 学 研 究 論 文 の 構 成、読 み 方 ①					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
11	心 理 学 研 究 論 文 の 構 成、読 み 方 ②					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
12	論 文 を 検 索 し、論 文 の 内 容 を ま と め る ①					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 ・ 演 習	
13	論 文 を 検 索 し、論 文 の 内 容 を ま と め る ②					事 前 : 論 文 検 索 事 後 : 発 表 資 料 の 作 成		講 義 ・ 演 習	
14	発 表 会、討 議					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義	
15	ま と め					事 前 : 授 業 全 般 の 復 習 事 後 : 理 解 の 補 完		講 義	
教 本 : な し。授 業 中 に 資 料 を 配 布 す る。					参 考 文 献 : 授 業 中 に、都 度 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講 義 に は、グ ル ー プ ワ ー ク、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 等 を 取 り 入 れ る。毎 回 の 講 義 終 了 時 に は、コ メ ン ト ペ ー パ ー に 講 義 内 容 か ら 考 え た こ と を 書 い て 提 出 し て い た だ く。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修		単 位 数		時 間 数		授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	心 理 学 実 験 演 習 (Seminar on Psychology Experiment)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 村 康 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	心 理 学 実 験 法、心 理 学 統 計 法 の 単 位 を 修 得 し て い る こ と							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
データに基づく人間理解の方法を学ぶ。心理学における諸領域の実験やテストを実施、体験し、その方法論や分析手法を習得する。また「心理学実験法」で学んだレポートの作成スキルを上達させる。									
授 業 目 標 :									
①様々な心理学の実験や調査を適切に実施できる。									
②実験・調査の結果を正確に分析できる。									
③実験・調査の目的を把握し、結果から論理的な考察が導き出せる。									
④実験・調査の目的・方法・結果・考察を書式や形式に則ってレポートにまとめられる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	学 習 心 理 学 実 験 (鏡 映 描 写) 実 験 概 要 の 説 明					事 前 : 心 理 学 実 験 法 の 復 習 事 後 : 先 行 研 究 の 確 認			
2	学 習 心 理 学 実 験 (鏡 映 描 写) 実 験 の 実 施					事 前 : 実 験 マ ニ ュ ア ル の 精 読 事 後 : 先 行 研 究 の 確 認			
3	学 習 心 理 学 実 験 (鏡 映 描 写) デ ー タ の 集 計 と 分 析					事 前 : 心 理 統 計 法 の 復 習 事 後 : 分 析 結 果 の 整 理			
4	学 習 心 理 学 実 験 (鏡 映 描 写) レ ポ ー ト の 書 き 方 の 説 明					事 前 : 実 験 概 要 の 確 認 事 後 : レ ポ ー ト の 作 成			
5	認 知 心 理 学 実 験 (ス ト ル ー プ 効 果) 実 験 概 要 の 説 明					事 前 : 実 験 マ ニ ュ ア ル の 精 読 事 後 : 先 行 研 究 の 確 認			
6	認 知 心 理 学 実 験 (ス ト ル ー プ 効 果) 実 験 の 実 施、デ ー タ 集 計					事 前 : 実 験 方 法 の 確 認 事 後 : デ ー タ の 見 直 し			
7	認 知 心 理 学 実 験 (ス ト ル ー プ 効 果) デ ー タ の 分 析					事 前 : 分 析 手 法 の 予 習 事 後 : 分 析 結 果 の 整 理			
8	認 知 心 理 学 実 験 (ス ト ル ー プ 効 果) レ ポ ー ト の 書 き 方 の 説 明					事 前 : 実 験 概 要 の 確 認 事 後 : レ ポ ー ト の 作 成			
9	認 知 心 理 学 実 験 (連 想 プ ラ イ ミ ン グ) 実 験 概 要 の 説 明					事 前 : 実 験 マ ニ ュ ア ル の 精 読 事 後 : 先 行 研 究 の 確 認			
10	認 知 心 理 学 実 験 (連 想 プ ラ イ ミ ン グ) 実 験 の 実 施、デ ー タ 集 計					事 前 : 実 験 方 法 の 確 認 事 後 : デ ー タ の 見 直 し			
11	認 知 心 理 学 実 験 (連 想 プ ラ イ ミ ン グ) デ ー タ 分 析					事 前 : 分 析 手 法 の 予 習 事 後 : 分 析 結 果 の 整 理			
12	認 知 心 理 学 実 験 (連 想 プ ラ イ ミ ン グ) レ ポ ー ト の 書 き 方 の 説 明					事 前 : 実 験 概 要 の 確 認 事 後 : レ ポ ー ト の 作 成			
13	心 理 検 査 (質 問 紙 法 性 格 検 査) 質 問 紙 法 性 格 検 査 に 関 す る 説 明、検 査 の 実 施					事 前 : 性 格 理 論、測 定 尺 度 に 関 す る 復 習 事 後 : 取 り 上 げ た 検 査 に 関 す る 文 献 調 査			
14	心 理 検 査 (質 問 紙 法 性 格 検 査) 測 定 結 果 の 整 理 と 分 析					事 前 : 分 析 手 法 の 予 習 事 後 : 分 析 結 果 の 確 認			
15	心 理 検 査 (質 問 紙 法 性 格 検 査) レ ポ ー ト の 書 き 方 の 説 明					事 前 : 検 査 内 容 の 確 認 事 後 : レ ポ ー ト の 作 成			
教 本 :					参 考 文 献 :				
『心理学 実験・研究レポートの書き方—学生のための初歩から卒論まで』 B.フィンドレイ(著)、細江・細越(訳) 北大路書房					『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』日本心理学会認定 心理士資格認定委員会(編) 金子書房				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
心 理 学 実 験 法 で 学 ん だ こ と を 活 か し、自 発 的 に 実 験 や 調 査 に 取 り 組 み、質 の 高 い レ ポ ー ト を 作 成 し て ほ し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数		時 間 数		授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	心 理 学 実 験 法 (Experimental Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 村 康 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	心 理 統 計 法 を 履 修 し て い る こ と							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
データによる人間理解の方法を学ぶ。心理学の実験や調査を実施し、その方法論や分析手法を習得するとともに、実験・調査内容を適切に報告するためのレポートの書き方を学ぶ。									
授 業 目 標 :									
①心理学の実験や調査を適切に実施できる。									
②実験・調査の結果を正確に分析できる。									
③実験・調査の目的を把握し、結果から論理的な考察が導き出せる。									
④実験・調査の目的・方法・結果・考察を書式や形式に則ってレポートにまとめられる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	データによる人間理解の意義					事前：テキストの精読 事後：実験マニュアルの精読		演習	
2	社会心理学実験(単純接触効果によるステレオタイプの形成) 実験の実施とデータの集計、実験目的・内容の説明					事前：先行研究の確認 事後：データの見直し		演習	
3	社会心理学実験(単純接触効果によるステレオタイプの形成) データの分析(記述統計量の算出と検定)					事前：心理統計法の復習 事後：分析結果の整理		演習	
4	社会心理学実験(単純接触効果によるステレオタイプの形成) レポート(目的・方法)の書き方の説明					事前：テキストの精読 事後：レポートの作成		演習	
5	社会心理学実験(単純接触効果によるステレオタイプの形成) レポート(結果・考察)の書き方の説明					事前：テキストの精読 事後：レポートの作成		演習	
6	感覚知覚実験(ミュラーリヤー錯視) 実験概要の説明					事前：実験マニュアルの精読 事後：先行研究の確認		演習	
7	感覚知覚実験(ミュラーリヤー錯視) 実験装置の作成					事前：実験方法の確認 事後：実験装置の点検		演習	
8	感覚知覚実験(ミュラーリヤー錯視) 実験の実施、データ集計					事前：実験方法の確認 事後：データの見直し		演習	
9	感覚知覚実験(ミュラーリヤー錯視) データの分析(記述統計量の算出と検定)					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		演習	
10	感覚知覚実験(ミュラーリヤー錯視) レポートの書き方の説明					事前：実験概要の確認 事後：レポートの作成		演習	
11	質問紙調査(社会的態度尺度) 尺度の説明、調査テーマの選定					事前：調査マニュアルの精読 事後：テーマの先行研究確認		演習	
12	質問紙調査(社会的態度尺度) 意見項目の選定、尺度の作成					事前：意見項目案の検討 事後：意見項目と尺度の確認		演習	
13	質問紙調査(社会的態度尺度) 質問紙の作成					事前：質問紙作成案の検討 事後：データの収集		演習	
14	質問紙調査(社会的態度尺度) データの分析(項目分析と態度得点の算出など)					事前：分析手法の予習 事後：分析結果の整理		演習	
15	質問紙調査(社会的態度尺度) レポートの書き方の説明					事前：調査概要の確認 事後：レポートの作成		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『心理学 実験・研究レポートの書き方―学生のための初歩から卒論まで』 B.フィンドレイ(著)、細江・細越(訳) 北大路書房					『認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎』日本心理学会認定 心理士資格認定委員会(編) 金子書房				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
授業参加状況等(40%)、小テスト・レポート(60%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
本科目は選択科目であるが、実験演習の基礎をなす科目である。3年次以降に「心理学実験演習」「社会心理学実験演習」を受講する予定の学生は必ず履修すること。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	心理統計法 (Psychometrics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野村 康治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 人間の行動は画一的ではなく、状況や個人差によって変化する。こうした行動から人間の心理を検討するために、心理学では統計学的手法が用いられる。この授業では、心理学を学ぶ上で必要とされる基礎的な統計学的知識の習得とその実践を学ぶ。									
授業目標： ①なぜ心理学に統計学が必要なのか説明できるようになる。 ②基礎的な統計学的な知識を説明できるようになる。 ③様々なデータに対して適切な統計処理ができるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンスーなぜ心理学に統計学が必要なのか					事前：シラバスの確認 事後：教本導入部の精読		講義	
2	心理学で扱うデータの種類					事前：教本当該箇所精読 事後：教本・ノートの確認		講義	
3	データの特徴をとらえる（中心傾向1）					事前：教本当該箇所精読 事後：教本・ノートの確認		講義と演習	
4	データの特徴をとらえる（中心傾向2）					事前：教本当該箇所精読 事後：練習問題		講義と演習	
5	データの特徴をとらえる（散布度1）					事前：教本当該箇所精読 事後：教本・ノートの確認		講義と演習	
6	データの特徴をとらえる（散布度2）					事前：教本当該箇所精読 事後：練習問題		講義と演習	
7	データ間の関係をとらえる（相関）					事前：教本当該箇所精読 事後：教本・ノートの確認		講義と演習	
8	データ間の関係をとらえる（直線回帰）					事前：教本当該箇所精読 事後：練習問題		講義と演習	
9	母集団と標本					事前：教本当該箇所精読 事後：教本・ノートの確認		講義	
10	データの分布型と統計検定					事前：教本当該箇所精読 事後：教本・ノートの確認		講義と演習	
11	2つの平均値の差の検定1					事前：教本当該箇所精読 事後：練習問題		講義と演習	
12	2つの平均値の差の検定2					事前：教本当該箇所精読 事後：練習問題		講義と演習	
13	比率の差の検定1					事前：教本当該箇所精読 事後：教本・ノートの確認		講義	
14	比率の差の検定2					事前：講義内容の復習 事後：理解の補完		講義	
15	理解度の確認					事前：講義内容の復習 事後：理解の補完		講義	
教本： 「よくわかる心理統計」山田剛史・村井潤一郎(著) ミネルヴァ書房 ¥3,024					参考文献： 必要に応じて随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業では計算作業も行うので、√の計算ができる電卓など（アプリでも可）を用意すること。詳しくはガイダンス時に説明する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	ス ポー ツ 実 技 (Physical Exercises)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	塩 野 谷 祐 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他	特 に な し							
授 業 概 要 : 健康のための運動・スポーツとして、フライングディスク、ヨガなどを実践し、実際の運動の効果を体感する。毎時間脈拍測定・気分の変化の記録などをする。									
授 業 目 標 : 健康を維持するのに適した運動量を理解し、生涯にわたって楽しみながら運動・スポーツに取り組む態度が育つことを目標とする。手軽にできる運動を実践し、健康・体力増進にとってどのような運動をどのくらいの強度で行うのが自分にとって適しているのかを学ぶ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態
1	ガイダンス (授業の進め方、評価方法の説明)					事前：シラバスの確認 事後：脈の測定を練習しておく			講義と実技
2	フライングディスク① (投げ方)					事前：フライングディスクを使った遊びについて調べておく 事後：クールダウンの実施			実技
3	フライングディスク② (的当て・リレー)					事前：フライングディスクの投げ方を思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
4	フライングディスク③ (ドッジビー)					事前：フライングディスクの投げ方、ドッジボールのルールをよく思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
5	ヨガ風エクササイズ① (呼吸法、初心者向けエクササイズ)					事前：ヨガについて調べておく 事後：自分に適したヨガを家で適宜行う			実技
6	ヨガ風エクササイズ② (症状別エクササイズ)					事前：ヨガの呼吸を思い出しておく 事後：自分の症状に合ったヨガを家で適宜行う			実技
7	ピラティスエクササイズ① (初心者向けエクササイズ)					事前：ピラティスについて調べておく 事後：自分に適したピラティスを家で適宜行う			実技
8	ピラティスエクササイズ② (症状別エクササイズ)					事前：ピラティスの呼吸法を思い出しておく 事後：自分の症状に合ったピラティスを家で適宜行う			実技
9	卓球① (基本の打ち方、ラリー)					事前：ラケットの持ち方、打ち方を思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
10	卓球② (ゲーム)					事前：基本の打ち方、ゲームのルールを思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
11	バドミントン① (基本の打ち方、ラリー)					事前：ラケットの持ち方、打ち方を思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
12	バドミントン② (ゲーム)					事前：基本の打ち方、ゲームのルールを思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
13	フットサル① (パス、ドリブル)					事前：ボールの蹴り方を思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
14	フットサル② (ゲーム)					事前：ボールの蹴り方やゲームのルールを思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
15	まとめ (実技に関するまとめ、心身の変化についての考察)					事前：今まで学んだ実技や活動前と活動後の心身の変化について思い出しておくこと 事後：自分に適した運動・スポーツは何かを把握し、生活の中で適宜行うようにする。			講義
教 本 : 特になし。適宜プリントを配布する。					参 考 文 献 : その都度紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業内容への参加状況等 (70%) 提出課題 (30%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 心身の変化を意識し、自分にとって最適な運動・スポーツをみつけるためにも、技術面だけにこだわることなく、積極的に楽しみながら授業や課題に取り組む姿勢が重要である。運動制限を伴う持病がある場合は事前に申告のこと。体育館シューズおよび運動着が必要。									
オ フ ィ ス ア フ ター : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	スポーツ実技 A (Physical Exercises A)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	小泉 隆裕、白井 大史、小林 夕紀恵									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること								
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボールなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。										
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○						◎				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		実技		
2	体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技		
3	テニスⅠ					事前：なし 事後：なし		実技		
4	テニスⅡ					事前：なし 事後：なし		実技		
5	テニスⅢ					事前：なし 事後：なし		実技		
6	卓球Ⅰ					事前：なし 事後：なし		実技		
7	卓球Ⅱ					事前：なし 事後：なし		実技		
8	卓球Ⅲ					事前：なし 事後：なし		実技		
9	バドミントンⅠ					事前：なし 事後：なし		実技		
10	バドミントンⅡ					事前：なし 事後：なし		実技		
11	バドミントンⅢ					事前：なし 事後：なし		実技		
12	ソフトボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技		
13	ソフトボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技		
14	ソフトボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技		
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技		
教本： 特になし					参考文献： 特になし					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対しないこと。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	スポーツ実技 A (Physical Exercises A)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	塩野谷 祐子								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	特になし							
<p>授業概要： 健康のための運動・スポーツとして、フライングディスク、ヨガなどを実践し、実際の運動の効果を体感する。毎時間脈拍測定・気分の変化の記録などをする。</p> <p>授業目標： 健康を維持するのに適した運動量を理解し、生涯にわたって楽しみながら運動・スポーツに取り組む態度が育つことを目標とする。手軽にできる運動を実践し、健康・体力増進にとってどのような運動をどのくらいの強度で行うのが自分にとって適しているのかを学ぶ。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	ガイダンス（授業の進め方、評価方法の説明）					事前：シラバスの確認 事後：脈の測定を練習しておく			講義と実技
2	フライングディスク①（投げ方）					事前：フライングディスクを使った遊びについて調べておく 事後：クールダウンの実施			実技
3	フライングディスク②（的当て・リレー）					事前：フライングディスクの投げ方を思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
4	フライングディスク③（ドッジビー）					事前：フライングディスクの投げ方、ドッジボールのルールをよく思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
5	ヨガ風エクササイズ①（呼吸法、初心者向けエクササイズ）					事前：ヨガについて調べておく 事後：自分に適したヨガを家で適宜行う			実技
6	ヨガ風エクササイズ②（症状別エクササイズ）					事前：ヨガの呼吸を思い出しておく 事後：自分の症状に合ったヨガを家で適宜行う			実技
7	ピラティスエクササイズ①（初心者向けエクササイズ）					事前：ピラティスについて調べておく 事後：自分に適したピラティスを家で適宜行う			実技
8	ピラティスエクササイズ②（症状別エクササイズ）					事前：ピラティスの呼吸法を思い出しておく 事後：自分の症状に合ったピラティスを家で適宜行う			実技
9	卓球①（基本の打ち方、ラリー）					事前：ラケットの持ち方、打ち方を思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
10	卓球②（ゲーム）					事前：基本の打ち方、ゲームのルールを思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
11	バドミントン①（基本の打ち方、ラリー）					事前：ラケットの持ち方、打ち方を思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
12	バドミントン②（ゲーム）					事前：基本の打ち方、ゲームのルールを思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
13	フットサル①（パス、ドリブル）					事前：ボールの蹴り方を思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
14	フットサル②（ゲーム）					事前：ボールの蹴り方やゲームのルールを思い出しておく 事後：クールダウンの実施			実技
15	まとめ（実技に関するまとめ、心身の変化についての考察）					事前：今まで学んだ実技や活動前と活動後の心身の変化について思い出しておくこと 事後：自分に適した運動・スポーツは何かを把握し、生活の中で適宜行うようにする。			講義
<p>教本： 特になし。適宜プリントを配布する。</p>					<p>参考文献： その都度紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（70%）提出課題（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 心身の変化を意識し、自分にとって最適な運動・スポーツをみつけるためにも、技術面だけにこだわることなく、積極的に楽しみながら授業や課題に取り組む姿勢が重要である。運動制限を伴う持病がある場合は事前に申告のこと。体育館シューズおよび運動着が必要。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	スポーツ実技B (Physical Exercises B)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	小泉 隆裕、白井 大史、小林 夕紀恵									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	持病がある場合は担当教員に事前に申し出ること								
授業概要： 本講は、様々なスポーツを実践することによって各種目から得られる楽しさや喜びを体験するとともに、健康や体力の維持・増進のために必要な運動を効果的に実践する基礎を身につけることをねらいとしている。スポーツ種目は、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボールなどを行う予定であるが、ストレッチや基礎体力作りなどについても実践していく。なお、天候の関係で実施する種目を変更する場合がある。										
授業目標： 近年、悪性新生物や心疾患などの生活習慣病に関連する疾病が増え、「健康」を考えるうえで、スポーツや運動が大きく影響していることが知られている。そこで本講では、健康で充実した社会生活を送るために必要な体力を維持・増進することを到達目標とし、定期的な運動習慣を確立するための基礎を学習する。 また、授業における「ルールと安全」をテーマとし、スポーツの実践を通じて社会生活に必要な不可欠な集団行動やコミュニケーションについても学習する。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○						◎				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		実技		
2	体ならし（ストレッチや基礎体力作り）					事前：なし 事後：なし		実技		
3	バレーボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技		
4	バレーボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技		
5	バレーボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技		
6	バスケットボールⅠ					事前：なし 事後：なし		実技		
7	バスケットボールⅡ					事前：なし 事後：なし		実技		
8	バスケットボールⅢ					事前：なし 事後：なし		実技		
9	サッカーⅠ					事前：なし 事後：なし		実技		
10	サッカーⅡ					事前：なし 事後：なし		実技		
11	サッカーⅢ					事前：なし 事後：なし		実技		
12	フットサルⅠ					事前：なし 事後：なし		実技		
13	フットサルⅡ					事前：なし 事後：なし		実技		
14	フットサルⅢ					事前：なし 事後：なし		実技		
15	本講のまとめ					事前：なし 事後：なし		実技		
教本： 特になし					参考文献： 特になし					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 遅刻は絶対しないこと。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	スポーツ論 (Health and Sports Education)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	塩野谷 祐子								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	特になし							
<p>授業概要：</p> <p>健康の観点から運動・スポーツを考えたときに必要な基礎知識（健康政策、食事、身体活動など）や生活習慣病予防に役立つ内容について学ぶ。また、オリンピック・パラリンピックの発祥や歴史、現在の問題点についても取り上げる。ディベートを実施することで、健康分野、オリンピック・パラリンピック分野ともに様々な視点から理解が深まるようにする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>運動・スポーツを健康という観点から科学的にとらえ、健康的な生活の実践に役立つ基礎知識を学ぶ。また、生活習慣病の予防に関する内容にも触れ、生涯にわたって運動・スポーツに親しみ、正しい生活習慣を実現することで心身ともに健康的な生活を営む力を育む。さらに、観るスポーツとしてのオリンピック・パラリンピックへの理解を深め、興味関心を高めることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）				授業形態
1	ガイダンス（授業の進め方、評価方法の説明）				事前：シラバスの確認 事後：スポーツや健康に関する世の中の動きに目を向ける				講義
2	健康の捉え方と健康政策について（健康の定義、QOL、健康日本21）				事前：健康に関する知識を思い出しておく 事後：学んだ内容の復習				講義
3	健康的な食生活①（栄養素、脂肪・砂糖・塩の話）				事前：食に関する知識を思い出しておく 事後：学んだ内容の復習				講義
4	健康的な食生活②（カルシウム・食物繊維の話、健康的なおやつ）				事前：おやつ箱や袋を集めておく 事後：学んだ内容の復習				講義
5	生活習慣病について（生活習慣病の説明とその予防）				事前：自分の生活習慣について振り返っておく 事後：学んだ内容の復習				講義
6	身体活動について（身体活動の定義、健康づくりとしての身体活動）				事前：一日どの程度歩行しているかなどを振り返る 事後：学んだ内容の復習				講義
7	体力について（体力の定義、体力測定法、運動の時期と内容について）				事前：体力について今まで学んだことを思い出しておく 事後：学んだ内容の復習				講義
8	正しいダイエットについて（ダイエットの注意点、リバウンド、体脂肪率）				事前：自分の体重と身長を把握しておく 事後：学んだ内容の復習				講義
9	健康に関する時事的問題について①（テーマごとの調べ学習）				事前：健康に関する時事的なニュースに目を向けておく 事後：テーマに関して理解を深めておく				演習
10	健康に関する時事的問題について②（ディベート実施）				事前：ディベートの準備 事後：ディベートに関して感想をまとめておく				演習
11	オリンピック・パラリンピック①（発祥と歴史）				事前：オリンピック・パラリンピックの組織について調べておく 事後：学んだ内容の復習				講義
12	オリンピック・パラリンピック②（現状について）				事前：オリ・パラのニュースに目を向ける 事後：学んだ内容の復習				講義
13	オリンピック・パラリンピックの諸問題について①（テーマごとの調べ学習）				事前：オリ・パラに関する諸問題について目を向ける 事後：テーマに関して理解を深めておく				演習
14	オリンピック・パラリンピックの諸問題について②（ディベート実施）				事前：ディベートの準備 事後：それぞれのディベートについて感想をまとめておく				演習
15	まとめ（理解度の確認および総括）				事前：今まで学んだことに関して総復習しておく 事後：健康生活を実践する努力をする。オリンピック・パラリンピックへの関心を持ち続けるようにする				講義
教本：					参考文献：				
特になし。適宜プリントを配布する。					その都度紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：									
提出課題（20%）、発表課題（20%）、筆記試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス：									
スポーツや健康に関して日頃から関心を持ち、時事的内容に目を向けること。講義科目であるが、主体的かつ積極的に参加する意欲を高めるためディベートや他の学生とのグループワークも実施する。									
オフィスアワー：									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	図 画 工 作 (子 ど も と 造 形) (Art and Craft)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 野 和								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	『幼稚園教育要領』『幼保連携型こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』の精読							
授 業 概 要 :									
『幼稚園教育要領』『幼保連携型こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』テキストにより、子どもと造形についての基礎的な事項を学ぶ。さらに具体的な造形活動を実践し、基礎的な造形技能を身に付ける。加えて、造形活動に必要な材料・用具を使って、造形表現について、より技能を高めていく。									
授 業 目 標 :									
造形に関する様々な活動を通して、楽しさや喜びを体験する。造形表現の発達や、保育で扱う造形素材・教材・画材等を知り、それらを展開できるように努める。基本的な造形要素や造形技法を理解して造形表現を行い、考察する。									
この科目は、1. 幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス・造形の意義と『小学校学習指導要領』に基づく図画工作の今日的課題					事前：教本精読 事後：本時の復習		演習	
2	造形遊びの研究 (1) 身近な環境に注目					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
3	造形遊びの研究 (2) 発想に注目					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
4	造形遊びの研究 (3) 材料・用具に注目					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
5	絵に表す (1) 絵具類					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
6	絵に表す (2) クレヨン・パス等					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
7	絵に表す (3) 様々な表現					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
8	立体に表す (1) 紙や空き箱等に注目					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
9	立体に表す (2) 粘土類に注目					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
10	鑑賞 (1) 相互鑑賞					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
11	鑑賞 (2) 鑑賞教育					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
12	工作 (1) 作って遊ぶ、撮影					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
13	工作 (2) 共同制作・展示、撮影					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
14	作品・資料集作成					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
15	図画工作の視点による幼小の連携					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『幼稚園教育要領』『幼保連携型こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』 『すべての感覚を駆使してわかる 乳幼児の造形表現』					小学校学習指導要領解説・図画工作編				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況・授業態度等 (40%)、課題・レポート・定期試験等 (60%)、等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
子どもと造形について意欲的に学び、造形の楽しさや喜びを体験し、知識や技能を習得することを期待する。 個人で使用する材料・用具については授業の中で説明・指示するので、各自で準備すること。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	性 格 心 理 学 (Personality Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 淳 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>人は誰でも自分らしくありたいと思うでしょう。しかし、自分ほどわからないものはありません。本講座では、自身の性格（パーソナリティ）や、個性について考えるとともに他者理解の手掛かりとして「性格」を心理学的視点から学んでいきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 各性格理論について学び、その妥当性について考える。 2. 性格や個性を理解するための方法論を学ぶ。 3. 性格形成に及ぼす様々な影響（環境）について学び、考える。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	性格とはなにか？					事前：事後：復習		講義	
2	性格は変化するか？					事前：予習 事後：復習		講義	
3	性格に男女差はあるか？					事前：予習 事後：復習		講義	
4	性格に及ぼす影響は何か？(1)家庭環境、出生順位					事前：予習 事後：復習		講義	
5	〃 (2)役割と個性					事前：予習 事後：復習		講義	
6	〃 (3)群衆と個性（性格）					事前：予習 事後：復習		講義	
7	自分の性格を知る方法		(1)他者から知る自分			事前：予習 事後：復習		講義と演習	
8	〃		(2)心理検査から知る自分			事前：予習 事後：復習		講義と演習	
9	性格と文化		(1)日本人の性格			事前：予習 事後：復習		講義	
10	〃		(2)教育と異文化			事前：予習 事後：復習		講義	
11	やる気のある人の性格					事前：予習 事後：復習		講義と演習	
12	創造性のある人の性格					事前：予習 事後：復習		講義と演習	
13	攻撃的な人の性格、偏った性格					事前：予習 事後：復習		講義と演習	
14	好き嫌いとは性格					事前：予習 事後：復習		講義と演習	
15	まとめ					事前：予習 事後：復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
使用しない。適宜、参考資料を配布。					・ 近藤卓編著 パーソナリティと心理学 大修館書店 ¥2,000 ・ 清水弘司著 はじめてふれる性格心理学 サイエンス社 ¥1,800				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 で は、一 方 的 な 講 義 で は な く、学 生 に 考 え て も ら い ま す。単 元 に よ っ て は 発 表 者 を 決 め て お き、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン を 行 っ て も ら う こ と も あ り ま す。受 け 身 な 態 度 で は な く、自 身 の 考 え を 表 現 で き る よ う に 心 が け て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	生活環境論 (Environmental issues in Living area)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	金子 勲								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>福島原発事故による放射能汚染問題は、原子力発電という非常に効率の良いエネルギー生産システムが、次世代まで影響を及ぼす環境破壊をもたらすことを現実の問題として認識させた。一方で、原子力発電は同じく環境問題である地球温暖化防止の一つの切り札とも捉えられていた。このように、我々を取り巻く「環境」は私たちの生活に大きな影響をあたえるものであるが、環境問題は相互に複雑に関係し単純ではない。この授業では現実の環境問題を提示するとともに、それに対する最新の科学技術的対応策および身近な環境を保全し、環境破壊から派生する危険性から身を守る方策についても提示する。まず、ガイダンスで、初めて環境問題を原理的に把握し、「現代」を考えるための必読書であるレイチェル・カーソンの「沈黙の春」について紹介し、つづいて、福島原発放射能汚染、国際的な公害問題になった大気汚染、緊急対策が必要な地球温暖化、水質汚染、農薬汚染等を取り上げ、さらに、都市における環境問題、地球環境問題、環境ビジネス等に話題を広げていく予定である。なお、授業は毎回、資料を配布し、パワーポイントで説明し、その中から小テスト問題を出題する。次週にその問題の解答を説明し、理解を深めることに努める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>現代科学文明の驚異的な発展は、人類に大きな豊かさと便利さをもたらしたが、その反面、当初予想していなかった地球規模の環境破壊（地球温暖化、放射能汚染等）を引き起こすことが認識された。今後も、人類が繁栄していくためには、これまでの問題点を明確に把握し、それを克服する持続可能な発展 (Sustainable Development) の確立に向けて真剣に舵を切らなければならない。本講義では、持続可能な発展 (Sustainable Development) を維持しつつ、健康な生活を保持するために、身近な環境から地球環境までの現状と問題点とその対策を科学的に理解することを目的とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：沈黙の春、レイチャル・カーソン伝記、環境問題、DTT、水俣病、日米の対応力の差、公害立国。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
2	放射能汚染：核分裂反応、原発事故、放射線量と人体への影響、福島原発事故の教訓、今後のエネルギー資源。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
3	大気汚染：大気汚染物質、大気汚染の歴史、PM2.5の健康に及ぼす影響、アスベスト、大気汚染物質の解釈拡大。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
4	水質汚染：鉱山廃液と生活排水、足尾鉍毒事件、イタイイタイ病、BOD、アオコ、活性汚泥法、干潟の活用。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
5	土壌汚染と地下水汚染：スーパーファンド法、6価クロム、シアン、ダイオキシン、土壌汚染発生の特殊性。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
6	騒音、振動、悪臭：騒音によるトラブル、防音対策、臭覚と悪臭、消臭法の問題点。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
7	ヒートアイランド現象：熱中症の増加、ヒートアイランドの対策法、コジェネレーションシステム、緑のカーテン、地球温暖化との関係。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
8	地球温暖化とCO ₂ 排出：地球温暖化とは、政府間パネル (IPPC)、炭酸ガスの急激な上昇、温室効果、氷河消失、海面上昇、温暖化抑制対策、炭素税、京都議定書。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
9	光化学スモッグと光化学オキシダント：白いスモッグ、オゾン、中国からの飛来、窒素酸化物除去システム。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
10	オゾン層破壊：オゾンの役割、紫外線防御、オゾンホール の出現、フロン、一酸化窒素、地球温暖化とオゾン。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
11	酸性雨：二酸化硫黄、窒素酸化物、森林破壊、建造物・文化財破壊、越境汚染、監視体制、脱硫・脱窒素装置。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
12	産業廃棄物とリサイクル：一般廃棄物と産業廃棄物、廃棄物処理法、廃棄物減量・再利用・リサイクル。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
13	化学物質汚染：有機メチル水銀、農薬、ダイオキシン、PCB、生物濃縮、有機リン化合物、生体薬物解毒系。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
14	森林と水源：日本は森林大国、貴重な淡水、外国による買い占め、里山、環境保全、伐採機械化、耐火木材開発。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
15	海洋の汚染：廃油汚染、重金属汚染、赤潮・青潮、漂流物質汚染、炭酸ガスによる海水の酸性化。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
<p>教本：</p> <p>教科書なし。毎回、資料を配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>1. 環境科学入門、川合真一郎等、化学同人：¥2,200。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>①毎回、小テストを行う。成績はテスト点80%、平常点20%で総合評価する。期末試験は必要に応じて行う。</p> <p>②授業中の私語、着席、居眠り、携帯メールは厳禁。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>現在、化石燃料使用等による地球温暖化が急速に進み、深刻な環境破壊が進行している現状を身近に認識し、それに対応する防止対策を学んでほしい。積極的な参加を望む。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。毎週木曜日の昼休みあるいは授業終了後15分程度。非常勤講師室。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	生活環境論 (Environmental Issues in Living Area)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	中藤 和重								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>福島原発事故による放射能汚染問題は、原子力発電という非常に効率の良いエネルギー生産システムが、次世代まで影響を及ぼす環境破壊をもたらすことを現実の問題として認識させた。一方で、原子力発電は同じく環境問題である地球温暖化防止の一つの切り札とも捉えられていた。このように、我々を取り巻く「環境」は私たちの生活に大きな影響をあたえるものであるが、環境問題は相互に複雑に関係し単純ではない。この授業では現実の環境問題を提示するとともに、それに対する最新の科学技術的対応策および身近な環境を保全し、環境破壊から派生する危険性から身を守る方策についても提示する。まず、ガイダンスで、初めて環境問題を原理的に把握し、「現代」を考えるための必読の書であるレイチェル・カーソンの「沈黙の春」について紹介し、つづいて、福島原発放射能汚染、国際的な公害問題になった大気汚染、緊急対策が必要な地球温暖化、水質汚染、農薬汚染等を取り上げ、さらに、都市における環境問題、地球環境問題、環境ビジネス等に話題を広げていく予定である。なお、授業は毎回、資料を配布し、パワーポイントで説明し、その中から小テスト問題を出題する。次週にその問題の解答を説明し、理解を深めることに努める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>現代科学文明の驚異的な発展は、人類に大きな豊かさと便利をもたらしたが、その反面、当初予想していなかった地球規模の環境破壊（地球温暖化、放射能汚染等）を引き起こすことが認識された。今後も、人類が繁栄していくためには、これまでの問題点を明確に把握し、それを克服する持続可能な発展 (Sustainable Development) の確立に向けて真剣に舵を切らなければならない。本講義では、持続可能な発展 (Sustainable Development) を維持しつつ、健康な生活を保持するために、身近な環境から地球環境までの現状と問題点とその対策を科学的に理解することを目的とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：沈黙の春、レイチャル・カーソン伝記、環境問題、DTT、水俣病、日米の対応力の差、公害立国。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
2	放射能汚染：核分裂反応、原発事故、放射線量と人体への影響、福島原発事故の教訓、今後のエネルギー資源。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
3	大気汚染：大気汚染物質、大気汚染の歴史、PM2.5の健康に及ぼす影響、アスベスト、大気汚染物質の解釈拡大。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
4	水質汚染：鉱山廃液と生活排水、足尾鉍毒事件、イタイイタイ病、BOD、アオコ、活性汚泥法、干潟の活用。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
5	土壌汚染と地下水汚染：スーパーファンド法、6価クロム、シアン、ダイオキシン、土壌汚染発生の特殊性。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
6	騒音、振動、悪臭：騒音によるトラブル、防音対策、臭覚と悪臭、消臭法の問題点。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
7	ヒートアイランド現象：熱中症の増加、ヒートアイランドの対策法、コジェネレーションシステム、緑のカーテン、地球温暖化との関係。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
8	地球温暖化とCO ₂ 排出：地球温暖化とは、政府間パネル (IPPC)、炭酸ガスの急激な上昇、温室効果、氷河消失、海面上昇、温暖化抑制対策、炭素税、京都議定書。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
9	光化学スモッグと光化学オキシダント：白イスモッグ、オゾン、中国からの飛来、窒素酸化物除去システム。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
10	オゾン層破壊：オゾンの役割、紫外線防御、オゾンホール の出現、フロン、一酸化窒素、地球温暖化とオゾン。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
11	酸性雨：二酸化硫黄、窒素酸化物、森林破壊、建造物・文化財破壊、越境汚染、監視体制、脱硫・脱窒装置。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
12	産業廃棄物とリサイクル：一般廃棄物と産業廃棄物、廃棄物処理法、廃棄物減量・再利用・リサイクル。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
13	化学物質汚染：有機メチル水銀、農薬、ダイオキシン、PCB、生物濃縮、有機リン化合物、生体薬物解毒系。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
14	森林と水源：日本は森林大国、貴重な淡水、外国による買い占め、里山、環境保全、伐採機械化、耐火木材開発。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
15	海洋の汚染：廃油汚染、重金属汚染、赤潮・青潮、漂流物質汚染、炭酸ガスによる海水の酸性化。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
<p>教本：</p> <p>教科書なし。毎回、資料を配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>1. 環境科学入門、川合真一郎等、化学同人：¥2,200。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>①毎回、小テストを行う。成績はテスト点80%、平常点20%で総合評価する。期末試験は必要に応じて行う。</p> <p>②授業中の私語、着席、居眠り、携帯メールは厳禁。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>現在、化石燃料使用等による地球温暖化が急速に進み、深刻な環境破壊が進行している現状を身近に認識し、それに対応する防止対策を学んでほしい。積極的な参加を望む。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。毎週木曜日の昼休みあるいは授業終了後15分程度。非常勤講師室。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	生 活 (子 ども と 生 活) (Living Environment Studies)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 川 智 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>生活の理念を学ばせた後、9つの項目に即して幼児期の生活体験と、その体験から得られる内容は何かを教授する。また、幼児期における家庭・保育施設・地域の生活、季節の変化、遊びと生活に関する知識と技能を習得させる。動植物を通して命の尊さを学ばせるとともに、幼児期の他者との関わりの重要性を理解させる。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>低学年児童の発達的な理解から9つの内容について具体的な活動や体験の重要性を学び、幼児期の生活の意味と現状の問題について検討する。生活科の基本理念や9つの内容項目を通して、幼児期における生活の具体的な内容や支援方法、その知識と理論を学ぶことができる。この科目は、幼児期の子ども達の発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	就学後に学ぶ「生活科」—教科誕生の背景、改訂の経緯					事前： 事後：ノートを読み返す		講義	
2	「生活科」の理念と内容—幼児教育の果たす役割の理解					事前：参考資料を読む 事後：ノートを読み返す		講義	
3	内容1 幼稚園・学校と生活—生活の内容の理解					事前：違いを考える 事後：ノートを読み返す		演習	
4	内容2 家庭と生活—家庭の役割と今日的課題を事例で検討					事前：事例を探す 事後：ノートを読み返す		演習	
5	内容3 地域と生活—子どもを取り巻く地域社会の役割					事前：自分の経験を振り返る 事後：ノートを読み返す		演習	
6	内容4 公共物や公共施設の利用—利用の仕方の理解と指導					事前：幼児の実態を観察する 事後：ノートを読み返す		演習	
7	内容5 季節の変化と生活—四季の変化と子どもの生活					事前：生活の違いを考える 事後：ノートを読み返す		演習	
8	内容6—(1) 遊びと生活 計画・準備					事前：素材収集、構想をもつ 事後：制作を完了する		実習	
9	内容6—(2) 遊びと生活 実践・検討会					事前：遊び方の説明を考える 事後：ノートを読み返す		実習	
10	内容7—動植物の飼育栽培 意義の理解と課題解決					事前：自分の経験を振り返る 事後：ノートを読み返す		実習	
11	内容8—出来事の交流 表現の重要性、活動・支援の方法					事前：スピーチの話題集め 事後：ノートを読み返す		講義・演習	
12	内容9—自分の成長 自己認識を深める表現や支援の方法、					事前：成長の視点を考える 事後：ノートを読み返す		演習	
13	幼稚園と小学校の連携 接続期の子ども達の状況の理解					事前：幼小の違いを考える 事後：ノートを読み返す		講義	
14	生活関わる教材研究 選択した単元を研究し構想を立てる					事前：単元の候補を絞る 事後：ノートを読み返す		演習	
15	総合レポート テーマを決めてレポートを作成する					事前：資料集めをする 事後：		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
子ども学講座1 子どもと生活 林邦雄・谷田貝公昭 (一藝社、¥1,800+税)					授業時に随時提示する				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
<p>生活科の理念や内容や子どもの生活についての知識・技能を理解し、現状と課題、支援についてどうとらえているかを、レポート等(20%)、演習や実習の参加態度や質疑応答等(20%)、筆記試験(60%)等で総合評価する。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>子どもや親子に関心をもち、子どもの言動、親の対応に自分なりの考えをもつようにする。実践を通しての学びを大切にする。</p>									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	政治学 (Politics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	伊藤 重行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>政治学は時代と共に変化してくる。現在はアジア太平洋の時代である。そこでは地球的に考えて、地域的に活動することが基本概念になる。この講義を通じて新しい政治論とそれに基づく日本の政治、選挙、政策決定過程などを講義する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>社会や国家における政治現象は、人間の集団化によって起こってくるので、有史以来政治から逃避することはできない。政治現象がどのようにして生じてくるのか、その現象の法則性を究明することに目標が置かれている。ここではアジア太平洋の現実と新しい哲学に依拠した政治論を講義する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
2	新時代の政治学					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
3	アジア太平洋の時代					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
4	アジア太平洋か、あるいは太平洋アジアか					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
5	アジア太平洋と太平洋経済協力協議会（PECC）					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
6	アジア太平洋とアジア太平洋経済協力会議（APEC）					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
7	アジア太平洋と東南アジア諸国連合（ASEAN）					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
8	アジア太平洋の諸国と地理					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
9	日韓関係の過去と未来					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
10	アジア太平洋と福田内閣					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
11	アジア太平洋と村山内閣					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
12	日本とベトナム－安土桃山時代の関係史					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
13	日本とベトナム－明治、大正の関係史					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
14	日本とベトナム－昭和、平成の関係史					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
15	まとめ					事前：講義報告の構想 事後：講義報告の提出		講義	
<p>教本：</p> <p>伊藤重行『アジア太平洋発展論』志学社、¥2,000</p>					<p>参考文献：</p> <p>伊藤重行『釧路湿原の聖人・長谷川光二』学文社、¥2,000</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>テキストや参考文献などを購入し、よく読む努力をして欲しい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	政治学 (Political Science)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他								
授業概要： 新聞、テレビ、インターネットなどにあるニュース素材を使いながら、政治、また政治学とは何かという問いにアプローチしていきます。前半は、民主主義における「政治過程」というものをイメージしながら、政治を理解することを目指します。後半は、日本の大学で学ぶ政治学の主要分野を概略していきます。									
授業目標： 1. 政治学に親しみ、身近な政治に関心を持つ。 2. 具体的な事例を通じ、政治学の骨格を身に着ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要と身近な問題に隠れている政治というものについてわかりやすくお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
2	政治過程とは：政治過程とは何か、民主主義の中での意義を概説します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
3	政治過程①：民主主義の政治過程での民意の形成について、幾つかの事例を使いながら説明していきます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
4	政治過程②：民主主義の政治過程での民意の実現に関して、幾つかの事例を使いながら説明していきます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
5	民主主義と現代の政治体制（教科書5、7章）：民主主義とは何か、そして現代の政治体制のタイプを整理します。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
6	内閣と行政（教科書11章）：行政とは何かを知り、その担い手である内閣について学びます。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
7	国会と立法（教科書10章）：立法とは何かを知り、その担い手である国会について学びます。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
8	選挙（教科書8章）：民主主義の要である選挙の意義と仕組みについて学びます。					事前：教科書予習 事後：ハンドアウト復習		講義	
9	ミニ・テスト①：前半の総復習をします。					事前：学習分野の総復習 事後：特になし		講義	
10	政党（教科書12章）：政治過程の主要な担い手である政党について基礎知識を学びます。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
11	利益団体（教科書13章）：政治過程の主要な担い手である利益団体について基礎知識を学びます。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
12	国家と権力（教科書2章）：国内政治の基礎にある「国家」について、伝統的な政治学での議論を紹介します。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
13	市民革命と民主主義（教科書4章）：民主的制度の歴史と土台にある伝統的な理論について、基本事項を学習していきます。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
14	ミニ・テスト②：後半の復習をします。					事前：学習分野の総復習 事後：特になし		講義	
15	政治とは何を指すのか：講義のまとめとして、政治の目的と我々の政治参加のあり方を一緒に考えていきます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
教本： 『はじめての政治学』（法律文化社）¥1,900（5回目の講義までに必ず購入して下さい。）。					参考文献： 補足として毎回ハンドアウト（配布資料）を配ります。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 18歳から選挙権が与えられ政治を身近な問題として若い人が学ぶべき時代になっています。どなたにでもわかりやすい入門の講義なので、少しでも関心があれば是非受講してみてください。教科書を購入しない場合は受講を認めません。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	政治学概論 I (Politics I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 重行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>政治学は時代と共に変化してくる。現在はアジア太平洋の時代である。そこでは地球的に考えて、地域的に活動することが基本概念になる。この講義を通じて新しい政治論とそれに基づく日本の政治、選挙、政策決定過程などを講義する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>社会や国家における政治現象は、人間の集団化によって起こってくるので、有史以来政治から逃避することはできない。政治現象がどのようにして生じてくるのか、その現象の法則性を究明することに目標が置かれている。ここではアジア太平洋の現実と新しい哲学に依拠した政治論を講義する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
2	新時代の政治学					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
3	アジア太平洋の時代					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
4	アジア太平洋か、あるいは太平洋アジアか					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
5	アジア太平洋と太平洋経済協力協議会（PECC）					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
6	アジア太平洋とアジア太平洋経済協力会議（APEC）					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
7	アジア太平洋と東南アジア諸国連合（ASEAN）					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
8	アジア太平洋の諸国と地理					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
9	日韓関係の過去と未来					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
10	アジア太平洋と福田内閣					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
11	アジア太平洋と村山内閣					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
12	日本とベトナム－安土桃山時代の関係史					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
13	日本とベトナム－明治、大正の関係史					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
14	日本とベトナム－昭和、平成の関係史					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
15	まとめ					事前：講義報告の構想 事後：講義報告の提出		講義	
<p>教本：</p> <p>伊藤重行『アジア太平洋発展論』志学社、¥2,000</p>					<p>参考文献：</p> <p>伊藤重行『釧路湿原の聖人・長谷川光二』学文社、¥2,000</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>テキストや参考文献などを購入し、よく読む努力をして欲しい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	政治学概論 I (Basics of Political Science I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他								
授業概要： 新聞、テレビ、インターネットなどにあるニュース素材を使いながら、政治、また政治学とは何かという問いにアプローチしていきます。前半は、民主主義における「政治過程」というものをイメージしながら、政治を理解することを目指します。後半は、日本の大学で学ぶ政治学の主要分野を概略していきます。									
授業目標： 1. 政治学に親しみ、身近な政治に関心を持つ。 2. 具体的な事例を通じ、政治学の骨格を身に着ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要と身近な問題に隠れている政治というものについてわかりやすくお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
2	政治過程とは：政治過程とは何か、民主主義の中での意義を概説します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
3	政治過程①：民主主義の政治過程での民意の形成について、幾つかの事例を使いながら説明していきます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
4	政治過程②：民主主義の政治過程での民意の実現に関して、幾つかの事例を使いながら説明していきます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
5	民主主義と現代の政治体制（教科書5、7章）：民主主義とは何か、そして現代の政治体制のタイプを整理します。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
6	内閣と行政（教科書11章）：行政とは何かを知り、その担い手である内閣について学びます。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
7	国会と立法（教科書10章）：立法とは何かを知り、その担い手である国会について学びます。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
8	選挙（教科書8章）：民主主義の要である選挙の意義と仕組みについて学びます。					事前：教科書予習 事後：ハンドアウト復習		講義	
9	ミニ・テスト①：前半の総復習をします。					事前：学習分野の総復習 事後：特になし		講義	
10	政党（教科書12章）：政治過程の主要な担い手である政党について基礎知識を学びます。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
11	利益団体（教科書13章）：政治過程の主要な担い手である利益団体について基礎知識を学びます。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
12	国家と権力（教科書2章）：国内政治の基礎にある「国家」について、伝統的な政治学での議論を紹介します。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
13	市民革命と民主主義（教科書4章）：民主的制度の歴史と土台にある伝統的な理論について、基本事項を学習していきます。					事前：教科書予習 事後：教科書復習		講義	
14	ミニ・テスト②：後半の復習をします。					事前：学習分野の総復習 事後：特になし		講義	
15	政治とは何を指すのか：講義のまとめとして、政治の目的と我々の政治参加のあり方を一緒に考えていきます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
教本： はじめての政治学（法律文化社）¥1,900（5回目の講義までに必ず購入して下さい。）。					参考文献： 補足として毎回ハンドアウト（配布資料）を配ります。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 18歳から選挙権が与えられ政治を身近な問題として若い人が学ぶべき時代になっています。どなたにでもわかりやすい入門の講義なので、少しでも関心があれば是非受講してみてください。教科書を購入しない場合は受講を認めません。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	政治学概論Ⅱ (Politics Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	伊 藤 重 行								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>ホワイトヘッドは、数学、論理学、科学理論、倫理道德、形而上学などを構築した優れた哲学者でもあった。彼は合意形成説得型政治理論の基礎的研究を行った。国家中心の政治学から地球的政治学を哲学的展開した学者である。ここでは少し深みのある政治学を論じてみる。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>社会や国家における政治現象は、人間の集団化によって起こってくるので、有史以来政治から逃避することはできない。ここでは政治現象がどのようにして生じてくるのか、その現象の法則性を究明することに目標が置かれている。ホワイトヘッドの政治理論を基礎にした政治論を講義する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：学と論の違い					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
2	ホワイトヘッドの道					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
3	ホワイトヘッド政治論の現代的意義					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
4	ホワイトヘッドの政治理論					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
5	権力と権威の概念と定義					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
6	政治的強制と政治的権力					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
7	政治的合意と政治的権威					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
8	合意形成説得型政治理論					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
9	政治のサイバネティクス					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
10	政治制度と倫理道德					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
11	ホワイトヘッドの平和論					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
12	個人主義と政治学					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
13	全体主義と政治学					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
14	システム主義と政治学					事前：教科書を読む 事後：ノートにまとめる		講義	
15	まとめ					事前：講義報告の構想 事後：講義報告の提出		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
伊藤重行『ホワイトヘッドの政治理論』学文社、¥2,300					A. N. ホワイトヘッド『科学と近代世界』松籟社、¥2,800				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (10%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : テ キ ス ト や 参 考 文 献 な ど を 購 入 し、よ く 読 む 努 力 を し て 欲 し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	政治学概論Ⅱ (Politics Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	政治学について身近な話題から入門したい受講者は政治学概論Ⅰを先に履修することを薦めます。							
	その他	なし							
授業概要： 民主主義での政治過程（政治のプロセス）を追いながら、政治学の基礎作りをします。前半は政治過程の基本的枠組みを使いながら、議会、選挙、政党・圧力団体などの主要項目を学びます。後半は、我々の政治における「考え方」を構成する「イデオロギー・思想」や「政治的態度」、また「世論」や「政治的言語」に焦点を当てます。									
授業目標： 1. 我々はどうのように政治に参加しようのかという視点から、政治学の基礎的な体系を理解する。 2. 身近な政治の問題を政治学の体系の中で位置づける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要と政治学とは何かについてわかりやすくお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
2	政治体制：幾つかの基本的な政治体制について説明し、民主主義の政治体制の意義を学びます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
3	民主主義と政治過程：民主主義における政治過程（政治のプロセス）について、モデルを提示しながらお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
4	政治参加と政治① 議会：政治過程への政治参加の最も重要な制度である議会・代議制についてその仕組みを学びます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
5	政治参加と政治② 選挙：我々が代議制に関わる制度である「選挙」について、その仕組みと政治過程での意義を学びます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
6	政治参加と政治③ 政党と圧力団体：我々が政治過程に関わる媒体である政党と圧力団体の機能を学びます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
7	政治参加と政治④ 政治運動・陳情等：政治過程に関わる手段としての政治運動、陳情などの機能を学びます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
8	前半のまとめ：ここまでの講義の整理をします。様々な質問や意見も歓迎します。 (自由な討論を歓迎します。)					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
9	政治思想・イデオロギー：政治に関わる諸集団をまとめ上げる政治思想・イデオロギーについて、その概要を学びます。					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
10	政治意識：政治に関わる我々の態度は政治に大きな影響を与えます。この課題を扱う「政治意識」についてお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
11	政治的アパシー：政治への無関心は政治過程に重要な影響を与えます。政治的無関心に関する幾つかの議論を紹介しします。 (自由な討論を歓迎します。)					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
12	世論とマスメディア：「世論」とは何か、どのように形成されるのかについてお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
13	投票行動：選挙の結果を左右する有権者の投票行動について、政治学の過去の蓄積をお話しします。					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
14	政治的言語：政治の発言、文章に含まれる「政治的言語」について言及し、いかに政治の意図を読み解くか考えます。 (自由な討論を歓迎します。)					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
15	あるべき政治の姿と我々の関わりとは：我々が民主主義の政治過程に、いかに関わっていけるのかを一緒に考えます。 (自由な討論を歓迎します。)					事前：特になし 事後：ハンドアウト(復習)		講義	
教本： 【Next教科書シリーズ 政治学】 山田光矢編 弘文堂（¥2,000） 毎回ハンドアウトに従って進めます。					参考文献： 講義の中で必要に応じ紹介します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 自宅学習は復習中心です。講義に積極参加することが望ましいです。様々な質問を歓迎します。きちんと学習できれば、大学での政治学の基礎を十分身に付けることが出来る講義です。公務員試験、その他就職試験の政治学の範囲もカバーします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	成人・老年期の心理 (adultly and elderly psychology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 淳子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 高齢期に至る前の成人期を踏まえていかに人生後半を生きるべきかを考えていく。長い高齢期間がもたらす諸問題について検証し、人生の集大成である高齢期を支えることは、将来の自分たちを見通すことであることを生涯発達の視点から学び、考えていく。									
授業目標： 1. 生涯発達の視点からの成人期、高齢期の位置づけについて考える。 2. 成人期の課題と身体変化、認知面・環境面が及ぼす心理的特徴について学び、理解する。 3. 高齢期の人間関係、社会的側面、問題行動や障害について理解を深め、支援方法について学び、考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	成人期の発達課題とは？					事前： 事後：復習		講義	
2	生涯発達の視点から見た成人期、高齢期の位置づけ —(1)精神分析理論					事前：予習 事後：復習		講義	
3	〃 —(2)生涯発達理論					事前：予習 事後：復習		講義	
4	成人期のアイデンティティと課題 —(1)キャリア発達					事前：予習 事後：復習		講義	
5	〃 —(2)成人期の危機					事前：予習 事後：復習		講義&討議	
6	高齢期の身体・感覚的特徴—(1)身体機能と感覚機能					事前：予習 事後：復習		講義	
7	〃 —(2)加齢による記憶機能の変化					事前：予習 事後：復習		講義&討議	
8	高齢者の知能・認知機能の特徴—(1)知能の生涯発達					事前：予習 事後：復習		講義	
9	〃 —(2)知恵の発達					事前：予習 事後：復習		講義&討議	
10	高齢者のパーソナリティ —人格の安定性と変化					事前：予習 事後：復習		講義	
11	高齢期の人間関係 —家族・対人関係					事前：予習 事後：復習		講義	
12	高齢期の疾患と心理的問題 —(1)認知症、うつ病他					事前：予習 事後：復習		発表&講義	
13	〃 —(2)認知機能のアセスメント					事前：予習 事後：復習		講義&討議	
14	高齢者と心理的適応 —サクセスフル・エイジング					事前：予習 事後：復習		講義&討議	
15	高齢者と死 —死生観の発達					事前：予習 事後：復習		講義&討議	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。					参考文献： 下仲順子編 高齢期の心理と臨床心理学 培風館 ¥3,800、大川一郎他 編著 エピソードでつかむ老年心理学 ミネルヴァ書房 ¥2,660				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業では、一方的な講義ではなく、学生に考えてもらいます。単位によっては発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともあります。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	青 年 期 の 心 理 (Psychology of Adolescence)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>青年期は、子どもからおとなへの移行期であり、身体、対人関係、環境等に大きな変化を経験する時期である。本講義では、そうした青年期について、生涯発達の中の位置づけ、特有の認知・感情、対人関係の有様などを、理論やワークを通して学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>青年期について理解することにより、自己・他者理解を深めることを目標とする。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	生涯発達の中の青年期					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
3	青年期の認知・感情①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
4	青年期の認知・感情②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
5	青年期の自己意識①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
6	青年期の自己意識②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
7	アイデンティティ①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
8	アイデンティティ②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
9	青年期の親子関係①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
10	青年期の親子関係②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
11	青年期の友人関係①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
12	青年期の友人関係②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
13	青年期の恋愛関係					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
14	青年期のキャリア形成					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。授業中に資料を配布する。					『ノードとしての青年期』高坂康雅編 ナカニシヤ出版				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講義には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	生物学 (Biology)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	金子 勲								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 生物に対する基本的理解を深めるため、時空の発生（ビッグバン）、太陽・地球系誕生、原始生命の誕生、カンブリア動物大爆発から、人類誕生までの進化過程を学ぶ。続いて、遺伝情報、生体構成成分、細胞の構造等の基本的な細胞生物学を理解した上で、栄養と食生活と現代人との関係を論じ、生活習慣病（肥満、糖尿病、心筋梗塞、動脈硬化等）について講義する。次に、生体防御（免疫）機構について説明し、細菌性感染症、ウイルス性感染症、老化、癌（身内の反乱）、および再生医療などについて分子生物学手法をも用いて説明し、その対策に必要な知識を身につける。最後に、ビタミン、ホルモン、神経伝達物質等の基本的知識を理解し、現代社会で増大している精神・神経疾患（うつ病、統合失調症、認知症等）について学ぶ。なお、授業は毎回、資料を配布し、パワーポイントで説明し、その中から小テスト問題を出題する。次週にその問題の解答を説明し、理解を深めることに努める。</p>									
<p>授業目標： 1. 地球の進化と生命発生、生物進化、細胞の構造、生体構成成分、栄養と代謝、遺伝情報の発現、器官、ホルモン、ビタミン、神経系、免疫系、感染症、老化、がん発生機構等の生物の基本的事項が理解できる。 2. 将来、一般市民の健康増進・維持に役立つと思われる生物学的基础知識を習得できる。 3. 具体的には、宇宙の誕生、地球進化と生物進化、カンブリア動物大爆発、脊椎動物発展、大絶滅、哺乳動物進化、人類誕生、人種と食生活・栄養・生活習慣病との関係、遺伝とDNA、ホルモンと生体調節、神経系、生体防御系、細菌、真菌、ウイルス感染症、癌細胞の特徴、癌の原因、細胞の老化と固体の寿命についての知識を習得し、人間（生物）を地球進化学の観点から理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	生物の進化-1：ビッグバン、太陽・地球系の誕生、生命の発生、全体凍結、細胞共生、生物系統樹。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
2	生物の進化-2：ミトコンドリア、シアノバクテリア、真核細胞、多細胞生物、カンブリア動物大爆発。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
3	生物の進化-3：脊椎動物の進化、スーパーブルーム、恐竜、大絶滅、哺乳動物、霊長類、人類誕生。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
4	栄養と食生活と人種：人類移動、民族と食生活、エネルギー摂取、三大栄養素、糖質、タンパク質、脂質。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
5	栄養と食生活と人種：人類移動、民族と食生活、エネルギー摂取、三大栄養素、糖質、タンパク質、脂質。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
6	病気予防（メタボリックシンドローム）：糖尿病、インスリン抵抗性、コレステロール、動脈硬化、心筋梗塞。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
7	微生物とは：腐敗と発酵と病原菌、常在菌、放線菌、抗生物質、緑の原油（ユージェラ）。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
8	生態防御機構（免疫）外敵：病原菌、反乱：がん細胞、自然免疫系、獲得免疫系、抗体、キラーT細胞、ワクチン。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
9	細菌性感染症：食中毒、黄色ブドウ球菌、サルモネラ、病原性大腸菌、ヘリコバクターピロリ、肺炎球菌、性感染症。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
10	ウイルス性感染症：ウイルスとは、ノロウイルス、肝炎ウイルス、HIV（AIDS）、インフルエンザウイルス。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
11	がんと老化：がんの特徴、癌遺伝子と癌抑制遺伝子（p53, Rb等）、血管新生、新しい抗癌剤、抗体医薬。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
12	ビタミンの機能：ビタミンB1と脚気、水溶性ビタミン、脂溶性ビタミン、活性酸素の消去。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
13	代謝とホルモン：内分泌、アドレナリン、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、インスリン、グルカゴン、ペプチドホルモン。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
14	性ホルモン：性染色体、乳がんと女性ホルモン、視床下部と脳下垂体、更年期障害、周期性同一性障害。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
15	神経伝達物質と精神疾患：シナプス、セロトニン、ノルアドレナリン、ドパミン、オピオイド、うつ病、統合失調症、認知症。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
教本： 教科書なし。		<p>参考文献： 1) 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学 D. サグヴァ (著者)、石崎泰樹、丸山敬 (訳) 講談社 2) 大学生物学の教科書 第4巻 進化生物学 D. サグヴァ (著者)、石崎泰樹、斎藤成也 (訳) 講談社</p>							
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 ①毎回小テストを行う。成績はテスト点80%、平常点20%で総合評価する。期末試験は必要に応じて行う。 ②授業中の私語、着帽、居眠り、携帯メールは厳禁。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 生物学は、医学、薬理学、病理学、微生物学、動物学、植物学、生化学、分子生物学等の基礎となる学問である。従って、非常に範囲が広いが、将来、一般市民として生活する上で必要な健康増進・維持に役立つヒトの生物学に焦点を当てた授業である。積極的な参加を望む。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。毎週木曜日の昼休みあるいは授業終了後15分程度。非常勤講師室。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	造形で遊ぶ(造形表現)(Playing with Art)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	小野 和									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要： これまでに学んだ造形表現のための知識と技能を基礎とし、領域「表現」のねらいや内容に沿った、保育の造形活動について考える。幼児の発達に応じた、課題の設定、教材の選択、画材や道具の使い方を確認するとともに、環境構成についても考え、課題設定や教材研究、指導計画の立案と展開、保育活動の実践を想定した授業を行う。</p>										
<p>授業目標： これまでに学んだ子どもの表現力をはぐくむための知識を基礎として、保育の全体構造に基づいて、子どもの図工的な表現について理解を深め、発達過程に即した教育への知見を深める。 この科目は、1幼児期の子どもの発達について、多面的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態		
1	ガイダンス『幼稚園教育要領』『小学校学習指導要領』と図画工作・造形表現の意義					事前：なし 事後：本時の復習		演習		
2	子どもの造形表現の発達の道筋や特徴					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
3	遊びと造形					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
4	図画工作の内容「表現(1)」と造形遊び					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
5	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す(1)発想と表現					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
6	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す(2)材料と表現					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
7	図画工作の内容「表現(2)」絵や立体、工作で表す(1)用具と表現					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
8	図画工作の内容「鑑賞」と鑑賞教材について					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
9	造形で遊ぶ(1)素材とイメージ					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
10	造形で遊ぶ(2)色や形からの表現					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
11	造形で遊ぶ(3)共同の取り組み					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
12	現代的教育課題と造形・図画工作(1)多様なニーズへの対応					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
13	現代的教育課題と造形・図画工作(2)幼稚園・小学校の連携					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
14	作品・資料集作成					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
15	総合レポート作成					事前：前時の復習 事後：本時の復習		演習		
<p>教本： 『小学校学習指導要領解説・図画工作編』 『みんないきいき絵の具で描こう！』</p>					<p>参考文献： 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 『保育所保育指針』</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況・授業態度等(40%)、課題作品・レポート・定期試験等(60%)、等で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス： 個人で使用する材料・用具については授業の中で説明・指示するので、各自で準備すること。</p>										
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	総合ゼミ I (Comprehensive Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員									
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>少人数のクラスを編成し、担当教員の指導のもとで、コミュニケーション・スキル、自己管理能力、就職力、チームワーク、リーダーシップの向上を図る。講義方式による指導ではなく、課題を与え学生自らがそれを解き、教員と学生相互の討議によるフォローアップによるレベルアップを図る方式で進める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>テーマ：到達目標：社会人としての基礎能力の習得 テーマ：「学士力」に関連したコミュニケーション・スキル、自己管理能力、就職力、チームワーク、リーダーシップなど演習を通じて習得できるスキルや態度を学ぶ。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	コミュニケーション・スキル（読み）					事前：なし 事後：なし		演習	
2	コミュニケーション・スキル（読み）					事前：なし 事後：なし		演習	
3	コミュニケーション・スキル（書き）					事前：なし 事後：なし		演習	
4	コミュニケーション・スキル（書き）					事前：なし 事後：なし		演習	
5	コミュニケーション・スキル（聴き）					事前：なし 事後：なし		演習	
6	コミュニケーション・スキル（聴き）					事前：なし 事後：なし		演習	
7	コミュニケーション・スキル（話す）					事前：なし 事後：なし		演習	
8	コミュニケーション・スキル（話す）					事前：なし 事後：なし		演習	
9	コミュニケーション・スキル（話す）					事前：なし 事後：なし		演習	
10	自己管理能力（目標カード）					事前：なし 事後：なし		演習	
11	自己管理能力（目標カード）					事前：なし 事後：なし		演習	
12	自己管理能力（TODOリスト）					事前：なし 事後：なし		演習	
13	自己管理能力（TODOリスト）					事前：なし 事後：なし		演習	
14	自己管理能力（セルフコントロール）					事前：なし 事後：なし		演習	
15	前期まとめ					事前：なし 事後：なし		演習	

16	ガイダンス	事前：なし 事後：なし	演習
17	自己分析	事前：なし 事後：なし	演習
18	自己分析	事前：なし 事後：なし	演習
19	企業研究	事前：なし 事後：なし	演習
20	企業研究	事前：なし 事後：なし	演習
21	面接	事前：なし 事後：なし	演習
22	面接	事前：なし 事後：なし	演習
23	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
24	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
25	チームワーク	事前：なし 事後：なし	演習
26	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
27	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
28	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
29	リーダーシップ	事前：なし 事後：なし	演習
30	まとめ	事前：なし 事後：なし	演習
教本： 必要とする教材をその都度準備・提供する。		参考文献： 各教員が指定する。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 課題・レポートの提出状況、討議への参加・発言内容などを総合的に判断して評価する。			
学生へのアドバイス： 欠席・遅刻をする場合は、事前に連絡すること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開講年次	2年次 半期	選択・必修		単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	相談援助 (Social Work)						科目分類	専門科目		
担当教員	石橋 優子									
履修条件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要： 社会福祉専門職としての「相談援助」を理解し、保育士に求められているソーシャルワークとしての相談援助を学ぶ。そして、相談援助の方法と技術を具体的に展開する方法を事例や演習を通して学ぶ。</p>										
<p>授業目標： 保育士が行う「相談援助」の知識と技術を理解し、習得したうえで実践であることが求められる。この科目を通して相談援助の概要を理解しつつ、「保育士による相談援助」のための知識と技術の獲得を目標としている。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション 自己紹介 授業概要の説明					事前：シラバスの確認と自己紹介 事後：7ページ		講義		
2	相談援助の意義と機能					事前：14P～18Pまでの予習 事後：14P～18Pまでの復習		講義		
3	相談援助とソーシャルワーク					事前：20P～29Pまでの予習 事後：20P～29Pまでの確認		講義		
4	相談援助のための基本技術 子育て支援センターでの質問等					事前：子育てについて予習 事後：45Pまでの確認		講義と調査		
5	子育て支援センターの視察研修					事前：職員への質問の整理 事後：疑問等の質問		視察研修		
6	子育て支援センター内での相談状況や環境の口頭発表					事前：研修の意義やまとめ 事後：他の学生の発表を聞く		口頭発表と反省		
7	相談援助の方法と技術					事前：53P～71Pまでの予習 事後：53P～71Pまで復習		講義と演習		
8	相談援助のための実践アプローチ					事前：72P～80Pまでの予習 事後：72P～80Pまでの復習		講義と演習		
9	相談援助の演習					事前：81P～83Pまでの予習 事後：81P～83Pまでの復習		講義と演習		
10	相談援助の具体的展開					事前：85P～91Pまでの予習 事後：関係機関や地域資源の確認		講義と口頭発表		
11	専門機関との連携					事前：93P～100Pまでの予習 事後：保育士と協働する社会資源		講義と調査		
12	社会資源の活用、調整、開発					事前：101P～104Pまでの予習 事後：口頭発表の反省		講義と口頭発表		
13	虐待の予防と対応に関する事例分析					事前：105P～113Pまでの予習 事後：105P～113Pまでの復習		講義と調査		
14	障害のある子どもとその保護者への支援に関する事例分析					事前：114P～121Pまでの予習 事後：114P～121Pまでの復習		講義と事例分析		
15	ロールプレイ、フィールドワークなどによる事例分析とまとめ					事前：126Pまでと全体の復習 事後：なし		講義と事例分析		
<p>教本： 相談援助 保育相談支援 著者：笠師千恵、小林明子 発行所：中山書店 ￥2,500</p>					<p>参考文献： 保育所保育指針 解説書 厚木市子育て支援センターのパフレット</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス： 事例検討や演習問題、調査後の口頭発表となるべく学生の参加型の授業にする。積極的に参加してほしい。</p>										
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	両 方
授 業 科 目 (英 文)	組 織 心 理 学 (Organizational Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 澤 伸 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	産 業 心 理 学 概 論 を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>現在は産業・組織心理学として社会に認知されており、本授業も産業心理学とは不可分の関係にあります。そこで本授業では、組織とは何かから始め、組織内において生じる対人関係の在り方、精神的ストレスの定義と対処法、組織集団が抱えるリスク等を学びます。授業形態は講義を中心としますが、討議や実習を随時行い、「分かりやすい授業」を目指します。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>組織構造や組織規範、対人関係から生じる精神的なストレスの意味を把握すると共に、ストレスからの脱出方法までを学ぶ。加えて、組織集団が有するリスク知覚とリスク回避方法までを正しく理解できることを到達目標とします。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 進 め 方、授 業 内 容 等 に 関 す る オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス の 精 査 事 後 : シ ラ バ ス の 確 認		講 義	
2	組 織 構 造、組 織 規 範					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
3	用 語 と し て の ス ト レ ス の 意 味 と 変 遷、ス ト レ ス の 構 造					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
4	セ リ エ、医 学 的 ス ト レ ス モ デ ル					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
5	精 神 的 ス ト レ ス の 定 義、ラ イ フ イ ベ ン ト 研 究、ス ト レ ス 測 定					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 ・ 演 習	
6	ラ ザ ラ ス、心 理 学 的 ス ト レ ス モ デ ル					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
7	ソ ー シ ャ ル サ ポ ー ト、T H P、ス ト レ ス チ ェ ッ ク					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
8	組 織 集 団 が 抱 え る リ ス ク					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
9	組 織 風 土、安 全 風 土 醸 成 プ ロ グ ラ ム、風 通 し の 良 い 職 場 づ く り					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
10	企 業 ト ッ プ の 判 断 ミ ス、リ ス ク 評 価 (リ ス ク パ ー セ プ シ ョ ン)					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
11	リ ス ク パ ー セ プ シ ョ ン 研 究、社 会 事 象 へ の リ ス ク 評 価 実 習					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義 ・ 演 習	
12	リ ス ク パ ー セ プ シ ョ ン の 国 際 比 較					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
13	ヒ ュ ー マ ン エ ラ ー (人 的 過 誤) の 定 義					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
14	組 織 過 誤 の 現 状、コ ン プ ラ イ ア ン ス 違 反					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
15	全 体 の ま と め					事 前 : 配 布 資 料 の 予 習 事 後 : ノ ー ト の 整 理 ・ 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
講 義 資 料 を 配 布 し ま す					改 訂 ヒ ュ ー マ ン エ ラ ー の 心 理 学 入 門、深 澤 伸 幸 杏 林 舎、¥ 2,300				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
定 期 試 験 (100%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠 席 回 数 が 全 体 の 1 / 3 を 超 え る 場 合 に は、受 験 し て も 評 価 し な い の で、注 意 さ れ た い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	租税法 I (Tax Law I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深沢 邦秀								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>税法は税金のことを定めた法律である。この授業は、租税法の基本的なことを理解する。また、現在、わが国で導入されている税法の中から「法人税法」を選び、その内容のアウトラインを理解する。その前提である簿記と会計についても言及する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>「税金」及び「税法」について理解を深める。税法入門。また、会計、法人税法の基礎知識を習得する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	税金の基礎的な仕組み					事前：なし 事後：なし		講義	
3	租税法律主義					事前：なし 事後：なし		講義	
4	実質課税の原則					事前：なし 事後：なし		講義	
5	租税負担公平の原則					事前：なし 事後：なし		講義	
6～10	簿記、会計の仕組み					事前：なし 事後：なし		講義	
11～15	法人税の仕組み					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>「これならわかる!! 税法の基本」 藤本清一他 実務出版 ￥2,200</p>					<p>参考文献：</p> <p>「税法概論」 関子義信著 大蔵財務協会 「現代税法の基礎知識」 新井益太郎監修 ぎょうせい 「私たちの税金」 大蔵財務協会</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（55%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>ノートを用意して必ずノートをとるようにする。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	租 税 法 Ⅱ (Tax Law Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 沢 邦 秀								
履 修 条 件	前 提 科 目	租 税 法 Ⅰ							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>税法は税金のことを定めた法律である。この授業は、租税法の基本的なことを理解するために、現在、わが国で導入されている税法の中から「所得税法」と「消費税法」と「相続税法」を選び、それぞれの内容のアウトラインを理解するとともに、この制度がどのような理由で作られているか、また、税金の必要性を認識し、問題がないかを考える。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>所得税、消費税、相続税について一般的常識理念を高める事が目的である。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1 ~ 5	所得税の仕組み					事前：なし 事後：なし		講義	
6 ~ 10	消費税の仕組み					事前：なし 事後：なし		講義	
11 ~ 15	相続税の仕組み					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 :									
「これならわかる!! 税法の基本」 藤本清一他 実務出版 ¥2,200					参 考 文 献 :				
					「税法概論」 関子善信著 大蔵財務協会 「現代税法の基礎知識」 新井益太郎監修 ぎょうせい 「私たちの税金」 大蔵財務協会 「相続税・贈与税のことがわかる本」 三浦繁著 同文館出版				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (25%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (55%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
ノ ー ト を 用 意 し て 必 ず ノ ー ト を と る よ う に す る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	体育(子どもと運動)(Physical-motor-play for children)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	塩野谷祐子								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	特になし							
授業概要： 小学校学習指導要領において「運動領域については、幼児教育との円滑な接続を図ること」があげられていることから、幼児期、小学校低学年における運動遊びに関する基礎的知識を実技を通して学ぶ。また、子どもの立場で運動遊びを実践し、それらの留意点を検討する。さらに、安全で楽しめる運動遊びを皆で考案する。随時グループワークを行なう。									
授業目標： 子どもの様々な運動遊びの実践方法、安全管理について学ぶ。子どもの運動遊びの基礎的知識を理解し、皆で実践しながら安全な環境づくり、子どもへの適切な語りかけなど、現場に役立つ技能の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	ガイダンス(授業の進め方、評価方法の説明)とコミュニケーションスキル実習					事前：シラバスの確認 事後：コミュニケーション遊びの復習			演習
2	体ほぐし・リズム遊び(ダンスの基本ステップ)					事前：体ほぐしの思い出し 事後：ステップの復習			演習
3	多様な動きをつくる運動遊び①(新聞紙を題材に)					事前：新聞紙遊びの思い出し 事後：遊びと留意点の復習			演習
4	多様な動きをつくる運動遊び②(段ボールを題材に)					事前：段ボール遊びの思い出し 事後：遊びと留意点の復習			演習
5	器械・器具を使つての運動遊び①(巧技台・平均台)					事前：巧技台について調べておく 事後：遊びと留意点の復習			演習
6	器械・器具を使つての運動遊び②(跳び箱・マット)					事前：今までやった遊びの思い出し 事後：遊びと留意点の復習			演習
7	器械・器具を使つての運動遊び③(固定遊具・鉄棒)					事前：固定遊具の遊びの思い出し 事後：遊びと留意点の復習			演習
8	走・跳の運動遊び①(いろいろな走り方・障害物走)					事前：工夫を調べておく 事後：遊びと留意点の復習			演習
9	走・跳の運動遊び②(縄跳び)					事前：跳び方の思い出し 事後：遊びと留意点の復習			演習
10	ゲーム性のある運動遊び①(ボール)					事前：ボール遊びの思い出し 事後：遊びと留意点の復習			演習
11	ゲーム性のある運動遊び②(フライングディスク)					事前：フライングディスクについて調べておく 事後：遊びと留意点の復習			演習
12	ゲーム性のある運動遊び③(鬼ごっこ)					事前：鬼ごっこ遊びの思い出し 事後：遊びと留意点の復習			演習
13	水遊び・運動会の種目について					事前：運動会種目の思い出し 事後：遊びと留意点の復習			演習
14	運動会でのダンス・表現について					事前：集団演技についての思い出し 事後：ダンス・表現の留意点の復習			演習
15	運動遊びの環境と知識の確認					事前：様々な遊びの留意点の復習 事後：知識の復習			演習
教本： 特になし。適宜プリントを配布する。									
参考文献： 「小学校学習指導要領解説体育編」文部科学省(東洋館出版社) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館) 「楽しく遊んで体づくり！幼児の運動あそび」「幼児期運動指針」に沿って」吉田伊津美編著(チャイルド本社)									
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等(40%)、課題への取り組み(40%)、ノートとまとめレポート(20%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 本科目は選択科目であるが、実験演習の基礎をなす科目である。3年次以降に「心理学実験演習」「社会心理学実験演習」を受講するかもしれないと思っている学生は必ず履修してほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	対 人 関 係 の 心 理 学 (Interpersonal Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	「コミュニケーション心理学」を履修済みであること							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
本講義では、日常生活における対人関係で何が起きているのかについて、心理学の理論やワークを通して学ぶ。									
授 業 目 標 :									
自らが体験している対人関係や、周囲の対人関係について、客観的に考えることができるようになる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	多様な対人関係					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
3	対人認知					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
4	原因帰属					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
5	対人魅力					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
6	リーダーシップ					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
7	友人関係					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
8	恋愛関係					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
9	親子関係					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
10	関係性のテンプレート：アタッチメント①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
11	関係性のテンプレート：アタッチメント②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
12	対人関係と心理臨床的問題①					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
13	対人関係と心理臨床的問題②					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
14	対人関係と心理臨床的問題③					事前：発表資料の作成 事後：講義内容の復習		講義	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。授業中に資料を配布する。					授業中に、適宜紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (50%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講義には、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	担保法 (Security Law)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤原 俊雄								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ・Ⅱ、契約法Ⅰ・Ⅱ							
	その他	(契約内容(債権)確保のための「担保法」という制度の特性上、契約法に関する知識が前提となるため、上記科目を履修済みあるいは同時に履修していないと、なかなか理解しにくいと思います。)							
授業概要： 民法の担保物権を扱います。民法典に規定されている担保物権（典型担保＝留置権・先取特権・質権・抵当権）を対象とし、主にはき抵当権について説明します。									
授業目標： (1) 典型担保制度の基本的な内容と抵当権に関する法律問題を理解することです。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、担保法の概要、担保物権総論					事前： 事後：復習		講義	
2	抵当権の効力1 ー 抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲 抵当不動産の付加一体物					事前： 事後：復習		講義	
3	抵当権の効力2 ー 抵当権の侵害に対する効力					事前： 事後：復習		講義	
4	抵当権の効力3 ー 抵当権の物上代位					事前： 事後：復習		講義	
5	抵当権の実行					事前： 事後：復習		講義	
6	抵当権と利用権 ー 法定地上権					事前： 事後：復習		講義	
7	共同抵当抵当権の第三取得者					事前： 事後：復習		講義	
8	抵当権の処分・抵当権の消滅					事前： 事後：復習		講義	
9	根抵当権質権					事前： 事後：復習		講義	
10	法定担保物権 ー 留置権・先取特権					事前： 事後：復習		講義	
11	非典型担保1 ー 譲渡担保					事前： 事後：復習		講義	
12	非典型担保2 ー 所有権留保					事前： 事後：復習		講義	
13	保証					事前： 事後：復習		講義	
14	多数当事者の法律関係					事前： 事後：復習		講義	
15	講義のまとめ					事前： 事後：復習		講義	
教本： このシラバス提出時点では未定です。			参考文献： 【六法】の持参は不可欠です。						
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 「担保物権」はかなり複雑なので、高学年になってから受講するのがよいのかもしれませんが。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

ち

開講年次	2年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域観光論 (Regional Tourism)						科目分類	専門科目	
担当教員	鷲尾 裕子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	1回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、2年次前期に受講することを奨める。							
授業概要： 南北に長いわが国の観光資源を地域単位で整理し、日本の多様な魅力を知る。 毎回、シート（授業時配布する用紙）に学んだ内容をまとめる。15回の授業分を1冊にまとめ、観光振興について学ぶ貴重な資料として、活用してもらいたい。									
授業目標： 1. 国内各地の観光震源について、内容や特徴を理解する。 2. 観光資源の特徴ごとに活用方法を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 北海道の観光資源					事前：シラバスを読む 事後：地図帳で確認		講義	
2	青森県・岩手県。秋田県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
3	山形県・宮城県・福島県・新潟県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
4	栃木県・茨城県・群馬県・埼玉県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
5	千葉県、東京都、山梨県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
6	静岡県、長野県、岐阜県、愛知県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
7	富山県、石川県、福井県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
8	滋賀県、京都府、兵庫県、岡山県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
9	三重県、奈良県、大阪府、和歌山県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
10	鳥取県、島根県、広島県、山口県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
11	香川県、愛媛県、徳島県、高知県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
12	福岡県、大分県、長崎県、佐賀県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
13	宮崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
14	神奈川県、厚木市の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
15	47都道府県の再確認・まとめ					事前：地図帳で確認 事後：テスト準備		講義	
教本： 日本地図帳（中学校、高校時のものがあればそれを）初回時、説明する。 参考文献： 旅に出たくなる地図 日本（帝国書院）¥2,400（税別）									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。初回時、説明する。									
学生へのアドバイス： 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、2年生前期に受講することを奨める。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域観光論 I (Regional Tourism I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鷲尾 裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	1 回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、2 年次前期に受講することを奨める。							
授業概要： 南北に長いわが国の観光資源を地域単位で整理し、日本の多様な魅力を知る。 毎回、シート（授業時配布する用紙）に学んだ内容をまとめる。15回の授業分を1冊にまとめ、観光振興について学ぶ貴重な資料として、活用してもらいたい。									
授業目標： 1. 国内各地の観光震源について、内容や特徴を理解する。 2. 観光資源の特徴ごとに活用方法を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 北海道の観光資源					事前：シラバスを読む 事後：地図帳で確認		講義	
2	青森県・岩手県。秋田県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
3	山形県・宮城県・福島県・新潟県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
4	栃木県・茨城県・群馬県・埼玉県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
5	千葉県、東京都、山梨県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
6	静岡県、長野県、岐阜県、愛知県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
7	富山県、石川県、福井県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
8	滋賀県、京都府、兵庫県、岡山県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
9	三重県、奈良県、大阪府、和歌山県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
10	鳥取県、島根県、広島県、山口県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
11	香川県、愛媛県、徳島県、高知県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
12	福岡県、大分県、長崎県、佐賀県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
13	宮崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
14	神奈川県、厚木市の観光資源					事前：地図帳で確認 事後：返却プリントの確認		講義	
15	47都道府県の再確認・まとめ					事前：地図帳で確認 事後：テスト準備		講義	
教本： 日本地図帳（中学校、高校時のものがあればそれを）初回時、説明する。 参考文献： 旅に出たくなる地図 日本（帝国書院）¥2,400（税別）									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。初回時、説明する。									
学生へのアドバイス： 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、2 年生前期に受講することを奨める。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 観 光 論 II (Regional Tourism II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鷲 尾 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	地 域 観 光 論 I (履 修 者 で、単 位 未 取 得 者 は 相 談 し て く だ さ い)							
	そ の 他	1 回 目 か ら 出 席 の こ と。出 席 の な い 場 合 は、履 修 を 認 め な い。事 前 学 習 に 記 載 さ れ た テ ー マ に つ い て 考 え て く る こ と。							
授 業 概 要 :									
<p>日本の多様な魅力をキーワードで整理し、理解する。具体的な事例をもとに地域での観光振興のあり方を考える。 ノートをしっかりと取り、15回の授業終了時にノートが1冊の資料集となるように丁寧にまとめることを課題とする。このノートを、観光振興について学ぶ貴重な資料として、活用してもらいたい。課題発表ない場合は、単位は修得できない。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光資源の特徴ごとに活用方法を考える。 2. 観光資源の持つ問題点を整理する。 									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 温泉観光地 (温泉とは)					事前：シラバスを読む 事後：ノートの確認		講義	
2	温泉観光地 (温泉の現状 事例研究 草津温泉)					事前：温泉のイメージ 事後：確認		講義	
3	温泉観光地 (温泉の課題 事例研究 黒川温泉)					事前：温泉の魅力 事後：ノートの確認		講義	
4	温泉観光地 (観光志向の変化から)					事前：温泉の魅力 事後：ノートの確認		講義	
5	テーマパーク (テーマパークとは、テーマパーク以前)					事前：テーマパークの思い出 事後：ノートの確認		講義	
6	テーマパーク (現状と課題、第3セクターとは)					事前：テーマパークの魅力 事後：ノートの確認		講義	
7	テーマパーク (事例研究 ハウステンボス ひらかたパーク)					事前：テーマパークの仕事 事後：ノートの確認		講義	
8	博物館 (博物館とは、現状と課題)					事前：博物館の思い出 事後：ノートの確認		講義	
9	博物館 (動物園、事例研究 旭山動物園)					事前：動物園の思い出 事後：ノートの確認		講義	
10	食文化 (ユネスコ無形文化遺産に登録された和食)					事前：和食の魅力 事後：ノートの確認		講義	
11	食文化 (B-1 グランプリ、事例研究 厚木のシロコロ)					事前：知っているB1グルメ 事後：ノートの確認		講義	
12	ニューツーリズム (ツーリズムの新と旧)					事前：これまでのノートを 事後：ノートの確認		講義	
13	ニューツーリズム (グリーンツーリズム 事例研究 安心院)					事前：あなたがしたい観光 事後：ノートの確認		講義	
14	あなたが考えるニューツーリズム (課題)					事前：あなたがしたい観光 事後：ノートの確認		講義	
15	課題の発表					事前：発表準備 事後：テスト準備		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。適宜、資料を配付する。					講義時、適宜、紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平常点 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。初回時、説明する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
観光関係の業種への就職を希望する学生には、面接時に役立つキーワードを学ぶ機会となる。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	90	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域金融論 (Regional Finance)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	長谷川 清								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 地域金融論は、クレジットカード、プリペイド、宅配便の着払いなどわれわれの日常生活に密着した金融サービスや銀行の役割を出来る限り分かりやすく講義する。									
授業目標： 1. 日常生活に密着した金融サービスを理解する。 2. 銀行の種類と役割を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（授業の構成と進め方を説明する）					事前：参加意識の整理 事後：作成ノートの精読		講義	
2	おカネとは何か（おカネはなぜ誕生したのか、どうしてみんなが欲しがするのかを学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
3	個人向け金融サービスⅠ（テレビで宣伝しているクレジットカードの仕組み、使い方を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
4	個人向け金融サービスⅡ（電車やバスに乗るときに使うプリペイドカードの仕組みを学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
5	個人向け金融サービスⅢ（宅配便の着払い等新しい個人向けの金融サービスを学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
6	金利の基礎Ⅰ（おカネを借りる際に支払う金利がもっている意味を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
7	金利の基礎Ⅱ（お金の貸し借りに必要な金利の計算方法を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
8	金利の基礎Ⅲ（前回に続いてお金の貸し借りに必要な金利の計算方法を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
9	日本の金融（日本全体で動いているおカネの流れを学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
10	銀行の役割Ⅰ（預金と決済業務を中心に銀行の仕事を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
11	銀行の役割Ⅱ（貸出業務を中心に銀行の仕事を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
12	金融機関の種類（銀行、保険会社、証券会社など金融機関の違いを学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
13	国債（国が発行して資金を集める国債についての基礎知識を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
14	株式（株式会社が発行し、株式市場で売り買いされる株式について学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
15	投資信託（沢山の投資家から集めた資金で株式や国債を購入して運用する投資信託の基本を学ぶ）					事前：前回作成ノートの再読 事後：今回作成ノートの精読		講義	
教本： 毎回レジユメを配布する。					参考文献： 必要の都度、参考図書・資料を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 地域金融論Ⅰは、日常生活に密着した金融サービスを易しく解説します。学生諸君が社会人になって必ず役立つ金融知識が一杯です。沢山の学生が参加することを期待します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域子育て支援論 (Methodology of Local Child Care Support)						科目分類	幼児教育相談、進路指導	
担 当 教 員	山下 文一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 現代の地域子育て支援の状況をふまえ、社会全体での多様な支援のあり方について考え、自分たちができる支援を実践として行うことを通し、支援の対象と内容、支援が持つ意味を具体的に演習を通して学ぶ。特に、子育てをめぐる現代の問題を予防・解決する方策として、保育所、幼稚園および地域の子育て支援活動等の支援活動についての理解を深め、学生自身が子育て支援活動に参加しながら、保護者や子どもと接し、地域や社会との関係、関係機関との連携などのアプローチについて実践を通して理解し、実践力を高める。									
授業目標： 1. 地域子育て支援を多角的に捉える力を身につける。(1～8) 2. 地域子育て支援や地域コミュニティの指導的役割が発揮できるようにする。(9～15)									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス 子育て支援が必要とされる背景					事前：シラバスの確認 事後：自己紹介		講義	
2	幼稚園における子育て支援—幼稚園における子育て支援の状況					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	
3	幼稚園における子育て支援の現場を知る—幼稚園の現場見学					事前：指定資料の予習 事後：現場での復習		見学	
4	保育所における子育て支援—保育所における子育て支援の状況					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	
5	保育所における子育て支援の現場を知る—保育所現場見学					事前：指定資料の予習 事後：現場での復習		見学	
6	地域子育て支援センターの役割—相談・支援・サロン運営等の役割					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	
7	地域子育て支援センターの現場を知る—子育て支援センター見学参加					事前：指定資料の予習 事後：現場での復習		参加	
8	その他の地域支援を知る—子育て広場、児童館・学童保育、住民による保育サービス等の地域サロンを知る					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の確認		講義	
9	地域コミュニティとしての担い手—現役世代・母親					事前：指定資料の復習 事後：指定資料の復習		講義	
10	地域コミュニティとしての担い手—現役世代・父親					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	
11	地域コミュニティとしての担い手—シニア世代					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	
12	地域コミュニティとしての担い手—次世代の育成					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	
13	障害のある子どもとその家族への支援					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	
14	児童への虐待とその予防					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	
15	子育て支援や地域コミュニティづくりの指導者として必要な力					事前：指定資料で予習 事後：振り返りをする		講義	
教本： 1. 講義内で指定資料配布									
参考文献： • 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 • 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 • 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況 (20%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験棟 (60%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各回の講義で示す課題や自己課題について復習し整理するとともに「地域子育て支援」の意味を問い続ける姿勢を保ち、テキストやプリントを積極的に読み、考え、子育て支援や地域コミュニティづくりの指導的役割ができるような資質を持ってもらいたい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	15	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地域コミュニティ論 (Regional Community)						科 目 分 類	幼 児 教 育 相 談 ・ 進 路 指 導	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 :									
地域コミュニティは、地域振興や活性化において重要な役割を担っている。また子供や保護者の地域コミュニティへの参加は、交流活動の促進による健全育成や郷土の愛着と誇りの醸成を促す。しかし、近年の少子高齢化や過疎化などにより地域コミュニティのあり方は変化し多様化している。地域コミュニティづくりの推進における課題の一つとして、推進役としての人材の不足がある。本授業では、実践事例や体験を通して、今後の地域コミュニティづくりの担い手に求められる能力としての基礎的な知識、様々な運営手法、事業化手法等を習得する。									
授 業 目 標 :									
①地域コミュニティの概念および地域振興における役割を理解する。 ②より良き地域コミュニティづくりのための指導的役割が発揮できる人材を育成する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に 〇 、 重 要 に 〇 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
〇						◎			
授 業 計 画 ・ 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 ・ 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	地域コミュニティの概念と構造					事前：コミュニティについて 事後：まとめ		講義・ディスカッション	
2	地域コミュニティ活動への参加とその方法 ～今までの参加体験の振り返りと新たな体験の実践に向けて					事前：今までの活動実績 事後：今後の実践計画		講義・ディスカッション	
3	社会環境の変化と地域コミュニティの変容					事前：社会環境の変化 事後：まとめ		講義・演習	
4	地域コミュニティの効果と課題					事前：前回の復習 事後：効果の事例収集		講義・演習	
5	地域コミュニティの組織形態と運営体制					事前：前回の復習 事後：まとめ		講義・演習	
6	地域コミュニティ事業実施の流れとノウハウ					事前：地域振興とは 事後：まとめ		講義・演習	
7	子ども・保護者のための地域コミュニティの取り組み					事前：子どもと地域活動 事後：まとめ		講義・演習	
8	地域コミュニティ政策および制度事業の内容					事前：国の関連政策 事後：まとめ		講義・演習	
9	地域コミュニティ実践活動の分類と実施内容					事前：前回までの復習 事後：まとめ		講義・演習	
10	地域コミュニティの実践事例 1					事前：実践活動 (普段) 事後：まとめ		講義・ディスカッション	
11	地域コミュニティの実践事例 2					事前：実践活動 (通常) 事後：まとめ		講義・ディスカッション	
12	地域コミュニティの実践事例 3					事前：実践活動 (通常) 事後：まとめ		講義・ディスカッション	
13	地域コミュニティの実践において求められる能力					事前：実践活動の整理 事後：まとめ		講義・ディスカッション	
14	地域コミュニティ形成における外部人材と地域交流					事前：地域振興実践者 事後：まとめ		講義・演習	
15	子ども・保護者の参画によるサステイナブル地域コミュニティの実現をめざして					事前：前回までの復習 事後：まとめ		講義・演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授業時配布資料を使用。その他教本については適宜指示					「ソーシャルデザイン実践ガイド」寛裕 著、英治 出版。 「市民参加のまちづくり」西川 芳昭・松尾 匡・伊佐 淳 編著、創成社				
成 績 評 価 の 方 法 ・ 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 レポ ー ト 等 (40 %) ・ 定 期 試 験 (60 %) 等 と 事 業 態 度 (出 席 等) を 加 味 し て 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
関連書籍、ホームページなどから広く地域コミュニティについての基礎および実践事例に関する知識を得ることはもとより、自身が在住する地域、ふるさとや他地域におけるお祭り等各種イベント、環境保全活動、そしてこれら地域コミュニティ活動における子ども達の関わり方の現状を注視し、また自らも積極的に参加することにより実践的な理解を深める。参加経験者はその体験をまとめておく。ディスカッション等を積極的に取り入れるので、主体的な参加を求める。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域振興論 I (Regional Promotion I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>地域振興には様々な目的があるが、本科目ではそのうち観光による地域振興を中心に、観光地域計画策定や実践において必要な基礎的な考え方、技法等について講義する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 観光による地域振興の意義やあり方を理解する。 2. 地域振興を推進する上で必要な計画、調査等における基礎的知識を習得する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	観光振興の意味					事後：今回の授業内容		講義	
2	観光による地域振興					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	計画の概念					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	観光計画の流れ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	調査の種類と内容					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	アンケート調査					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	観光統計調査					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	発想の基礎					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	発想の手法					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	観光計画の変遷					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	都市と観光計画					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	農村と観光計画					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	温泉と観光計画					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	体験型観光計画					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	計画書の策定					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
<p>教本：</p> <p>各回プリント配布</p>					<p>参考文献：</p> <p>必要時に指示</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト等（40%）、定期試験（60%）等に授業態度（出席等）を加味して総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>「計画する」ということは、何事においても必要な技術である。社会で必要不可欠な技術の一つであるという視点から勉強をしてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域振興論Ⅱ (Regional Cultures Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	地域振興論Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 地域振興を推進する上で必要な計画、調査等における基礎的知識を習得することを目標とします。 テーマは、特に、観光による地域振興について、各地域や観光のテーマ別による地域振興事例をもとに、その現状と効果の検証を行います。									
授業目標： 1. 観光による地域振興の現状・意義・役割を習得する。 2. テーマ別・地域形態別の観光による地域振興の手法について習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	柏崎市高柳町の観光振興①（高柳町観光地域振興の現状）					事後：今回の授業内容		講義	
2	柏崎市高柳町の観光振興②（農業と観光地域振興）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	柏崎市高柳町の観光振興③（高柳町観光地域振興計画の体系）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	柏崎市高柳町の観光振興④（茅葺き民家と観光地域振興）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	南砺市利賀村の観光振興①（利賀村観光地域振興の現状）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	南砺市利賀村の観光振興②（利賀村観光地域振興とそば）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	南砺市利賀村の観光振興③（利賀村観光地域振興と国際交流）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	松江市の観光振興①（松江市の観光の現状）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	松江市の観光振興②（松江市の観光地域振興計画の体系）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	松江市の観光振興③（松江市の観光地域振興計画の内容）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	韓国と観光による地域振興					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	ネパールと観光による地域振興					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	台湾と観光による地域振興					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	モンゴルと観光による地域振興					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	これからの観光による地域振興					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
教本： 各回プリント配布					参考文献： 必要時指示				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト等（40%）、定期試験（60%）等に授業態度（出席等）を加味して総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各地域における観光地域振興の現状を学ぶことにより、地域の努力や観光振興の仕組みについて学んでください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 史 I (Cultural History of Areas I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 宰								
履 修 条 件	前 提 科 目	文 化 人 類 学 等 の 文 化 学							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 東 ア ジ ア , と り わ け 日 本 の 文 化 を 歴 史 的 な 視 点 か ら 捉 え な お す こ と が , 本 講 義 の 目 的 に な る 。									
授 業 目 標 : 教 科 書 的 歴 史 だ け で は な い 歴 史 を 知 る こ と 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 , 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 , 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	地 域 と は 何 か , 地 域 文 化 と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
2	社 会 構 造 と い う 考 え 方					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
3	歴 史 と 構 造					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
4	日 本 の 地 域 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
5	日 本 の 地 域 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
6	沖 縄 ・ 宮 古 の 地 域 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
7	沖 縄 ・ 宮 古 の 地 域 文 化 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
8	琉 球 文 化 と 地 域 性					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
9	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 新 宿					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
10	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 新 宿 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
11	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 新 宿 3					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
12	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 渋 谷					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
13	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 渋 谷 2					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
14	地 域 文 化 と 盛 り 場 空 間 渋 谷 3					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
15	試 験 あ る い は レ ポ ー ト					事 前 : ノ ー ト 整 理 事 後 :		試 験 あ る い は レ ポ ー ト	
教 本 : な し					参 考 文 献 : 授 業 中 に た く さ ん 紹 介 し ま す 。				
成 績 評 価 の 方 法 , 評 価 基 準 : 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : わ か ら な い こ と が あ っ て も , あ き ら め な い こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	地域文化史Ⅱ (Cultural History of Areas Ⅱ)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	安倍 宰									
履 修 条 件	前提科目	文化人類学などの文化学								
	その他									
授業概要： 前期の地域文化史Ⅰをベースに、範囲を拡大し、東南アジアまでを視野に入れていく。										
授業目標： 異なる文化とどのように関係を創り上げていくのかに関して、自分の視点を持つ。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	地域文化史Ⅰの復習					事前：なし 事後：復習をする		講義		
2	東南アジアの地域性					事前：なし 事後：復習をする		講義		
3	大陸の文化					事前：なし 事後：復習をする		講義		
4	大陸の文化2					事前：なし 事後：復習をする		講義		
5	大陸の文化3					事前：なし 事後：復習をする		講義		
6	島嶼部の文化					事前：なし 事後：復習をする		講義		
7	島嶼部の文化2					事前：なし 事後：復習をする		講義		
8	島嶼部の文化3					事前：なし 事後：復習をする		講義		
9	異文化接触と地域文化					事前：なし 事後：復習をする		講義		
10	異文化接触と地域文化2					事前：なし 事後：復習をする		講義		
11	地域文化と政策					事前：なし 事後：復習をする		講義		
12	地域文化と政策2					事前：なし 事後：復習をする		講義		
13	地域文化と政策3					事前：なし 事後：復習をする		講義		
14	地域と歴史					事前：なし 事後：復習をする		講義		
15	試験あるいはレポート					事前：ノート整理 事後：		試験あるいはレポート		
教本： なし					参考文献： 授業中にたくさん紹介します。					
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 複雑なことから逃げないように。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 (Regional Cultures)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 観 光 振 興 に お け る 地 域 文 化 の 重 要 性 と 、 観 光 資 源 (観 光 目 的) と し て の 地 域 文 化 資 源 の 観 光 的 活 用 と い う 視 点 か ら 、 地 域 文 化 の 固 有 性 と そ の 魅 力 に つ い て 探 求 す る 。									
授 業 目 標 : 1. 地 域 文 化 と 観 光 資 源 の 関 係 性 に つ い て 習 得 す る 。 2. 観 光 資 源 の 内 容 に つ い て 習 得 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	地 域 文 化 の 構 造					事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
2	地 域 文 化 の 形 成					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
3	地 域 文 化 と 境 目					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
4	地 域 文 化 と 地 域 資 源 ・ 観 光 資 源					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
5	レ ク リ エ ー シ ョ ン 活 動 と 地 域 文 化					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
6	地 域 資 源 の 価 値 評 価					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
7	地 域 文 化 資 源 の 公 的 価 値 評 価					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
8	地 域 自 然 資 源 の 公 的 価 値 評 価					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
9	ユ ネ ス コ に よ る 地 域 資 源 の 価 値 評 価 (世 界 遺 産)					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
10	ミ シ ュ ラ ン に よ る 地 域 資 源 の 価 値 評 価					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
11	地 域 資 源 の 名 数 に よ る 価 値					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
12	地 域 文 化 と 観 光 情 報 の 発 信					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
13	地 域 文 化 の 情 報 発 信 (展 示 見 学 施 設)					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
14	地 域 文 化 の 情 報 発 信 (景 観 と 風 景)					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
15	よ り よ き 地 域 文 化 の 形 成					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
教 本 : 各 回 プ リ ン ト 配 布					参 考 文 献 : 必 要 時 に 指 示				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 小 テ ス ト 等 (40%) 、 定 期 試 験 (60%) 等 に 授 業 態 度 (出 席 等) を 加 味 し て 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 人 は 何 を 求 め て 観 光 を す る の か 、 地 域 の 何 気 な い 資 源 が な ぜ 人 に 求 め ら れ る 価 値 を 有 す る 文 化 と な る の か 、 そ ん な 疑 問 を 解 き 明 か し た い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 (Regional Cultures)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。</p> <p>2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇地域文化論の全体像を概観する。					事 前 : 教 本 pp.1~3精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
2	グ ロー バ ル 社 会 と 異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ① グ ロー バ ル 社 会 に お け る 異 文 化 交 流					事 前 : 教 本 pp.3~9精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
3	グ ロー バ ル 社 会 と 異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ② 異 文 化 交 流 の 歴 史 ~ 中 国 少 数 民 族 の 生 活 を 訪 ね て					事 前 : 教 本 pp.236~242精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
4	文 化 ① せ め ぎ 合 い の 場 と し て の 文 化 ~ 文 明 の 衝 突					事 前 : 教 本 pp.11~16精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
5	文 化 ② 外 国 人 と し て 生 き る ~ オ リ エ ン タ リ ズ ム と 白 人 性					事 前 : 教 本 pp.16~19精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
6	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ① コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 と 寛 容 性					事 前 : 教 本 pp.19~24精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
7	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ② 〈 想 像 / 創 造 す る 力 〉 と し て の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					事 前 : 教 本 pp.24~31精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
8	言 語 ① 英 語 帝 国 主 義 ~ 日 本 人 は な ぜ 英 語 が 話 せ な い の か ?					事 前 : 教 本 pp.108~117精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
9	言 語 ② 国 家 と 標 準 語 ・ 方 言 ~ 異 文 化 と し て の 名 古 屋 こ と ば					事 前 : 教 本 pp.117~134精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
10	非 言 語 ① 非 言 語 メ ッ セ ー ジ と ス テ レ オ タイ プ					事 前 : 教 本 pp.135~144精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
11	非 言 語 ② 沈 黙 の 意 味 ~ 日 本 人 と 以 心 伝 心					事 前 : 教 本 pp.144~152精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
12	時 間 ・ 空 間 - 記 憶 と 忘 却					事 前 : 教 本 pp.152~157精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
13	発 展 学 習 ① 生 物 多 様 性 と 文 化					事 前 : 配 布 物 の 精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
14	発 展 学 習 ② 建 築 と 文 化					事 前 : 配 布 物 の 精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
15	ま と め					事 前 : こ れ ま で の 復 習 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石 井 敏 ほ か 『 は じ め て 学 ぶ 異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 一 多 文 化 共 生 と 平 和 構 築 に 向 け て 』 有 斐 閣、2013年。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小 レ ポ ー ト (40%)、期 末 試 験 (60%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 I (Regional Cultures I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 観 光 振 興 に お け る 地 域 文 化 の 重 要 性 と 、 観 光 資 源 (観 光 目 的) と し て の 地 域 文 化 資 源 の 観 光 的 活 用 と い う 視 点 か ら 、 地 域 文 化 の 固 有 性 と そ の 魅 力 に つ い て 探 求 す る 。									
授 業 目 標 : 1. 地 域 文 化 と 観 光 資 源 の 関 係 性 に つ い て 習 得 す る 。 2. 観 光 資 源 の 内 容 に つ い て 習 得 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	地 域 文 化 の 構 造					事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
2	地 域 文 化 の 形 成					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
3	地 域 文 化 と 境 目					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
4	地 域 文 化 と 地 域 資 源 ・ 観 光 資 源					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
5	レ ク リ エ ー シ ョ ン 活 動 と 地 域 文 化					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
6	地 域 資 源 の 価 値 評 価					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
7	地 域 文 化 資 源 の 公 的 価 値 評 価					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
8	地 域 自 然 資 源 の 公 的 価 値 評 価					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
9	ユ ネ ス コ に よ る 地 域 資 源 の 価 値 評 価 (世 界 遺 産)					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
10	ミ シ ュ ラ ン に よ る 地 域 資 源 の 価 値 評 価					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
11	地 域 資 源 の 名 数 に よ る 価 値					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
12	地 域 文 化 と 観 光 情 報 の 発 信					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
13	地 域 文 化 の 情 報 発 信 (展 示 見 学 施 設)					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
14	地 域 文 化 の 情 報 発 信 (景 観 と 風 景)					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
15	よ り よ き 地 域 文 化 の 形 成					事 前 : 前 回 の 授 業 内 容 事 後 : 今 回 の 授 業 内 容		講 義	
教 本 : 各 回 プ リ ン ト 配 布					参 考 文 献 : 必 要 時 に 指 示				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 小 テ ス ト 等 (40%) 、 定 期 試 験 (60%) 等 に 授 業 態 度 (授 業 内 容 へ の 参 加 等) を 加 味 し て 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 人 は 何 を 求 め て 観 光 を す る の か 、 地 域 の 何 気 な い 資 源 が な ぜ 人 に 求 め ら れ る 価 値 を 有 す る 文 化 と な る の か 、 そ ん な 疑 問 を 解 き 明 か し た い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 I (Regional Cultures I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。</p> <p>2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇地域文化論の全体像を概観する。					事 前 : 教 本 pp.1~3精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
2	グ ロー バ ル 社 会 と 異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ① グ ロー バ ル 社 会 に お け る 異 文 化 交 流					事 前 : 教 本 pp.3~9精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
3	グ ロー バ ル 社 会 と 異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ② 異 文 化 交 流 の 歴 史 ~ 中 国 少 数 民 族 の 生 活 を 訪 ね て					事 前 : 教 本 pp.236~242精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
4	文 化 ① せ め ぎ 合 い の 場 と し て の 文 化 ~ 文 明 の 衝 突					事 前 : 教 本 pp.11~16精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
5	文 化 ② 外 国 人 と し て 生 き る ~ オ リ エ ン タ リ ズ ム と 白 人 性					事 前 : 教 本 pp.16~19精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
6	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ① コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 と 寛 容 性					事 前 : 教 本 pp.19~24精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
7	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ② 〈 想 像 / 創 造 す る 力 〉 と し て の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					事 前 : 教 本 pp.24~31精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
8	言 語 ① 英 語 帝 国 主 義 ~ 日 本 人 は な ぜ 英 語 が 話 せ な い の か ?					事 前 : 教 本 pp.108~117精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
9	言 語 ② 国 家 と 標 準 語 ・ 方 言 ~ 異 文 化 と し て の 名 古 屋 こ と ば					事 前 : 教 本 pp.117~134精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
10	非 言 語 ① 非 言 語 メ ッ セ ー ジ と ス テ レ オ タイ プ					事 前 : 教 本 pp.135~144精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
11	非 言 語 ② 沈 黙 の 意 味 ~ 日 本 人 と 以 心 伝 心					事 前 : 教 本 pp.144~152精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
12	時 間 ・ 空 間 - 記 憶 と 忘 却					事 前 : 教 本 pp.152~157精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
13	発 展 学 習 ① 生 物 多 様 性 と 文 化					事 前 : 配 布 物 の 精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
14	発 展 学 習 ② 建 築 と 文 化					事 前 : 配 布 物 の 精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
15	ま と め					事 前 : こ れ ま で の 復 習 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石 井 敏 ほ か 『 は じ め て 学 ぶ 異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 一 多 文 化 共 生 と 平 和 構 築 に 向 け て 』 有 斐 閣、2013年。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小 レ ポ ー ト (40%)、期 末 試 験 (60%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域文化論Ⅱ (Regional Cultures Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 素材や地形毎の文化形成を体系的にみることにより、地域文化と観光のあり方について、日本各地における地域文化を活かした観光の現状を探求する。									
授業目標： 1. 各種の素材における地域文化の特性と観光との関わりについて習得する。 2. 島における地域文化特性と観光振興について習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	地域と食文化					事後：今回の授業内容		講義	
2	地域食の形成と観光					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	塩と地域文化					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	塩文化と観光（事例）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	蕎麦と地域文化					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	蕎麦文化と観光（事例）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	島と地域文化					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	島文化と観光（事例）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	島文化と観光（事例）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	映像と地域文化					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	アニメと地域文化（サブカルチャー）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	水と地域文化					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	水文化を活かした観光（事例）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	歴史と地域文化					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	よりよき地域文化の形成					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
教本： 各回プリント配布					参考文献： 必要時に指示				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト等（40%）、定期試験（60%）等に授業態度（授業内容への参加等）を加味して総合評価する。									
学生へのアドバイス： 人は何を求めて観光をするのか、地域の何気ない資源がなぜ人に求められる価値を有する文化となるのか、そんな疑問を解き明かしたい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 II (Regional Cultures I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	地 域 文 化 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。</p> <p>2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇地域文化論IIの全体像を概観する。					事 前 : シ ラ バ ス 精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
2	異空間としてのメディア ① 現代の映像メディアと文化～世界を見るレンズ					事 前 : 教 本 pp.83～95精読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
3	異空間としてのメディア ② メディアと権力～メディアが世界を変える!?					事 前 : 教 本 pp.95～108精読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
4	メディアと文化 ① グローバル社会とメディア文化					事 前 : 教 本 pp.37～50精読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
5	メディアと文化 ② 戦争の記憶、記憶の戦争					事 前 : 教 本 pp.50～59精読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
6	異文化接触 ① 「カルチャーショック」と適応～異文化との出会い					事 前 : 教 本 pp.61～90精読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
7	異文化接触 ② アイデンティティと「他者」～自分探しの意味とは					事 前 : 教 本 pp.90～108精読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
8	文化のポリティクス ① 現実はつくられる～アフリカと貧困・開発					事 前 : 教 本 pp.159～169精読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
9	グローバリゼーションの行方 ① グローバル化と格差社会～貨幣と文化					事 前 : 教 本 pp.181～188精読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
10	グローバリゼーションの行方 ② 画一化されない食文化					事 前 : 教 本 pp.189～192精読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
11	グローバリゼーションの行方 ③ オルタナティブな世界の構築に向けて					事 前 : 教 本 pp.192～205精読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
12	研究発表1					事 前 : 発 表 準 備 事 後 : 発 表 評 価 表 の 作 成		講 義	
13	研究発表2					事 前 : 発 表 準 備 事 後 : 発 表 評 価 表 の 作 成		講 義	
14	研究発表3					事 前 : 発 表 準 備 事 後 : 発 表 評 価 表 の 作 成		講 義	
15	まとめ					事 前 : こ れ ま で の 復 習 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション —多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 中 の 小 レ ポ ー ト (40%)、レ ポ ー ト (60%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	着地型・発地型観光論 I (Alternative Tourism and Mass Tourism I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 映像でイメージを掴み、着地型観光のメリットとデメリットを理解する。									
授業目標： 着地型観光の特性を活かした観光プランが作成できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義	
2	地域はなぜ観光に向かうのか：観光による地域おこしについて					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
3	着地型観光と地域資源：地域のオンリーワンの観光資源を探し出し、ブラッシュアップする。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
4	着地型観光の事業主体：地域の観光の運営主体は誰かについて考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
5	着地型観光の商品企画：実際に商品企画をしてみて、行程、販売価格、販売対象などを考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
6	着地型観光の流通・販売：地域の観光資源をどのように販売したら良いか考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
7	着地型観光における住民の役割：観光による地域振興における住民の果たす役割について考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
8	体験交流型観光：体験型観光の重要性について考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
9	ニューツーリズム開発：持続可能な観光について考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
10	エコツーリズム：エゴツーリズムに変わってしまわないようにする方策を考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
11	放射線の効用：放射線のホルミシスについて考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
12	温泉文化：体に良い温泉、体に悪い温泉を考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
13	嗜好品文化：世界各国の嗜好品について考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
14	食の安心・安全：危険な食とは何かについて考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
15	ディズニーランド：ディズニーランドのリピーターが多い理由を考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
教本： プリントを配布する					参考文献： 尾家建生他著「これでわかる着地型観光」田畑書店 ￥1,500+税 浜田篤郎著「伝説の海外旅行」田畑書店 ￥1,500+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 楽しくなければ観光は学べない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	着地型・発地型観光論Ⅱ (Alternative Tourism and Mass Tourism Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大井 功								
履 修 条 件	前提科目	着地型・発地型観光論Ⅰを同時履修か、過去に履修したことがある。							
	その他	なし							
授業概要： 発地型観光の多様な形態を学び、そのメリットとデメリットを理解する。									
授業目標： 発地型観光の特性を活かした観光プランが作成できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	海外旅行の基礎(Ⅰ)：3レターコードにより、航空会社や都市名を表示する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
2	海外旅行の基礎(Ⅱ)：時差がわかり、国際便の航空機の飛行時間がわかる。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
3	食 旅：安全・安心の食、危険な食、地産地消などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
4	祭 旅：祭りによる町おこしを考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
5	産業観光：産業観光を活用した地域振興の方法を考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
6	スポーツ・ヘルス・ツーリズム：スポーツを活用した観光や健康づくりを考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
7	メディカル・ツーリズム：医療を目的とした観光振興の是非について考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
8	肉食文化：肉食文化と穀物文化を比較する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
9	航空機のなぞ：ジェット燃料とは何か、ジャンボジェット機はなぜ、姿を消したのかなどについて考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
10	カジノミクス：総合レジャー施設建設に伴うメリット、デメリットを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
11	ホテル利用法：国際ホテルの利用方法を考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
12	エアライン・クライシス：航空会社経営環境の変化に伴う営業戦略の変化を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
13	旅行の健康管理：旅行に伴う体調の変化と病を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
14	海外旅行犯罪：海外旅行で遭遇する犯罪と被害に遭わないための方策を考える。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
15	麻薬文化：麻薬に対する厳罰国と容認国の考え方の違いを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 尾家建生他著「これでわかる着地型観光」田畑書店 ￥1,500+税 浜田篤郎著「伝説の海外旅行」田畑書店 ￥1,500+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）(40%)、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 楽しくなければ観光は学べない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	中 級 簿 記 I (Intermediate Bookkeeping I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 原 理 I ・ II							
	そ の 他	会 計 学 I ・ II							
授 業 概 要 :									
中級簿記Iは、簿記原理I・IIで学んできたこと(仕訳・転記・決算)に加えて、株式会社を前提とした様々な簿記処理を学び、簿記会計のさらに高度な手続きを学ぶものである。その理解のためには、会計処理原則・規則や関連する法の理解を必要とするため、單元ごとに関連する法などを説明し、さらに練習問題を提供し、その理解度の確認をとる。									
授 業 目 標 :									
商業簿記のより高度な部分を理解することを目的とする。簿記検定2級の範囲の範囲を理解し、中級簿記IIとあわせて履修することにより商業簿記2級の範囲を網羅する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記一巡の手続きと財務諸表：仕訳から財務諸表作成まで					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
2	現金預金と売掛金：当座預金と銀行勘定調整表 手形：裏書、割引					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
3	手形：更改、不渡り、営業外手形、電子記録債権債務					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
4	有価証券：売買目的、満期保有、子会社関連会社株式、その他					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
5	その他の債権債務：債務の保証、未決算					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
6	商品売買：売上原価の算定、棚卸減耗と商品評価損					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
7	固定資産：取得、減価償却、除却、売却、無形固定資産					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
8	引当金：貸倒引当金、商品保証引当金、賞与引当金、退職給付引当金					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
9	引当金：売上割戻引当金、返品調整引当金、修繕引当金					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
10	収益と費用：販売費及び一般管理費、営業外収益、営業外費用					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
11	株式会社の会計：設立・開業、増資、					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
12	株式会社の会計：剰余金の配当・処分合併、					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
13	株式会社の会計：株主資本以外の純資産					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
14	税金：法人税の計算、法人税等					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
15	税金：消費税					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
渡部・片山・北村編著『簿記講義』2級(商業簿記)中央経済社									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講 義 を 休 ま ない こ と を 前 提 と し て 、 予 習 復 習 を 確 実 に 行 う こ と が 簿 記 の 力 を 向 上 さ せ る 最 も 効 果 的 な 方 法 と 考 え て い る 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中級簿記Ⅰ (Intermediate Bookkeeping Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担当教員	桑原 常明・高橋 琢也								
履修条件	前提科目	簿記原理Ⅰ・Ⅱ							
	その他	なし							
授業概要： 中級簿記では簿記原理で学んだ簿記知識を基礎として、簿記原理と会計学、財務諸表論との有機的関連性を理解するために、株式会社における簿記を中心として、授業を進めたい。									
授業目標： 日商簿記検定2級の商業簿記を受験するときに十分な実力を身につけることを目標とする									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記一巡の手続きの復習					事前：なし 事後：なし		講義	
2	簿記一巡の手続きの復習					事前：なし 事後：なし		講義	
3	現金預金取引					事前：なし 事後：なし		講義	
4	現金預金取引					事前：なし 事後：なし		講義	
5	有価証券取引					事前：なし 事後：なし		講義	
6	債権債務取引					事前：なし 事後：なし		講義	
7	手形取引1					事前：なし 事後：なし		講義	
8	手形取引2					事前：なし 事後：なし		講義	
9	手形取引3					事前：なし 事後：なし		講義	
10	商品売買取引1					事前：なし 事後：なし		講義	
11	商品売買取引2					事前：なし 事後：なし		講義	
12	特殊商品売買取引（変更の可能性あり）					事前：なし 事後：なし		講義	
13	特殊商品売買取引（変更の可能性あり）					事前：なし 事後：なし		講義	
14	特殊商品売買取引（変更の可能性あり）					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 加古・渡部・片山編著 新検定簿記講義（2級商業簿記）中央経済社。加古・渡部・片山編著 段階式日商簿記ワークブック（2級商業簿記）税務経理協会					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席をしないこと、予習・復習をすること、携帯電話の電源を切っておくこと									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	中 級 簿 記 Ⅱ (Intermediate Bookkeeping Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	川 口 修								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 原 理 Ⅰ ・ Ⅱ							
	そ の 他	会 計 学 Ⅰ ・ Ⅱ							
授 業 概 要 :									
中級簿記Ⅱは、簿記原理Ⅰ・Ⅱ及び中級簿記Ⅰで学んできたことに加えて、株式会社を前提とした会計処理を学び、簿記会計のさらに高度な手続きを学ぶものである。その理解のためには、会計処理原則・規則や関連する法の理解を必要とするため、各単元ごとにそれらの法などの説明し、さらに練習問題を行い、その理解度の確認をとる。具体的な単元としては、リース会計・外貨建取引・税効果会計・決算・本支店会計・連結会計などを学ぶ。									
授 業 目 標 :									
商業簿記のより高度な部分を理解することを目的とする。簿記検定2級の範囲の範囲を理解し、中級簿記Ⅰとあわせて履修することにより商業簿記2級の範囲を網羅する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	リース会計：リース取引の意義と分類					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
2	リース会計：ファイナンスリース取引の処理 オペレーティングリース取引の処理					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
3	外貨建取引：外貨建営業取引の決算処理					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
4	外貨建取：為替予約、外貨建金銭債権債務の処理					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
5	税効果会計：税効果会計の意義、引当金の税効果					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
6	税効果会計：減価償却の税効果、その他有価証券評価差額の税効果					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
7	決算：決算整理					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
8	決算：製造業の決算					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
9	財務諸表の作成：貸借対照表					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
10	財務諸表の作成：損益計算書					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
11	連結会計：連結会計の意義、資本連結					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
12	連結会計：被支配株主持分の、のれん、連結会社間取引の処理					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
13	連結会計：未実現損益の消去連結会計精算表					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
14	連結会計：連結会計財務諸表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習とプリント回答		講義	
教 本 : 参 考 文 献 :									
講義を休まないことを前提として、予習復習を確実に行うことが簿記の力を向上させる最も効果的な方法と考えている。									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講義を休まないことを前提として、予習復習を確実に行うことが簿記の力を向上させる最も効果的な方法と考えている。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中級簿記Ⅱ (Intermediate Bookkeeping Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	桑原 常明・高橋 琢也								
履修条件	前提科目	簿記原理Ⅰ・Ⅱ 中級簿記Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 中級簿記では簿記原理で学んだ簿記知識を基礎として、簿記原理と会計学、財務諸表論との有機的関連性を理解するために、株式会社における簿記を中心として、授業を進めたい。									
授業目標： 日商簿記検定2級の商業簿記を受験するときに十分な実力を身につけることを目標とする									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	固定資産取引					事前：なし 事後：なし		講義	
2	固定資産取引					事前：なし 事後：なし		講義	
3	損益取引					事前：なし 事後：なし		講義	
4	株式会社会計					事前：なし 事後：なし		講義	
5	株式会社会計					事前：なし 事後：なし		講義	
6	株式会社会計					事前：なし 事後：なし		講義	
7	税金					事前：なし 事後：なし		講義	
8	決算					事前：なし 事後：なし		講義	
9	決算					事前：なし 事後：なし		講義	
10	決算					事前：なし 事後：なし		講義	
11	本支店会計					事前：なし 事後：なし		講義	
12	本支店会計					事前：なし 事後：なし		講義	
13	本支店会計					事前：なし 事後：なし		講義	
14	帳簿組織					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 加古・渡部・片山編著 新検定簿記講義（2級商業簿記） 中央経済社。加古・渡部・片山編著 段階式日商簿記ワークブック（2級商業簿記） 税務経理協会									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席をしないこと、予習・復習をすること、携帯電話の電源を切っておくこと									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語 I (Chinese I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 本講義では中国語の発音から初めて、正しい発音の仕方を身につけるようにしていきます。そして、中国語の日常会話を中心とする簡単な挨拶や会話を学びます。</p>									
<p>授業目標： 1. 中国への関心を高める。2. 発音・文法の初歩から初めて、中国語の基礎を理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要と中国語の学び方					事前：特になし 事後：復習		講義	
2	発音					事前：予習 事後：復習		講義	
3	教科書第1課					事前：予習 事後：復習		講義	
4	教科書第1課					事前：予習 事後：復習		講義	
5	教科書第2課					事前：予習 事後：復習		講義	
6	教科書第2課					事前：予習 事後：復習		講義	
7	復習（ミニテスト①）					事前：特になし 事後：特になし		講義	
8	教科書第3課					事前：予習 事後：復習		講義	
9	教科書第4課					事前：予習 事後：復習		講義	
10	教科書第4課					事前：予習 事後：復習		講義	
11	教科書第5課					事前：予習 事後：復習		講義	
12	教科書第5課					事前：予習 事後：復習		講義	
13	教科書第6課					事前：予習 事後：復習		講義	
14	復習（ミニテスト②）					事前：特になし 事後：復習		講義	
15	全体のまとめ					事前：特になし 事後：復習		講義	
<p>教本： 【《最新2訂版》中国語はじめの一步】竹島金吾（白水社出版） 税別 ¥2,200、教科書の購入が無い場合は受講を認めません。</p>					<p>参考文献： なし。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 外国語の学習には基本的な文法などを理解すること、基本的な語彙を覚えるという過程があります。予習・復習を必ず行ってください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語Ⅰ (Chinese I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	但 継紅								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>中国語の基礎を習得するためのクラスである。中国語を正しく発音でき、同時に正確に聞き取れるように訓練する。その上、基礎的な文法を学び、会話練習や作文などを平行して行うことを通じて中国語の基礎コミュニケーション力を高める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>中国発音の基礎（ピンイン）、初級文法、簡単な日常会話（挨拶、自己紹介など）を身に着けることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 発音①：声調					事前：シラバスを確認 事後：CDを聞き、発音練習		講義	
2	発音②：単母音 複母音					事前：CDを聞き、発音練習 事後：CDを聞き、発音練習		講義	
3	発音③：無気音と有気音 そり舌音					事前：CDを聞き、発音練習 事後：CDを聞き、発音練習		講義	
4	発音④：鼻音を伴う母音など声調変化 あいさつの言葉					事前：CDを聞き、発音練習 事後：あいさつの言葉覚える		講義	
5	名前の言い方 決まり文句					事前：自分の名前を調べる 事後：復習、単語覚える。		講義	
6	人称代詞 “是”、“吗” 疑問文 人称代名詞+“呢”など					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
7	復習・発音と会話の練習					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
8	中間テスト					事前：復習 事後：復習：単語文を覚える			
9	動詞述語文 指示代詞					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
10	“的”の省略 形容詞述語文					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
11	所有を表す“有/没有” 数詞 量詞 家族呼称					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
12	会話・練習・復習					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
13	文末の“了” 名詞述語文 比較文“比” 年月日の言い方					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
14	曜日の言い方 時間詞 推量の“吧”					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
15	総復習					事前：復習：単語文を覚える 事後：復習：単語文を覚える		講義	
<p>教本：</p> <p>『はくのせんせい』相原茂 郭雲輝 著 朝日出版社</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業中に適宜紹介します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>外国語を習うには、楽しい気持ちを持つことがとても大事、先生とクラスのみなさんと一緒に、楽しく学びましょう。</p> <p>中国語の発音は難しいのは先入観だけです。授業は、わかり易く行うことを工夫します。常に復習しながら進めます。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語Ⅱ (Chinese II)						科目分類	基礎科目	
担当教員	沈 瑛								
履修条件	前提科目	中国語コミュニケーションⅠを履修していること。							
	その他	なし							
授業概要： 中国語は発音が大事です。中国語コミュニケーションⅠで学んだ発音を確認した後、Ⅰで学習した内容をベースに基礎的な文法を学びつつ、単語の知識を増やしていきます。大学で留学生との日常会話ができるような力を身につけていきます。									
授業目標： 1. 基礎的な文法を学習する。 2. 日常の会話力、リスニング力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要					事前：特になし 事後：復習		講義	
2	発音					事前：予習 事後：復習		講義	
3	教科書第7課					事前：予習 事後：復習		講義	
4	教科書第8課					事前：予習 事後：復習		講義	
5	教科書第8課					事前：予習 事後：復習		講義	
6	教科書第9課					事前：予習 事後：復習		講義	
7	教科書第9課					事前：予習 事後：復習		講義	
8	復習（ミニテスト①）					事前：特になし 事後：復習		講義	
9	教科書第10課					事前：予習 事後：復習		講義	
10	教科書第11課					事前：予習 事後：復習		講義	
11	教科書第11課					事前：予習 事後：復習		講義	
12	教科書第12課					事前：予習 事後：復習		講義	
13	教科書第12課					事前：予習 事後：復習		講義	
14	復習（ミニテスト②）					事前：特になし 事後：復習		講義	
15	全体のまとめ					事前：特になし 事後：復習		講義	
教本： 【最新2訂版】中国語はじめの一步 竹島金吾（白水社出版） 税別 ¥2,200、教科書の購入が無い場合は受講を認めません。					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 単語を覚えることと共に、外国語は積極的に話すことが大事です。特に会話に力点を置いてあります。自ら考えて話すことが大切です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語Ⅱ (Chinese II)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	但 継紅								
履 修 条 件	前提科目	中国語Ⅰ履修済みを前提とする。							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>中国語Ⅰの基礎を習得した受講者のための初級クラスである。中国語を正しく発音でき、同時に正確に聞き取れるように訓練する。その上、基礎的な文法を学び、会話練習や作文などを平行して行うことを通じて中国語の基礎コミュニケーション力を高める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>中国発音の基礎（ピンイン）、初級文法、簡単な日常会話（挨拶、自己紹介など）を身に着けることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 基礎内容の復習					事前：シラバスを確認 事後：CDを聞き、発音練習		講義	
2	時刻の言い方 指示詞 特定のモノ（ヒト）+在+場所など					事前：CDを聞き、発音練習 事後：CDを聞き、発音練習		講義	
3	動詞+“了” 程度副詞：“挺”、“很”、“非常”					事前：CDを聞き、発音練習 事後：CDを聞き、発音練習		講義	
4	会話・練習・復習					事前：CDを聞き、発音練習 事後：あいさつの言葉覚える		講義	
5	“喜欢”+VP 動詞+“过”など					事前：自分の名前を調べる 事後：復習、単語覚える。		講義	
6	助動詞“会”、“能” 動詞の重ね型 様態補語など					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
7	復習・発音と会話の練習					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
8	中間テスト					事前：復習 事後：復習：単語文を覚える			
9	助動詞想、打算 連動文 方向補語など					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
10	反復疑問文 選択疑問文 主述述語文 身長の言い方					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
11	“跟”、“和”、“给” 結果補語など					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
12	会話・練習・復習					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
13	可能補語 値段の聞き方 “是～的”など					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
14	“把” 構文 動詞+“着”など					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義	
15	総復習					事前：復習：単語文を覚える 事後：復習：単語文を覚える		講義	
<p>教本：</p> <p>『はくのせんせい』相原茂 郭雲輝 著 朝日出版社</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業中に適宜紹介します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>外国語を習うには、楽しい気持ちを持つことがとても大事、先生とクラスのみなさんと一緒に、楽しく学びましょう。</p> <p>中国語の発音は難しいのは先入観だけです。授業は、わかり易く行うことを工夫します。常に復習しながら進めます。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中国語コミュニケーション (Chinese Communication)						科目分類	専門科目	
担当教員	但 継紅								
履修条件	前提科目	中国語コミュニケーションⅠ、Ⅱ履修済みが望ましい							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>基本的な文法・句型を整理しながら、平易な中国語文が正確に作れるように、会話体・文章体の両面から指導する。読む・聞く・話す・書くことの指導を段階的に進めていく。より楽しく中国語を勉強ができることで、中国語のプレゼン能力を高める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>中国語の長文読解の応用力を養うことや、中国語を通して、中国の文化についての理解もより深くなることを目指す。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、基礎内容の確認					事前：シラバスを確認 事後：CDを聞き、本文朗読		講義	
2	教科書の第一課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
3	教科書の第一課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
4	教科書の第二課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
5	教科書の第二課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
6	復習・練習・応用会話					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
7	教科書の第三課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
8	教科書の第三課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
9	教科書の第四課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
10	教科書の第四課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
11	復習・練習・応用会話					事前：CDを聞き、本文朗読。 事後：練習、復習		講義	
12	教科書の第五課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
13	教科書の第五課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
14	総復習：文法・練習					事前：わからない内容確認 事後：総復習		講義	
15	総復習：リスニング・会話					事前：復習：単語文を覚える 事後：総復習		講義	
<p>教本：</p> <p>『楽しく学ぼう やさしい中国語』（講読編）中国語で巡る中国文化 王 武雲ほか著 郁文堂</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業中に適宜紹介します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>この授業を「実用中国語」の授業と同時に履修することによって、確実に中国語力を身に付けます。さらに、就職に役に立つ資格・中国語検定試験4級か3級を合格することができます。ぜひ一緒に履修することがおすすめです。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中国語プレゼンテーション (Chinese Presentation)						科目分類	専門科目	
担当教員	但 継紅								
履修条件	前提科目	中国語コミュニケーションⅠ、Ⅱ履修済みが望ましい							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>基本的な文法・句型を整理しながら、平易な中国語文が正確に作れるように、会話体・文章体の両面から指導する。読む・聞く・話す・書くことの指導を段階的に進めていく。より楽しく中国語を勉強ができることで、中国語のプレゼン能力を高める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>中国語の長文読解の応用力を養うことや、中国語を通して、中国の文化についての理解もより深くなることを目指す。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、基礎内容の確認					事前：シラバスを確認 事後：CDを聞き、本文朗読		講義	
2	教科書の第一課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
3	教科書の第一課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
4	教科書の第二課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
5	教科書の第二課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
6	復習・練習・応用会話					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
7	教科書の第三課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
8	教科書の第三課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
9	教科書の第四課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
10	教科書の第四課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
11	復習・練習・応用会話					事前：CDを聞き、本文朗読。 事後：練習、復習		講義	
12	教科書の第五課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
13	教科書の第五課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義	
14	総復習：文法・練習					事前：わからない内容確認 事後：総復習		講義	
15	総復習：リスニング・会話					事前：復習：単語文を覚える 事後：総復習		講義	
<p>教本：</p> <p>『楽しく学ぼう やさしい中国語』（講読編）中国語で巡る中国文化 王 武雲ほか著 郁文堂</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業中に適宜紹介します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>この授業を「実用中国語」の授業と同時に履修することによって、確実に中国語力を身に付けます。さらに、就職に役に立つ資格・中国語検定試験4級か3級を合格することができます。ぜひ一緒に履修することがおすすめです。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中国文化研究A (China Study A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	但 継紅								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 中国は、地理的に日本に近く、似たような文化を持っている反面、全く異なった自然環境、歴史、文化、生活習慣、社会も併せ持っている。そのような隣国—中国の歴史、さまざまな地域・民族の文化、人々の生活様式を知る。授業は、講義、映像資料の視聴、討論、質疑応答、発表などを組み合わせて行う									
授業目標： 中国の全体像を知ることによって、現代中国への理解を深め、日中文化や日中関係に対する思考力を養うことを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、概要					事前：シラバスを確認 事後：配布資料を読む		講義	
2	中国の歴史、社会					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
3	日中関係史					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
4	日本に伝わった中国文化					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
5	さまざまな民族の生活					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
6	中国の食文化					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
7	中華人民共和国					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
8	映画を通して中国を知る					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
9	映画鑑賞①					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
10	中国の思想					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
11	中国の宗教					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
12	現代の中国人の価値観					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
13	映画を通して中国を知る					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
14	映画鑑賞②					事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義	
15	討論、まとめ、レポート指導					事前：レポート題名決める 事後：レポート作成		講義	
教本： 特に設定せず、各時間にプリントを配布。					参考文献： 授業中に適宜紹介します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、レポート（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 出席と資料の調べ、時々資料を読むことが求められます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	中 国 文 化 研 究 B (China Study B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	但 継 紅								
履 修 条 件	前 提 科 目	「中国語研究A」の継続授業であるため、前期の受講が望ましい							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 :									
中国は、地理的に日本に近く、似たような文化を持っている反面、全く異なった自然環境、歴史、文化、生活習慣、社会も併せ持っている。そのような隣国—中国の歴史、さまざまな地域・民族の文化、人々の生活様式を前期の講義で学ぶ。後期は、受講者に自分の興味や関心のあるテーマや問題を決めてもらい、個別に調べてまとめ、発表してもらう。									
授 業 目 標 :									
中国の全体像を知ることによって、現代中国への理解を深め、日中文化や日中関係に対する思考力を養うことを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 受講者各自の発表テーマの相談・確認					事前：シラバスを確認 事後：配布資料を読む		講義	
2	受講者各自の発表テーマの相談・提出					事前：各自発表テーマを調べ 事後：各自発表テーマを調べ		講義	
3	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		講義	
4	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		講義	
5	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		講義	
6	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		講義	
7	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		講義	
8	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		講義	
9	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		講義	
10	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		講義	
11	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		講義	
12	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		講義	
13	レポート指導とレポートの提出					事前：各自レポート作成 事後：各自レポート作成		講義	
14	レポート指導とレポートの提出					事前：各自レポート作成 事後：各自レポート作成		講義	
15	まとめ、レポート指導と提出					事前：各自レポート作成 事後：各自レポート作成		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
特に設定せず、各時間にプリントを配布。					授業中に適宜紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、レ ポー ト (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
出席と資料の調べ、時々資料を読むことが求められます。									
オ フ ィ ス ア ワー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	調査研究(フィールドワーク)(Fieldwork)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学関連科目							
	その他	授業時間にかかなりの時間と労力を要する。交通費等は自己負担。調査対象に応じて順序を変更する。							
<p>授業概要：</p> <p>大学周辺を対象に、「エスノグラフィック・フィールドワーク」調査法の全行程を習得します(問題設定、資料収集、参与観察、インタビュー、フィールドノート作成、データ分析、報告書/エスノグラフィー作成)。</p> <p>参考：これまでのテーマ(周辺自治会、厚木消防団、「小野小町」祭り、里山の会など)</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. エスノグラフィック・フィールドワーク調査法を習得する。</p> <p>2. エスノグラフィック・フィールドワーク調査法を用いて、大学周辺の事象を分析できる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス					事前：シラバス確認 事後：配布資料		講義	
2	フィールドワークの視点と方法					事前： 事後：配布資料		講義	
3	問いの設定、対象の設定					事前： 事後：配布資料		講義	
4	資料収集、文献購読					事前： 事後：配布資料		講義	
5	調査企画、フィールドデザイン作成					事前： 事後：配布資料		講義	
6	参与観察法、インタビュー法、フィールドノート作成					事前： 事後：配布資料		講義	
7	フィールドでの調査実習					事前：質問作成 事後：フィールドノート		実習	
8	フィールドデザイン修正					事前： 事後：配布資料		講義	
9	フィールドでの調査実習					事前：質問作成 事後：フィールドノート		実習	
10	中間報告					事前： 事後：配布資料		講義	
11	フィールドでの調査実習					事前：質問作成 事後：フィールドノート		実習	
12・13	データ分析					事前： 事後：報告書作成		講義	
14	エスノグラフィー(民族誌)作成					事前： 事後：報告書作成		講義 (グループワーク)	
15	エスノグラフィー提出、発表、フィードバック					事前：報告書作成 事後：		講義 (プレゼン、討論)	
教本： なし					<p>参考文献：</p> <p>1. 『エスノグラフィー入門』小田博志、春秋社、¥3,000</p> <p>2. 『フィールドワークへの挑戦』菅原和孝、世界思想社、¥1,700</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等(50%)、報告書(50%)等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>調査対象者との関係状、遅刻や欠席は原則として認められません。就職活動等でやむをえず遅刻、欠席する場合は、事前に担当教員に連絡し、事後に届を提出してください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 理 学 (Geography)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	飯 田 貞 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 地理学は、環境科学の一つとして自然と人文との関連性に重点を置いて研究・考察する。そこで、どのような地域にどのような現象が存在し、人間は、どんな生活・生産活動をしているかを、「人間を取りまく自然環境」と各地域の現状を考察する。									
授 業 目 標 : 現在、住む地域の特徴を自然と人文との関連で総合的に説明する、世界は毎日のように変動している。どうして、なぜこのようになったか、これからどのように生きるかを考える。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態
1	地球表面の変化					事前：地球の表面を変化させるP1～3 事後：教科書によるP1～5			講義
2	地形をつくる内的営力(火山活動、地殻変動)					事前：内的、営力について教科書P1～5 事後：教科書によるP5～6			講義
3	地形をつくる内的営力(地殻変動、造山運動)					事前：内的、営力について 事後：プリントと教科書P6～8			講義
4	地震と断層の関係					事前：断層の種類 事後：プリントと教科書P9～15			講義
5	地形を造る外的営力(風化、侵食、堆積)					事前：外的営力と地形 事後：プリントと教科書P22～25			講義
6	地形を造る外的営力(風化、侵食、堆積)					事前：外的営力と地形 事後：プリントと教科書P25～30			講義
7	海面変化					事前：地球の水と温暖化 事後：プリントと教科書P37～38			講義
8	海岸地形					事前：海岸の地形の変化 事後：プリントと教科書P40～51			講義
9	河川に見られる地形					事前：河川の上流中流下流 事後：プリントと教科書P56～60			講義
10	気候					事前：気候と気象の違い教科書P46 事後：プリントと教科書P63～69			講義
11	気候要素と気候因子					事前：気候と気象の違い教科書P47～49 事後：プリントと教科書P70～73			講義
12	人間の生活と気候					事前：気候と人間教科書P70～73 事後：プリントと教科書P70～73			講義
13	気温、気圧、降水量、風					事前：気候要素 事後：プリントと教科書P74～83			講義
14	天気を決める気象現象、フェーン現象、台風					事前：フェーン現象 事後：プリントと教科書P84～94			講義
15	レポートの作成					事前：レポートの書方 事後：レポートの作成方法			講義
教 本 : プリントを作成して配布する。					参 考 文 献 : 図説 自然と環境 著作代表 飯田貞夫 古今書院 ¥2,400				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 筆 記 試 験 (60%) ・ レ ポ ー ト (40%) を 総 合 し て 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 欠 席、遅 刻 は し な い こ と。提 出 物 は 期 日 ま で に 出 す こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地理学概論 I (Geography I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯田 貞夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>地理学は、環境科学の一つとして自然と人文との関連性に重点を置いて研究・考察する。そこで、どのような地域にどのような現象が存在し、人間は、どんな生活・生産活動をしているかを、「人間を取りまく自然環境」と各地域の現状を考察する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>現在、住む地域の特徴を自然と人文との関連で総合的に説明する、世界は毎日のように変動している。どうして、なぜこのようになったか、これからどのように生きるかを考える。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	地球表面の変化					事前：地球の表面を変化させるP1～3 事後：教科書によるP1～5		講義	
2	地形をつくる内的営力（火山活動、地殻変動）					事前：内的、営力について教科書P1～5 事後：教科書によるP5～6		講義	
3	地形をつくる内的営力（地殻変動、造山運動）					事前：内的、営力について 事後：プリントと教科書P6～8		講義	
4	地震と断層の関係					事前：断層の種類 事後：プリントと教科書P9～15		講義	
5	地形を造る外的営力（風化、侵食、堆積）					事前：外的営力と地形 事後：プリントと教科書P22～25		講義	
6	地形を造る外的営力（風化、侵食、堆積）					事前：外的営力と地形 事後：プリントと教科書P25～30		講義	
7	海面変化					事前：地球の水と温暖化 事後：プリントと教科書P37～38		講義	
8	海岸地形					事前：海岸の地形の変化 事後：プリントと教科書P40～51		講義	
9	河川に見られる地形					事前：河川の上流中流下流 事後：プリントと教科書P56～60		講義	
10	気候					事前：気候と気象の違い教科書P46 事後：プリントと教科書P63～69		講義	
11	気候要素と気候因子					事前：気候と気象の違い教科書P47～49 事後：プリントと教科書P70～73		講義	
12	人間の生活と気候					事前：気候と人間教科書P70～73 事後：プリントと教科書P70～73		講義	
13	気温、気圧、降水量、風					事前：気候要素 事後：プリントと教科書P74～83		講義	
14	天気を決める気象現象、フェーン現象、台風					事前：フェーン現象 事後：プリントと教科書P84～94		講義	
15	レポートの作成					事前：レポートの書方 事後：レポートの作成方法		講義	
<p>教本：</p> <p>プリントを作成して配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>図説 自然と環境 著作代表 飯田貞夫 古今書院 ￥2,400</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 筆記試験（60%）・レポート（40%）を総合して評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>欠席、遅刻はしないこと。提出物は期日までに提出すること。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地理学概論Ⅱ (Geography Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯田 貞夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>地理学は、環境科学の一つとして自然と人文との関連性に重点を置いて研究・考察する。そこで、どのような地域にどのような現象が存在し、人間は、どんな生活・生産活動をしているかを、「人間を取りまく自然環境」と各地域の現状を考察する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>現在、住む地域の特徴を自然と人文との関連で総合的に説明する、世界は毎日のように変動している。どうして、なぜこのようになったか、これからどのように生きるかを考える。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	日本列島の特徴				事前：地図帳で日本の位置の確認 事後：地図帳で世界と日本を知る			講義	
2	領域（領土・領海・領空）				事前：日本と領土問題 事後：主権について理解させる			講義	
3	地図（緯度、経度、地図の種類）				事前：地形図（5万分の1利用、25万分の1利用） 事後：地形を地形図で調べる			講義	
4	読図				事前：地形図（5万分の1利用、25万分の1利用） 事後：地形を地形図で調べる			講義	
5・6	地形図と読図1・2				事前：地形図から歴史や地形を読む 事後：地形図から歴史や地形を読む			講義	
7	人口の分布				事前：人口構成と人口問題 事後：人口ピラミッドを作成させる。			講義	
8	日本の人口と世界の人口				事前：人口構成と人口問題 事後：世界の人口ピラミッド作成			講義	
9	集落（日本の集落）集落の立地条件				事前：集落の成立と自然と社会 事後：地形や道路と関係			講義	
10	集落の構造（民家の景観、民家の屋根の形態）				事前：日本の民家の分布 事後：プリントで民家について説明			講義	
11	集落の構造（日本の民家の形）				事前：日本の民家の分布 事後：プリントで民家について説明			講義	
12	日本の集落（古代の農村、中世の農村、近代の農村）				事前：過去の日本の集落 事後：プリントで民家について説明			講義	
13	日本の集落（古代の農村、中世の農村、近代の農村）				事前：過去の日本の集落 事後：プリントで民家について説明			講義	
14	村落の形態の類型（集村、散村）				事前：集村と散村の違い 事後：自然と社会環境			講義	
15	レポートの作成				事前：上記の学科によってレポート作成 事後：レポートの書方及び作成方法			講義	
<p>教本：</p> <p>プリントを作成して配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>図説自然と環境 著作代表 飯田貞夫 古今書院 ￥2,400</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 筆記試験（60%）、レポート（40%）を総合して評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>欠席、遅刻はしないこと。また提出物は期日までにすること。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									



開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	ディスカッション (Discussion)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	澤 田 帆 奈 美								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： ディスカッションについて概説した後、TV録画されたディスカッションの分析を行う。また、受講者自らのディスカッションの分析も行い、ピア活動・ルーブリック評価をする。ディベートの実践、分析も同様に行う。									
授業目標： 1. ディスカッションとディベートの目的や意義・方法について理解を深める。 2. 自らの立場を明確にして論理的に意見を述べるができる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 事前自己評価 ディスカッションについて (概説)					事前：シラバスを読んでくる 事後：ノート・資料の整理と復習		講義	
2	TVディスカッションの分析① 意見と根拠の明確さ・論理性、反論のしかた 等					事前：分析の観点の確認 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
3	TVディスカッションの分析② 表現、話し方・態度、司会者の役割 等					事前：分析の観点の確認 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
4	紙上ディスカッション：お互いに評価する					事前：なし 事後：成果物の自己評価		演習	
5	受講者によるディスカッション① テーマを決め、論点をしぼる					事前：テーマについて考えてくる 事後：情報を集め、整理する		演習	
6	司会者・参加者の役割と表現					事前：なし 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
7	受講者によるディスカッション② (司会者と参加者)					事前：論点・議論の展開を考える 事後：振り返り		演習	
8	受講者によるディスカッション③ (司会者と参加者)					事前：論点・議論の展開を考える 事後：振り返り		演習	
9	受講者によるディスカッション④ (司会者と参加者)					事前：論点・議論の展開を考える 事後：振り返り		演習	
10	受講者によるディスカッション⑤ (司会者と参加者)					事前：論点・議論の展開を考える 事後：振り返り		演習	
11	受講者によるディスカッション⑥ (司会者と参加者)					事前：論点・議論の展開を考える 事後：振り返り		演習	
12	ディベートについて (概説)					事前：配付資料の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
13	受講者によるディベート① テーマ1					事前：ディベートについて 事後：振り返り		演習	
14	受講者によるディベート② テーマ2					事前：なし 事後：振り返り		演習	
15	全体のまとめ 事後自己評価					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：振り返りレポートの作成		演習	
教本： 資料とタスクシートを配付する。					参考文献： 下瀬川慧子他『日本語 口頭発表と討論の技術——コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために——』東海大学出版会 ¥2,700				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 議論への参加等の発言 (65%)、振り返りレポート・提出物等 (30%)、自己評価票 (5%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 議論することのおもしろさを体験しましょう。討論に参加する際の発言のしかたやマナーなども身につけます。積極的に議論に参加しようという心構えを持って受講してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	データサイエンス (Data Science)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	松浦 広明								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>ビッグデータ時代の到来とともに、データサイエンティストには、統計的因果推論と機械学習の両方の知識が問われる場面が増えてきています。統計分析ソフト STATA を利用して、様々な形状のデータを分析しながら、統計的因果推論の基礎を学び、機械学習などの AI 技術がそれにどのように使えるかを学びます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>実際のデータを用いて、統計的に因果関係を推定するのももちろんのこと、機械学習を使った様々な手法を学びます。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	概要の説明 (Introduction)					事前：なし 事後：授業内容の復習		講義 + 演習	
2	記述統計 (Descriptive Statistics)					事前：授業内容の予習 事後：授業内容の復習		講義 + 演習	
3	単回帰分析 (Bivariate Regression)					事前：授業内容の予習 事後：授業内容の復習		講義 + 演習	
4	非線形モデル (Nonlinear Models)					事前：授業内容の予習 事後：授業内容の復習		講義 + 演習	
5	重回帰分析 I (Multiple Regression I)					事前：授業内容の予習 事後：授業内容の復習		講義 + 演習	
6	重回帰分析 II (Multiple Regression II)					事前：授業内容の予習 事後：授業内容の復習		講義 + 演習	
7	モデル選択 (Model Selection)					事前：授業内容の予習 事後：授業内容の復習		講義 + 演習	
8	実証分析概論 I (Introduction to Empirical Analysis I)					事前：期末課題トピック 事後：フィードバックを検討		講義	
9	従属変数が二値しか取らない場合 & ノンパラメトリック回帰分析 (Binary Dependent Variable and Nonparametric Regression)					事前：期末課題 事後：授業内容の復習		講義 + 演習	
10	時系列データ分析 (Time Series Analysis)					事前：期末課題 事後：授業内容の復習		講義 + 演習	
11	パネルデータ分析 (Panel Data Analysis)					事前：期末課題 事後：授業内容の復習		講義 + 演習	
12	実験と擬似実験 (Experiments and Quasi-Experiments)					事前：期末課題 事後：授業内容の復習		講義 + 演習	
13	機械学習 I (Machine Learning I)					事前：期末課題 事後：フィードバックを検討		講義 + 演習	
14	機械学習 II (Machine Learning II)					事前：期末課題 事後：フィードバックを検討		講義 + 演習	
15	おわりに (Wrap Up)					事前：期末課題 事後：なし		講義	
教本： なし			参考文献： なし						
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>小テスト・レポート（100%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>この授業の目的は、統計ソフトを使って、みなさんに実際に統計分析が出来るようになって貰う事です。この目的は、他の授業に比べて少し高い目標かもしれません。その為、教室外での学習が割と必要になるかもしれません。また、この授業では、原則として、高度な数学的知識を前提としませんが、それはあくまで僕が教えられる事が前提ですので、授業にはなるべく出て下さいね。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	データ処理 (Data Processing)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	安村 薫・岸 康人・金 幸郁								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	ノートパソコン (大学推奨スペックのもの) と Microsoft Excel を利用する							
授業概要： ICT技術の基礎となるコンピュータにおけるデータ処理の基本を学習しビジネスや経営において利用するデータ整理技法、データ分析技法について学ぶ。基本的に、毎回の授業の前半において基礎となる概念と技能についての講義を行い、後半においてはそれを利用した演習問題を行う。									
授業目標： データ処理の基礎を身につける。様々なデータ形式、ファイル形式について理解し、WindowsOSの機能、表計算ソフトの機能、および簡単なスクリプト言語などを利用して、それらのデータを自在に変換したり利用したりする能力を身につけ、さらに、ビジネスや経営において利用するデータ整理技法、データ分析技法を理解してに応用できるようにする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス					事前：シラバスの確認 事後：		講義	
2	ノートパソコンとアプリケーションの設定、データの型					事前：ノートPCの準備 事後：授業の作業の確認		講義	
3	2進数、数値、文字列、テキストデータ、バイナリデータ					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
4	Excelにおけるデータ形式とExcel関数によるデータ変換					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
5	Excelによる集計処理、条件付き書式による表示設定					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
6	平均値、標準偏差、偏差値					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
7	Excelによるソート、ランク付け					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
8	ピボットテーブルによるクロス集計					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
9	データ変換のアルゴリズムと組み合わせたExcelの利用					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
10	データ整理技法 (KJ法、デシジョンテーブル、決定木)					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
11	散布図と相関分析、相関係数					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
12	ヒストグラム、パレート図					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
13	管理図、グラフの使い分け、ポートフォリオ図					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
14	PERT図					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
15	まとめ、総合練習問題					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
教本： プリントを配布、WEBの教材を利用など。					参考文献： 授業の進捗に合わせて適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業時の演習問題の一部は、時間内にできなかった場合は、宿題とし、次回の授業前日までにメールで提出する必要がある。提出がない場合は、欠席とみなす。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 と 演 習
授 業 科 目 (英 文)	デ ー タ 処 理 入 門 (Introduction to Data Processing)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 村 康 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	心 理 統 計 法 を 履 修 し て い る こ と							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>心理学研究でよく使用される基礎的な統計分析手法を表計算ソフト (MS Excel) を用いて学ぶ。統計学の理論に関する学習だけでなくサンプルデータなどを用いて実際に分析作業を行う。また、分析結果の意味を正しく理解し、その結果を的確にまとめるトレーニングを行う。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①表計算ソフトを用いて基礎的な統計分析ができるようになる。 ②分析結果の意味を正しくとらえられるようになる。 ③分析結果のまとめ方を習得する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	心 理 学 に お け る 基 礎 統 計					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
2	記 述 統 計 量 (代 表 値 と 散 布 度) の 算 出					事 前 : 心 理 統 計 法 の 復 習 事 後 : 実 習 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
3	図 表 の 作 成					事 前 : 心 理 統 計 法 の 復 習 事 後 : 実 習 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
4	相 関 の 意 味 と 相 関 係 数 の 求 め 方					事 前 : 心 理 統 計 法 の 復 習 事 後 : 実 習 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
5	母 集 団 の 推 測 (統 計 検 定)					事 前 : 心 理 統 計 法 の 復 習 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
6	分 散 の 等 質 性 の 検 定					事 前 : 教 本 の 精 読 事 後 : 実 習 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
7	対 応 の な い 2 つ の 平 均 値 の 差 の 検 定 2					事 前 : 教 本 の 精 読 事 後 : 実 習 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
8	対 応 の あ る 2 つ の 平 均 値 の 差 の 検 定					事 前 : 教 本 の 精 読 事 後 : 実 習 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
9	相 関 の 有 意 性					事 前 : 教 本 の 精 読 事 後 : 実 習 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
10	回 帰 分 析					事 前 : 教 本 の 精 読 事 後 : 実 習 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
11	比 率 の 差 の 検 定					事 前 : 教 本 の 精 読 事 後 : 実 習 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
12	比 率 の 差 の 検 定					事 前 : 教 本 の 精 読 事 後 : 実 習 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
13	3 つ 以 上 の 平 均 値 の 差 の 検 定					事 前 : 教 本 の 精 読 事 後 : 実 習 内 容 の 復 習		講 義 と 演 習	
14	授 業 の ま と め					事 前 : 授 業 全 般 の 復 習 事 後 : 理 解 の 確 認		講 義 と 演 習	
15	理 解 度 の 確 認					事 前 : 授 業 全 般 の 復 習 事 後 : 理 解 の 補 完		講 義 と 演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「よくわかる心理統計」山田剛史・村井潤一郎(著) ミネルヴァ書房 ¥3,024					必要に応じて授業中に指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 で は 表 計 算 ソ フ ト を 使 用 す る。MS Excel の イ ン ス ト ー ル さ れ た パ ソ コ ン を 必 ず 持 参 す る こ と。ま た、心 理 統 計 法 の ノ ー ト や テ キ ス ト を 持 参 す る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	データ分析 (Data Analysis)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安村 薫・岸 康人・金 幸郁								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	ノートパソコン (大学推奨スペックのもの) と Microsoft Excel を利用する							
授業概要： ICT技術の基礎となるコンピュータにおけるデータ処理の基本を学習しビジネスや経営において利用するデータ整理技法、データ分析技法について学ぶ。基本的に、毎回の授業の前半において基礎となる概念と技能についての講義を行い、後半においてはそれを利用した演習問題を行う。									
授業目標： データ処理の基礎を身につける。様々なデータ形式、ファイル形式について理解し、WindowsOSの機能、表計算ソフトの機能、および簡単なスクリプト言語などを利用して、それらのデータを自在に変換したり利用したりする能力を身につけ、さらに、ビジネスや経営において利用するデータ整理技法、データ分析技法を理解してに応用できるようにする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス					事前：シラバスの確認 事後：		講義	
2	ノートパソコンとアプリケーションの設定、データの型					事前：ノートPCの準備 事後：授業の作業の確認		講義	
3	2進数、数値、文字列、テキストデータ、バイナリデータ					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
4	Excelにおけるデータ形式とExcel関数によるデータ変換					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
5	Excelによる集計処理、条件付き書式による表示設定					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
6	平均値、標準偏差、偏差値					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
7	Excelによるソート、ランク付け					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
8	ピボットテーブルによるクロス集計					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
9	データ変換のアルゴリズムと組み合わせたExcelの利用					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
10	データ整理技法 (KJ法、デシジョンテーブル、決定木)					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
11	散布図と相関分析、相関係数					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
12	ヒストグラム、パレート図					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
13	管理図、グラフの使い分け、ポートフォリオ図					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
14	PERT図					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
15	まとめ、総合練習問題					事前：前回までの確認 事後：授業の課題の確認提出		講義	
教本： プリントを配布、WEBの教材を利用など。					参考文献： 授業の進捗に合わせて適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業時の演習問題の一部は、時間内にできなかった場合は、宿題とし、次回の授業前日までにメールで提出する必要がある。提出がない場合は、欠席とみなす。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義																																																																						
授業科目(英文)	デジタルアーカイブ論 (Digital Archive)						科目分類	専門科目																																																																							
担 当 教 員	安村 薫																																																																														
履 修 条 件	前提科目	なし																																																																													
	その他	なし																																																																													
<p>授業概要：</p> <p>社会における情報・メディアの意義を理解した上で、特にMLA（博物館・図書館・文書館）等における情報・メディアの理論の詳細を学ぶ。さらに、博物館等による情報発信の意義と現状での技術を、実際の作業交えて学習する。また、これらの活動に関わる知的財産の意義と重要性について学ぶ。以上を通して、デジタルアーカイブを管理・運用する立場の組織が持つ社会における文化的価値を、情報とメディアの技術を媒介として社会と結びつける方法を学ぶ。</p> <p>授業目標：</p> <p>1. MLA 等における情報の意義と活用方法及び、アーカイブとその葛生の課題等について理解する 2. 博物館等の情報のアーカイブとその活用および、社会に対する情報提供に関する基礎的能力を身につける。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th>事前・事後学習（学習課題）</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス、情報の意義、視聴覚メディアの理論と歴史</td> <td>事前：シラバスの確認 事後：</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>メディアとしての博物館（視聴覚メディアの発展と博物館）</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ICT 社会の中の博物館（情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化）</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>情報教育の意義と重要性</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>博物館活用の情報化（沿革、調査研究活動、展示・教育活動等）</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>資料のドキュメンテーションとデータベース化</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>デジタルアーカイブの現状と課題</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>映像倫理、博物館メディアの役割と学習活用</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>情報管理と情報公開</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>情報機器の活用（情報端末、タブレット、スマートフォン、新たなメディア経験等）</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>インターネットの活用</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>知的財産権（著作権等）</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>個人情報(肖像権等)</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>権利処理の方法</td> <td>事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>事前：これまでの総復習 事後：レポートの作成</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p>教本： 「博物館情報・メディア論」 日本教育メディア学会（ぎょうせい） ￥2,571（税込）</p> <p>参考文献： 必要に応じて関連書籍を提示する。</p> <p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。</p> <p>学生へのアドバイス： 遅刻・欠席をしないこと。15回の授業の毎回毎回を真剣に受講してください。</p> <p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	◎	○		授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	ガイダンス、情報の意義、視聴覚メディアの理論と歴史	事前：シラバスの確認 事後：	講義	2	メディアとしての博物館（視聴覚メディアの発展と博物館）	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	3	ICT 社会の中の博物館（情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化）	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	4	情報教育の意義と重要性	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	5	博物館活用の情報化（沿革、調査研究活動、展示・教育活動等）	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	6	資料のドキュメンテーションとデータベース化	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	7	デジタルアーカイブの現状と課題	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	8	映像倫理、博物館メディアの役割と学習活用	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	9	情報管理と情報公開	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	10	情報機器の活用（情報端末、タブレット、スマートフォン、新たなメディア経験等）	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	11	インターネットの活用	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	12	知的財産権（著作権等）	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	13	個人情報(肖像権等)	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	14	権利処理の方法	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義	15	まとめ	事前：これまでの総復習 事後：レポートの作成	講義
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																													
◎	○																																																																														
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																																												
1	ガイダンス、情報の意義、視聴覚メディアの理論と歴史	事前：シラバスの確認 事後：	講義																																																																												
2	メディアとしての博物館（視聴覚メディアの発展と博物館）	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
3	ICT 社会の中の博物館（情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化）	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
4	情報教育の意義と重要性	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
5	博物館活用の情報化（沿革、調査研究活動、展示・教育活動等）	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
6	資料のドキュメンテーションとデータベース化	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
7	デジタルアーカイブの現状と課題	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
8	映像倫理、博物館メディアの役割と学習活用	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
9	情報管理と情報公開	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
10	情報機器の活用（情報端末、タブレット、スマートフォン、新たなメディア経験等）	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
11	インターネットの活用	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
12	知的財産権（著作権等）	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
13	個人情報(肖像権等)	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
14	権利処理の方法	事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ	講義																																																																												
15	まとめ	事前：これまでの総復習 事後：レポートの作成	講義																																																																												

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	デジタル映像表現 (Digital Image Representation)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	立野 貴之								
履 修 条 件	前 提 科 目	マルチメディア I							
	そ の 他	この授業は、マルチメディア I からさらに発展した広範囲にわたる知識が必要となる。そのため、原則としてマルチメディア I の単位を修得した学生を対象とし、また、マルチメディア I を十分に理解した上 (成績 A 以上) での受講が望ましい。							
<p>授業概要：</p> <p>インターネットでマルチメディア対応の映像を作成するために必要な知識や手順を理解することを目的とする。この講義では、主に動画・音声データの処理やアニメーションの作成に関する内容に焦点を当て、パソコンを利用して、動画処理に必要な知識や技能を身に付ける。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>動画データの知識の講義及び、動画編集・アニメーションの作成データを加工し、インターネット上で利用できるマルチメディアがどういったものかを、講義の中で紹介しそれらを作成する。またアニメーション作成や音声データの加工、さらに、それぞれを組み合わせるために必要な知識と技術を習得する。最終的には、受講生が独自の作品制作をしてインターネット上に公開し、それに関する発表を行う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス/マルチメディアに関して					事前：なし 事後：動画編集を概観		演習	
2	動画編集に関して					事前：ムービーメーカーの準備 事後：ムービーメーカーの操作		演習	
3	アニメーションの復習と動画処理の基本					事前：GIF アニメの復習 事後：GIF アニメ課題完成		演習	
4	動画編集ソフトとファイル形式・スライドの素材収集					事前：ムービーメーカー操作方法 事後：写真素材の収集		演習	
5	動画スライドの作成					事前：写真素材の取り込み 事後：動画スライド完成		演習	
6	素材を利用した動画の編集・ストーリーの作成					事前：素材の確認 事後：動画ストーリー完成		演習	
7	動画編集 (シーンの挿入とタイムライン)					事前：動画編集基本操作確認 事後：操作の復習		演習	
8	動画編集 (文字と特殊効果)、音声の効果的な利用					事前：音声素材の準備 事後：音声利用の操作復習		演習	
9	作成したストーリーに沿った動画作成					事前：作成したストーリーの確認 事後：動画の完成		演習	
10	デジタル機器の利用とデータの取り込み					事前：身近なデジタル機器の確認 事後：グループ決定		演習	
11~14	グループワーク					事前：各グループの活動 事後：各グループの活動		演習	
15	課題発表会					事前：作品の提出 事後：なし		演習	
教本： ガイダンスで指示する。					参考文献： 講義中に指示する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点 (30%)、提出課題 (30%)、最終課題 (40%) の評価から判断する。 平常点：授業課題、授業への参加度 提出課題：講義中の課題、最終作品 (個人とグループ)、レポートなど</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>コンピュータ演習が中心となるため、欠席をすると授業についていけなくなる可能性があります。やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、または、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにしてください。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。また、授業のグループワークでは、欠席などでグループのメンバーに迷惑をかけないよう努力してください。定員を超えた場合は、初回の授業に抽選を行いますので、初回の授業は必ず出席してください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	デジタルプレゼンテーション実践 (Digital Presentation)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	立 野 貴 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	コ ン ピ ュ ー タ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン							
	そ の 他	こ の 授 業 は、コ ン ピ ュ ー タ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン か ら さ ら に 発 展 し た 広 範 囲 に わ た る 知 識 が 必 要 と な る。そ の た め、原 則 と し て コ ン ピ ュ ー タ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン の 単 位 を 修 得 し た 学 生 を 対 象 と し、ま た、そ れ を 十 分 に 理 解 し た 上 (成 績 A 以 上) で の 受 講 が 望 ま し い。							
授 業 概 要： ビ ジ ネ ス シ ー ン を 想 定 し た プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン の 目 的 を 理 解 し、M i c r o s o f t P o w e r P o i n t に 関 す る 実 践 的 技 能 を 駆 使 し て 効 果 的 な プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン を 作 成 す る 能 力 を 身 に 付 け る。P o w e r P o i n t プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 技 能 認 定 試 験 (上 級) の 合 格 を 目 標 と す る。									
授 業 目 標： ビ ジ ネ ス の 場 で 必 要 と さ れ る、一 連 の 成 果 物 を 作 る 実 務 能 力 を 身 に 付 け る た め の 講 義 を 行 う。社 会 に お い て 必 要 と さ れ る の は、単 純 に 操 作 を 知 っ て い る、と い う だ け で な く、P o w e r P o i n t を 使 い こ な し て 効 率 よ く、効 果 的 に 品 質 の 高 い 成 果 物 を 作 成 で き る、と い う こ と で あ る。授 業 で の 実 技 を 通 し て、「知 っ て い る」の で は な く、「使 い こ な せ る」能 力 を 身 に 付 け る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス／PowerPointの基礎知識確認テスト					事前：PowerPointの基礎知識 事後：基礎知識・技能の確認		演習	
2・3	プレゼンテーションの作成 プレゼンテーションの構成とデザイン					事前：スライド操作の基本 事後：確認課題		演習	
4	文字編集と図形の利用 ビジュアル表現 (画像・表グラフ) の活用					事前：グラフの作成方法 事後：確認課題		演習	
5	プレゼン実践 (1)					事前：プレゼン準備 事後：フィードバックの確認		演習	
6	アニメーション効果 スライドショーの実行					事前：ビジュアル表現方法 事後：確認課題		演習	
7	表示形式・資料の作成と印刷 テーマのカスタマイズ					事前：配布資料の作成手法 事後：確認課題		演習	
8	SmartArtの活用グラフの加工					事前：グラフの特徴 事後：確認課題		演習	
9	プレゼン実践 (2)					事前：プレゼン準備 事後：確認課題		演習	
10	スライドの動作設定					事前：リハーサル機能 事後：確認課題		演習	
11	確認テスト					事前：確認テスト準備 事後：フィードバックの確認		演習	
12	プレゼン実践 (3)					事前：プレゼン準備 事後：フィードバックの確認		演習	
13~15	総合問題 1 - 3					事前：復習問題 事後：最終課題 1 - 3 完成		演習	
教本： ガイダンスで指示する。					参考文献： 講義中に指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 検定試験合格 (60%)、課題 (40%) の評価から判断する。課題：プレゼン実践・確認課題									
学生へのアドバイス： 検定試験に合格することが単位修得の最低限の条件となります。また、コンピュータ演習とその実践が中心となるため、欠席をすると授業についていけなくなる可能性があります。やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、または、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにしてください。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。定員が超えた場合は、初回の授業に抽選を行いますので、初回の授業は必ず出席してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	哲 学 (Philosophy)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	高 村 夏 輝								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : ど の よ う な も の が 存 在 す る の か 、 ど ん な 知 識 を 私 ち ら は 持 っ て い る の か 。 こ う し た 問 題 に 関 す る 基 本 的 な 議 論 を 紹 介 す る 。									
授 業 目 標 : 存 在 や 認 識 な ど 、 西 洋 近 代 哲 学 で 問 題 に さ れ て き た 事 柄 に つ い て 、 代 表 的 な 議 論 や 立 場 を 理 解 す る こ と 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス：哲学とはどのような学問か					事前：なし 事後：講義ノートによる復習		講義	
2	知覚の問題：直接知覚説と相反する現れ					事前：第一章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
3	知覚の問題：間接知覚説と因果説					事前：第一章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
4	知覚の問題：懐疑論とデカルト哲学					事前：第二章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
5	知覚の問題：物質が存在するとする理由					事前：第二章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
6	知覚の問題：一次性質と二次性質、ロックの哲学					事前：第三章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
7	知覚の問題：関係の知識					事前：第三章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
8	知覚の問題：観念論、パークリの哲学					事前：第四章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
9	知覚の問題：最終的な解決					事前：第四章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
10	一般的知識の問題：帰納法は正当か					事前：第六章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
11	一般的知識の問題：アプリアリナ知識とは					事前：第七章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
12	一般的知識の問題：カントの哲学					事前：第八章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
13	一般的知識の問題：カント批判					事前：第八章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
14	一般的知識の問題：普遍とは何か、プラトンの哲学					事前：第九章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：講義ノートによる復習		講義	
教 本 : バートランド・ラッセル著、高村夏輝訳 『哲学入門』 ちくま学芸文庫					参 考 文 献 : とくになし				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%) 、 定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : テ キ ス ト は 必 ず 入 手 し 、 予 習 と し て 一 読 し て み て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	哲 学 I (Philosophy I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	高 村 夏 輝								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : ど の よ う な も の が 存 在 す る の か 、 ど ん な 知 識 を 私 ち ら は 持 っ て い る の か 。 こ う し た 問 題 に 関 す る 基 本 的 な 議 論 を 紹 介 す る 。									
授 業 目 標 : 存 在 や 認 識 な ど 、 西 洋 近 代 哲 学 で 問 題 に さ れ て き た 事 柄 に つ い て 、 代 表 的 な 議 論 や 立 場 を 理 解 す る こ と 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス：哲学とはどのような学問か					事前：なし 事後：講義ノートによる復習		講義	
2	知覚の問題：直接知覚説と相反する現れ					事前：第一章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
3	知覚の問題：間接知覚説と因果説					事前：第一章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
4	知覚の問題：懐疑論とデカルト哲学					事前：第二章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
5	知覚の問題：物質が存在するとする理由					事前：第二章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
6	知覚の問題：一次性質と二次性質、ロックの哲学					事前：第三章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
7	知覚の問題：関係の知識					事前：第三章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
8	知覚の問題：観念論、パークリの哲学					事前：第四章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
9	知覚の問題：最終的な解決					事前：第四章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
10	一般的知識の問題：帰納法は正当か					事前：第六章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
11	一般的知識の問題：アプリアリナ知識とは					事前：第七章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
12	一般的知識の問題：カントの哲学					事前：第八章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
13	一般的知識の問題：カント批判					事前：第八章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
14	一般的知識の問題：普遍とは何か、プラトンの哲学					事前：第九章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：講義ノートによる復習		講義	
教 本 : バートランド・ラッセル著、高村夏輝訳 『哲学入門』 ちくま学芸文庫					参 考 文 献 : とくになし				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、 定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : テ キ ス ト は 必 ず 入 手 し 、 予 習 と し て 一 読 し て み て ぐ だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	哲学Ⅱ (Philosophy Ⅱ)						科目分類	基礎科目	
担当教員	高村 夏輝								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 心にかかわる代表的な哲学的問題を紹介する。									
授業目標： 夢、記憶、推論などの心的現象に関する哲学的理解をえること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	夢まぼろし					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
2	確率と人生					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
3	記憶について					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
4	真実の百面相					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
5	音がする					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
6	見る一考える					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
7	ロボットが人間になるとき					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
8	同じもの、同じこと					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
9	身振り、声振り					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
10	逆さめがねと股のぞき					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
11	古くて新しい生理学					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
12	時を刻み切り取る					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
13	心の中					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
14	幻滅論法					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
15	復習とテスト対策					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
教本： なし					参考文献： 大森荘蔵「流れとよどみ」産業図書、¥1,800				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義中は積極的に議論に参加してください。受け身にならないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	哲学A (Philosophy A)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	高村 夏輝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： どのようなものが存在するのか、どんな知識を私たちは持っているのか。こうした問題に関する基本的な議論を紹介する。									
授業目標： 存在や認識など、西洋近代哲学で問題にされてきた事柄について、代表的な議論や立場を理解すること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：哲学とはどのような学問か					事前：なし 事後：講義ノートによる復習		講義	
2	知覚の問題：直接知覚説と相反する現れ					事前：第一章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
3	知覚の問題：間接知覚説と因果説					事前：第一章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
4	知覚の問題：懐疑論とデカルト哲学					事前：第二章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
5	知覚の問題：物質が存在するとする理由					事前：第二章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
6	知覚の問題：一次性質と二次性質、ロックの哲学					事前：第三章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
7	知覚の問題：関係の知識					事前：第三章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
8	知覚の問題：観念論、パークリの哲学					事前：第四章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
9	知覚の問題：最終的な解決					事前：第四章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
10	一般的知識の問題：帰納法は正当か					事前：第六章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
11	一般的知識の問題：アプリアリナ知識とは					事前：第七章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
12	一般的知識の問題：カントの哲学					事前：第八章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
13	一般的知識の問題：カント批判					事前：第八章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
14	一般的知識の問題：普遍とは何か、プラトンの哲学					事前：第九章を読む 事後：講義ノートによる復習		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：講義ノートによる復習		講義	
教本： バートランド・ラッセル著、高村夏輝訳 『哲学入門』 ちくま学芸文庫					参考文献： とくになし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： テキストは必ず入手し、予習として一読してみてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	哲学B (Philosophy B)						科目分類	基礎科目	
担当教員	高村 夏輝								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 心にかかわる代表的な哲学的問題を紹介する。									
授業目標： 夢、記憶、推論などの心的現象に関する哲学的理解をえること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	夢まぼろし					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
2	確率と人生					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
3	記憶について					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
4	真実の百面相					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
5	音がする					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
6	見る一考える					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
7	ロボットが人間になるとき					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
8	同じもの、同じこと					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
9	身振り、声振り					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
10	逆さめがねと股のぞき					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
11	古くて新しい生理学					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
12	時を刻み切り取る					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
13	心の中					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
14	幻滅論法					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
15	復習とテスト対策					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
教本：					参考文献： 大森荘蔵「流れとよどみ」産業図書、¥1,800				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義中は積極的に議論に参加してください。受け身にならないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	デュアルキャリアマネジメント (Dual Career Management)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野々村 新								
履 修 条 件	前提科目	心理学Ⅰ・Ⅱ							
	その他	なし							
授業概要： 本授業においては、生涯キャリア発達の視点から、前半ではキャリアおよびキャリア発達に関して理解し、後半では、個別ワークも行いながら学生諸君のキャリアデザインについて学ぶ。									
授業目標： 1. キャリアおよびキャリア発達について理解する。 2. キャリアデザインの意義とその方法を理解し、自己のキャリア形成の基本的枠組みを習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業内容、形式等の説明）					事前：なし 事後：なし		講義	
2	キャリアの概念とキャリア観の変化					事前：なし 事後：講義内容の整理		講義	
3	キャリア発達とキャリア発達課題					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義	
4	キャリア発達とキャリア教育(1) 自己分析、進路情報、啓発的経験					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義	
5	キャリア発達とキャリア教育(2) キャリアカウンセリング、追指導等					事前：4回のまとめ 事後：講義内容の整理		講義	
6	成人のキャリア形成					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義	
7	社会に出るための準備					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義	
8	学生時代にすべきこと					事前：7回のまとめ 事後：講義内容の整理		講義・演習	
9	キャリアをデザインする 一職業理解と自己分析の必要性					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義	
10	職業と働き方についての理解					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義	
11	自己分析(1) 知能、適性 創造性の理解					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義・演習	
12	自己分析(2) 興味、価値観の理解					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義・演習	
13	自己分析(3) 性格の理解					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義・演習	
14	心理検査(適性検査)の実施					事前：11～13回のまとめ 事後：自己分析のまとめ		演習	
15	まとめ					事前：全体の整理 事後：全体のまとめ		講義・演習	
教本： なし。					参考文献： 適時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自分自身の社会人になるための準備、将来の生き方という重要なテーマに意欲的に取り組んでほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	デリバティブ論 (Derivative)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 猛 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	金融・経済の主要科目を履修しているか、履修すること。							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>デリバティブ論 I では、先物とスワップを中心に考察を加える。先物では、その目的と同時に先渡取引にも触れ、演算の解説も含めて、理解を深める。一方、スワップについては、金利スワップおよび通貨スワップを中心にその経済的効果とコストについて分析し、その仕組みの特色を明らかにする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>デリバティブの基本概念と発生の歴史的背景（アメリカ、オランダなどの歴史）を踏まえ、その発生の意義と特性について考察する。次に、デリバティブの目的物分類のうち、主要タイプの先物、スワップおよびオプションに関するそれぞれの仕組みおよび機能を探求する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	デリバティブ市場の発展と仕組み（先物、スワップ、オプション）					事前：なし 事後：なし		講義	
2	デリバティブ市場の発展と仕組み（欧米市場、歴史的背景）					事前：なし 事後：なし		講義	
3	デリバティブの機能（リスク・ヘッジ、スペキュレーション）					事前：なし 事後：なし		講義	
4	デリバティブの機能（アービトラージ、レバレッジ）					事前：なし 事後：なし		講義	
5	デリバティブの種類と特徴					事前：なし 事後：なし		講義	
6	デリバティブ取引のリスク管理					事前：なし 事後：なし		講義	
7	先物取引の仕組み					事前：なし 事後：なし		講義	
8	先物取引の特徴					事前：なし 事後：なし		講義	
9	先物の理論価格					事前：なし 事後：なし		講義	
10	スワップの仕組み、機能					事前：なし 事後：なし		講義	
11	スワップの価格					事前：なし 事後：なし		講義	
12	スワップ取引の分類（金利、通貨、エクイティ）					事前：なし 事後：なし		講義	
13	金利スワップの価格					事前：なし 事後：なし		講義	
14	通貨スワップ、エクイティスワップ					事前：なし 事後：なし		講義	
15	スワップの仕組み商品					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>開講時に指示する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（30%）、小テスト・定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>金融商品の仕組みを学びます。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	テレビ制作論 (Cultural analysis of TV programs)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	堀 口 悟 士								
履 修 条 件	前 提 科 目	特になし。							
	そ の 他	テレビ (ビデオ) の番組を注意深くみてください。							
<p>授業概要：</p> <p>黒板もテキストも使いません。実際にプロ仕様のカメラを回し、プロの編集機を操作します。予備知識は、ありません。まず実技から入り、慣れてきたところでドラマやドキュメンタリーの撮り方、つまり「映像的なもの」の本質に迫ります。映像のリテラシーですね。とくに資格や条件はありません。生まれた時から映像に囲まれて育った諸君なら、資格はじゃうぶんです。</p> <p>授業目標：</p> <p>習熟度によって、学生一人一人に応じた目標を定めます。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態		
1	撮影 (1) 基本的な撮影をするときの“基本動作”を学びます。				事前：ありません。 事後：メモを参考に必ず復習		カメラを持って外に出てとにかく撮ってみよう。		
2	編集 (1) 編集機を操作。前回撮影した素材を編集してみます。				事前：ありません。 事後：メモを参考に必ず復習		プロ仕様の編集台の前に座って実際に操作します。		
3	撮影 (2) 前回の反省に鑑み、改めて同じテーマで再撮影。				事前：ありません。 事後：		同じテーマで、もう一度撮り直してもます。		
4	編集 (2) 前回の撮影分の編集				事前：ありません。 事後：		プロ仕様の編集台の前に座って実際に操作します。		
5	撮影 (3) 人物を撮る				事前：ありません。 事後：		カメラを操作して、与えられた課題の撮影に挑戦。		
6	撮影 (4) 風景を撮る				事前：ありません。 事後：		カメラを操作して、与えられた課題の撮影に挑戦。		
7	作品研究				事前：ありません。 事後：		編集機を用いて、プロの作品を分析してみます。		
8	作品研究 映像のウソを見抜く				事前：ありません。 事後：		編集機を用いて、プロの作品を分析してみます。		
9	作品研究 演出と“ヤラセ”の違い				事前：ありません。 事後：		編集機を用いて、プロの作品を分析してみます。		
10	作品研究 「構成」の立て方				事前：ありません。 事後：		編集機を用いて、プロの作品を分析してみます。		
11	作品制作 I				事前：各自にまかせます。 事後：各自にまかせます。		撮影及び編集		
12	作品制作 II				事前：各自にまかせます。 事後：各自にまかせます。		撮影及び編集		
13	作品制作 III				事前：各自にまかせます。 事後：各自にまかせます。		撮影及び編集		
14	作品制作 IV				事前：各自にまかせます。 事後：各自にまかせます。		撮影及び編集		
15	発表				事前： 事後：		各自の作品鑑賞と討論		
<p>教本：</p> <p>テレビの番組を教材として用います。</p>					<p>参考文献：</p> <p>諸君の習熟度にあわせ、適宜指定します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等 (50%)、あとは実技および「作品」の構成力で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>NHKのディレクターとして36年と少々過ぎました。だから、実的な教え方には自信があります。楽しいこと、いっぱいありますよ。うけ合います。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。が、いつも編集室に居ますので、のぞいてみてください。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	伝統文化 (Traditional Culture)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>日本社会の構造や社会の中で発生する文化的要素について様々なアプローチから考察する。日本社会の機構や社会の中で起こる諸現象と生活や行動の中から生まれ、受け継がれてきた現象を民俗学の見地から考察する。古くから伝承された民間の信仰や習俗を通して日本人の生活について明らかにしていく。世代を超えて伝承されて来た習らわし、言い伝えの意味を考え、日本人の心を探る。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 日本人の生活と文化を学ぶ。 2. 日本人の伝統的なしきたり、習慣、口碑などについて学ぶ。 3. 先祖から永く培われてきた伝統文化を学習する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 民俗と民俗学 民俗の意味を知り、また民俗学という学問の成り立ちを考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	民俗学の祖 日本民俗学を確立した人物、柳田国男と折口信夫。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	民俗学の研究法、重出立証法や比較研究法を紹介し、民俗地図の活用の仕方を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	神とカミ 日本固有の神観念の成立について論じ、人と神の関係を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	民俗・風俗・宗教 これらを理解する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	アニミズム・祖先崇拜・トーテミズム 人間と霊魂との関係を理解する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	ケとハレとケガレ ケとケガレとハレの三元循環とアラシ（異常）について学習する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	禁忌（タブー） 古語の忌（イミ）について学習する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	人生儀礼 人の誕生から葬送までを概観する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	衣・食・住 変遷過程と、地域身分や職業による違いを学習する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	新年の行事から師走の大晦日の主要な行事を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	神話・伝説・昔話 小さい頃からなじんできた伝承文芸を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	海の民俗伝承 海洋民としての民俗を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	山の民俗伝承 川の民俗伝承。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
<p>教本：プリントを使用。</p> <p>参考文献：</p> <p>1. 『日本の原点』石上七鞘著、マイナビ新書 2. 石上七鞘著『日本の民俗伝承』蒼洋社、石上七鞘著 3. 『十二支の民俗伝承』（おうふう）石上七鞘著 4. 『化粧の民俗』（おうふう） 5. 『日本風俗史事典』（弘文堂） 6. 『日本民俗大辞典』（吉川弘文館） 7. 『日本民俗語大事典』（おうふう）</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート（50%）、試験（50%）等で評価する。出席は毎回とり、欠席が授業時数の3分の1を超えた場合は失格とする。遅刻は欠席とみなす。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。</p>									
<p>オフィスアワー： 水曜日昼休み。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	ドイツ語 I (German I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	関口 宏道								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： コミュニケーションは会話のみならず、相手を理解し、自らを理解して貰うための努力の上に成立するものである。そのため、まず相手に理解して貰えるように、出来るだけ正確な発音を徹底的に繰り返し練習する。その上で相手との簡単な挨拶、簡単な表現を学び、反復することでコミュニケーション能力を高める。またドイツ語の構造がどのようになっているかを理解するようにする。ドイツ語自体への関心（言葉の起源や由来、社会の中での意味など）を深め、さらに言語を通してドイツ社会、ドイツ語圏の世界の理解を深める。									
授業目標： 1. 言語運用能力が習得できる。 2. 初級文法前半の知識が習得できる。 3. 日常生活を簡単なドイツ語で表現できる。 4. ドイツ語技能検定5級合格を目指すことができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	アルファベートの発音練習と文字の練習 (1)				事前：なし 事後：発音と文字の練習			講義と演習	
2	アルファベートの発音練習と文字の練習 (2)				事前：なし 事後：聞き取り練習			講義と演習	
3	規則変化動詞の現在人称変化の練習自己紹介をする				事前：なし 事後：規則変化動詞の人称変化の練習			講義と演習	
4	現在人称変化の練習と重要な動詞について趣味を言う				事前：なし 事後：不規則変化動詞の練習、読解			講義と演習	
5	名詞の性と定冠詞の格変化 性質の描写				事前：なし 事後：定冠詞の格変化の練習			講義と演習	
6	定冠詞と不定冠詞の格変化 (1)				事前：なし 事後：格変化の練習			講義と演習	
7	定冠詞と不定冠詞の格変化 (2) 持ち物を言う 中間テスト				事前：なし 事後：定冠詞、不定冠詞の格変化の復習、読解			講義と演習	
8	不規則変化動詞の人称変化 (1) 名詞の複数形				事前：なし 事後：規則変化動詞と不規則変化動詞の人称変化の練習			講義と演習	
9	規則変化動詞と不規則変化動詞の人称変化の練習				事前：なし 事後：不規則変化動詞の人称変化の練習、聞き取り練習、読解			講義と演習	
10	前置詞 (1)				事前：なし 事後：前置詞の練習			講義と演習	
11	前置詞 (2) 曜日ごとの予定を言う				事前：なし 事後：前置詞の復習、読解			講義と演習	
12	副文章				事前：なし 事後：副文章、読解			講義と演習	
13	人称代名詞				事前：なし 事後：人称代名詞 読解			講義と演習	
14	人称代名詞と再帰代名詞時間の言い方				事前：なし 事後：再帰代名詞の練習			講義と演習	
15	冠詞類年齢、家族の職業を言う				事前：なし 事後：冠詞類の練習			講義と演習	
教本： 1. 『ドイツ語の時間（話すための文法）』朝日出版 2012年（¥2,200+税）					参考文献： 辞書を含めて授業中に随時紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 中間テスト（40%）、期末テスト（60%）で評価する。									
学生へのアドバイス： たえず声を出し、音声を聞いて復習すること、語学はとくに反復、継続が大切です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	ドイツ語Ⅱ (German II)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	関口 宏道									
履 修 条 件	前提科目	ドイツ語Ⅰの履修が望ましい。								
	その他	なし								
授業概要： 簡単な言葉で自分と他者、自らの日常生活を紹介出来るようにする。相手のやさしいドイツ語を聞き取り、これに応答出来るようにする。基本的なドイツ語の構造を理解することにより、読解力を養う。現代ドイツの政治、社会、経済、文化、音楽、芸術、観光、あるいはスポーツ（サッカー、テニスなど）など、そしてEUの中のドイツの存在、ドイツの抱える諸問題について知り、日本との比較をする。										
授業目標： 1. ドイツ語で「話す、聞く」ということの基本がわかる。 2. 初級文法後半の基礎知識が理解できる。 3. 日常生活を簡単なドイツ語で表現できる。 4. ドイツ語技能検定4級合格を目指すことができる。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	発音練習、動詞現在人称変化の復習 規則変化動詞と不規則変化動詞 haben, sein					事前：なし 事後：発音練習、動詞現在形の人称変化の練習			講義と演習	
2	冠詞（定冠詞、不定冠詞） 冠詞類の復習					事前：なし 事後：課題による格変化の練習			講義と演習	
3	前置詞の復習					事前：なし 事後：課題による前置詞の練習			講義と演習	
4	不定詞の用法と分離動詞（1）					事前：なし 事後：課題による分離動詞の練習			講義と演習	
5	分離動詞（2）					事前：なし 事後：分離動詞の練習、読解			講義と演習	
6	話法の助動詞 用事や希望を言う 中間テスト					事前：なし 事後：作文と読解			講義と演習	
7	過去形					事前：なし 事後：過去形の人称変化の練習			講義と演習	
8	現在完了形（1） （haben, sein）					事前：なし 事後：現在完了形の二つの形態に慣れる練習			講義と演習	
9	現在完了形（2） 昨日したことを言う					事前：なし 事後：現在完了形の練習、読解			講義と演習	
10	受動態					事前：なし 事後：受動態の練習			講義と演習	
11	形容詞の格変化、比較級と最上級 好みを言う					事前：なし 事後：形容詞の格変化の練習、読解			講義と演習	
12	関係代名詞（1）					事前：なし 事後：関係代名詞の練習			講義と演習	
13	関係代名詞（2）、命令法部屋にあるものを言う					事前：なし 事後：関係代名詞が使われた文章の読解			講義と演習	
14	接続法（1） 間接話法					事前：なし 事後：間接話法の練習			講義と演習	
15	接続法（2） 非現実話法仮定の話をする					事前：なし 事後：接続法の復習			講義と演習	
教本： 1. 『ドイツ語の時間（話すための文法）』朝日出版 2012年（¥2,200+税）					参考文献： 辞書を含めて授業中に随時紹介する。					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 中間テスト（40%）、期末テスト（60%）で評価する。										
学生へのアドバイス： たえず声を出し、音声を聞いて復習すること、語学はとくに反復、継続が大切です。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	登 記 法 I (Registration Act I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	加 藤 俊 明								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>住宅の取得を中心に、身近な不動産取引の問題を考え、不動産取引の安全がどのように確保されているかを理解する。 なお、不動産上の権利を持つ者が会社だった場合も併せて検討する。 この理解を通じて法的ものの考え方を指導する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>不動産登記制度によって不動産取引の安全がいかに確保されているかをやさしく理解することを目標にする。 併せて、会社の登記の概要を知る。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	不動産って何？ 法律の世界における不動産を理解する。					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
2	土地の内容を知るにはどうしたらよいのか。					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
3	土地の所有関係を知るにはどうしたらよいのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
4	土地所有権を制限する権利関係を知るにはどうしたらよいのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
5	建物の内容を知るにはどうしたらよいのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
6	建物の権利関係を知るにはどうしたらよいのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
7	会社の概要を知るにはどうしたら良いのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
8	会社が意思を決定するには、どの様な手続きを履む必要があるのだろうか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
9	どうやって目の前の人を建物所有者と判断し、判定できるのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
10	住宅ローンを組んで中古マンションを購入するにはどうしたらよいのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
11	建物所有者が結婚して住所や名前が変わったらどうしたらよいのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
12	建物所有者が住宅ローンを返し終わったらどうしたらよいのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
13	建物所有者が住宅ローンを返済できなくなったらどうになってしまうのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
14	住宅の所有者に相続が発生したらどうしたらよいのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
15	住宅を相続した相続人間で話がまとまらなかったらどうになってしまうのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
教 本 :									
事前配布のレジュメ。					参 考 文 献 :				
					田中稔著「やさしい法律シリーズ不動産登記法の解説」 ネットスクール出版 ¥900				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (30%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
事前配布のレジュメを、授業の予習用として、また、復習用として活用してください。 不明な点は授業で解消するよう努力してください。授業には、なるべく六法全書を持参してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	登記法Ⅱ (Registration Act Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	加藤 俊明								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>不動産登記制度の基本原則を学び、実務上代表的な所有権等の変動の場合の申請方法を学ぶことにより、不動産取引の安全がいかに確保されているかを理解する。なお、不動産上の権利を持つ者が会社だった場合も併せて検討する。 この理解を通じて法的ものの考え方を指導する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>不動産登記制度によって不動産取引の安全がいかに確保されているかを法制度上から理解することを目標にする。 併せて、会社の登記の概要を知る。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	不動産登記制度の意義 この制度の目的や内容はどのようなものか。					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
2	民法との関係 不動産登記制度と民法との関係はどのようなものか。					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
3	登記事項 不動産の何を公表したら不動産取引が安全になるのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
4	共同申請主義 正しい登記情報を得るには、その登記申請をどうすべきか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
5	添付書面 正しい登記申請がなされるためには、どうすればよいか。					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
6	本人確認・意思確認 登記の申請人から替え玉を排除するには、どうしたらよいか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
7	表示登記 不動産の現状を公開する登記はどのように申請するのか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
8	所有権保存登記 不動産について初めて所有者になった時の申請はどうする？					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
9	所有権移転登記 不動産の所有権を取得したら、どのような申請をするか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
10	相続登記 人が死亡し、その相続人は、どのような申請ができるか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
11	抵当権の登記 不動産を担保にお金を貸したら、どのような申請ができるか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
12	登記名義人表示変更更正登記 所有者の住所が変わったらどのような申請をしたらよいか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
13	会社設立登記 会社を作るには、どのような手続きが必要か					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
14	会社の代表者等の役員変更登記 会社の社長が変わったら、どのような申請をしたらよいか					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
15	インターネット申請 厚木にいながら北海道の登記申請をする方法は？					事前：配布レジュメ 事後：配布レジュメ		講義	
<p>教本：事前配布のレジュメ。</p> <p>参考文献：田中稔著「やさしい法律シリーズ不動産登記法の解説」 ネットスクール出版 ￥900</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 事前配布のレジュメを、授業の予習用として、また、復習用として活用してください。 不明な点は授業で解消するよう努力してください。授業には、なるべく六法全書を持参してください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	統 計 学 (Introduction to Statistics)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	岡 猛 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 統計学を初めて学ぶ人のための科目で、さまざまなデータを入手することが、大変容易になっている現在、それらデータの持つ意味を考え、解き明かすのに有用な統計手法について、勉強する。									
授 業 目 標 : われわれの身の回りで接する統計データの見方や、それらがどんな意味を持つのかを考える姿勢を身につける。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	記述統計と推測統計					事前：なし 事後：なし		講義	
3・4	分散と標準偏差					事前：なし 事後：なし		講義	
5	リスク指標としての標準偏差					事前：なし 事後：なし		講義	
6・7	正規分布について					事前：なし 事後：なし		講義	
8・9	仮説検定					事前：なし 事後：なし		講義	
10・11	区間検定					事前：なし 事後：なし		講義	
12	回帰分析について					事前：なし 事後：なし		講義	
13	単回帰分析					事前：なし 事後：なし		講義	
14	重回帰分析					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 : レジュメを授業中配布します。									
参 考 文 献 : 追って、連絡する。									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授業内容への参加状況等 (30%)、小テスト (35%)、定期試験 (35%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : いろいろ発表される統計データについて、自分なりに考えてみてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	読書と豊かな人間性 (Reading and Rich Humanity)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： (1) 発達段階に応じた読書教育の理念と学校図書館のあり方、司書教諭の役割を理解する。(2) 「読書会」、「ブックトーク」や学習指導等との関わりを重点的に演習する。									
授業目標： 1. 豊かな人間性を育む読書活動の意義と目的から、読書活動を推進する学校図書館あり方を考察し、司書教諭の役割を理解する。 2. 「読書会」、「読み聞かせ」、「ブックトーク」等の企画・実践を具体的に演習することで読書指導の内容と方法を学ぶ。 3. 家庭、地域、公共図書館との連携の在り方を学ぶ									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	人間教育としての読書の意義と目的 (オリエンテーション)					事前：なし 事後：資料を読む		講義	
2	学校図書館の機能と生涯読書					事前：なし 事後：資料を読む		演習 + 講義	
3	絵本との出会い「ブックスタート運動」(読書能力の発達と読書)					事前：なし 事後：資料を読む		講義	
4	発達段階と読書の興味 (読書指導と計画)					事前：なし 事後：資料を読む		講義	
5	読書環境づくり (朝読書、読書週間等の読書の時間確保、読書の習慣化、動機付け)					事前：なし 事後：資料を読む		講義	
6	図書資料の選定 (多様化する読書材、ヤングアダルト、漫画、雑誌を含む)					事前：なし 事後：小テスト		講義	
7	教科指導から発展読書へ					事前：なし 事後：なし		演習 + 講義	
8	「読書会」の実際					事前：作品を読む 事後：なし		演習 + 講義	
9	「読み聞かせ」の意義と技法					事前：なし 事後：なし		演習 + 講義	
10	「読み聞かせ」の演習					事前：練習してくる 事後：なし		演習	
11	「ブックトーク」を構成する (発達段階と興味の拡大)					事前：なし 事後：構成を考えておく		演習 + 講義	
12	「ブックトーク」の題材選び (図書資料の選定)					事前：なし 事後：選書		演習 + 講義	
13	「ブックトーク」の演習					事前：なし 事後：小テスト		演習 + 講義	
14	家庭読書の推進と公共図書館との連携 {厚木中央図書館実習}					事前：なし 事後：感想文を書く		演習 + 講義	
15	読書と人間教育の観点から司書教諭の役割と課題					事前：なし 事後：レポート提出		講義	
教本： 教室で紹介します。					参考文献： 教室で指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (40%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 司書教諭希望者は必修の授業です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	特別支援教育論 (Special Needs Education)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	赫多 久美子								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 特別支援教育の歴史、関係法令及び様々な障害に応じた教育の基本について学ぶ。									
授業目標： この科目は、子どもの人権に配慮し、人権教育を実践できる人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、障害者権利条約について					事前： 事後：講義の復習		講義・グループ ディスカッション	
2	特別支援教育の歴史、インクルーシブ教育システムの構築について					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・グループ ディスカッション	
3	特別支援教育関係法令、特別支援教育の諸現場と合理的配慮について					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・グループ ディスカッション	
4	視覚障害児の理解と教育					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・ レポート発表	
5	聴覚障害児の理解と教育					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・ レポート発表	
6	知的障害児の理解と教育					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・ レポート発表	
7	肢体不自由児の理解と教育					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・ レポート発表	
8	病弱・身体虚弱児の理解と教育					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・ レポート発表	
9	重複障害、重度重複障がい児の理解と教育					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・ レポート発表	
10	言語障害児の理解と教育					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・ レポート発表	
11	情緒障害児の理解と教育					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・ レポート発表	
12	発達障害児の理解と教育 (1) 自閉症スペクトラム					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・ レポート発表	
13	発達障害児の理解と教育 (2) 学習障害、注意欠陥/多動性障害					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・ レポート発表	
14	障害児の家族支援、諸機関との連携					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義・グループ ディスカッション	
15	まとめ					事前：指定課題 事後：講義の復習		講義	
教本： 特に指定しない。					参考文献： 特別支援教育の基礎基本 新訂版 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 ジアース教育新社				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 障害児や特別支援教育に関する記事や報道等に関心を持ち、それらを身近な問題として考えて欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	5日間40時間以上	授業形態	実習
授業科目(英文)	特別実習 I (Social Action Project through Service-Learning I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：学外の国公立・民間研究所・団体などにおいて、特定の実習テーマについて実習を行い、レポートを提出する。</p> <p>① インターンシップ-就業体験のために、学生が企業や県の研究機関などにおいて一定期間の実習を行う。</p> <p>② 起業実習-現場での体験を通して、それまでに講義で身に付けたことを実践・検証する。就職活動における自分の適正について考え、同時に企業研究・業界研究を行なう機会となる。</p> <p>③ ボランティア-ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。</p> <p>④ 被災地支援ボランティア</p> <p>⑤ 短期海外留学（留学を除く）</p>									
<p>授業目標：</p> <p>地域社会に出ていき、地域や組織の人たちと一緒に、インターンシップ・ボランティア活動等を体験することを通して、大学での学習の意味や将来の進路について考えるきっかけを作ることを目標とする。インターンシップに取り組んだり、地域社会でボランティア活動を体験することを通して、人材に求められる課題発見解決力やチームワーク力を養成することを目指す。</p> <p>感じる力、生きる力、考える力、コミュニケーション力、マナーや常識について学び、行動力、責任感そして使命感を身に付ける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1						事前： 事後：		講義	
2						事前： 事後：		講義	
3						事前： 事後：		講義	
4						事前： 事後：		講義	
5						事前： 事後：		講義	
6						事前： 事後：		講義	
7						事前： 事後：		講義	
8						事前： 事後：		講義	
9						事前： 事後：		講義	
10						事前： 事後：		講義	
11						事前： 事後：		講義	
12						事前： 事後：		講義	
13						事前： 事後：		講義	
14						事前： 事後：		講義	
15						事前： 事後：		講義	
教本： なし					参考文献： 適宜指示する				
成績評価の方法、評価基準： 評価の配分基準：実習（90％）レポート（10％）									
学生へのアドバイス： 特別実習に関心をもち、実際に行動に移して誠意をもって活動または貢献を行う学生のみが履修すること。									
オフィスアワー：									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	5日間40時間以上	授業形態	実習
授業科目(英文)	特別実習Ⅱ (Social Action Project through Service-Learning Ⅱ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	特別実習A							
	その他	なし							
<p>授業概要：学外の国公立・民間研究所・団体などにおいて、特定の実習テーマについて実習を行い、レポートを提出する。</p> <p>① インターンシップ-就業体験のために、学生が企業や県の研究機関などにおいて一定期間の実習を行う。</p> <p>② 起業実習-現場での体験を通して、それまでに講義で身に付けたことを実践・検証する。就職活動における自分の適正について考え、同時に企業研究・業界研究を行なう機会となる。</p> <p>③ ボランティア-ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。</p> <p>④ 被災地支援ボランティア</p> <p>⑤ 短期海外留学（留学を除く）</p>									
<p>授業目標：</p> <p>地域社会に出ていき、地域や組織の人たちと一緒に、インターンシップ・ボランティア活動等を体験することを通して、大学での学習の意味や将来の進路について考えるきっかけを作ることを目標とする。インターンシップに取り組んだり、地域社会でボランティア活動を体験することを通して、人材に求められる課題発見解決力やチームワーク力を養成することを目指す。</p> <p>感じる力、生きる力、考える力、コミュニケーション力、マナーや常識について学び、行動力、責任感そして使命感を身に付ける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1						事前： 事後：		講義	
2						事前： 事後：		講義	
3						事前： 事後：		講義	
4						事前： 事後：		講義	
5						事前： 事後：		講義	
6						事前： 事後：		講義	
7						事前： 事後：		講義	
8						事前： 事後：		講義	
9						事前： 事後：		講義	
10						事前： 事後：		講義	
11						事前： 事後：		講義	
12						事前： 事後：		講義	
13						事前： 事後：		講義	
14						事前： 事後：		講義	
15						事前： 事後：		講義	
教本： なし					参考文献： 適宜指示する				
成績評価の方法、評価基準： 評価の配分基準：実習（90％）レポート（10％）									
学生へのアドバイス： 特別実習に関心をもち、実際に行動に移して誠意をもって活動または貢献を行う学生のみが履修すること。									
オフィスアワー：									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本芸能論A (Japanese traditional performing art A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： <ul style="list-style-type: none"> 朗読の基礎を演習で学ぶ。 演劇教育の竹内敏晴、平田オリザの演技論を基にワークショップをおこなう。 世阿弥の「風姿花伝」をテキストとして、演劇論を理解する。 									
授業目標： <ul style="list-style-type: none"> 身体表現の力を身につける。 多様な日本の芸能文化に学ぶ。 世阿弥の「風姿花伝」を演劇論として学ぶ 									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（この講座で学ぶこと）					事前：なし 事後：次回テキスト予習		講義	
2	朗読の基礎（ポーズとプロミネンス）					事前：なし 事後：次回テキスト予習		講義＋演習	
3	草野心平の詩を朗読する					事前：なし 事後：次回テキスト予習		演習	
4	昔話を朗読する					事前：なし 事後：次回テキスト予習		演習	
5	物売りの声					事前：なし 事後：次回テキスト予習		演習	
6	演技論・教育論としての「風姿花伝」Ⅰ					事前：なし 事後：次回テキスト予習		講義	
7	演技論・教育論としての「風姿花伝」Ⅱ					事前：なし 事後：次回テキスト予習		講義	
8	演技論・教育論としての「風姿花伝」Ⅲ					事前：なし 事後：次回テキスト予習		講義	
9	演技論・教育論としての「風姿花伝」Ⅳ					事前：なし 事後：次回テキスト予習		講義	
10	演技論・教育論としての「風姿花伝」Ⅴ					事前：なし 事後：次回テキスト予習		講義	
11	演劇ワークショップⅠ					事前：予習 事後：復習		演習	
12	演劇ワークショップⅡ					事前：予習 事後：復習		演習	
13	演劇ワークショップⅢ					事前：予習 事後：復習		演習	
14	ワークショップ発表会					事前：なし 事後：なし		演習	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 世阿弥「風姿花伝」					参考文献： 教室で配布します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 演習の姿勢（50%）、レポート（30%）、技術の習得（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 身体的に解放された自分になりましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本芸能論B (Japanese traditional performing art B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要：									
<ul style="list-style-type: none"> 相模人形芝居長谷座の公演に参加し、「三番叟」などを通して、地域の芸能文化の継承を体験する 厚木市の伝統芸能と現代のジャズとの新統合芸能祭（ez）の企画に参加する（人形遣い、裏方、会場係など） 									
授業目標：									
<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統的芸能を愉しむ。 長谷座の公演に参加し、体験を通して伝承を推進することに貢献する 									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	長谷座との顔合わせ					事前：なし 事後：なし		講義	
2	三番叟の練習 1					事前：なし 事後：復習		演習	
3	三番叟の練習 2					事前：なし 事後：復習		演習	
4	三番叟の練習 3					事前：なし 事後：復習		演習	
5	三番叟の練習 4					事前：なし 事後：復習		演習	
6	三番叟の練習 5（前日準備＋リハーサル）					事前：なし 事後：復習		演習	
7	松蔭祭公演					事前：なし 事後：復習		演習	
8	新統合芸能祭の練習 1					事前：なし 事後：復習		演習	
9	新統合芸能祭の練習 2					事前：なし 事後：復習		演習	
10	新統合芸能祭の練習 3					事前：なし 事後：復習		演習	
11	新統合芸能祭公演					事前：なし 事後：復習		演習	
12	人形浄瑠璃の演技を学ぶ 1（八百屋お七）					事前：なし 事後：復習		演習	
13	人形浄瑠璃の演技を学ぶ 2（八百屋お七）					事前：なし 事後：復習		演習	
14	人形浄瑠璃の演技を学ぶ 3（八百屋お七）					事前：なし 事後：復習		演習	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 教室で配布します。					参考文献： 教室で配布します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 演習の姿勢（50%）、レポート（20%）、技術の習得（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 地域の伝統芸能を愉しみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本語 I (Japanese I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子、澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： <ul style="list-style-type: none"> 大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の練習をする。 受講生の日本語力に応じて、どのような練習に比重を置くかを定める。 									
授業目標： <ol style="list-style-type: none"> 大学の講義が理解できる。 メールや作文が書ける。 友達と自然な会話ができる。 									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 聞く・話す (1)					事前：学びたいことを考える 事後：授業の復習		演習	
2	読む・書く (1)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
3	聞く・話す (2)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
4	読む・書く (2)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
5	聞く・話す (3)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
6	読む・書く (3)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
7	聞く・話す (4)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
8	読む・書く (4)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
9	聞く・話す (5)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
10	読む・書く (5)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
11	聞く・話す (6)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
12	読む・書く (6)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
13	聞く・話す (7)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
14	読む・書く (7)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
15	総復習（復習事項を指示）					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：学期末試験の準備		演習	
教本：「聞く」「話す」「読む」「書く」のテキストは授業で伝える。 参考文献：『語彙マップで覚える漢字と語彙 中級』Jリサーチ出版 『スピードマスター語彙』Jリサーチ出版 『スピードマスター読解』Jリサーチ出版 『日本語読解ワークブック』アルク 『完全マスター文法』スリーエーネットワークなど									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業活動状況（授業内のワーク、発言、意欲等）(30%)、提出物・小クイズ (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 語学は、積み重ねが大切です。総合的な日本語力を身につけるために、毎日自宅学習する習慣をつけましょう。授業欠席も厳禁です。日本語能力試験合格も目指して、指導します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本語Ⅱ (Japanese II)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子、澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	日本語Ⅰまたは日本語コミュニケーションⅠ							
	その他	留学生							
授業概要： <ul style="list-style-type: none"> 大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の練習をする。 受講生の日本語力に応じて、どのような練習に比重を置くかを定める。 									
授業目標： 1. 新聞を読んで理解できる。 2. レポートが書ける。 3. 自然な敬語を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 聞く・話す (1)					事前：学びたいことを考える 事後：授業の復習		演習	
2	読む・書く (1)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
3	聞く・話す (2)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
4	読む・書く (2)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
5	聞く・話す (3)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
6	読む・書く (3)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
7	聞く・話す (4)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
8	読む・書く (4)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
9	聞く・話す (5)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
10	読む・書く (5)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
11	聞く・話す (6)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
12	読む・書く (6)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
13	聞く・話す (7)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
14	読む・書く (7)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
15	総復習（復習事項を指示）					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：学期末試験の準備		演習	
教本： 「聞く」「話す」「読む」「書く」のテキストは授業で伝える。					参考文献： 『語彙マップで覚える漢字と語彙』 Jリサーチ出版 『スピードマスター語彙』 Jリサーチ出版 『日本語読解ワークブック』 アルク 『完全マスター文法』 スリーエーネットワークなど				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業活動状況（授業内のワーク、発言、意欲等）(30%)、提出物・小クイズ (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 語学は、積み重ねが大切です。総合的な日本語力を身につけるために、毎日自宅学習する習慣をつけましょう。授業欠席も厳禁です。日本語能力試験合格も目指して、指導します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	日本語Ⅲ (Japanese III)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	松浦 恵津子、澤田 帆奈美									
履 修 条 件	前提科目	日本語基礎Ⅰまたは日本語コミュニケーションⅠ・Ⅱ								
	その他	前提科目が履修済み、またはN3以上の留学生								
授業概要： 大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に伸ばすために、聴解・読解・作文・会話など、さまざまな練習をする。受講生の状況や希望に応じて、どのような練習に比重を置くかを定める。小テストを数回行う。										
授業目標： 1. 専門科目の教科書・参考書を読んで理解できる。 2. ニュースを聞いて、内容を伝えることができる。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション					事前：学びたいことを考える 事後：学習環境の整備		演習		
2	読解 (1)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習		
3	文法・語彙 (1)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		演習		
4	聴解 (1)・口語表現 (1)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習		
5	文章表現 (1)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		演習		
6	読解 (2)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習		
7	文法・語彙 (2)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		演習		
8	聴解 (2)・口語表現 (2)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習		
9	文章表現 (2)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		演習		
10	読解 (3)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習		
11	文法・語彙 (3)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		演習		
12	聴解 (3)・口語表現 (3)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習		
13	文章表現 (3)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		演習		
14	総復習 1					事前：発表準備 事後：フィードバックの確認		演習		
15	総復習 2					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：試験の準備		演習		
教本： 授業内で指示する。また、プリントも配付する。					参考文献： グループジャマシイ『日本語文型辞典』くろしお出版 ￥3,564					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業活動状況（授業内のワーク、発言、意欲等）(30%)、提出物・小クイズ (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 中級レベルの日本語力を身につけます。1レベル上の日本語能力試験合格も目指します。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本語Ⅳ (JapaneseⅣ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子、澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	日本語Ⅲまたは日本語基礎Ⅰまたは日本語コミュニケーションⅠ～Ⅲ							
	その他	前提科目が履修済み、またはN2以上の留学生							
授業概要： 大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に伸ばすために、聴解・読解・作文・会話など、さまざまな練習をする。受講生の状況や希望に応じて、どのような練習に比重を置くかを定める。小テストを数回行う。									
授業目標： 1. 幅広い分野の文章を読んで理解できる。 2. フォーマルな日本語でディスカッションができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：学びたいことを考える 事後：学習環境の整備		演習	
2	読解 (1)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習	
3	文法・語彙 (1)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		演習	
4	聴解 (1)・口語表現 (1)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習	
5	文章表現 (1)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		演習	
6	読解 (2)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習	
7	文法・語彙 (2)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		演習	
8	聴解 (2)・口語表現 (2)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習	
9	文章表現 (2)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		演習	
10	読解 (3)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習	
11	文法・語彙 (3)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		演習	
12	聴解 (3)・口語表現 (3)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習	
13	文章表現 (3)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		演習	
14	総復習 1					事前：発表準備 事後：フィードバックの確認		演習	
15	総復習 2					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：試験の準備		演習	
教本： 授業内で指示する。また、プリントも配付する。					参考文献： グループジャマシイ『日本語文型辞典』くろしお出版 ￥3,564				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 中～上級レベルの日本語力を身につけます。1レベル上の日本語能力試験合格も目指します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本語演習A (Japanese Practice A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 日本語の文字（平仮名・カタカナ）の成立過程を理解し、日常生活において正しく活用する意識を高める。外来語や慣用句などの語句についても、進んで調べ、豊かな日本語表現を身に付ける。授業は、情報交換で語彙を増やしながら、その意味を理解していく。後半に自分のテーマでレポートを作成し互いに読み合う。									
授業目標： 1. 日本語の文字について歴史や字形を理解するとともに、正しく書ける（毛筆）ようにする。 2. 故事成語やことわざを理解して、自分の「座右の銘」を持つ。 3. 個人のテーマでレポートを書き、日本語の豊かさを深く知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（豊かな日本語表現を学ぼう）					事前： 事後：ノートを読み返す		講義	
2	平仮名の誕生					事前：平仮名について調べる 事後：ノートを読み返す		講義・演習	
3	平仮名の表現					事前：用具を準備する 事後：復習シートをする		演習	
4	平仮名の表現（いろはにほへと）					事前：資料を読む 事後：ノートを整理する		演習	
5	カタカナの誕生					事前：カタカナを調べる 事後：ノートを読み返す		演習	
6	外来語(1) 明治時代、福沢諭吉					事前：カタカナ表記を集める 事後：ノートを整理する		講義・演習	
7	外来語(2) 外国語の音から日本語へ					事前：外来語について調べる 事後：ノートを読み返す		演習	
8	外来語(3) 増え続ける外来語					事前：新聞を読む 事後：ノートを読み返す		演習	
9	ことわざ・四字熟語・慣用句					事前：違いを調べる 事後：復習シートをする		講義・演習	
10	故事成語					事前：故事成語を集める 事後：ノートを整理する		演習	
11	座右の銘					事前：用具を準備する 事後：レポート案を考える		演習	
12	レポート作成（テーマを決める）					事前：テーマ案を考える 事後：下調べをする		演習	
13	レポート作成					事前：構想案を考える 事後：必要な情報を集める		講義	
14	レポート作成					事前：情報を選択する 事後：執筆を進める		演習	
15	レポート作成（批評会または製本）					事前：執筆を進める 事後：資料整理をする		演習	
教本： 必要に応じて資料配付。					参考文献： 適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 生活の中で目にしたり、耳にしたり、もちろん考えるときにも自然に使ったりしている日本語を、改めて考えてみよう。先人や現在の人間や社会まで見えて来るだろう。楽しい演習時間にしよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本語演習B (Japanese Practice B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 日本語の特色ある言葉や優れた作品を理解し、声に出して表現することで、日本語の語感やリズムを味わう。また、体得した日本語で作品を創り、日本人としての感性を磨いていく。									
授業目標： 1. 朗読や群読で日本語の響きを感じたり、リズムカルな作品を創ったりする 2. オノマトベに見る日本語の表現の豊かさを知る 3. グループで作品の内容を読み取り、工夫した表現で発表する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（豊かな日本語表現を学ぼう）					事前： 事後：好きな詩を選ぶ		講義	
2	声に出して読む(1) 朗読					事前：好きな詩を選ぶ 事後：朗読練習		演習	
3	声に出して読む(2) 朗読					事前：朗読練習 事後：朗読練習		演習	
4	声に出して読む(3) 群読					事前：群読プラン 事後：朗読練習		演習	
5	声に出して読む(3) 群読					事前：朗読練習 事後：ふりかえりシート		演習	
6	オノマトベ（擬音語）					事前：オノマトベ調べ 事後：ノート整理		講義・演習	
7	オノマトベ（擬態語）					事前：オノマトベ調べ 事後：ノート整理		演習	
8	オノマトベ（作品作り）					事前：ノート整理 事後：音読練習		演習	
9	作品発表会					事前：音読練習 事後：ふりかえりシート		演習	
10	声に出して読む名作(1) 内容理解					事前：資料を読む 事後：ノート整理		講義・演習	
11	声に出して読む名作(1) 朗読					事前：音読練習 事後：ノート整理		演習	
12	声に出して読む名作(2) 内容理解					事前：資料を読む 事後：ノート整理		講義・演習	
13	声に出して読む名作(2) 朗読					事前：音読練習 事後：ノート整理		講義	
14	作品作り（かるた、俳句、短歌）					事前：作品の構想 事後：作品作り		演習	
15	作品作り（かるた、俳句、短歌）					事前：作品作り 事後：作品提出		演習	
教本： 必要に応じて資料配付。					参考文献： 適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 声に出して日本語や優れた文章を読んで、そのリズムや、言葉の表現を味わってみよう。一人で読んだり大勢で読んだりすると心に何か残るだろう。体感する授業を目指します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本語概論 (Introduction to Japanese Linguistics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 日本語の使用例をもとに、日本語の音声・音韻、語彙、文法、文字・表記などについて考察する。また、日常・個別の言語事象を全体の体系と関係づけて考え、日本語に対する関心を深める。									
授業目標： 1. 日本語がもつ規則性・体系性に気づく。 2. 日本語を構造的に理解・把握する。 3. 言語としての日本語に対する関心を深める。 4. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 世界の中の日本語					事前：世界の言語を調べる 事後：言語の系統を確認		講義	
2	音声・音韻1（調音、子音の分類、母音の分類）					事前：言語音について調べる 事後：子音・母音の整理		講義	
3	音声・音韻2（音声学と音韻論、日本語の音素、拍の体系）					事前：音韻論について調べる 事後：音韻の整理		講義	
4	音声・音韻3（超音節素－アクセント、イントネーション、プロミネンス）					事前：超音節素について予習 事後：超音節素の特徴を復習		講義	
5	語彙1（意味の体系、語種）					事前：語種について調べる 事後：プリント問題		講義	
6	語彙2（語構成）					事前：語構成について調べる 事後：プリント問題		講義	
7	文法1（単語と文、文の組み立て）					事前：プリントを読んてくる 事後：プリント問題		講義	
8	文法2（単語の形〈形態論〉）					事前：プリント活用表の完成 事後：語形変化の確認		講義	
9	文法3（文の構造〈統語論〉）					事前：プリントを読んてくる 事後：モダリティの確認		講義	
10	文字・表記1（文字の役割、漢字・かな・ローマ字）					事前：文字について調べる 事後：文字のなりたちの復習		講義	
11	文字・表記2（かなづかい、送りがな、記号類）					事前：プリントを読んてくる 事後：かなづかいの確認		講義	
12	社会言語学1（位相論、職業差・世代差・性差・場面差と言葉）					事前：言葉遣いを振り返る 事後：位相語を確認する		講義	
13	社会言語学2（方言）					事前：日本語の方言を調べる 事後：プリントでの復習		講義	
14	待遇表現（待遇表現の種類・敬語）					事前：待遇表現を調べる 事後：待遇表現の整理		講義	
15	まとめ 日本語を構造的にみる					事前：言語の構造を考える 事後：試験に備える		講義	
教本： 沖森卓也他『図解日本語』三省堂 ￥2,160 その他、資料と書き込み用プリントを配付する。					参考文献： 日野資成『ベーシック現代の日本語学』ひつじ書房 ￥1,836				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（35%）、定期試験（45%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自分自身が使っている日本語を考察の対象とする授業です。多くの新しい発見があるでしょう。日本語に対する知的興味・おもしろさを感じることができると思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	日本語基礎 I (Basic Japanese I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子、澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： <ul style="list-style-type: none"> • 大学での勉強・生活に必要な日本語力を総合的に身につけるために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の練習をする。 • 受講生の日本語力に応じて、どのような練習に比重を置くかを定める。 									
授業目標： (前期) <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の講義が理解できる。 2. メールや作文が書ける。 3. 友達と自然な会話ができる。 (後期) <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞を読んで理解できる。 2. レポートが書ける。 3. 自然な敬語を身につける。 									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	前期オリエンテーション 聞く・話す (1)					事前：学びたいことを考える 事後：授業の復習		演習	
2	読む・書く (1)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
3	聞く・話す (2)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
4	読む・書く (2)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
5	聞く・話す (3)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
6	読む・書く (3)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
7	聞く・話す (4)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
8	読む・書く (4)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
9	聞く・話す (5)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
10	読む・書く (5)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
11	聞く・話す (6)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
12	読む・書く (6)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
13	聞く・話す (7)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
14	読む・書く (7)					事前：単語のチェック 事後：授業の復習		演習	
15	総復習 (復習事項を指示)					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：学期末試験の準備		演習	

16	後期オリエンテーション 聞く・話す (1)	事前：学びたいことを考える 事後：授業の復習	演習
17	読む・書く (1)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
18	聞く・話す (2)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
19	読む・書く (2)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
20	聞く・話す (3)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
21	読む・書く (3)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
22	聞く・話す (4)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
23	読む・書く (4)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
24	聞く・話す (5)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
25	読む・書く (5)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
26	聞く・話す (6)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
27	読む・書く (6)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
28	聞く・話す (7)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
29	読む・書く (7)	事前：単語のチェック 事後：授業の復習	演習
30	総復習 (復習事項を指示)	事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：学期末試験の準備	演習
<p>教本： 「聞く」「話す」「読む」「書く」のテキストは授業で伝える。</p>		<p>参考文献： 『語彙マップで覚える漢字と語彙』 Jリサーチ出版 『スピードマスター語彙』 Jリサーチ出版 『スピードマスター読解』 Jリサーチ出版 『日本語読解ワークブック』 アルク 『完全マスター文法』 スリーエーネットワークなど</p>	
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業活動状況 (授業内のワーク、発言、意欲等) (30%)、提出物・小クイズ (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。</p>			
<p>学生へのアドバイス： 語学は、積み重ねが大切です。総合的な日本語力を身につけるために、毎日自宅学習する習慣をつけましょう。授業欠席も厳禁です。日本語能力試験合格も目指して、指導します。</p>			
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>			

開 講 年 次	1 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本語基礎Ⅱ (Basic Japanese Ⅱ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子、澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	日本語基礎Ⅰ							
	その他	前提科目が履修済み、またはN2以上の留学生							
<p>授業概要：</p> <p>大学での勉学・生活に必要な日本語力を総合的に伸ばすために、聴解・読解・作文・会話など、さまざまな練習をする。受講生の状況や希望に応じて、どのような練習に比重を置くかを定める。小テストを数回行う。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>(前期)</p> <p>1. 専門科目の教科書・参考書を読んで理解できる。</p> <p>2. ニュースを聞いて、内容を伝えることができる。</p> <p>(後期)</p> <p>1. 幅広い分野の文章を読んで理解できる。</p> <p>2. フォーマルな日本語でディスカッションができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：学びたいことを考える 事後：学習環境の整備		演習	
2	読解 (1)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習	
3	文法・語彙 (1)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		演習	
4	聴解 (1)・口語表現 (1)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習	
5	文章表現 (1)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		演習	
6	読解 (2)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習	
7	文法・語彙 (2)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		演習	
8	聴解 (2)・口語表現 (2)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習	
9	文章表現 (2)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		演習	
10	読解 (3)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習	
11	文法・語彙 (3)					事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題		演習	
12	聴解 (3)・口語表現 (3)					事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題		演習	
13	文章表現 (3)					事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック		演習	
14	総復習 1					事前：発表準備 事後：フィードバックの確認		演習	
15	総復習 2					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：試験の準備		演習	

16	オリエンテーション	事前：学びたいことを考える 事後：学習環境の整備	演習
17	読解 (1)	事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題	演習
18	文法・語彙 (1)	事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題	演習
19	聴解(1)・口語表現 (1)	事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題	演習
20	文章表現 (1)	事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック	演習
21	読解 (2)	事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題	演習
22	文法・語彙 (2)	事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題	演習
23	聴解 (2)・口語表現 (2)	事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題	演習
24	文章表現 (2)	事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック	演習
25	読解 (3)	事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題	演習
26	文法・語彙 (3)	事前：問題を解いてくる 事後：復習・宿題	演習
27	聴解 (3)・口語表現 (3)	事前：語彙の意味を調べる 事後：復習・宿題	演習
28	文章表現 (3)	事前：アウトラインの作成 事後：自己チェック	演習
29	総復習 1	事前：発表準備 事後：フィードバックの確認	演習
30	総復習 2	事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：試験の準備	演習
教本： 授業内で指示する。また、プリントも配付する。		参考文献： グループジャマシイ『日本語文型辞典』くろしお出版 ￥3,564	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業活動状況（授業内のワーク、発言、意欲等）（30%）、提出物・小クイズ（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 中～上級レベルの日本語力を身につけます。1レベル上の日本語能力試験合格も目指します。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本語教育実習指導 (Seminar on Practice Teaching of Japanese)						科目分類	日本語教員科目	
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	日本語教授法、日本語教育方法論Ⅰ・Ⅱ							
	その他	なし							
授業概要： 「日本語教育方法論Ⅱ」の次の段階という位置づけで、初級後半の模擬授業を行って、効果的な教授活動が実践できるようにする。「教育実習」へ向けて、具体的で実践的な指導方法を学び、初級の授業を行うことができる力をつける。									
授業目標： 1. 1つの学習項目について、導入・ドリル練習・コミュニケーションのためのアクティビティという流れを効果的に組み立て、教案を書くことができる。 2. 現場の授業に近い形で、教授活動を行うことができる。 3. 問題を予見し、あるいは問題に直面したときに、自ら解決することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（この授業で学ぶこと、担当決め） 初級後半の学習項目1					事前：方法論Ⅰ・Ⅱの復習 事後：ノート・資料の整理と復習		講義	
2	初級後半の学習項目2					事前：基本文型の分析 事後：ノート・資料の整理と復習		講義・演習	
3	初級後半の学習項目3					事前：基本文型の分析 事後：ノート・資料の整理と復習		講義・演習	
4	模擬授業1のための学習項目の分析					事前：学習項目の分析 事後：学習項目の分析の修正		演習	
5	初級後半の学習項目4					事前：基本文型の分析 事後：ノート・資料の整理と復習		講義・演習	
6	教案検討会1					事前：教案作成 事後：教案修正		演習	
7	さまざまな初級教材①					事前：教材比較 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
8	模擬授業1					事前：模擬授業準備 事後：振り返りレポート作成		演習	
9	さまざまな初級教材②					事前：教材比較 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
10	模擬授業2のための学習項目の分析					事前：学習項目の分析 事後：学習項目の分析の修正		演習	
11	中級や上級の教材①					事前：教材比較 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
12	教案検討会2					事前：教案作成 事後：教案修正		演習	
13	中級や上級の教材②					事前：教材比較 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
14	模擬授業2					事前：模擬授業準備 事後：振り返りレポート作成		演習	
15	全体のまとめ					事前：なし 事後：実習準備		演習	
教本： 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 本冊』（2013）スリーエーネットワーク ￥2,700					参考文献： プリントを配付する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（25%）、学習項目の一覧・教案の提出と発表（25%）、模擬授業と自己評価表の提出（25%）、討論参加度とフィードバック表の提出等（25%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： できるだけ多く教壇に立つ練習をして、少しずつ教えることに慣れましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 教 育 方 法 論 I (Methodology of Teaching Japanese as a Second Language I)							科 目 分 類	日 本 語 教 員 科 目
担 当 教 員	澤 田 帆 奈 美								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 語 教 授 法							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
日 本 語 教 員 養 成 課 程 に 登 録 し た 学 生 向 け の 授 業 で あり、「日 本 語 教 授 法」を 履 修 済 み で あり 事 を 前 提 と す る。初 級 の 教 え 方 を 中 心 に、学 習 項 目 や 活 動 の さ せ 方、教 具 ・ 教 材 に つ い て 検 討 し て い く。									
授 業 目 標 :									
日 本 語 を 外 国 語 と し て 教 え る 方 法 を 学 ぶ。具 体 的 に は、 1. 初 級 前 期 の 学 習 項 目 の 分 析 が で き る 2. 実 際 に 使 え る 教 案 を 書 く こ と が で き る 3. 模 擬 的 に 教 授 活 動 を 行 う こ と が で き る よ う に な る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン (こ の 授 業 で 学 ぶ こ と、担 当 決 め) 学 習 項 目 の 一 覧					事 前 : 教 科 書 の 購 入 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
2	初 級 の 学 習 項 目 1 『み ん な の 日 本 語 初 級 I 第 2 版 本 冊』 1 ~ 3 課 (名 詞 述 語 文 ①)					事 前 : 1 ・ 2 課 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
3	初 級 の 学 習 項 目 2 『み ん な の 日 本 語 初 級 I 第 2 版 本 冊』 1 ~ 3 課 (名 詞 述 語 文 ②)					事 前 : 3 課 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
4	初 級 の 学 習 項 目 3 『み ん な の 日 本 語 初 級 I 第 2 版 本 冊』 4 ・ 5 課 (動 詞 述 語 文 ①)					事 前 : 4 ・ 5 課 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
5	学 習 項 目 の 分 析 1 つ の 授 業 の 流 れ 教 案 の 書 き 方					事 前 : 担 当 課 の 学 習 項 目 の 一 覧 表 事 後 : 教 案 の 作 成		講 義	
6	初 級 の 学 習 項 目 4 『み ん な の 日 本 語 初 級 I 第 2 版 本 冊』 6 ・ 7 課 (動 詞 述 語 文 2)					事 前 : 6 ・ 7 課 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
7	初 級 の 学 習 項 目 5 『み ん な の 日 本 語 初 級 I 第 2 版 本 冊』 8 ・ 9 課 (形 容 詞 述 語 文)					事 前 : 8 ・ 9 課 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
8	教 案 検 討 会					事 前 : 教 案 発 表 の 準 備 事 後 : 教 案 の 修 正 ・ 模 擬 授 業 準 備		演 習	
9	初 級 の 学 習 項 目 6 『み ん な の 日 本 語 初 級 I 第 2 版 本 冊』 10 ・ 11 課 (存 在 文)					事 前 : 10 ・ 11 課 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
10	初 級 の 学 習 項 目 7 『み ん な の 日 本 語 初 級 I 第 2 版 本 冊』 12 ・ 13 課 (過 去 を 表 す 文 ・ 感 情 形 容 詞)					事 前 : 12 ・ 13 課 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
11	初 級 の 学 習 項 目 8 『み ん な の 日 本 語 初 級 I 第 2 版 本 冊』 14 課 (動 作 の 継 続、依 頼)					事 前 : 14 課 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
12	初 級 の 学 習 項 目 9 『み ん な の 日 本 語 初 級 I 第 2 版 本 冊』 15 ・ 16 課 (許 可 を 表 す 文 ・ テ 形 接 続)					事 前 : 15 ・ 16 課 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
13	模 擬 授 業 ①					事 前 : 模 擬 授 業 の リ ハ ー サ ル 事 後 : 振 り 返 り レ ポ ー ト の 作 成		演 習	
14	模 擬 授 業 ②					事 前 : 模 擬 授 業 の リ ハ ー サ ル 事 後 : 振 り 返 り レ ポ ー ト の 作 成		演 習	
15	教 具 ・ 教 材 研 究 (初 級 1) - 初 級 メ イ ン 教 材 ・ 副 教 材 ・ 活 動 集 - 全 体 の ま と め					事 前 : 16 課 ま で の 学 習 項 目 確 認 事 後 : 初 級 の 教 え 方 の 確 認		講 義 ・ 演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『み ん な の 日 本 語 初 級 I 第 2 版 本 冊』 (2012) ス リ ー エ ー ネ ッ ト ワ ー ク ¥ 2,700					1. 『み ん な の 日 本 語 初 級 I 教 え 方 の 手 引 き』 (2000) ス リ ー エ ー ネ ッ ト ワ ー ク ¥ 3,024 2. 寺 田 和 子 他 『「ど う や っ て 教 え る ?」 に お 答 え し ま す 日 本 語 の 教 え 方 A B C』 (1998) ア ル ク ¥ 2,052				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (25%)、学 習 項 目 の 一 覧 ・ 教 案 の 提 出 と 発 表 (25%)、模 擬 授 業 と 自 己 評 価 表 の 提 出 (25%)、討 論 参 加 度 と フ ィ ー ド バ ッ ク 票 の 提 出 等 (25%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 日 本 語 を 使 っ て 日 本 語 を 教 え る 基 本 的 な 技 術 を 学 び ま す。学 生 の み な さ ん の 参 加 に よ り、活 気 有 る 授 業 に し た い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語教育方法論Ⅱ (Methodology of Teaching Japanese as a Second Language Ⅱ)							科目分類	日本語教員科目
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語教授法、日本語教育方法論Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 日本語を外国語として教える具体的な方法を学ぶ。「日本語教育方法論Ⅰ」の次の段階という位置づけで、より多くの教室活動を知り、初級中期の模擬授業を行って教えることに慣れる。									
授業目標： 日本語を外国語として教える方法を学ぶ。具体的には、 1. 初級中期の学習項目の分析ができる 2. 効果的な活動を取り入れた教案を書くことができる 3. 模擬的な教授活動をスムーズに行うことができる ようになることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 1～16課の復習					事前：方法論Ⅰの復習 事後：ノート・資料の整理と復習		講義	
2	初級の学習項目10 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 17・18課（義務・可能を表す文）					事前：17・18課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義	
3	初級の学習項目11 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 19・20課（タ形・普通形）					事前：19・20課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義	
4	教案検討会1					事前：教案発表の準備 事後：教案の修正・模擬授業準備		演習	
5	初級の学習項目12 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 21課（普通形を使う文型1）					事前：21課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義	
6	模擬授業1					事前：模擬授業のリハーサル 事後：振り返りレポートの作成		演習	
7	初級の学習項目13 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 22課（普通形を使う文型）					事前：22課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義	
8	初級の学習項目14 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 23課（複文1）					事前：23課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義	
9	教案検討会2					事前：教案発表の準備 事後：教案の修正・模擬授業準備		演習	
10	初級の学習項目15 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 24課（恩恵の授受）					事前：24課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義	
11	模擬授業2					事前：模擬授業のリハーサル 事後：振り返りレポートの作成		演習	
12	初級の学習項目16 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』 25課（複文2）					事前：25課の熟読 事後：ノート・資料の整理と復習		講義	
13	教案検討会3					事前：教案発表の準備 事後：教案の修正・模擬授業準備		演習	
14	初級前期～中期のまとめ					事前：課題プリント 事後：復習		講義・演習	
15	模擬授業3					事前：模擬授業のリハーサル 事後：振り返りレポートの作成		演習	
教本：『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 本冊』（2012）スリーエーネットワーク ￥2,700 参考文献：『みんなの日本語初級Ⅰ 教え方の手引き』（2000）スリーエーネットワーク ￥3,024 寺田和子他『「どうやって教える？」にお答えします 日本語の教え方ABC』（1998）アルク ￥2,052									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（25%）、学習項目の一覧・教案の提出と発表（25%）、模擬授業と自己評価表の提出（25%）、討論参加度とフィードバック表の提出等（25%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日本語教員の資格を得るためには、構造シラバス（文型積み上げ式）に基づく授業に、コミュニケーションな活動を取り入れた授業が行えることが必須です。模擬授業を行って、初級中期までの授業なら行えるという自信をつけましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 教 授 法 (Japanese-Language Pedagogy)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	澤 田 帆 奈 美								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : グローバル化の進展により人やモノの移動が盛んになる中で、どのような人たちがどのような日本語を必要としているのか。また、日本語でのコミュニケーション実現のために、外国語としての日本語をどのように伝えていったらいいのか。このようなことを学ぶ。									
授 業 目 標 : 1. 日本語を外国語として教える「日本語教育」に関して、基本的な知識を身につける。 2. 日本語教育についていくつかの側面から考えることができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	イ ン ト ロ ダ ク シ ョ ン 日 本 語 教 育 の 現 状 (1) 海 外 編					事 前 : シ ラ バ ス を 読 ん で く る 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
2	日 本 語 教 育 の 現 状 (2) 国 内 編					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
3	日 本 語 教 育 の 歴 史					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
4	日 本 語 教 育 に お け る 異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (1) 文 化 空 間					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
5	日 本 語 教 育 に お け る 異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (2) 教 室 内 で の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
6	外 国 語 教 授 法 (1) 文 法 に 重 点 を お い た 教 授 法					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
7	外 国 語 教 授 法 (2) コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン に 重 点 を お い た 教 授 法					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
8	外 国 語 教 授 法 (3) 心 理 学 や 認 知 学 習 理 論 に 基 づ い た 教 授 法					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
9	コ ー ス デ ザ イ ン と シ ラ バ ス					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
10	日 本 語 の 指 導 法 (1) レ ベ ル 別 <初 級>					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
11	日 本 語 の 指 導 法 (2) レ ベ ル 別 <中 上 級>					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
12	日 本 語 の 指 導 法 (3) 技 能 別、対 象 者 別					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
13	評 価 法					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
14	第 二 言 語 習 得 論					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
15	教 師 の 役 割 全 体 の ま と め					事 前 : 質 問 ・ 確 認 事 項 の 洗 い 出 し 事 後 : レ ポ ー ト の 作 成		講 義	
教 本 : プ リ ン ト を 配 付 す る。					参 考 文 献 : 1. 遠 藤 織 枝 (編) 『日 本 語 教 育 を 学 ぶ』 (第 二 版) 2011 三 修 社 ¥2,592 2. 佐 々 木 泰 子 (編) 『バ ー シ ッ ク 日 本 語 教 育』 2007 ひ つ じ 書 房 ¥2,052				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (10%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、学 期 末 レ ポ ー ト (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 自 分 が 今 ま で に 受 け て き た 外 国 語 の 授 業、あ る い は 自 分 の 外 国 語 学 習 と 照 ら し 合 わ せ な が ら、日 本 語 を 外 国 語 と し て 教 え る と い う こ と を 考 え て み る と、興 味 が も て る で し ょ う。な お、事 前 学 習 に つ い て は、そ の 都 度 指 示 ・ 確 認 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	3・4年: 選択 2年: 必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語研究A(文法)(Japanese Linguistics A(Grammar))						科目分類	専門科目	
担当教員	松浦 恵津子								
履修条件	前提科目	日本語概論							
	その他	なし							
授業概要: 小学校、中学校で教えられている国語・口語文法を、教える立場から学ぶ。私たちがふだん使っている日本語を考察の対象として客体化し、分析する。1つの文法論として、その体系をとらえる。									
授業目標: 1. 国文法での品詞の考え方を理解し、国文法の体系をとらえる。 2. 日本語の用例を文法的に分析する力を養う。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション「国語学」と「日本語学」、文法とは					事前: シラバスを読んでくる 事後: 授業の復習		講義・演習	
2	品詞					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
3	活用					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
4	文の組み立て					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
5	格助詞					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
6	副助詞					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
7	接続助詞					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
8	連用修飾・連体修飾					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
9	助動詞(1) ー受身・使役・可能ー					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
10	助動詞(2) ー否定・時間ー					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
11	助動詞(3) ー話し手の出来事に対する捉え方もくろみー					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
12	助動詞と似た働きの形式(1) ー評価と働きかけー					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
13	助動詞と似た働きの形式(2) ー補助助詞ー					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
14	敬語					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
15	文章・談話					事前: テキストの該当箇所 事後: 授業の復習		講義・演習	
教本: 山田敏弘(2004)『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版 ¥1,728 参考文献: 高橋太郎他(2005)『日本語の文法』ひつじ書房 ¥2,592									
成績評価の方法、評価基準: 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等(20%)、小テスト・提出物等(35%)、定期試験(45%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス: 文法とは、文を作るときに見られる規則のことです。私たちは、ふだんあまり意識せずに日本語の文をくみため、コミュニケーションをしています。つまり、私たちは、文法を正しく適用して日本語の文を作っているのです。そんな日本語の文法について考えましょう。教科書は必ず持ってきてください。									
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語研究B (待遇表現) (Japanese Linguistics B (Attitudinal Expressions in Japanese))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語概論、日本語文法							
	その他	なし							
授業概要： 待遇表現に関する資料を読み、敬語・軽卑語・尊大語、ボライトネス、配慮表現、婉曲・間接表現について考える。そして、待遇表現の使用例を機能・適切性の点から分析する。待遇表現を使う練習も行う。									
授業目標： 1. 待遇表現の意味・種類・仕組みや、待遇表現の使い分けに係わる要因を理解する。 2. 場面に合わせて適切な待遇表現を使うことができるようになる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 待遇表現とは					事前：シラバスを読んでくる 事後：待遇表現の例を考える		講義	
2	待遇の意味 〈上扱い一下扱い、親しさ一遠ざけ、改まり一くだけ、丁寧一ぞんざい、など〉					事前：配付プリントを読んでくる 事後：ノート・プリントの確認		講義	
3	待遇表現の使い分けに係わる要因〈社会的要因、心理的要因〉					事前：配付プリントを読んでくる 事後：ノート・プリントの確認		講義	
4	敬語 ① 敬語についての基本的な考え方を理解する					事前：配付プリントを読んでくる 事後：ノート・プリントの確認		講義	
5	敬語 ② 敬語の仕組みを理解する					事前：配付プリントを読んでくる 事後：ノート・プリントの確認		講義	
6	敬語 ③ 敬語の具体的な使い方を知る					事前：配付プリントを読んでくる 事後：ノート・プリントの確認		講義	
7	敬語を使う ① ビジネス場面・学校場面・接客などでの会話					事前：配付プリントを読んでくる 事後：ノート・プリントの確認		演習	
8	敬語を使う ② 手紙・メール・広告・注意書きなどの書き言葉					事前：配付プリントを読んでくる 事後：ノート・プリントの確認		演習	
9	ボライトネス ① ポジティブボライトネスとネガティブボライトネス					事前：配付プリントを読んでくる 事後：ノート・プリントの確認		講義	
10	ボライトネス ② ボライトネスのストラテジー					事前：配付プリントを読んでくる 事後：ノート・プリントの確認		講義	
11	ボライトネス ③ 敬語とボライトネス					事前：配付プリントを読んでくる 事後：ノート・プリントの確認		講義	
12	配慮表現、婉曲・間接表現					事前：配付プリントを読んでくる 事後：ノート・プリントの確認		講義	
13	待遇表現の使用例を機能・適切性の点から分析する－発表 ①					事前：発表準備 事後：ノート・プリントの確認		演習	
14	待遇表現の使用例を機能・適切性の点から分析する－発表 ②					事前：発表準備 事後：ノート・プリントの確認		演習	
15	まとめ 自らの待遇表現の使用を振り返る					事前：自分の待遇表現使用を考える 事後：試験勉強の準備		演習	
教本： 資料と課題プリントを配付する。					参考文献： 文化審議会答申（2007）「敬語の指針」				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、発表・提出物等（30%）、レポート（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 待遇表現、配慮表現は、さまざまなコミュニケーションの中で見られるものです。特に社会人になったときに、適切な使用が求められます。そのことに気づくだけでも、自分自身のコミュニケーションのしかたが変わってきます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	3 . 2 年 : 選 択 4 年 : 必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 研 究 C (音 声 ・ 音 韻) (Japanese Linguistics C (Phonetics and Phonology))							科 目 分 類	専 門 科 目
担 当 教 員	松 浦 恵 津 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 語 概 論							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 私 たち は、日 本 語 の 音、た と え ば 「ア」「カ」「サ」「タ」……な ど、そ れ ぞ れ を ど の よう に 作 っ て 発 音 し て い る の だ ろ う か。こ の 授 業 で は、そ れ ぞ れ の 音 の 発 音 の し く み を 学 ぶ。ま た、日 本 語 ・ 英 語 ・ 中 国 語 な ど、言 語 に よ っ て 区 別 す る 音 が 異 な る が、日 本 語 は ど の 音 を 区 別 し、ど の 音 を 区 別 し な い の か に つ い て も 考 え る。									
授 業 目 標 : 1. 現 代 日 本 語 の 音 声 が も つ 特 徴 を 理 解 し、そ れ を 体 系 的 に 整 理 で き る よう に な る。 2. 中 学 校 ・ 高 等 学 校 国 語 教 員 志 望 者 の 教 材 研 究 に 必 要 な 知 識 と 方 法 を 身 に つ け る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 五 十 音 図 と そ の 拡 大 表					事 前 : シ ラ バ ス を 読 ん で く る 事 後 : 早 口 言 葉 に つ い て 考 え る		講 義	
2	話 し 言 葉 の 語 形					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
3	音 声 学 と 音 韻 論					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
4	ア ク セ ン ト 1 (日 本 語 の ア ク セ ン ト の 特 徴)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
5	ア ク セ ン ト 2 (ア ク セ ン ト の 式 と 型)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
6	イ ン ト ネ ー シ ョ ン					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
7	日 本 語 の 子 音 1 (破 裂 音 ・ 摩 擦 音 ・ 破 擦 音)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
8	日 本 語 の 子 音 2 (鼻 音 ・ 弾 音 ・ 拗 音、声 帯 振 動 の 有 無)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
9	日 本 語 の 子 音 3 (確 認 問 題)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
10	日 本 語 の 母 音					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
11	ハ 行 転 呼 音 と 四 つ 仮 名					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
12	プ ロ ミ ネ ン ス と ポ ーズ					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
13	音 節 構 造					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
14	音 韻 論					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : 練 習 問 題		講 義 ・ 演 習	
15	ま と め					事 前 : 質 問 ・ 確 認 事 項 の 洗 い 出 し 事 後 : 試 験 準 備		演 習	
教 本 : プ リ ン ト を 配 付 す る。			参 考 文 献 : 『日 本 語 教 育 能 力 検 定 試 験 に 合 格 す る た め の 音 声 23』 ア ル ク ￥ 2,376						
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (40%)、提 出 物 等 (20%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 私 たち が 毎 日 聞 い た り 発 し た り し て い る 言 語 の 音 に つ い て 考 え ま す。精 巧 な 発 音 の し く み を 知 っ て 驚 く こ と も あ る で し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 研 究 D (語 彙 ・ 文 字) (Japanese Linguistics D (Lexicology and Grammatology))							科 目 分 類	専 門 科 目
担 当 教 員	松 浦 恵 津 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 語 概 論、日 本 語 研 究 A (文 法)							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
前 半 は、語 彙 論 を 概 観 す る。語 彙 を 意 味 論 的 ・ 形 態 論 的 に 分 析 す る 方 法、計 量 的 に 分 析 す る 方 法 を 学 ぶ。後 半 は、文 字 論 を 扱 っ て い く。毎 回、授 業 の は じ め に、語 彙 ・ 漢 字 ドリ ル を 行 う。									
授 業 目 標 :									
1. 日 本 語 の 語 彙 と 文 字 表 記 の 特 質 を 理 解 し、こ れ ら を 客 観 的 に 分 析 す る 能 力 を 養 う。 2. 中 学 校 ・ 高 等 学 校 国 語 教 員 志 望 者 の 教 材 研 究 に 必 要 な 知 識 と 方 法 を 身 に つ け る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス を 読 ん で く る 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
2	語 彙 の 体 系 1					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
3	語 彙 の 体 系 2					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
4	語 と 語 形 1					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
5	語 と 語 形 2					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
6	語 種 1					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
7	語 種 2					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
8	語 構 成 1					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
9	語 構 成 2					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
10	語 の 意 味 1					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
11	語 の 意 味 2					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
12	語 彙 を 分 析 し て み よ う					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : 分 析 結 果 の 整 理		演 習	
13	文 字 1 (漢 字)					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
14	文 字 2 (ひ ら が な ・ カ タ カ ナ ・ ロ ー マ 字)					事 前 : 配 付 プ リ ン ト の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
15	ま と め					事 前 : 質 問 ・ 確 認 事 項 の 洗 い 出 し 事 後 : レ ポ ー ト 作 成		講 義 ・ 演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
プ リ ン ト を 配 付 す る。					秋 元 美 晴 (2010) 『日 本 語 教 育 能 力 検 定 試 験 に 合 格 す る た め の 語 彙 12』 ア ル ク ¥2,160				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ 提 出 物 等 (20%)、レ ポ ー ト (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
私 たち が 日 常 使 っ て い る 身 近 な 日 本 語 に つ い て 学 び ま す。語 彙 論 で は、語 の 意 味 ・ 構 成 ・ 出 自 な ど を 勉 強 し ま す。文 字 論 で は、独 自 に 発 達 し た 日 本 語 の 文 字 体 系 に つ い て 勉 強 し ま す。な お、事 前 学 習 に つ い て は、そ の 都 度 指 示 ・ 確 認 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	3 ・ 2 年 : 選 択 4 年 : 必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 史 (Japanese Language History)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	松 浦 恵 津 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 語 概 論							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 文 章 ・ 文 体 ・ 語 彙 ・ 文 法 ・ 音 韻 ・ 文 字 表 記 の 各 領 域 に つ い て ・ 現 代 の 日 本 語 が ・ 古 代 か ら ど の よ う な 変 遷 を 経 て 成 立 し た の か を 概 観 す る 。 各 時 代 の 資 料 か ら ・ 当 時 の 日 本 語 の 姿 を よ み と る 。									
授 業 目 標 : 1 . 現 代 日 本 語 が ど の よ う な 過 程 を 経 て 成 立 し た の か を 理 解 す る 。 2 . 中 学 校 ・ 高 等 学 校 国 語 教 員 志 望 者 の 教 材 研 究 に 必 要 な 知 識 と 方 法 を 身 に つ け る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○ ● , 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						○			
授 業 計 画 ・ 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 ・ 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス を 読 ん で く る 事 後 : 時 代 区 分 の 確 認		講 義	
2	文 章 ・ 文 体 史 ① (上 代 ・ 中 古)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
3	文 章 ・ 文 体 史 ② (中 世 ・ 近 世)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
4	文 章 ・ 文 体 史 ③ (近 代)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
5	語 彙 史 ① (上 代 ・ 中 古)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
6	語 彙 史 ② (中 世 ・ 近 世 ・ 近 代)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
7	文 法 史 ① (体 言 ・ 用 言 一 動 詞)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
8	文 法 史 ② (用 言 一 形 容 詞 ・ 形 容 動 詞)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
9	文 法 史 ③ (助 動 詞 ・ 助 詞)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
10	音 韻 史 ① (上 代 ・ 中 古)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
11	音 韻 史 ② (中 世 ・ 近 世 ・ 近 代)					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
12	文 字 史					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
13	近 現 代 語 の 成 立					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
14	辞 書 の 歴 史					事 前 : 配 付 資 料 の 熟 読 事 後 : ノ ー ト ・ 資 料 の 整 理 と 復 習		講 義	
15	ま と め					事 前 : 質 問 ・ 確 認 事 項 の 洗 い 出 し 事 後 : レ ポ ー ト 作 成		講 義	
教 本 : プ リ ン ト を 配 布 す る 。					参 考 文 献 : 岡 崎 友 子 ほか (2016) 『 ワ ー ク ブ ッ ク 日 本 語 の 歴 史 』 ぐ ろ し お 出 版 ¥ 1 , 6 2 0				
成 績 評 価 の 方 法 ・ 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30 %) ・ 提 出 物 等 (20 %) ・ 期 末 レ ポ ー ト (50 %) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 昔 の 人 々 は ・ ど ん な 日 本 語 を 使 っ て い た の で し ょ う か 。 古 代 か ら 現 代 ま で の 日 本 語 の 変 遷 を 扱 い ま す 。 な お ・ 事 前 学 習 に つ い て は ・ そ の 都 度 指 示 ・ 確 認 し ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本語表現論A(アカデミックライティング)(Study of Japanese Expression A (Academic Writing))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 実際に書かれたレポートや小論文を分析し、問題点とその原因・改善の方法を報告し合う。そして、わかりやすく説得力のある文章とは、どこがどう優れているのかを具体的に見出す。さらに、実作を通して効果的な書き方を考え、実践力を向上させる。ルーブリック・ポートフォリオによる評価を行う。									
授業目標： 1. アカデミックライティングとは何か、その目的・種類を理解し、レポート・論文を作成するための方法を考える。 2. レポート・論文作成の実践力を向上させる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション アカデミックライティングとは 事前自己評価					事前：シラバスを読んでくる 事後：レポートの文体の確認		講義	
2	レポートの形式 構成、見出しの立て方、説明の順序、論理性、参考文献について					事前：疑問点を洗い出す 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
3	レポートのテーマを考える					事前：関心のある事柄をあげる 事後：情報を集める		演習	
4	レポートの構想を練り、情報を集めるー情報の集め方ー					事前：なし 事後：情報を集める		演習	
5	情報を整理し、レポートの目標を定める					事前：なし 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
6	レポート作成① 文章を組み立てる パラグラフ・ライティング 文献引用のしかた					事前：アウトラインを考える 事後：レポート第一稿完成		演習	
7	レポート作成② 自己点検とピア活動 レポートの目的と書き方をまとめる					事前：レポートの自己点検 事後：レポートの加筆・修正		演習	
8	小論文の分析 論理的思考と文章構成の関係を探る、論理性や表現について検証する					事前：なし 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
9	小論文を書く①〈社会問題に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		演習	
10	小論文を書く②〈文化・言語に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		演習	
11	小論文を書く③〈生き方に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		演習	
12	レポート発表①					事前：レジメ作成 事後：発表コメントをまとめる		演習	
13	レポート発表②					事前：レジメ作成 事後：発表コメントをまとめる		演習	
14	レポート発表③					事前：レジメ作成 事後：発表コメントをまとめる		演習	
15	まとめ ポートフォリオの中身を振り返り、事後自己評価をする					事前：ポートフォリオの整理 事後：ノート・資料の整理と復習		演習	
教本： 資料とタスクシートを配付する。					参考文献： 大島弥生他（2014）『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]ープロセス重視のレポート作成』ひつじ書房 ￥1,728				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、提出物・自己評価表（20%）、実作のレポート・小論文（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レポート・論文の書き方を学びます。能動的にテーマを見つけ、論理的に文章をまとめる技能を身につけます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 表 現 論 B (デ ィ ス カ ッ シ ョ ン) (Study of Japanese Expression B (Discussion))							科 目 分 類	専 門 科 目
担 当 教 員	澤 田 帆 奈 美								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
デ ィ ス カ ッ シ ョ ン に つ い て 概 説 し た 後、TV 録 画 さ れ た デ ィ ス カ ッ シ ョ ン の 分 析 を 行 う。ま た、受 講 者 自 ら の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン の 分 析 も 行 い、ピ ア 活 動 ・ ル ー プ リ ッ ク 評 価 を す る。デ ィ ベ ー ト の 実 践、分 析 も 同 様 に 行 う。									
授 業 目 標 :									
1. デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と デ ィ ベ ー ト の 目 的 や 意 義 ・ 方 法 に つ い て 理 解 を 深 め る。 2. 自 ら の 立 場 を 明 確 に し て 論 理 的 に 意 見 を 述 べ る こ と が で き る。 3. 中 学 校 ・ 高 等 学 校 国 語 教 員 志 望 者 の 教 材 研 究 に 必 要 な 知 識 と 方 法 を 身 に つ け る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 事前自己評価 ディスカッションについて (概説)					事前: シラバスを読んでくる 事後: ノート・資料の整理と復習		講義	
2	TV ディスカッションの分析① 意見と根拠の明確さ・論理性、反論のしかた 等					事前: 分析の観点の確認 事後: ノート・資料の整理と復習		演習	
3	TV ディスカッションの分析② 表現、話し方・態度、司会者の役割 等					事前: 分析の観点の確認 事後: ノート・資料の整理と復習		演習	
4	紙上ディスカッション: お互いに評価する					事前: なし 事後: 成果物の自己評価		演習	
5	受講者によるディスカッション① テーマを決め、論点をしぼる					事前: テーマについて考えてくる 事後: 情報を集め、整理する		演習	
6	司会者・参加者の役割と表現					事前: なし 事後: ノート・資料の整理と復習		演習	
7	受講者によるディスカッション② (司会者と参加者)					事前: 論点・議論の展開を考える 事後: 振り返り		演習	
8	受講者によるディスカッション③ (司会者と参加者)					事前: 論点・議論の展開を考える 事後: 振り返り		演習	
9	受講者によるディスカッション④ (司会者と参加者)					事前: 論点・議論の展開を考える 事後: 振り返り		演習	
10	受講者によるディスカッション⑤ (司会者と参加者)					事前: 論点・議論の展開を考える 事後: 振り返り		演習	
11	受講者によるディスカッション⑥ (司会者と参加者)					事前: 論点・議論の展開を考える 事後: 振り返り		演習	
12	ディベートについて (概説)					事前: 配付資料の熟読 事後: ノート・資料の整理と復習		演習	
13	受講者によるディベート① テーマ 1					事前: ディベートについて 事後: 振り返り		演習	
14	受講者によるディベート② テーマ 2					事前: なし 事後: 振り返り		演習	
15	全体のまとめ 事後自己評価					事前: 質問・確認事項の洗い出し 事後: 振り返りレポートの作成		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
資料とタスクシートを配付する。					下瀬川慧子他『日本語 口頭発表と討論の技術—コミュニケーション・スピーチ・ディベートのために—』東海大学出版会 ¥2,700				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 議 論 へ の 参 加 等 の 発 言 (65%)、振 り 返 り レ ポ ー ト ・ 提 出 物 等 (30%)、自 己 評 価 票 (5%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 議 論 す る こ と の お も し ろ さ を 経 験 し ま し ょ う。討 論 に 参 加 す る 際 の 発 言 の し か た や マ ナ ー な ど も 身 に つ け ま す。積 極 的 に 議 論 に 参 加 し ょ う と い う 心 構 え を 持 っ て 受 講 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 表 現 論 C (漢 字 ・ 語 彙 力 養 成) (Japanese Language Expression C (Kanji and Vocabulary Building))							科 目 分 類	専 門 科 目
担 当 教 員	澤 田 帆 奈 美								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>毎 回、小 テ ス ト を 行 っ て 習 得 状 況 を チェック する と 同 じ に、類 義 語 ・ 対 義 語 ・ 同 音 異 義 や 形 の 似 た 語 を 関 連 づ け て 学 習 する。特 に 誤 用 の 多 い 漢 字 の 表 記 や 読 み を 示 し 注 意 を 喚 起 する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 専 門 的 研 究 や、就 労 時 に 必 要 な 語 彙 を 理 解 し、表 記 する 漢 字 の 書 写 能 力 を 向 上 さ せ る。</p> <p>2. 中 学 校 ・ 高 等 学 校 国 語 教 員 志 望 者 の 教 材 研 究 に 必 要 な 知 識 と 方 法 を 身 に つ け る。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス を 読 ん で く る 事 後 : ノー ト ・ 資 料 の 整 理		講 義	
2	語 彙 力 ・ 漢 字 力 診 断 テ ス ト					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義	
3	現 代 か な づ か い					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
4	熟 字 訓 「洋 燈 は ラ ン プ」「貴 女 は あ な た」					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
5	同 音 異 字 の 区 別 「私 立」は「ワ タ ク シ リ ッ」、「市 立」は「イ チ リ ッ」					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
6	同 訓 異 字 の 区 別 「ダ ジャ レ」を 考 え よ う					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
7	読 み を 間 違 え や す い 語 彙 ① (複 数 の 読 み が あ る 漢 字)					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
8	読 み を 間 違 え や す い 語 彙 ② (特 殊 な 読 み を す る 漢 字)					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
9	新 聞 に 頻 出 す る 語 彙					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
10	ビ ジ ネ ス に 関 す る 語 彙					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
11	伝 統 文 化 に 関 す る 語 彙					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
12	比 喩 「顔 か ら 火 が 出 る」「お 盆 に 目 鼻」					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
13	成 句 「台 風 一 過」と「台 風 一 家」、「愛 妻 弁 当」と「愛 菜 弁 当」					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
14	地 名 ・ 人 名					事 前 : プ リ ン ト 問 題 事 後 : 復 習		講 義 ・ 演 習	
15	ま と め					事 前 : 質 問 ・ 確 認 事 項 の 洗 い 出 し 事 後 : レポ ー ト 作 成		講 義 ・ 演 習	
教 本 : プ リ ン ト を 配 付 す る。									
参 考 文 献 : 川 本 信 幹 (2008) 『日 本 語 検 定 公 式 テ キ ス ト 「日 本 語」上 級』東 京 書 籍 ¥1,620									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レポ ー ト 等 (30%)、学 期 末 レポ ー ト (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 漢 字 ・ 語 彙 を 単 に 覚 え る だ け で な く、実 際 の 使 い 方 を 理 解 し て ど ん ど ん 使 っ て み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	日本語表現論D (手紙・メール)(Japanese Language Expression D (Formal Letter and Email Writing))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	澤田 帆奈美								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： グループワークの後、クラス全体で発表・討論しまとめるという授業形態で進める。現代では不可欠なコミュニケーション手段となっている電子メールと、依然としてコミュニケーション上重要な役割を担っている伝統的な手紙を分析・比較する。また、「簡明さ」「相手にふさわしい表現」「慣習的に定められた書式」という3点に留意して、状況や目的に合った書き方を検討・実践する。									
授業目標： 1. 実用文としての機能をもつ手紙と電子メールについて、それぞれの文章構造、機能、語彙・表現やその背景にある文化や社会的要請を分析・考察し、状況に応じて適切に両者を使うことができるようになる。 2. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 挨拶状の分析（手紙・メール）					事前：シラバスを読んでくる 事後：分析結果の整理		講義	
2	挨拶状を書く（進学・就職・引っ越し等を、手紙やメールで目上の人や友人に知らせる）					事前：挨拶状の内容を考える 事後：添削結果の確認		講義・演習	
3	案内状・招待状の分析（手紙・メール）					事前：案内状の比較・分析 事後：分析結果の整理		講義・演習	
4	案内状・招待状を書く（手紙・メール）					事前：案内状の内容を考える 事後：添削結果の確認		講義・演習	
5	誘いを受ける／断る手紙・メールの分析					事前：断り状の比較・分析 事後：分析結果の整理		講義・演習	
6	誘いを受ける／断る手紙・メールを書く					事前：断り状の内容を考える 事後：添削結果の確認		講義・演習	
7	依頼の手紙・メールの分析					事前：依頼状の比較・分析 事後：分析結果の整理		講義・演習	
8	依頼の手紙・メールを書く					事前：依頼状の内容を考える 事後：添削結果の確認		講義・演習	
9	お礼の手紙・メールの分析					事前：お礼状の比較・分析 事後：分析結果の整理		講義・演習	
10	お礼の手紙・メールを書く					事前：お礼状の内容を考える 事後：添削結果の確認		講義・演習	
11	謝罪の手紙・メールの分析					事前：わび状の比較・分析 事後：分析結果の整理		講義・演習	
12	謝罪の手紙・メールを書く					事前：わび状の内容を考える 事後：添削結果の確認		講義・演習	
13	見舞いの手紙・メールの分析					事前：見舞い状の比較・分析 事後：分析結果の整理		講義・演習	
14	見舞いの手紙・メールを書く					事前：見舞い状の内容を考える 事後：添削結果の確認		講義・演習	
15	全体のまとめ－手紙・メールのマナーについて					事前：質問・確認事項の洗い出し 事後：ノート・資料の整理と復習		講義	
教本： プリントを配付する。					参考文献： 権島忠夫編（1999）『文章構成の基本大事典』勉成出版 ￥5,184				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（15%）、分析結果の発表等（25%）、実作の手紙・メール（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ビジネスなどで使うフォーマルな手紙やメールの書き方を学びます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 表 現 論 E (ビ ジ ネ ス 会 話 ・ 文 書) (Study of Japanese Expression E)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菊 本 奈 々								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 「情 報、知 識、感 情、意 思」を 相 手 と ど の よ う に 共 有 す れ ば ビ ジ ネ ス に お け る コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン や、関 係 構 築 が ス ム ー ズ に で き る の か を 学 ぶ。具 体 的 に は、イ ン タ ー ナ シ ョ ン や 就 職 活 動 等 で 必 要 な 社 会 人 と し て の 心 構 え や 基 本 動 作、接 遇 ・ 電 話 応 対 等 に お け る ビ ジ ネ ス 会 話、メ ー ル や ビ ジ ネ ス 文 書 の 作 成 等、様 々 な ケ ー ス ス タ デ ィ や グ ル ー プ ワ ー ク を 通 じ て 実 践 的 に 身 に つ け て い く。									
授 業 目 標 : ① ビ ジ ネ ス の 場 面 に 相 応 し い 敬 語 の 用 法、表 現 技 法 等 の 知 識 を 有 し、適 切 に 用 い る こ と が で き る。 ② メ ー ル や ビ ジ ネ ス 文 書 作 成 に 必 要 な 基 本 事 項、表 現 技 法 等 の 知 識 を 有 し、実 際 に 作 成 す る こ と が で き る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：シラバスで授業概要を把握する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義	
2	第一印象の重要性					事前：課題1を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
3	挨拶と基本動作					事前：課題2を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
4	ビジネスコミュニケーション①(話し方と聴き方)					事前：課題3を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
5	ビジネスコミュニケーション②(社会人基礎力)					事前：課題4を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
6	敬語の用法①(丁寧語・謙譲語・尊敬語)					事前：課題5を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
7	敬語の用法②(実践編)					事前：課題6を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
8	ビジネス会話①(電話応対)					事前：課題7を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
9	ビジネス会話②(来客応対)					事前：課題8を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
10	ビジネス会話③(企業訪問)					事前：課題9を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
11	ビジネス文書①(メール)					事前：課題10を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
12	ビジネス会話②(来客応対)					事前：課題11を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
13	ビジネス会話③(企業訪問)					事前：課題12を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
14	ビジネスコミュニケーション③(プレゼンテーション)					事前：課題13を作成する 事後：今回の授業資料を読み返す		講義・演習	
15	授業全体の総括・最終課題(課題15)の作成					事前：課題14を作成する 事後：全体の授業資料を読み返す		講義・演習	
教 本 : 教材は授業時に配布する。					参 考 文 献 : 参考資料は適宜紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 し ます。 グ ル ー プ ワ ー ク 等 授 業 へ の 取 り 組 み 姿 勢 (40%)、課 題 ・ コ メ ン ト ペ ー パ ー 等 (40%)、最 終 課 題 (20%) に よ り 総 合 的 に 評 価 す る。欠 席 回 数 が 4 回 以 上 の 場 合 は 評 価 対 象 外 と す る。以 上 詳 細 に つ い て は、第 1 回 ガ イ ダ ン ス で 説 明 す る の で 必 ず 出 席 す る こ と。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : ビ ジ ネ ス 会 話 ・ 文 書 作 成 の ス キ ル を、学 生 の う ち か ら 身 に つ け て お く こ と は 貴 方 の 武 器 に な り ます。毎 回 の 予 習 復 習 を し っ か り と 行 う こ と で 着 実 に ス キ ル が 身 に つ き ます の で、目 標 意 識 を 明 確 に し て 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 語 プレゼンテーション (Presentation in Japanese)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 井 み ど り								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 社会のさまざまな場面でプレゼンテーションの機会があり、コミュニケーションの大切な手段の一つとなっています。また、プレゼンテーションの能力は、企業でのビジネスツールとしても高く評価されています。「日本語プレゼンテーション I」では、プレゼンテーションを効果的に実践できるよう、基礎を指導し、グループや個人で多くの実践を繰り返します。									
授 業 目 標 : 日本語表現とコミュニケーション能力の向上を目指します。自分の考えを的確に相手に伝える表現を学び、基礎的なプレゼンテーションの技術を身につけることを目的とします。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	傾聴する①					事前：なし 事後：なし		講義と演習	
3	傾聴する②					事前：なし 事後：なし		演習	
4	傾聴する③					事前：なし 事後：なし		演習	
5	伝える①					事前：課題の準備 事後：なし		講義と演習	
6	伝える②					事前：課題の準備 事後：なし		演習	
7	伝える③					事前：課題の準備 事後：なし		演習	
8	表現する①					事前：課題の準備 事後：なし		講義と演習	
9	表現する②					事前：課題の準備 事後：なし		演習	
10	表現する③					事前：課題の準備 事後：なし		演習	
11	プレゼンテーション実践①					事前：課題の準備 事後：なし		講義と演習	
12	プレゼンテーション実践②					事前：課題の準備 事後：なし		演習	
13	プレゼンテーション実践③					事前：課題の準備 事後：なし		演習	
14	プレゼンテーション実践④					事前：課題の準備 事後：なし		演習	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義と演習	
教 本 : 資料を配布するのでテキストはありません。					参 考 文 献 : 適宜、指示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (40%)、授 業 中 の 課 題、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 等 (60%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 自 分 も 相 手 も 大 切 に す る 表 現 方 法 を 学 ん で く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 の 授 業 で 教 え ま す。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本史 (History of Japan I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石井 みどり								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>国際化が進む一方で、日本の歴史と文化を理解する必要性は、ますます高まっていると思われます。当時の政治、経済、文化をふりかえりながら、その時代に生きた人々がどのような価値観をもっていたのか理解を深めていきます。本講義では、正しい一つの答えを出すのではなく、歴史の本質とは何かを学びます。</p> <p>授業目標：</p> <p>原始から近現代にかけて、日本史の基礎知識を習得し、考える力を養うことを目的としています。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	古代の日本と邪馬台国					事前：なし 事後：なし		講義	
3	聖徳太子と十七条憲法					事前 前回の講義の復習 事後：なし		講義	
4	遣唐使と鑑真					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
5	貴族の生活と国風文化					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
6	平清盛					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
7	源頼朝と義経					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
8	織田信長と戦国時代					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
9	豊臣秀吉と朝鮮出兵					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
10	江戸幕府の成立と島原の乱					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
11	開国と幕末の動乱					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
12	明治維新と文明開化					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
13	戦争の近代 ①第一次世界大戦とドイツ人捕虜					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
14	戦争の近代 ②第二次世界大戦の背景にあるもの					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 初回講義日に伝えます。					参考文献： 「詳説 日本史研究」山川出版社				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、レポート・定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>文字だけで判断するのではなく、歴史の本質を理解するよう心がけてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 史 (History of Japan)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	藤 井 一 二								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
日本歴史の基本的な流れを理解するため、アジアを含む諸外国との交流を通じて、相互に影響し合いながら展開したことを学ぶ。とくに、政治・社会・文化の関連と推移に重点をおき、各時代の主要な文献・画像資料を活用して時代特性と因果関係を理解する。									
授 業 目 標 :									
日本史の通史としての基礎知識を習得するため、日本列島における人々の歩みを原始時代から近・現代にかけて概観する。ここでは、高等学校「日本史」で履修した基本的内容を再確認すると共に、歴史事象に対する問題関心を深め、分析と解釈、資料の収集と整理、課題の執筆と発表のための方法と応用力を修得する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	日本史の学び方 (オリエンテーション) (参考資料の学習方法など)					事前:なし 事後:(講義内容の理解)		講義	
2	旧石器時代の日本(人類の進化と日本列島の形成) 縄文時代の社会と文化(土器の特徴、人々の暮らし)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
3	弥生時代の文化と社会(弥生時代の文化の特徴) 小国の分立と邪馬台国(「漢書」地理志の内容など)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
4	魏志倭人伝と邪馬台国の社会(弥生時代末期における社会の特徴) 大和政権の成立と展開(古墳の成立・形態・分布とその意義)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
5	推古朝の政治と飛鳥文化(聖徳太子と飛鳥文化、遺隋使の役割) 大化の改新と天武・持統朝の政治(改新の詔と律令制の成立)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
6	奈良時代の政治と文化(律令のしくみ、社会・経済・文化の概要) 荘園の成立と展開(墾田永年私財法の内容と初期荘園の形成)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
7	武士団の形成と平氏政権(武士団の形成、成長と平氏の台頭) 鎌倉幕府の成立・社会(将軍の機能と執権登場の意義)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
8	南北朝の動乱と室町幕府(建武政権の性格、室町幕府と守護大名) 応仁の乱と戦国大名(下克上の風潮、戦国大名の登場と動向)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
9	織豊政権と桃山文化(織田信長と豊臣秀吉、桃山文化の特色) 幕藩体制の展開と動揺(江戸幕府の経済・文化と幕政改革)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
10	開国と明治維新(開港・公武合体・尊皇攘夷・廃藩置県・文明開化) 立憲国家の成立と日清・日露戦争(自由民権運動・日清・日露戦争)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
11	近代産業の発展と近代文化の発達(産業革命・明治の文化) 第一次世界大戦とワシントン体制(第一次世界大戦・米騒動)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
12	恐慌の時代(戦後恐慌・金融恐慌・満州某重大事件・世界恐慌) 軍部の台頭(満州事変・国際連盟脱退・二・二六事件など)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
13	第二次世界大戦(1)(日中戦争・国家総動員法・第二次世界大戦) 第二次世界大戦(2)(太平洋戦争・敗戦・ポツダム宣言)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
14	占領下の日本(1)(民主化政策・東京裁判・戦後改革) 占領下の日本(2)(日本国憲法の制定・平和条約・安保条約)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
15	高度成長の時代(55年体制・高度経済成長・公害対策) 経済大国への道(55年体制の崩壊・バブル経済・国内改革)					事前:前回内容の整理 事後:講義内容の理解		講義	
教 本 : 参考 文 献 :									
五味文彦ほか編『もういちど読む山川日本史』 山川出版社、¥1,575									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 日 本 の 原 始 ・ 古 代 か ら 近 ・ 現 代 に 至 る ま で の 歴 史 を 学 び た い 人 を 希 望 し ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 の 授 業 で 教 え ま す 。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本史概論 I (History of Japan I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石井 みどり								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>国際化が進む一方で、日本の歴史と文化を理解する必要性は、ますます高まっていると思われます。当時の政治、経済、文化をふりかえりながら、その時代に生きた人々がどのような価値観をもっていたのか理解を深めていきます。本講義では、正しい一つの答えを出すのではなく、歴史の本質とは何かを学びます。</p> <p>授業目標：</p> <p>原始から中世にかけて、日本史の基礎知識を習得し、考える力を養うことを目的としています。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	古代の日本					事前：なし 事後：なし		講義	
3	邪馬台国と卑弥呼					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
4	聖徳太子と十七条憲法					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
5	律令国家の成立					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
6	遣唐使と鑑真					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
7	東大寺と国分寺					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
8	貴族の生活と国風文化					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
9	平清盛①					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
10	平清盛②					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
11	源頼朝・義経①					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
12	源頼朝・義経②					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
13	鎌倉幕府の成立					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
14	幕府の崩壊と蒙古襲来					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>「社会人のための日本史」東京法令出版</p>					<p>参考文献：</p> <p>「詳説 日本史研究」山川出版社</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、レポート・定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>文字だけで判断するのではなく、行間を読み、歴史の本質を理解するよう心掛けてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回の授業で教えます。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 史 概 論 Ⅱ (History of Japan Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 井 み ど り								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>国際化が進む一方で、日本の歴史と文化を理解する必要性は、ますます高まっていると思われます。当時の政治、経済、文化をふりかえりながら、その時代に生きた人々がどのような価値観をもっていたのか理解を深めていきます。本講義では、正しい一つの答えを出すのではなく、歴史の本質とは何かを学びます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>近世から近代にかけて、日本史の基礎知識を習得し、考える力を養うことを目的としています。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	織田信長と安土城					事前：なし 事後：なし		講義	
3	豊臣秀吉と朝鮮出兵					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
4	徳川家康と関ヶ原の戦い					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
5	江戸幕府の成立と島原の乱					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
6	江戸の人々の暮らし					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
7	農村の窮乏と百姓一揆					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
8	幕末の動乱① ペリー来航と開国					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
9	幕末の動乱② 戊辰戦争に至るまで					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
10	明治維新と文明開化					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
11	関東大震災と大正文化					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
12	日清・日露戦争と韓国併合					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
13	戦争の近代① 第一次世界大戦とドイツ人捕虜					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
14	戦争の近代② 第二次世界大戦の背景にあるもの					事前：前回の講義の復習 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「社会人のための日本史」東京法令出版					「詳説 日本史研究」山川出版社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、レポ ー ト ・ 定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
文 字 だ け で 判 断 す る の で は な く、行 間 を 読 み、歴 史 の 本 質 を 理 解 す る よ う 心 か け て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 の 授 業 で 教 え ま す。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 演 習 A (Seminar on Japanese Culture A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 金 悦 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 文 化 概 論							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>グローバル化の時代、日本の文化をどのくらい知っているか、語れるかはとても重要なことです。日常生活の中で誰もが経験していること、子どものころに経験したこと、経験しておきたいことなどについて改めて考える機会にします。興味や関心をもって調べたりまとめたりしたことを受講者相互で情報交換しながら深めていきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>自分自身の言葉で日本のこども文化について語れるようにします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	ま と め 授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスを読んでおく 事後：授業の復習		講義と演習	
2	生活の中の文化 (挨拶・作法)					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
3	季節と行事① (年中行事の意味)					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
4	季節と行事② (伝承したい年中行事)					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
5	日本の食事① (ハレとケ)					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
6	日本の食事② (地域の特性・味噌や雑煮)					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
7	子どもの食事 (祝いの行事食)					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
8	クールジャパン① (もったいない・かわいい)					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
9	クールジャパン② (お弁当)					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
10	児童文化財① (絵本)					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
11	児童文化財① (紙芝居)					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
12	児童文化財② (ペープサート)					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
13	児童文化財② (人形劇)					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
14	子どもの発達と文化					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
15	まとめ					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
資料を配布するので、教科書は指定しません。					適宜紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。									
授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠席をしないで最後まで頑張りましょう。地域の図書館を活用して調べたことをまとめられるように、利用登録をしておいてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本文化演習B (Seminar on Japanese Culture B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古金 悦子								
履 修 条 件	前提科目	日本文化概論							
	その他								
<p>授業概要： グローバル化の時代、日本の文化をどのくらい知っているか、語れるかはとても重要なことです。日常生活の中で誰もが経験していること、子どものころに経験したこと、経験しておきたいことなどについて改めて考える機会にします。興味や関心をもって調べたりまとめたりしたことを受講者相互で情報交換しながら深めていきます。</p>									
<p>授業目標： 自分自身の言葉で日本のこども文化について語れるようにします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	まとめ授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスを読んでおく 事後：授業の復習		講義と演習	
2	伝承遊び① わらべうた					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
3	伝承遊び② 鬼ごっこ					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
4	伝承遊び③ コマ・ビー玉・めんこ・けん玉					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
5	伝承遊び④ お手玉・おはじき・あやとり					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
6	折り紙①（基本の折り方）					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
7	折り紙②（作って遊ぶ）					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
8	折り紙③（様々な折り方）					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
9	駄菓子屋さんと子どもの文化①					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
10	駄菓子屋さんと子どもの文化②					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
11	かるた遊び①（江戸・上方いろはかるた）					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
12	かるた遊び②（いろはかるたとことわざ）					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
13	かるた遊び③（キャラクターと絵本・百人一首）					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
14	かるた遊び④（ご当地かるた）					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義と演習	
15	まとめ					事前：資料の検索 事後：授業の復習		講義	
<p>教本： 資料を配布するので、教科書は指定しません。</p>					<p>参考文献： 適宜紹介します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 欠席をしないで最後まで頑張りましょう。地域の図書館を活用して調べたことをまとめられるように、利用登録をしておいてください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 概 論 (Introduction to Japanese Culture)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 井 み ど り								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>おもに近現代の日本の歴史をふりかえり、身近な話題をとりあげながら、日本人のこのころの一端を模索していきます。 食や箸の文化、日本の昔話や怪談、アニメーションや漫画など幅広い分野について、さまざまな教材を用いながら学びます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>日本人のこのころは、どのように形成されてきたのでしょうか。日本人のこのころを探求する上で、日本文化を理解することは欠かせません。本講義では、日本文化の知識を習得し、その背景にあるものは何か、理解を深めることを目的としています。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	食の文化 ① お茶と和菓子					事前：なし 事後：なし		講義と演習	
3	食の文化 ② 調味料					事前：なし 事後：なし		講義	
4	食の文化 ③ カレーライス					事前：なし 事後：なし		講義	
5	日本の昔話 ①					事前：なし 事後：なし		講義	
6	日本の昔話 ②					事前：なし 事後：なし		講義と演習	
7	学校の怪談、都市伝説					事前：なし 事後：なし		講義と演習	
8	アニメーションと漫画 ①					事前：なし 事後：なし		講義と演習	
9	アニメーションと漫画 ②					事前：なし 事後：なし		講義と演習	
10	箸の文化					事前：なし 事後：なし		講義	
11	遊園地とテーマパーク					事前：なし 事後：なし		講義と演習	
12	日本人の気質 ①					事前：なし 事後：なし		講義と演習	
13	日本人の気質 ②					事前：なし 事後：なし		講義と演習	
14	アイヌの歴史と文化					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
資料を配布するので、教科書は指定しません。					適宜、指示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、レポ ー ト ・ 定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 文 字 だ け で 判 断 す る の で は な く、日 本 文 化 の 本 質 を 理 解 す る よ う 心 か け て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本文学演習 A (Seminar on Japanese Literature A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古金 悦子								
履 修 条 件	前提科目	日本文学概論							
	その他								
授業概要： 主に児童文学を取り上げます。日本の児童文学の歴史にもふれ、絵本や物語等様々な児童文学について検討します。									
授業目標： 具体的に文学作品を読んで、日本の児童文学について理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	まとめ授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスを読んでおく 事後：授業の復習をする		講義と演習	
2	児童文学と絵本①					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
3	児童文学と絵本②					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
4	明治・大正・昭和の児童文学					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
5	戦後の児童文学について					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
6	神話・伝説・昔ばなし					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
7	ファンタジー①					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
8	ファンタジー②					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
9	リアリズム①					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
10	リアリズム②					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
11	冒険物語①					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
12	冒険物語②					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
13	歴史小説①					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
14	歴史小説②					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
15	まとめ					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
教本： 指定しません。適宜伝えます。					参考文献： 『児童文学の教科書』玉川大学出版部 『はじめて学ぶ日本児童文学史』ミネルヴァ書房				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席しないように、積極的に授業に参加してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 学 演 習 B (Seminar on Japanese Literature B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 金 悦 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 文 学 概 論							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 主に児童文学を取り上げます。日本の児童文学の歴史にもふれ、絵本や物語等様々な児童文学について検討します。									
授 業 目 標 : 具体的に文学作品を読んで、日本の児童文学について理解を深める。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	ま と め 授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスを読んでおく 事後：授業の復習をする		講義と演習	
2	赤い鳥と学校唱歌					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
3	時代背景から児童文学を考える①(戦前)					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
4	時代背景から児童文学を考える②(戦後)					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
5	時代背景から児童文学を考える③(現代)					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
6	現代の児童文学①(受講学生が好きな本を紹介し、読んでいく)					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
7	現代の児童文学②(受講学生が好きな本を紹介し、読んでいく)					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
8	現代の児童文学③(受講学生が好きな本を紹介し、読んでいく)					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
9	現代の児童文学④(受講学生が好きな本を紹介し、読んでいく)					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
10	現代の児童文学⑤(受講学生が好きな本を紹介し、読んでいく)					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
11	現代の児童文学⑥(受講学生が好きな本を紹介し、読んでいく)					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
12	現代の児童文学⑦(受講学生が好きな本を紹介し、読んでいく)					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
13	現代の児童文学⑧(受講学生が好きな本を紹介し、読んでいく)					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
14	現代の児童文学⑨					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
15	まとめ					事前：指定された本を読む 事後：授業の復習をする		講義と演習	
教 本 : 指定しません。適宜伝えます。					参 考 文 献 : 『児童文学の教科書』玉川大学出版部 『はじめて学ぶ日本児童文学史』ミネルヴァ書房				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 欠 席 し な い で、積 極 的 に 授 業 に 参 加 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 学 概 論 (Introduction to Japanese Literature)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 鞘								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>日本文学の生成過程とその変容の原動力について見極める。古典文学はどのように発生し、伝播し、波及したか作品に即して理解する。また古典文学が実際にどのように読まれてきたのかについて、『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』『枕草子』『徒然草』『百人一首』といった古典を通して文学を考える。日本文学の理念と変遷を考え、日本の代表的な文学作品に触れながら、作品の構想と表現、作者と時代背景などを含めて、文学研究の方法と態度を養う。作品の背景に横たわる問題点を指摘しながら思索を深める訓練をする。作品を理解し、日本文化における文学の影響と、文学の果たした役割を理解する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>日本文学（物語・随筆・和歌など）の概要を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文学の形態や表現の特徴を概観し、深く読み進めるために必要な方法や基礎知識を習得する。 2. 日本文学の生成と展開を把握し、日本文学の全体像を理解する。 3. 各時代における日本文学の展開のダイナミズムが、いつ、どのようにして生まれ、どのように伝播、波及して現代に至ったかを、具体的な文学者や作品に即して深く理解する。 4. 日本文学が、日本文化全体の中において果たしてきた役割を理解する。 									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション、日本文学の領域					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	日本文学の発生と場（文学以前から文学へ、神と人）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	日本文学の形態と様式（韻文、散文、抒情、叙事、日記、紀行、随筆、評論）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	文学的発想とその流れ（口承から書承、詩歌の成立、伝説、説話、物語の成立）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	伝承・創作とその享受（巫女と語り部、公卿と女房、隠者、武士と町人）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	構想と表現（言葉と心、主題と描写、作品とモデル、事実と虚構）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	日本文学の環境 1（歴史と社会）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	日本文学の環境 2（自然と風土）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	日本文学の理念と変遷 1、上代文学の理念					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	日本文学の理念と変遷 2、中古文学の理念					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	日本文学の理念と変遷 3、中世文学の理念					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	日本文学の理念と変遷 4、近世文学の理念					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	日本文学の素材（自然・旅・離別）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	日本文学と諸文化（国語史・宗教・風俗・民俗）					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	日本文学研究法、まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。プリント配布。					<ol style="list-style-type: none"> 1. 『日本の原点』石上七鞘著、マイナビ新書、¥830（税抜き） 2. 『日本文学史の基礎知識』秋山虔ほか著、有斐閣ブックス、¥2,520 3. 『日本古典文学大系』（岩波書店）『日本古典文学全集』（小学館） 				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (15%)、小テスト (15%)、授業内容への参加度 (10%)、試験 (60%) などで評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本文学史 (Japan Literary History)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 物語の発生からその展開について解説し、作品と作品を生み出した人間、それを取り囲む社会との関係を歴史的に考察する。講義のほか、学生の研究発表の形式を採る。									
授業目標： 日本文学史に関する基礎的知識を時代別と系統別の両方から理念をふまえて理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本文学の発生、祭式と祝詞。「神観念」					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	古代文学、神話と歴史。「言霊」「他界観」「語り部」					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	古代文学、記紀歌謡と和歌。「まこと」（直、清、明）「ますらをぶり」					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	中古文学、「たをやめぶり」「雅」					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	中古文学「あはれ」「をかし」「王朝女流文学」					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	中古文学「たけ高し」「とは白し」「余情」「艶」					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	中世文学「幽玄」「有心」「無心」「わび」「枯淡」					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	近世文学「さび」「軽み」「いき」「粋」「通」「野暮」「をかしみ」「江戸」「上方」					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	系統別文学史「史書」「物語」「草子」「読本」「勸善懲悪」					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	系統別文学史「説話」「小説」					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	系統別文学史「和歌」「連歌」「俳諧」「物付」「心付」「匂付」「漢詩文」					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	系統別文学史「日記」「紀行」学生のプレゼン					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	系統別文学史「随筆」「評論」学生のプレゼン					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	系統別文学史「芸能」「戯曲」「慰み」「義理人情」					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	学生のプレゼン まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
教本： なし、プリント配布					参考文献： 『日本の原点』石上七鞘著 マイナビ新書 ¥873				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト（15%） 授業への参画度（25%） 試験（60%）。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー：水曜日昼休み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 研 究 A (Japanese Study A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 鞆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
日本の伝統ある有形・無形の文化を考察する。古くから伝送されたしきたり、習わしを調べて日本人の民間信仰や祭礼・民間暦を学ぶ。また古くから伝承された神話・伝説・昔話・古典文学作品など学生の発表形式の授業を行い、プレゼン能力をも鍛える。風俗史にも焦点をあて、日本人の精神を研究する。									
授 業 目 標 :									
伝統ある日本人の生活を明らかにする。世代を超えて伝承されてきた習わし、言い伝え、古典文学を研究し、その背景を考えながら、日本人の心を探る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	古 典 と 民 俗 学、民 俗 学 の 歴 史 と 概 要					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
2	民 族 宗 教 と 神 概 念					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
3	女 性 の 文 化、水 の 女					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
4	マ レ ビ ト と 常 世、異 郷 意 識					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
5	人 生 儀 礼、生 と 死 の 民 族					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
6	五 節 供 と 年 中 行 事					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
7	古 事 記、風 土 記					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
8	万 葉 集、古 今 集					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
9	新 古 今 集、百 人 一 首					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
10	竹 取 物 語、伊 勢 物 語					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
11	源 氏 物 語					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
12	海 ・ 山 ・ 川 の 民 族 伝 承					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
13	動 物 伝 承					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
14	風 俗 と 風 俗 史					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
15	衣 ・ 食 ・ 住 の 歴 史					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
指 定 な し、適 宜 プ リ ン ト を 配 布。					1. 石 上 七 鞆 著 『古 代 伝 承 文 芸 序 説』桜 楓 社 2. 石 上 七 鞆 著 『古 代 伝 承 文 芸 論』お う ふ う 3. 石 上 七 鞆 著 『日 本 の 民 族 伝 承』蒼 洋 社 4. 石 上 七 鞆 著 『十 二 支 の 民 族 伝 承』お う ふ う 5. 石 上 七 鞆 著 『化 粧 の 民 族』お う ふ う 6. 石 上 堅 著 『日 本 民 族 語 大 辞 典』お う ふ う				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 成 績 の 評 価 は、平 常 点 (50%)、期 末 試 験 (50%) 等 で 行 う 予 定。期 末 レ ポ ー ト は 4,800 字 で 提 出。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と。欠 席 し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す。最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 水 曜 日 昼 休 み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 研 究 A (風 俗 史) (Japanese Study A (History of Manners and Customs))							科 目 分 類	専 門 科 目
担 当 教 員	石 上 七 穂								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
1. 風 俗 学 と は な に か を 理 解 す る。									
2. 風 俗 の 歴 史 に つ い て、特 に 日 本 の 風 俗 史 に つ い て 共 に 学 び、考 え る。									
3. 「風 俗」に 関 し て 主 体 的 に 考 え る 力 を 養 う。									
授 業 目 標 :									
日 本 の 風 俗 の 成 り 立 ち や そ の 基 本 的 な 衣 食 住 を 理 解 し、ま た、日 本 の 風 俗 文 化 や 政 治 と ど の よ う な 相 互 関 係 に あ っ た か に つ い て 理 解 を 深 め る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 風俗とは。日本風俗の流れ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	(通史) 風俗学と風俗史					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	(古代) 古代人の生活					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	(古代) 古代人の産業					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	(中古) 平安時代の生活					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	(中古) 平安時代の信仰、陰陽師と加持祈祷					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	(中世) 禅とその文化					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	(近世) 近世の風俗と海外との交流					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	近現代における日本の風俗 (衣食住の展開)					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	近代日本における風俗					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	風俗の伝統とモダニズム					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	学生の発表1					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	学生の発表2					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表3					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。プリント配布。					授 業 時 に 指 示 す る。				
					1. 『日本風俗史事典』日本風俗史学会編 弘文堂 竹内誠編著				
					2. 『江戸文化の見方』(角川選書) 角川学芸出版 2010年 竹内誠編著				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
発 表 と レ ポ ー ト (50%) ・ 期 末 試 験 (50%)。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と。欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す。最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
水 曜 日 昼 休 み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 研 究 B (Japanese Study B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 緒								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
1. 江戸学とは何かを理解する。									
2. 江戸の歴史と文化について学び、考える。									
3. 「江戸」に関して主体的に考える力を養う。									
授 業 目 標 :									
江戸の風俗・生活を伝える『絵本江戸風俗往来』『都風俗化粧伝』を購読し、いわゆる「江戸学」の出発点となる知識の整理を試みるとともに、史料収集方法や活用方法の基礎力を養うことを目標とする。また、日本近代史を学ぶうえで重要な資料・文献などの紹介も行う。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 江戸時代解説。飢饉と改革					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	江戸と上方					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	江戸の衣と住まい					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	江戸の食					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	江戸の文化、元禄文化1。俳諧					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	江戸の文化、元禄文化2。人形浄瑠璃、歌舞伎					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	江戸の文化、化政文化。洒落本、読み本、滑稽本					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	江戸の私塾と学問					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	江戸の国学と国体					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	江戸の年中行事					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	江戸の信仰、富士信仰、伊勢信仰					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	江戸の交通、交易					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	学生の発表1					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表2					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	江戸から明治へ、大政奉還。まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。プリント配布。					1. 石上七緒『日本の原点』マイナビ新書、授業時にプリント配布。 2. 『江戸学辞典』弘文堂 『江戸の暮らしの考古学辞典』吉川弘文館 3. 『江戸東京学辞典』三省堂				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 発 表 と レ ポ ー ト (50%) と 試 験 (50%) な ど で 評 価 す る。仔 細 は 授 業 時 に 明 示 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と。欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す。最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 水 曜 日 昼 休 み。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本文化研究B (近世文化) (Japanese Study B (Japanese Early Modern Culture))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要：(近世文化) 1. 江戸学とは何かを理解する。 2. 江戸の歴史と文化について学び、考える。 3. 「江戸」に関して主体的に考える力を養う。									
授業目標： 江戸の風俗・生活を伝える『絵本江戸風俗往来』『都風俗化粧伝』を購読し、いわゆる「江戸学」の出発点となる知識の整理を試みるとともに、史料収集方法や活用方法の基礎力を養うことを目標とする。また、日本近代史を学ぶうえで重要な資料・文献などの紹介も行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス 江戸時代概説					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	江戸と上方					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	江戸の衣と住まい					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	江戸の食					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	享保・寛政・天保の改革					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	江戸の飢饉					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	江戸時代の交通					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	江戸時代の農業					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	江戸の年中行事					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	江戸の信仰、富士信仰					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	江戸の信仰、伊勢信仰					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	近世の宗教と学問 キリスト教					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	国学と国体					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	江戸から明治へ、大政奉還					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 1. 石上七鞘『日本の原点』マイナビ新書 2. 『江戸学事典』弘文堂				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート (50%)・期末試験 (50%)。詳細は授業時に明示する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本文化研究 C (日本の宗教) (Japanese Study C (Japanese Religion))						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 1. 宗教学とはなにかを理解する。 2. 日本の宗教の歴史について、特に日本の宗教について共に学び、考える。 3. 「日本の宗教」に関して主体的に考える力を養う。									
授業目標： 日本宗教の成り立ちやその基本的な思想・世界観を理解し、また、日本宗教が文化や政治とどのような相互関係にあったかについて理解を深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、宗教とは。日本宗教の形成と展開。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	(通史) 宗教の風景。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	(古代) 神々の世界 神社の歴史と役割。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	(古代) 儒教と道教と仏教。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	(中古) 平安時代の宗教。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	(中古) 平安仏教〔最澄・空海〕。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	(中世) 鎌倉仏教、法然・親鸞・栄西・道元・日蓮					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	(中世) 禅とその文化。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	(近世) 近世の宗教と学問 キリスト教。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	(近世) 国学と国体。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	近代日本における政教分離の形成。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	一神教と多神教。学生の発表 1。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	宗教の未来。学生の発表 2。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表 3					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	総括					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： 授業時にプリント配付。					参考文献： 1. 末木文美士『日本宗教史』岩波書店、2006年（岩波新書） 2. 山折哲雄監修『宗教の事典』朝倉書店				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 発表とレポート（50%）と試験（50%）などで評価する。仔細は授業時に明示する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 水曜日昼休み。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本文化研究D (万葉の時代と文化) (Japanese Study D (The times and culture of MANNYOUSYU))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 万葉の時代といえば、日本史の時代区分でいえば古代といえる。万葉集には、時代が判明している仁徳天皇から奈良時代末期までである。その時代の状況や文化を万葉集の歌を通して理解しながら、学生のプレゼンテーションを交えながら進める。									
授業目標： 万葉の時代と文化を理解する。時代背景としての宗教、政治、生活、民俗を理解する。また、万葉集の作家と作品について学ぶ。また作者未詳歌についても学び、それらの作品の背景を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	日本の古代史とは					事前：なし 事後：授業内容の整理		講義	
2	万葉集とは					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
3	三大部立（雑歌、相聞、挽歌）とは					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
4	巻頭歌と最後の歌					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
5	額田王					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
6	柿本人麻呂					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
7	山部赤人					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
8	高市黒人					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
9	山上憶良					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
10	大伴旅人					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
11	大伴家持					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
12	東歌・防人歌・伝説歌					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
13	学生のプレゼン					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
14	学生のプレゼン					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
15	纏め					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
教本： プリント配布					参考文献： 授業時に紹介				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート・発表等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本文化研究 E (東アジアの交流と文化) (Japanese Study E (Interchange and culture of the East Asia))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	石上 七鞘								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 日本文化の源流は東アジアにあると言ってよい。北は天山山脈からモンゴル高原、アムール川（黒竜江）まで、南は雲貴高原の地域であり、東は日本列島や台湾、西はチベット高原やヒマラヤ山脈までが東アジアである。これらの地域との交流を学ぶ。									
授業目標： 日本文化の源流と交流を理解する。中国、朝鮮、台湾などとの交流・文化を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	東アジアとは					事前：なし 事後：授業内容の整理		講義	
2	人類の歴史とアジア人					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
3	文化ロード					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
4	衣の歴史					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
5	食の歴史					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
6	住まいの歴史					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
7	東アジア諸国の歴史と文化、朝鮮					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
8	中国					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
9	台湾					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
10	朝鮮					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
11	モンゴル					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
12	チベット					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
13	学生のプレゼン					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
14	学生のプレゼン					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義と演習	
15	纏め					事前：ノートで復習と予習 事後：授業内容の整理		講義	
教本： なし。					参考文献： 授業時に紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート・発表等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席せずに授業に出席すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	日本文化研究 F (現代社会と文化) (Japanese Study F)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 現代社会の文化の一つとして学校教育を取り上げる。学校行事や学校生活の指導をテーマに、その意義や問題点を探り、日本の学校文化について、日本人や日本社会への影響などを考察する。自己の経験をもとに子どもの視点を持ったり、外国のデータをもとに日本との比較を試みたりするなど、多くの視点で物事を捉えることができるようになる。									
授業目標： 1. 日本の学校教育文化について調べたり発表を聞いたりして、その特色の理解を深める。 2. グループワークの中で、情報交換をし、グループとしての意見をまとめて発表、質疑応答を行う。 3. 総合レポートでは自分の興味・関心でテーマを設定し、レポートにする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（日本の学校 授業の進め方等）					事前：なし 事後：ノート整理		講義・演習	
2	グループワーク① グループ作り テーマ選択					事前：資料を読む 事後：資料収集		演習	
3	グループワーク② テーマに沿って調べ、グループ討議					事前：資料を読む 事後：資料収集		演習	
4	グループワーク② テーマに沿って調べ、グループ討議					事前：自分の考えをメモする 事後：原稿を書く		演習	
5	グループワーク③ 発表の準備（紙面発表）					事前：追加資料収集 事後：原稿を書く		演習	
6	グループワーク④ 発表の準備（紙面発表）					事前：原稿の校正 事後：発表練習		演習	
7	発表会(1) 質疑応答 感想交流					事前：発表練習 事後：ワークシート記入		演習	
8	発表会(2) 質疑応答 感想交流					事前：なし 事後：ワークシート記入		演習	
9	グループワーク① グループ作り テーマ選択 課題					事前：資料収集 事後：資料収集		演習	
10	グループワーク② テーマに沿って調べ、グループ討議					事前：自分の考えをメモする 事後：原稿を書く		演習	
11	グループワーク③ 発表の準備（パワーポイント作成）					事前：追加資料収集 事後：原稿を書く		演習	
12	グループワーク④ 発表の準備					事前：原稿の修正 事後：発表練習		演習	
13	発表会(3) 質疑応答 感想交流					事前：発表練習 事後：レポートの		講義	
14	総合レポート					事前：テーマ、構成の見直し 事後：原稿を書く		演習	
15	総合レポート					事前：資料収集 事後：提出する		演習	
教本： 必要に応じてプリント配布					参考文献： 小学校学習指導要領（特別活動） 中学校学習指導要領（特別活動）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 主体的に、情報を収集して、自分の考えをもち、他者と比べながら考えが広がり深まることを楽しもう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	乳 児 保 育 (Childcare of Infants)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
乳児保育の変換を知り、乳児保育の基本を理解する。乳児の発達と保育について学び、援助の在り方について考える。									
授 業 目 標 :									
1. 乳児保育の理念と歴史的返還及び役割等について学ぶ。									
2. 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。									
3. 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。									
4. 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。									
5. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの確認 乳児保育の理念と役割					事前：なし 事後：シラバスの確認		講義	
2	乳児保育とは何か 乳児保育の場					事前：7P～10Pまでの予習 事後：7P～10Pまでの復習		講義	
3	乳児保育の内容 乳児保育の歩み					事前：11P～16Pまでの予習 事後：11P～16Pまでの復習		講義	
4	乳児保育の現状と課題 1. 保育所における乳児保育					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復習		講義	
5	乳児保育の現状と課題 2. 保育園の一日					事前：17P～23Pまでの予習 事後：17P～23Pまでの復習		講義	
6	乳児保育の現状と課題 3. 乳児院における乳児保育					事前：24P～31Pまでの予習 事後：24P～31Pまでの復習		講義	
7	乳児保育の現状と課題 4. 家庭的保育の一日					事前：32P～38Pまでの予習 事後：32P～38Pまでの復習		講義	
8	乳児保育の現状と課題 5. 家庭的保育の一日をDVDで鑑賞					事前：指定資料の予習 事後：DVD後の小テスト		DVDの鑑賞と 小テスト	
9・10	乳児人形に実際に触れて学ぶ 沐浴の仕方、身長体重測定抱き方、おむつの当て方、洋服の着せ方、おんぶの仕方等					事前：指定資料での予習 事後：指定資料での復習		演習	
11・12	乳児保育に適したおもちゃ作り 安全なおもちゃとは					事前：資料等で立案 事後：おもちゃ作り		講義と おもちゃ作り	
13・14	保育園での視察研修					事前：研修の注意事項と確認 事後：研修の反省		半日視察研修	
15	保育園での乳児保育の現状を口頭発表する。 問題点、疑問点をグループで検討発表する					事前：研修の意義やまとめ 事後：他の人の発表を聞く		発表	
16	乳児の発達と保育内容 ・ 6か月未満児 ・ 6か月～1歳3か月未満児 ・ ミルクの与え方					事前：39P～46Pまでの予習 事後：39P～46Pまでの復習		講義と演習	
17	乳児の発達と保育内容 ・ 1歳3か月～2歳未満児 ・ 2歳児の発達と保育					事前：47P～54Pまでの予習 事後：47P～54Pまでの復習		講義	
18	身体機能の発達と機能 1. 身体を動かす・赤ちゃん人形で演習					事前：55P～65Pまでの予習 事後：55P～65Pまでの復習		講義と演習	

19	身体機能の発達と機能 2. 手を洗う	事前：66P～80P までの予習 事後：66P～80P までの復習	講義
20	基本的な生活習慣の獲得と保育 1. 食べる	事前：81P～95P までの予習 事後：81P～95P までの復習	講義
21	基本的な生活習慣の獲得と保育 2. 排泄する 3. 眠る	事前：96P～106P までの予習 事後：96P～106P までの復習	講義
22	対人関係の発達と保育 1. ことばで人とつながる	事前：107P～130P までの予習 事後：107P～130P までの復習	講義
23	対人関係の発達と保育 2. 人とかかわる・どんなかかわりがあるか演習してみる	事前：131P～148P までの予習 事後：131P～148P までの復習	講義と演習
24	乳児保育と保育課程 1. 生活リズムと保育園の日課 2. 記録・保育日誌・家庭との連絡	事前：149P～158P までの予習 事後：149P～158P までの復習	講義
25	乳児保育と保育課程 3. 保育課程と指導計画の作成	事前：159P～166P までの予習 事後：159P～166P までの復習	講義
26	乳児保育と保育課程 4. 実際に日案を作って演習してみよう	事前：日案の立案 事後：他の人の日案で演習	演習
27	乳児の養育環境と乳児保育の課題 1. 家族・家庭の役割戸状況 2. 地域の変豹	事前：167P～170P までの予習 事後：167P～170P までの復習	講義
28	乳児の養育環境と乳児保育の課題 3. 児童虐待問題 4. 少子化と子育て支援	事前：171P～172P までの予習 事後：167P～174P までの復習	講義
29	乳児の養育環境と乳児保育の課題 5. 養育環境を新聞等で事例をあげ、問題提起し口頭発表する。	事前：養育環境の調査 事後：他の人の発表を聞く	口頭発表
30	まとめ	事前：全体の復習 事後：なし	講義
教本： 乳児の生活と保育 松本園子編 ななみ書房		参考文献： 保育所保育指針 厚生労働省編 フレーベル館	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（40%）、小テスト・レポート・発表等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： これからの社会における乳児保育のあり方について考えます。実践力を付けるために演習や発表を取り入れた授業内容になっています。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	認 知 情 報 演 習 (Seminar on Cognitive Information)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 村 康 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	「認知心理学」を履修していることが望ましい							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
認知心理学 (認知科学) に関する書籍を輪読する。取り上げる書籍は、初回の授業で受講者の希望を踏まえ決定する。読み進んでいく中で、理解が難しい箇所や説明が必要な部分については解説を行う。輪読した箇所は翌週「ふり返し」を行う。その際、どのような内容が書かれていたか、どのような感想を持ったかを質問するので、答えられるように各自要約ノートを作成してほしい。									
授 業 目 標 :									
認知心理学 (認知科学) に関する専門書を読み解く読解力を身につける。また、認知心理学 (認知科学) が日常生活にどのように活用できるのかについての考察力を養う。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の 進 め 方 に 関 す る 説 明 と 書 籍 の 選 定					事 前 : シ ラ バ ス の 精 読 事 後 :		演 習	
2	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
3	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説、前 回 輪 読 箇 所 の 要 約 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
4	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説、前 回 輪 読 箇 所 の 要 約 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
5	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説、前 回 輪 読 箇 所 の 要 約 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
6	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説、前 回 輪 読 箇 所 の 要 約 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
7	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説、前 回 輪 読 箇 所 の 要 約 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
8	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説、前 回 輪 読 箇 所 の 要 約 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
9	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説、前 回 輪 読 箇 所 の 要 約 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
10	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説、前 回 輪 読 箇 所 の 要 約 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
11	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説、前 回 輪 読 箇 所 の 要 約 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
12	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説、前 回 輪 読 箇 所 の 要 約 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
13	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説、前 回 輪 読 箇 所 の 要 約 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
14	テ キ ス ト 輪 読 と 解 説、前 回 輪 読 箇 所 の 要 約 発 表					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : 輪 読 箇 所 の 要 約 作 成		演 習	
15	授 業 の ま と め と 理 解 度 の 確 認					事 前 : 要 約 の 確 認 事 後 : 知 識 の 整 理		演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
初 回 授 業 時 に 指 示 す る。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
た だ 読 む の で は な く、内 容 を 考 え な が ら 読 む こ と。理 解 で き な い 点 は そ の ま ま に せ ず、そ の 場 で 積 極 的 に 質 問 を し て ほ し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	認 知 情 報 論 (Cognitive Informatics)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 村 康 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	「認 知 心 理 学」を 履 修 して いる こと が 望 ま し い							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
私 たち は 日 常 生 活 の 中 で ど の よ う に 物 事 を と ら え 、 対 処 して いる の か 。 こ の 授 業 で は 、 特 に 日 常 場 面 に お け る 認 知 活 動 に 重 点 を 置 き 、 人 間 の 認 知 過 程 に 関 す る 応 用 的 知 見 を 紹 介 し て い く 。 ま た 、 認 知 科 学 が 抱 え る 様 々 な 問 題 に も 触 れ て い き た い 。									
授 業 目 標 :									
① 日 常 場 面 に お い て ど の よ う な 認 知 的 課 題 、 問 題 が あ る の か を 理 解 し 、 説 明 で き る よ う に な る 。									
② 認 知 科 学 が 抱 え る 諸 問 題 を 理 解 し 、 考 察 す る こ と が で き る よ う に な る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	情 報 と 心 的 情 報 処 理					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : ノ ー ト の 確 認		講 義	
2	認 知 科 学 に お け る 生 態 学 的 妥 当 性					事 前 : 資 料 精 読 ・ 課 題 検 討 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義	
3	日 常 記 憶 (自 伝 的 記 憶 と 回 想)					事 前 : 資 料 精 読 ・ 課 題 検 討 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義	
4	日 常 記 憶 (自 伝 的 記 憶 の 機 能)					事 前 : 資 料 精 読 ・ 課 題 検 討 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義	
5	日 常 場 面 の 記 憶					事 前 : 資 料 精 読 ・ 課 題 検 討 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義	
6	記 憶 の 鮮 明 さ と 正 確 さ					事 前 : 資 料 精 読 ・ 課 題 検 討 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義	
7	感 情 の 認 知 的 メ カ ニ ズ ム					事 前 : 資 料 精 読 ・ 課 題 検 討 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義	
8	感 情 と 記 憶					事 前 : 資 料 精 読 ・ 課 題 検 討 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義	
9	援 助 行 動					事 前 : 資 料 精 読 ・ 課 題 検 討 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義	
10	ヒ ュ ー マ ン エ ラ ー					事 前 : 資 料 精 読 ・ 課 題 検 討 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義	
11	対 人 認 知 (顔 の 認 知)					事 前 : 資 料 精 読 ・ 課 題 検 討 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義	
12	対 人 認 知 (人 物 印 象 の 認 知)					事 前 : 資 料 精 読 ・ 課 題 検 討 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義	
13	認 知 科 学 の 問 題 点					事 前 : 資 料 精 読 ・ 課 題 検 討 事 後 : 授 業 内 容 の 復 習		講 義	
14	授 業 の ま と め					事 前 : 講 義 全 般 の 復 習 事 後 : 理 解 の 確 認		講 義	
15	理 解 度 の 確 認					事 前 : 講 義 全 般 の 復 習 事 後 : 理 解 の 補 完		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
					「グ ラ フ ィ ッ ク 認 知 心 理 学」 森 敏 昭 、 井 上 毅 、 松 井 孝 雄 サイ エ ン ス 社 ¥ 2,592				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、 定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 時 間 に 限 ら ず 、 日 常 場 面 に お け る 認 知 活 動 と い う も の 意 識 し て み て ほ し い 。 自 分 が 物 事 を 認 識 し 、 そ れ を 覚 え た り 、 思 い 出 し た り 、 あ る い は そ の 良 し 悪 し を 評 価 し た り す る と き 、 ど の よ う な 問 題 が 生 じ る か で あ る 。 そ の よ う な 意 識 を も っ て 受 講 し て も ら え れ ば 、 よ り 授 業 の 理 解 が 深 ま る と 思 う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	認 知 心 理 学 (Cognitive Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 村 康 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>私たちの身の回りには様々な対象や出来事を情報、その情報に対する私たちの認知活動（記憶や思考など）をその情報の処理としてとらえたとき、私たちの頭の中ではどのような情報処理が行なわれているのだろうか？本講義では、情報論的観点から人間の認知過程を解明しようとする研究を取り上げ、それらの研究から得られた知見を紹介していきたい。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>①認知心理学的な人間のとらえ方を理解できるようになる。 ②形態認知や注意、記憶、思考といった基礎的な認知機能に関する研究知見を説明できるようになる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	認 知 心 理 学 と は ? 情 報 論 的 な 人 間 理 解					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : 教 本 導 入 部 の 精 読		講 義	
2	神 経 系 と 心 的 情 報 の 処 理					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
3	形 態 の 認 知					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
4	ボ ト ム ア ッ プ と ト ッ プ ダ ウ ン					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
5	人 間 の 注 意 の 特 性					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
6	注 意 の メ カ ニ ズ ム に 関 す る 議 論					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
7	記 憶 の 働 き					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
8	記 憶 の 情 報 処 理 モ デ ル (二 重 貯 蔵 モ デ ル)					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
9	記 憶 の 情 報 処 理 モ デ ル (作 業 記 憶)					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
10	記 憶 情 報 の 種 類					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
11	忘 却 と 偽 り の 記 憶					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
12	知 識 と 表 象、人 間 の 思 考 の 特 徴					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
13	創 造 的 思 考					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
14	授 業 の ま と め					事 前 : 教 本 当 該 箇 所 精 読 事 後 : 教 本 ・ ノ ー ト の 確 認		講 義	
15	理 解 度 の 確 認					事 前 : 講 義 内 容 の 復 習 事 後 : 理 解 の 補 完		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「グラフィック 認知心理学」森 敏昭、井上 毅、松井 孝雄 サイエンス社 ¥2,592					必要に応じて授業中に指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (10%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (80%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
認 知 心 理 学 の 面 白 さ は、実 験 から 目 に は 見 え ない 人 間 の 心 の メ カ ニ ズ ム を 探 る こ と に 在 る。実 験 の 方 法 や 結 果 と、そ こ から 導 け る 心 の メ カ ニ ズ ム に 関 す る 考 察 の 関 係 性 を と ら え て ほ し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ネットワーク技術 (Network Technology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	立野 貴之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 現代社会では様々な情報機器から、インターネットへの接続が可能となり、利用する知識が必須となっている。この背景にあるコンピュータとインターネットのしくみや社会の動き、情報通信技術と発展について紹介しながら、情報通信技術の問題点と利便性について、体験的に理解する。									
授業目標： 授業では、ネットワークとネットワークを介したコンピュータの利用について基本的な概念と考え方および活用の実際について解説し、コンピュータネットワークの基礎知識の習得を目指す学生に向けた内容とする。無線・有線通信、またネットワーク構成などネットワークの基礎を解説した後、ネットワーク接続の実践、PCや携帯端末などに応用されている考え方や、その利用についてグループで実習や議論をする。講義と実習を通して、コンピュータネットワークに関して理解した上で、今後のネットワーク技術のあり方を各グループで発表をしてもらう。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス／コンピュータネットワークとは					事前：資料の準備 事後：配布資料の確認		講義	
2	情報通信技術の歴史					事前：資料の準備 事後：配布資料の確認		講義	
3	インターネットと通信サービス					事前：資料の準備 事後：配布資料の確認		講義	
4	実習（1）コンピュータ通信の基礎					事前：資料の準備 事後：配布資料の確認		講義	
5	最新の情報通信技術（ICT）の活用事例（1）コンピュータネットワークサービス					事前：資料の準備 事後：配布資料の確認		講義	
6	最新の情報通信技術（ICT）の活用事例（2）コンピュータネットワーク技術					事前：資料の準備 事後：配布資料の確認		講義	
7・8	実習（2）（3）コンピュータネットワーク					事前：資料の準備 事後：配布資料の確認		講義	
9・10	最新の情報通信技術（ICT）の活用事例（3）（4）モバイルネットワークサービス					事前：資料の準備 事後：配布資料の確認		講義	
11・12	実習（4）（5）モバイルネットワーク					事前：資料の準備 事後：配布資料の確認		講義	
13	ディスカッション					事前：ディスカッション準備 事後：フィードバック確認		講義	
14・15	グループ発表（1）（2）					事前：発表準備 事後：フィードバック確認		講義	
教本： ガイダンスで指示する。					参考文献： 講義中に指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（30%）、提出課題（30%）、グループ発表（40%）の評価から判断する。 平常点：授業課題、授業への参加度 提出課題：小テスト、レポートなど									
学生へのアドバイス： やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、または、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにしてください。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。また、授業のグループワークでは、欠席などでグループのメンバーに迷惑をかけないよう努力してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ネットワーク構築論 (Network System)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岸 康 人								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 : インターネットを支える通信技術について、接続やデータやりとりの方法について学習する。									
授 業 目 標 : インターネットや関連技術は、日常生活での不可欠なインフラであると言っても過言ではない。企業や学校、家庭内、町中の様々なデバイスがネットワークに接続されようとしている。PCやスマートフォンだけでなく、ネットワークに接続された機器は、機器同士が互いに会話をするように、データのやりとりをすることによって、様々な機能が実行可能となる。本講義では、このような機器がネットワーク上で会話をするための技術について学習する。達成目標は次の3点である：(1) 通信レイヤーとプロトコルについて理解する、(2) IPアドレスとネットワークの設定について習得する、(3) 主要なアプリケーション層の挙動を知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、ネットワーク通信の概要					事前：シラバスを読む 事後：資料の復習		講義	
2	通信プロトコルとレイヤー					事前：教本の該当部分を読む 事後：資料の復習		講義	
3	OSI参照モデル、LANとWAN					事前：教本の該当部分を読む 事後：資料の復習		講義	
4	ネットワーク同士の接続、通信の概念モデル					事前：教本の該当部分を読む 事後：資料の復習		講義	
5	小テストと解説					事前：テスト対策 事後：誤答の修正		小テスト・講義	
6	IPアドレスとルーティング					事前：教本の該当部分を読む 事後：資料の復習		講義	
7	ドメイン、サブネット、アドレス変換					事前：教本の該当部分を読む 事後：資料の復習		講義	
8	TCP/UDPとポート番号					事前：教本の該当部分を読む 事後：資料の復習		講義	
9	小テストと解説					事前：テスト対策 事後：誤答の修正		小テスト・講義	
10	DNS、Web閲覧とHTTP					事前：教本の該当部分を読む 事後：資料の復習		講義	
11	メールとSMTP/POP3/IMAP					事前：教本の該当部分を読む 事後：資料の復習		講義	
12	FTP/SSH					事前：教本の該当部分を読む 事後：資料の復習		講義	
13	ネットワークのセキュリティー					事前：教本の該当部分を読む 事後：資料の復習		講義	
14	小テストと解説					事前：テスト対策 事後：誤答の修正		小テスト・講義	
15	まとめ					事前：不明な点をまとめる 事後：資料の復習		講義	
教本： イラスト図解式 この一冊で全部わかるネットワークの基本、福永 勇二著、SBクリエイティブ、¥1,814					参考文献： 講義内で随時指示する。				
成績評価の方法、評価基準： ほぼ毎回出題する課題の提出 (50%)、小テスト (50%) で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 提出物が欠けている場合、単位を認定しない。教本は授業の問題を考えるための入り口であり、授業前に一読しておくこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

は

開 講 年 次	2 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	発 達 心 理 学 概 論 (Developmental Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 淳 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>誕生から(生まれる以前からも)死に至るまでの人間発達について考えるのが(生涯)発達心理学です。本講座では、子どもの発達に重点を置きながら学んでいきますが、人は各ステージで切り離されて発達するものではありません。どのステージも連続性の中にあり、また独自性もあることを踏まえて人生の全体像を見据えて発達を考えていきます。また、発達には個人差がありますので遅れていたり、偏っていたりする場合の支援についても考えていきたいと思います。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達心理学の理論や方法論を学び、実践への活用を考える。 2. 乳児期から青年期までの発達の特徴を知り、発達支援の手立てを考える。 3. 成人期・老年期の発達の特徴を知り、人間発達について考える。 4. 発達障害について理解し、その支援方法を学ぶ。 									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	1. 発達心理学の意義—何にどう役立つのか— (1) 教育・保育と発達心理学 (2) 福祉と発達心理学					事前：なし 事後：なし		講義	
2	2. 発達心理学の基本理解—発達とは何か— (1) 発達の順序性と方向性					事前：なし 事後：なし		講義	
3	(2) 発達の規定要因—遺伝と環境—					事前：なし 事後：なし		講義	
4	(3) 発達の段階と発達課題—① フロイト、エリクソン					事前：なし 事後：なし		講義	
5	(4) 発達の段階と発達課題—② ピアジェ、ハヴィガースト					事前：なし 事後：なし		講義	
6	3. 胎児期・乳児期の発達 (1) 胎児期の発達の特徴					事前：なし 事後：なし		講義	
7	(2) 乳児期の発達の特徴					事前：なし 事後：なし		講義	
8	(3) 胎児期・乳児期の障害					事前：なし 事後：なし		講義	
9	4. アタッチメント(愛着)の形成 (1) 親子関係—出産前と出産後—					事前：なし 事後：なし		講義	
10	(2) 愛着の発達段階と分類—ボウルビィ、エインズワース					事前：なし 事後：なし		講義	
11	(3) 養育者との関係から見た愛着形成—虐待					事前：なし 事後：なし		講義	
12	(4) 子どもがいる家族のライフサイクル					事前：なし 事後：なし		講義	
13	5. 幼児期・児童期の発達—認知発達— (1) 遊びの発達					事前：なし 事後：なし		講義	
14	(2) 遊びから見る認知発達—感覚運動的思考— (3) 遊びから見る認知発達—表象と象徴機能—					事前：なし 事後：なし		講義	
15	(4) 保存概念と直観的思考 (5) 想像性の発達					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教 本 : 使 用 し な い。適 宜、参 考 資 料 を 配 布。</p> <p>参 考 文 献 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無藤隆/中坪史典/西山修編著 発達心理学 ミネルヴァ書房 ¥2,200 ・高橋道子/藤崎真知代/仲真紀子/野田幸江著 新曜社 ¥1,900 ・柏木恵子著 子どもも育つおとなも育つ発達の心理学 萌文書林 ¥2,000 他 									
<p>成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。</p> <p>授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。</p>									
<p>学 生 へ の ア ド バ イ ス :</p> <p>授 業 で は、一 方 的 な 講 義 で は な く、学 生 に 考 え て も ら う 時 間 も 用 意 し ま す。ま た、単 元 に よ っ て は 前 も っ て 発 表 者 を 決 め て お き、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン を 行 っ て も ら う こ と も あ り ま す。中 村 か ら 質 問 し た り、学 生 か ら の 意 見 を 受 け た り な ど 活 気 の あ る 授 業 に し た い と 思 い ま す。受 け 身 な 態 度 で は な く、自 身 の 考 え を 表 現 で き る よ う に 心 が け て く だ さ い。</p>									
<p>オ フ ィ ス ア ワ ー :</p> <p>初 回 講 義 日 に 伝 え る。水 曜 日 の 昼 休 み。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	発達と学習の心理 (Psychology of Development and Learning)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	作間 祐子								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>教師が子どもとの教育的関わりを持つ際、その発達プロセスや生育環境との関わり、学習の状況について基本的に理解していることが大前提である。本講義では、発達や学習に関わる最新情報も取り入れながら、乳児期からの発達と学習のプロセスの基礎的内容と発達の偏りについて学び、発達課題の意義を理解できるようにすることで、教育活動における基礎的・実践的な力量を養うことを目指す。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>生育環境の中で発達と学習が力動的に絡まりながら育っていくプロセス及び各発達段階における心理的特性を理解することで、幼児、児童及び生徒の教育活動の内容や、個々に配慮した関わりについての考えを深めることができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	〔オリエンテーション〕教育の基礎理論としての「発達と学習の心理」を学ぶ意義と授業の概要					事前：自身の抱くイメージをまとめておく 事後：疑問を整理する		講義	
2	〔発達と学習とは〕発達と学習にかかわる視点や基礎知識を代表的理論をふまえて概説する					事前：プリントを読む 事後：理解したことの整理		講義	
3	〔発達と学習のプロセス①〕1歳までの各側面での発達とその後の発達と関係について					事前：プリントの予習 事後：理解したことの整理		講義	
4	〔発達と学習のプロセス②〕愛着関係の成立とその後の社会性・人格発達について					事前：プリントの予習 事後：理解したことの整理		講義・演習	
5	〔発達と学習のプロセス③〕乳幼児期の言語発達とその後のコミュニケーションについて					事前：プリントの予習 事後：課題		講義・演習	
6	〔発達と学習のプロセス④〕幼児期の言語認知学習について					事前：課題のまとめ 事後：理解したことの整理		講義	
7	〔発達と学習のプロセス⑤〕目と手の協応による操作と認知能力との関係について					事前：プリントの予習 事後：課題		講義	
8	〔発達と学習のプロセス⑥〕仮説・検証的に学習していく子どもと養育・教育環境との関係					事前：課題のまとめ 事後：理解したことの整理		講義	
9	〔発達をふまえた学習支援〕発達の最近接領域や他の学習理論に基づいた適切な関わりについて					事前：プリントの予習 事後：理解したことの整理		講義	
10	〔子どもの状態像の見立て〕発達をふまえるために対象児をどのように見立てたらいいかを実習					事前：プリントの予習 事後：理解したことの整理		講義・演習	
11	〔見立てとその対応〕見立ての結果をふまえ、どのように対応できるかを検討					事前：前回情報の整理 事後：理解したことの整理		講義と討議	
12	〔集団における力動関係の理解と対応①〕：幼児の心身の発達をふまえた力動性と集団のあり方について					事前：事例の調査 事後：理解したことの整理		講義	
13	〔集団における力動関係の理解と対応②〕：児童の心身の発達をふまえた力動性と集団のあり方について					事前：前回情報の整理 事後：理解したことの整理		講義	
14	〔集団における力動関係の理解と対応③〕：生徒の心身の発達をふまえた力動性と集団のあり方について					事前：前回情報の整理 事後：理解したことの整理		講義	
15	〔教育評価の意味〕：教師自身もふくめ、人間の評価のあり方と生かし方について					事前：これまでの学びを振り返る 事後：		まとめ	
<p>教本：</p> <p>毎回授業プリント、関連資料を提供。</p>					<p>参考文献：</p> <p>田中真介監修『発達がわかれば子どもが見える』（ぎょうせい、2009）</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>各回の授業内容についての理解や質問などのミニレポート（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>自身の生活経験をふまえ、より身近なこととして積極的に取り組んでほしい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	比較文化論 I (Comparative Culture I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	異文化コミュニケーション論 または 異文化共生論							
	その他	なし							
授業概要： グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。									
授業目標： 1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概要の説明 ◇比較文化論の全体像を概観する。					事前：教本 pp.1~3精読 事後：講義の復習		講義	
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流					事前：教本 pp.3~9精読 事後：講義の復習		講義	
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史～中国少数民族の生活を訪ねて					事前：教本 pp.236~242精読 事後：講義の復習		講義	
4	文 化 ① せめぎ合いの場としての文化～文明の衝突					事前：教本 pp.11~16精読 事後：講義の復習		講義	
5	文 化 ② 外国人として生きる～オリエンタリズムと白人性					事前：教本 pp.16~19精読 事後：講義の復習		講義	
6	コミュニケーション ① コミュニケーション能力と寛容性					事前：教本 pp.19~24精読 事後：講義の復習		講義	
7	コミュニケーション ② 〈想像／創造する力〉としてのコミュニケーション					事前：教本 pp.24~31精読 事後：講義の復習		講義	
8	言 語 ① 英語帝国主義～日本人はなぜ英語が話せないのか？					事前：教本 pp.108~117精読 事後：講義の復習		講義	
9	言 語 ② 国家と標準語・方言～異文化としての名古屋ことば					事前：教本 pp.117~134精読 事後：講義の復習		講義	
10	非言語 ① 非言語メッセージとステレオタイプ					事前：教本 pp.135~144精読 事後：講義の復習		講義	
11	非言語 ② 沈黙の意味～日本人と以心伝心					事前：教本 pp.144~152精読 事後：講義の復習		講義	
12	時間・空間—記憶と忘却					事前：教本 pp.152~157精読 事後：講義の復習		講義	
13	発展学習 ① 生物多様性と文化					事前：配布物の精読 事後：講義の復習		講義	
14	発展学習 ② 建築と文化					事前：配布物の精読 事後：講義の復習		講義	
15	まとめ					事前：これまでの復習 事後：まとめノートの作成		講義	
教本： 石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション—多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 小レポート（40%）、期末試験（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	比較文化論Ⅱ (Comparative Culture Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	比較文化論Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。									
授業目標： 1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概要の説明 ◇比較文化論Ⅱの全体像を概観する。					事前：シラバス精読 事後：講義の復習		講義	
2	異空間としてのメディア ① 現代の映像メディアと文化～世界を見るレンズ					事前：教本 pp.83～95精読 事後：講義の復習		講義	
3	異空間としてのメディア ② メディアと権力～メディアが世界を変える!?					事前：教本 pp.95～108精読 事後：講義の復習		講義	
4	メディアと文化 ① グローバル社会とメディア文化					事前：教本 pp.37～50精読 事後：講義の復習		講義	
5	メディアと文化 ② 戦争の記憶、記憶の戦争					事前：教本 pp.50～59精読 事後：講義の復習		講義	
6	異文化接触 ① 「カルチャーショック」と適応～異文化との出会い					事前：教本 pp.61～90精読 事後：講義の復習		講義	
7	異文化接触 ② アイデンティティと「他者」～自分探しの意味とは					事前：教本 pp.90～108精読 事後：講義の復習		講義	
8	文化のポリティクス ① 現実はつくられる～アフリカと貧困・開発					事前：教本 pp.159～169精読 事後：講義の復習		講義	
9	グローバリゼーションの行方 ① グローバル化と格差社会～貨幣と文化					事前：教本 pp.181～188精読 事後：講義の復習		講義	
10	グローバリゼーションの行方 ② 画一化されない食文化					事前：教本 pp.189～192精読 事後：講義の復習		講義	
11	グローバリゼーションの行方 ③ オルタナティブな世界の構築に向けて					事前：教本 pp.192～205精読 事後：講義の復習		講義	
12	研究発表1					事前：発表準備 事後：発表評価表の作成		講義	
13	研究発表2					事前：発表準備 事後：発表評価表の作成		講義	
14	研究発表3					事前：発表準備 事後：発表評価表の作成		講義	
15	まとめ					事前：これまでの復習 事後：まとめノートの作成		講義	
教本： 石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション －多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業中の小レポート（40%）、レポート（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ビジネストラベル論 (Business Travel)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	澤田 利彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 世界観光機関 (UNWTO) の観光 (tourism) の定義には、個人や団体の休暇旅行だけでなく、企業や団体などの構成員による業務旅行 (business tourism) も含まれている。ビジネストラベルは、旅行産業や宿泊産業だけでなく航空などの交通産業もこのビジネストラベルに大きく依存している重要なセグメントである。講義では、旅行会社によるコーポレートトラベルマネジメント (CTR) や最近注目を浴びているコンベンションビジネス (MICE 産業) などについて学ぶ。									
授業目標： ビジネストラベルの意義と現状を理解すること。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式 (注)WS：授業終了前20分程度で、与えられたテーマについて150字程度の文章を作成・提出									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	イントロダクション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	ビジネストラベルの全体像1、まとめ、WS ^(注)					事前：予習 事後：復習		講義	
3	ビジネストラベルの全体像2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
4	ビジネストラベルと旅行会社、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
5	コーポレートトラベルマネジメント (CTR)、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
6	ビジネストラベルと交通産業、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
7	ビジネストラベルと宿泊産業、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
8	ビジネストラベルとコンベンション産業1、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
9	ビジネストラベルとコンベンション産業2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
10	インセンティブトラベル、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
11	コーポレートミーティング、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
12	コンベンションビューロー、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
13	コンベンション・マーケティング1、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
14	コンベンション・マーケティング2、まとめ、WS					事前：予習 事後：復習		講義	
15	後期まとめ					事前：予習 事後：復習		講義	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 平常点 (小テスト、授業内容への参加状況、受講態度) (50%) と定期試験 (50%) で総合的に評価する。									
学生へのアドバイス： 講義が一方通行にならぬよう Q&A の時間を毎回設けると共に随時ディスカッションの時間もとる予定。学生諸君の積極的な参加を期待します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選 択 ・ 必 修		単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ビジネス法 I (Business Law I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前 提 科 目	私法学 I 私法学 II (可能な限り、同時履修も含め望ましい。)							
	そ の 他								
<p>授業概要：</p> <p>商法は民法の特別法といわれ、企業組織および企業取引について規定します。民法とのつながりで商法総則・商行為法をみていくことにより、ビジネス法ないし企業取引法としての解説を試みます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>企業組織と企業取引についての概要および法的ものの見方を身に付けることを目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス (開講にあたって)					事前：事後：講義の復習		講義	
2	商法の意義 (商法とは何か。)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
3	商法の形成と展開・商法の法源					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
4	商法総則・商行為法の構造					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
5	企業主体としての商人・会社					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
6	商人資格と商人資格の得喪時期					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
7	営業・事業および営業所					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
8	営業譲渡・事業譲渡					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
9	商号 (商人の営業上の名称)					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
10	名板貸責任					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
11	商業登記の概要					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
12	商業登記の対抗力					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
13	商業帳簿と公正なる会計慣行					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
14	商業帳簿の作成と備置					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
15	まとめ					事前：講義の予習 事後：講義の復習		講義	
教本：					参考文献：				
「ポケット六法」(有斐閣)は、必ず準備してください。					初回講義日に伝えます。				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業内容への参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心がけてください。予習・復習もお願いします。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ビ ジ ネ ス 法 II (Business Law II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新 城 将 孝								
履 修 条 件	前 提 科 目	ビ ジ ネ ス 法 I (必 須 で は あ り ま せ ン 。 原 則 、 承 継 ・ 継 続 し て 講 義 し ま す 。 留 意 を お 願 い し ま す 。)							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
商 法 は 民 法 の 特 別 法 と い わ れ 、 企 業 組 織 お よ び 企 業 取 引 に つ い て 規 定 し ま す 。 ビ ジ ネ ス 法 I を 受 け 継 ぎ (継 続 と し) 、 民 法 と の つ な が り で 商 法 総 則 ・ 商 行 為 法 を み て い く こ と に よ り 、 ビ ジ ネ ス 法 な い し 企 業 取 引 法 と し て の 解 説 を 試 み ま す 。									
授 業 目 標 :									
企 業 組 織 と 企 業 取 引 に つ い て の 理 解 を 深 化 さ せ 、 法 的 も の の 見 方 を さ ら に 身 に 付 け る こ と を 目 標 と し ま す 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス (開講にあたって)					事前 : 事後 : 講義の復習		講義	
2	企業取引の補助者 (商業使用人・代理商)					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
3	企業取引の補助者 (仲立人・取次人)					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
4	商行為通則					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
5	商事契約の成立					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
6	商事代理					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
7	商事売買					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
8	交互計算					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
9	有価証券					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
10	匿名組合					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
11	仲立営業・取次営業					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
12	運送営業					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
13	倉庫営業					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
14	保険営業					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
15	まとめ					事前 : 講義の予習 事後 : 講義の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「ポケット六法」(有斐閣)は、必ず準備してください。					初回講義日に伝えます。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30 %) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20 %) 、 定 期 試 験 (50 %) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 へ の 参 加 等 を 積 極 的 と し 、 特 に 六 法 の 活 用 を 心 が け て く だ さ い 。 予 習 ・ 復 習 も お 願 い し ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え ま す 。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ビジュアル情報論 (Visual Digitalization)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	立野 貴之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>情報をビジュアル的に表現や処理するためには、まずデジタル情報として視覚的に必要な内容を選択し、それらを整理や分類した上で、わかりやすく再構築する必要がある。授業での目標は、情報のビジュアル化のプロセスを学び、複雑で理解しにくい情報を、コンピュータを活用して誰にでもわかりやすく表現・処理する方法論を理解することである。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>この授業では、映像やコンピュータ、インターネットなど電子メディアと深くかかわるデジタル表現、また、それをとりまくメディアの可能性と課題、情報課社会における重要なコミュニケーションのツールとしてのビジュアル情報に関するリテラシーについて講義する。コンピュータにおけるビジュアル情報に関する知識・技術だけでなく、情報の整理・分類や情報の構造化などについて学習し、グループで議論をする。そして、情報を誰にでもわかりやすく伝えることができるようにデザインする方法論を理解し、グループで発表をしてもらう。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス／ビジュアル情報とは					事前：なし 事後：確認課題		講義	
2	視覚情報のデジタル化					事前：配布プリント 事後：確認課題		講義	
3	ビジュアル情報に関するリテラシー					事前：配布プリント 事後：確認課題		講義	
4	Web上の静止画と動画					事前：配布プリント 事後：確認課題		講義	
5	デジタル映像処理の原理					事前：配布プリント 事後：確認課題		講義	
6	多様な映像表現					事前：配布プリント 事後：確認課題		講義	
7・8	ビジュアル情報とコミュニケーション (1) (2) 視覚化と伝達技術					事前：配布プリント 事後：確認課題		講義	
9	ビジュアル情報とアニメーション (1) 視覚化の技術					事前：配布プリント 事後：確認課題		講義	
10	ビジュアル情報とアニメーション (2) コンピュータグラフィックス					事前：配布プリント 事後：確認課題		講義	
11・12	実習 (1) (2) コンピュータグラフィックス演習					事前：配布プリント 事後：確認課題		講義	
13	ディスカッション					事前：配布プリント 事後：確認課題		講義	
14・15	グループ発表 (1) (2)					事前：配布プリント 事後：確認課題		講義	
<p>教本：ガイダンスで指示する</p> <p>参考文献：講義中に指示する。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>平常点 (30%)、提出課題 (30%)、グループ発表 (40%) の評価から判断する。</p> <p>平常点：授業課題、授業への参加度</p> <p>提出課題：小テスト、レポートなど</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>必要に応じてコンピュータ演習を行います。やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、または、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにしてください。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。また、授業のグループワークでは、欠席などでグループのメンバーに迷惑をかけないよう努力してください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	美 術 史 (Art History)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	平 野 由 里 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
おもに西洋美術史の流れを追って、古代からスライド等で美術作品を見ていきます。また、その作品が生まれた歴史的背景についても適宜解説し、作品理解を深めます。日本美術史についても最重要項目については取り上げます。									
授 業 目 標 :									
まずは美術に対する敷居を取り払ってほしいです。半期の授業ですが、長いスパンの美術を見ていくので、おおよその流れが把握できるようになっていただきたいです。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス「オールドマスターへの誘い」・ 日本美術史(1) 仏像について					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
2	日本美術史(2) 平安・鎌倉・室町・桃山時代					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
3	日本美術史(3) 江戸時代					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
4	西洋美術史(1) 古代オリエント～ギリシャ・ローマ					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
5	西洋美術史(2) 中世 I					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
6	西洋美術史(3) 中世 II					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
7	西洋美術史(4) 15世紀北方					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
8	西洋美術史(5) 15世紀イタリア					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
9	西洋美術史(6) 盛期ルネサンス					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
10	西洋美術史(7) 16世紀イタリア					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
11	西洋美術史(8) 北方ルネサンス					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
12	西洋美術史(9) 17世紀イタリア・スペイン					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
13	西洋美術史(10) 17世紀フランドル・オランダ					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
14	西洋美術史(11) 18世紀					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
15	西洋美術史(12) 19世紀					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし					カラー版 日本美術史/カラー版 西洋美術史 ともに美術出版社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
見 て、感 じ て、考 え て、自 分 の 言 語 で 表 現 す る こ と を 心 が け て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ファイナンシャル・プランニングⅠ (Financial Planning I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	高原 和之								
履 修 条 件	前提科目	ファイナンシャル・プランニングⅡも履修すること。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>「3級FP(ファイナンシャル・プランニング)技能検定」の取得を希望する学生、資金計画・保険・金融資産運用について基礎知識を習得したい学生を対象に、「3級FP技能検定」の過去問を解きながら知識の習得を図ります。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>「3級FP技能検定」に合格できる基礎知識を身につけること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	ライフプランニングと資金計画①					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
2	ライフプランニングと資金計画②					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
3	ライフプランニングと資金計画③					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
4	ライフプランニングと資金計画④					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
5	リスクマネジメント① ミニテスト①(範囲：1回～4回)					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
6	リスクマネジメント②					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
7	リスクマネジメント③					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
8	リスクマネジメント④					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
9	金融資産運用① ミニテスト②(範囲：5回～8回)					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
10	金融資産運用②					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
11	金融資産運用③					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
12	金融資産運用④					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
13	総合演習① ミニテスト③(範囲：9回～12回)					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
14	総合演習②					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
15	総復習テスト(範囲：1回～14回)					事前：なし 事後：テスト問題の復習		講義および演習	
<p>教本：</p> <p>なし。毎回プリントを配布します。</p>					<p>参考文献：</p> <p>みんなが欲しかった！FPの教科書 3級 (TAC出版)</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等(40%)、小テスト・レポート等(60%)等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業内外でのグループワークがあります。学生間の協力と学び合いを期待します。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ファイナンシャル・プランニングⅡ (Financial Planning Ⅱ)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	高原 和之								
履 修 条 件	前提科目	ファイナンシャル・プランニングⅠも履修すること。							
	その他	なし							
授業概要： 「3級FP(ファイナンシャル・プランニング)技能検定」の取得を希望する学生、税金・不動産・相続・事業承継について基礎知識を習得したい学生を対象に、「3級FP技能検定」の過去問を解きながら知識の習得を図ります。									
授業目標： 「3級FP技能検定」に合格できる基礎知識を身につけること。									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	タックスプランニング①					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
2	タックスプランニング②					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
3	タックスプランニング③					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
4	タックスプランニング④					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
5	不動産① ミニテスト①(範囲：1回～4回)					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
6	不動産②					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
7	不動産③					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
8	不動産④					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
9	相続・事業承継① ミニテスト②(範囲：5回～8回)					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
10	相続・事業承継②					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
11	相続・事業承継③					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
12	相続・事業承継④					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
13	総合演習① ミニテスト③(範囲：9回～12回)					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
14	総合演習②					事前：なし 事後：演習問題の復習		講義および演習	
15	総復習テスト(範囲：1回～14回)					事前：なし 事後：テスト問題の復習		講義および演習	
教本： なし。毎回プリントを配布します。					参考文献： みんなが欲しかった！FPの教科書 3級 (TAC出版)				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等(20%)、ミニテスト・総復習テスト(80%)で総合評価します。定期試験は実施しません。									
学生へのアドバイス： 授業で実施した演習問題を、理解できるまで復習してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	フイールドワーク (Field Work)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菅 沼 憲 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	質 的 調 査 法 を 履 修 し て い る こ と 。							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
街 に出 て 地 域 社 会 が 直 面 す る 課 題 を 解 決 す る 目 標 に 質 的 調 査 法 (研 究 法) を 駆 使 し 探 求 し ます 。 そ こ で 、 質 的 調 査 法 が 履 修 済 み で あ る こ と を 前 提 条 件 に し ます 。 な お グ ル ー プ ・ ワ ー ク が 基 本 で す か ら 、 原 則 と し て 欠 席 は 認 め ま せ ン 。									
授 業 目 標 :									
① 地 域 社 会 を 対 象 に パ ー ト ナ ー 関 係 を 形 成 し 調 査 研 究 す る 態 度 を 育 成 す る 。									
② チ ー ム ワ ー ク で 課 題 達 成 す る 協 働 関 係 力 を 学 ぶ 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義	
2	リ レ ー シ ョ ン 形 成					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
3	ワ ー ク デ ザ イン を 考 え る					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
4	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン の 手 順					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
5	ワ ー ク デ ザ イン の 実 施					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
6	リ サ ー チ マ イ ン ド の 育 成					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
7	プ レ ゼ ン ・ シ ー ト の 作 成					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
8	ワ ー ク 成 果 の 発 表					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
9	フ ィ ー ド バ ッ ク					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
10	地 域 社 会 へ の 提 言					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
11	今 後 の 課 題 解 決 へ の 展 望					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
12	自 己 ・ 他 者 ・ 社 会 と の 関 係 性 を 考 え る					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
13	フ ィ ー ル ド ワ ー ク で の 学 び と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
14	フ ィ ー ル ド ワ ー ク で 情 報 発 信					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義 と 演 習	
15	授 業 の ま と め					事 前 : な し 事 後 : 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『 W I N - W I N - W I N ワ ー ク ブ ッ ク 』 、 菅 沼 憲 治 、 菅 原 印 刷 株 式 会 社					授 業 中 に 随 時 紹 介 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。									
授 業 参 加 状 況 等 (60%) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 内 外 で の フ ィ ー ル ド ワ ー ク が 中 心 の 授 業 で す 。 学 生 相 互 の コ ラ ボ レ ー シ ョ ン を 求 め ます 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え ます 。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	物理学 (Physics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	安村 薫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>自然科学 (Natural Science, Physical Science) で扱うさまざまな現象の中から法則性のある事柄を選び出して、それらを論理的に組み立てなおして記述することで、自然現象の背後にあるより基本的・基礎的な法則を理解しようとする学問が物理学 (Physics) である。この講義では、中学や高校で学習している物理学のエッセンスとなる基礎的な項目を題材として、それらの法則を背後にある考え方や自然理解の仕方を身につけることを目指す。</p> <p>授業目標：</p> <p>中学や高校で学習している物理学のエッセンスとなる基礎的な項目を題材として、それらの法則を背後の考え方や自然理解の仕方を身につけることを目標とする。簡単な例題や練習問題を通して、公式の丸暗記やHow Toではない科学思考法を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス、自然科学・物理学を学ぶ意義					事前： 事後：課題・宿題		講義	
2	科学史の視点から、物理学とは何か					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
3	物理量間の関係式、物理量と単位系、数値データの精度と有効数字					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
4	物理学における数式の意味、単位の計算と単位の換算					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
5	力学の基礎、質点の運動、速度の定義と微分					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
6	1次元の運動、速さと速度、x-tグラフ、等速度運動の式とグラフ					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
7	速度の変化する運動、等加速度運動 (1次元)、 v-tグラフと加速度及び移動距離 (微分と積分)					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
8	運動の法則					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
9	万有引力、質量・重さ・重力					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
10	ベクトル量、力の合成と分解 (成分)、位置座標と変位ベクトル					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
11	速度ベクトル、合成速度と相対速度					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
12	運動方向が変化する場合の加速度、等速円運動・向心加速度と向心力					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
13	座標変換と見かけの力・慣性力、遠心力とコリオリ力					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
14	力学的エネルギーと仕事					事前：前回までの復習 事後：課題・宿題		講義	
15	まとめ					事前：前回までの復習 事後：		試験	
<p>教本： プリント配布、ネットにアップロード</p>					<p>参考文献： 必要に応じて授業時に紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業時の課題提出と小テスト (40%)、宿題・レポート (40%)、定期試験 (20%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 欠席をせず、集中して真剣に授業を受けてください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	不動産ファイナンス論 (The Theory of Real Estate Finance)						科目分類	専門科目	
担当教員	志築 学								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 不動産ファイナンスについての概要を学ぶことにより、融資と投資の両面に関わるその概念を確認する。 先ず、不動産関連融資の諸問題（住宅ローンの数理、サブプライムローン破綻問題等）を学び、問題点を探る。さらに不動産投資商品のうち「リート」に焦点を当て、金融商品としての内容、仕組み、特性（収益性、リスク等）を具体的に解明するとともにその功罪を明らかにする。									
授業目標： 1. 主として投資（直接金融）に関する不動産ファイナンスのより深い専門的知識を取得し、なかでも不動産流動化手法の一環としての代表的商品である「リート」について、その功罪両面から理解する。 2. 同時に、不動産関連融資（間接金融）なかでも住宅ローンやいわゆるリーマンショックの引き金となったサブプライムローン破綻問題は重要であり、この点についての十分な理解が求められる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	本講義の意義と全体像および講義方法、講義の基本的スタンス（特に（I）との関連、位置づけ等）についての説明					事前：1)のレジメに目を通しておく 事後：関心テーマとのすり合わせ			講義
2	不動産ファイナンスの基礎理論 i)－間接金融と直接金融の双方に関係し、デット、エクイティーにわたる不動産ファイナンス					事前：前回配布したレジメに目を通す 事後：理解度をチェックし、不明点を質問する			講義
3	不動産ファイナンスの基礎理論 ii)－融資（間接金融）に関わる不動産ファイナンスの概観（住宅ローンの数理等）					事前：前回の疑問点、不明点のチェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
4	不動産ファイナンスの基礎理論 iii)－住宅ローンの数理					事前：前回の疑問点、不明点のチェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
5	不動産ファイナンスの基礎理論 iv)－サブプライムローンの破綻とリーマンショック					事前：ローンの数理についての疑問点チェック 事後：レジメ、ノートの復習（例題の計算）			講義
6・7	不動産証券化の基礎－不動産の流動化と証券化および「不動産証券化」の基本的メカニズム					事前：前回についての疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
8	目的分類別に見た不動産証券化の基本的スキーム－資産流動化、資産運用、不動産開発事業資金の調達					事前：不動産証券化についての疑問点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
9	不動産証券化商品における「リート」(REIT) の位置づけ					事前：前回の疑問点、不明点のチェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
10	Jリートの基本的メカニズムと商品特性－抱えるリスクと問題点					事前：前回の疑問点、不明点のチェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
11	投資信託の意味とメカニズム					事前：Jリートについての疑問点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
12	Jリートを中心とする不動産証券化商品の実態 i)－「不動産証券化の実態調査」(国土交通省)に基づく全体的動向と特徴					事前：前回の疑問点、不明点のチェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
13・14	Jリートを中心とする不動産証券化商品の実態 ii)－同調査に基づく用途（オフィス、住宅等々）別、都道府県別の投資額動向					事前：前回の疑問点、不明点のチェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
15	講義の全体整理と試験内容等についての説明					事前：全体にわたって質疑応答 事後：試験についての質問			講義
教本： レジメやパワーポイントを用いるので特に指定しない。随時配布する資料を十分に読み込むこと。					参考文献： 特に指定しない（現状では、本講義内容、レベルに適したものはない）。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 試験はできるだけ負担の少ない方式（レポート等）を考えるので、恐れずに受講して欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	フランス語 I (French I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	平野 由里子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>語学を学ぶことは異文化理解への扉を開くことです。しかし苦手意識が先行すると、その扉が重くてなかなか開かないものになってしまいがちです。この授業ではシンプルな題材を用い、少しでも苦手意識を軽くして学ぶことができればと思っています。語学習得はスポーツと同じく、地道な練習の積み重ねが大切なので、できるだけ休まず出席すること、出席したらよく聞き、大きな声で発声することを心がけて下さい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>フランス語に初めて接する学生を対象とし、abc から丁寧に学んでゆきます。発音の決まりと初歩的な文法の修得をめざします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Leçon 1 文字と音 (1)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
2	Leçon 1 文字と音 (2)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
3	Leçon 1 文字と音 (3)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
4	Leçon 1 文字と音 (4)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
5	Leçon 2 綴り字と発音 (1)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
6	Leçon 2 綴り字と発音 (2)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
7	Leçon 2 綴り字と発音 (3)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
8	Leçon 2 綴り字と発音 (4)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
9	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (1)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
10	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (2)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
11	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (3)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
12	Leçon 3 ものの名前・家族の言い方 (4)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
13	Leçon 4 紹介する (1)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
14	Leçon 4 紹介する (2)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習	
15	Leçon 4 紹介する (3)					事前：なし 事後：テスト勉強		講義と演習	
<p>教本：</p> <p>Avec ça? C'est tout! (これだけでフランス語) 今関アン・加藤雅郁著 駿河台出版社 ¥2,300</p>					<p>参考文献：</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>ゆっくり丁寧に進みますので、苦手意識を捨てて参加して下さい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	フランス語 I (French I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	ブルゴス イヴ								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 日本語とは異なるフランス語の発音とスペルを慣れるため、何度も何度も繰り返し練習をする。 次のステップは簡単な読解や作文でフランス語の書き方を練習する。									
授業目標： 1. 基礎フランス語の発音とスペルを練習する。 2. 基礎フランス語の読解作文力を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction フランス語の基礎					事前：なし 事後：なし		講義	
2	Leçon 1 自己紹介をする					事前：なし 事後：なし		講義	
3	Leçon 2 今住んでいるところや出身地について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
4	Leçon 3 交通手段について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
5	Leçon 4 アルバイトについて話す					事前：なし 事後：なし		講義	
6	Leçon 5 ベットなどについて話す					事前：なし 事後：なし		講義	
7	Leçon 6 科目・先生について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
8	Leçon 7 食べ物について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
9	Leçon 8 家事について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
10	Leçon 9 家族について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
11	Leçon 10 クラブ活動について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
12	Leçon 11 習慣について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
13	Révision générale 復習					事前：なし 事後：なし		講義	
14	Examen final テスト					事前：なし 事後：なし		講義	
15	Activité アクティビティ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： Moi, je... コミュニケーション					参考文献： Bruno Vannieuwenhuysse、アルマ出版、本体価格 ￥2,500（税抜）				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎日5分でも自分で練習しよう！									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	フランス語Ⅱ (French Ⅱ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	平野 由里子									
履 修 条 件	前提科目	フランス語Ⅰ								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>語学を学ぶことは異文化理解への扉を開くことです。しかし苦手意識が先行すると、その扉が重くてなかなか開かないものになってしまいがちです。この授業ではシンプルな題材を用い、少しでも苦手意識を軽くして学ぶことができればと思っています。語学習得はスポーツと同じく、地道な練習の積み重ねが大切なので、できるだけ休まず出席すること、出席したらよく聞き、大きな声で発声することを心がけて下さい。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>フランス語コミュニケーションⅠを習得した学生を対象とし、フランス語の初級文法を修得することをめざします。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	フランス語コミュニケーションⅠの復習					事前：4課まで見直す 事後：授業内容復習		講義と演習		
2	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (1)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
3	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (2)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
4	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (3)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
5	Leçon 5 住所・好きなもの・動作を言う (4)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
6	Leçon 6 否定文・疑問文 (1)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
7	Leçon 6 否定文・疑問文 (2)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
8	Leçon 6 否定文・疑問文 (3)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
9	Leçon 7 時刻・天候を言う (1)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
10	Leçon 7 時刻・天候を言う (2)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
11	Leçon 7 時刻・天候を言う (3)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
12	Leçon 8 行き先を言う (1)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
13	Leçon 8 行き先を言う (1)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
14	Leçon 8 行き先を言う (1)					事前：なし 事後：授業内容復習		講義と演習		
15	これまでの復習					事前：なし 事後：テスト勉強		講義と演習		
<p>教本：</p> <p>Avec ça? C'est tout! (これだけでフランス語) 今関アン・加藤雅郁著 駿河台出版社 ¥2,300</p>					<p>参考文献：</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>ゆっくり丁寧に進みますので、苦手意識を捨てて参加して下さい。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	フランス語Ⅱ (French II)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	ブルゴス イヴ								
履 修 条 件	前提科目								
	そ の 他								
授業概要： 読解や作文でフランス語の書き方をもっと練習する。 慣れて来たフランス語の発音とスペルを忘れないように練習をする。									
授業目標： 1. フランス語の読解作文力を習得する。 2. フランス語の発音とスペルを練習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Leçon 12 週末の過ごし方について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
2	Leçon 13 時間について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
3	Leçon 14 休暇中の活動について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
4	Leçon 15 経験について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
5	Leçon 16 地理について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
6	Leçon 17 天候について話す					事前：なし 事後：なし		講義	
7	Activité 1 道を尋ねる					事前：なし 事後：なし		講義	
8	Activité 2 レストランで注文する					事前：なし 事後：なし		講義	
9	Activité 3 買い物をする					事前：なし 事後：なし		講義	
10	Interaction 2 プリント					事前：なし 事後：なし		講義	
11	Interaction 2 プリント					事前：なし 事後：なし		講義	
12	Interaction 2 プリント					事前：なし 事後：なし		講義	
13	Révision générale 2 復習 2					事前：なし 事後：なし		講義	
14	Examen final テスト					事前：なし 事後：なし		講義	
15	Activité アクティビティ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： Moi, je... コミュニケーション					参考文献： Bruno Vannieuwenhuysse、アルマ出版、本体価格 ￥2,500（税抜）				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎日5分でも自分で練習しよう！									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	フランス語コミュニケーション (French Communication)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	ブルゴス イヴ								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： フランスとフランス人の日常的な文化を読解する。フランス語をもっと勉強しながらフランス文化を楽しむ。									
授業目標： 1. フランスとフランス人を理解する。読解力を高める。 2. 仏和翻訳の仕組みを学ぶ。 3. 興味を持つテーマをフランス語で紹介する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Territoires et regions de France 1					事前：なし 事後：なし		講義	
2	Territoires et regions de France 2					事前：なし 事後：なし		講義	
3	Vivre avec les saisons 1					事前：なし 事後：なし		講義	
4	Vivre avec les saisons 2					事前：なし 事後：なし		講義	
5	Le système scolaire 1					事前：なし 事後：なし		講義	
6	Le système scolaire 2					事前：なし 事後：なし		講義	
7	L'enseignement supérieur 1					事前：なし 事後：なし		講義	
8	L'enseignement supérieur 2					事前：なし 事後：なし		講義	
9	Manger en France 1					事前：なし 事後：なし		講義	
10	Manger en France 2					事前：なし 事後：なし		講義	
11	La politique en France 1					事前：なし 事後：なし		講義	
12	La politique en France 2					事前：なし 事後：なし		講義	
13	Préparation					事前：なし 事後：なし		講義	
14	Présentation					事前：なし 事後：なし		講義	
15	Activité					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： La société française					参考文献： Jean-Luc Azra、アルマ出版、本体価格 ¥2,400（税抜）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎日15分でも興味のあるフランス語を見よう！読もう！									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	フランス語プレゼンテーション (French Presentation)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	ブルゴス イヴ									
履 修 条 件	前提科目									
	その他									
授業概要： フランスとフランス人の日常的な文化を読解する。フランス語をもっと勉強しながらフランス文化を楽しむ。										
授業目標： 1. フランスとフランス人を理解する。読解力を高める。 2. 仏和翻訳の仕組みを学ぶ。 3. 興味を持つテーマをフランス語で紹介する。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	Territoires et regions de France 1					事前：なし 事後：なし		講義		
2	Territoires et regions de France 2					事前：なし 事後：なし		講義		
3	Vivre avec les saisons 1					事前：なし 事後：なし		講義		
4	Vivre avec les saisons 2					事前：なし 事後：なし		講義		
5	Le système scolaire 1					事前：なし 事後：なし		講義		
6	Le système scolaire 2					事前：なし 事後：なし		講義		
7	L'enseignement supérieur 1					事前：なし 事後：なし		講義		
8	L'enseignement supérieur 2					事前：なし 事後：なし		講義		
9	Manger en France 1					事前：なし 事後：なし		講義		
10	Manger en France 2					事前：なし 事後：なし		講義		
11	La politique en France 1					事前：なし 事後：なし		講義		
12	La politique en France 2					事前：なし 事後：なし		講義		
13	Préparation					事前：なし 事後：なし		講義		
14	Présentation					事前：なし 事後：なし		講義		
15	Activité					事前：なし 事後：なし		講義		
教本： La société française					参考文献： Jean-Luc Azra、アルマ出版、本体価格 ¥2,400（税抜）					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 毎日15分でも興味のあるフランス語を見よう！読もう！										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	プログラミング基礎 (Programming)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安村 薫・岸 康人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	ノートパソコンを用意すること。その基本的な操作ができること。							
授業概要： Web ページ（ホームページ）で情報を発信する技術において、基本的骨格を作るものがHTML（Hyper Text Markup Language）である。この授業では、画像、動画、音声等のマルチメディアを Web に埋め込み、Web ページ間をハイパーリンクによってつなぐ技術を学びます。自分のパソコン上で作成した課題をネット上で相互に閲覧して確認することで、実践的な学習を行う。									
授業目標： 1. Web ページを記述する言語である、HTML の基本的規則と書き方を学ぶ。 2. HTML 5 によって Web ページを構築する基礎を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：シラバスの確認 事後：パソコンの設定確認		講義	
2	Web ページの基礎知識（ネットワークについて）					事前：テキスト・資料の予習 事後：ネットワークの確認		講義	
3	Web ページの基礎知識（HTMLについて）					事前：テキスト・資料の予習 事後：ネットワークの確認		講義	
4	タグの基本と基礎的な Web ページの作成					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
5	Web ページの構造（ブロック要素、インライン要素、タグの入れ子					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
6	テーブルの操作					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
7	リンクの概念と利用法の基本					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
8	リンクの応用					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
9	画像の利用（基礎）					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
10	画像の利用（活用）					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
11	見やすい Web ページを作る工夫					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
12	CSS の基本的考え方					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
13	ウェブサイトの構築と公開					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
14	公開したページの補正					事前：作成した課題の確認 事後：公開した課題の確認		講義	
15	まとめ					事前：課題の統合的チェック 事後：なし		講義	
教本： 「スラスラわかる HTML & CSS のきほん」 第2版 狩野祐東（SB Creative）¥1,980+税					参考文献： 講義中に指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況と課題提出（30%）、小テスト等（30%）、レポート（40%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席をしないこと。15回の授業の初めから、確実に、課題の作業を一つひとつ確認しながら行っていくこと。 （連続して欠席したり、課題を行わずにためておくと、履修を続けることはほとんど困難になります。）									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文化遺産と観光 (Cultural Heritage and Tourism)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	永井 恵一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>文化遺産とは何でしょうか。どうして文化を遺すのでしょうか。遺すべき文化とは何でしょうか。世界遺産を事例にして、文化遺産の意義、文化遺産の継承のために観光が果たす役割について考えます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 世界遺産制度の基礎的な知識を深める 2. 世界遺産制度等で保護される文化の広がり、文化遺産保護の意義と課題について理解を深める 3. 日本の世界文化遺産と観光との関わりについて理解を深め、文化遺産の継承のためにどのように観光が貢献できるのかを考察する</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	世界遺産制度の基礎					事前：なし 事後：なし		講義	
3	世界遺産と観光との関わり					事前：なし 事後：なし		講義	
4～5	日本の世界文化遺産					事前：なし 事後：なし		講義	
6	世界遺産認定を目指した観光振興の取り組み					事前：なし 事後：なし		講義	
7	日本の文化遺産保護制度					事前：なし 事後：なし		講義	
8	無形文化遺産					事前：なし 事後：なし		講義	
9	宗教と観光					事前：なし 事後：なし		講義	
10	食と観光					事前：なし 事後：なし		講義	
11	産業と観光					事前：なし 事後：なし		講義	
12	文化遺産の継承と観光					事前：なし 事後：なし		講義	
13～14	プレゼンテーション					事前：レポート課題提出 事後：なし		演習	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本： プリントを配布します。</p>					<p>参考文献： 適宜紹介します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 文化遺産保護の意義、観光資源の知識、そしてプレゼンテーションの技術を学ぶ機会ととらえ、積極的に授業に参加してください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文学と観光 (Literature and Tourism)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高寺 奎一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>旅、観光を取り上げた古今東西の文学作品を読み、その作品の中で果たしている旅・観光の役割、その作品が明らかにしている旅・観光の本質について考察する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>文学を通じて旅・観光の本質を理解することを到達目標とする。本嫌いな人に本を読んでもらうことも大切な目標。 難しそうな本も皆で読めば楽しく読める。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業計画についての説明					事前：なし 事後：なし		講義	
2	三木清「旅について」、哲学者にとっての旅					事前：なし 事後：なし		講義	
3	谷川俊太郎&長谷川宏「魂のみなもとへ」、詩人の旅					事前：なし 事後：なし		講義	
4	松尾芭蕉「奥の細道」、俳人の旅					事前：なし 事後：なし		講義	
5	与謝蕪村「春風馬埵曲」、藪入りで故郷に帰る少女の旅					事前：なし 事後：なし		講義	
6	ギルガミッシュ叙事詩、世界最古・紀元前5000年の旅物語					事前：なし 事後：なし		講義	
7	ゲーテ「イタリア紀行」、ヨーロッパの知的巨人の旅					事前：なし 事後：なし		講義	
8	ユング「ユング自伝」、心理学者による異文化体験の旅					事前：なし 事後：なし		講義	
9	外国人による江戸時代の日本の旅（ケンペル、ツンベリー、ゴンチャーロフ）					事前：なし 事後：なし		講義	
10	和辻哲郎「古寺巡礼」、日本の美への旅					事前：なし 事後：なし		講義	
11	谷崎潤一郎「吉野葛」、時空を超える旅					事前：なし 事後：なし		講義	
12	司馬遼太郎「韓のくに紀行」、日本の源流を訪ねる旅					事前：なし 事後：なし		講義	
13	泉鏡花「高野聖」、明治時代の旅					事前：なし 事後：なし		講義	
14	村上春樹「レーダーホーゼン」、離婚と旅					事前：なし 事後：なし		講義	
15	授業の総括					事前：なし 事後：なし		講義	
教本：					参考文献：				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業で取上げた作品の中から1・2作を選んで精読すること。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	文化 交 流 史 A (History of Cultural Exchange A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 宰								
履 修 条 件	前 提 科 目	文 化 人 類 学 等 の 文 化 学							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 本 講 義 で は、文 化 人 類 学 を ベース と し て、文 化 が 接 触 ・ 交 流 す る 際 に、ど の よう な 現 象 が 生 じ る の か を 基 礎 的 な 事 項 か ら 考 察 す る。文 化 と は 何 か、そ れ が 接 触 ・ 交 流 す る と は ど の よう な こ と か と い う 視 点 を ま ず は 身 に つ け る こ と か ら 始 め て ゆ く。									
授 業 目 標 : 教 科 書 的 な 「 文 化 」 認 識 か ら 自 由 に な る こ と。自 分 が 体 験 し た 異 文 化 交 流 を 学 問 的 視 点 か ら 捉 え な お す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	文 化 の 新 た な 考 え 方					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
2	「 自 分 」 の 中 の 異 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
3	赤 坂 憲 雄 『 異 人 論 』					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
4	文 化 の 多 重 性					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
5	岡 正 雄 『 異 人 そ の 他 』					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
6	魔 性 の 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
7	異 人 歓 待 儀 礼 と は					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
8	都 市 社 会 の 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
9	エ ス ニ シ テ ィ と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
10	エ ス ニ シ テ ィ と は 何 か (2)					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
11	メ イ サ ー テ ィ ー ン と 多 言 語 社 会					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
12	創 造 さ れ る 「 民 族 」					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
13	文 化 交 流 と 観 光					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
14	人 口 移 動 と 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
15	試 験 あ る い は レ ポ ー ト					事 前 : ノ ー ト の 見 直 し 事 後 :		試 験 あ る い は レ ポ ー ト	
教 本 : な し					参 考 文 献 : 授 業 中 に た く さ ん 紹 介 し ま す。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (60%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 文 化 を 理 解 す る こ と は、思 っ て い る 以 上 に 苦 労 が 多 い こ と で す。高 校 ま で の の っ ぺ り し た 文 化 の 考 え 方 を 早 く 抜 け 出 す こ と を 心 掛 け て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文化交流史B (History of Cultural Exchange B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 幸								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学等の文化学							
	そ の 他								
<p>授業概要： 同じ授業のAをベースに、さらなる交流のあり方を考察する。同じ現象でも、視点が変化することで全く異なる像が浮かび上がることも体験していただきたい。</p>									
<p>授業目標： 異文化をどのように理解するかに関して、自分の視点を確立する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	文化交流史Aの復習					事前：なし 事後：復習をする		講義	
2	文化変容の理論					事前：なし 事後：復習をする		講義	
3	地球規模の文化人類学					事前：なし 事後：復習をする		講義	
4	分裂生成					事前：なし 事後：復習をする		講義	
5	分裂生成Ⅱ					事前：なし 事後：復習をする		講義	
6	分裂生成Ⅲ					事前：なし 事後：復習をする		講義	
7	画像に表れた表象					事前：なし 事後：復習をする		講義	
8	制度化された異文化交流					事前：なし 事後：復習をする		講義	
9	「怠け者民族」の神話					事前：なし 事後：復習をする		講義	
10	「怠け者民族」の神話2					事前：なし 事後：復習をする		講義	
11	文化分配論					事前：なし 事後：復習をする		講義	
12	文化分配論2					事前：なし 事後：復習をする		講義	
13	文化分配論3					事前：なし 事後：復習をする		講義	
14	「生活形態」とは何か					事前：なし 事後：復習をする		講義	
15	試験あるいはレポート					事前：ノートの見直し 事後：		試験あるいはレポート	
教本： なし					参考文献： 授業中にたくさん紹介します。				
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（60%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 授業で教わることから自分なりの視点を見つけるようにしてください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	文 化 心 理 学 (Cultural Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菅 沼 憲 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 自己表現のスタイルに「アサーティブ」というものがある。言語が多様であるように文化により自己表現も一律ではない。本講義は、心理学の視点からアサーティブな自己表現を学ぶ。									
授 業 目 標 : ① 相手を立てつつ自己表現することの意義を学ぶ。 ② 文化が人間の心に及ぼす要因を実証的研究から分析し理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	アサーティブネスとは					事前：シラバスの精読 事後：復習する		講義	
2	アサーティブネスの査定について					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
3	自己成長を記録する					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
4	自己表現の権利とは何か					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
5	アサーティブな生き方とは					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
6	アサーティブネスの事例					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
7	アサーション・トレーニングの目標設定					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
8	アサーション・トレーニングのスキル					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
9	21世紀のアサーティブ・メッセージ					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
10	アサーティブに考えるとは					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
11	恐怖感情への対処法					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
12	トレーニング・プログラムについて					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
13	プログラムの進め方					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
14	アサーティブネスが平等な人間関係を築く意味					事前：資料を読む 事後：復習する		講義と演習	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 : 『自己主張トレーニング』、 R. E アルベルティ & M. L エモンズ著、東京図書					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 自己分析と他者及び状況観察への取り組みが大切な授業です。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	文化人類学 (Cultural Anthropology)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	川添 裕子									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	世界史の基礎を理解していることが前提です (中高校レベル)。								
授業概要： 人類の誕生と進化の歴史をおさえた上で、世界中に散らばった人間の普遍性と多様性について学ぶ。その目的は、人間の文化的側面を理解するための視点と概念を習得することにある。講義は、生業、言語、食、医療、ライフサイクルなど、人間の基本的な営みを取り上げる。高校とは異なる思考力が求められるため、毎回リアクションペーパーを提出してもらい理解度を確認する。また実践力を養うため、課題レポートとして文化人類学の方法論であるフィールドワーク的手法による「ミニエスノグラフィー」をまとめてもらう。発表、質疑応答の機会も設けることで、受講生同士の知の交流も行う。										
授業目標： 1. 文化の普遍性と多様性を理解し、他者から学ぶ態度を身につける。 2. 講義で学んだことを、日常生活の中で実践できる。 3. 家庭や地域社会の子育て・教育力の向上に貢献できる資質と専門性を有する人材を育成する。										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態		
1	人類の起源と進化					事前：シラバス確認 事後：教1章復習		講義		
2	「人種」概念の捏造					事前：なし 事後：教9章復習		講義		
3	生業－食料獲得					事前：なし 事後：教4章復習		講義		
4	食と食物規制					事前：なし 事後：配布資料復習		講義		
5・6	性、婚姻、親族					事前：なし 事後：教6、7、8章復習		講義		
7	言語					事前：なし 事後：教3章復習		講義		
8	信じること、宗教					事前：なし 事後：教13章復習		講義		
9・10	経済活動					事前：なし 事後：教5章復習		講義		
11	エスノグラフィック・フィールドワーク法					事前：なし 事後：教20章復習、課題		講義		
12	病気と医療					事前：なし 事後：教15章復習、課題		講義		
13	分類と人間の一生					事前：なし 事後：教14章復習、課題		講義		
14	課題 (ミニエスノグラフィー発表、質疑応答、提出)					事前：プレゼン準備 事後：なし		講義		
15	まとめ					事前：不明点確認 事後：教、配、ノート		講義		
教本： 『よくわかる文化人類学』第2版、綾部恒雄・桑山敬己編、ミネルヴァ書房、¥2,700					参考文献： 1. 山下晋司他編『文化人類学キーワード』改訂版、有斐閣、¥1,700+税。 2. 『文化人類学最新術語100』綾部恒雄編、弘文堂、¥1,500+税。 その他は随時提示する。					
成績評価の方法、評価基準：到達目標を達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況とリアクションペーパー (20%)、課題レポート (30%)、定期試験 (50%) で総合評価する。										
学生へのアドバイス： ＜聞く＞、＜読む＞、＜考える＞、＜書く＞、＜伝える＞トレーニングをしてもらいます。遅刻、欠席がないことが前提です。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	文 化 人 類 学 A (Cultural Anthropology A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 倍 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>文化人類学とは、異文化を「知る」ことにあります。でも、どのような状態を「知る」というのでしょうか。この授業の目標は、文化人類学がどのように異文化を「知ろう」としているのかを垣間見ることです。そのために「ヒトの一生」を中心テーマに文化とは何かを考えていきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>ヒトが同じような身体構造を持ちながらも、いかに多様な文化・世界観を作り上げているのかを理解する。ヒトにとって文化とは何かを自分なりに説明する能力を作る。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	文化とはどのような現象か					事前：なし 事後：なし		講義	
2	ヒトはどのように文化を持つに至ったか					事前：猿人と類猿人 事後：なし		講義	
3	ヒトは死をどのように扱ってきたか					事前：なし 事後：授業資料		講義	
4	ヒトは死をどのように扱ってきたか2					事前：なし 事後：授業資料		講義	
5	「誕生」の文化人類学					事前：なし 事後：授業資料		講義	
6	「一人前」とはどのような現象か					事前：なし 事後：授業資料		講義	
7	「古い」の人類学					事前：なし 事後：授業資料		講義	
8	日本民俗社会の「生と死」					事前：なし 事後：授業資料		講義	
9	現代日本人の死生観					事前：なし 事後：授業資料		講義 (ディスカッションあり)	
10	婚姻と社会					事前：蒲生論文 (配布) 事後：授業資料		講義	
11	婚姻と社会2					事前：蒲生論文 (配布) 事後：授業資料		講義	
12	現代日本人の婚姻観：性と婚姻					事前：なし 事後：授業資料		講義	
13	日本文化の構造					事前：蒲生論文 (配布) 事後：授業資料		講義	
14	日本文化の構造2					事前：蒲生論文 (配布) 事後：授業資料		講義	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「文化人類学 (カレッジ版)」医学書院					授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 扱 う の は 「他 人」で も、自 分 と 重 ね 合 わ せ て ト ピ ッ ク に あ た っ て ほ し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	文化人類学B (Cultural Anthropology B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学 A							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>文化人類学 I を受けて、この授業では「身体」が中心的なテーマになります。身体はあまりにも身近すぎて、普段から気に留める人は少ないようです。でも、一度、固定観念を抜きにして考えるとこんなに身近なところに楽しくて怖い世界があることに気がつきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>ヒトが身体を通じて、どのように「世界」と関わっているのかを考える。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	身体とはどのような現象か					事前：なし 事後：なし		講義	
2	市川浩の身体論					事前：市川論文 事後：ノート		講義	
3	シャーマニズム					事前：なし 事後：授業資料		講義	
4	シャーマニズム 2					事前：なし 事後：授業資料		講義	
5	シャーマニズム 3					事前：なし 事後：授業資料		講義	
6	プロクセミクスとは何か					事前：なし 事後：授業資料		講義	
7	盛り場渋谷のプロクセミクス					事前：自分の「渋谷」像 事後：授業資料		講義	
8	盛り場新宿の成立					事前：なし 事後：授業資料		講義	
9	都市人類学					事前：なし 事後：授業資料		講義	
10	新宿の戦後					事前：なし 事後：授業資料		講義	
11	新宿のトランスジェンダー社会：概要					事前：なし 事後：授業資料		講義	
12	新宿のトランスジェンダー社会 2：新宿のシステム					事前：なし 事後：授業資料		講義	
13	新宿のトランスジェンダー社会 3：名言・迷言					事前：なし 事後：授業資料		講義	
14	暴力形式と文化					事前：なし 事後：授業資料		講義	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート	
<p>教本：</p> <p>「文化人類学（カレッジ版）」医学書院</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業内で紹介する。たくさん読んでください。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	文 芸 創 作 (Literary Creation)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	徳 本 善 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマを定めた創作を行い、他人に評価してもらうことで客観的に書くことを身につける。 ・ 授業のまとめとして一つの作品を創作し、文集にまとめる。 									
授 業 目 標 :									
<ul style="list-style-type: none"> ・ エッセイ・短編小説の創作。他人を評価し、他人に評価してもらうことで客観的な視点を身につける。 ・ 読んでハッとさせる文章を書くことができるようになる。 									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	テーマの選定					事前：なし 事後：創作		講義	
3	実作Ⅰ (1)					事前：創作 事後：創作		演習	
4	実作Ⅰ (2)					事前：創作 事後：なし		演習	
5	合評Ⅰ・テーマの選定					事前：なし 事後：創作		演習	
6	実作Ⅱ (1)					事前：創作 事後：創作		演習	
7	実作Ⅱ (2)					事前：創作 事後：なし		演習	
8	合評Ⅱ・テーマの選定					事前：なし 事後：創作		演習	
9	実作Ⅲ (1)					事前：創作 事後：創作		演習	
10	実作Ⅲ (2)					事前：創作 事後：なし		演習	
11	合評Ⅲ・テーマの選定					事前：なし 事後：創作		演習	
12	実作Ⅳ (1)					事前：創作 事後：創作		演習	
13	実作Ⅳ (2)					事前：創作 事後：なし		演習	
14	合評Ⅳ					事前：なし 事後：なし		演習	
15	総合合評					事前：なし 事後：なし		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授業時にプリント配布。					授業時に提示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 創 作 の 内 容 (50%)、合 評 で の コ メ ン ト (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 日 記 の よ う な も の で も 構 い ま せ ン。ま ず 「書 い て み る」 こ と か ら 始 め ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	保育課程論 (Early Childhood Education courses)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	濱中 啓二郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 保育の計画の意義と必要性、保育の計画の歴史を理解し、実際の教育課程、保育課程、指導計画を例に取った分析や評価・改善について学ぶ。また、保育の計画の基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の基本を理解する。保育制度が急激に変化している中、教育課程・保育課程を知ることで、新しい保育を考え、組み立てる力を養うとともに、保育の計画全体を把握することで、保育の基本を見直す機会とする。									
授業目標： 教育課程・保育課程の意味、果たす役割をとらえ、教育課程・保育課程の編成の重要性を理解するとともに、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえた教育課程・保育課程の編成の在り方、評価・改善していくためのカリキュラム・マネジメントについて理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方と評価について） カリキュラムの意味と保育計画					事前：特になし 事後：本授業の復習		講義	
2	保育所保育指針の理解					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義	
3	幼稚園・保育所の歴史とカリキュラム（明治期・大正期・昭和期・平成期）					事前：歴史・思想の確認 事後：本授業の復習		講義	
4	認定こども園の歴史・法律・カリキュラム（創設の背景とその役割）					事前：歴史・思想の確認 事後：本授業の復習		講義	
5	幼稚園教育要領・保育所保育指針の歴史的展開					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義	
6	保育課程における基本原理と実際					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義	
7	乳幼児期の子どもの発達と保育計画					事前：子どもの発達の理解 事後：本授業の復習		講義	
8	指導計画作成に当たっての基本的な考え					事前：指導計画の理解 事後：本授業の復習		講義	
9	指導計画作成の実際					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義	
10	保育所における指導計画の基本的な考え方と留意点					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義	
11	保育所における指導計画の実際と事例の比較検討					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義	
12	地域社会を生かした保育実践と保育課程					事前：地域について知る 事後：本授業の復習		講義、 グループ活動	
13	子どもの道徳性、命を大切にすることを培う保育実践と保育課程					事前：道徳について知る 事後：本授業の復習		講義	
14	自然環境を生かした保育実践と保育課程					事前：環境について調べる 事後：本授業の復習		講義	
15	教育課程・保育課程の今後の展望					事前：考えをまとめる 事後：特になし		講義、 グループ討議	
教本： 大沢裕・高橋弥生編著『コンパクト版保育者養成シリーズ教育・保育課程論』一藝社					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」には目を通しておいください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義																																																																						
授業科目(英文)	保育原理 (Principles of Early Childhood Education)						科目分類	専門科目																																																																							
担 当 教 員	大沢 裕																																																																														
履 修 条 件	前提科目	なし																																																																													
	その他	なし																																																																													
<p>授業概要：</p> <p>保育・幼児教育の基礎をその知見に則り、広範囲に学ばせる。保育の理念、保育の意義と保育の必要性について把握させる。さらに、保育の場、歴史と現状、保育の目的・内容・方法の関連、保育の計画と評価の仕方、健康・安全、多様な保育ニーズへの対応の仕方、家庭・地域との連携、近年の保育動向・課題など、保育者として必須の基本的知識を習得させる。特に、現在の保育がどのような歴史的、社会的背景によって成立しているのかを考えさせ、保育の社会的役割について理解させる。授業形態は、講義の他に、グループ討論と発表、VTR 視聴とその検討を含む。</p> <p>授業目標：</p> <p>保育の意義・理念について理解し、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領・保育所保育指針における教育・保育の基本を把握する。保育の内容と方法の基礎を理解する。保育の思想と歴史の変遷について理解する。保育の現状と課題について認識する。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width:33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width:33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">○</td> <td style="text-align:center;">◎</td> <td></td> </tr> </table> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">授業回数</th> <th style="width:50%;">授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th style="width:20%;">事前・事後学習（学習課題）</th> <th style="width:20%;">授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>保育の概念と理念</td> <td>事前： 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>教育と福祉の関連</td> <td>事前：福祉とは何かを考えておく 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>保育の意義・社会的役割</td> <td>事前：保育の意味を考える 事後：ノートを読み返す</td> <td>グループ討論</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>諸外国の保育の思想と歴史</td> <td>事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>我が国の保育の思想と歴史</td> <td>事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>幼稚園教育要領・保育所保育指針が示唆するもの</td> <td>事前：テキストを読んでおく 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義・グループ討論</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>遺伝と環境</td> <td>事前：遺伝を考える 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>乳幼児と家庭</td> <td>事前：家庭の子育てを考える 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>幼稚園・保育所・認定こども園の概要</td> <td>事前：施設の種類の調べる 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>子どもの発達段階と子ども理解</td> <td>事前：成長・発達の情報を得る 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>保育制度と保育行政</td> <td>事前：待機児童の記事を探す 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>保育の内容</td> <td>事前：望ましい経験を考える 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義・グループ討論</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>保育の方法ー遊びと生活の原理</td> <td>事前：遊びの特徴を考える 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義・グループ討論</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>保育者の使命と資質ー保育者の専門性</td> <td>事前：保育者の役割を考える 事後：ノートを読み返す</td> <td>講義・グループ討論</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>様々な保育実践と現代の保育課題</td> <td>事前：時事問題の記事を読む 事後：</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p>教本：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』（最新版）</p> <p>参考文献：適宜、授業時に指示する。</p> <p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 保育者として必須の保育・福祉に関わる基礎的事項が理解でき、保育的なものの見方・考え方ができているかどうかを、複数回のレポート提出、筆記試験によって総合的に評価する。</p> <p>学生へのアドバイス： 保育の時事問題にいつも関心を持つこと。</p> <p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	◎		授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	保育の概念と理念	事前： 事後：ノートを読み返す	講義	2	教育と福祉の関連	事前：福祉とは何かを考えておく 事後：ノートを読み返す	講義	3	保育の意義・社会的役割	事前：保育の意味を考える 事後：ノートを読み返す	グループ討論	4	諸外国の保育の思想と歴史	事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す	講義	5	我が国の保育の思想と歴史	事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す	講義	6	幼稚園教育要領・保育所保育指針が示唆するもの	事前：テキストを読んでおく 事後：ノートを読み返す	講義・グループ討論	7	遺伝と環境	事前：遺伝を考える 事後：ノートを読み返す	講義	8	乳幼児と家庭	事前：家庭の子育てを考える 事後：ノートを読み返す	講義	9	幼稚園・保育所・認定こども園の概要	事前：施設の種類の調べる 事後：ノートを読み返す	講義	10	子どもの発達段階と子ども理解	事前：成長・発達の情報を得る 事後：ノートを読み返す	講義	11	保育制度と保育行政	事前：待機児童の記事を探す 事後：ノートを読み返す	講義	12	保育の内容	事前：望ましい経験を考える 事後：ノートを読み返す	講義・グループ討論	13	保育の方法ー遊びと生活の原理	事前：遊びの特徴を考える 事後：ノートを読み返す	講義・グループ討論	14	保育者の使命と資質ー保育者の専門性	事前：保育者の役割を考える 事後：ノートを読み返す	講義・グループ討論	15	様々な保育実践と現代の保育課題	事前：時事問題の記事を読む 事後：	講義
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																													
○	◎																																																																														
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																																												
1	保育の概念と理念	事前： 事後：ノートを読み返す	講義																																																																												
2	教育と福祉の関連	事前：福祉とは何かを考えておく 事後：ノートを読み返す	講義																																																																												
3	保育の意義・社会的役割	事前：保育の意味を考える 事後：ノートを読み返す	グループ討論																																																																												
4	諸外国の保育の思想と歴史	事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す	講義																																																																												
5	我が国の保育の思想と歴史	事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す	講義																																																																												
6	幼稚園教育要領・保育所保育指針が示唆するもの	事前：テキストを読んでおく 事後：ノートを読み返す	講義・グループ討論																																																																												
7	遺伝と環境	事前：遺伝を考える 事後：ノートを読み返す	講義																																																																												
8	乳幼児と家庭	事前：家庭の子育てを考える 事後：ノートを読み返す	講義																																																																												
9	幼稚園・保育所・認定こども園の概要	事前：施設の種類の調べる 事後：ノートを読み返す	講義																																																																												
10	子どもの発達段階と子ども理解	事前：成長・発達の情報を得る 事後：ノートを読み返す	講義																																																																												
11	保育制度と保育行政	事前：待機児童の記事を探す 事後：ノートを読み返す	講義																																																																												
12	保育の内容	事前：望ましい経験を考える 事後：ノートを読み返す	講義・グループ討論																																																																												
13	保育の方法ー遊びと生活の原理	事前：遊びの特徴を考える 事後：ノートを読み返す	講義・グループ討論																																																																												
14	保育者の使命と資質ー保育者の専門性	事前：保育者の役割を考える 事後：ノートを読み返す	講義・グループ討論																																																																												
15	様々な保育実践と現代の保育課題	事前：時事問題の記事を読む 事後：	講義																																																																												

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 実 習 指 導 I (保 育 所) (Internship at Preschool Guidance I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 優 子 古 金 悦 子 後 田 紀 子 小 野 和								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
保 育 所 実 習 の 準 備 を 行 う 。 保 育 所 実 習 と 並 行 し て 行 わ れ る 授 業 で 、 実 習 の 目 的 、 保 育 所 の 機 能 、 保 育 士 の 職 務 内 容 や 実 習 手 続 き の 書 類 の 作 成 に つ い て 学 習 す る 。 ま た 、 保 育 所 保 育 指 針 の 内 容 を 理 解 し 、 実 習 生 と し て 保 育 所 生 活 に 参 加 す る こ と を イ メ ー ジ す る 。 子 ど も の を 理 解 し 、 援 助 の 仕 方 に 関 す る 理 解 を 深 め 、 観 察 、 参 加 、 責 任 実 習 の 段 階 に お け る 実 習 内 容 、 実 習 記 録 、 指 導 計 画 に つ い て 学 習 す る こ と を 目 的 と す る 。									
授 業 目 標 :									
① 保 育 所 実 習 の 事 前 準 備 と し て の 心 構 え を し っ か り 理 解 し 、 態 度 や 意 欲 を 持 つ よ う に す る 。 ② 積 極 的 に 授 業 に 参 加 を し 、 実 習 の 課 題 を 明 確 に で き る 。 ③ 保 育 者 と し て の 能 力 、 資 質 を 身 に 付 け る こ と が ど う い う こ と か 理 解 し 、 実 習 で 生 か せ る よ う に な る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	保 育 の 内 容 授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	保 育 所 実 習 の 意 義 、 目 的 、 心 得					事 前 : 事 後 : 指 定 資 料 の 確 認		講 義	
2	保 育 所 実 習 の 目 的 理 解					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		講 義	
3	参 加 、 観 察 実 習 の 目 的 と 留 意 点					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		講 義	
4	保 育 所 実 習 の 心 得					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		講 義	
5	実 習 先 提 出 書 類 作 成 指 導 ・ 実 習 課 題 と 準 備 の 説 明					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		資 料 作 成	
6	持 ち 物 、 身 だ し な み に つ い て					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		講 義	
7	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン に つ い て					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		講 義	
8	保 育 所 の 一 日 と 流 れ 、 実 習 日 誌 の 書 き 方					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		講 義	
9	実 習 日 誌 の 作 成 指 導 ①					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		講 義 と 演 習	
10	実 習 日 誌 の 作 成 指 導 ②					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		講 義 と 演 習	
11	指 導 計 画 の 作 成 に つ い て ①					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		講 義 と 演 習	
12	指 導 計 画 の 作 成 に つ い て ②					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		講 義 と 演 習	
13	模 擬 保 育 の 実 施					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		演 習	
14	指 導 計 画 の 振 り 返 り					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 指 定 資 料 の 復 習		講 義 と 演 習	
15	実 習 評 価 と 反 省					事 前 : 全 体 評 価 に つ い て 事 後 : な し		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
講 義 内 で 指 定 資 料 配 布 す る 。					幼 稚 園 ・ 保 育 所 実 習 ハ ン ド ブ ッ ク 田 中 ま さ 子 編 (株)み ら い				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%)、そ の 他 (20%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
各 実 習 園 に 対 す る 注 意 事 項 の 説 明 、 提 出 書 類 の 作 成 等 を 行 う の で 、 原 則 と し て 欠 席 は 認 め な い 。 ま た 実 習 先 へ の 提 出 書 類 の 遅 延 、 授 業 態 度 の 怠 惰 等 で 実 習 の 派 遣 が で き な く な る こ と も あ る の で 十 分 に 留 意 を す る こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	保育実習 I (施設) (Internship at a Preschool I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋 優子・古金 悦子								
履 修 条 件	前提科目	保育実習指導 I (施設)							
	その他	なし							
授業概要： 1. 施設等での体験を通して、施設の役割や機能、保育の職務（子どもたちや利用者との関わり、他の職員との連携）等を理解する。 2. 施設等で生活している子どもや利用者の活動を観察し、一人ひとりの子どもや利用者に合わせて保育士の支援方法について学ぶ。 3. 気づきや保育士からの指摘事項を踏まえて、反省会で出された内容から自分自身の課題を明確にする。 4. 実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。 5. 施設等での生活実態に触れ、子どもや利用者での家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、支援するために必要とされる能力を養う。									
授業目標： 1. 児童福祉施設や社会福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育・利用者の生活等及び保護者並びに利用者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育や生活の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的にまなぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1～15	<児童福祉施設等（保育所以外）における実習内容> 1. 施設の役割と機能 (1) 施設における子どもや利用者の生活と保育士の援助や関わり (2) 施設の役割と機能 2. 子どもや利用者の理解 (1) 子どもや利用者の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助や関わり 3. 施設における子どもや利用者の生活と環境 (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもや利用者の心身の状態に応じた生活と対応 (3) 子どもや利用者の活動と環境 (4) 健康管理、安全対策と理解 4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 まとめ					事前：実習前は指定資料の予習 実習中は翌日の準備 事後：実習記録の整理と 実習日誌の記入		児童福祉施設等 (保育所)以外での実習 (90時間以上)	
教本： 講義内で指定資料配布する。					参考文献： 保育実習（保育所・施設）記録—書き方をマスターするために— 保育者養成研究会編 保育出版社				
成績評価の方法、評価基準： 実習先の評価（50%）、日誌・記録等（30%）、その他（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各実習施設に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等によっては実習派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	実習
授業科目(英文)	保育実習Ⅰ（保育所）（Internship at a PreschoolⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋 優子・古金 悦子・後田 紀子								
履 修 条 件	前提科目	保育実習Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： 1. 保育所での体験を通して、保育所の役割や機能、保育の職務（子どもたちとの関わり、他の職員との連携）等を理解する。 2. 保育所で生活している子どもの活動を観察し、一人ひとりの子どもに合わせた保育士の支援方法について学ぶ。 3. 気づきや保育士からの指摘事項を踏まえて、反省会で出された内容から自分自身の課題を明確にする。 4. 実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。 5. 家族と保育所の生活実態に触れ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。									
授業目標： 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者並びに利用者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的にまなぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1～15	保育所の生活と一日の流れ 保育所保育指針の理解と保育の展開 子どもの観察とその記録による理解 子どもの発達過程の理解 子どもへの援助やかかわり 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察、自己評価 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 まとめ					事前：実習準備 事後：記録・反省		実習	
教本： 講義内で指定資料配布する。					参考文献： 保育実習（保育所・施設）記録一書き方をマスターするために－ 保育者養成研究会編 保育出版社				
成績評価の方法、評価基準： 実習先の評価（50%）、日誌・記録等（30%）、その他（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等によっては実習派遣ができなくなることもあるので十分に留意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 後期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習	
授業科目(英文)	保育相談支援 (Support for Childcare Consultation)						科目分類	保育教育専門科目		
担 当 教 員	山下 文一									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 初めに保育相談の意義と原則、保護者支援の基本を学ぶ。そのうえで、保育相談支援の実際について学び内容や方法を身に付ける。さらに、保育相談支援の行われている保育所、児童福祉施設等における保護者支援の実情についても事例等を通して学ぶ。授業では、ロールプレイ等を活用して技術等を実践的に学ぶ。										
授業目標： 保育相談についての意義と基本について理解をする。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	保育相談支援とは何か					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復讐		講義		
2	保育相談支援の意義 (保護者への保育相談と保育の特性、保育者の専門性)					事前：P11～26予習 事後：学習範囲の復讐		講義		
3	保育相談支援の基本1 (子どもの最善の利益と福祉の重視)					事前：P33～36予習 事後：学習範囲の復讐		講義		
4	保育相談支援の基本2 (子どもの成長・発達の喜びの共有)					事前：P37～40予習 事後：学習範囲の復讐		講義		
5	保育相談支援の基本3 (保護者の養育力の向上のための基本)					事前：P51～69予習 事後：学習範囲の復讐		講義		
6	保育相談支援の基本4 (信頼関係を基本とした対人援助の原則)					事前：P71～84予習 事後：学習範囲の復讐		講義		
7	保育相談支援の基本5 (地域資源の活用と関係機関との連携・協力)					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復讐		講義		
8	保育相談支援の実際1 (保育と保護者支援)					事前：指定資料の予習 事後：指定資料の復讐		講義・演習		
9	保育相談支援の実際2 (保護者支援の内容・方法・技術)					事前：P11～26予習 事後：学習範囲の復讐		講義・演習		
10	保育相談支援の実際3 (保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復讐		講義・演習		
11	児童福祉施設における保育相談支援1 (保育所における支援の実際)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復讐		講義・演習		
12	児童福祉施設における保育相談支援2 (特別な支援を必要とする家庭への支援)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復讐		講義・演習		
13	児童福祉施設における保育相談支援 (要保育児童の家庭への支援)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復讐		講義・演習		
14	児童福祉施設における保育相談支援1 (障害児施設、母子生活支援等における支援)					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復讐		講義・演習		
15	保育相談支援の現状と課題					事前：P85～91予習 事後：学習範囲の復讐		講義		
教本： 小林郁子「演習 保育相談支援」萌文書林					参考文献： 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 現在社会においては、少子高齢化、核家族化などを背景に、子どもの虐待や育児不安の増加など多くの課題があります。このような状況に対応していくためには、保育者の相談支援力がより一層求められています。学習にあたっては、自学習課題を設定するなど主体的な学びを期待しています。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	保育内容(環境)(Early Childhood Education (Environment))						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	山下 文一									
履 修 条 件	前提科目									
	その他									
授業概要： 身近な環境や事物に好奇心と探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れることで豊かな発達を遂げていく子どもの能力とそのための環境構成について学ぶ。子どもが能力を発揮する環境や事象、例えば、生物や自然現象、遊具・数量・図形に実際に触れ、各々の特性について学ぶ。授業方法は、演習、話し合い活動、グループ学習等を設定する。また、視聴覚教材の活用や模擬授業をビデオで記録するなど視聴覚機器等を使い学習効果を高める。										
授業目標： 領域「環境」のねらい、内容について理解を深めるとともに、幼児の発達段階に応じた環境の意義について学ぶとともに、具体的な指導場面を想定した指導計画を作成することにより実践力を身に付ける。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	保育内容「環境」の意義					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義		
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育・教育要領の5領域ねらいと内容					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義		
3	好奇心や思考力の芽生え、探究心を育てる指導（視聴覚教材）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義		
4	人的環境としての友だち・保育者と物的環境としての園具・遊具・素材					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義		
5	自然環境としての動植物、日常生活の中での興味や関心、文字や数量の体験					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義		
6	幼稚園教育における評価と反省					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義		
7	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教育との接続					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義		
8	保育の構想（長期の計画と短期の計画）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習		
9	ねらい及び内容と環境構成					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習		
10	幼児の活動を豊かにするための教材研究（幼児と教材の関わり）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習		
11	季節にあった遊び、地域の自然を利用した遊びの構想（幼児理解に基づく指導計画の作成）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習		
12	模擬授業の構想（準備、役割、教材の準備）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習		
13	模擬授業の実施					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習		
14	模擬授業の反省と評価、改善（環境構成、保育者の援助、教材等は適切であったか）・第13回の模擬授業の相互評価を行う。（模擬保育記録ビデオの活用）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習		
15	保育内容「環境」から見た実践的課題					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義・演習		
教本： ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」（最新版）フレーバル館 ・小田 豊・湯川秀樹 編「保育内容環境」北大路書房					参考文献： 『保育所保育指針解説書』（最新版）厚生労働省、 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府文部科学省・厚生労働省					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 内 容 (健 康) (Early Childhood Education (Health))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	塩 野 谷 祐 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他	特 に な し							
授 業 概 要 :									
① 領 域 「健 康」 と 乳 幼 児 期 の 発 育 ・ 発 達 に つ い て の 理 解 を 深 め る。 ② 乳 幼 児 期 の 生 活 習 慣 の 確 立 に つ い て 、 そ の 過 程 や 保 育 者 と の 関 わ り を 学 ぶ。 ③ 乳 幼 児 期 の 運 動 遊 び や 安 全 な 園 生 活 に つ い て の 配 慮 を 学 び 、 健 康 を テ ー マ と し た 指 導 案 を 作 成 し 、 発 表 す る。 ④ 幼 小 接 続 に 関 す る 現 状 を 理 解 し 、 小 学 校 を 意 識 し た 園 生 活 の 配 慮 を 学 ぶ。									
授 業 目 標 :									
授 業 目 標 : 幼 稚 園 教 育 要 領 、 保 育 所 保 育 指 針 、 幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 教 育 ・ 保 育 要 領 に お け る 領 域 「健 康」 の ね ら い と 内 容 に つ い て 学 ぶ 。 ま た 、 乳 幼 児 期 の 心 身 の 発 達 と 生 活 習 慣 形 成 の 意 味 を 理 解 し 、 楽 し く 体 を 動 か し 、 遊 び を 通 し た 総 合 的 な 指 導 の 力 を 身 に 付 け る 。 さ ら に 、 安 全 教 育 や 幼 小 接 続 に つ い て も 理 解 を 深 め 、 発 達 に 即 した 保 育 の 指 導 法 を 習 得 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態
1	ガイダンス (授業の進め方、評価方法の説明、健康とは何か)					事前：シラバスの確認 事後：健康とは何かの復習			演習
2	領域「健康」について					事前：領域「健康」の部分を読んでおく 事後：領域「健康」の復習			講義
3	乳幼児期の発育・発達 ① (身体面)					事前：発育・発達の部分を読んでおく 事後：発育・発達の復習			講義
4	乳幼児期の発育・発達 ② (情緒・心理面)					事前：発育・発達の部分を読んでおく 事後：発育・発達の復習			講義
5	乳幼児期の生活習慣					事前：生活習慣に関する情報に目を通す 事後：生活習慣に関する復習			講義
6	保育の場における食育指導					事前：食に関する活動の思い出し 事後：食育便りの作成			演習
7	遊びの意義、変遷					事前：遊びの定義について調べる 事後：遊びについての復習			演習
8	運動遊びと保育者の役割 ① (幼児期における運動遊びの配慮事項)					事前：運動遊びの思い出し 事後：遊びと留意点の復習			演習
9	運動遊びと保育者の役割 ② (「幼児期運動指針」を教材として)					事前：幼児期運動指針について調べておく 事後：指針の内容の復習			演習
10	安全教育とその指導					事前：経験した安全に関する取組みを思い出しておく 事後：安全に関する留意点の復習			演習
11	幼小接続の現状とその課題					事前：幼小接続について調べておく 事後：幼小接続に関する復習			演習
12	指導案の書き方と情報機器の活用 (事例を通して)					事前：指導案とは何か調べておく 事後：書き方の復習			演習
13	健康をテーマとした教材研究					事前：自分が扱う教材を探しておく 事後：教材づくり			演習
14	健康をテーマとした指導案の完成					事前：教材づくり 事後：指導案の修正指導に対して修正			演習
15	健康をテーマとした教材発表 (模擬授業) および内容検討					事前：保育の場面で内容を展開できるよう考えてくる 事後：内容の振り返り			演習
教 本 :									
コンパクト版保育内容シリーズ『健康』 谷田貝公昭・高橋弥生編著 (一藝社)					参 考 文 献 :				
「幼稚園教育要領」(最新版)「保育所保育指針」(最新版)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(最新版)(フレーベル館)「事例で学ぶ 保育内容健康」無藤隆也編(萌文書林)「楽しく遊んで体づくり! 幼児の運動あそび「幼児期運動指針」に沿って」吉田伊津美編著(チャイルド本社)									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 :									
課 題 へ の 取 り 組 み (50%)、 定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
演 習 科 目 の た め 、 主 体 的 か つ 積 極 的 に 参 加 す る 意 欲 が 必 要 と な る 。 他 の 学 生 と の グ ル ー プ ワ ー ク も あり 、 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 力 も 大 切 と な る 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	15	授業形態	演習	
授業科目(英文)	保育内容(言葉)(Early Childhood Education (Language))						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	村木 桂子									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 子どもの発達と特徴、言葉の本質と機能、言葉の障害について理解させ、保育者としての話し方・聞き方、絵本や紙芝居を教材として用いる方法を実践的に学習させる。子どもたちの言葉の獲得に応じて、言葉のもつ意味やイメージ、感情をくみ取る力を支援することは保育者にとって必要な専門性である。言葉でやりとりすることの楽しさや大切さを子どもに伝えるための指導力・実践力を修得させる。										
授業目標： 子どもが言葉を獲得する過程を知り、保育者として言葉に対する感性を豊かにするとともに、保育者の役割を理解し、子どもの言葉を育てるための指導力と実践力を身につける。										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養			
◎							○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)			授業形態	
1	オリエンテーション こどもの言葉とは何か・言葉の獲得の意味					事前：シラバスの確認 事後：授業ポイントの復習			講義	
2	言葉の機能について考える					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
3	乳幼児の言葉の発達を知る					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
4	言葉を育てる環境 家庭で育つこと・集団の場で育てること					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
5	人とつながる言葉 ノンバーバルコミュニケーションと言葉					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
6	話し言葉と書き言葉					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
7	幼稚園教育要領の領域「言葉」と小学校学習指導要領の教科「国語」					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
8	児童文化財で広がる世界—様々な児童文化財を知る (ペープサート・パネルシアターなど)					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
9	発達と絵本—絵本の読み聞かせについて					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
10	教材研究① 実践的な使用法を経験する(紙芝居)					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
11	教材研究② 教材を工夫し、作成する					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
12	模擬授業 自作の教材を用いて模擬授業を行う					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
13	指導案の作成 前回の模擬授業を振り返り指導案を作成し、指導案の意義や作成上の留意点を知る					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
14	様々な言葉遊びの体験、言葉遊びに関する教材、情報機器の活用					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義+演習	
15	保育者の役割と援助、保育の内容(言葉)に関する評価のあり方					事前：テキスト該当部を読む 事後：ポイントの確認・整理			講義	
教本： 谷田貝公昭他 実践保育内容シリーズ『言葉』一藝社 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、必要に応じて資料を配布する。					参考文献： 今井和子『子どもとことばの世界』ミネルヴァ書店 野田雅子『乳幼児のことば』大日本図書					
成績評価の方法、評価基準： 定期試験(60%)、課題提出・発表(30%)、授業への参加意欲(10%)等で総合的に評価する。										
学生へのアドバイス： 演習に積極的に参加することで、実践力を身につけてほしい。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	保育内容(人間関係)(Early Childhood Education (Human Relations))						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	大沢 裕									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>子ども同士の関わり、保育者とのかかわり等、社会性を発達させる上で欠かせない人間関係のあり方全体を理解することを目的とする。子どもたちの人間関係を成立させる基本的ルールとその伝え方を学ばせる。子どもの自主性・自立性の尊重とその促し方、および集団生活との関わり、ごっこ遊びと社会性との関連、社会性涵養の立場から各種行事や園外保育の意義を理解させる。また家庭・社会における人間関係、その中で培われる社会性についても取り上げる。</p> <p>講義の他に、実践例を踏まえた課題研究発表、グループ討論、ロールプレイングを交えて授業を展開する。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づき、領域としての「人間関係」の目的、ねらい、内容、内容の取り扱いを理解し、子どもの社会性を育てるための視野を広げる。子どもの遊びと生活を、人間関係の観点で捉える眼を養う。人との関わりを育むために必要とされる知識や技能について理解する。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			◎			○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	教育・保育の基本と領域「人間関係」					事前： 事後：ノートを読み返す		講義		
2	領域「人間関係」のねらい及び内容					事前：福祉の考えをまとめる 事後：ノートを読み返す		講義		
3	人間関係の発展の道筋					事前：保育の意味を考える 事後：ノートを読み返す		グループ討論		
4	0歳児から2歳児の人間関係一その指導法と評価					事前：発展について復習する 事後：ノートを読み返す		演習		
5	3歳児から5歳児の人間関係一その指導法と評価					事前：2歳児までの人間関係を復習する 事後：ノートを読み返す		演習		
6	愛着形成の理論と実際					事前：テキストを読んでおく 事後：ノートを読み返す		講義と グループ討論		
7	自己主張と自己抑制―道徳性の芽生えを育むために					事前：素質について考えておく 事後：ノートを読み返す		演習		
8	コミュニケーション能力の育成					事前：家庭の育ちを考える 事後：ノートを読み返す		演習		
9	領域「人間関係」の教材作成と情報機器の活用					事前：PCの操作に慣れておく 事後：教材を作ってみる		演習		
10	領域「人間関係」の指導案作成					事前：指導案作成の手順を確認する 事後：作成した指導案を見直す		演習		
11	領域「人間関係」の模擬授業（ロールプレイング）					事前：指導案を読み込む 事後：模擬保育の反省をする		演習		
12	人とのかかわりが難しい子どもへの支援					事前：望ましい経験を考える 事後：ノートを読み返す		演習		
13	異年齢児、地域社会との関わり、自然環境の中で育つ人間関係の支援					事前：遊びの特徴を考える 事後：ノートを読み返す		演習・ グループ討論		
14	領域「人間関係」と他の領域との関連					事前：保育者の役割を考える 事後：ノートを読み返す		演習・ グループ討論		
15	幼小連携の課題―人間関係育成の視点から					事前：時事問題の記事を読む 事後：		講義		
<p>教本：</p> <p>『コンパクト版保育内容シリーズ・人間関係』高橋弥生・福田真奈編著（一藝社）</p>					<p>参考文献：</p> <p>「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）」（チャイルド社）</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>領域としての「人間関係」のねらい、内容また社会性を育てるための知識・技能について理解ができているか、また子どもの遊びと生活を人間関係の視点から捉えることができるかを複数回のレポート提出及び筆記試験によって総合的に評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>社会性の育ちに対して、新聞記事を読んだり、インターネットで調べる習慣を身につけること。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修		単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	保育内容(表現)(Early Childhood Education (Expression))						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	後田 紀子									
履 修 条 件	前提科目									
	その他									
<p>授業概要：</p> <p>保育内容(表現)では、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにすることがねらいとなっている。幼稚園教育要領に示されている領域「表現」の内容については発達、環境、教師の役割と援助などの観点から学び具体的に理解が図れるようにする。音楽的・造形的な内容ばかりでなく、体を動かすこと、話すこと、人と関わることなど様々な表現のあり方や感性を身につけ、保育実践例により理解する。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>幼稚園教育要領「表現」の基本的な促し方を理解する。乳幼児の表現行動の特徴、生活や人間関係との深いかかわりを理解する。教師として求められる表現する力や感性について考え、学生自身の表現力・感性を磨く。課題への取り組みを通して教師としての実践力を身につけるとともにコミュニケーション力を高める。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			◎			○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)			授業形態	
1	オリエンテーション「表現」とは何か					事前：シラバスの確認 事後：授業のまとめを行う			講義	
2	乳幼児の発達と表現について					事前：年齢別の発達の違いを考える 事後：授業のまとめを行う			演習+講義	
3	幼稚園教育要領「表現」のねらい・内容について理解する					事前：教本を読みまとめる 事後：授業のまとめを行う			講義	
4	表現の楽しさを体験する(言葉遊び・手遊び・リズム体操など)					事前：手あそびを調べ発表する準備を行う 事後：授業のまとめを行う			演習+講義	
5	劇遊びの実例を知る(ビデオを使用し、幼稚園での実践例を観る)					事前：劇遊びの意義を調べる 事後：授業のまとめを行う			演習+講義	
6	劇的表現の創作をしよう(グループワークで劇作り)					事前：グループでの準備 事後：授業のまとめを行う			演習+講義	
7	劇的表現を完成させる					事前：準備・発表の仕方を考える 事後：授業のまとめを行う			演習+講義	
8	発表と鑑賞(グループごとに劇表現を発表する)					事前：グループでの練習を行う 事後：授業のまとめを行う			演習+講義	
9	乳幼児の表現技術と活動を支援するための情報機器の活用					事前：情報機器活用の仕方を調べる 事後：授業のまとめを行う			講義	
10	表現する力と感性を育む環境					事前：感性を育む環境について調べる 事後：授業のまとめを行う			演習+講義	
11	領域「表現」と年中行事					事前：年中行事を調べる 事後：授業のまとめを行う			講義	
12	身体表現の楽しさとコミュニケーション(グループで創作ダンスを考える)					事前：グループでの準備を行う 事後：授業のまとめを行う			演習+講義	
13	創作ダンスの完成に向けて(指導案の作成と模擬保育)					事前：指導案の作成を行い模擬保育の準備を行う 事後：授業のまとめを行う			演習+講義	
14	発表と鑑賞(振り返りと評価)					事前：事前練習を行う 事後：授業のまとめを行う			演習+講義	
15	学修のまとめ					事前：レポートの課題を行う 事後：授業のまとめを行う			講義	
<p>教本：</p> <p>幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>					<p>参考文献：</p> <p>特になし</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>課題への取り組み、発表、課題レポート、定期試験などにより総合的に評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業には積極的に参加をし、実践力を身につけることを心がける。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修		単 位 数		時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	保 育 内 容 総 論 (Early Childhood Education Content (General))					科 目 分 類	専 門 科 目		
担 当 教 員	山 下 文 一								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
「幼稚園教育要領」などをふまえた幼稚園や保育所における指導の基本及び教育課程、長期の指導計画、短期の指導計画、評価に至る指導計画の作成について理解することにより、発達や学びの連続性を踏まえた総合的な実践力を身に付ける。									
授 業 目 標 :									
環境を通して学ぶ教育の意義、各領域のねらい、小学校教育との接続について、事例を基に話し合い理解を深める。また、幼児の発達や学びの過程を理解するために、指導計画等の資料収集を行いそれらの比較検討することにより環境構成や教師の支援、評価手法について学ぶ。また、実際に指導計画を作成し模擬保育を行う。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	教育環境を通して行う教育の意義					事前：シラバスの確認 事後：ノート整理・復習		講義	
2	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」のねらいと内容					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義	
3	5領域のねらい、内容					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義	
4	一人一人の特性に応じた指導					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義	
5	支援を要する子どもへの理解とクラス運営					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義	
6	カリキュラム・マネジメントと反省評価					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義	
7	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校との接続					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義	
8	教育課程と全体的な計画					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義	
9	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた環境構成					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義・演習	
10	視聴覚機器及び情報機器等の活用					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義・演習	
11	学校行事の指導計画の作成（長期の指導計画と短期の指導計画）					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義・演習	
12	模擬保育の計画（幼児理解・ねらい・内容・環境構成・保育者の支援・評価）					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義・演習	
13	模擬保育の実施と反省評価 ①（1～3班）					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義・演習	
14	模擬保育の実施と反省評価 ②（4～6班）					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義・演習	
15	子どもの発達や学びの連続性を踏まえた指導計画					事前：テキスト指定頁の予習 事後：ノート整理・復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 小田豊、神長美津子、西村重稀 編著『保育内容総論』光生館 					<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省『幼稚園教育指導資料集第5集「指導と評価に生かす記録」』チャイルド本社 『幼稚園教育要領』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	保 育 の 心 理 学 I (childcare psychology I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 淳 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本講座では、保育実践と関係の深い心理学の基礎的理論を学び、子どもが人とのかかわりを通して発達していくことを理解していく。また、人生における初期経験が生涯発達に大きな影響を与えることを理解し、子どもの発達援助に保育者がどのようにかかわるべきかを考察していく。</p>									
授 業 目 標 :									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。 2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。 3. 子どもが人との相互的かかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。 4. 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。 									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	保 育 と 心 理 学 ー (1) 子 童 ち の 発 達 を 理 解 す る こ と の 意 義					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
2	保 育 と 心 理 学 ー (2) 保 育 実 践 の 評 価 と 心 理 学					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
3	保 育 と 心 理 学 ー (3) 発 達 観、子 童 ち 観 と 保 育 観					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
4	子 童 ち の 発 達 理 解 ー (1) 子 童 ち の 発 達 と 環 境					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
5	子 童 ち の 発 達 理 解 ー (2) 感 情 と 自 己 の 発 達					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
6	子 童 ち の 発 達 理 解 ー (3) 身 体 的 機 能 と 運 動 機 能 の 発 達					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
7	子 童 ち の 発 達 理 解 ー (4) 知 覚 と 認 知 の 発 達					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
8	子 童 ち の 発 達 理 解 ー (5) 言 葉 の 発 達 と 社 会 性					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
9	人 と の か か わ り と 子 童 ち の 発 達 ー (1) 人 と の か か わ り あ い と 子 童 ち の 発 達					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
10	人 と の か か わ り と 子 童 ち の 発 達 ー (2) 思 い や り の 心 と 道 徳 性 の 発 達					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
11	自 ら 学 ぶ 心 の そ だ ち ー (1) 学 び の さ ま ざ ま (学 習 理 論)					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
12	自 ら 学 ぶ 心 の そ だ ち ー (2) 学 び の 意 欲 (動 機 づ け)					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
13	自 ら 学 ぶ 心 の そ だ ち ー (3) 人 間 関 係 の な か で の 学 び					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
14	生 涯 発 達 の プ ロ セ ス と 援 助 ー (1) 生 涯 発 達 と い う 考 え 方					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
15	生 涯 発 達 の プ ロ セ ス と 援 助 ー (2) 生 涯 発 達 の 考 え 方 に 基 づ く 援 助 及 び 各 時 期 の 発 達 的 特 徴 と 援 助					事 前 : テ キ ス ト の 予 習 事 後 : 復 習		講 義 と 討 議	
教 本 :					参 考 文 献 :				
小 田 豊 監 修、丹 羽 さ が の 編 著 「保 育 士 養 成 課 程 ー 保 育 の 心 理 学 I」 光 生 館 ¥1,900					岩 井 邦 夫 / 高 橋 道 子 / 高 橋 義 信 / 堀 内 ゆ か り 共 著 「グ ラ フ ィ ッ ク 乳 幼 児 心 理 学」 サ イ エ ン ス 社 ¥2,400				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 評 価 基 準 : 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 授 業 で は、一 方 的 な 講 義 で は な く、学 生 に 考 え て も ら い ま す。単 元 に よ っ て は 発 表 者 を 決 め て お き、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン を 行 っ て も ら う こ と も あ り ま す。受 け 身 な 態 度 で は な く、自 身 の 考 え を 表 現 で き る よ う に 心 が け て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修		単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	保 育 の 心 理 学 II (Psychology of Children II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 淳 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	心 理 学 の 基 礎 I							
	そ の 他	な し							
<p>授 業 概 要 :</p> <p>心 理 学 の 基 礎 I で 学 ん だ 保 育 実 践 と 関 係 の 深 い 基 礎 的 理 論 を 踏 ま へ て、保 育 者 が 保 育 現 場 で 直 面 す る 具 体 的 援 助 に つ い て 学 び、子 ども 理 解 を さ ら に 深 め て い きます。そ の 上 で、実 際 の 保 育 事 例 に 基 づ く 対 応 方 法 を グ ル ー プ ワ ー ク や カ ン フ ェ ン ス を 通 じ て 体 験 的 に 学 習 し て い きます。ま た、子 ども や 保 護 者 支 援 に お け る カ ン セ リ ン グ の 方 法 を 学 び、理 論 と 保 育 実 践 と の 関 連 を 考 え、専 門 家 や 他 機 関 と 連 携 し て 協 働 で き る 実 力 あ る 保 育 者 を 目 指 す 演 習 と し た い と 思 い ます。</p>									
<p>授 業 目 標 :</p> <p>1. 子 ども の 心 身 の 発 達 と 環 境 に つ い て 学 び、保 育 を 実 践 す る 上 で の 留 意 点 に つ い て 考 え る。</p> <p>2. 子 ども が 生 活 や 遊 び を 通 じ て 学 ぶ 過 程 を 理 解 し、そ れ を 基 礎 と し て 生 涯 に わ た る “生 き る 力” に つ い て 考 え る。</p> <p>3. 保 育 に お け る 子 ども の 発 達 援 助 に つ い て 学 び、実 際 の 支 援 方 法 に つ い て 考 え る。</p> <p>4. 現 代 社 会 に お け る 子 ども の 発 達 と、こ れ か ら の 保 育 の 課 題 や 展 望 に つ い て 考 え る。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	1. 子 ども の 発 達 と 保 育 実 践 ー (1) 子 ども 理 解 に お け る 発 達 の 把 握					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
2	(2) 個 人 差 や 発 達 課 程 に 応 じ た 保 育					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
3	(3) 身 体 感 覚 を 伴 う 多 様 な 経 験 と 環 境 と の 相 互 作 用 (4) 環 境 と し て の 保 育 者 と 子 ども の 発 達					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
4	(5) 子 ども の 相 互 の か か わ り と 関 係 づ くり (6) 自 己 主 張 と 自 己 統 制					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
5	(7) 子 ども 集 団 と 保 育 の 環 境					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
6	2. 生 活 や 遊 び を と お し た 学 び の 過 程 ー (1) 子 ども の 生 活 と 学 び					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
7	(2) 子 ども の 遊 び と 学 び					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
8	(3) 生 涯 に わ た る 生 き る 力 の 基 礎 を 培 う					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
9	3. 保 育 に お け る 発 達 援 助 ー (1) 基 本 的 生 活 習 慣 の 獲 得 と 発 達 援 助					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
10	(2) 自 己 の 主 体 性 の 形 成 と 発 達 援 助 (3) 発 達 の 課 題 に 応 じ た 援 助 や か か わ り					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
11	(4) 発 達 や 学 び の 連 続 性 と 就 学 へ の 支 援					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
12	(5) 発 達 援 助 に お け る 協 働					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
13	4. 現 代 社 会 に お け る 子 ども の 発 達 と 保 育 の 課 題 ー (1) 乳 幼 児 を も つ 家 族 の 現 状					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
14	(2) 子 ども の 発 達 に 影 響 す る 要 因 (3) 保 育 所 ・ 幼 稚 園 に お け る 子 育 て 支 援					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
15	(4) 親 子 を 支 え る カ ン セ リ ン グ					事 前 : な し 事 後 : な し		演 習	
<p>教 本 :</p> <p>「保 育 士 養 成 課 程 ー 保 育 の 心 理 学 II」 小 田 豊 監 修、丹 羽 さ が の 編 著 光 生 館 ¥1,900</p>					<p>参 考 文 献 :</p> <p>「子 ども の 発 達 心 理 学」 高 橋 道 子 / 藤 崎 真 知 代 / 仲 真 紀 子 / 野 田 幸 江 著 新 曜 社 ¥1,900</p>				
<p>成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。</p> <p>授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。</p>									
<p>学 生 へ の ア ド バ イ ス :</p> <p>保 育 の 心 理 学 は、平 成 22 年 か ら 新 し く 保 育 士 養 成 課 程 で 定 め ら れ た 科 目 で す。保 育 者 と し て 最 低 限 マ ス タ ー し て お き た い 実 践 に 即 し た 心 理 学 の 科 目 で す。か ら、授 業 で 学 ぶ 前 に テ キ ス ト に 目 を 通 す な ど し て 理 解 を 深 め る よ う 心 掛 け て く だ さ い。ま た、グ ル ー プ ワ ー ク や ケ ー ス カ ン フ ェ ン ス な ど の 演 習 で は、実 践 力 を 身 に 着 け る よ う 積 極 的 に 参 加 し て く だ さ い。</p>									
<p>オ フ ィ ス ア ワ ー :</p> <p>初 回 講 義 日 に 伝 え る。</p> <p>水 曜 日 の 昼 休 み</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	法学 (Introduction to Law)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	高乗 智之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>法は、我々が気づかないとしても、日常生活を規律している。そこで、本講義では、法の基礎理念を理解し、国内法体系の全体像について理解が得られるように解説をする。第一の目的は、講義を通して「法的思考」を習得することである。第二の目的は、「法とは何か」についての本質的理解を深めることである。第三の目的は、具体的な問題について客観的に考察し、合理的な解決を導き出す力を養うことである。これらを通じて、法学学習のきっかけづくりをしたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>(1) 国内法の体系を説明できる力をつけること。 (2) 社会問題について法学的視点から把握する力をつけること。 (3) 社会問題の解決方法について合理的に説明できる力をつけること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	法学総論－法学を学ぶ意味－					事前：なし 事後：概念の整理		講義	
2	社会規範と法－法律と道徳と慣習－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
3	法の種類と段階構造－憲法を頂点とする国内法秩序－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
4	法の解釈と適用－法に基づく思考の意義－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
5	法の効力－時間的効力と空間的効力－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
6	国家とは何か					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
7	裁判のしくみ－刑事裁判と民事裁判－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
8	国家の刑罰権－刑罰思想史－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
9	裁判員制度－国民参加型刑事裁判の特徴－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
10	死刑制度－存続か廃止か－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
11	国家賠償－えん罪事件を中心に－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
12	消費者と法－悪質商法、ネットトラブル－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
13	労働者と法－労働法制と労働者の権利－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
14	医療と法－安楽死・尊厳死－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
15	国際社会と法－世界平和の構築－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
<p>教本：</p> <p>高乗正臣・奥村文男編『プラクティス 法学実践教室Ⅰ－法学・民法編－』（誠文堂）¥1,900＋税</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業中に適宜指示。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることに目を向け、共に考えて行きたいと思う。</p>									
オフィスアワー：									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	法 学 (Introduction to Japanese Law)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>私たちの日常生活は法律によって規定されていると言っても過言ではない。例えば、買い物をする時には品物の代金とともに消費税を支払う。さらに、他人を傷つけるなどの行為を行った場合には身柄が拘束され、裁判所から有罪判決を受けた場合は刑事罰を受けなければならない、といった具合である。このような私たちの身近な法律に係る諸問題を基に法治国家とされる日本の法体系を学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 社会の中で法が果たす役割や意義について、具体的な事例を基に説明できる。</p> <p>2. 具体的な法制度の機能について、その制度の成り立ちや社会での現実的な意義等を踏まえて評価できる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ラ イ フ ス テ ー ジ と 法 (導 入)					事 前 : 教 本 pp.1~21精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
2	家 族 関 係 と 法					事 前 : 教 本 pp.25~37精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
3	統 治 機 構 と 法					事 前 : 教 本 pp.38~62精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
4	親 権 と 法 ・ 児 童 虐 待 と 法					事 前 : 教 本 pp.89~98精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
5	教 育 と 法					事 前 : 教 本 pp.99~114精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
6	安 心 ・ 安 全 と 法					事 前 : 教 本 pp.115~126精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
7	国 民 の 権 利 と 義 務					事 前 : 教 本 pp.129~138精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
8	婚 姻 ・ 離 婚 と 法					事 前 : 教 本 pp.139~157精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
9	就 職 活 動 と 法					事 前 : 教 本 pp.172~176精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
10	労 働 者 と 法					事 前 : 教 本 pp.176~189精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
11	高 齢 者 福 祉 と 法					事 前 : 教 本 pp.193~210精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
12	公 的 扶 助 と 法					事 前 : 教 本 pp.211~217精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
13	死 と 法					事 前 : 教 本 pp.221~229精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
14	財 産 相 続 と 法					事 前 : 教 本 pp.230~248精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
15	ま と め					事 前 : 教 本 全 体 の 復 習 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
吉 田 稔、北 山 雅 昭、渡 邊 隆 司 編 著 『ラ イ フ ス テ ー ジ か ら 学 ぶ 法 律 入 門』 ミ ネ ル ヴ ァ 書 房、2014年。					講 義 内 に お い て 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (10%)、小 レ ポ ー ト (30%)、期 末 試 験 (60%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講 義 に 出 席 す る こ と は 基 よ り、日 頃 見 聞 き す る ニ ュ ー ス を 通 じ て 社 会 問 題 に 関 心 を 持 つ こ と が 法 律 を 理 解 す る 第 一 歩 で す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	法学概論 (Introduction to Law)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高 乗 智 之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 法は、我々が気づかないとしても、日常生活を規律している。そこで、本講義では、法の基礎理念を理解し、国内法体系の全体像について理解が得られるように解説をする。第一の目的は、講義を通して「法的思考」を習得することである。第二の目的は、「法とは何か」についての本質的理解を深めることである。第三の目的は、具体的な問題について客観的に考察し、合理的な解決を導き出す力を養うことである。これらを通じて、法学習のきっかけづくりをしたい。									
授業目標： (1) 国内法の体系を説明できる力をつけること。 (2) 社会問題について法学的視点から把握する力をつけること。 (3) 社会問題の解決方法について合理的に説明できる力をつけること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	法学総論－法学を学ぶ意味－					事前：なし 事後：概念の整理		講義	
2	社会規範と法－法律と道徳と慣習－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
3	法の種類と段階構造－憲法を頂点とする国内法秩序－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
4	法の解釈と適用－法に基づく思考の意義－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
5	法の効力－時間的効力と空間的効力－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
6	国家とは何か					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
7	裁判のしくみ－刑事裁判と民事裁判－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
8	国家の刑罰権－刑罰思想史－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
9	裁判員制度－国民参加型刑事裁判の特徴－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
10	死刑制度－存続か廃止か－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
11	国家賠償－えん罪事件を中心に－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
12	消費者と法－悪質商法、ネットトラブル－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
13	労働者と法－労働法制と労働者の権利－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
14	医療と法－安楽死・尊厳死－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
15	国際社会と法－世界平和の構築－					事前：テキスト 事後：テキスト		講義	
教本： 高乗正臣・奥村文男編『プラクティス 法学実践教室Ⅰ－法学・民法編－』（誠文堂）¥1,900＋税					参考文献： 授業中に適宜指示。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることに目を向け、共に考えて行きたいと思う。									
オフィスアワー：									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	法 学 概 論 (Introduction to Japanese Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>私たちの日常生活は法律によって規定されていると言っても過言ではない。例えば、買い物をする時には品物の代金とともに消費税を支払う。さらに、他人を傷つけるなどの行為を行った場合には身柄が拘束され、裁判所から有罪判決を受けた場合は刑事罰を受けなければならない、といった具合である。このような私たちの身近な法律に係る諸問題を基に法治国家とされる日本の法体系を学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 社会の中で法が果たす役割や意義について、具体的な事例を基に説明できる。</p> <p>2. 具体的な法制度の機能について、その制度の成り立ちや社会での現実的な意義等を踏まえて評価できる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ラ イ フ ス テ ー ジ と 法 (導 入)					事 前 : 教 本 pp.1~21精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
2	家 族 関 係 と 法					事 前 : 教 本 pp.25~37精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
3	統 治 機 構 と 法					事 前 : 教 本 pp.38~62精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
4	親 権 と 法 ・ 児 童 虐 待 と 法					事 前 : 教 本 pp.89~98精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
5	教 育 と 法					事 前 : 教 本 pp.99~114精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
6	安 心 ・ 安 全 と 法					事 前 : 教 本 pp.115~126精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
7	国 民 の 権 利 と 義 務					事 前 : 教 本 pp.129~138精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
8	婚 姻 ・ 離 婚 と 法					事 前 : 教 本 pp.139~157精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
9	就 職 活 動 と 法					事 前 : 教 本 pp.172~176精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
10	労 働 者 と 法					事 前 : 教 本 pp.176~189精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
11	高 齢 者 福 祉 と 法					事 前 : 教 本 pp.193~210精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
12	公 的 扶 助 と 法					事 前 : 教 本 pp.211~217精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
13	死 と 法					事 前 : 教 本 pp.221~229精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
14	財 産 相 続 と 法					事 前 : 教 本 pp.230~248精 読 事 後 : 講 義 の 復 習		講 義	
15	ま と め					事 前 : 教 本 全 体 の 復 習 事 後 : ま と め ノ ー ト の 作 成		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
吉 田 稔、北 山 雅 昭、渡 邊 隆 司 編 著 『ラ イ フ ス テ ー ジ か ら 学 ぶ 法 律 入 門』 ミ ネ ル ヴ ァ 書 房、2014年。					講 義 内 に お い て 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (10%)、小 レ ポ ー ト (30%)、期 末 試 験 (60%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講 義 に 出 席 す る こ と は 基 よ り、日 頃 見 聞 き す る ニ ュ ー ス を 通 じ て 社 会 問 題 に 関 心 を 持 つ こ と が 法 律 を 理 解 す る 第 一 歩 で す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	法の性格と役割 (Introduction to Law)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高乗 智之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>複数の人が集まれば、自ずとそこにルールが生まれる。そのルールの一つを法と呼んでいる。現代においては、社会生活を送る上で法の存在を無視することができない。そこで、本講義では、そもそも法とは何なのか、どのような特徴があるのか、そしてどのような役割を担っているのかについて解説をする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>(1) 法の性格と役割を説明することの出来る力をつけること。 (2) 社会問題を法的視点から把握し、問題解決について合理的に説明する力をつけること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	社会問題と法					事前：なし 事後：概念整理		講義	
2	国家・社会・企業・個人と法					事前：資料 事後：概念整理		講義	
3	社会規範と法					事前：資料 事後：概念整理		講義	
4	法と道徳の異同					事前：資料 事後：概念整理		講義	
5	法の種類と効力関係					事前：資料 事後：概念整理		講義	
6	法のメリットとデメリット					事前：資料 事後：概念整理		講義	
7	法の基本原則					事前：資料 事後：概念整理		講義	
8	国家と法					事前：資料 事後：概念整理		講義	
9	経済と法					事前：資料 事後：概念整理		講義	
10	労働と法					事前：資料 事後：概念整理		講義	
11	社会保障と法					事前：資料 事後：概念整理		講義	
12	消費者と法					事前：資料 事後：概念整理		講義	
13	インターネットと法					事前：資料 事後：概念整理		講義	
14	家族と法					事前：資料 事後：概念整理		講義	
15	法の性格と役割					事前：資料 事後：まとめ		講義	
教本： 特に指定しない。					参考文献： 授業中に適宜指示。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 日常から社会問題について関心を持ち、法的な視点から考える習慣をつけて欲しい。</p>									
<p>オフィスアワー：初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ポ ー ト フ ォ リ オ ・ マ ネ ジ メ ン ト 論 (Portfolio Management)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 猛 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	金 融 統 計 学 I を 履 修 し て い る こ と							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : ポ ー ト フ ォ リ オ ・ マ ネ ジ メ ン ト の 基 本 原 理 に つ い て 解 説 し た あ と 、 そ の 理 論 の 根 底 に あ る リ ス ク 評 価 に つ い て 勉 強 す る 。 次 に 、 平 均 ・ 分 散 ア プ ロ ー チ を 通 じ て 、 最 適 ポ ー ト フ ォ リ オ の 決 定 や パ フ ォ ー マ ン ス の 測 定 と 評 価 お よ び CAPM に つ い て 研 究 す る 。									
授 業 目 標 : 投 資 収 益 と リ ス ク の 関 係 に つ い て 、 統 計 学 の 考 え 方 を 適 用 す る プ ロ セ ス を 理 解 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ポ ー ト フ ォ リ オ ・ マ ネ ジ メ ン ト の 基 本 原 理					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2	投 資 収 益 率 と リ ス ク					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
3・4・5	リ ス ク の 評 価					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
6	分 散 投 資 と ポ ー ト フ ォ リ オ の 決 定					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
7・8	平 均 ・ 分 散 ア プ ロ ー チ					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
9	最 適 ポ ー ト フ ォ リ オ の 決 定					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
10	ア セ ッ ト ・ ア ロ ケ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
11・12	パ フ ォ ー マ ン ス の 測 定 と 評 価					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
13・14	CAPM、効率的市場仮説、マルチファクター・モデル					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
15	ポ ー ト フ ォ リ オ ・ マ ネ ジ メ ン ト の 応 用					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
教 本 : レ ジ ュ メ の 配 布 。					参 考 文 献 : 追 っ て 連 絡 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (35%) 、 定 期 試 験 (65%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 投 資 収 益 と リ ス ク の バ ラ ン ス を ど の よ う に 考 え る の か と い う こ と を 念 頭 に 置 き な が ら 、 勉 強 を 進 め て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	簿記原理 I (Bookkeeping I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記の基礎					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
2	資産・負債・純資産（資本）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
3	貸借対照表					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
4	収益費用と損益計算書					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
5	取引と8要素					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
6	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
7	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
8	仕訳と勘定記入					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
9	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
10	6桁精算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
11	決算手続					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
12	現金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
13	当座預金					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
14	演習					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
<p>教本：</p> <p>中原章吉編著「簿記の基礎構造」（入門編） 創成社 ￥2,100+税</p>					<p>参考文献：</p> <p>なし</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積み重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	簿記原理 I (Bookkeeping I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	桑原 常明・高橋 琢也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>簿記は、現金/預金などの修士の明細や、商品の仕入や販売の記録など、企業の経済活動を正確に記録、計算、整理して、貸借対照表や損益計算書にまとめ、企業を取り巻く利害関係者に財政状態や経営成績を報告する知識であり、技術である。簿記原理 I は、経営、会計関連科目の基礎となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。本講義では、簿記の理論的な説明とともに、記帳練習や問題演習にも十分時間をかけて進めたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>日商簿記検定 3 級や全経 3 級に合格するだけの實力をつけることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記の基礎					事前：なし 事後：テキストの復習		講義	
2	資産・負債・純資産（資本）					事前：予習 事後：復習		講義	
3	貸借対照表					事前：予習 事後：復習		講義	
4	収益費用と損益計算書					事前：予習 事後：復習		講義	
5	取引と 8 要素					事前：予習 事後：復習		講義	
6	仕訳と勘定記入					事前：予習 事後：復習		講義	
7	仕訳と勘定記入					事前：予習 事後：復習		講義	
8	仕訳と勘定記入					事前：予習 事後：復習		講義	
9	試算表の作成					事前：予習 事後：復習		講義	
10	6 桁精算表の作成					事前：予習 事後：復習		講義	
11	決算手続					事前：予習 事後：復習		講義	
12	現金					事前：予習 事後：復習		講義	
13	当座預金					事前：予習 事後：復習		講義	
14	演習					事前：予習 事後：復習		講義	
15	まとめ					事前：予習 事後：復習		講義	
教本： TAC 簿記検定講座 合格テキスト 3 級					参考文献：				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 欠席しないこと、予習/復習を行うこと、携帯電話の電源をきっておくこと</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	簿記原理 I (Bookkeeping I)						科目分類	専門科目	
担当教員	渋谷 武夫								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 取引の認識から仕訳・転記を経て決算までの簿記一巡の大雑把な枠組みと、仕訳・転記の考え方について講義する。									
授業目標： 商業簿記を通して、複式簿記の基本原理の理解を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	簿記の基礎概念					事前：なし 事後：複式簿記			講義
2	資産・負債・純資産（資本）					事前：なし 事後：純資産・資本			講義
3	貸借対照表					事前：なし 事後：貸借対照表の構造			講義
4	収益費用と損益計算書					事前：なし 事後：損益計算書の構造			講義
5	取引と8要素					事前：取引とは 事後：8要素の結合関係			講義
6~8	仕訳と勘定記入					事前：なし 事後：仕訳の考え方			講義
9	試算表の作成					事前：なし 事後：試算表と元帳の関係			講義
10	6桁精算表					事前：なし 事後：6桁精算表			講義
11	決算手続					事前：なし 事後：英米式決算法			講義
12	演習					事前：なし 事後：なし			講義
13	現金・預金					事前：現金の内容 事後：小切手			講義
14	演習					事前：なし 事後：なし			講義
15	まとめ					事前：なし 事後：なし			講義
教本： 初回講義日に伝える。					参考文献： 初回講義日に伝える。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（80%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席・遅刻をしないこと。 電卓を用意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	簿記原理Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記原理Ⅰを必ず履修すること。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>勘定科目の内容理解と記帳実践を指導し、決算処理、試算表の作成、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを講義し、実際の記帳を指導する。それらの過程を理解することによって、会計の思考法もあわせて指導していく。この講義は、実践と結びついているのでプリントを利用し仕訳・記帳の事例をくりかえし、理解の促進を図る。欠席しないことと予習・復習を行うことが理解するための最短距離である。</p> <p>授業目標：</p> <p>複式簿記の基礎から応用までの商業簿記を講義する。取引の仕訳から、転記、8桁精算表作成、損益計算書と貸借対照表の作成までを理解することを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	現金・預金の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
2	商品売買Ⅰ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
3	商品売買Ⅱ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
4	売掛金・買掛金と貸倒れの処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
5	有価証券の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
6	手形取引の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
7	その他の債券・債務の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
8	固定資産と減価償却					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
9	純資産・税金の処理					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
10	試算表の作成					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
11	決算の手続きⅠ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
12	決算の手続きⅡ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
13	決算の手続きⅢ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
14	決算の手続きⅣ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義	
<p>教本：</p> <p>中原章吉編著「簿記の基礎構造」（入門編） 創成社 ¥2,100+税</p>					<p>参考文献：</p> <p>なし</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、定期試験（80）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>休みと遅刻が最大の敵。毎週の努力の積み重ねが、理解できる最短の道と思う。休まないことと予習・復習を希望する。配付プリントを確実にこなし、理解すること。簿記の検定を受験してほしい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	簿記原理Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	桑原 常明・高橋 琢也								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 簿記は、現金/預金などの修士の明細や、商品の仕入や販売の記録など、企業の経済活動を正確に記録、計算、整理して、貸借対照表や損益計算書にまとめ、企業を取り巻く利害関係者に財政状態や経営成績を報告する知識であり、技術である。簿記原理Ⅰは、経営、会計関連科目の基礎となる科目であり、簿記の仕組みと原理を理解することが肝要である。本講義では、簿記の理論的な説明とともに、記帳練習や問題演習にも十分時間をかけて進めたい。									
授業目標： 日商簿記検定3級や全経3級に合格するだけの実力をつけることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	現金・預金の処理					事前：なし 事後：復習		講義	
2	商品売買Ⅰ					事前：予習 事後：復習		講義	
3	商品売買Ⅱ					事前：予習 事後：復習		講義	
4	売掛金・買掛金と貸倒れの処理					事前：予習 事後：復習		講義	
5	有価証券の処理					事前：予習 事後：復習		講義	
6	手形取引の処理					事前：予習 事後：復習		講義	
7	その他の債券・債務の処理					事前：予習 事後：復習		講義	
8	固定資産と減価償却					事前：予習 事後：復習		講義	
9	純資産・税金の処理					事前：予習 事後：復習		講義	
10	試算表の作成					事前：予習 事後：復習		講義	
11	決算の手続きⅠ					事前：予習 事後：復習		講義	
12	決算の手続きⅡ					事前：予習 事後：復習		講義	
13	決算の手続きⅢ					事前：予習 事後：復習		講義	
14	決算の手続きⅣ					事前：予習 事後：復習		講義	
15	まとめ					事前：予習 事後：復習		講義	
教本： TAC簿記検定講座 合格テキスト3級					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 平常点(30%)、定期試験(70%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席しないこと、予習/復習を行うこと、携帯電話の電源をきっておくこと									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	簿記原理Ⅱ (Bookkeeping Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	渋谷 武夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	仕訳・転記を理解していること							
授業概要： 仕訳・転記の理解を前提として、主要項目の期中および決算処理から損益計算書・貸借対照表の作成までを講義する。									
授業目標： 取引の仕訳・転記から8桁精算表、損益計算書、貸借対照表作成までの理解（初級簿記検定試験合格レベル）を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	商品売買					事前：商品売買の内容 事後：三分法・分記法		講義	
3	売掛金・買掛金と貸倒れ					事前：貸倒れとは 事後：貸倒引当金		講義	
4	有価証券					事前：有価証券の内容 事後：売却損益		講義	
5	手形取引					事前：約束手形とは 事後：受取手形・支払手形		講義	
6	その他の債権・債務					事前：債権・債務とは 事後：仮勘定		講義	
7	固定資産と減価償却					事前：固定資産とは 事後：定額法		講義	
8	純資産					事前：なし 事後：資本金・引出金		講義	
9	経過勘定					事前：なし 事後：経過勘定		講義	
10・11	決算手続き					事前：決算整理事項とは 事後：英米式決算法		講義	
12	精算表					事前：6桁精算表 事後：8桁精算表		講義	
13・14	演習					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 初回講義日に伝える。					参考文献： 初回講義日に伝える。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席・遅刻をしないこと。 電卓を用意すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	保険市場論 (Lecture on Insurance Market)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	志 築 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 「リスク」の意味内容とその対応の方法からみた保険の基本的原理、保険の数理、保険の分類、具体的な保険商品の概要を学ぶ。さらに保険の歴史と保険市場の発展・変遷等を点検することにより、保険市場の特徴についての基礎を学ぶとともに、保険産業の経営課題を考察する。ただあくまで金融市場の一環としての保険市場という視点を重視するため、金融他分野特に銀行業との同質性と相違点については特に重視しつつ講義を進める。									
授業目標： 1. 保険の基本的原理、保険の内容と分類、及び 2. 保険の社会的役割、および保険産業の市場構造の特徴を理解すること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	本講義の意義と全体像および講義方法等についての説明					事前：日常生活と保険について考える 事後：関心テーマとのすり合わせ			講義
2	保険の基礎理論－保険の定義と分類					事前：前回配布したレジメに目を通す 事後：理解度をチェックし、不明点を質問する			講義
3	保険の基礎理論－「リスク」の基礎概念（ハザード、ペリル、リスク）との関係で見る保険の概念					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
4	リスクマネジメントと保険機能－大数の法則と保険数理の基礎					事前：保険の基礎に関する疑問点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
5	保険数理の基礎－収支均等の法則に基づく保険料の決定					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
6	保険商品の分類と概要					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
7	保険勃興の歴史－世界における保険の黎明期					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
8	日本における保険の歴史 i)－勃興期と発展期					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
9	日本における保険の歴史 ii)－戦後の保険産業復興と保険対象・商品の変化					事前：保険の歴史に関する疑問点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
10	金融機関としての保険会社－その機能と特徴についての概論					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
11	資産運用の変化と金融機関としての性格付けの変化（間接金融機関から機関投資家へ）					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
12	金融自由化と生命保険産業の変化－保険規制の動向					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
13	現代保険産業の構造と変化－経営破たんと統合・合併					事前：金融自由化に関する疑問点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
14	保険産業の経営課題					事前：前回の疑問点、不明点チェック 事後：レジメ、ノートの復習			講義
15	講義全体のまとめ、試験内容の説明					事前：全体にわたって質疑応答 事後：試験についての質問			講義
教本： レジメやパワーポイントを用いるので特に指定しないが、できるだけ次に示す参考書を読むこと。					参考文献： 『はじめて学ぶ保険の仕組み』 家森信善 編著 浅井義裕、小林毅、林晋著、中央経済社 2012年（第3刷）¥2,400円プラス税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 最終試験は、あらかじめ複数の課題を提示、それらの中から2問程度を選んでレポートとして提出してもらおう方式をとる。諸君が学んでいる他の金融分野と比較しながら、両者間の同異を点検し、かつ本質を学び取ってほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ホスピタリティ論 (Hospitality Management)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本授業は、“ホスピタリティとは何なのか”、“ホスピタリティ・マインドを持つためにはどうしたらよいか”、“ホスピタリティと社会（産業・組織）”といった大きく3つの視点からホスピタリティのあるべき姿を考察する。									
授業目標： 1. ホスピタリティを理解する。 2. ホスピタリティ・マインドを持つ人間形成を図る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	大学とホスピタリティ教育					事前：なし 事後：なし		講義	
2	ホスピタリティの意味					事前：なし 事後：資料の理解		講義	
3	サービスとホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
4	心とホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
5	自己開示と自己発見					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
6	自身と他者との関係					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
7	自身の今と将来を見極める					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
8	外国人来訪者とホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
9	ユニバーサルデザインと観光					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
10	情報伝達におけるホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
11	サービス産業とホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
12	宿泊産業におけるホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
13	景観とホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
14	ホスピタリティを発揮するための心構え					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
15	よりよきホスピタリティ社会の形成					事前：全資料の見直し 事後：全資料の理解		講義	
教本： 各授業にて資料を配布。					参考文献： 授業において指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自身を理解し自身を変革するつもりで授業を受けよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ホスピタリティ論A (Hospitality Management A)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本授業は、“ホスピタリティとは何なのか”、“ホスピタリティ・マインドを持つためにはどうしたらよいか”、“ホスピタリティと社会（産業・組織）”といった大きく3つの視点からホスピタリティのあるべき姿を考察する。									
授業目標： 1. ホスピタリティを理解する。 2. ホスピタリティ・マインドを持つ人間形成を図る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	大学とホスピタリティ教育					事前：なし 事後：なし		講義	
2	ホスピタリティの意味					事前：なし 事後：資料の理解		講義	
3	サービスとホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
4	心とホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
5	自己開示と自己発見					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
6	自身と他者との関係					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
7	自身の今と将来を見極める					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
8	外国人来訪者とホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
9	ユニバーサルデザインと観光					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
10	情報伝達におけるホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
11	サービス産業とホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
12	宿泊産業におけるホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
13	景観とホスピタリティ					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
14	ホスピタリティを発揮するための心構え					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義	
15	よりよきホスピタリティ社会の形成					事前：全資料の見直し 事後：全資料の理解		講義	
教本： 各授業にて資料を配布。					参考文献： 授業において指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自身を理解し自身を変革するつもりで授業を受けよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	ホスピタリティ論B (Hospitality Management B)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	澤田 利彦									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>本授業は、“ホスピタリティ・インダストリー”における内外の事例研究を通じてホスピタリティ・マネジメントについての理解を深める。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>1. ホスピタリティ・インダストリーの成功例・失敗例の事例研究を通じてホスピタリティ・マネジメントを理解する。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			○			◎				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	ホスピタリティの語源とホスピタリティ・インダストリーについて					事前：なし 事後：なし		講義		
2	事例研究（航空産業）					事前：なし 事後：資料の理解		講義		
3	事例研究（航空産業）					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義		
4	事例研究（交通産業）					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義		
5	事例研究（交通産業）					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義		
6	事例研究（宿泊産業）					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義		
7	事例研究（宿泊産業）					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義		
8	事例研究（宿泊産業）					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義		
9	事例研究（テーマパーク）					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義		
10	事例研究（テーマパーク）					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義		
11	事例研究（旅行業）					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義		
12	事例研究（旅行業）					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義		
13	事例研究（飲食業）					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義		
14	事例研究（飲食業）					事前：前授業の理解 事後：資料の理解		講義		
15	まとめ					事前：全資料の見直し 事後：全資料の理解		講義		
<p>教本：</p> <p>各授業にて資料を配布。</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業において指示する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>授業中の質問や意見、コメントを歓迎する。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ホテル経営論 I (Hotel management Theory I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： ホテルの語源・基本的性格を理解し、欧州、米国、日本におけるホテルの誕生と発展から現在の国際ホテルカンパニーのグローバルホテル経営時代にいたる過程を学びます。ホテルの経営理念、ホテルの経営形態から、組織・総支配人の職能、支配と統帥を学習。次いでホテルの宿泊部門の経営を学ぶ。									
授業目標： 21世紀は観光の世紀と云われる。国際ホテル経営を営業部門から管理部門まで全域にわたり概論・基礎理論と実践論の二面から学習します。ホテル経営は西洋の生活文化と深く関わっている。教科書と補則配布資料により現代ホテル経営を実践的に理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーションとホテルの基本的性格					事前：シラバスを読む 事後：ノートを読み返す		講義	
2	欧州におけるホテルの誕生と発展史					事前：教科書を読むP4 事後：ノートを読み返す		講義	
3	米国・スタットラーホテルの誕生と発展史					事前：教科書を読むP10 事後：ノートを読み返す		講義	
4	日本のホテルの起源と誕生					事前：教科書を読むP14 事後：ノートを読み返す		講義	
5	日本の明治・大正・昭和・戦後のホテル史					事前：教科書を読むP17 事後：ノートを読み返す		講義	
6	現代の国際ホテルチェーン運営委託会社経営時代					事前：教科書を読むP35 事後：ノートを読み返す		講義	
7	ホテルの語源と立地・価格による分類					事前：教科書を読むP41 事後：ノートを読み返す		講義	
8	経営形態による分類					事前：教科書を読むP51 事後：ノートを読み返す		講義	
9	ホテルの組織と命令系統					事前：教科書を読むP64 事後：ノートを読み返す		講義	
10	ホテルの経営理念					事前：教科書を読むP77 事後：ノートを読み返す		講義	
11	宿泊部門の経営					事前：教科書を読むP88 事後：ノートを読み返す		講義	
12	客室の経営・客室稼働率・実収率・Rev Par					事前：教科書を読むP101 事後：ノートを読み返す		講義	
13	ホテル経営における損益分岐点と客室料金					事前：教科書を読むP113 事後：ノートを読み返す		講義	
14	宿泊部門のマーケティング、販売促進					事前：教科書を読むP118 事後：ノートを読み返す		講義	
15	ホテル経営における宿泊部門のまとめ					事前：プリントを読む 事後：レポートの提出		講義	
教本： 「基本 ホテル経営教本」鈴木博・大庭祺一郎共著 柴田書店 ￥3,000					参考文献： 必要な資料をその都度配布				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、定期試験のレポート等（70%）、等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業には指定の教科書を持参してください。教科書には長年の実践教材からまとめられており、ぜひ予習をしておいてください。理解できない項目は授業で質問をしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ホ テ ル 経 営 論 II (Hotel management Theory II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 信 次								
履 修 条 件	前 提 科 目	ホ テ ル 経 営 論 I を 受 講 し て か ら が 望 ま し い							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>ホ テ ル 経 営 論 I に 引 き 続 き、ホ テ ル の 料 飲 部 門 (食 堂 部 門 と 宴 会 部 門 ・ 飲 料 部 門 ・ 調 理 部 門) の 経 営 か ら、管 理 部 門 (経 理 ・ 人 事 ・ 採 用 ・ 教 育 ・ 購 買 ・ 料 飲 コ ス ト コ ン ト ロ ー ル ・ 施 設 ・ 防 災 ・ 警 備 に つ い て の 基 礎 理 論、実 践 論 を 理 解 し て も ら い ま す。</p> <p>21 世 紀 に 求 め ら れ て い る ホ テ ル 経 営 の 未 来 予 測 を ま と め て 総 括 し ま す。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>21 世 紀 は 観 光 の 世 紀 と 云 わ れ る。国 際 ホ テ ル 経 営 を 営 業 部 門 か ら 管 理 部 門 ま で 全 域 に わ た り 概 論 ・ 基 礎 理 論 と 実 践 論 の 二 面 か ら 学 習 し ま す。ホ テ ル 経 営 は 西 洋 の 生 活 文 化 と 深 く 関 わ っ て い る。教 科 書 と 配 布 資 料 に よ り 現 代 ホ テ ル 経 営 を 実 践 的 に 理 解 す る。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	料 理 ・ 飲 料 部 門 の 経 営 そ の 特 質 と 重 要 性					事 前 : 教 科 書 を 読 む P152 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
2	食 堂 (レ ス ト ラ ン) の 起 源 と 種 類					事 前 : 教 科 書 を 読 む P163 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
3	食 堂 経 営 の 営 業 品 目 と サ ー ビ ス の 形 態					事 前 : 教 科 書 を 読 む P179 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
4	飲 料 経 営 の 経 営 特 質					事 前 : 教 科 書 を 読 む P202 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
5	宴 会 経 営 の 重 要 性					事 前 : 教 科 書 を 読 む P211 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
6	調 理 部 門 の 管 理 方 式					事 前 : 教 科 書 を 読 む P218 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
7	ス チ ュ ワ ー ド 業 務					事 前 : 教 科 書 を 読 む P223 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
8	マ ー ケ テ ィ ン グ と 販 売 促 進 ・ 顧 客 管 理					事 前 : 教 科 書 を 読 む P229 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
9	管 理 部 門 総 務 ・ 人 事 ・ 採 用 ・ 労 務 ・ 厚 生 ・ 給 与 ・ 教 育					事 前 : 教 科 書 を 読 む P243 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
10	施 設 管 理 と 防 災 ・ 防 犯 ・ 衛 生 管 理					事 前 : 教 科 書 を 読 む P244 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
11	経 理 部 門					事 前 : 教 科 書 を 読 む P250 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
12	料 理 ・ 飲 料 コ ス ト コ ン ト ロ ー ル (FBC) と 購 買 部 門					事 前 : 教 科 書 を 読 む P259 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
13	ホ テ ル の 経 営 分 析 と 指 標					事 前 : 教 科 書 を 読 む P285 事 後 : ノ ー ト を 読 む 返 す		講 義	
14	21 世 紀 の ホ テ ル 経 営 世 界 の ホ テ ル 産 業 の 未 来 予 測					事 前 : 教 科 書 を 読 む P293 事 後 : レ ポ ー ト を 書 く		講 義	
15	21 世 紀 の ホ テ ル 経 営 日 本 の ホ テ ル の 未 来 予 測					事 前 : 教 科 書 を 読 む P298 事 後 : レ ポ ー ト の 提 出		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「基 本 ホ テ ル 経 営 教 本」 鈴 木 博 ・ 大 庭 祺 一 郎 共 著 柴 田 書 店 ¥3,000					必 要 な 資 料 を そ の 都 度 配 布				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
授 業 参 加 状 況 等 (30%)、定 期 試 験 の レ ポ ー ト 等 (70%)、等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 に は 指 定 の 教 科 書 を 持 参 し て く だ さ い。教 科 書 に は 長 年 の 実 践 教 材 か ら ま と め ら れ て お り、ぜ ひ 予 習 を し て お い て く だ さ い。理 解 で き な い 項 目 は 授 業 で 質 問 を し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ホテルサービス実務 (Practice for Hotel Service)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： ホテルでの約40年の実務経験から教科書と補足資料により、ホテル全般の接客サービスの基本を学んでもらう。 ホテルの接客サービスには、宿泊・食堂・宴会・調理など多岐にわたって教科書と併せてホテル協会監修のビデオを使いできるだけ分かりやすく学んでもらう。									
授業目標： ホテル (hotel) の語源はラテン語のホスピターレ (hospitale) で、「旅人、お客様を心から暖かくもてなす」と云う意味である。 21世紀＝観光の世紀であって、最も大事なホスピタリティの心を学んでもらう。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーションとホテルの基本的性格					事前：シラバスを読む 事後：ノートを読み返す		講義	
2	ホテルの分類と基本理念					事前：教科書を読むP1 事後：ノートを読み返す		講義	
3	ホテルの組織					事前：教科書を読むP15 事後：ノートを読み返す		講義	
4	ホテルのサービス価値					事前：教科書を読むP33 事後：ノートを読み返す		講義	
5	ホテルスタッフのサービストレーニング					事前：教科書を読むP49 事後：ノートを読み返す		講義	
6	外国経営ホテルのサービストレーニング					事前：教科書を読むP63 事後：ノートを読み返す		講義	
7	ホテルの評価制度					事前：教科書を読むP77 事後：ノートを読み返す		講義	
8	ホテルマンの基本マナー					事前：教科書を読むP85 事後：ノートを読み返す		講義	
9	ホテルの接客サービス・宿泊部門					事前：教科書を読むP95 事後：ノートを読み返す		講義	
10	ホテルの接客サービス・食堂部門					事前：教科書を読むP128 事後：ノートを読み返す		講義	
11	ホテルの接客サービス・飲料部門					事前：教科書を読むP160 事後：ノートを読み返す		講義	
12	ホテルの接客サービス・宴会部門					事前：教科書を読むP167 事後：ノートを読み返す		講義	
13	ホテルの接客サービス・調理部門					事前：教科書を読むP188 事後：ノートを読み返す		講義	
14	ホテルの付帯サービス					事前：教科書を読むP193 事後：レポートを書く		講義	
15	帝国ホテルのおもてなし9か条・まとめ					事前：前期の復習 事後：レポートを書く		講義	
教本： 「わかりやすいホテルのサービス実務」高月璋介著 柴田書店 ￥2,500					参考文献： 必要な資料をその都度配布				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (30%)、定期試験のレポート (70%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日本のおもてなし精神が世界で注目されています。その原点がホテルの接客サービスであり、多岐にわたる項目があるため、教科書を予習し授業に参加してください。理解できない点は授業で質問してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ボランティア論 (Volunteer)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	木原 勇								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 今日におけるボランティア活動の現状と固有の価値（当事者・活動者・社会・地域）を理解するうえで、これからの社会の一翼を担う社会人として、ボランティア・市民活動を学びます。									
授業目標： ボランティア活動は、さまざまな分野に広がりがあります。授業では、歴史・背景・多岐に渡る活動を紹介し、また、厚木市内の福祉施設等にて課外授業を行い、実際の体験から得るものを体感し、ボランティアの基礎を理解することを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：身近なボランティア		講義	
2	ボランティア活動とは何か					事前：なし 事後：テキスト用意		講義	
3	ボランティア活動の目指すもの					事前：なし 事後：なし		講義	
4	ボランティア活動の範囲					事前：なし 事後：なし		講義	
5	ボランティア活動の推進					事前：なし 事後：なし		講義	
6	ボランティア学習					事前：なし 事後：活動事例集紹介		講義	
7	ボランティア活動の実践					事前：なし 事後：課外授業アンケート		講義	
8	地域分野のボランティア活動					事前：なし 事後：なし		講義	
9	高齢者分野のボランティア活動					事前：なし 事後：なし		講義	
10	障がい者分野のボランティア活動					事前：なし 事後：なし		講義	
11	児童分野のボランティア活動					事前：なし 事後：なし		講義	
12	国際貢献分野のボランティア活動					事前：なし 事後：なし		講義	
13	課外授業に関するオリエンテーション					事前：なし 事後：訪問先確認		講義	
14	課外授業 当日					事前：訪問先事前確認 事後：レポート作成		演習	
15	課外授業の振り返り 授業のまとめ					事前：レポート提出 事後：なし		講義	
教本： 「ボランティアのすすめ」 監修 岡本栄一 ミネルヴァ書房 ¥2,400+税					参考文献： 授業中、随時提示				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 全15回終了後には、これからの学生生活や進路等を考えていく方向付けとしての一助になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I (Marketing Management I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	佐 々 木 悟								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>マーケティングは、Market + ing が示すように企業・組織が行う対市場活動である。財・サービスの生産・流通、および消費に関する経済秩序を市場の自由な需給調節に委ねる市場主義のもと、市場成果は「見えざる手」に委ねられている。企業が市場メカニズムに委ねる以上の成果を求めるならば、必然的に市場に働きかけるための「見える手」が必要になってくる。それがマーケティングである。本授業は、前期において、市場とマーケティングの基礎理論を学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>マーケティング論の基礎理論であるマーケティングの要素 4P's の内容とその組み合わせであるマーケティングミックスについて理解する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション (授業のすすめ方と教本、参考書の案内)					事前：なし 事後：なし		講義	
2	1. マーケティングとは					事前：①教本 p10～13 事後：本日の授業内容		講義	
3	2. マーケティングの具体的内容 4P's (1) Product ①製品政策 1					事前：第 2 回授業で指示 事後：本日の授業内容		講義	
4	②製品政策 2					事前：①教本 p34～85 事後：本日の授業内容		講義	
5・6	③製品政策 3 ④製品政策 4					事前：第 4 回授業で指示 事後：本日の授業内容		講義	
7	(2) Promotion ①販売促進政策 1					事前：①教本 p142～144 事後：本日の授業内容		講義	
8	②販売促進政策 2					事前：①教本 156～161 事後：本日の授業内容		講義	
9	これまでの授業の小括と小テスト					事前：第 1～8 回授業で内容 事後：なし		講義	
10	(3) Place ①流通経路政策 1					事前：①教本 130～135 事後：本日の授業内容		講義	
11	②流通経路政策 2					事前：第 10 回授業で指示 事後：本日の授業内容		講義	
12	(4) Price ①価格政策 1					事前：第 11 回授業で指示 事後：本日の授業内容		講義	
13	②価格政策 2					事前：①教本 100～113 事後：本日の授業内容		講義	
14	③価格政策 3					事前：第 13 回授業で指示 事後：本日の授業内容		講義	
15	授業の総括					事前：第 14 回授業で指示 事後：第 1～15 回授業で内容		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
①野口智雄『マーケティングの基本』日経文庫、2005年を主たるテキストとするが、授業内容は右記に示す参考書全般に及ぶので各授業毎配布する授業内容を取り纏めたレジュメを教本とする。					②片桐誠士・高宮城朝則・東徹『現代マーケティングの構図』嵯峨野書院、2010年、③久保村隆祐・出牛正芳・吉村寿『マーケティング読本』東洋経済新報社、2000年				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30 %) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20 %) 、 定 期 試 験 (50 %) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 試 験 は 参 考 書 、 ノ ー ト 類 は 一 切 持 ち 込 み 不 可 。 期 末 試 験 の 他 に 小 試 験 を 行 う の で 、 各 授 業 ごとに 配 布 す る 教 本 (レ ジ ュ メ) と 参 考 書 に よ っ て 予 習 ・ 復 習 を 行 い 、 授 業 内 容 を 整 理 す る こ と が 必 要 で あ る 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I (Marketing Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宝 子 山 嘉 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>昭和30年代、日本に紹介されたマーケティングは、消費財メーカーを中心として展開されてきたが、近年では小売業界やサービス業界にも普及している。消費者の需要を的確にとらえ価値ある商品開発によって新たな需要を創造し、効果的に商品を提供するマーケティングの理念と戦略を体系的に学ぶとともに、最新の事例にもふれながらその発想法についても学習する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>企業は、研究開発、生産、マーケティング、販売、人事、財務など、様々な活動を営んでいますが、これらの活動はその外見こそあまり変わっていません。しかし、その中身は恐ろしい速さで進化しています。マーケティングも例外ではありません。市場の機会をとらえ、標的市場を設定し、ポジショニングを行い、それに合わせてマーケティング・ミックス戦略を構築する——こうした一連のプロセス自体は不変ですが、その重要ポイント、手法などは、変化してきています。その変化をキッチリとらえることを目標にします。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	マ ー ケ テ ィ ン グ の 定 義					事 前 : な し 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
2	マ ー ケ テ ィ ン グ 活 動 に お け る 3 大 要 素					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
3	戦 略 的 マ ー ケ テ ィ ン グ					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
4	マ ー ケ テ ィ ン グ と は 何 か					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
5	流 通 と そ の 機 能					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
6	流 通 と マ ー ケ テ ィ ン グ					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
7	小 売 流 通					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
8	卸 売 流 通					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
9	マ ー ケ テ ィ ン グ 情 報 と 情 報 シ ス テ ム					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
10	マ ー ケ テ ィ ン グ ・ プ ロ セ ス					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
11	製 品 の 戦 略					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
12	価 格 の 戦 略					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
13	流 通 の 戦 略					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
14	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 戦 略					事 前 : 前 回 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 今 回 の 配 布 資 料 の 読 み 返 し		講 義	
15	ま と め					事 前 : 前 回 ま で の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : な し		講 義	
教 本 :									
プリント等を適宜配布する。					参 考 文 献 :				
					「マーケティング入門-企業と市場-」五紘社 ¥1,000 税別				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
平常点 (20%)、小テスト・レポート等 (10%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
6 回 以 上 欠 席 し た 学 生 は 定 期 試 験 を 受 験 す る こ と が で き な い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	マ ー ケ テ ィ ン グ 論 Ⅱ (Marketing Management II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	佐 々 木 悟								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>企業が市場メカニズムに委ねる以上の成果を求めて、市場に働きかけるための「見える手」が、つまりマーケティング戦略である。本授業ではマーケティング論Ⅰで培った市場とマーケティングの基礎理論をもとに、市場競争によって形成されてきた市場構造と、企業の競争を勝ち抜くマーケティングの機能と諸活動について学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>製品差別化とブランド化を基盤とする非価格競争、すなわち独占的競争とマーケティングの機能と諸活動の関わりを把握し、最低のコストで最大の顧客満足を生み出すマーケティング要素の組み合わせ（マーケティングミックス）について提案する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	1. オリエンテーション授業のすすめ方と教本、参考書の紹介					事前：なし 事後：なし		講義	
2	2. マーケティングの基礎理論1					事前：「マーケティング論Ⅰ」レジュメ No.1～15 事後：本日の授業内容		講義	
3	3. マーケティングの基礎理論2					事前：「マーケティング論Ⅰ」レジュメ No.1～15 事後：本日の授業内容		講義	
4・5	4. マーケティングの諸活動1 5. マーケティングの諸活動2					事前：「マーケティング論Ⅰ」レジュメ No.1～15 事後：本日の授業内容		講義	
6～8	6. マーケティングと競争 (1) 多占 (2) 寡占 (3) 独占					事前：④ p7～369 事後：本日の授業内容		講義	
9	授業の小括と小テスト					事前：第1～8回授業で内容 事後：なし		講義	
10	(4) 独占的競争。					事前：③第1章 事後：本日の授業内容		講義	
11	① 占的競争における製品差別化					事前：③第1章 事後：本日の授業内容		講義	
12	② 独占的競争の普遍化・高度化					事前：③第1章 事後：本日の授業内容		講義	
13	7. 新しいマーケティングマーケティングの概念の拡大					事前：③第1章 事後：本日の授業内容		講義	
14	大戦間における自動車業界のマーケティング					事前：第13回授業で指示 事後：本日の授業内容		講義	
15	授業の総括					事前：第1～14回授業で内容 事後：第1～15回授業で内容		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
①野口智雄『マーケティングの基本』日経文庫、2005年を主たるテキストとするが、授業内容は左記に示す参考書全般に及ぶので核授業毎配布する授業内容を取り纏めたレジュメを教本とする。					②片桐誠士・高宮城朝則・東徹『現代マーケティングの構図』嵯峨野書院、2010年、③久保村隆祐・出牛正芳・吉村寿『マーケティング読本』東洋経済新報社、2000年、④日経産業新聞『日経シェア調査2014』日本経済新聞社、2013年				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
試 験 は 参 考 書、ノ ー ト 類 は 一 切 持 ち 込 み 不 可。期 末 試 験 の 他 に 小 試 験 を 行 う の で、各 授 業 ご と に 配 布 す る 教 本 (レ ジ ュ メ) と 参 考 書 に よ っ て 予 習 ・ 復 習 を 行 い、授 業 内 容 を 整 理 す る こ と が 必 要 で あ る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義																																																																						
授業科目(英文)	マーケティング論Ⅱ (Marketing Management Ⅱ)						科目分類	専門科目																																																																							
担 当 教 員	宝子山 嘉一																																																																														
履 修 条 件	前提科目	なし																																																																													
	その他	なし																																																																													
<p>授業概要：</p> <p>昭和30年代、日本に紹介されたマーケティングは、消費財メーカーを中心として展開されてきたが、近年では小売業界やサービス業界にも普及している。消費者の需要を的確にとらえ価値ある商品開発によって新たな需要を創造し、効果的に商品を提供するマーケティングの理念と戦略を体系的に学ぶとともに、最新の事例にもふれながらその発想法についても学習する。</p> <p>授業目標：</p> <p>企業は、研究開発、生産、マーケティング、販売、人事、財務など、様々な活動を営んでいますが、これらの活動はその外見こそあまり変わっていません。しかし、その中身は恐ろしい速さで進化しています。マーケティングも例外ではありません。市場の機会をとらえ、標的市場を設定し、ポジショニングを行い、それに合わせてマーケティング・ミックス戦略を構築する——こうした一連のプロセス自体は不変ですが、その重要ポイント、手法などは、変化してきています。その変化をキッチリとらえることを目標にします。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width:33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width:33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">◎</td> <td></td> <td style="text-align:center;">○</td> </tr> </table> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">授業回数</th> <th style="width:55%;">授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th style="width:25%;">事前・事後学習（学習課題）</th> <th style="width:10%;">授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マーケティングの考え方</td> <td>事前：なし 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>戦略的マーケティング活動</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>戦略的経営①</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>戦略的経営②</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ステークホルダー・コンセプト</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ビジネス領域の設定</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>外部環境を分析する</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>戦略的マーケティング・プランを立案する</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>市場を分析し、ターゲットを絞る</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>製品・ブランド戦略</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>プライス戦略</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>流通戦略</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>販売促進戦略</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>戦略を評価する</td> <td>事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>事前：前回までの配布資料を読む 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p>教本：</p> <p>プリント等を適宜配布する。</p> <p>参考文献：</p> <p>「マーケティングを哲学として経営に取り入れるということ」 日本実業出版 ￥1,600 税別</p> <p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p> <p>学生へのアドバイス： 6回以上欠席した学生は定期試験を受験することができない。</p> <p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	◎		○	授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	マーケティングの考え方	事前：なし 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	2	戦略的マーケティング活動	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	3	戦略的経営①	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	4	戦略的経営②	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	5	ステークホルダー・コンセプト	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	6	ビジネス領域の設定	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	7	外部環境を分析する	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	8	戦略的マーケティング・プランを立案する	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	9	市場を分析し、ターゲットを絞る	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	10	製品・ブランド戦略	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	11	プライス戦略	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	12	流通戦略	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	13	販売促進戦略	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	14	戦略を評価する	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義	15	まとめ	事前：前回までの配布資料を読む 事後：なし	講義
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																													
◎		○																																																																													
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																																												
1	マーケティングの考え方	事前：なし 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
2	戦略的マーケティング活動	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
3	戦略的経営①	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
4	戦略的経営②	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
5	ステークホルダー・コンセプト	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
6	ビジネス領域の設定	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
7	外部環境を分析する	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
8	戦略的マーケティング・プランを立案する	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
9	市場を分析し、ターゲットを絞る	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
10	製品・ブランド戦略	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
11	プライス戦略	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
12	流通戦略	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
13	販売促進戦略	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
14	戦略を評価する	事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し	講義																																																																												
15	まとめ	事前：前回までの配布資料を読む 事後：なし	講義																																																																												

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	マクロ経済学 I (Macroeconomics I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石橋 春男								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： マクロ経済学の目標は、経済成長率、インフレ率、失業率、利子率と為替レートのそれぞれの決定システムとそれらの相互依存関係を理解することにある。これらの基礎的経済条件の導出と解釈について講義し、理解を深めることができるように指導する。									
授業目標： マクロ経済学の分析道具を正確に理解し、それらの変数がいかなる要因によって決定され、その変数が他の変数に及ぼす影響を理解できるように指導する。マクロ経済学の理解なくして、現実の経済を理解できないほど昨今の国民経済は複雑・多様化している。さらに、グローバル化した社会では、国際間の相互関連は重層化している。こうした経済現象の解明にマクロ経済学の役割は大きい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ケインズの学説上の位置づけ 世界大恐慌とケインズ					事前：なし 事後：関連事項の学習		講義	
2	ケインズ経済学のフレーム・ワーク					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
3	世界の人口、所得、貿易量					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
4	日本の人口、所得、貿易量					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
5	GDP の概念					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
6	GNP と GNI					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
7	GNE					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
8	内需と外需					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
9	消費関数と貯蓄関数					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
10	貯蓄と投資					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
11	所得決定の2部門モデル					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
12	投資乗数の理論					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
13	所得決定の3部門モデル 個人、法人、政府部門のマクロ分析					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
14	財政乗数と均衡予算定理 減税と公共事業の経済効果					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
15	所得決定の4部門モデル 貿易乗数と輸入誘発効果					事前：前期のノート整理 事後：前期試験の準備		講義	
教本： 石橋春男・橋口宏行・河口雄二『よくわかるマクロ経済学入門』 慶應義塾大学出版会、¥1,800					参考文献： 石橋春男・関谷喜三郎『入門マクロ経済学』税務経理協会、¥2,800				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 予習・復習をして教場に臨むこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	マクロ経済学Ⅱ (Macroeconomics Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	石橋 春男								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： マクロお経済学の最終目標は、財政政策と金融政策の有効性を検討することである。政府の財政政策は、個人、法人、金融、海外の各部門との関係で把握することが必要となる。よってマクロ経済学は部門分析に集中することになる。それらを踏まえて、経済政策の限界を明らかにする。</p>									
<p>授業目標： マクロ経済変数の相互依存関係を理解し、それらの変数の変化が及ぼす影響を分析する。たとえば、利子率とGDP、インフレ率と失業率、利子率と為替レート、為替レートと国際収支などマクロ経済の基本事項を詳細に説明し、ひとり一人が理解できるまで時間をかけても指導する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	貨幣の役割 貨幣とはいったい何なのか。					事前：なし 事後：関連事項の学習		講義	
2	貨幣数量説とケンブリッジ方程式					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
3	流動性選好説					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
4	日本銀行の役割					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
5	日本銀行と市中銀行					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
6	金融部門勘定					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
7	IS 曲線					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
8	LM 曲線					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
9	財政政策の有効性					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
10	クラウディングアウト効果					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
11	金融政策の有効性					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
12	流動性の罨					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
13	為替市場 固定相場制と変動相場制の比較分析					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
14	為替レート決定の理論 購買力平価説と金利平価説					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義	
15	ポリシー・ミックス 後期の総まとめ					事前：後期のノート整理 事後：後期試験の準備		講義	
<p>教本： 石橋春男・橋口宏行・河口雄二著「よくわかるマクロ経済学入門」 慶應義塾大学出版会、¥1,800</p>					<p>参考文献： 石橋春男・関谷喜三郎著『入門マクロ経済学』税務経理協会、¥2,800</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 教本を毎週精読して授業に臨みたい。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	マルチメディア I (画像) (Multimedia I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	岸 康人・立野 貴之・金 幸郁								
履 修 条 件	前提科目	情報基礎							
	その他	コンピュータの操作スキルが不十分、または自信のない学生は、上記科目の受講後が望ましい。							
<p>授業概要： マルチメディアの基本的な知識と汎用性の高いグラフィックソフトを利用して、デジタル画像・映像の作成や編集に関する操作方法を習得し、それらを活用した作品制作を行う。演習を通して画像処理の理解を深めることを目的とする。</p>									
<p>授業目標： 最近のコンピュータの発達により、様々な分野でコンピュータ画像処理の技術が高まっている。この授業では、マルチメディアで必要とされる画像処理の基礎について講義を行う。さらに実習を通して、コンピュータを用いて様々な図形や画像生成や編集処理する技術を学ぶ。また、高度な映像表現技法の実践的開発に取り組み、映像コンテンツの内容分析を通じて、映像メディアの諸相を理解し、作品制作を行う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス / コンピュータグラフィックスに関して					事前：なし 事後：メールのログインを確認		演習	
2	コンピュータグラフィックス (CG) とは					事前：マルチメディアという表現概観 事後：マルチメディアという表現考察		演習	
3	静止画と動画					事前：拡張子を調べておく 事後：拡張子を復習しておく		演習	
4・5	映像のデジタル化 (1)(2)					事前：デジタル機器の準備 事後：課題を完成させておく		演習	
6・7	映像処理と編集 (1)(2)					事前：画像処理ソフトを操作 事後：課題を完成させておく		演習	
8・9	映像処理と編集 (3)(4)					事前：レイヤーを復習しておく 事後：課題を完成させておく		演習	
10・11	ウェブデザイン (1)(2)					事前：タグを調べておく 事後：タグを復習しておく		演習	
12・13	コンピュータアニメーション (1)(2)					事前：gifアニメを調べておく 事後：練習 gifアニメを作成		演習	
14	作品作成					事前：映像処理を復習しておく 事後：作品を完成させておく		演習	
15	まとめ					事前：アップロード方法確認 事後：なし		演習	
教本： ガイダンスで指示する。					参考文献： 講義中に指示する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点 (30%)、提出課題 (30%)、最終課題 (40%) の評価から判断する。 平常点：授業課題、授業への参加度 提出課題：講義中の課題、最終作品、レポートなど</p>									
<p>学生へのアドバイス： コンピュータ演習が中心となるため、欠席をすると授業についていけなくなる可能性があります。やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、または、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにしてください。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。また、定員が超えた場合は、初回の授業に抽選を行いますので、初回の授業は必ず出席してください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	マルチメディア II (映像) (Multimedia II)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	立 野 貴 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	マルチメディア I							
	そ の 他	この授業は、マルチメディア I からさらに発展した広範囲にわたる知識が必要となる。そのため、原則としてマルチメディア I の単位を修得した学生を対象とし、また、マルチメディア I を十分に理解した上 (成績 A 以上) での受講が望ましい。							
<p>授業概要：</p> <p>インターネットでマルチメディア対応の映像を作成するために必要な知識や手順を理解することを目的とする。この講義では、主に動画・音声データの処理やアニメーションの作成に関する内容に焦点を当て、パソコンを利用して、動画処理に必要な知識や技能を身に付ける。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>動画データの知識の講義及び、動画編集・アニメーションの作成データを加工し、インターネット上で利用できるマルチメディアがどういったものかを、講義の中で紹介しそれらを作成する。またアニメーション作成や音声データの加工、さらに、それぞれを組み合わせるために必要な知識と技術を習得する。最終的には、受講生が独自の作品制作をしてインターネット上に公開し、それに関する発表を行う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス/マルチメディアに関して					事前：なし 事後：動画編集を概観		演習	
2	動画編集に関して					事前：ムービーメーカーの準備 事後：ムービーメーカーの操作		演習	
3	アニメーションの復習と動画処理の基本					事前：GIF アニメの復習 事後：GIF アニメ課題完成		演習	
4	動画編集ソフトとファイル形式・スライドの素材収集					事前：ムービーメーカー操作方法 事後：写真素材の収集		演習	
5	動画スライドの作成					事前：写真素材の取り込み 事後：動画スライド完成		演習	
6	素材を利用した動画の編集・ストーリーの作成					事前：素材の確認 事後：動画ストーリー完成		演習	
7	動画編集 (シーンの挿入とタイムライン)					事前：動画編集基本操作確認 事後：操作の復習		演習	
8	動画編集 (文字と特殊効果)、音声の効果的な利用					事前：音声素材の準備 事後：音声利用の操作復習		演習	
9	作成したストーリーに沿った動画作成					事前：作成したストーリーの確認 事後：動画の完成		演習	
10	デジタル機器の利用とデータの取り込み					事前：身近なデジタル機器の確認 事後：グループ決定		演習	
11~14	グループワーク					事前：各グループの活動 事後：各グループの活動		演習	
15	課題発表会					事前：作品の提出 事後：なし		演習	
<p>教本：</p> <p>ガイダンスで指示する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>講義中に指示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>平常点 (30%)、提出課題 (30%)、最終課題 (40%) の評価から判断する。</p> <p>平常点：授業課題、授業への参加度</p> <p>提出課題：講義中の課題、最終作品 (個人とグループ)、レポートなど</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>コンピュータ演習が中心となるため、欠席をすると授業についていけなくなる可能性があります。やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、または、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにしてください。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。また、授業のグループワークでは、欠席などでグループのメンバーに迷惑をかけないよう努力してください。定員を超えた場合は、初回の授業に抽選を行いますので、初回の授業は必ず出席してください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	マルチメディア A (画像) (Multimedia A)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	岸 康人・立野 貴之・金 幸郁								
履 修 条 件	前提科目	情報基礎							
	その他	コンピュータの操作スキルが不十分、または自信のない学生は、上記科目の受講後が望ましい。							
<p>授業概要：</p> <p>マルチメディアの基本的な知識と汎用性の高いグラフィックソフトを利用して、デジタル画像・映像の作成や編集に関する操作方法を習得し、それらを活用した作品制作を行う。演習を通して画像処理の理解を深めることを目的とする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>最近のコンピュータの発達により、様々な分野でコンピュータ画像処理の技術が高まっている。この授業では、マルチメディアで必要とされる画像処理の基礎について講義を行う。さらに実習を通して、コンピュータを用いて様々な図形や画像生成や編集処理する技術を学ぶ。また、高度な映像表現技法の実践的開発に取り組み、映像コンテンツの内容分析を通じて、映像メディアの諸相を理解し、作品制作を行う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス / コンピュータグラフィックスに関して					事前：なし 事後：メールのログインを確認		演習	
2	コンピュータグラフィックス (CG) とは					事前：マルチメディアという表現概観 事後：マルチメディアという表現考察		演習	
3	静止画と動画					事前：拡張子を調べておく 事後：拡張子を復習しておく		演習	
4・5	映像のデジタル化 (1)(2)					事前：デジタル機器の準備 事後：課題を完成させておく		演習	
6・7	映像処理と編集 (1)(2)					事前：画像処理ソフトを操作 事後：課題を完成させておく		演習	
8・9	映像処理と編集 (3)(4)					事前：レイヤーを復習しておく 事後：課題を完成させておく		演習	
10・11	ウェブデザイン (1)(2)					事前：タグを調べておく 事後：タグを復習しておく		演習	
12・13	コンピュータアニメーション (1)(2)					事前：gifアニメを調べておく 事後：練習 gifアニメを作成		演習	
14	作品作成					事前：映像処理を復習しておく 事後：作品を完成させておく		演習	
15	まとめ					事前：アップロード方法確認 事後：なし		演習	
教本： ガイダンスで指示する。					参考文献： 講義中に指示する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点 (30%)、提出課題 (30%)、最終課題 (40%) の評価から判断する。 平常点：授業課題、授業への参加度 提出課題：講義中の課題、最終作品、レポートなど</p>									
<p>学生へのアドバイス： コンピュータ演習が中心となるため、欠席をすると授業についていけなくなる可能性があります。やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、または、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにしてください。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。また、定員が超えた場合は、初回の授業に抽選を行いますので、初回の授業は必ず出席してください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	マルチメディア B (映像) (Multimedia B)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	立 野 貴 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	マルチメディア I							
	そ の 他	この授業は、マルチメディア I からさらに発展した広範囲にわたる知識が必要となる。そのため、原則としてマルチメディア I の単位を修得した学生を対象とし、また、マルチメディア I を十分に理解した上 (成績 A 以上) での受講が望ましい。							
授業概要： インターネットでマルチメディア対応の映像を作成するに必要な知識や手順を理解することを目的とする。この講義では、主に動画・音声データの処理やアニメーションの作成に関する内容に焦点を当て、パソコンを利用して、動画処理に必要な知識や技能を身に付ける。									
授業目標： 動画データの知識の講義及び、動画編集・アニメーションの作成データを加工し、インターネット上で利用できるマルチメディアがどういったものかを、講義の中で紹介しそれらを作成する。またアニメーション作成や音声データの加工、さらに、それぞれを組み合わせるために必要な知識と技術を習得する。最終的には、受講生が独自の作品制作をしてインターネット上に公開し、それに関する発表を行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス／マルチメディアに関して					事前：なし 事後：動画編集を概観		演習	
2	動画編集に関して					事前：ムービーメーカーの準備 事後：ムービーメーカーの操作		演習	
3	アニメーションの復習と動画処理の基本					事前：GIF アニメの復習 事後：GIF アニメ課題完成		演習	
4	動画編集ソフトとファイル形式・スライドの素材収集					事前：ムービーメーカー操作方法 事後：写真素材の収集		演習	
5	動画スライドの作成					事前：写真素材の取り込み 事後：動画スライド完成		演習	
6	素材を利用した動画の編集・ストーリーの作成					事前：素材の確認 事後：動画ストーリー完成		演習	
7	動画編集 (シーンの挿入とタイムライン)					事前：動画編集基本操作確認 事後：操作の復習		演習	
8	動画編集 (文字と特殊効果)、音声の効果的な利用					事前：音声素材の準備 事後：音声利用の操作復習		演習	
9	作成したストーリーに沿った動画作成					事前：作成したストーリーの確認 事後：動画の完成		演習	
10	デジタル機器の利用とデータの取り込み					事前：身近なデジタル機器の確認 事後：グループ決定		演習	
11~14	グループワーク					事前：各グループの活動 事後：各グループの活動		演習	
15	課題発表会					事前：作品の提出 事後：なし		演習	
教本： ガイダンスで指示する。					参考文献： 講義中に指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点 (30%)、提出課題 (30%)、最終課題 (40%) の評価から判断する。 平常点：授業課題、授業への参加度 提出課題：講義中の課題、最終作品 (個人とグループ)、レポートなど									
学生へのアドバイス： コンピュータ演習が中心となるため、欠席をすると授業についていけなくなる可能性があります。やむを得ず欠席した授業内容などに関しては、授業内容に関して友人に確認、または、教員に質問をするなりして、欠席の遅れを取り戻すようにしてください。質問は、メールまたは、オフィスアワーに受け付けます。また、授業のグループワークでは、欠席などでグループのメンバーに迷惑をかけないよう努力してください。定員を超えた場合は、初回の授業に抽選を行いますので、初回の授業は必ず出席してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	マンガ研究 (Comics Study)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小田切 博								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 「マンガ」とは何か。というレベルから、各時代の言説、報道などを通して日本国内の「マンガ」の歴史的な流れを講義する。									
授業目標： 現在の日本におけるマンガ文化のあり方を俯瞰的にまとめ、「マンガ研究」とはどのようなものかを考えてもらう。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	マンガ文化の現状					事前：なし 事後：なし		講義	
2	「マンガ」とは何か					事前：なし 事後：なし		講義	
3	「マンガ」とは何か					事前：なし 事後：なし		講義	
4	メディアミックス					事前：なし 事後：なし		講義	
5	メディアミックス					事前：なし 事後：なし		講義	
6	戦後マンガ史					事前：なし 事後：なし		講義	
7	戦後マンガ史					事前：なし 事後：なし		講義	
8	戦後マンガ史					事前：なし 事後：なし		講義	
9	戦後マンガ史					事前：なし 事後：なし		講義	
10	戦後マンガ史					事前：なし 事後：なし		講義	
11	日本のマンガ言説					事前：なし 事後：なし		講義	
12	日本のマンガ言説					事前：なし 事後：なし		講義	
13	海外との関係					事前：なし 事後：なし		講義	
14	海外との関係					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ、総論					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 小田切博『キャラクターとは何か』筑摩書房 ￥735					参考文献： 小田切博『戦争はいかに「マンガ」を変えるか』NTT出版 ￥2,625 他授業中に適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： できるだけ先入観を持たずにきてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ミクロ経済学 I (Microeconomics I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石橋 春男								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>消費者の合理的行動は効用の極大であり、企業の合理的行動は利潤の極大である、それぞれの行動原理から需要曲線と供給曲線が導かれる。需要・供給分析から最適資源配分のメカニズムを明らかにすることができる。つまり本講義は、資源配分の基本原則を解明することが目的になる。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>この講義では、消費者が予算制約の下で効用を最大化する行動原理を追及する。まず基本的な分析道具を詳細に解説し、ミクロ分析の基礎固めを行う。つぎに商品価格の上昇や下落がその商品の需要量を増減させるという需要の法則が常に成り立つかどうかを証明する。さらに、企業についても限られた資金制約の下で利潤を極大にする行動原理にも立ち入る。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	ミクロ経済学と経済学史 ワルラスとマーシャル					事前：なし 事後：復習と関連事項の学習		講義	
2	限界革命と新古典派経済学					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
3	経済分析の基本的概念：需要と供給					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
4	右下がりの需要曲線の意味					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
5	右上がりの供給曲線の意味					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
6	静学と最適資源配分					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
7	比較静学と需給均衡					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
8	消費者行動理論の学説史 限界効用理論					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
9	消費者の予算線とそのシフト					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
10	無差別曲線と限界代替率					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
11	消費者均衡点と需要曲線					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
12	代替効果と所得効果 需要曲線の導出過程					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
13	代替材と補完財とギッフェン財 価格効果の分析					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
14	動学と蜘蛛の巣の理論 時間と価格変動					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
15	ミクロ経済学の応用 環境の経済分析					事前：教本で次の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
<p>教本：</p> <p>石橋春男・橋口宏行・中藤和重著『よくわかるミクロ経済学入門』慶應義塾大学出版会、¥1,800</p>					<p>参考文献：</p> <p>石橋春男・関谷喜三郎『入門ミクロ経済学』税務経理協会、¥2,500</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>ミクロ経済学の専用ノートを準備し、予習・復習を習慣化する。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ミクロ経済学Ⅱ (Microeconomics Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 橋 春 男								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授業概要： この講義では、市場経済のメカニズムを明らかにする。市場への参入者の数によって価格と需給量がどのように変化するか。情報や規制、市場への期待などによって、市場が機能しない場合もある。こうした市場の失敗によって市場原理が機能しない多くのケースも本講義の対象となる。									
授業目標： ここでは、企業の行動原理が主たる講義の対象となる。市場分類を行い、代表的な完全競争市場、独占、寡占市場などの価格形成メカニズムを比較・分析する。さらに、外部効果が発生する場合、自然独占企業の場合、公共財の場合などのいわゆる市場の失敗の分析に果たすミクロ経済学の役割を解明する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	市場と企業分析 消費者と企業とマーケットの関連性					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
2	費用・便益分析					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
3	平均費用と限界費用					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
4	利潤極大化原理					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
5	供給曲線の導出					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
6	市場分類					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
7	完全競争市場					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
8	独占市場					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
9	寡占市場					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
10	自然独占					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
11	公共財					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
12	情報の非対称性					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
13	外部不経済と環境問題					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
14	応用ミクロ経済 (1) 政治問題をミクロ経済学で解く					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
15	応用ミクロ経済 (2) 国際問題をミクロ経済学で解く					事前：教本の予習 事後：復習と関連事項の学習		講義	
教本： 石橋春男・橋口宏行・中藤和重著『よくわかるミクロ経済学』 慶應義塾大学出版会、¥1,800					参考文献： 石橋春男・関谷喜三郎『入門ミクロ経済学』税務経理協会、¥2,500				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (60%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業中の討論に積極的に参加する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	民 俗 学 (Folklore)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 鞘								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
日本社会の構造や社会の中で発生する文化的要素について様々なアプローチから考察する。日本社会の機構や社会の中で起こる諸現象と生活や行動の中から生まれ、受け継がれてきた現象を民俗学の見地から考察する。古くから伝承された民間の信仰や習俗を通して日本人の生活について明らかにしていく。世代を超えて伝承されて来た習わし、言い伝えの意味を考え、日本人の心を探る。									
授 業 目 標 :									
1. 民族の歴史を通して日本人の生活と文化を学ぶ。 2. 日本人のアイデンティティを探る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	民俗と民俗学 民俗の意味を知り、また民俗学という学問の成り立ちを考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	民俗学の祖 日本民俗学を確立した人物、柳田国男と折口信夫。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	民俗学の研究法、重出立証法や比較研究法を紹介し、民俗地図の活用の仕方を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	神とカミ 日本固有の神観念の成立について論じ、人と神の関係を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	民俗・風俗・宗教 これらを理解する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	アニミズム・祖先崇拜・トーテミズム 人間と霊魂との関係を理解する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	ケとハレとケガレ 人間の生活が、ケとケガレとハレの三元循環とアラシ (異常) について学習する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	禁忌 (タブー) 古語の忌 (イミ) について学習する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	人生儀礼 人の誕生から葬送までを概観する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	衣・食・住 変遷過程と、地域身分や職業による違いを学習する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	新年の行事から師走の大晦日の主要な行事を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	神話・伝説・昔話 小さい頃からなじんできた伝承文芸を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	海の民俗伝承 海洋民としての民俗を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	山の民俗伝承 川の民俗伝承					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石上七鞘『あなたの日本がもっと素敵になる8つの和ハーブ物語』 コスモの本					1. 石上七鞘著『日本の民俗伝承』蒼洋社 2. 石上七鞘著『十二支の民俗伝承』おうふう 3. 石上七鞘著『化粧の民俗』おうふう 4. 石上堅『日本民族語大辞典』おうふう 5. 『日本風俗史事典』日本風俗史学会編 弘文堂				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 発 表 と 期 末 試 験 で 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と。欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す。最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
水 曜 日 昼 休 み。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	メディア技術基礎 (Media Technology Foundation)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 現在のメディアの状況をより明確に理解するために、メディアの発生からそのメディア技術までの軌跡をたどり、さらには電子メディアのあり方とその進展の道筋を多様なメディア技術と社会と人間の関係を技術の視点から基礎から学習する。とくにメディア技術を人と世界の関係、人間の認識や感覚、伝達や記憶の仕組みまでを含んだ包括的な新しいメディア技術の全体図を提示することで、単なるメディア技術史やメディア表現史に終わらない新しい技術を学ぶ。									
授業目標： 1. メディアの特性およびメディアが伝える情報の内容を正しく理解するため、メディアとコミュニケーション理論の基礎を学ぶ。 2. 具体例を通じてメディア技術を習得することを学習する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	メディア技術の概要					事前：なし 事後：なし		講義	
3	メディア技術の社会的・技術的な背景 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
4	メディア技術の社会的・技術的な背景 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
5	画像・映像処理の最近の動向 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
6	画像・映像処理の最近の動向 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
7	ディジタル処理技術に関する研究の動向 (1)					事前：なし 事後：なし		講義	
8	ディジタル処理技術に関する研究の動向 (2)					事前：なし 事後：なし		講義	
9	ディジタル処理技術に関する研究の動向 (3)					事前：なし 事後：なし		講義	
10	メディア技術処理基礎 (1) ー情報圧縮技術					事前：なし 事後：なし		講義	
11	メディア技術処理基礎 (2) ー音声・音響符号化・復号化技術					事前：なし 事後：なし		講義	
12	メディア技術処理基礎 (3) ー画像圧縮・符号化					事前：なし 事後：なし		講義	
13	メディア技術処理基礎 (4) ー復号化					事前：なし 事後：なし		講義	
14	メディア技術処理基礎 (5) ーまとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： なし					参考文献： 使用しない				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（60%）、小テスト・レポート等（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： メディア技術の基礎知識（定義）を事前に調べる。予習・復習を毎回行い、授業には欠席しないこと。課題で授業の内容をもう一度理解して確認すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 期 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	メディア社会学 (Sociology of Media)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 谷 野 亜								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	社会学 I ・ II を履修していることが、授業についていくのに役立ちます。							
<p>授業概要：</p> <p>社会学では、“社会的存在としての自己”という重要な視点があるが、現代社会においては、メディアによる影響力への考察は不可欠である。メディアと社会の関係を学び、メディアが発達した現代社会を生活している我々の生活を、社会学的な視点で把握することを目標とします。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>社会学的思考を身につけ、メディアや情報化社会との関わりの中で自分の考えや自己存在をとらえなおすことが出来るような読解力を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配付資料を読む		講義	
2	社会学とは何か					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
3	社会学的想像力とは					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
4	Doing Sociology I 実践してみよう					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
5	Doing Sociology II 街中ウォッチングしてみよう					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
6	Doing Sociology III 雑誌をつかって分類してみよう					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
7	情報化社会とは何か					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
8	情報と私たち					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
9	メディアリテラシーとは何か					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
10	メディアリテラシーについて考える					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
11	文章読解 I (メディアリテラシー関連文献)					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
12	文章読解 II (メディアリテラシー関連文献)					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
13	文章読解 III (メディアリテラシー関連文献)					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
14	文章読解 IV (メディアリテラシー関連文献)					事前：配付資料を読む 事後：考えたことをまとめる		講義	
15	まとめ					事前：配付資料を読み直す 事後：振り返り自己評価する		講義	
<p>教本：</p> <p>配布プリントを使用します。</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業中、適宜指示します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等 (50%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (20%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>メディア社会学は、社会学的思考を自ら実践することを狙いとしています。授業では積極的に参加をして、それぞれの課題を認識し、着実に力をつけていきましょう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	メディア情報論 (Information Theory of Media)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岸 康人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	教科書を必ず購入すること							
<p>授業概要：</p> <p>現代はまさに情報化社会であり、その実相と将来について理解を深めることが大切である。IT（情報通信技術）革命の波は社会、企業・オフィス、家庭、個人生活のあらゆる分野に著しい変化をもたらしており、インターネットの活用が大きく広がっている。そこで、(1) 情報化の現状と今後の方向、(2) インターネット社会の状況、(3) インターネットの将来、などを実証的に考察する。また、正しい情報活用を行うために情報倫理のあり方も学ぶ。</p> <p>授業目標：</p> <p>社会における情報の進行状況を理解し身につけることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：シラバスの確認 事後：なし		講義	
2	情報行動と社会変容					事前：テキスト・資料の予習 事後：ネットワークの確認		講義	
3	情報行動と社会変容					事前：テキスト・資料の予習 事後：ネットワークの確認		講義	
4	インターネット及び携帯電話の利用と効果					事後：復習と課題の作成 事前：テキスト・資料の予習		講義	
5	インターネット及び携帯電話の利用と効果					事後：復習と課題の作成 事前：テキスト・資料の予習		講義	
6	情報化文化の生成—地域SNSと若者のネット意識—					事後：復習と課題の作成 事前：テキスト・資料の予習		講義	
7	情報化文化の生成—地域SNSと若者のネット意識—					事後：復習と課題の作成 事前：テキスト・資料の予習		講義	
8	中間試験					事後：復習と課題の作成 事前：テキスト・資料の予習		講義	
9	情報倫理の捉え方Ⅰ					事後：復習と課題の作成 事前：テキスト・資料の予習		講義	
10	情報倫理の捉え方Ⅱ					事後：復習と課題の作成 事前：テキスト・資料の予習		講義	
11	情報倫理の捉え方Ⅲ					事後：復習と課題の作成 事前：テキスト・資料の予習		講義	
12	インターネット社会と流動性Ⅰ					事後：復習と課題の作成 事前：テキスト・資料の予習		講義	
13	インターネット社会と流動性Ⅱ					事後：復習と課題の作成 事前：テキスト・資料の予習		講義	
14	インターネット社会と流動性Ⅲ					事前：作成した課題の確認 事後：公開した課題の確認		講義	
15	まとめ					事前：課題の統合的チェック 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>「インターネット社会と情報行動—情報・生活スタイル論の試み」 犬塚 先（ナカニシヤ出版）¥2,700（税込）</p>					<p>参考文献：</p> <p>講義中に指示します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況と課題提出（15%）、レポート（85%）で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>欠席をしないこと。15回の授業の初めから、確実に、課題の作業を一つひとつ確認しながら行っていくこと。 （連続して欠席したり、課題を行わずにためておくと、履修を続けることはほとんど困難になります。）</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	メディアワークショップ (Media Workshop)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	立馬 歳郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 各種メディアでの経歴—新聞(ジャパンタイムズ)、放送(毎日放送)、国際(フォーリンプレスセンター)、海外(タイ国バンコク週報)、アカデミズム(東京大学新聞研究所)一等の特異な経験に基づいて、活字、映像、外国語の情報発信が、受け手にどのような影響を及ぼすのか、そして今、情報発信、特に英語での発信が何故重要なのかを実証的に提起します。同時に、メディアの世界を志す若い世代に幾つかの助言をし、それに基づく議論を予定しています。									
授業目標： 我が国の浮沈を左右する情報発信についてその重要性を考えます。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	メディアの特性、役割、歴史					事前：なし 事後：なし		講義	
3	新聞					事前：なし 事後：なし		講義	
4	放送					事前：なし 事後：なし		講義	
5	海外メディア及び特派員					事前：なし 事後：なし		講義	
6	我が国初の英字紙 ジャパンタイムズ 1					事前：なし 事後：なし		講義	
7	我が国初の英字紙 ジャパンタイムズ 2					事前：なし 事後：なし		講義	
8	英語での情報発信の重要性とフォーリンプレスセンター					事前：なし 事後：なし		講義	
9	広告					事前：なし 事後：なし		講義	
10	外国人市場戦略					事前：なし 事後：なし		講義	
11	インバウンドマーケティングと情報発信					事前：なし 事後：なし		講義	
12	メディアを目指す人へ (就活、人脈、情報、面接、転職その他)					事前：なし 事後：なし		講義	
13	海外を目指す人へ (英語、教養、異文化理解、その他)					事前：なし 事後：なし		講義	
14	ディスカッション					事前：なし 事後：なし		ディスカッション	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義及び質疑応答	
教本： なし					参考文献： ジャパンタイムズ創刊号(1897年)、明石元国連事務次長等と小生の鼎談				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 情報発信の重要性とメディアの役割、それを育てる国民との相互連携の理解を評価します。									
学生へのアドバイス： 上記の「国民」の、特に若者の果たす役割を考えてもらいたい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									



開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	UNIX システム論 (UNIX System Theory)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	館 秀典								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	ノートパソコンを用意すること							
授業概要： UNIX オペレーティングシステムを通してオペレーティングシステムの実態を理解し、UNIX の背景にある技術、文化、思想について学ぶ。UNIX は現在広く使われている各種オペレーティングシステムに深く影響を与えている。そのため、ここで身についた知識は広い範囲で応用が可能になる。本授業は UNIX の使い方を学ぶと言うよりも、その背景にある技術、思想そして文化を含めて考えていくアプローチを得る。実習に関しては UBUNTU を使うことを前提にしている。									
授業目標： UNIX の理解と構成する技術要素の理解とシステムの流れを理解することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	外国人市場戦略授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス					事前：シラバスの確認 事後：パソコンの設定確認		講義	
2	Linux を使ってみよう					事前：テキスト・資料の予習 事後：ネットワークの確認		講義	
3	シェルって何だろう？					事前：テキスト・資料の予習 事後：ネットワークの確認		講義	
4	シェルの便利な機能					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
5	ファイルとディレクトリ・ファイル操作の基本					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
6	探す、調べる・テキストエディタ					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
7	bash の設定・ファイルパーミッションとスーパーユーザ					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
8	中間試験					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
9	プロセスとジョブ・標準入出力とパイプライン					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
10	テキスト処理・正規表現					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
11	高度なテキスト処理・シェルスクリプトを書こう					事前：テキスト・資料の予習 事後：復習と課題の作成		講義	
12	シェルスクリプトの基礎知識・シェルスクリプトを活用しよう					事前：模擬試験の確認 事後：復習		講義	
13	アーカイブと圧縮・バージョン管理システム					事前：試験の確認 事後：復習と課題の作成		講義	
14	ソフトウェアパッケージ					事前：模擬試験の確認 事後：公開した課題の確認		講義	
15	最終試験					事前：課題の統合的チェック 事後：		講義	
教本： 初回の講義時に提示します。					参考文献： 講義中に指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況と課題提出 (15%)、小テスト等 (35%)、レポートプログラム (50%) で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席をしないこと。15回の授業の初めから、確実に、課題の作業を一つひとつ確認しながら行っていくこと。 (連続して欠席したり、課題を行わずにためておくと、履修を続けることはほとんど困難になります。)									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	幼児・児童期の心理 (Psychology of Childhood)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	作間 祐子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 人間形成の基盤として重要視されている幼児、児童期の心理発達に関する各側面の発達を学ぶ。									
授業目標： 幼児・児童期の状態像について発達の各側面から理解できるようにする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	本授業の概要について					事前： 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
2	生涯発達における幼児・児童期の心理の重要性について					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
3	幼児の家族関係・愛着関係の成立					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
4	幼児の家族関係・愛着関係の発展					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
5	自我の発達					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
6	ことばの発達					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
7	ことばの発達					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
8	ことばの発達と社会性					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
9	認知能力の発達					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
10	遊びの発達					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
11	集団適応と心理発達・・幼児期					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
12	集団適応と心理発達・・学校**					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
13	交遊関係					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
14	実際の幼児・児童について事例検討					事前：事例検討の対象児を用意する 事後：事例を整理する		実習	
15	実際の幼児・児童についての発表と検討					事前：事例発表の準備をする 事後：		討議	
教本： 使用せず。作成したプリント、資料などを使用。					参考文献： 無藤隆 林洋一監修 「史上最強図解 よくわかる発達心理学」 ナツメ社 そのほか、授業中、随時紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 将来、親になる人、保育の仕事をした人にならねばならない。「人間のなりたち」の基礎に関心を持って「おもしろく」なってほしいので、内容についての希望を積極的に出してほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	幼小接続教育 (Education of Preschoolers before Entering Elementary School)						科目分類	保育教育基礎科目		
担 当 教 員	山下 文一									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 今日の幼児期・児童期の子どもの抱える様々な問題や実態を知り、子どもの発達や学びの連続性を保障するための幼小の接続カリキュラムの在り方について理解を深め自らの保育・教育観を形成する。										
授業目標： 幼児教育・保育の教育課程についての基本的考えや幼小接続カリキュラムの在り方について理解するとともに、それらが教育や保育の現場でどのように実践されているか事例を通して学習する。また、実際に接続カリキュラムを作成することを通して、幼小接続についての実践力を身に付ける。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			◎			○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	中央教育審議会答申における幼小接続の変遷					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
2	幼稚園教育要領と小学校学習指導要領における幼小接続					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
3	幼小接続の意義と必要性（なぜ幼小接続が必要か）・小1プロブレム					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
4	幼稚園と小学校における教育課程の特性					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
5	遊びと学びの段差					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
6	生活科の本質					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
7	都道府県教育委員会における幼小接続の施策					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
8	文部科学省研究開発校における幼小接続の実際					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
9	接続期カリキュラムの実際 ①（幼稚園）事例					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
10	接続期カリキュラムの実際 ②（小学校）事例					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
11	幼児・児童の交流プログラムの実際					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
12	接続期カリキュラムの評価・改善					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
13	特別な支援の必要な幼児の小学校への接続					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
14	接続期カリキュラムの現状と課題					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
15	幼小接続の今後の展望					事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習		講義		
教本： 適宜、授業時に参考書の紹介と関係資料配布を行う。										
参考文献： 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府、「保育所保育指針」厚生労働省										
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 課題意識をもって、主体的に学ぶこと。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	幼児理解 (Early childhood understanding)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	永井 由利子								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 幼児を理解するためには、まず子どもとはどのような存在かを把握し、幼児期の特徴、幼児の生活の傾向を知る必要がある。本講義では、幼児期の特徴とはどのようなものを理解させ、一人ひとりの子どもの心情・意欲・態度、個と集団のとらえ方のポイントを教授する。保育現場に立つ学生たちが幼児の内面に何が起こり、どのような思いを抱いているのかに目を向け、発達の課題に即した指導が可能となるよう支援する。具体的な事例を示しつつ、幼児の発達観を習得させ、共感的理解の基礎を培い、実践力を培うよう指導する。授業形態は、講義とグループ討論が主体となる。									
授業目標： 幼児理解のための基礎理論を習得し、具体的な事例を通じて、幼児の発達段階のとらえ方、幼児の遊びや生活、幼児の興味・関心、個と集団を捉える見方を育成する。共感的理解の基礎を培う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	幼児教育のための基本的な幼児理解の必要性…カリキュラムマネジメントの視点から					事前：授業用ファイル準備 事後：教科書を必ず購入		講義	
2	3歳児の発達と理解1－初めての集団生活・安定から自己発揮まで－					事前：教科書を読んでおく 事後：プリントに記入		講義	
3	3歳児の発達と理解2－依存から自立へ・自分でできる喜び－					事前：教科書復習 事後：プリント記入		講義	
4	具体的な発達の捉え方・3歳児のビデオ視聴とグループ協議・レポート					事前：プリント記入 事後：レポート完成		講義・グループ協議	
5	4歳児の発達と理解1－友達への関心の広がりを見点として－					事前：教科書を読んでおく 事後：プリント記入		講義	
6	4歳児の発達と理解2－体験の広がりを視点として－					事前：教科書復習 事後：プリント記入		講義	
7	幼児の活動に対する肯定的な見方の意義・4歳児のビデオ視聴とグループ協議・レポート					事前：プリント記入 事後：レポート完成		講義・グループ協議	
8	5歳児の発達と理解1－協同性の育ちに向けて－					事前：教科書を読んでおく 事後：プリント記入		講義	
9	5歳児の発達と理解2－小学校への接続期の理解に向けて－					事前：教科書復習 事後：プリント記入		講義	
10	個と集団の関係の捉え方・5歳児のビデオ視聴とグループ協議・レポート					事前：プリント記入 事後：レポート完成		講義・グループ協議	
11	幼児の遊び・生活の意味の理解					事前：なし 事後：振り返りをする		保育参加・参観	
12	教師の姿勢と子どもに対する共感的理解・実践例のビデオ視聴と考察・レポート					事前：なし 事後：レポート完成		保育参観	
13	特別に支援を必要とする子どもの理解・実践例から具体的な環境構成と援助について考える					事前：実践例を読んでおく 事後：振り返り		講義・グループ協議	
14	保育の改善の視点－保育記録・評価方法の実際－					事前：教科書を読んでおく 事後：プリントの振り返り		講義	
15	保護者の心情理解と基礎的な対応の方法について考える					事前：教科書を読んでおく 事後：振り返りをする		講義	
教本： 『質の高い幼児期の教育～3、4、5歳児の指導と環境構成・実践例』 ななみ書房					参考文献： 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』 (最新版)				
成績評価の方法、評価基準： 保育者として持つべき子ども観を修得し、発達段階に即して子どもを把握することができるか、子どもの生活の特徴、個と集団の関係から子どもを理解する基礎力を習得したかを、グループ討議の成果、複数回のレポート提出の内容、筆記試験によって総合的に評価する。									
学生へのアドバイス： 3、4、5歳児の発達段階の違いを学べるよう実践の園でのボランティアなどもおすすめします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ヨ ー ロ ッ パ 観 光 論 (Europe Tourism Studies)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 寺 奎 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 観 光 地 と し て の ヨ ー ロ ッ パ の 特 性 を 、 地 理 的 、 文 化 的 、 歴 史 的 背 景 か ら 考 察 す る 。									
授 業 目 標 : 観 光 地 と し て の ヨ ー ロ ッ パ の 特 性 と 魅 力 を 理 解 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 計 画 の 説 明					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2・3	ヨ ー ロ ッ パ の 観 光 に 及 ぼ し て い る 中 東 の 影 響					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
4・5	ヨ ー ロ ッ パ の 観 光 に 及 ぼ し て い る 地 中 海 の 影 響					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
6	観 光 地 と し て の ギ リ シ ャ の 特 性					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
7	観 光 地 と し て の イ タ リ ア の 特 性					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
8~10	観 光 地 と し て の 西 欧 (ド イ ツ 、 フ ラ ン ス 、 英 国) の 特 性					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
11	ヨ ー ロ ッ パ 観 光 に 果 た し た ア ル プ ス の 役 割					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
12	ヨ ー ロ ッ パ に お け る 温 泉 リ ゾ ー ト の 発 達					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
13	ヨ ー ロ ッ パ に お け る 海 浜 リ ゾ ー ト の 発 達					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
14	ヨ ー ロ ッ パ に お け る ク ル ー ジ ン グ の 発 達					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
15	授 業 の 総 括					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
教 本 : な し					参 考 文 献 : な し				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、 期 末 レ ポ ー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 和 辻 哲 郎 の 「 風 土 」 を 副 読 本 と す る こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ヨーロッパ文化研究 A (European Study A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : ヨーロッパ文化の中でも、特に英国に焦点を当てます。学生の皆さんがすでに聞いたことがあるような地域や文化を取り上げ、テキストを読んで、その内容について考えます。副教材として、毎回DVD教材などを用いて、目で見て生の英語を聞く時間も作ります。補助教材のハンドアウトも配布しますので、英語のリスニングに自信がなくても要点を聞き取ることができます。									
授 業 目 標 : 英国について学びながら、広くヨーロッパへの理解を深めることが目標です。折に触れてディスカッションを入れて、その項目について、授業の目標が達成されているか確認します。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction to Europe					事前 : p.1 事後 : ハンドアウト		講 義	
2	The United Kingdom					事前 : p.2 事後 : p.3		講 義	
3	The Lake District					事前 : pp.6-7 事後 : p.8		講 義	
4	Beatrix Potter and <i>The Tale of Peter Rabbit</i>					事前 : ハンドアウト 事後 : ディスカッション		講 義	
5	Shakespeare and the play <i>Romeo and Juliet</i>					事前 : pp.11-12 事後 : p.13		講 義	
6	London through the Ages					事前 : pp.16-17 事後 : p.18		講 義	
7	Wessex and Stonehenge					事前 : pp.21-22 事後 : p.23		講 義	
8	Oxford and Cambridge					事前 : pp.31-32 事後 : p.33		講 義	
9	A British University Student					事前 : ハンドアウト 事後 : ディスカッション		講 義	
10	Edinburgh					事前 : pp.81-82 事後 : pp.83		講 義	
11	Liverpool					事前 : pp.61-62 事後 : p.63		講 義	
12	Robin Hood					事前 : pp.76-77 事後 : p.78		講 義	
13	Pops: Enjoy the lyrics					事前 : ハンドアウト 事後 : ディスカッション		講 義	
14	The Republic of Ireland					事前 : p.91-92 事後 : p.93		講 義	
15	Review					事前 : ハンドアウト 事後 : ディスカッション		講 義	
教 本 : Y. Waku & B. Benfield 著 <i>Cultural Walks in Britain</i> (成美堂 ¥1,800)					参 考 文 献 : 1. 増田四郎『ヨーロッパとは何か』(岩波新書 ¥700) 2. 磐田靖夫『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書 ¥780)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (25%)、小レポート等 (25%)、定期試験 (50%) など総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 視 覚 的 に 西 欧 の 文 化 を 捉 え た り、音 楽 を 聴 い た り す る の も、彼 ら の も の の 見 方 を 理 解 す る の に 役 立 ち ます。さ ま ざ ま な 国 や 民 族 に つ い て 共 通 の と こ ろ や 異 な る と こ ろ が よ く わ か る と 思 い ます。映 像 や 音 楽 を 楽 し ん で 受 講 し て も ら え た ら、と 思 い ます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ヨーロッパ文化研究B (European Study B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	廣本 和枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>ヨーロッパ文化の中でも、特に英国に焦点を当てます。学生の皆さんがすでに聞いたことがあるような地域や文化を取り上げ、テキストを読んで、その内容について考えます。副教材として、毎回DVD教材などを用いて、目で見て生の英語を聞く時間も作ります。補助教材のハンドアウトも配布しますので、英語のリスニングに自信がなくても要点を聞き取ることができます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>英国について学びながら、広くヨーロッパへの理解を深めることが目標です。折に触れてディスカッションを入れて、その項目について、授業の目標が達成されているか確認します。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction to the United Kingdom and Winchester					事前：pp.1-2 事後：p.3		講義	
2	Winchester					事前：pp.26-27 事後：p.28		講義	
3	Jane Austin					事前：pp.36-37 事後：p.38		講義	
4	Canterbury					事前：pp.41-42 事後：p.43		講義	
5	Anglican Church (<i>Anne of Thousand Days</i>)					事前：ハンドアウト 事後：ディスカッション		講義	
6	Manchester					事前：pp.46-47 事後：p.48		講義	
7	Sherlock Holmes					事前：pp.51-52 事後：p.53		講義	
8	London					事前：pp.51-52 事後：p.53		講義	
9	Glastonbury and Stonehenge					事前：pp.56-57 事後：p.58		講義	
10	The Midlands					事前：pp.66-67 事後：p.68		講義	
11	Yorkshire					事前：pp.71-72 事後：p.73		講義	
12	<i>Brontë Sisters and The Secret Garden</i>					事前：ハンドアウト 事後：ハンドアウト		講義	
13	Scotland and great thinkers					事前：pp.86-87 事後：p.88		講義	
14	Irish Americans					事前：pp.96-97 事後：p.98		講義	
15	Review					事前：ハンドアウト 事後：ディスカッション		講義	
<p>教本：</p> <p>Y. Waku & B. Benfield 著 <i>Cultural Walks in Britain</i> (成美堂 ¥1,800)</p>					<p>参考文献：</p> <p>1. 増田四郎『ヨーロッパとは何か』(岩波新書 ¥700) 2. 磐田靖夫『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書 ¥780)</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（25%）、小レポート等（25%）、定期試験（50%）などで総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>視覚的に西欧の文化を捉えたり、音楽を聴いたりするのも、彼らのものの見方を理解するのに役立ちます。さまざまな国や民族について共通のところが異なるところがよくわかると思います。映像や音楽を楽しんで受講してもらえたら、と思います。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	吉田松陰論 (Yosida Shouin)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	長谷川 勤								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本学の教育理念である「知行合一」を実践した吉田松陰について、その短い生涯を時代との関連に於て考察し、本学で学ぶ意義と誇りを修得する。 吉田松陰の人間形成とその行動の軌跡を考察していくが、特に松陰が主宰した「松下村塾」において塾生をどのように指導したかを学び、その教育効果と人間形成の在り方を考え、松陰の思想や現代的意義について理解を深める。									
授業目標： 1. 吉田松陰の感化力が優れていた理由を理解する。(松下村塾での人間教育) 2. 日本の西欧からの「植民地化」へんば危機感が、塾生に奮起させたが、その起爆剤となった「松陰精神」を理解する。 3. 短期間の教育で、明治期の国家指導者をおおく輩出した者は何であったかを理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	松蔭大学の建学精神と理念					事前：なし 事後：プリント配布		講義	
2	吉田松陰の生涯 ① 前半生					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
3	吉田松陰の生涯 ② 後半生					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
4	原典輪読「土規七則」・「松下村塾記」					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
5	松蔭大学の校是・「知行合一」について					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
6	吉田松陰の行動背景を学ぶ					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
7	吉田松陰の時代認識と「水戸学」					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
8	吉田松陰の「草莽崛起」とは					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
9	「安政の大獄」の原因と展開					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
10	日本の幕末史と世界史との関連					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
11	『留魂録』の世界を学ぶ					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
12	明治維新とは何か					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
13	日本人としての誇りについて					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
14	吉田松陰の「立志」・「実践」について					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
15	私立大学に学ぶことの意義について					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
教本： 『松陰と幕末・明治の志士たち』長谷川勤著 NHK 出版					参考文献： 1. 『留魂録』古川薫著・講談社学術文庫 2. 『吉田松陰』海原徹・ミネルヴァ書房 その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (60%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 『教本』を必ず事前に読んでおくこと。予習してない学生は理解が困難です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。授業終了後15分程度非常勤控室で待機。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト 基 礎 論 I (1st Stage Fundametal Study of the Risk and Crisis Management)							科 目 分 類	専 門 科 目
担 当 教 員	宮 林 正 恭								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト の 狙 い は、定 め ら れ た 使 命 や 目 標 を 達 成 す る た め、と き に は リ ス ク を 低 減 し あ る い は リ ス ク を 取 り、ま た、危 機 に 遭 遇 し た 時 は そ の 被 害 が 最 小 と な る よ う に 危 機 対 応 を 行 い、全 体 と し て 最 小 の 被 害 や コ ス ト で 使 命 や 目 標 を 達 成 す る こ と で す。こ の 授 業 で は、リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト 論 の う ち、そ れ を 実 行 す る た め の 手 法 の 一 般 的 な 基 本 を 学 び ま す。</p> <p>理 解 の 進 行 度 合 い に よ っ て 授 業 の 進 め 方 は か な り 柔 軟 に 変 更 す る こ と が あ り ま す。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト の 標 準 的 な 方 法 論 の 知 識 を 習 得 す る こ と を 目 標 と し ま す。</p> <p>昨 年 度 の 経 験 か ら、こ れ ま で の 授 業 の や り 方 及 び 内 容 を 根 本 的 に 変 更 し て お り、リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト 論 の 原 理 的 な 考 え 方 な ど 基 本 論 は、後 期 の リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト II に お い て 学 習 す る こ と と し て い ま す。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン (授 業 の や り 方、学 生 評 価 の 考 え 方 な ど) リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト の 必 要 性 な ど					事 前 : 事 後 : 復 習		講 義	
2	リ ス ク、危 機 に つ い て リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト の 手 順 リ ス ク 段 階 の 業 務 実 施 の 考 え 方					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
3	リ ス ク の リ ス ト ア ッ プ と 優 先 的 に リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト を 実 施 す べ き 対 象 の 選 定					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
4	リ ス ク の 内 容 の 粗 い 分 析 と 対 処 方 針 の 決 定					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
5	リ ス ク 分 析					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
6	リ ス ク の 軽 減 方 策 の 策 定 と 実 行					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
7	危 機 に 備 え た 準 備 (マ ニ ュ ア ル な ど)					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
8	リ ス ク の 監 視、モ ニ タ ー と リ ス ク コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
9	危 機 の 認 知 と 危 機 対 応 行 動					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
10	危 機 克 服 行 動 そ の 1					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
11	危 機 克 服 行 動 そ の 2					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
12	ク ラ イ シ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 及 び 危 機 対 応 の バ ッ ク ア ッ プ 機 能 (ロ ジ ス ティ ク ス、 待 機 予 備 な ど)					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
13	危 機 対 応 行 動 お よ び 危 機 克 服 行 動 の 終 了 と 危 機 対 応 の フ ォ ロ ー ア ッ プ					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
14	リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト の 全 体 マ ネ ジ メ ン ト					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義 及 び デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
15	ま と め					事 前 : 予 習 事 後 : 復 習		講 義	
教 本 :									
リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト の す す め 宮 林 正 恭 著 丸 善 出 版 (主 と し て 第 7 章)					参 考 文 献 :				
					必 要 に 応 じ 授 業 の 際 に 指 示 し ま す。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 へ の 積 極 的 な 参 加 お よ び そ の 内 容 (40%)、提 出 物 の 提 出 (20%)、試 験 (40%) で 総 合 評 価 し ま す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>こ の 授 業 で は、リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト の 手 法 を 身 に つ け る こ と に 重 点 を 置 い て い ま す。そ の 手 法 の 背 景 に あ る 原 理 的 な 考 え 方、そ れ を 活 用 す る 際 の 考 慮 し な け れ ば な ら ない 事 項、リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト の 全 体 的 な 考 え 方、基 本 論 な ど に つ い て は、後 期 に 行 う 「リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト 基 礎 論 II」 の 授 業 で 行 う こ と と し て い ま す。リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト の 総 合 的 な 力 を 身 に 付 け る た め に は 「リ ス ク 危 機 マ ネ ジ メ ン ト 基 礎 論 II」 を 履 修 す る こ と が 強 く 推 奨 さ れ ま す。</p> <p>バ ツ コ ン を 使 わ ず、ス マ ー ト フ ォ ン の み で 資 料 を 調 べ た り レ ポ ー ト を 書 い た り す る 学 生 さ ん が い ま す が、大 き な 図 表 な ど も 全 体 と し て 理 解 で き ない こ と に な り が ち で あ り、結 局 能 率 が 上 が ら ない こ と が 多 い の で す。中 古 品 や 安 い 製 品 で 良 い か ら、P C を 入 手 し て 能 率 的 な 学 習 を し て 欲 し い と 思 い ま す。</p>									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
<p>別 途 掲 示 さ れ る 予 定 に な っ て い る の で そ の 時 間 帯 に 来 て く だ さ い。あ ら か じ め、電 話 ま た は メ ー ル で、あ る い は、研 究 室 へ の メ ッ セ ー ジ の 投 函 で 事 前 連 絡 を ぐ れ る と あ り が た い の で す。電 話 番 号 は 080-4732-3423、メ ー ル ア ド レ ス は mmiyabas@shoin-u.ac.jp、研 究 室 は 3810 室 で す。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	リスク危機マネジメント基礎論Ⅱ (2nd Stage Fundametel Study of the Risk and Crisis Management)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	リスク危機マネジメント基礎論Ⅰ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>リスク危機マネジメントの原理論的思考方、関連領域の取り扱い方、特に留意しなければならない事項など、リスク危機マネジメント基礎論Ⅰで学んだその手法を実際に活用するために理解しておくべき基本原理などを学び、応用力を身に着ける。理解の進行度合いによって授業の進め方はかなり柔軟に変更する予定。一部演習あり。</p> <p>授業目標：</p> <p>リスク危機マネジメント基礎論Ⅰにおいて学んだ手法の背景にある考え方、基本原理などを知り、応用力を身に着ける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業のやり方、学生評価の考え方など） リスク危機マネジメントの手法の学習結果およびリスク、危機、リスク危機マネジメントに関する理解の状況の確認、リスクや危機の基本的性質					事前：リスク危機マネジメント基礎論Ⅰの復習 事後：復習		講義	
2	リスクの発現に関する考え方					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
3	リスクや危機と人間及び組織					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
4	リスク危機マネジメントの基本的考え方					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
5	リスクアセスメント					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
6	リスク対応の方法論					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
7	リスクコントロール及びリスクの監視					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
8	危機対応アプローチ					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
9	危機対応の現場論、危機の終焉及びそのフォローアップならびに危機との共存					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
10	リスク危機マネジメントのリーダーシップと責任体制					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
11	個人におけるリスク危機マネジメント					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
12	公共的組織におけるリスク危機マネジメント					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
13	企業組織におけるリスク危機マネジメント					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
14	社会的リスク危機マネジメント					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
15	まとめ					事前：予習 事後：復習		講義及び ディスカッション	
<p>教本：</p> <p>リスク危機マネジメントのすすめ 宮林正恭著 丸善出版</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業の途中で指示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業への積極的な参加およびその内容（40%）、提出物の提出（30%）、最終レポート（30%）等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>昨年度の経験からいままでの授業のやり方及び内容を根本的に変更することとしています。概念や原理的事項、背景にある考え方、考慮事項などを理解することを楽しみ、リスク危機管理の手法を活用する能力を身に着けてください。そしてそれを人生の処し方に生かしてほしいものです。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>別途掲示される予定になっているのでその時間帯に来てください。可能な限り、電話またはショートメールで事前に連絡をくれるとありがたい。 連絡先：080-4732-3423 メールアドレス：mmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室 3810室。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義																																																																						
授業科目(英文)	リスク心理学 (Psychology of Risk Perception of human behavior)						科目分類	専門科目																																																																							
担 当 教 員	深澤 伸幸																																																																														
履 修 条 件	前提科目	なし																																																																													
	その他	なし																																																																													
<p>授業概要：</p> <p>新聞やテレビ等のマスメディアでは、大地震の発生のリスクや金融リスク等が日々報じられ、自然環境や社会・政治場面、あるいは企業組織が内在するリスクから、人間一人一人が行う判断過程や行動面に対しても「リスク」という言葉が用いられています。本授業では、各個人が行う判断過程や行動を起こす際に生じる「リスク」を取り上げ、その構造を考えていきます。授業形式は、講義を主体としますが、随時、討議や実習を含んで「分かる授業」を目指していきます。</p> <p>授業目標：</p> <p>①「リスク」に関する定義や考え方が理解できる、②リスクに対する主観的な評価・見積もり (risk perception) の仕組みが理解できる、③リスクに対する認知から、リスク軽減やリスク回避の仕組みが理解できるまでを、到達目標としています。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width:33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width:33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">○</td> <td style="text-align:center;">◎</td> <td></td> </tr> </table> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">授業回数</th> <th style="width:55%;">授業内容及び計画 (詳細に記入)</th> <th style="width:25%;">事前・事後学習 (学習課題)</th> <th style="width:10%;">授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業の進め方、授業内容等に関するオリエンテーション</td> <td>事前：教科書の準備 事後：シラバスの確認</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>リスクとは何か、リスクの種類</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>組織が抱えるリスク、組織過誤</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>産業場面における事故発生件数の推移、企業トップの判断誤り</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>内部情報処理過程、処理過程内に潜在するリスク要因</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>見落とし・見誤りのリスク要因 ①</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>見落とし・見誤りのリスク要因 ②</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>記憶や判断過程に生じるリスク要因</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連続作業化で生じるリスク要因、注意-不注意に潜むリスク</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>生理学的な生活リズムがもたらすリスク要因</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>「安全」と「リスク」の関係</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>リスクに対する主観的な判断過程 (リスクパーセプション)</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>社会事象に対するリスクパーセプションの評価実習</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>実習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>リスクパーセプションにおける国際比較</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>全体のまとめ</td> <td>事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p>教本：森平爽一郎著 金融リスクマネジメント入門 日本経済新聞出版社</p> <p>参考文献：必要に応じ授業において指示する。</p> <p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (40%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。</p> <p>学生へのアドバイス： 危機を聞き聞き危機どうしても数式を使わざるを得ないところもあり、また、数学的思考方を要求されるばあいもある。しかし、十分丁寧に授業をするので恐れず勉学に励んでほしい。</p> <p>オフィスアワー： 別途掲示される予定になっているのでその時間帯に来てください。あらかじめ、電話またはメールで、あるいは、研究室へのメッセージの投函で事前連絡をくれるとありがたいです。電話番号は080-4732-3423、メールアドレスはmmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室は3810室です。</p>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	◎		授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態	1	授業の進め方、授業内容等に関するオリエンテーション	事前：教科書の準備 事後：シラバスの確認	講義	2	リスクとは何か、リスクの種類	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義	3	組織が抱えるリスク、組織過誤	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義	4	産業場面における事故発生件数の推移、企業トップの判断誤り	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義	5	内部情報処理過程、処理過程内に潜在するリスク要因	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義	6	見落とし・見誤りのリスク要因 ①	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義	7	見落とし・見誤りのリスク要因 ②	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義	8	記憶や判断過程に生じるリスク要因	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義	9	連続作業化で生じるリスク要因、注意-不注意に潜むリスク	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義	10	生理学的な生活リズムがもたらすリスク要因	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義	11	「安全」と「リスク」の関係	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義	12	リスクに対する主観的な判断過程 (リスクパーセプション)	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義	13	社会事象に対するリスクパーセプションの評価実習	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	実習	14	リスクパーセプションにおける国際比較	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義	15	全体のまとめ	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																													
○	◎																																																																														
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態																																																																												
1	授業の進め方、授業内容等に関するオリエンテーション	事前：教科書の準備 事後：シラバスの確認	講義																																																																												
2	リスクとは何か、リスクの種類	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												
3	組織が抱えるリスク、組織過誤	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												
4	産業場面における事故発生件数の推移、企業トップの判断誤り	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												
5	内部情報処理過程、処理過程内に潜在するリスク要因	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												
6	見落とし・見誤りのリスク要因 ①	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												
7	見落とし・見誤りのリスク要因 ②	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												
8	記憶や判断過程に生じるリスク要因	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												
9	連続作業化で生じるリスク要因、注意-不注意に潜むリスク	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												
10	生理学的な生活リズムがもたらすリスク要因	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												
11	「安全」と「リスク」の関係	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												
12	リスクに対する主観的な判断過程 (リスクパーセプション)	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												
13	社会事象に対するリスクパーセプションの評価実習	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	実習																																																																												
14	リスクパーセプションにおける国際比較	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												
15	全体のまとめ	事前：当該箇所の予習 事後：ノートの整理・復習	講義																																																																												

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	リスク・マネジメント論 (Risk Management in financial business)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>金融ビジネスにおいては、リスクマネジメントはあらゆる活動における共通する根幹である。この授業では金融ビジネスにおけるリスクマネジメントの基本的考え方を理解したうえで、金融に伴うリスクの取り扱いについての基礎的知識を学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>金融経済における専門を学ぶための共通の基盤として、金融に伴うリスクの取り扱いの基礎的素養を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方、授業に臨む際の心構え等） 金融ビジネスにおけるリスクマネジメントの位置づけ 金融ビジネスにおけるリスクとは？					事前：予習 事後：復習		講義	
2	金融ビジネスにおけるリスクの取り扱いの考え方					事前：予習 事後：復習		講義	
3	金融組織における金融リスク取り扱いの方法論					事前：予習 事後：復習		講義	
4	Value at Risk					事前：予習 事後：復習		講義および演習	
5	市場リスク1 株式投資					事前：予習 事後：復習		講義および演習	
6	市場リスク2 債券投資					事前：予習 事後：復習		講義および演習	
7	市場リスク3 為替リスク					事前：予習 事後：復習		講義および演習	
8	市場リスク4 その他の市場リスク（デリバティブなど）					事前：予習 事後：復習		講義および演習	
9	市場リスクのVaR					事前：予習 事後：復習		講義および演習	
10	信用リスク概論、デフォルト					事前：予習 事後：復習		講義および演習	
11	デフォルト					事前：予習 事後：復習		講義	
12	異なる融資、投資対象の信用リスク					事前：予習 事後：復習		講義	
13	リレーショナルリスク、流動性リスク、モデルリスクなど					事前：予習 事後：復習		講義	
14	統合リスク管理					事前：予習 事後：復習		講義	
15	まとめ					事前：予習 事後：復習		講義	
教本： リスク危機マネジメントのすすめ 宮林正恭著 丸善出版					参考文献： 授業の途中で指示する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業への積極的な参加およびその内容（40%）、提出物の提出（30%）、最終レポート（30%）等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>昨年度の経験からいままでの授業のやり方及び内容を根本的に変更することとしています。概念や原理的事項、背景にある考え方、考慮事項などを理解することを楽しみ、リスク危機管理の手法を活用する能力を身につけてください。そしてそれを人生の処し方に生かしてほしいものです。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>別途掲示される予定になっているのでその時間帯に来てください。可能な限り、電話またはショートメールで事前に連絡をくれるとありがたい。 連絡先：080-4732-3423 メールアドレス：mmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室 3810室。</p>									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	流 通 経 済 論 Ⅰ (Distribution Economics Theory Ⅰ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	佐 々 木 悟								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>商品の誕生した古代より商人（商業資本）は商業を通して流通に介在して、歴史とともにその性格、機能を大きく変えてきた。とりわけ、19世紀の資本主義の展開とともに近代的商人として、流通過程そのものを社会的に効率化し、それを通して社会的総資本にとっての利潤増大に寄与する機能を大きく拡大してするとともに、現代においては産業のボーダレス化を背景に金融、サービス、製造など様々なビジネスチャンスを求めて他産業に進出して機能を多角化し、商人を商業という特定の産業で規定することが困難になってきている。本授業では、商業の歴史的展開と商業資本の理論的学習を通して現代商業の諸相を学習し、人口密集地帯の大都市部では、商業資本の総合的機能が發揮され、価値増殖にとっての制限をなくす流通過程の社会的縮小、すなわち流通時間の短縮と流通費用の節減が実現され、大規模小売商の流通支配がすすむ一方、地方都市の中心市街地や農村部の集落では中小零細小売商が撤退して、高齢者、交通弱者、非健常者らから構成される買い物難民が析出されている現状を分析し、その対応を考察する。</p>									
授 業 目 標 :									
商業の歴史的展開の把握と商業資本の理論的学習を通して、現代商品流通の矛盾への分析能力と対応の考察力を養成すること。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション（授業のすすめ方と教本・参考書の案内）					事前：なし 事後：なし		講義	
2・3	1. 商業の歴史的展開 (1) 自給自足から物々交換 (2) 商品の使用価値と価値					事前：教本レジュメ (No.1) 事後：本日の授業内容		講義	
4	(3) 商品流通と商品の交換					事前：教本レジュメ (No.2) 事後：本日の授業内容		講義	
5	(4) 貨幣による交換と貨幣の機能					事前：第4回授業で指示 事後：本日の授業内容		講義	
6	(5) 商品流通の矛盾と商人の出現					事前：教本レジュメ (No.3) 事後：本日の授業内容		講義	
7	(6) 商業学説					事前：第6回授業で指示 事後：本日の授業内容		講義	
8	前半授業の小括と小テスト					事前：第1～7回授業の内容 事後：なし		講義	
9	2. 商業資本 (1) 商品買取資本と商業信用					事前：教本レジュメ (No.4) 事後：本日の授業内容		講義	
10	(2) 売買取手資本					事前：第9回授業で指示 事後：本日の授業内容		講義	
11	(3) 危険準備資本					事前：教本レジュメ (No.5) 事後：本日の授業内容		講義	
12	3. 商業の存立基盤（ホールの法則）					事前：第11回授業で指示 事後：本日の授業内容		講義	
13・14	4. 社会的総資本と商業利潤 (1) 生産価格の法則 (2) 商業利潤の成立					事前：教本レジュメ (No.6) 事後：本日の授業内容		講義	
15	5. 商品過剰と市場問題					事前：教本レジュメ (No.7) 事後：第1～14回授業の内容		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授業内容は右記に示す参考書全般に亘るが、各授業毎に配布する授業内容を要約したレジュメを教本とする。					1. 加藤司・石原武政「流通体系4 地域商業の競争構造」中央経済社、2009年 2. 日本農業市場学会「食料・農産物の流通と市場Ⅱ」筑波書房、2008年 3. 加藤義忠・佐々木保幸・真部和義「小売商業政策の展開」同文館出版、2006年 4. 森下二次也「商業経済論の体系と展開」千倉書房、1994年				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 試 験 は 参 考 書、ノ ー ト 類 は 一 切 持 ち 込 み 不 可。期 末 試 験 の 他 に 小 試 験 を 行 う の で、各 授 業 ごとに 配 布 す る 教 本 (レ ジ ュ メ) と 参 考 書 に よ っ て 予 習 ・ 復 習 を 行 い、授 業 内 容 を 整 理 す る こ と が 必 要 で あ る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	流通経済論 I (Distribution Economy Theory I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宝子山 嘉一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 流通を学ぶには、流通独特の言葉、言い回しがあり、正確に理解する事が大切です。流通の基本知識と最新の情報を学びます。									
授業目標： 流通とは「生産から消費にいたる財の流れ、あるいはその流れを実現する経済活動」の事ですが、21世紀の流通ビジネスは大きく変わろうとしています。IT（情報技術）革命によって流通のさまざまな分野で変革が迫られています。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
2	流通の機能 ①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
3	流通の機能 ②					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
4	流通の仕組み ①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
5	流通の仕組み ②					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
6	流通と物流 ①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
7	流通と物流 ②					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
8	流通とIT ①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
9	流通とIT ②					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
10	流通とIT ③					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
11	流通とマーケティング ①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
12	流通とマーケティング ②					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
13	流通とマーケティング ③					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
14	流通関連法規 ①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
15	流通関連法規 ②					事前：前回までの配布資料を読む 事後：なし		講義	
教本： プリント等を適宜配布する。					参考文献： 「流通の基本知識」評言社				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 6回以上欠席した学生は定期試験を受験することができない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	流通経済論Ⅱ (Distribution Economics Theory Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	佐々木 悟								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>流通経済、特に商業は我々の経済生活に不可欠の部門であり、我々はメーカーの商品（販売を目的に生産された財やサービス）を購入・消費して生活を営んでいる。生産と消費は流通を媒介として結びついており、商品の所有権の移転に関わる商流を担う業が商業であり、商人のマーチャンダイジング機能は我々の消費生活の豊かさの向上にとってますます重要性を増している。しかし、中小零細店の閉鎖、大規模小売店の郊外出店等により、地方都市では中心市街地の空洞化、地方農村では限界集落化が顕著になり、夥しい買い物難民が醸成されつつある。</p> <p>本授業では流通経済を主導する段階別に商業の機能を明らかにし、卸売業、小売業の業態別にみたダイナミクスな展開を統計資料や日経MJ等のマスメディアの報道を通して学びながら、商業の社会的責任の側面から現代商業の現状と課題を考察する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>商業の社会的役割は、各生産者が顧客の需要・欲求に対応した製品計画によって造った商品を、需要者が存立する適正な場所に、適正な時期に、適正な数量で、かつ適正な価格で供給することである。商品流通の川中、川下を担う卸売業、小売業の取引に焦点を当て、商業の社会的役割と商人（商業資本）のマーチャンダイジング機能を検証し、理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業のすすめ方と教本・参考書の案内）					事前：なし 事後：なし		講義	
2	1. 流通と商業 (1) 流通懸隔と架橋の機能					事前：教本レジュメ (No.1) 事後：本日の授業内容		講義	
3	(2) 商業の段階分化と機能分化					事前：教本レジュメ (No.1) 事後：本日の授業内容		講義	
4・5	2. 卸売商業のマーチャンダイジングⅠ (1) 需給調整機能 (2) 情報伝達機能					事前：教本レジュメ (No.2) 事後：本日の授業内容		講義	
6・7	(3) 金融機能 (4) リスク分散機能					事前：教本レジュメ (No.3) 事後：本日の授業内容		講義	
8・9	3. 卸売業のマーチャンダイジングⅡ (5) 物流機能 (6) アソートメント機能					事前：教本レジュメ (No.4) 事後：本日の授業内容		講義	
10	(7) リテールサポート機能					事前：教本レジュメ (No.5) 事後：本日の授業内容		講義	
11	4. 現代卸売業の諸相と中間商人排除					事前：教本レジュメ (No.5) 事後：本日の授業内容		講義	
12	授業の小括と小テスト					事前：教本レジュメ No.1～5 事後：なし		講義	
13・14	5. 小売商業のマーチャンダイジング (1) 流通と小売商業の特性 (2) 業種と業態					事前：教本レジュメ (No.6) 事後：本日の授業内容		講義	
15	授業の総括					事前：教本レジュメ (No.7) 事後：本日の授業内容		講義	
<p>教本：</p> <p>授業内容は右記に示す参考書全般に亘るが、各授業毎に配布する授業内容を要約したレジュメを教本とする。</p>					<p>参考文献：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 石井淳蔵・向井雅夫『シリーズ流通体系1 小売業の業態革新』中央経済社、2009年 2. 服部吉伸『よくわかるこれからのマーチャンダイジング』同文館出版、2009年 3. 加藤義忠・佐々木保幸・真部和義『小売商業政策の展開』同文館出版、2006年 4. 田島義博『マーチャンダイジングの知識』日経文庫、2004年 				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>試験は参考書、ノート類は一切持ち込み不可。期末試験の他に小試験を行うので、各授業ごとに配布する教本（レジュメ）と参考書によって予習・復習を行い、授業内容を整理することが必要である。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	流通経済論Ⅱ (Distribution Economy Theory Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宝子山 嘉一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 流通を学ぶには、流通独特の言葉、言い回しがあり、正確に理解する事が大切です。流通の基本知識と最新の情報を学びます。									
授業目標： 流通とは「生産から消費にいたる財の流れ、あるいはその流れを実現する経済活動」の事ですが、21世紀の流通ビジネスは大きく変わろうとしています。IT（情報技術）革命によって流通のさまざまな分野で変革が迫られています。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
2	ストア・プロデュースとは					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
3	ストア・コンセプトと経営理念 ①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
4	ストア・コンセプトと経営理念 ②					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
5	ストア・コンセプトとマーケティング ①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
6	ストア・コンセプトとマーケティング ②					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
7	ストア・コンセプトからストア・アザーションへ					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
8	ストア・アザーションの要素 ①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
9	ストア・アザーションの要素 ②					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
10	ストア・アザーションの要素 ③					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
11	購買心理と店舗運営 ①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
12	購買心理と店舗運営 ②					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
13	インスタマーチャンダイジング ①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
14	インスタマーチャンダイジング ②					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義	
15	「FSP」					事前：前回までの配布資料を読む 事後：なし		講義	
教本： プリント等を適宜配布する。					参考文献： 「ストア・プロデューサーハンドブック」誠文堂新光社				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 6回以上欠席した学生は定期試験を受験することができない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	旅行会社経営論 I (Travel Business Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 映像でイメージを掴み、旅行業現状を理解し、新たなビジネスモデルを模索する。									
授 業 目 標 : 旅行業の経営がわかり、新たな発展の方策を考える。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義	
2	旅行業の成り立ち (I) : 近代旅行業、業界勢力図、業界トレンドなどを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
3	旅行業の成り立ち (II) : 旅行業法、企画旅行と手配旅行の違いを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
4	旅行業の成り立ち (III) : 旅行企画、ソリューション営業、イベント・コンベンションなどを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
5	旅行業の成り立ち (IV) : 旅行業のやりがい、転職・独立、職種などについて考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
6	旅行業界がわかる (I) : 国内・海外旅行市場、個人旅行、団体旅行、訪日外国人旅行、ネット販売などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
7	旅行業界がわかる (II) : パッケージ旅行、格安航空券、多角化経営、業界概略などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
8	旅行業界がわかる (III) : 専門特化型旅行社、ネット旅行社、楽天トラベル、HISなどを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
9	旅行業界がわかる (IV) : クルーズ、ロングステイ、海外旅行先ランキングなどを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
10	旅行業界がわかる (V) : ロケ地巡り、海外ウエディング、スポーツ観戦、バリアフリーなどを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
11	旅行業界がわかる (VI) : シニアツアー、新概念旅行、チャーター便、インターネット直販などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
12	旅行業界がわかる (VII) : バーチャルカウンター、ダイナミックパッケージ、エクスペディア、グローバル観光戦略などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
13	クラブツーリズムの経営 (I) : 旅の通販、添乗の活用などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
14	クラブツーリズムの経営 (II) : 同社のデータマーケティング、旅の友、ミッション経営、企業の社会貢献などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
15	星野リゾート研究 : ホテル、旅館の経営立て直しのための戦略を研究する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義	
教 本 : プリントを配布する。					参 考 文 献 : 廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ￥2,000+税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (授業参画度、小テスト等) (40%)、定期試験 (60%) 等									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 楽しく学ばなければ観光は学べない。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	旅行会社経営論Ⅱ (Travel Business Management Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	旅行業Ⅰを同時履修か、過去に履修したことがある。							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 :									
映像でイメージを掴み、旅行業現状を理解し、新たなビジネスモデルを模索する。									
授 業 目 標 :									
旅行業の経営がわかり、新たな発展の方策を考える。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	旅行企画の方法 (I): 海外旅行の未来戦略、観光立国、ツアープランナー、脱価格競争などを考察する。					事前:なし 事後:配布プリントを返す		講義	
2	旅行企画の方法 (II): 情報収集、現地調査、SIT、政府観光局との共働などを考察する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
3	旅行企画の方法 (III): パッケージツアーの創り方、理性と感情に訴える旅行パンフレットの作り方などを考える。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
4	旅行企画の方法 (IV): 顧客満足、広報活動、ツアコン、ツアー価格などを考察する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
5	旅行企画の方法 (V): 日本人の英語、観光局との共働、コミュニティ・ツーリズム、サステナブル・ツーリズムなどを考察する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
6	訪日外国人ビジネス: 日本のインバウンド、観光立国、クールジャパン、ゴールデンルートなどを考察する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
7	ビジネスモデル (I): メディア販売、航空のグローバルアライアンスなどを考察する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
8	ビジネスモデル (I): JTBの世界戦略を考察する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
9	ビジネスモデル (I): 店頭販売における低価格販売、付加価値創造、経験価値マーケティングなどを考察する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
10	ビジネスモデル (I): メディカル・ツーリズム、まちづくりなどを考察する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
11	ビジネスモデル (I): ホテル、テーマパーク、癒しブームなどを考察する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
12	カジノ運営: インテグレイテッド・リゾート、カジノ解禁のメリット・デメリットを考える。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
13	イベント&コンベンション (I): 国際会議と博覧会、ショーオーガナイザー、博覧会プロデューサーなどを考察する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
14	イベント&コンベンション (II): MICE市場、PCO、イベント・オーガナイザーなどを考察する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
15	旅行業の課題: 市場の変化、成熟社会、マスツーリズムなど、を考察する。					事前:参考文献・類書を読む 事後:配布プリントを返す		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
プリントを配布する。					廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ¥2,000+税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (授業参画度、小テスト等) (40%)、定期試験 (60%) 等									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 楽しく学ばなければ観光は学べない。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	旅 行 業 務 基 礎 I (Travel Business Basic I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
解 説 し、過 去 の 問 題 を 解 き な が ら 理 解 を 深 め る。									
授 業 目 標 :									
毎 年 9 月 に 行 わ れ る 国 家 試 験 「 国 内 旅 行 業 務 取 扱 管 理 者 試 験 」 合 格 基 準 点 の 取 れ る レ ベ ル の 知 識 と 理 解 力 を 持 つ こ と を 目 指 す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2	旅 行 業 法					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
3	旅 行 業 約 款					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
4	運 送 ・ 宿 泊 約 款					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
5	鉄 道					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
6	宿 泊 ・ 客 船					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
7	航 空					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
8	国 内 観 光 地 理 1					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
9	国 内 観 光 地 理 2					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
10	国 内 観 光 地 理 3					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
11	国 内 観 光 地 理 4					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
12	国 内 観 光 地 理 5					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
13	日 本 文 化					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
14	世 界 遺 産					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
15	ま と め					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
講 義 時 に プ リ ン ト を 配 布 す る。					授 業 時 に 随 時 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 定 期 試 験 (60%)、平 常 点 (40%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
復 習 を 行 う こ と、欠 席 を し な い こ と を 希 望 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	旅 行 業 務 基 礎 Ⅱ (Travel Business Basic Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 解 説 し、過 去 の 問 題 を 解 き な が ら 理 解 を 深 め る。									
授 業 目 標 : 「 総 合 旅 行 業 務 取 扱 管 理 者 試 験 」 の 「 海 外 旅 行 実 務 」 を 取 り 上 げ、国 家 試 験 の 合 格 を 目 指 す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2	国 際 航 空 運 賃					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
3	出 入 国 法 令 と 実 務 1					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
4	出 入 国 法 令 と 実 務 2					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
5	出 入 国 法 令 と 実 務 3					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
6	海 外 旅 行 実 務 1					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
7	海 外 旅 行 実 務 2					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
8	海 外 観 光 地 理 1					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
9	海 外 観 光 地 理 2					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
10	海 外 観 光 地 理 3					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
11	海 外 観 光 地 理 4					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
12	海 外 観 光 地 理 5					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
13	海 外 観 光 地 理 6					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
14	海 外 観 光 地 理 7					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
15	ま と め					事 前 : な し 事 後 : 資 料 の 精 読		講 義	
教 本 : 講 義 時 に プ リ ン ト を 配 布 す る。					参 考 文 献 : 授 業 時 に 随 時 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 定 期 試 験 (60%)、平 常 点 (40%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 復 習 を 行 う こ と、欠 席 を し な い こ と を 希 望 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	旅 行 業 論 I (Travel Industry I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
映 像 によりイメージを掴んだ上で、旅行業を概括し、旅行業に特有な経営形態や商品の特性を理解し、その商品がどのように企画・造成され、どのような市場で、どのように販売されているかを把握する。更に、旅行業に関わる法律が消費者をどのように保護しているかを考察する。									
授 業 目 標 :									
旅行業経営と商品特性を理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
2	旅行業概観： 旅行業の歴史や旅行業の意義や機能などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
3	旅行業とは： 旅行業法上の旅行業や旅行業の現状などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
4	旅行市場： 国内旅行・海外旅行・訪日外国人の市場規模、旅行会社の課題などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
5	旅行業経営： 日本の旅行業の経営特質や問題点などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
6	販売戦略： 旅行業の商品とその販売方法や店舗政策などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
7	商品部門別業務： 国内旅行、海外旅行の部門別業務内容などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
8	販売形態： 店頭販売、団体営業、メディア販売などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
9	主要市場における営業活動 (I)： パッケージツアー、教育旅行、業務旅行、視察旅行などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
10	主要市場における営業活動 (II)： イベント・コンベンション、海外ウエディング・マーケットなどを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
11	業務別にみた営業内容： ホールセラー、リテラー、ツアーオペレーターなどの営業を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
12	旅行業のマーケティング： 旅行業のマーケティングの特徴を考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
13	旅行業関連法令： 旅行業法の変遷、旅行業約款などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
14	ニューツーリズムとは： エコツーリズム、グリーンツーリズム、産業観光などを理解する					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
15	観光政策と観光： 観光行政、観光立国宣言、観光基本法などを考察する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
プリントを配布する。					1. 高橋秀夫著「クラブツーリズム研究」毎日新聞社 ¥1,800+税 2. 廣岡裕一他著「変化す旅行ビジネス」文理閣 ¥2,000+税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平常点 (授業参画度、小テスト等) (40%)、定期試験 (60%) 等									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 旅行業界で活躍したい人、旅行好きの人、楽しく学びましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	旅 行 業 論 II (Travel Industry II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	旅 行 業 I を 同 時 履 修 か、過 去 に 履 修 し た こ と が あ る。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
映 像 に よ り イ メ ー ジ を 掴 ん だ 上 で、旅 行 業 を 概 括 し、旅 行 業 に 特 有 な 経 営 形 態 や 商 品 の 特 性 を 理 解 し、そ の 商 品 が ど の よ う に 企 画 ・ 造 成 さ れ、ど の よ う な 市 場 で、ど の よ う に 販 売 さ れ て い る か を 把 握 す る。更 に、旅 行 業 に 関 わ る 法 律 が 消 費 者 を ど の よ う に 保 護 し て い る か を 考 察 す る。									
授 業 目 標 :									
旅 行 業 経 営 と 商 品 特 性 を 理 解 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	旅 行 業 界 を 取 り 巻 く 環 境 (I): LCC の ビ ジ ネ ス ・ モ デ ル、ア ウ ト バ ウ ン ド と イ ン バ ウ ン ド の 状 況 な ど					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
2	旅 行 業 界 を 取 り 巻 く 環 境 (II): 旅 行 商 品 の 特 性 や 流 通 の 仕 組 み な ど を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
3	旅 行 業 界 を 取 り 巻 く 環 境 (III): 旅 の 3 要 素、旅 行 商 品 の 特 性、旅 行 会 社 の 機 能 な ど を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
4	旅 行 業 界 を 取 り 巻 く 環 境 (IV): 旅 行 業 の 現 状、旅 行 会 社 の 経 営 状 況 な ど を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
5	旅 行 業 界 を 取 り 巻 く 環 境 (V): ホ ー ル セ ラ ー 会 社、イ ン タ ー ネ ッ ト ネ ッ ト 販 売 な ど を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
6	売 れ る 旅 行 商 品 (I): 旅 行 商 品 の 7 つ の 構 成 要 素 と そ の 組 み 合 わ せ 方 法 な ど を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
7	売 れ る 旅 行 商 品 (II): シ ー ズ ン と オ フ の 戦 略、顧 客 価 値 経 営、価 格 競 争、チ ャ ー タ ー 便 な ど					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
8	旅 行 と エ ア ラ イ ン (I): 航 空 機 の ダ ウ ン サ イ ズ イ ン グ、ス カ イ ト レ イ ン、セ ー バ ー 運 賃 な ど を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
9	旅 行 業 の 将 来: 海 外 旅 行 マ ー ケ テ ィ ン グ の 変 遷、ビ ジ ネ ス ・ モ デ ル の 変 化、MICE 市 場 な ど を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
10	国 際 ホ テ ル 利 用 法: 国 際 ホ テ ル 利 用 の た め の、英 語 表 現 法 を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
11	旅 行 の 法 律 (I): 独 占 禁 止 法、景 品 表 示 法、白 夜 事 件 な ど を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
12	旅 行 の 法 律 (II): 旅 行 契 約 を め ぐ る ト ラ ブ ル と 解 決 法 な ど を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
13	デ ィ ズ ニ ー ラ ン ド の CS: 強 さ の 秘 密、新 し い ア ト ラ ク シ ョ ン の 建 設 な ど、感 動 の 経 営 を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
14	国 際 観 光: ハ ー ド パ ワ ー と ソ フ ト パ ワ ー、観 光 立 国 と は 何 か を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
15	旅 行 業 の 課 題 と 展 望: 市 場 の 変 化、ク ラ ブ ツ ー リ ズ ム の 経 営 な ど を 考 察 す る。					事 前: 参 考 文 献 ・ 類 書 を 読 む 事 後: 配 布 プ リ ン ト を 読 む		講 義	
教 本: プ リ ン ト を 配 布 す る。					参 考 文 献: 1. 高 橋 秀 夫 著 「ク ラ ブ ツ ー リ ズ ム 研 究」 毎 日 新 聞 社 ¥1,800+ 税 2. 廣 岡 裕 一 他 著 「変 化 す 旅 行 ビ ジ ネ ス」 文 理 閣 ¥2,000+ 税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準: 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (授 業 参 画 度、小 テ ス ト 等) (40%)、定 期 試 験 (60%) 等									
学 生 へ の ア ド バ イ ス: 旅 行 業 界 で 活 躍 し た い 人、旅 行 好 き の 人、楽 し く 学 び ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー: 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	臨床心理学 (Clinical Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	作 間 祐 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
臨床心理学とはどのようなものか、成立の歴史、対象となる問題や疾患、アセスメントの方法とそれに対する考え方、さらに援助方法について、その概要を学ぶ。これらのことが実感・イメージできるように具体例や社会問題を取り上げて、話し合うことを重んじる。									
授 業 目 標 :									
1. この授業を通して、臨床心理学が社会の中で役立つことを目指しているのかを学ぶ。									
2. 自分自身や身近な人々を正しく理解し、心の健康を促進させるための基本を学ぶ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	心理学における臨床心理学の位置づけと、臨床心理学がどのようにして成立、発展してきたのかについて学ぶ。					事前： 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
2	臨床心理学の領域（医療、教育、福祉、産業、司法など）、各領域での臨床心理学の役割について学ぶ。					事前：どのような役割があるか自分なりにイメージしておく 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
3	心の捉え方と理解 (1)：臨床心理学における正常と異常の考え方、その根拠について学ぶ。					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
4	心の捉え方と理解 (2)：心の健康と危機の状況把握について臨床心理学の立場から学ぶ。①乳幼児期					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
5	適応と不適応の心理について、欲求の構造、フラストレーション、反・非社会的行動などについて学ぶ。②学童期、青年期					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
6	不安の心理とメカニズムについて、不安とは何か、不安の心理的構造、不安への対処法などについて学ぶ。③成人期、老年期					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
7	心理アセスメントの方法、初回面接医療場面での患者心理について、患者と医療スタッフ、心理職などとの関係や対応方法について学ぶ。					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
8	心理アセスメント 様々な心理検査					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
9	心理療法①：ロジャーズの来談者中心療法の考え方について、ロールプレイングを通して学ぶ。					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
10	心理療法②：行動療法、認知行動療法の考え方について、具体的なメカニズムを学ぶ。					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
11	心理療法③：箱庭療法やコラージュ療法について、その考え方や実際の事例を通して学ぶ。					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
12	心理療法④：遊戯療法について、家族のあり方や家族関係を基本に、家族の持つ意味を通して学ぶ。					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		講義	
13	カウンセリングとマイクロカウンセリングの具体的な体験を通して、他者への傾聴の方法を学ぶ。試行カウンセリング					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		実習	
14	カウンセリングの体験を通して討議					事前：テキストの指定ページの予習 事後：授業における疑問点を整理する		討議	
15	授業のまとめと質疑応答：臨床心理学を学習した成果について意見交換し、疑問点や不明点などを再確認する。					事前：授業全体についての疑問や不明点を整理する		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
下山晴彦監修 面白いほどよくわかる！臨床心理学 西東社					授業中に随時紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 自 分 自 身 の あり 方 を 理 解 し な お し、他 者 を 支 援 す る 際 の 心 構 え を 学 ん で ほ し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	臨床心理学 (Clinical Psychology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本講義では、様々な心理臨床的問題、アセスメント法、心理的援助法について、概論を学ぶ。講義内では、適宜事例や社会的事象を紹介する。									
授業目標： 心の問題について理解し、支援の仕方の基本を習得する。そして他者の心への気づきを深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義	
2	様々な心理的問題① ストレス、不安障害、うつ					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
3	様々な心理的問題② 人格障害、統合失調症					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
4	様々な心理療法① 精神力動的アプローチ					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
5	様々な心理療法② 来談者中心的アプローチ					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
6	様々な心理療法③ 認知行動主義的アプローチ					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
7	夫婦関係に生じる問題：コミュニケーションの問題、DV					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
8	周産期の問題：マタニティブルー、産後うつ					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
9	愛着の問題：アタッチメントとボンディング					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
10	発達障害：自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害、学習障害					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
11	子どもの発達評価：新版K式、wisc-iv、ビネー式					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
12	児童虐待：身体的虐待、精神的虐待、性的虐待、ニグレクト					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
13	親子への支援：プレイセラピー、療育、発達相談、ペアレントトレーニング					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容の復習		講義	
14	心理的健康とは					事前：発表資料の作成 事後：講義内容の復習		講義	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教本： なし。授業中に資料を配布する。					参考文献： 授業中に、随時紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義には、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	倫理学 (Ethics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高村 夏輝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 倫理学に関する基本的な問題と考え方、そして代表的な理論的立場について学びます。									
授業目標： 「道徳的に善い・悪い」といった価値、あるいは行為のルールについての哲学的議論を理解すること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：倫理学とはどのようなものか					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
2	生物学、脳科学と倫理					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
3	文化相対主義の問題					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
4	相対主義のどこが間違っているのか					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
5	人間は利己的な生き物か					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
6	人間は利己的に生きるべきか					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
7	倫理的利己主義の批判					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
8	倫理と宗教の関係					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
9	道徳的事実は存在するか					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
10	道徳的反実在論とその問題					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
11	功利主義とはどのような立場か					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
12	功利主義への批判と応答					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
13	義務論（カントの倫理学）					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
14	義務論への批判					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
15	復習とテスト対策					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
教本： なし					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 質問など、積極的な授業への参加を期待します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	倫 理 学 A (Ethics A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 村 夏 輝								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 倫 理 学 関 連 の 基 本 的 な 問 題 と 考 え 方 , そ し て 代 表 的 な 理 論 的 立 場 に つ い て 学 び ま す 。									
授 業 目 標 : 「 道 徳 的 に 善 い ・ 悪 い 」 と い っ た 価 値 , あ る い は 行 為 の ルール に つ い て の 哲 学 的 議 論 を 理 解 す る こ と 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ , 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 , 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 , 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス：倫理学とはどのようなものか					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
2	生物学、脳科学と倫理					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
3	文化相対主義の問題					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
4	相対主義のどこが間違っているのか					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
5	人間は利己的な生き物か					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
6	人間は利己的に生きるべきか					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
7	倫理的利己主義の批判					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
8	倫理と宗教の関係					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
9	道徳的事実は存在するか					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
10	道徳的反実在論とその問題					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
11	功利主義とはどのような立場か					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
12	功利主義への批判と応答					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
13	義務論（カントの倫理学）					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
14	義務論への批判					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
15	復習とテスト対策					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
教 本 : な し					参 考 文 献 : な し				
成 績 評 価 の 方 法 , 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%) , 定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 質 問 等 , 積 極 的 な 授 業 へ の 参 加 を 期 待 し ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	倫 理 学 B (Ethics B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 村 夏 輝								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
政治や経済などの現実の社会状態に対して、倫理的にアプローチする様々なやり方を紹介する。									
授 業 目 標 :									
「正解」のない問題に頭悩ませ、自分なりの決断を下す力を身につけること。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス：応用倫理学とはなにか					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
2	生命と社会の倫理学 ①					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
3	生命と社会の倫理学 ②					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
4	生命と社会の倫理学 ③					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
5	生命と社会の倫理学 ④					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
6	グローバル社会と環境の倫理学 ①					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
7	グローバル社会と環境の倫理学 ②					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
8	グローバル社会と環境の倫理学 ③					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
9	グローバル社会と環境の倫理学 ④					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
10	経済学と倫理学 ①					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
11	経済学と倫理学 ②					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
12	経済学と倫理学 ③					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
13	ビジネス・エシックス ①					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
14	ビジネス・エシックス ②					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
15	ビジネス・エシックス ③					事前：特になし 事後：講義ノートによる復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
テキストは使用しません。講義の際に資料を配布し、それを使って議論していきます。					講義の際に適宜紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
受け身にならず、積極的に質問したり、意見を述べることを期待します。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	歴史考古学 (Historical Archeology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤井 一二								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	教本 必備							
<p>授業概要：</p> <p>「東アジア圏の歴史考古学」をテーマにして、歴史時代の最新の考古学資料を素材として、人・社会・文化の関係を学びます。そこでは記録・画像・図表等を活用して、自らレポート・解説文を書き上げる作業を積み重ねます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>日本や東アジアにおける歴史時代の遺跡・遺物をつうじて、人々の生産・生活・社会の特色について考えるとともに、現代に残る文化遺産に凝縮された過去の人々の知恵・技術・精神文化について理解を深めます。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	正倉院宝物とシルクロード ①					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
2	正倉院宝物とシルクロード ②					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
3	海を渡った和同開珎 -唐- ①					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
4	海を渡った和同開珎 -渤海- ②					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
5	富本銭・和同開珎に見る日中交流					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
6	荘園絵図・遺跡にみる万葉社会					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
7	木簡・墨書土器に見る万葉社会					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
8	中国東北の渤海遺跡 -黒龍江省-					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
9	中国東北の渤海遺跡 -吉林省・遼寧省-					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
10	日本海域の渤海交流遺跡					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
11	記紀の伝承と高志国の世界					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
12	気多神宮と寺家遺跡					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
13	発掘された渤海王墓					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
14	東アジアの飛天・天人芸術					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
15	古代日本の飛天・天人文芸					事前：適宜、指示します 事後：なし		講義	
教本： 藤井一二著『天平の渤海交流』（塙選書）塙書房、¥2,415					参考文献：				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 対岸アジアと日本の古代社会について学びたい受講生を希望します。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

れ

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	レストラン経営論 I (Restaurant Management Theory I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： レストラン業界の現状と課題を抽出し、約30兆円の市場規模がある外食・中食産業は、少子高齢化で国内市場が縮小する中、訪日外国人が3,000万人を超え、2020年には4,000万人が予測されています。外食産業グローバル化による海外展開が進む状況でもあります。レストランを開業するために必要なマネジメントを把握する。									
授業目標： レストラン開業までのマネジメントを学び、そのために最も大事なことは「企業理念＝経営文化」であり、利益予測を立てるため、収入計画と支出計画を作成する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスを読む 事後：ノートを読み返す		講義	
2	レストラン業界の現状 I 動向					事前：教科書を読むP3 事後：ノートを読み返す		講義	
3	レストラン業界の現状 II 形態					事前：教科書を読むP15 事後：ノートを読み返す		講義	
4	レストラン経営の問題点・小論文提出					事前：教科書を読むP23 事後：ノートを読み返す		講義	
5	レストラン業界の課題と今後の方向性（小論文返却）					事前：教科書を読むP28 事後：ノートを読み返す		講義	
6	レストラン開業までのマネジメント					事前：教科書を読むP39 事後：ノートを読み返す		講義	
7	基本計画と市場調査					事前：教科書を読むP46 事後：ノートを読み返す		講義	
8	理念とコンセプト					事前：教科書を読むP54 事後：ノートを読み返す		講義	
9	メニュープランニングと店舗デザイン					事前：教科書を読むP61 事後：ノートを読み返す		講義	
10	資金計画と収支計画					事前：教科書を読むP66 事後：ノートを読み返す		講義	
11	売り上げの要素・客単価×客数（席数×回転率）を学ぶ					事前：教科書を読むP69 事後：ノートを読み返す		講義	
12	ミニテスト実施					事前：先週までの復習 事後：テストの回答確認		講義	
13	ミニテストの返却と回答説明 収支計画再確認					事前：復習 事後：テスト・ノート確認		講義	
14	実施計画と運営計画					事前：教科書を読むP74 事後：ノートを読み返す		講義	
15	開業までのマネジメント総括					事前：教科書を読むP86 事後：レポートの提出		講義	
教本： レストランマネジメント総論（日本ホテル教育センター） ¥2,900					参考文献： 必要な資料をその都度配布				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レストラン・外食産業はもちろん全ての経営に共通する内容です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	レストラン経営論Ⅱ (Restaurant Management Theory II)						科目分類	専門科目	
担当教員	小林 信次								
履修条件	前提科目	レストラン経営論Ⅰを受講してからのが望ましい							
	その他	受講後レストランサービス実務を受講するとレストラン・外食産業が詳細に分かる							
授業概要： 開業後のレストラン経営で重要な事項やその対応力を実務の経験を通して具体的に講義する。特にマネジメントサイクルの重要性。売り上げに関するABC分析とパレート図、メニュー分析（原価管理）及び損益分岐点売上上の計算式を理解させる。									
授業目標： レストラン開業後のマネジメントを学ぶことによって、企業が存続していくうえで最も重要な適正な利益を確保するために必要な項目を理解する。特にABC分析・原価管理・損益分岐点の理解。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	レストラン開業後のマネジメントの留意点					事前：教科書を読むP89 事後：ノートを読み返す		講義	
2	マネジメントサイクルとは					事前：教科書を読むP94 事後：ノートを読み返す		講義	
3	商品管理・ABC分析					事前：教科書を読むP95 事後：ノートを読み返す		講義	
4	パレート図の作成と提出					事前：教科書を読むP99 事後：ノートを読み返す		講義	
5	メニュー分析（原価管理・F&Bコントロール）					事前：教科書を読むP100 事後：ノートを読み返す		講義	
6	労務管理					事前：教科書を読むP104 事後：ノートを読み返す		講義	
7	施設管理・仕入れ管理・在庫管理の重要性					事前：教科書を読むP111 事後：ノートを読み返す		講義	
8	財務管理・損益分岐点売上上の重要性					事前：教科書を読むP125 事後：ノートを読み返す		講義	
9	損益分岐点 ミニテスト実施					事前：先週までの復習 事後：テスト・ノートの確認		講義	
10	ミニテストの返却と回答確認・損益分岐点の確認					事前：これまでの復習 事後：計算式の確認		講義	
11	販売促進・セールスと広告・広報活動					事前：教科書を読むP135 事後：ノートを読み返す		講義	
12	顧客管理の重要性					事前：教科書を読むP140 事後：ノートを読み返す		講義	
13	レストランの防災・防犯と天災対策					事前：教科書を読むP147 事後：ノートを読み返す		講義	
14	衛生管理の重要性					事前：教科書を読むP151 事後：ノートを読み返す		講義	
15	開業後のマネジメント総括					事前：これまでの復習 事後：レポートの提出		講義	
教本： レストランマネジメント総論（日本ホテル教育センター） ¥2,900					参考文献： 必要な資料をその都度配布				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 前期レストラン経営論Ⅰに引き続いて履修してください。レストラン・外食産業だけでなく全ての経営に共通する内容です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	レストランサービス実務 (Restaurant Service)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>レストランサービスの基本を学ぶことによって、テーブルマナーや料理の内容、サービス方法、お酒 とのコラボレーションを理解する。また、テーブルセッティングから食器類（お皿・シルバー・グラスなど）の役割、名称を学ぶ。</p> <p>ビデオと配布資料よりテーブルマナーの基本を身に付け、世界共通のプロトコル（国際儀礼）を学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>ホスピタリティの原点であるレストランサービスを通じて、講義社会人としてのマナーは基よりグローバル化が更に進む時代に国際人としての必要なプロトコルを覚える。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスを読む 事後：ノートを読み返す		講義	
2	レストランの種類・業務の特性・基礎知識					事前：教科書を読むP5 事後：ノートを読み返す		講義	
3	レストランの組織と職務分担					事前：教科書を読むP16 事後：ノートを読み返す		講義	
4	レストランサービスとは（心構え、マナー）					事前：教科書を読むP38 事後：ノートを読み返す		講義	
5	テーブルサービスの分類					事前：教科書を読むP38 事後：ノートを読み返す		講義	
6	メニューの知識（役割、種類）					事前：教科書を読むP45 事後：ノートを読み返す		講義	
7	サービス業務の手順（予約、開店前・中・後）					事前：教科書を読むP51 事後：ノートを読み返す		講義	
8	料飲サービスの実際（食事コース・酒類）					事前：教科書を読むP76 事後：ノートを読み返す		講義	
9	衛生管理、苦情処理					事前：教科書を読むP88 事後：ノートを読み返す		講義	
10	サービスの基本					事前：教科書を読むP105 事後：ノートを読み返す		講義	
11	バーの基本知識					事前：教科書を読むP131 事後：ノートを読み返す		講義	
12	食器・リネン・備品の知識					事前：教科書を読むP148 事後：ノートを読み返す		講義	
13	防犯・防災					事前：教科書を読むP168 事後：ノートを読み返す		講義	
14	レストランでの美しいマナー					事前：前回までの復習 事後：レポートを書く		講義	
15	異文化コミュニケーションのバイブル（プロトコル）					事前：プリントを読む 事後：レポートの提出		講義	
<p>教本：</p> <p>レストラン業務の基礎（日本ホテル教育センター） ¥2,600</p>					<p>参考文献：</p> <p>必要な資料をその都度配布</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>ホテルや外食産業を志す人はもちろんですが、これからの社会人にとって必要な知識が身に付けられます。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	労 働 経 済 論 I (Labor Economics I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 藤 和 重								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 労 働 経 済 論 I で は、先 ず 労 働 市 場 に お い て 労 働 の 供 給 (求 職) と 労 働 の 需 要 (求 人) の 均 衡 が 成 立 する 過 程 を 学 ぶ が、現 実 に は 好 景 気 の な か で も 失 業 が 構 造 的 に 存 在 する と い う 問 題 を 考 察 する な か で、人 的 資 本 の 蓄 積 や 雇 用 継 続 性 の 意 義 を 学 ん で い く。									
授 業 目 標 : 求 職 ・ 就 職 ・ 採 用、給 与 格 差、失 業、退 職 金、非 正 規 社 員、人 的 資 本 の 劣 化、賃 金 の 硬 直 性、自 然 失 業 率 な ど、避 け て 通 れ ない 切 実 な 問 題 (用 語) の 理 解 に は 特 に 注 力 する。 労 働 経 済 論 I → 労 働 経 済 論 II の 履 修 順 序 が 望 ま し い。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	講 義 計 画 : 半 年 間 の 授 業 概 要 を 説 明 し、な か で も 労 働 の 供 給 理 論 と 需 要 の 理 論、賃 金 の 硬 直 性 と 失 業 問 題 に 注 力 する。					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2・3	労 働 の 担 い 手 : 労 働 力 人 口、労 働 統 計、労 働 力 の 女 性 化 ・ 高 齢 化 ・ 非 正 規 化、産 業 別 ・ 職 業 別 就 業 比 率、労 働 時 間 の 推 移					事 前 : 『 労 働 力 調 査 年 報 』 を 紹 介 事 後 : な し		講 義	
4・5	労 働 の 売 り 手 の 行 動 : 労 働 と 余 暇 の 関 係、効 用 と 無 差 別 曲 線、最 適 な 労 働 時 間、個 別 労 働 供 給 曲 線、所 得 効 果 と 代 替 効 果、市 場 労 働 供 給 曲 線、景 気 変 動 の 影 響					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
6～8	労 働 の 買 い 手 の 行 動 : 企 業 の 労 働 需 要、生 産 関 数、限 界 生 産 力 逓 減 の 法 則、個 別 労 働 需 要 曲 線、市 場 労 働 需 要 曲 線、集 計 問 題、企 業 の ダイ ナ ミ ズ ム、労 働 需 要 の 弾 性 性、長 期 労 働 需 要 曲 線、代 替 効 果 と 規 模 効 果、技 術 進 歩 と 労 働 需 要					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
9～11	賃 金 と そ の 決 定 : 労 働 市 場 の 均 衡、均 衡 賃 金、賃 金 の 硬 直 性、効 率 賃 金 理 論、暗 黙 の 契 約 理 論、イン サ イ ダー ・ ア ウ ト サ イ ダー 理 論、賃 金 決 定 の 制 度 要 因、労 働 組 合、最 低 賃 金 制					事 前 : 「 賃 金 硬 直 性 」 の 3 理 論 を 調 査 事 後 : な し		講 義	
12	賃 金 格 差 : 賃 金 体 系、賃 金 格 差 の 諸 側 面 と 発 生 源、教 育 と 賃 金、所 得 格 差 と 不 平 等					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
13～15	失 業 : 失 業 の 概 念 と 調 査 方 法、労 働 力 人 口、我 が 国 の 失 業、労 働 市 場 の ス ト ッ ク と フ ロ ー、失 業 の 種 類、失 業 と 欠 員 の 関 係、イン フ レ ー シ ョ ン と 失 業 の 関 係、失 業 と 完 全 雇 用、フィ リ ッ プ ス 曲 線、自 然 失 業 率、労 働 力 の 有 効 活 用、潜 在 失 業 者、オ ー ク ン の 法 則					事 前 : 「 自 然 失 業 率 」 の 調 査 事 後 : な し		講 義	
教 本 : 参 考 文 献 : 『 暮 ら し の 経 済 学 』 高 木 信 久 著、八 千 代 出 版、¥ 2,100 + 税									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 する。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 社 会 に 出 て か ら も 役 立 ち ま す の で、前 向 き に 履 修 し て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。火 曜 日 昼 休 み									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	労 働 経 済 論 II (Labor Economics II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 藤 和 重								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 労 働 経 済 論 II で は、応 用 編 と し て 労 働 移 動 と 職 探 し、労 働 者 の 差 別、非 正 規 労 働 者、雇 用 慣 行 と 訓 練、労 使 関 係 及 び 今 後 の 労 働 の 6 項 目 を 取 り 上 げ て い く。な か で も 日 本 的 雇 用 慣 行 の 動 向 に 注 目 し た い。									
授 業 目 標 : 労 働 経 済 論 I を 拡 充 す る 位 置 付 け に あ る が、こ の な か で 「日 本 型 雇 用 慣 行 の 動 向 と 人 的 資 本 の 意 義」及 び 「今 後 の 労 働」に つ い て は 明 確 に 理 解 さ せ る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	講 義 計 画 : 半 年 間 の 授 業 項 目 と し て 「授 業 概 要」に 掲 げ た 6 項 目 の ポ イ ン ト を 順 次 説 明 す る。					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2・3	労 働 移 動 と 職 探 し : 自 発 的 移 動 と 非 自 発 的 移 動、職 探 し の 理 論、国 内 の 労 働 移 動、離 職 と 転 職、転 職 と 賃 金、国 際 間 の 労 働 移 動、					事 前 「職 探 し の 理 論」を 調 査 事 後 : な し		講 義	
4・5	労 働 者 と 差 別 : 差 別 の 諸 側 面、差 別 の 理 論、差 別 嗜 好 理 論、そ の 他 の 差 別 理 論、性 別 に よ る 各 種 差 別、雇 用 の 機 会 均 等、					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
6・7	非 正 規 の 労 働 者 : 非 正 規 労 働 者 の 増 加、パ ー ト タ イ マ ー ・ フ リ ー タ ー ・ 派 遣 労 働 者 の 定 義、コ ン テ ン ギ ン ト 労 働 者 と は、非 正 規 労 働 者 増 加 の 背 景 と 労 働 条 件 (社 会 保 障 他)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
8~10	雇 用 慣 行 と 訓 練 : 日 本 的 雇 用 慣 行 (終 身 雇 用 慣 行、年 功 序 列 賃 金)、雇 用 慣 行 の 経 済 合 理 性、慣 行 と 特 殊 訓 練、人 的 資 本 と 職 場 訓 練、人 的 資 本 理 論、イン セ ン テ ィ ブ 理 論、内 部 労 働 市 場 の 外 部 化					事 前 : 「日 本 的 雇 用 慣 行」を 調 査 事 後 : な し		講 義	
11・12	労 使 関 係 : 労 働 組 合 の 機 能 ・ 形 態 ・ 組 織、団 体 交 渉、賃 金 ・ 雇 用 へ の 影 響、労 働 争 議、モ デ ル、争 議 の 調 整					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
13・14	今 後 の 労 働 : 労 働 時 間 の 問 題、時 間 の 短 縮、残 業 と 通 勤 時 間、労 働 時 間 の 弾 力 化、就 業 形 態 の 問 題、就 業 時 間 ・ 場 所 の 弾 力 化、企 業 と 労 働 力 の 問 題、外 注 労 働 力 の 利 用、企 業 の 仮 想 化、労 働 の 非 人 間 化 規 制 緩 和 と 労 働 の 問 題					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
15	ト ピ ッ ク ス : 正 規 労 働 者 対 非 正 規 労 働 者 に 関 し て 意 見 交 換					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
教 本 : 参 考 文 献 : 『暮 ら し の 経 済 学』高 木 信 久 著、八 千 代 出 版、¥2,100 + 税									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 質 疑 応 答 に 注 力 す る の で、積 極 的 に 発 言 し て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。火 曜 日 の 昼 休 み									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	労働法 I (Labor Law I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： これから就職活動を行い実社会に羽ばたこうとする学生諸君にとって、労働法は自らの働く権利を守るための有効な手段となり得るはずである。昨今社会問題となっているブラック企業が存在や長時間労働の是正、男女間の賃金格差など、労働環境を巡る具体的な課題を取り上げながら、労働法体系全般の根底に流れているものをつかむことを主旨とする。									
授業目標： 1. 労働法体系の基盤となる法概念について自らの言葉で説明できる。 2. 身近に起きている労働争議について、判例を基に現状と課題を説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	労働法を学ぶに当たって（導入）					事前：教本 p.2～7精読 事後：講義の復習		講義	
2	労働基準法による保護					事前：教本 p.8～15精読 事後：講義の復習		講義	
3	労働契約上の権利義務					事前：教本 p.16～23精読 事後：講義の復習		講義	
4	労働契約の締結					事前：教本 p.24～31精読 事後：講義の復習		講義	
5	労働憲章					事前：教本 p.32～37精読 事後：講義の復習		講義	
6	就業規則					事前：教本 p.38～43精読 事後：講義の復習		講義	
7	懲戒					事前：教本 p.44～49精読 事後：講義の復習		講義	
8	人事					事前：教本 p.50～61精読 事後：講義の復習		講義	
9	賃金					事前：教本 p.62～73精読 事後：講義の復習		講義	
10	労働時間・休息・休日					事前：教本 p.74～85精読 事後：講義の復習		講義	
11	労働時間規制の弾力化					事前：教本 p.86～91精読 事後：講義の復習		講義	
12	年次有給休暇					事前：教本 p.92～97精読 事後：講義の復習		講義	
13	男女平等					事前：教本 p.98～105精読 事後：講義の復習		講義	
14	女性及び年少者の保護					事前：教本 p.106～111精読 事後：講義の復習		講義	
15	まとめ					事前：教本 p.2～111再読 事後：まとめノートの作成		講義	
教本： 小畑史子『よくわかる労働法 第3版』ミネルヴァ書房、2017年					参考文献： 授業内容に応じて適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、期末試験（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： これから一社会人として働くための権利を保護する労働法体系の現状と課題を把握できるように努力して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	労働法Ⅱ (Labor Law II)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	労働法Ⅰ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>これから就職活動を行い実社会に羽ばたこうとする学生諸君にとって、労働法は自らの働く権利を守るための有効な手段となり得るはずである。昨今社会問題となっているブラック企業が存在や長時間労働の是正、男女間の賃金格差など、労働環境を巡る具体的な課題を取り上げながら、労働法体系全般の根底に流れているものをつかむことを主旨とする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 労働法体系の基盤となる法概念について自らの言葉で説明できる。</p> <p>2. 身近に起きている労働争議について、判例を基に現状と課題を説明できる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	労働法Ⅱを学ぶに当たって（導入）					事前：教本 p.2～7精読 事後：講義の復習		講義	
2	育児休業・介護休業					事前：教本 p.112～117精読 事後：講義の復習		講義	
3	安全衛生					事前：教本 p.118～123精読 事後：講義の復習		講義	
4	労災補償					事前：教本 p.124～135精読 事後：講義の復習		講義	
5	労災民訴					事前：教本 p.136～141精読 事後：講義の復習		講義	
6	労働契約の終了					事前：教本 p.142～149精読 事後：講義の復習		講義	
7	非典型雇用					事前：教本 p.150～159精読 事後：講義の復習		講義	
8	労働組合					事前：教本 p.160～165精読 事後：講義の復習		講義	
9	団体交渉					事前：教本 p.166～171精読 事後：講義の復習		講義	
10	労働契約					事前：教本 p.172～177精読 事後：講義の復習		講義	
11	団体行動の法的保護					事前：教本 p.178～181精読 事後：講義の復習		講義	
12	争議行為					事前：教本 p.182～189精読 事後：講義の復習		講義	
13	不当労働行為・労働委員会					事前：教本 p.190～199精読 事後：講義の復習		講義	
14	労働紛争の解決					事前：教本 p.200～203精読 事後：講義の復習		講義	
15	まとめ					事前：教本 p.112～203再読 事後：まとめノートの作成		講義	
<p>教本：</p> <p>小畑史子『よくわかる労働法 第3版』ミネルヴァ書房、2017年</p>					<p>参考文献：</p> <p>授業内容に応じて適宜紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、期末試験（50%）で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>これから一社会人として働くための権利を保護する労働法体系の現状と課題を把握できるように努力して下さい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	1	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習Ⅰ (SeminarⅠ)						科目分類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学							
	その他	講座名に「文化」がつくもの							
授業概要： フィールドワークに基づく都市文化研究。									
授業目標： 各自のテーマに基づく報告書の作成。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	文化人類学の文化研究					事前：なし 事後：文献講読		講義とディスカッション	
2	都市文化とはどのような現象か					事前：文献講読 事後：文献講読		講義とディスカッション	
3	『東京の空間人類学』を読む					事前：文献講読 事後：文献講読		講義とディスカッション	
4	『左大文字の都市人類学』を読む					事前：文献講読 事後：文献講読		講義とディスカッション	
5	『都市のドラマトウルギー』を読む					事前：文献講読 事後：文献講読		講義とディスカッション	
6	フィールドワークとは					事前：なし 事後：テーマの想定		講義とディスカッション	
7	テーマの見つけ方					事前：なし 事後：テーマの想定		講義とディスカッション	
8	テーマの掘り下げ方					事前：なし 事後：テーマの想定		講義とディスカッション	
9	各自のテーマ発表					事前：テーマ公表準備 事後：なし		講義とディスカッション	
10	テーマに関するディスカッション					事前：各自のテーマ理解 事後：自己のテーマ再考		ディスカッション	
11	文献収集収集					事前：文献ジャンル確定 事後：文献収集		報告とディスカッション	
12	フィールドとの接触開始					事前：具体的な現場確定 事後：各自調査		報告とディスカッション	
13	進捗状況報告					事前：各自調査 事後：各自調査		報告とディスカッション	
14	進捗状況報告(2)					事前：各自調査 事後：各自調査		報告とディスカッション	
15	進捗状況報告(3)					事前：各自調査 事後：各自調査		報告とディスカッション	

16	インフォーマントとのコミュニケーション	事前：一覧表作成 事後：挨拶状作成	報告とディスカッション
17	インフォーマントとのコミュニケーション (2)	事前：現場挨拶(必要な者のみ) 事後：各自調査	報告とディスカッション
18	インフォーマントとのコミュニケーション (3)	事前：各自調査 事後：各自調査	報告とディスカッション
19	報告書作成の手順	事前：各自調査 事後：レジュメ作成	報告・講義と ディスカッション
20	データのカード化	事前：各自調査、カード化 事後：各自調査、カード化	報告とディスカッション
21	データのカード化 (2)	事前：各自調査、カード化 事後：各自調査、カード化	報告とディスカッション
22	データのカード化 (3)	事前：各自調査、カード化 事後：各自調査、カード化	報告とディスカッション
23	報告書レジュメ作成	事前：レジュメ作成、各自調査 事後：レジュメ作成、各自調査	報告とディスカッション
24	報告書レジュメ作成 (2)	事前：レジュメ作成、各自調査 事後：レジュメ作成、各自調査	報告とディスカッション
25	報告書レジュメ作成 (3)	事前：レジュメ作成、各自調査 事後：レジュメ作成、各自調査	報告とディスカッション
26	報告書レジュメ作成 (4)～報告書作成	事前：レジュメ作成、各自調査 事後：レジュメ作成、各自調査	報告とディスカッション
27	報告書作成 (2)	事前：報告書作成 事後：報告書作成	報告とディスカッション
28	報告書作成 (3)	事前：報告書作成 事後：報告書作成	報告とディスカッション
29	報告書作成 (4)	事前：報告書作成 事後：報告書作成	報告とディスカッション
30	報告書完成	事前：報告書作成 事後：報告書作成	報告とディスカッション
教本： なし		参考文献： 陣内秀信『東京の空間人類学』、和崎春日『左大文字の都市人類学』、 吉見俊哉『都市のドラマトウルギー』ほか	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（60%）、小テスト・レポート（40%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 地道な努力のあとに待っている（はず）の知的快楽を味わいましょう。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	阿部 美恵								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>イギリスは日本と多くの共通点をもつ魅力に富んだ国です。授業ではイギリスの文化に関する基本文献を講読しながら、イギリスの文化をさまざまな角度から考察します。またレジュメやレポート作成の指導を行い、4年次の卒業論文へと発展させます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. イギリスの文化について理解する。 2. レジュメやレポートを作成し、発表する。 3. 卒業論文のテーマをみつける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業の進め方についての説明					事前：シラバスの熟読 事後：授業の復習		講義	
2	基本文献の講読と解説					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
3	基本文献の講読と解説					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
4	基本文献の講読と解説					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
5	基本文献の講読と解説					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
6	レジュメ作成指導					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
7	レジュメ作成指導					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
8	基本文献の講読と解説					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
9	基本文献の講読と解説					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
10	基本文献の講読と解説					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
11	基本文献の講読と解説					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
12	基本文献の講読と解説					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
13	レポート作成指導					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
14	レポート作成指導					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	
15	レポートの発表					事前：文献の予習 事後：授業の復習		講義	

16	基本文献の講読と解説	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
17	基本文献の講読と解説	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
18	基本文献の講読と解説	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
19	基本文献の講読と解説	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
20	基本文献の講読と解説	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
21	小論文の執筆指導	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
22	小論文の執筆指導	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
23	基本文献の講読と解説	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
24	基本文献の講読と解説	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
25	基本文献の講読と解説	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
26	基本文献の講読と解説	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
27	基本文献の講読と解説	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
28	基本文献の講読と解説	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
29	卒業論文のテーマ決定	事前：文献の予習 事後：授業の復習	講義
30	まとめ	事前：なし 事後：なし	講義
教本： プリントを使用します。		参考文献： 適宜、授業内で伝えます。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 常に世界の出来事に関心を持ち、書物に触れる習慣を持ってください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	3年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	粟屋 信子								
履 修 条 件	前提科目	異文化コミュニケーション論 か 異文化共生論 またはその両方							
	その他	なし							
<p>授業概要： 文化の研究がテーマだが、その領域は問わない。当然ながら、文化相対論に基づいた異文化コミュニケーション研究。個々の興味領域により、指導を行う。毎回、資料読み、調査と発表を繰り返す。</p>									
<p>授業目標： 資料を選び、できるだけ多く読むことができる。研究の目的にあった方法論を学び、選択し、実践する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概論					事前：なし 事後：なし		演習	
2～30	以下、個々のテーマによって個人指導					事前：なし 事後：なし		演習	
<p>教本： テーマ領域に応じて、指定。</p>					<p>参考文献： 随時、指定。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（90%）、小テスト・レポート等（10%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 自分の興味領域を明確にして、履修すること。新聞、本など、活字を読むことを日ごろから厭わないこと。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石井 みどり								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 日本の歴史と文化について理解を深めることは、自分自身を見つめなおすことにもつながります。 古代から現代まで、さまざまなテーマを選び、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを繰り返します。 文献を読むだけでなく、見たり、聴いたり、味わったりとゼミならではの体験の機会を豊富に作りたいと考えています。									
授業目標： 4年の卒業論文の完成に向けて、研究方法の基礎を習得することを目的とします。 適宜、合宿や課外活動を行います。ゼミ生や教員との交流を通して、社会人に必要不可欠なコミュニケーション能力を習得してください。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	和食の文化 ①					事前：なし 事後：なし		講義と演習	
3	和食の文化 ② グループワーク					事前：課題の準備 事後：課題のまとめ		演習	
4	和食の文化 ③ グループワーク					事前：課題の準備 事後：課題のまとめ		演習	
5	和食の文化 ④ グループワーク					事前：課題の準備 事後：課題のまとめ		演習	
6	和食の文化 ⑤ グループワーク					事前：課題の準備 事後：課題のまとめ		演習	
7	和食の文化 ⑥ プレゼンテーションと調理実習					事前：課題の準備 事後：なし		演習	
8	歴史散策 ①					事前：なし 事後：なし		講義と演習	
9	歴史散策 ② グループワーク					事前：課題の準備 事後：課題のまとめ		演習	
10	歴史散策 ③ グループワーク					事前：課題の準備 事後：課題のまとめ		演習	
11	歴史散策 ④ グループワーク					事前：課題の準備 事後：課題のまとめ		演習	
12	歴史散策 ⑤ グループワーク					事前：課題の準備 事後：課題のまとめ		演習	
13	歴史散策 ⑥ グループワーク					事前：課題の準備 事後：課題のまとめ		演習	
14	歴史散策 ⑦ 歴史ガイドと課外学習					事前：課題の準備 事後：なし		演習	
15	前期のまとめ					事前：なし 事後：なし		講義と演習	

16	日本の神話と神社 ①	事前：なし 事後：なし	講義と演習
17	日本の神話と神社 ② グループワーク	事前：課題の準備 事後：課題のまとめ	演習
18	日本の神話と神社 ③ グループワーク	事前：課題の準備 事後：課題のまとめ	演習
19	日本の神話と神社 ④ グループワーク	事前：課題の準備 事後：課題のまとめ	演習
20	日本の神話と神社 ⑤ グループワーク	事前：課題の準備 事後：課題のまとめ	演習
21	日本の神話と神社 ⑥ グループワーク	事前：課題の準備 事後：課題のまとめ	演習
22	日本の神話と神社 ⑦ 歴史ガイドと課外学習	事前：課題の準備 事後：なし	演習
23	自由課題 ①	事前：なし 事後：課題のまとめ	演習
24	自由課題 ②	事前：課題の準備 事後：課題のまとめ	演習
25	自由課題 ③	事前：課題の準備 事後：課題のまとめ	演習
26	自由課題 ④ プレゼンテーション	事前：課題の準備 事後：なし	演習
27	自由課題 ①	事前：なし 事後：課題のまとめ	演習
28	自由課題 ②	事前：課題の準備 事後：課題のまとめ	演習
29	自由課題 ③ 課外学習	事前：課題の準備 事後：なし	演習
30	後期のまとめ	事前：なし 事後：なし	講義と演習
教本： 資料を配布するので、テキストは指定しません。		参考文献： 適宜、指示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（70%）等で総合評価します。			
学生へのアドバイス： 文字だけで判断するのではなく、行間を読み、歴史の本質を理解するよう心がけてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石崎 忠司								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「伸びる会社とつぶれる会社」を研究テーマにして、会社経営の良否を判断する手法を研究する。									
授業目標： 少なくとも、就職活動において会社の選択ができるようにする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	演習の進め方の説明					事前：なし 事後：なし		講義	
2・3	会社に対する関心の持ち方					事前：なし 事後：なし		講義	
4・5	関心のある会社のピックアップ					事前：あり 事後：なし		演習	
6・7	論文作成の前提となる分析方法の研究					事前：なし 事後：なし		講義	
8～28	論文作成の前提となる分析方法の研究					事前：あり 事後：あり		演習	
29～30	論文作成のための準備					事前：なし 事後：なし		なし	
教本： 授業の折に相談					参考文献： 授業の折に相談				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、プレゼンテーション（50%）、レポート（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 情熱をもって主体的に活動すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋 春男								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>演習 I では、金融政策の基礎理論を学習し、日本銀行の金融政策が実態経済に及ぼす影響を習得することを目的にしている。金政策論の骨組は、マクロ経済学と金融論の融合からなるために、本演習への自学自習による準備もマクロ経済学と金融論への飽くなき探求を心がける。金融問題に限らず、世界を取り巻く経済問題解決への情報と技術を履修者には提供したい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>演習 I では、ゼミ生の演習活動への積極的な取組が前提になる。毎週、1週間に自学自習する課題を出し、その課題に沿ってプレゼン、質疑応答、ノート整理、資料の分析を行っていく。ゼミ参加者は、毎日の新聞を精読し必要な記事は切り抜きスクラップノートを作成する。そうした学習の継続によって各自の研究テーマが自然とセレクトされていくものと期待する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	貨幣の役割					事前：なし 事後：関連事項の学習		講義と討論	
2	貨幣の機能					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義と討論	
3	貨幣の産業的流通					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義と討論	
4	貨幣の金融的流通					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義と討論	
5	民間銀行					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義と討論	
6	中央銀行					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義と討論	
7	3階建てモデル					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義と討論	
8	金融機関の相互連関					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義と討論	
9	金融機関のバランスシート					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義と討論	
10	マクロ経済での金融部門					事前：教本の予習 事後：関連事項の学習		講義と討論	
11	マネタリーベースの分析					事前：パワーポの作成 事後：関連事項の学習		プレゼンと討論	
12	マネーストックの分析					事前：パワーポの作成 事後：関連事項の学習		プレゼンと討論	
13	マネタリーベースとマネーストックの関係分析					事前：パワーポの作成 事後：関連事項の学習		プレゼンと討論	
14	現金預金比率と預金準備率の分析					事前：パワーポの作成 事後：関連事項の学習		プレゼンと討論	
15	通貨乗数分析					事前：パワーポの作成 事後：関連事項の学習		プレゼンと討論	

16	インターバンク市場	事前：教本の予習 事後：関連事項の学習	講義と討論
17	オープン市場	事前：教本の予習 事後：関連事項の学習	講義と討論
18	コールレート	事前：教本の予習 事後：関連事項の学習	講義と討論
19	コールレートと貸出金利	事前：教本の予習 事後：関連事項の学習	講義と討論
20	金利と金融政策	事前：教本の予習 事後：関連事項の学習	講義と討論
21	金利と投資	事前：教本の予習 事後：関連事項の学習	講義と討論
22	金利と為替レート	事前：教本の予習 事後：関連事項の学習	講義と討論
23	金利と消費	事前：教本の予習 事後：関連事項の学習	講義と討論
24	金利と国債	事前：教本の予習 事後：関連事項の学習	講義と討論
25	金融データの解析(1)	事前：パワーポの作成 事後：関連事項の学習	プレゼンと討論
26	金融データの解析(2)	事前：パワーポの作成 事後：関連事項の学習	プレゼンと討論
27	金融データの解析(3)	事前：パワーポの作成 事後：関連事項の学習	プレゼンと討論
28	金融データの解析(4)	事前：パワーポの作成 事後：関連事項の学習	プレゼンと討論
29	金融データの解析(5)	事前：パワーポの作成 事後：関連事項の学習	プレゼンと討論
30	総まとめと課題	事前：質問や意見の取り纏め 事後：なし	プレゼンと討論
教本： 石橋春男・関谷喜三郎訳『現代マクロエコノミックス』多賀出版、 ¥3,300		参考文献： 石橋春男・関谷喜三郎著『マクロ経済と金融』慶應義塾大学出版会、 ¥2,700	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（70%）、小テスト・レポート等（30%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 事前の準備学習と継続的な研究姿勢が求められる。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石橋 優子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>児童相談所や厚木市の通報先に向き、実態を把握する。特に、実母からの虐待が半数であること、就学前の子どもの虐待が半数を占めていること。このことから、厚木市子育て支援センターのボランティアや公園等の母親からのアンケートなどを行い、母親たちが自分の子どもに対して困っていることなどを聞き取りながら、養育困難事例の振り分けをする。この中から、学生に何が支援できるかを研究して行く。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども虐待とは何かを知る。 2. 子ども虐待の実態把握をする。 3. 実際の現場に行き、見学、研修をし、学生にできる支援について検討する。 4. 子育て支援センターや公園での母親の聞き取りに行き、困っている子育てについてアンケートで調査する。 5. アンケートで困っている事例の中から、養育困難事例（虐待傾向）の支援になることを検討する。 6. 学生ができる（一生の中で）子育て支援は何か？をまとめていく。 									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：演習の概要 事後：自己紹介		講義	
2・3	子ども虐待の定義とは？各自調べる。					事前：指定資料の予習 事後：各自調査		調査	
4	調べたことを発表する					事前：調査して発表 事後：他の人の発表を聞く		各自発表したことを記録	
5	子ども虐待の予防、発見等の基本的事項を理解する DVDを鑑賞し、理解する					事前：事前資料で予習 事後：DVDで理解する		DVD鑑賞	
6	DVDの鑑賞後をレポートにまとめ、検討発表する					事前：DVDで予習す 事後：討論発表する		討論と発表	
7・8	子ども虐待の実態把握 1. 新聞等からピックアップして検討し、疑問等探す					事前：新聞等の収集 事後：討論		収集と討論	
9・10	子ども虐待の実態把握 2. 新聞等からピックアップして検討し、疑問等を探す					事前：新聞等の収集 事後：討論		収集と討論	
11・12	子ども虐待の実態把握 3. 児童相談所に行き、虐待の実態の把握と学生ができる支援について見学と研修に行く					事前：指定資料での予習 事後：見学、研修		見学、研修	
13・14	子ども虐待の実態把握 4. 児童相談所の把握を皆で発表し、学生にできる支援について検討する（アンケートの検討）					事前：児童相談所の予習 事後：検討、発表		検討、発表	
15・16	子ども虐待の実態把握 5. 厚木市の虐待の通報先に行き、虐待の実態の把握と学生ができる支援について研修に行く					事前：厚木市の通報先の予習 事後：見学、研修		見学、研修	
17・18	子ども虐待の実態把握 6. 厚木市の虐待の把握を皆で発表し、学生にできる支援について検討する（アンケートの検討）					事前：厚木市の通報先の予習 事後：検討、発表		検討、発表	
19・20	子育て支援センターでの最近の母親の状況についての研修 1. ボランティアをする（子育てで困ることなどのアンケート用紙を配布）					事前：厚木市子育て支援予習 事後：厚木市子育て支援復習		ボランティア	
21・22	子育て支援センターでの最近の母親の状況についての研修 2. ボランティアをする（子育てで困ることなどのアンケート用紙を回収）					事前：厚木市子育て支援予習 事後：厚木市子育て支援復習		ボランティア	

23・24	公園等での母親からの聞き取りに行く	事前：聞き取りの予習 事後：聞き取りの復習	聞き取り調査
25・26	子育て支援センターや公園での母親の困り感をまとめる	事前：聞き取り等の回収 事後：聞き取り等のまとめ	聞き取り調査
27・28	学生ができる養育困難の状況を作らないための支援を検討	事前：親への支援検討 事後：親への支援検討	支援検討
29・30	まとめと発表	事前：まとめと発表 事後：なし	まとめ
教本： その都度資料を提供		参考文献： 保育所保育指針 厚生労働省編 フレーベル館	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート・発表等（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 視察や調査したことをその都度レポートで提出してもらおう。授業に参加しないと書けないことが多いので注意してほしい。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 重行								
履 修 条 件	前提科目	特にない。							
	そ の 他	特にない。							
<p>授業概要： アジア太平洋とはどこの地域なのかを学習し、日本との関係についても学ぶ。またアジア太平洋の発展はどのような指導者によってなされてきたかを知る。</p>									
<p>授業目標： アジア太平洋の諸国と指導者を知るがテーマである。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1～30	教本を読み、報告する。					事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。		演習	
教本： 演習開始時に決定する。					参考文献： 演習開始時に決定する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（50%）、発表（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 欠席をしないこと。4年次には論文を書く事を希望する。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	後田 紀子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>子どもの成長していく中で“遊び”はとても重要である。ただ単に遊びといっても道具を使うのか、使わないのか、自然物とどのように関わるか等、環境との関わり方はとても幅が広い。そして子どもの年齢によっても遊び方や環境との関わり方は大きく違う。このゼミでは、子どもの発達に合った遊びやおもちゃを製作、実践を通して子どもの成長や遊びを考えていくことを目的とする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>自分でオリジナルの作品や遊びを考えることを行う。そのために子どもの発達を十分理解することに合わせ、おもちゃや遊びの意義を探り、それを基に制作した遊びを実際に子どもに試してもらい、評価・改善を繰り返し行っていく。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（ゼミの進め方）					事前：シラバスの確認 事後：授業のまとめを行う		講義	
2	研究内容を明確にする					事前：研究内容を調べてくる 事後：授業のまとめを行う		講義+演習	
3	研究内容の行程表を作成する					事前：研究の流れを考える 事後：授業のまとめを行う		講義+演習	
4～14	先行研究を調べる（園見学を含む）					事前：研究論文を読んでまとめる 事後：次回の目標を立てる		講義+演習	
15	進捗状況を発表					事前：レジュメの作成 事後：授業のまとめを行う		講義+演習	
16	オリエンテーション					事前：制作の準備 事後：授業のまとめ		講義	
17～22	遊びの制作にとりかかる					事前：理論と遊びの融合を把握する 事後：授業のまとめ		講義+演習	
23	実践園への依頼					事前：依頼園を探す 事後：授業のまとめを行う		講義	
24	遊びの実践を行う（観察）					事前：訪問準備を行う 事後：状況報告をする		講義	
25	遊びの実践を行う（実践）					事前：訪問準備を行う 事後：状況報告をする		講義	
26	遊びの実践を行う（評価・考察）					事前：訪問準備を行う 事後：状況報告をする		講義	
27	実践例のまとめ					事前：資料をまとめる 事後：授業のまとめを行う		講義	
28	実践例のまとめ（評価）					事前：資料をまとめる 事後：授業のまとめを行う		講義	
29	実践例のまとめ（考察）					事前：資料をまとめる 事後：授業のまとめを行う		講義	
30	発表					事前：資料をまとめる 事後：授業のまとめを行う		講義	
教本：					参考文献：				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、レポート等（50%）、等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>目的意識を持ち、自ら積極的に参加することを希望する。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>観光産業は、政治、経済、産業、歴史、文化など広範囲の知識を必要とする一方、自分の専門分野を持つことが要求されるので、基本的な知識を身に付けた上で、自分の研究テーマを決め、研究し、プレゼンする能力を身につける。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 得意分野をプレゼンできる</p> <p>2. 政治・経済・文化・産業に関心を持つようになる。</p> <p>3. 課題をみつけ、解決することができる</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2～6	政治、経済研究					事前：時事問題研究 事後：時事問題理解		講義	
7～15	プレゼンテーションとディスカッション					事前：専門分野研究 事後：専門分野理解		演習	
16～24	企業、産業、研究					事前：時事問題研究 事後：時事問題理解		講義	
25～30	プレゼンテーションとディスカッション					事前：専門分野研究 事後：専門分野理解		演習	
<p>教本： 適宜プリントを配布する。</p>					<p>参考文献： 高橋秀夫著「クラブツーリズムの秘密」毎日新聞社 ¥1,800+税</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（80%）レポート等（20%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 社会の動きを自分で考え、議論できるようになろう。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大沢 裕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>演習 I では、卒業論文につながるような基礎知識やスキルの獲得をめざす。各自の興味・関心に沿った論文を読み、ディスカッションを取り入れながら授業を展開する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>次年度の卒業論文作成に向け、計画を立て、論文作成の基礎能力を育成し、情報収集活動のノウハウを身につけさせる。研究テーマを見つけさせる。この科目は、4次世代育成支援等において地域コミュニティづくりに指導的役割が発揮できる人材を養成する科目である。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	文章読解Ⅰ－(短文を読む)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		講義	
3	文章読解Ⅱ－(新聞を読む)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習	
4	文章読解Ⅲ－(報告書を読む)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習	
5	文章読解Ⅳ－(小論文を読む)					事前：なし 事後：学んだことの整理		演習	
6	卒論テーマ検討Ⅰ－(興味・関心をもとに)					事前：自分の興味の整理 事後：学んだことを文書でまとめる		演習	
7	卒論テーマ検討Ⅱ－(グループディスカッションを通じて)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの文書化		演習	
8	プレゼンテーションⅠ－(自己表現とは)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習	
9	プレゼンテーションⅡ－(表現の種類)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習	
10	プレゼンテーションⅢ－(論理的展開)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習	
11	文章の書き方Ⅰ－(日本語の特徴)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習	
12	文章の書き方Ⅱ－(論文の作法)					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習	
13	プレゼンテーションⅣ－(論理と感情の視点から)					事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省		演習	
14	プレゼンテーションⅤ－(説得力ある表現)					事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省		演習	
15	前期まとめ					事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理		演習	

16	夏休みの報告	事前：前回のまとめ 事後：	演習
17	文章読解Ⅴ－(子どもに関する書籍を読む)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習
18	文章読解Ⅵ－(保育に関する書籍を読む)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習
19	文章読解Ⅶ－(子どもに関する学術論文を読む)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習
20	文章読解Ⅷ－(保育に関する学術論文を読む)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習
21	卒論テーマ検討Ⅲ－(図書館を利用して)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことを文書でまとめる	演習
22	卒論テーマ検討Ⅳ－(ネット環境の情報から)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの文書化	演習
23	プレゼンテーションⅣ－(PCソフトの使い方)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習
24	プレゼンテーションⅤ－(自分の主張をデータにまとめるためには)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習
25	プレゼンテーションⅥ－(表現技法)	事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省	演習
26	文章の書き方Ⅲ－(文章の基本構成)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習
27	文章の書き方Ⅳ－(洗練された文章の表現)	事前：前回のまとめ 事後：学んだことの整理	演習
28	プレゼンテーションⅦ－(いかにして他者を説得できるか)	事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省	演習
29	プレゼンテーションⅧ－(自己表現の仕方を振り返る)	事前：前回のまとめ 事後：プレゼンの反省	演習
30	まとめ	事前：前回のまとめ 事後：今後の課題の整理	演習
教本： プリントを用意する。		参考文献： 授業時に適宜、指示する。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等(50%)、小テスト・レポート等(50%)等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 絶えず、子ども・保育・教育の時事的問題に関心を持ち、新聞記事を読んだり、インターネットで調べてみたりする習慣を身につけること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岡 猛夫								
履 修 条 件	前提科目	経済学、会計学、証券論、金融論を履修していることが望ましい。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>企業が、生産・販売計画を立て、投資行動を決定する際に、その投資に必要な資金調達をどのように行い、生産・販売、投資を通して得た利益をどのように配当と内部留保に分けるか、利益還元・配当政策までの一連のサイクルについて学習する。</p> <p>同時に、このサイクルのステージごとにそれぞれ関係するファイナンス理論（ポートフォリオ理論、配当政策、デリバティブほか）について研究を進める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>企業は、経営の効率性を高めながら、収益性と企業価値の向上を目指している。こうした企業の活動を、資金の流れという視点からとらえる企業ファイナンスについて研究する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	企業ファイナンスの概念					事前：なし 事後：なし		演習	
2	企業活動と資金の流れ					事前：なし 事後：なし		演習	
3	企業の資金調達方法の変化					事前：なし 事後：なし		演習	
4	資本コストの概念					事前：なし 事後：なし		演習	
5	資本コストと資金調達					事前：なし 事後：なし		演習	
6	リスクとリターン					事前：なし 事後：なし		演習	
7	期待収益率、リスクプレミアム					事前：なし 事後：なし		演習	
8	企業のリスクとリターン					事前：なし 事後：なし		演習	
9	資本コストの推計					事前：なし 事後：なし		演習	
10	株式のベータ、CAPM					事前：なし 事後：なし		演習	
11	総資本コスト、キャッシュフローと現在価値					事前：なし 事後：なし		演習	
12・13	企業価値とキャッシュフロー、DCF 法、割引率					事前：なし 事後：なし		演習	
14～16	企業の投資行動の決定、NPV 法、資本コストと NPV					事前：なし 事後：なし		演習	
17・18	内部収益率 (IRR)、NPV と IRR					事前：なし 事後：なし		演習	
19・20	リアル・オプション、リアル・オプションと投資決定					事前：なし 事後：なし		演習	

21~23	企業の資金調達、投資決定と資金調達、資金調達の的方法	事前：なし 事後：なし	演習
24・25	ポートフォリオ理論	事前：なし 事後：なし	演習
26~28	デリバティブ 先物、オプション、スワップ	事前：なし 事後：なし	演習
29~30	企業の利益還元、配当政策、配当政策と投資決定、配当政策の動向	事前：なし 事後：なし	演習
教本： 追って案内する。		参考文献： 追って案内する。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 レポート等（50%）、平常点（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 資金の流れという観点から、企業活動を研究することで、企業への理解が一層深まるものと思います。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>組織文化の視点からリーダーシップにアプローチし、様々なこれまでのリーダーシップ論を理解したうえで、特にサーバントリーダーシップ論を中心に学習していきます。この場合、組織を広く考えようと思います。すなわち、組織として、企業のみならず目的を持った人間の集まりのすべてを含み、さらには単体組織を越えてネットワーク化された組織も対象にします。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>卒業論文研究の基礎づくり。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	演習の概要について説明および質疑・応答					事前：シラバス 事後：ノート		演習	
2	読書計画の提示					事前：適宜授業にて指示 事後：適宜授業にて指示		演習	
3～30	文献研究——報告と討議					事前：適宜授業にて指示 事後：適宜授業にて指示		演習	
<p>教本：</p> <p>授業にて指示します。</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜授業にて指示します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。</p> <p>授業内容への参加状況等（60%）、小テスト・レポート等（40%）等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>出席率100%を求めます。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小野 和								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>演習 I では、卒業論文につながるような基礎知識やスキルの獲得をめざす。各自の興味・関心に沿った論文を読み、ディスカッションを取り入れながら授業を展開する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>演習 I では、卒業論文につながるような基礎知識やスキルの獲得をめざす。各自の興味・関心に沿った論文を読み、ディスカッションを取り入れながら授業を展開する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布資料を読む		演習	
2	文章読解 I					事前：配布資料を読む 事後：授業の内容を整理する		演習	
3	文章読解 II					事前：配布資料を読む 事後：授業の内容を整理する		演習	
4	文章読解 III					事前：配布資料を読む 事後：授業の内容を整理する		演習	
5	文章読解 IV					事前：配布資料を読む 事後：授業の内容を整理する		演習	
6	卒論テーマ検討 I					事前：各自テーマをまとめる 事後：授業の内容を整理する		演習	
7	卒論テーマ検討 II					事前：各自テーマをまとめる 事後：授業の内容を整理する		演習	
8	プレゼンテーション I					事前：プレゼン資料を作成 事後：授業の内容を整理する		演習	
9	プレゼンテーション II					事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる		演習	
10	プレゼンテーション III					事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる		演習	
11	文章の書き方 I					事前：配布資料を読む 事後：授業の内容を整理する		演習	
12	文章の書き方 II					事前：配布資料を読む 事後：授業の内容を整理する		演習	
13	プレゼンテーション IV					事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる		演習	
14	プレゼンテーション V					事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる		演習	
15	前期まとめ					事前：プレゼン資料を作成 事後：夏休みの課題をする		演習	

16	夏休みの報告	事前：課題の確認をする 事後：配布資料を読む	演習
17	文章読解Ⅴ	事前：配布資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習
18	文章読解Ⅵ	事前：配布資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習
19	文章読解Ⅶ	事前：配布資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習
20	文章読解Ⅷ	事前：配布資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習
21	卒論テーマ検討Ⅲ	事前：各自テーマをまとめる 事後：授業の内容を整理する	演習
22	卒論テーマ検討Ⅳ	事前：各自テーマをまとめる 事後：授業の内容を整理する	演習
23	プレゼンテーションⅣ	事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる	演習
24	プレゼンテーションⅤ	事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる	演習
25	プレゼンテーションⅥ	事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる	演習
26	文章の書き方Ⅲ	事前：配布資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習
27	文章の書き方Ⅳ	事前：配布資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習
28	プレゼンテーションⅦ	事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる	演習
29	プレゼンテーションⅧ	事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる	演習
30	まとめ	事前：配布資料を読む 事後：なし	演習
教本： プリントを用意する。		参考文献： 授業中、適宜指示する。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 到達目標が達成できたかを評価する。授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 主体的に楽しく取り組み成長することを期待する。個人で使用する材料・用具は授業の中で説明・指示するので、各自で準備すること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅰ (SeminarⅠ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記Ⅰ・Ⅱ、管理会計							
	その他	なし							
授業概要： 今年度は、前期に簿記・原価計算、後期に管理会計の考え方や経営管理者の役割について考察する。併せて、レポートの書き方を指導する。									
授業目標： 管理会計の研究 管理会計の基礎にある原価計算を今年度は理解し、併せて、管理会計の考え方を考察する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	会計全般の理解度確認1					事前：なし 事後：なし		演習	
2	会計全般の理解度確認2					事前：指定科目の予習 事後：なし		演習	
3	会計全般の理解度確認3					事前：指定科目の予習 事後：なし		演習	
4	会計全般の理解度確認4					事前：指定科目の予習 事後：なし		演習	
5	年間スケジュールの作成					事前：なし 事後：なし		演習	
6	論文の書き方1					事前：論文の作成法概略 事後：なし		演習	
7	論文の書き方2					事前：論文の作成法概略 事後：なし		演習	
8	経営管理と会計1					事前：管理会計の予習 事後：同復習		演習	
9	経営管理と会計2					事前：管理会計の予習 事後：同復習		演習	
10	経営管理と会計3					事前：管理会計の予習 事後：同復習		演習	
11	経営管理と会計4					事前：管理会計の予習 事後：同復習		演習	
12	経営管理と会計5					事前：管理会計の予習 事後：同復習		演習	
13	経営管理と会計6					事前：管理会計の予習 事後：同復習		演習	
14	経営管理と会計7					事前：管理会計の予習 事後：同復習		演習	
15	経営管理と会計8					事前：管理会計の予習 事後：同復習		演習	

16	経営管理と会計9	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
17	経営管理と会計10	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
18	経営管理と会計11	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
19	経営管理と会計12	事前：管理会計の予習 事後：同復習	演習
20	レポート作成1	事前：課題発見と調査 事後：資料収集とまとめ	演習
21	レポート作成2	事前：課題発見と調査 事後：資料収集とまとめ	演習
22	各自の課題を発見することの指導1	事前：課題発見 事後：資料収集	演習
23	各自の課題を発見することの指導2	事前：課題発見 事後：資料収集	演習
24	各自の課題を発見することの指導3	事前：課題発見 事後：資料収集	演習
25	論文作成の指導1	事前：収集資料のまとめ1 事後：収集資料のまとめ1	演習
26	論文作成の指導2	事前：収集資料のまとめ2 事後：収集資料のまとめ2	演習
27	論文作成の指導3	事前：収集資料のまとめ3 事後：収集資料のまとめ3	演習
28	論文作成の指導4	事前：収集資料のまとめ4 事後：収集資料のまとめ4	演習
29	論文作成の指導5	事前：収集資料のまとめ5 事後：収集資料のまとめ5	演習
30	論文作成の指導6	事前：収集資料のまとめ6 事後：収集資料のまとめ6	演習
教本： 適宜指示する。		参考文献： なし	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 夏休みの合宿でまとめを発表してもらう。また、適宜、レポートを要求して総合評価を行う。			
学生へのアドバイス： 学ぶことと考えることの習慣をつけたい。実際の企業等の見学などを考慮し、楽しく学ぶことを考えている。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学関連科目を修得していること。							
	その他	なし							
授業概要： 文化人類学の視点から、身近な現象や実践について考えます。(例：医療、開発、ビジネス領域)。毎回、ゼミ生の関心に基づいた文献または論文を読み、議論を交わしながら、理解を深めていきます。レジュメ（要約）はゼミ生が交替で担当して作成します。									
授業目標： 1. あるプロジェクトや実務などに関して、文化人類学の視点から取り組み、具体的な問題、解決策を見出すことができる。 2. 自分の関心領域を絞っていき、プレ卒論（またはレポート）を書く。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：シラバス確認 事後：		演習	
2～4	レジュメ発表、ディスカッション					事前：文献購読 事後：		演習	
5～7	方法論、実践					事前： 事後：配付資料		演習	
8～11	レジュメ発表、ディスカッション					事前：文献購読 事後：		演習	
12～14	ライティング					事前： 事後：配付資料		演習	
15	小まとめ					事前： 事後：配付資料		演習	
16	前期振り返りと後期ガイダンス					事前：前期演習復習 事後：配付資料		演習	
17～19	レジュメ発表、ディスカッション					事前：文献購読 事後：		演習	
20・21	方法論、実践					事前： 事後：配付資料		演習	
22	事例紹介					事前： 事後：		演習	
23～25	レジュメ発表、ディスカッション					事前：文献購読 事後：		演習	
26・27	ライティング					事前： 事後：配付資料		演習	
28・29	レポート発表、質疑応答					事前：レポート作成 事後：		演習	
30	まとめ					事前：配付資料・ノート確認 事後：配付資料		演習	
教本： なし					参考文献： 履修者の関心にそったものを適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 演習参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 〈聞く、読む、考える、書く、伝える、質問する〉力を養ってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	岸 康 人								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本演習では、スマートライフを支える最先端のコンピュータ技術について、知見を深め、研究へと繋がります。									
授業目標： 1. コンピュータ・ネットワークの技術的な仕組みについて、プログラミングを通して理解する。 2. スマートライフを支えるコンピュータ技術について、事例を通して、実践的に理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、スマートライフとは？					事前：なし 事後：資料の読解		講義・演習	
2	プログラミング言語の役割と分類					事前：資料の読解 事後：PC環境の構築		講義・演習	
3	プログラミング復習：変数とメモリ、制御構造					事前：資料の読解 事後：課題の作成		演習	
4	プログラミング復習：文字列、関数					事前：資料の読解 事後：課題の作成		演習	
5	プログラミング復習：配列					事前：資料の読解 事後：課題の作成		演習	
6	プログラミング復習：オブジェクト指向					事前：資料の読解 事後：課題の作成		演習	
7	プログラミング復習：ネットワーク					事前：資料の読解 事後：課題の作成		演習	
8	数値演算に関する諸問題					事前：資料の読解 事後：課題の作成		講義・演習	
9	数学ライブラリの利用					事前：資料の読解 事後：課題の作成		講義・演習	
10	データの可視化					事前：資料の読解 事後：課題の作成		講義・演習	
11	最急降下法					事前：資料の読解 事後：課題の作成		講義・演習	
12	ニューラルネット					事前：資料の読解 事後：課題の作成		講義・演習	
13	パターン認識					事前：資料の読解 事後：課題の作成		講義・演習	
14	自然言語処理					事前：資料の読解 事後：課題の作成		講義・演習	
15	まとめと課題制作					事前：制作の計画 事後：プログラミング		講義・演習	

16	課題発表と指針	事前：資料の作成 事後：指摘箇所の修正	講義・演習
17	自動走行 (1)：自動車社会の歴史と問題	事前：資料の読解 事後：事例検索	演習
18	自動走行 (2)：センサー技術と判定	事前：資料の読解 事後：事例検索	演習
19	自動走行 (3)：モビリティと最適化	事前：資料の読解 事後：事例検索	演習
20	バイオ (1)：遺伝子とコンピュータ	事前：資料の読解 事後：事例検索	演習
21	バイオ (2)：創薬	事前：資料の読解 事後：事例検索	演習
22	ロボティクス (1)：自動化の歴史	事前：資料の読解 事後：事例検索	演習
23	ロボティクス (2)：IoT とデータ通信	事前：資料の読解 事後：事例検索	演習
24	ロボティクス (3)：設計	事前：資料の読解 事後：事例検索	演習
25	半導体とスーパーコンピュータ	事前：資料の読解 事後：事例検索	演習
26	量子コンピュータ	事前：資料の読解 事後：事例検索	演習
27	オープンデータの問題	事前：資料の読解 事後：事例検索	演習
28	論文検索と調査	事前：研究計画の作成 事後：分析	演習
29	研究発表	事前：資料作成 事後：問題点の整理	演習
30	まとめとディスカッション	事前：新たな課題の設定 事後：研究	演習
教本： (授業内で指示)		参考文献： (授業内で指示)	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業への貢献等 (50%)、小テスト・レポート (50%) 等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 毎回課題点を明らかにして授業に臨んで下さい。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本演習では、情報セキュリティ、および情報教育支援ソフトを支えるコンピュータ技術について、知見を深め、研究へと繋げる。									
授業目標： 1. 情報セキュリティ（暗号・認証・セキュリティ）を支えるコンピュータ技術について、事例を通して、実践的に理解する。 2. 二次元コード、及び情報教育支援ソフトの利用方法、応用ソフトの作成、比較評価などの研究を行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、情報セキュリティ（暗号・認証・セキュリティ）とは？					事前：なし 事後：資料の読解		講義	
2	情報セキュリティ（暗号・認証・セキュリティ）の基礎					事前：なし 事後：概念整理		講義	
3	二次元コードの基礎					事前：なし 事後：概念整理		講義	
4	情報教育支援の基礎					事前：なし 事後：概念整理		講義	
5	役割分担、各テーマの共有					事前：テーマ選定 事後：テーマ選定		演習	
6	資料収集の方法、レジュメ作成の方法					事前：テーマ選定 事後：テーマ選定		講義	
7～13	担当者の報告、質疑応答 ～発表・質疑応答・討論～					事前：報告準備（レジュメ） 事後：改善		演習	
14	各自の中間報告					事前：準備 事後：改善		演習	
15	各自の中間報告					事前：準備 事後：改善		演習	
16～26	担当者の報告、質疑応答 ～発表・質疑応答・討論～					事前：報告準備（レジュメ） 事後：改善		演習	
27	各自の中間報告					事前：準備 事後：改善		演習	
28	各自の中間報告					事前：準備 事後：改善		演習	
29	研究発表					事前：資料作成 事後：問題点の整理		演習	
30	まとめとディスカッション					事前：新たな課題の設定 事後：研究		演習	
教本： （授業内で指示）					参考文献： （授業内で指示）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 〈聞く、読む、考える、書く、伝える、質問する〉力を養ってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅰ (SeminarⅠ)						科目分類	専門科目	
担当教員	桑原 常明								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 演習では、簿記資格取得を目標として、各学生の能力に応じて演習問題を中心に進めていく。									
授業目標： 日商簿記検定や全経簿記検定における資格取得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1～30	簿記資格に関する講義および演習					事前：なし 事後：なし		講義・演習	
教本： 最初の時に指示する。					参考文献： 適宜、指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（100%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 欠席をしないこと、予習・復習を行うこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>地域での実践活動を踏まえて、各種観光研究・計画・調査において不可欠な「歩く（現場を知る）」、「読む（資料を読み込む）」、「創造する（アイデアを発想する）」、「書く（表現する）」、そして「まとめる（報告する）」ことの技術習得を徹底的に行う。</p> <p>その研究方法は、特定の地域でのボランティア活動や様々な地域との関わり等の中での実践活動を踏まえて行う。また、通常授業に加え研究作業としての課題の実施が不可欠となる。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 観光による地域振興における実践的能力の育成。</p> <p>2. 提案・まとめ・発表能力の育成。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	卒論等年間テーマ・スケジュール案の検討					事前：事後：年間テーマの検討		実習	
2	産学チャレンジプログラム等公募事業への参加（逐次）					事前：年間テーマの検討 事後：公募体制の調整		実習	
3	年間テーマ・スケジュールの決定					事前：年間テーマの検討 事後：スケジュールの調整		実習	
4	個別テーマ研究の実施（資料収集・現地調査等）					事前：資料収集 事後：まとめ		実習	
5	個別テーマ研究の実施（資料収集・現地調査等）					事前：資料収集 事後：まとめ		実習	
6	個別テーマ研究の実施（資料収集・現地調査等）					事前：資料収集 事後：まとめ		実習	
7	個別テーマ研究の実施（資料収集・現地調査等）					事前：資料収集 事後：まとめ		実習	
8	進捗状況発表会					事前：資料収集 事後：まとめ		実習	
9	個別テーマ研究の実施（資料収集・現地調査等）					事前：資料収集 事後：まとめ		実習	
10	個別テーマ研究の実施（資料収集・現地調査等）					事前：資料収集 事後：まとめ		実習	
11	地域活動の実施（現地実習）					事前：資料収集 事後：まとめ		実習	
12	個別テーマ研究の実施（資料収集・現地調査等）					事前：資料収集 事後：まとめ		実習	
13	進捗状況発表会					事前：資料収集 事後：総括まとめ案の作成		実習	
14	個別テーマ研究の実施（まとめ作業）					事前：発表準備 事後：内容調整		実習	
15	個別テーマ発表会					事前：発表準備 事後：提出		実習	
教本： なし。					参考文献： テーマに応じて指示。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（50%）、地域活動（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>研究心をもって自主的に勉強する意欲を持つこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	作間 祐子								
履 修 条 件	前提科目	発達と養育・発達と学習の心理を受講していることが望ましい							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>子どもの心の発達にかかわるものについて様々なことが考えられる。まずは様々な文献などの情報を求め読み込むことや、現場の様子などを観察することによってそれぞれの関心の向かうところを求める。それぞれの求める方向に向かって更に詳しく情報を集め、自身の研究課題について検討できるようにする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>人の成り立ち・心の発達にかかわることについて漠然とイメージしていたことから、実際の研究や、実態を調べることによってより明確なものとし、自身の研究課題が見えてくることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	本演習の方向性の紹介と、構成員自己紹介					事前： 事後：今回の情報整理		講義・話し合い	
2	構成員のイメージしていたことの紹介と、その意味付け					事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理		話し合い	
3	海図づくりの準備					事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理		演習	
4	海図づくり					事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理		演習	
5	各々の海図の発表					事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理		演習	
6	文献その他の情報探索					事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理		演習	
7	文献その他の情報探索					事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理		演習	
8	文献その他の情報探索					事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理		演習	
9	文献その他の情報探索					事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理		演習	
10	文献その他の情報探索					事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理		演習	
11	文献その他の情報探索					事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理		演習	
12	文献その他の情報探索					事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理		演習	
13	文献その他の情報探索					事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理		演習	
14	現場観察学習					事前： 事後：今回の情報整理			
15	現場観察学習					事前： 事後：今回の情報整理			

16	現場観察学習	事前： 事後：今回の情報整理	
17	学習したことの整理	事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理	演習
18	学習したことの整理	事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理	演習
19	社会の中の情報探索し、話し合う	事前：調査 事後：今回の情報整理	演習
20	社会の中の情報探索し、話し合う	事前：調査 事後：今回の情報整理	演習
21	社会の中の情報探索し、話し合う	事前：調査 事後：今回の情報整理	演習
22	各人の情報整理	事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理	演習
23	各人の情報整理	事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理	演習
24	各人の情報整理	事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理	演習
25	各人の情報整理	事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理	演習
26	各人の情報整理	事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理	演習
27	各人の情報整理	事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理	演習
28	整理したことの発表	事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理	演習
29	整理したことの発表	事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理	演習
30	整理したことの発表	事前：自身の考えの整理 事後：今回の情報整理	演習
教本： 特に定めず、その都度提供。		参考文献： その都度提供。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（60%）、小テスト・レポート等（40%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 自分自身の今後の人生に役立つ内容で研究検討ができることが望ましいので、積極的に面白がって臨んでほしい。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	澤田 利彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： インバウンド観光と観光マーケティングのケーススタディ中心のゼミです。研究対象の事例の選択については学生の希望を可能な限り尊重しますが、通常の授業と違い学生が下調べを行い、発表し、全員で討議し、まとめる、というスタイルを取ります。なお、観光の分野においても外国語によるコミュニケーション能力が欠かせない時代になってきているので、英語勉強法についてもゼミでカバーしていきます。									
授業目標： インバウンド観光と観光マーケティングのケーススタディを通じて、学生自らが「調べる」、「発表する」、「質問に答える」と「質問する」、「代案を出す」などを体験することにより、観光分野における諸々の課題への関心と意欲を高め、思考力、判断力をアップさせることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（自己紹介）					事前：なし 事後：なし		演習	
2	テーマ選択					事前：なし 事後：なし		演習	
3	ケーススタディ・テーマの調査方法、まとめ方、発表方法					事前：なし 事後：なし		演習	
4	教員によるケーススタディ・テーマの発表（サンプルとして）					事前：なし 事後：なし		演習	
5～7	英語勉強法					事前：なし 事後：復習		演習	
8～14	学生による発表					事前：調査、レポート作成 事後：レポート修正		演習	
15	前期のまとめと後期の進め方について					事前：なし 事後：なし		演習	
16～17	夏季休暇中の各自の体験の発表					事前：なし 事後：なし		演習	
18～29	学生による発表					事前：調査、レポート作成 事後：レポート修正		演習	
30	年間のまとめと演習Ⅱの進め方について					事前：なし 事後：なし		演習	
教本：なし。ただし、研究室の図書は全て貸し出し可。 参考文献：ネット媒体も含めテーマ毎にサジェストします。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況、積極度等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日本の教育は残念ながら教師からの一方通行の授業に陥りがちです。演習ゼミは学生の方からこれを打ち破る絶好のチャンスです。ゼミでは、構えず、ドンドン発言し、周りからストップがかかるぐらいを目指しましょう。大学でのゼミ仲間は生涯の友に最もないりやすい存在です。“仲間内”のゼミこそ、引っ込み思案克服の絶好の場。グループ面接なんて怖くなくなりますよ。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅰ (SeminarⅠ)						科目分類	専門科目	
担当教員	渋谷 武夫								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 前半：複式簿記の基本原則を理解したうえで、計算練習により理解を深める。 後半：中級簿記（今年度は工業簿記に重点を置く）の主要項目の処理方法を習得する。									
授業目標： 複式簿記の基本原則を理解したうえで、中級簿記（商業簿記および工業簿記）を学び、簿記検定試験（2級・3級）合格を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記の基本概念					事前：なし 事後：なし		演習	
2・3	仕訳と転記					事前：なし 事後：勘定		演習	
4	現金・預金					事前：現金とは 事後：小切手		演習	
5	有価証券					事前：なし 事後：売却損益		演習	
6	約束手形					事前：約束手形とは 事後：裏書・割引		演習	
7	商品売買					事前：なし 事後：三分法・分記法		演習	
8	売掛債権の貸倒れ					事前：貸倒れとは 事後：差額補充法		演習	
9	その他の債権・債務					事前：なし 事後：仮勘定		演習	
10	固定資産と減価償却					事前：固定資産とは 事後：定額法		演習	
11	経過勘定					事前：なし 事後：経過勘定		演習	
12・13	決算					事前：決算とは 事後：英米式決算法		演習	
14	8桁精算表					事前：6桁精算表 事後：8桁精算表		演習	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		演習	
16	工業簿記の体系					事前：なし 事後：仕掛品勘定		演習	
17	費目別計算					事前：なし 事後：材料費・労務費・経費		演習	

18・19	製造間接費の配賦	事前：製造間接費とは 事後：配賦基準	演習
20・21	部門別計算	事前：原価部門とは 事後：補助部門費の配賦	演習
22～24	総合原価計算	事前：なし 事後：仕掛品の評価	演習
25～27	標準原価計算	事前：なし 事後：差異分析	演習
28・29	損益分岐分析	事前：変動費・固定費とは 事後：損益分岐点	演習
30	まとめ	事前：なし 事後：なし	演習
教本： 初回講義日に伝える。		参考文献： 初回講義日に伝える。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（80%）、小テスト・レポート（20%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 電卓を用意すること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	清水 健太								
履 修 条 件	前提科目	経営学総論の単位を取得していること、外部のプレゼン大会に出場すること							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>経営学の諸問題の中から、各学生の興味・関心のある内容について学習し、最終的には研究成果を外部の研究発表大会にて発表することを目的とする。また、上記の目標を達成した内容をベースに演習 II における卒業論文を執筆する基礎力を見につけることも目的とする。</p>									
<p>授業目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営学の興味・関心のある領域に関する幅広い知識を身につける。 経営学の学習を通して、プレゼン方法、情報収集能力、コミュニケーション能力といった就職活動で求められる内容についての能力を養う。 卒業論文の研究テーマを決める。 									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	環境変化と多角化経営					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義	
3	事業変革と革新					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義	
4	外部環境への適応と新事業創造					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義	
5	ミッションとビジョン					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義	
6	事業領域とコアコンピタンス経営					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義	
7	課題図書 ① 要約の作成					事前：なし 事後：講義内容の確認		グループワーク	
8	課題図書 ② パワーポイント資料の作成					事前：なし 事後：講義内容の確認		グループワーク	
9	課題図書 ③ プレゼンテーションの方法					事前：なし 事後：講義内容の確認		グループワーク	
10	論理的思考や経営学における考え方					事前：なし 事後：講義内容の確認		グループワーク	
11	グループ発表 ①					事前：なし 事後：プレゼン大会への準備		グループワーク	
12	グループ発表 ②					事前：なし 事後：プレゼン大会への準備		グループワーク	
13	グループ発表 ③					事前：なし 事後：プレゼン大会への準備		グループワーク	
14	PPM分析					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義	
15	金のなる木の衰退と事業の撤退					事前：なし 事後：講義内容の確認		講義	

16	問題児の育成とコーポレート・ベンチャリング ①	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義
17	問題児の育成とコーポレート・ベンチャリング ②	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義
18	オープン・イノベーションと大企業の新事業創造	事前：なし 事後：講義内容の確認	講義
19	企業の資料収集方法	事前：なし 事後：情報収集方法の確認	講義
20	グループ発表 ④	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク
21	グループ発表 ⑤	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク
22	グループ発表 ⑥	事前：なし 事後：プレゼン大会への準備	グループワーク
23	プレゼン大会への準備 ①	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク
24	プレゼン大会への準備 ②	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク
25	プレゼン大会への準備 ③	事前：なし 事後：発表の最終確認	グループワーク
26	卒業論文研究テーマの発表 ①	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク
27	卒業論文研究テーマの発表 ②	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク
28	卒業論文研究テーマの発表 ③	事前：なし 事後：テーマの確認	グループワーク
29	1年間の振り返り	事前：なし 事後：なし	グループワーク
30	演習のまとめ	事前：なし 事後：なし	グループワーク
<p>教本： 初回に学生の学びたい内容を確認し、決定する（特になければ経営戦略論をベースに検討する）。</p>		<p>参考文献： 初回に学生の学びたい内容を確認し、決定する。</p>	
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（80%）等で総合評価する。</p>			
<p>学生へのアドバイス： 原則、外部の研究発表大会に出場することを求めます。相応の参加意欲がある学生を望みます。</p>			
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白川 満伸								
履 修 条 件	前提科目	経営学総論 I - II							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>株式会社は古い歴史のある経済制度であるが、それは、現在も様々な問題を提起しつづけている。 演習 I では最初に、講義により、株式会社のもつ二面すなわち①資本集中機構としての側面と、②支配集中機構としての側面について基礎的な理解を深めてゆく。 株式会社についての基礎知識を得た後に、「企業統治 (コーポレート・ガバナンス)」に関するテキストを選んで輪読する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>テーマ：株式会社とその仕組みの特徴や会社証券 (株式、社債) の意義について理解する。 目 標：(1) 学生各自の関心に基づいて卒論テーマを決める。 (2) 卒論の章節を構成して今後の研究の進め方を報告する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2~15	指定テキスト①の要約・発表・質疑応答					事前：指定されたページの予習 事後：なし		ディスカッション	
16~30	指定テキスト②の要約・発表・質疑応答					事前：指定されたページの予習 事後：なし		ディスカッション	
<p>教本： ①岩井克人著『会社はだれのものか』平凡社、¥1,400 ②加護野忠男『経営は誰のものか』日本経済新聞社、¥1,800</p> <p>参考文献： 追って提示する。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (50%) とレポート (50%) 及び口頭試問による。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 積極的な姿勢で参加すること。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白澤 恵一								
履 修 条 件	前提科目	観光経営論 I、II や経営学概論 I、II を取得してあることが好ましい。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>観光経営は、観光とその関連概念、観光の研究・教育、観光行事と観光需要、観光資源と観光施設、観光経営と観光産業、観光政策過程について学ぶ。 観光経済は観光と経済学、観光商品、娯楽旅行に対する需要、バック旅行をする理由、旅行代理産業を利用する理由、旅行期間の決定要因、目的地での観光客の支出、観光客支出の経済的要因や買い物行動、観光産業の競争、観光地に行く方法、国際観光旅行に対する障壁、観光の受け入れ経済に占める位置、観光受け入れ社会の便益と費用、観光課税、観光と自然環境、持続可能な観光、世界における観光の安全性などについて学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>本演習は、前期では観光経営全般に亘って検討する。後期は観光経済について学び、観光全体像を見通すことで観光政策立案者となることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		演習	
2	観光経営とはなにかについて検討する					事前：発表者を指名 事後：なし		演習	
3	観光現象について検討する					事前：発表者を指名 事後：なし		演習	
4	観光経営の研究と方法について検討する					事前：発表者を指名 事後：なし		演習	
5	卒業論文の書き方について学ぶ					事前：なし 事後：なし		演習	
6	観光経営と就職先について検討する					事前：なし 事後：なし		演習	
7～12	観光経営と就職試験の基礎を学ぶ					事前：プリントの精読 事後：解答と質問		演習	
13・14	観光行事と観光需要について討論する					事前：発表者を指名 事後：なし		演習	
15	観光経営政策について討論し前期のまとめとする					事前：発表者を指名 事後：なし		演習	
16	観光経済について検討する					事前：発表者を指名 事後：なし		演習	
17	観光商品について検討する					事前：発表者を指名 事後：なし		演習	
18	娯楽旅行の需要について検討する					事前：発表者を指名 事後：なし		演習	
19	バック旅行をする理由について検討する					事前：発表者を指名 事後：なし		演習	
20	旅行代理産業を利用する理由について検討する					事前：発表者を指名 事後：なし		演習	
21	旅行期間の決定要因について検討する					事前：発表者を指名 事後：なし		演習	

22	目的地での観光支出について検討する	事前：発表者を指名 事後：なし	演習
23	観光支出の経済的要因や買い物行動について検討する	事前：発表者を指名 事後：なし	演習
24	観光産業の競争について検討する	事前：発表者を指名 事後：なし	演習
25	観光地に行く方法について検討する	事前：発表者を指名 事後：なし	演習
26	国際観光旅行に対する障壁について検討する	事前：発表者を指名 事後：なし	演習
27	観光客の受け入れに経済効果について検討する	事前：発表者を指名 事後：なし	演習
28	観光客の受け入れによる社会的便益と費用について検討する	事前：発表者を指名 事後：なし	演習
29	観光課税、観光と自然環境、持続可能な観光について検討する	事前：発表者を指名 事後：なし	演習
30	世界における観光の安全性について検討し後期のまとめとする	事前：発表者を指名 事後：なし	演習
教本： 開講後指示する。		参考文献： 文献は多数あるので、授業時に紹介する。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 調査研究（50％）レポート（20％）調査発表（30％）。			
学生へのアドバイス： 観光経営だけでなく、企業経営について興味をもって臨むこと。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	ビジネス法、企業組織法 I・II							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>企業に関する法について研究を行います。中心となるのは、商法と会社法です。関連し、民法、それから経済法の話にも及ぶこともあると思います。今日の経済社会の中で、会社はどうあるべきか、また、どう経営されていくべきか、法的側面からの考察等を行っていきます。具体的には、企業統治等についてみていきます。裁判例（判例）等も参考にしていきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>企業統治についての理解を深め、卒業論文につなげていく事を目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：事後：事後の復習		演習	
2	会社の機関（総説）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
3	会社の機関（持分会社）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
4	株式会社の機関（総説）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
5	株主総会（その1 総説）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
6	株主総会（その2 招集）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
7	株主総会（その3 株主提案権）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
8	株主総会（その4 議決権）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
9	株主総会（その5 決議・決議の瑕疵）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
10	取締役・取締役会・代表取締役（その1 取締役の選任等）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
11	取締役・取締役会・代表取締役（その2 業務執行と代表）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
12	取締役・取締役会・代表取締役（その3 取締役会）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
13	取締役・取締役会・代表取締役（その4 代表取締役）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
14	会計参与					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	
15	監査役・監査役会（その1 監査役）					事前：事前の予習 事後：事後の復習		演習	

16	監査役・監査役会（その2 監査役会）	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
17	会計監査人	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
18	指名委員会等設置会社	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
19	監査当委員会設置会社	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
20	役員等の義務と責任（その1 総論（1））	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
21	役員等の義務と責任（その2 総論（2））	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
22	役員等の責任（その1 会社に対する責任（1））	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
23	役員等の責任（その2 会社に対する責任（2））	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
24	役員等の責任（その1 第三者に対する責任（1））	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
25	役員等の責任（その2 第三者に対する責任（2））	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
26	会社と役員等間の訴訟（その1 総論）	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
27	会社と役員等間の訴訟（その2 株主代表訴訟）	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
28	会社と役員等間の訴訟（その3 株主代表訴訟）	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
29	会社と役員等間の訴訟（その4 多重代表訴訟）	事前：事前の予習 事後：事後の復習	演習
30	まとめ	事前：事前の予習 事後：	演習
教本： 初回講義日に伝える。		参考文献： 初回講義日に伝える。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート（20%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 上記テーマの展開の中で、各自の課題テーマについて発表していただく。判例等はまめに調べてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 毅								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： グローバル時代に適応できる知性（人生観・世界観）を持った人間教育の必要性から、まず文化の本質の理解。次に、世界各国の文化のコアの理解。そして、現代社会を根底から変容させている第3次産業革命について理解する。									
授業目標： 文化の本質を理解することにより、グローバル社会の教養を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1・2	グローバル社会の教養 麻生川静雄『社会人のリベラルアーツ』					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
3・4	世界各国の文化のコアの理解					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
5・6	麻生川静雄「本当に残酷な中国史」					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
7・8	中田考「イスラム法とは何か？」					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
9・10	ハロルド・H・バーマン『法と革命』					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
11・12	第3次産業革命について理解。					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
13・14	リフキン「第3次産業革命」					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
15・16	リフキン「限界費用ゼロ社会」					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
17・18	三菱総合研究所「IOTまるわかり」					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
19・20	イスマイル他「シンギュラリティ大学・飛躍する方法」					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
21・22	遠藤功「LFP」					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
23・24	本山美彦「人工知能と21と世紀の資本主義」					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
25・26	ヘンリー・ミンツバーグ「私たちはどこまで資本主義に従うのか」					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
27・28	ヘンリー・S・ストークス「世界に比類なき日本文化」					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
29・30	上記の著書の解説及び輪読、討論を行う。					事前：なし 事後：なし		輪読と討論	
教本： なし					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（80%）、小テスト・レポート等（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 出席をこころがける。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	関口 宏道								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>ヨーロッパ連合の牽引役であるドイツの歴史、政治問題を中心にして、現代ドイツが抱える諸問題を、とりわけ第一次、第二次世界大戦の問題、ドイツの過去の遺産を検討することによって理解し、自分なりの問題意識を明確にして、一定の見解を抱けるようにしたい。</p> <p>前期はそれぞれの問題に関する文献のレポートを参加者が行い、討論をしてゆくことにより問題を明確なものにしてゆく。また、史料の要約を必ず提出する。</p> <p>後期は参加者個々の問題意識に沿って文献収集を行い、発表をする。それらを一定の形式にまとめあげてゆく作業を行う。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>自ら設定した問題に主体的に取り組み、一定の見解を形成してゆく過程を自らのものとする。その発表形式をも習得することを目標とする。大学の学習が受動的なものではなく、積極的に将来の問題解決の訓練にもなりうることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	第一次世界大戦とドイツ					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
2	第一次世界大戦とドイツ					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
3	ヴァイマル共和国					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
4	ヴァイマル共和国					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
5	ナチズム					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
6	ナチズム					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
7	ナチ党とその他の政党					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
8	ナチ党とその他の政党					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
9	ヒトラー					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
10	ヒトラー					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
11	ヒトラー					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
12	ドイツにおける反ユダヤ主義					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
13	ドイツにおける反ユダヤ主義					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
14	ドイツにおける反ナチ抵抗運動					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	
15	ドイツにおける反ナチ抵抗運動					事前：事前調査 事後：要約		講義と発表	

16	第二次世界大戦とドイツ	事前：事前調査 事後：要約	講義と発表
17	第二次世界大戦とドイツ	事前：事前調査 事後：要約	講義と発表
18	第二次世界大戦とドイツ	事前：事前調査 事後：要約	講義と発表
19	ホロコースト問題	事前：事前調査 事後：要約	講義と発表
20	ホロコースト問題	事前：事前調査 事後：要約	講義と発表
21	ホロコースト問題	事前：事前調査 事後：要約	講義と発表
22	レポートの書き方の練習	事前：事前調査 事後：修正	発表
23	レポートの書き方の練習	事前：事前調査 事後：修正	発表
24	レポートの書き方の練習	事前：事前調査 事後：修正	発表
25	各自の選択したテーマに関するレポート作成	事前：事前調査 事後：修正	発表
26	各自の選択したテーマに関するレポート作成	事前：事前調査 事後：修正	発表
27	各自の選択したテーマに関するレポート作成	事前：事前調査 事後：修正	発表
28	レポート発表	事前：事前調査 事後：修正	発表
29	レポート発表	事前：事前調査 事後：修正	発表
30	レポート発表	事前：事前調査 事後：修正	発表
教本： 授業時間内に紹介する。		参考文献： 事業時間内に紹介する。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 レポートによる評価。			
学生へのアドバイス： 絶えず好奇心を抱いて、過去の世界や現代社会を見る目を養って欲しい。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高 乗 智 之								
履 修 条 件	前提科目	憲法学							
	その他	各種法律科目							
<p>授業概要：</p> <p>この演習では、社会問題について人権保障、統治機構の視点から考察し、自らの視点で論ずることを目的とする。主として憲法問題に関する判例・学説の検討、自己の見解の提示、質疑応答、討論を行う。(1)本演習では具体的な社会問題に対して、法理論をもって分析し、その論点を明確に把握することである。(2)重要判例や資料を題材にして、担当者がレジユメを作成することによって「プレゼンテーション能力」を養う。(3)討論、質疑応答を積極的に行うことによって「コミュニケーション能力」を養う。なお、授業以外に合宿や討論会、時間外勉強会等の対外活動を行う。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 社会問題について憲法学的視点から分析する力をつけること。 2. 憲法問題について自らの見解を提示する力をつけること</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	憲法学習の基礎					事前：なし 事後：概念整理		演習	
2	役割分担、各テーマの共有					事前：テーマ選定 事後：テーマ選定		演習	
3	資料収集の方法、レジユメ作成の方法					事前：テーマ選定 事後：テーマ選定		演習	
4～13	担当者の報告、質疑応答、教材を利用した学習 —発表・質疑応答・討論—					事前：報告準備（レジユメ） 事後：改善		演習	
14	各自の中間報告					事前：準備 事後：改善		演習	
15	各自の中間報告					事前：準備 事後：改善		演習	
16～22	討論会準備、質疑応答、討論					事前：報告準備（レジユメ） 事後：改善		演習	
23～28	担当者の報告、質疑応答、教材を利用した学習 —発表・質疑応答・討論—					事前：報告準備（レジユメ） 事後：改善		演習	
29	各自の中間報告					事前：準備 事後：改善		演習	
30	各自の中間報告					事前：準備 事後：改善		演習	
<p>教本：指定なし。</p> <p>参考文献：憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ、重要判例集（各年度）など（講義中に指示）。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 大学生活を満喫するために、とまかく積極的に、チャレンジ精神や協調性をもって取り組んで欲しい。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅰ (SeminarⅠ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	研究への高い意欲と向上心							
<p>授業概要：</p> <p>今年度の演習Ⅰは、「日本の政治と経済の仕組みを知り、世界に説明する」をテーマに行います。国際経営やメディアを通じた情報発信を充実させるためには、日本のことを世界に説明できる十分な知識や「比較」の視点が必要です。この演習では、日本の政治と経済を中心に、基礎的な学習を通じた必要な知識を習得するとともに、それを海外の人たちに説明するためには何が必要なのかということを考えていきます。前期は基礎的な知識から始め、後期は各自の関心に合わせ、政治あるいは経済の分野で深く研究を進めていきます。学外研修として、日本の政治、経済の主要機関への訪問を予定しています(3回)。日本人学生のみならず留学生の参加を広く歓迎します。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本の政治・経済に関する基礎的な知識を増やす。 海外に説明するための「比較」の視点を身につける。 文化の違いを乗り越え、違いを理解しながら共存する考え方を身につける。 									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
2	日本の政治①					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
3	日本の政治①					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
4	日本の政治③					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
5	日本の政治④					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
6	日本の経済①					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
7	日本の経済②					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
8	日本の経済③					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
9	日本の経済④					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
10	ディスカッション					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
11	課題研究①					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
12	課題研究②					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
13	学外授業					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
14	学外授業					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	
15	学外授業					事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示		演習	

16	日本の政治⑤	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
17	日本の政治⑥	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
18	日本の経済⑤	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
19	日本の経済⑥	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
20	プレゼン演習①	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
21	プレゼン演習②	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
22	学外授業	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
23	学外授業	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
24	プレゼン演習③	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
25	プレゼン演習④	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
26	課題研究③	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
27	課題研究④	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
28	学外授業	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
29	学外授業	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
30	学外授業	事前：授業の際に指示 事後：授業の際に指示	演習
教本： 授業の際に指示。		参考文献： 授業の際に指示。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（10%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 意欲ある諸君の参加を求めます。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高村 夏輝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 哲学・倫理学に関する文献を読み、それについて議論を深めることを通じて、自分なりの問題意識を育てる。									
授業目標： 4 年次で執筆する、卒業論文で取り上げる問題を作ること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：購読する文献の決定					事前：特になし 事後：文献を読む		演習	
2～15	文献購読					事前：要約を作る 事後：ノートによる復習		演習	
16～19	レポートに基づく討論					事前：レポートを用意 事後：ノートによる復習		演習	
20～26	文献購読					事前：要約を作る 事後：ノートによる復習		演習	
27～30	レポートに基づく討論					事前：レポートを用意 事後：ノートによる復習		演習	
教本： 使用するテキストは、講義中に決定します。					参考文献： 講義中に適宜紹介します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 読んだ文献に基づいて、夏休み中・冬休み中に、自分の考えを短いレポートにまとめていただきます。 読んで・書いて・話すことに積極的になってください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	立野 貴之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>ゼミ生は、ICTを利用した多くの環境に関する研究を進めるために、知識や能力の基礎を固め、さらに発展させることを目標と定める。具体的には、様々な環境で情報活用ができる基礎的な知識や技能を高め、情報化社会における情報通信の構造に関する知識を学び論理思考を身に付ける。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>情報化社会ではコミュニケーション手段が携帯電話やPCによって飛躍的に多様化され、特徴としては、コンピュータを活用することで利便性が向上し、さらなる可能性を実現している。例えば、観光分野では、この長所を活かし、各観光客に合った観光プランの動的な作成支援を目的としたシステム構築が進んでいる。そして、このような環境を創り上げるためには、コンピュータの本質を深く追求し、さらなる向上のために技術を融合的に理解することが必要である。本ゼミでは、まず、インターネット上で拡大化している情報空間で提供される情報を効果的に収集・分析し、さらに情報技術を活用した教育方法やビジネスモデルの提案、情報サイトの構築・評価する。この成果を観光の分野を含めた多くの環境にも適用できる普遍的方法論として発展させる研究を行う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	情報化社会のモラルと管理					事前：資料準備 事後：配布資料確認		講義	
2	情報化の進展と産業社会					事前：資料準備 事後：配布資料確認		講義	
3	情報処理技術の展開					事前：資料準備 事後：配布資料確認		講義	
4	情報技術の生活や文化変容への展望					事前：資料準備 事後：配布資料確認		講義	
5	ディスカッション 1					事前：ディスカッション準備 事後：フィードバック確認		講義	
6	ディスカッション 2					事前：ディスカッション準備 事後：フィードバック確認		講義	
7	コンピュータ制御の概要					事前：ディスカッション準備 事後：フィードバック確認		講義	
8	データ通信とネットワーク概要					事前：資料準備 事後：配布資料確認		講義	
9	ディスカッション 3					事前：ディスカッション準備 事後：フィードバック確認		講義	
10	ディスカッション 4					事前：ディスカッション準備 事後：フィードバック確認		講義	
11	情報活用能力の向上					事前：資料準備 事後：配布資料確認		講義	
12	コミュニケーションツールへの展開					事前：資料準備 事後：配布資料確認		講義	
13	プレゼンテーションの技法の解説					事前：資料準備 事後：配布資料確認		講義	
14	プレゼンテーション 1					事前：プレゼン準備 事後：フィードバック確認		講義	
15	プレゼンテーション 2					事前：プレゼン準備 事後：フィードバック確認		講義	

16	情報及び情報手段を活用する技術	事前：資料準備 事後：配布資料確認	講義
17	情報通信技術の適切な処理	事前：資料準備 事後：配布資料確認	講義
18	ディスカッション 5	事前：ディスカッション準備 事後：フィードバック確認	講義
19	ディスカッション 6	事前：ディスカッション準備 事後：フィードバック確認	講義
20	情報通信技術の創意工夫	事前：資料準備 事後：配布資料確認	講義
21	情報化社会の構築	事前：資料準備 事後：配布資料確認	講義
22	情報通信技術と対称性	事前：資料準備 事後：配布資料確認	講義
23	ディスカッション 7	事前：ディスカッション準備 事後：フィードバック確認	講義
24	ディスカッション 8	事前：ディスカッション準備 事後：フィードバック確認	講義
25	マルチメディア表現	事前：資料準備 事後：配布資料確認	講義
26	融合メディアのプラットフォーム	事前：資料準備 事後：配布資料確認	講義
27	ICTを活用した環境事例 1	事前：資料準備 事後：配布資料確認	講義
28	ICTを活用した環境事例 2	事前：資料準備 事後：配布資料確認	講義
29	プレゼンテーション 9	事前：プレゼン準備 事後：フィードバック確認	講義
30	プレゼンテーション 10	事前：プレゼン準備 事後：フィードバック確認	講義
教本： 資料を配布する。		参考文献： ガイダンスの時に指示をする。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 各自が到達目標を設定し、それぞれの研究や活動の取り組み（60%）、最終的な研究成果（40%）から判断する。			
学生へのアドバイス： ゼミ生は、ICT活用の知識や能力の基礎を固め、さらに活動を通して発展させることを目標と定め研究活動を行います。知識や活動を自らの研究に結び付け、各ゼミ生が主体的に研究を行うように頑張ってください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>国際ツーリズム（観光）に関する様々な分野から各自が関心のある分野を選んで研究する。演習 I は、演習 II における論文作成に向けた準備段階とする。関連の文献の講読やそれに基づく討議を通じて、自分に関心のある分野を見つける。国際ツーリズムに必要な英語力が身につくよう、英文の原書の主要部分も講読する（英語に自信がない人にも丁寧に指導する）。テーマが見つかったら各自が研究計画を立てる。学生はゼミで各自の研究計画と研究の進捗状況を適宜発表する。文献の講読や研究テーマの設定、研究の進め方などについては個別に指導する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>国際観光（ツーリズム）をテーマとした論文作成へ向けた準備</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	(授業計画は大まかな予定で、状況に応じて変更もありうる。) 導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：なし 事後：復習		演習	
2～5	論文の書き方指導					事前：予習 事後：復習		演習	
6～13	文献講読と討議					事前：予習 事後：復習		演習	
14・15	研究テーマの設定と研究計画の作成を開始（夏期休暇期間中に完成）					事前：予習 事後：復習		演習	
16～20	研究テーマと研究計画の発表					事前：予習 事後：復習		演習	
21～25	研究テーマと研究計画について討議					事前：予習 事後：復習		演習	
26～29	研究の進捗状況の発表と討議					事前：予習 事後：復習		演習	
30	まとめ					事前：予習 事後：復習		演習	
教本： 河野哲也 『レポート・論文の書き方入門』 第3版、慶応義塾大学出版会 他に、プリントを配付する					参考文献： 適宜、紹介する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 研究に取り組む姿勢や研究内容などで総合的に評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 国際ツーリズム（観光）に関することであれば、研究テーマは自由で、どのような視点からの研究でもよい。演習 I は、演習 II（4年時）での論文作成に向けた研究を行う大切な準備期間である。毎回出席するよう努めよう。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演 習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野村 康治								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>人間が関係する事柄には必ず心理学的問題が存在する。つまり、日常生活には心理学の研究テーマが溢れているのである。ただし、テーマを見つけるだけでは研究にはならない。この授業では、テーマに関する先行研究を踏まえて研究目的を設定し、適切な方法でデータを収集・分析し、分析結果に基づいて心や行動について考えるとといった研究の進め方を実践的に学んでいく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>自分自身で実験や調査を企画し、研究計画を立て、実験や調査を実施できるようになることを目指す。自分の関心事やそれに関わる先行研究（文献）、そして自分で考えた研究案や立案の進行状況などを発表しあうことで自分の考えを整理し、他者の意見を参考にすることで研究案をブラッシュアップさせていく。こうしたことを通じて研究を計画し、実現していく能力を獲得する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	心理学研究の種類と研究の進め方について					事前：シラバスの精読 事後：授業内容の復習		講義	
2	自身の興味関心の発表					事前：発表の準備 事後：興味関心の整理		演習	
3・4	文献の読み方・探し方					事前：資料確認 事後：文献の探索		講義と演習	
5～7	先行研究の探索					事前：文献の探索 事後：文献の精読		演習	
8・9	自分が調べた先行研究の紹介					事前：発表用資料作成 事後：先行研究まとめ		演習	
10・11	研究テーマの選考					事前：テーマ要旨作成 事後：問題点の改善		演習	
12・13	研究目的の設定					事前：資料確認 事後：目的の設定と精査		講義と演習	
14・15	研究の素案発表					事前：発表資料作成 事後：素案再考		演習	
16～20	研究方法の検討と精査					事前：資料確認 事後：方法の検討と精査		講義と演習	
21～25	分析方法の検討					事前：資料確認 事後：分析法の検討と精査		講義と演習	
26・27	研究計画の精査					事前：研究計画案の作成 事後：問題点の改善		演習	
28～30	研究計画・成果の報告					事前：発表資料作成 事後：研究計画の見直し		演習	
<p>教本： 参考文献： 適宜紹介する。また必要に応じて資料を配布する。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 読むこと、書くこと、考えることをいとわない学問的探求心を持つこと。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	基礎ゼミ I・II							
	その他	研究テーマが日本文学・日本文化・国語科教育であること							
<p>授業概要：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究方法の習得 2. 研究テーマの決定 3. 文献資料の収集・研究 4. 研究論文の書き方 5. 研究発表・討議（章ごとの論文を少しずつ作成していく） 6. 中間まとめの報告会 									
<p>授業目標：</p> <p>日本文学、日本文化、国語教育の専門領域に関するテーマで、受講生一人ひとりが主体的に研究を深め、論文にまとめる。演習は大学生にとって最も重視される講義である。その心構えで受講して欲しい。卒業論文を2年間でまとめる心づもりで取り組んで欲しい。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（演習の目的と授業計画）					事前：なし 事後：復習		講義	
2	研究とは何か（日本文化・日本文学の研究課題例）					事前：なし 事後：復習		講義	
3	研究の方法Ⅰ（日本文化・日本文学研究の比較法／仮説推論法）					事前：なし 事後：復習		講義	
4	研究の方法Ⅱ（日本文化・日本文学研究の分析＝総合法）					事前：なし 事後：復習		講義	
5	研究論文のモデル購読Ⅰ（卒業論文を読む）					事前：論文を読む 事後：なし		演習	
6	研究論文のモデル購読Ⅱ（卒業論文を読む）					事前：論文を読む 事後：なし		演習	
7	テーマ決定Ⅰ（自分の研究テーマを発表する）					事前：自分のテーマ検討 事後：なし		演習	
8	テーマ決定Ⅱ（自分の研究テーマを発表する）					事前：自分のテーマ検討 事後：なし		演習	
9	テーマ決定Ⅲ（自分の研究テーマを発表する）					事前：自分のテーマ検討 事後：なし		演習	
10	文献資料収集の方法（図書資料検索・cinii検索・ネット検索）					事前：なし 事後：自分の資料検索		講義	
11	文献資料研究Ⅰ（各自の文献資料を購読し検討する）					事前：自分の発表資料作成 事後：自分の資料検索		演習	
12	文献資料研究Ⅱ（各自の文献資料を購読し検討する）					事前：自分の発表資料作成 事後：自分の資料検索		演習	
13	文献資料研究Ⅲ（各自の文献資料を購読し検討する）					事前：自分の発表資料作成 事後：自分の資料検索		演習	
14	文献資料研究Ⅳ（各自の文献資料を購読し検討する）					事前：自分の発表資料作成 事後：自分の資料検索		演習	
15	文献資料研究Ⅴ（各自の文献資料を購読し検討する）					事前：自分の発表資料作成 事後：自分の資料検索		演習	

16	研究論文の書き方Ⅰ（体裁と目次）	事前：なし 事後：復習	講義
17	研究論文の書き方Ⅱ（表記の方法）	事前：なし 事後：復習	講義
18	研究論文の書き方Ⅲ（先行文献【注】の表記）	事前：なし 事後：復習	講義
19	研究発表・討議Ⅰ	事前：論文を書く 事後：なし	演習
20	研究発表・討議Ⅱ	事前：論文を書く 事後：なし	演習
21	研究発表・討議Ⅲ	事前：論文を書く 事後：なし	演習
22	研究発表・討議Ⅳ	事前：論文を書く 事後：なし	演習
23	研究発表・討議Ⅴ	事前：論文を書く 事後：なし	演習
24	中間まとめ報告会Ⅰ	事前：論文を書く 事後：なし	演習
25	中間まとめ報告会Ⅱ	事前：論文を書く 事後：なし	演習
26	中間まとめ報告会Ⅲ	事前：論文を書く 事後：なし	演習
27	中間まとめ報告会Ⅳ	事前：論文を書く 事後：なし	演習
28	中間まとめ報告会Ⅴ	事前：論文を書く 事後：なし	演習
29	講評と課題	事前：なし 事後：なし	講義
30	講評と課題	事前：なし 事後：なし	講義
教本： 「語り論」がひらく文学の授業』 中村龍一 ひつじ書房		参考文献： 教室で指示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 4年生から卒業論文を書き始めても遅すぎます。また、就職活動や教育実習などで忙しい。3年生から少しずつ進めておきましょう。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	廣本 和枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>特にシェイクスピアの演劇に親しむことができるように、当時の社会事情や慣習について英語で記載したプリントを用います。ビデオやDVDを併用します。併せて、毎回30分は、英語表現習得のために副教材を使用し、英語に親しむ環境をつくります。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>イギリス文化と演劇に焦点をあてながら、物の見方や考え方について学び、授業を通じて英語・英語文化への理解を深めるとともに英語力をつけることも主要な目標とします。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	序論：「英語」(English language) について					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
2	演劇（play）の語源					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
3	演劇の起源					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
4	ギリシャの古代劇場					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
5	ローマの古代劇場					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
6	劇場と用語					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
7	キリスト教と演劇					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
8	映像で見る『天地創造』(The Creation)					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
9	『天地創造』(ハンドアウト)					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
10	映像で見る『ノアの洪水』(Noah's Flood)					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
11	『ノアの洪水』(ハンドアウト) 喜劇の誕生					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
12	聖書劇：『アダムとイヴの誕生』(The Creation of Adam and Eve)					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
13	聖書劇：『受胎告知』(The Annunciation)					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
14	聖書劇：『磔刑』(The Crucifixion)					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	
15	喜劇の要素を考える					事前：ハンドアウト 事後：確認チェック		演習	

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>演習 I では、卒業論文につながるような基礎知識やスキルの獲得をめざします。各自の興味関心にそった論文を読み、ディスカッションをする形で授業を展開していきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>来年度の卒業論文のテーマを見つけ、論文を書くために必要な基礎力の育成をめざす。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配付資料を読む		演習	
2	文章読解 I					事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する		演習	
3	文章読解 II					事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する		演習	
4	文章読解 III					事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する		演習	
5	文章読解 IV					事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する		演習	
6	卒論テーマ検討 I					事前：各自テーマをまとめる 事後：授業の内容を整理する		演習	
7	卒論テーマ検討 II					事前：各自テーマをまとめる 事後：授業の内容を整理する		演習	
8	プレゼンテーション I					事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる		演習	
9	プレゼンテーション II					事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる		演習	
10	プレゼンテーション III					事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる		演習	
11	文章の書き方 I					事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する		演習	
12	文章の書き方 II					事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する		演習	
13	プレゼンテーション IV					事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる		演習	
14	プレゼンテーション V					事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる		演習	
15	前期まとめ					事前：配付資料を読む 事後：夏休みの課題をする		演習	

16	夏休みの報告	事前：課題の確認をする 事後：配付資料を読む	演習
17	文章読解Ⅴ	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習
18	文章読解Ⅵ	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習
19	文章読解Ⅶ	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習
20	文章読解Ⅷ	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習
21	卒論テーマ検討Ⅲ	事前：各自テーマをまとめる 事後：授業の内容を整理する	演習
22	卒論テーマ検討Ⅳ	事前：各自テーマをまとめる 事後：授業の内容を整理する	演習
23	プレゼンテーションⅣ	事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる	演習
24	プレゼンテーションⅤ	事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる	演習
25	プレゼンテーションⅥ	事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる	演習
26	文章の書き方Ⅲ	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習
27	文章の書き方Ⅳ	事前：配付資料を読む 事後：授業の内容を整理する	演習
28	プレゼンテーションⅦ	事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる	演習
29	プレゼンテーションⅧ	事前：プレゼン資料を作成 事後：授業をふりかえる	演習
30	まとめ	事前：配付資料を読む 事後：なし	演習
教本： プリントを用意します。		参考文献： 授業中適宜指示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： ゼミは大学生活の集大成ともいえるものです。楽しく、仲良く授業をすすめるながらも、各自問題意識を持って着実に成長するようがんばっていきましょう。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤原 俊雄								
履 修 条 件	前提科目	企業組織法 I、II							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>会社とくに株式会社の法構造について学習します。この授業では、報告者が、テーマを決めてそれについて報告します。そしてそれに基づき皆が討論します。ゼミとは一般的にそのようなものですが、それはこの授業にもいえます。言い換えると、ゼミでは学生の皆さんの主体性が求められます。教師はいわばアドバイザーの役割を果たすにすぎないのだ、と思ってください。</p> <p>下記の授業内容と計画は、あくまで例示に過ぎません。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>知識の習得というよりプレゼン能力の涵養が主な目標となります。ゼミでの経験は、きっと皆さんが社会に出てから生きてくると思います。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	会社とは何かにつき報告・討論					事前：テーマの予習 事後：		演習	
2	会社の種類につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
3	株式会社の特徴につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
4	株式会社設立手続きにつき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
5	設立中の会社につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
6	発起設立と募集設立につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
7	株式・株券につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
8	株式の種類につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
9	反対株主の株式買取請求権につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
10	株主総会につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
11	総会の招集につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
12	総会の決議事項につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
13	総会の議題・議案につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
14	総会決議の瑕疵につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	
15	取締役につき報告・討論					事前：予習 事後：		演習	

16	取締役会の決議事項につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
17	代表取締役・表見代表取締役につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
18	監査役の役割につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
19	執行役・代表執行役につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
20	競業取引につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
21	利益相反取引につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
22	取締役の報酬規制につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
23	取締役の会社に対する責任につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
24	取締役の第三者に対する責任につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
25	株主代表訴訟制度につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
26	募集株式の発行等の手続につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
27	募集株式の不正発行等につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
28	新株予約権の不正発行につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
29	事業譲渡につき報告・討論	事前：予習 事後：	演習
30	会社分割につき報告・討論	事前：予習 事後：	
教本： とくにはありません。		参考文献： ゼミ開始後に紹介します。	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、報告内・発言の有無・内容（70%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 上記のようにゼミは「自分でやる」という気概が必要です。でないとあまり意味はないことになってしまいます。とても期待しています。			
オフィスアワー： 初回講義時に伝えます。			

開講年次	3年次 通年	選択・必修	選択	単位数	4	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習Ⅰ (SeminarⅠ)						科目分類	専門科目	
担当教員	古金 悦子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>わらべうたや伝承遊び、鬼ごっこなどの「遊び」と絵本や物語、紙芝居、かるたなどの「児童文化財」をテーマに研究します。先行研究を調べたり、実際に遊びを見学したり経験したり、実態を調べたりしながら理解を深めていきます。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>子どもと遊びについて理解し、伝承されてきた児童文化財を知る。 先行研究を読み、理解し、自分の考えたことをまとめて発表する。 遊びの楽しさが自分の言葉で語れるようになること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：関連文献を探して読む		講義と演習	
2	子どもの文化と児童文化財について					事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ		講義と演習	
3	遊びと児童文化					事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ		講義と演習	
4	伝承遊びの種類と内容について					事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ		講義と演習	
5	発達と遊び（伝承遊びから学ぶこと）					事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ		講義と演習	
6	わらべうたと鬼ごっこ					事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ		演習	
7～11	伝承遊びについて（文献を読み意見交換をする） （フィールドワーク）					事前：文献を読む 事後：振り返りとまとめ		講義と演習	
12	伝承遊びについて（文献から学んだことと自分の経験を基に）					事前：文献の復習 事後：振り返りとまとめ		講義と演習	
13～14	レポート作成					事前：レポート作成 事後：レポート作成		演習	
15	前期のまとめ（各自の研究成果を発表する）					事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ		講義と演習	
16	絵本について①（様々な絵本を知る）					事前：様々な絵本を読む 事後：振り返りとまとめ		講義と演習	
17	絵本について②（子どもの発達と絵本）					事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ		講義と演習	
18	絵本について④（読み聞かせについて）					事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ		講義と演習	
19	絵本について⑤（フィールドワーク）					事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ		演習	
20	紙芝居について					事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ		講義と演習	

21	ペープサートについて	事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
22	物語、口演童話について	事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
23	パネルシアター、エプロンシアターについて	事前： 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
24	カルタについて①（百人一首と子どもの遊び）	事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
25	カルタについて②（いろはカルタ）	事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
26	カルタについて③（キャラクターなどをテーマにしたカルタ）	事前：関連文献を探して読む 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
27～29	レポート作成	事前：レポート作成 事後：レポート作成	演習
30	まとめと発表	事前：発表準備 事後：振り返りとまとめ	講義と演習
教本： 必要に応じて資料を配付します。		参考文献： 配布資料による。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、レポート・発表等（50%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 機会を捉えて、意識的に子どもの遊びを観察してみましょう。また、子どもの頃親しんだ絵本を読み返したり、図書館などで行なわれている「お話会」をのぞいてみたりしてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宝子山 嘉一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>前半は、流通やマーケティングの基本知識や関連の用語を学ぶ。マーケティングの文献を輪読と討論を通じてマーケティングの理念や意義を幅広く学ぶ。後半は、各自インターネットを使って興味のある企業を選び、企業研究としてまとめ各自発表する。</p> <p>また、具体的なマーケティングのケースを用い、理論が実務の中でどのように応用されているか、各自研究し発表します。それに基づいて全体で討論をする。自分の意見がしっかり言えるように訓練する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>演習 I は、「流通とマーケティング」の基礎を学びます。流通ビジネスやマーケティングの考え方、流通やマーケティング関連の独特の言葉や言い回しを正確に理解する。マーケティングの基礎を徹底的に学び、マーケティングマインドを養う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	マーケティングの意義					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
2	マーケティング・プロセス					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
3	市場機会の発見					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
4	顧客と製品に関する戦略					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
5・6	価格戦略					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
7・8	コミュニケーション戦略					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
9・10	流通戦略					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
11・12	顧客維持型マーケティング					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
13・14	同時進行型マーケティング					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
15	サービス業のマーケティング					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
16～18	消費財メーカーのマーケティング研究 ①					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
19～21	消費財メーカーのマーケティング研究 ②					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
22～25	生産財メーカーのマーケティング研究					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
26～28	サービス業のマーケティング研究 ①					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
29・30	サービス業のマーケティング研究 ②					事前：レポートを書く 事後：レポートを修正する		演習	
教本： 適宜指示する。					参考文献： 適宜指示する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点 (50%)、小テスト・レポート等 (50%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 演習 I の無断欠席は認められない。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	選択	単 位 数	4	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	演習 I (Seminar I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	松浦 恵津子								
履 修 条 件	前提科目	日本語学関連の科目を履修していることが望ましい。							
	その他	日本語教育関係の研究を希望する場合は、日本語教員養成課程の科目を履修していること。							
授業概要： 日本語学の各分野で、受講生が関心のある事項を取り上げ学んでいきます。日本語教育関係では、教授法・教材研究・第2言語習得等、各自が関心のあるテーマを選び、資料やデータを集めて問題を解決していきます。									
授業目標： 1. 各自が疑問に思う事項、明らかにしたい事項をあらいだし、文献を読んで研究テーマを具体的に定める。 2. 研究方法を学び、各自の研究にあった方法を選ぶ。 3. 卒論の前提となるレポートを書く。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：ノートを見直す		講義	
2～7	日本語関係・日本語教育関係資料調査 各自研究テーマに即したデータ収集					事前：授業箇所を読む 事後：疑問点を整理する		演習	
8	研究中間報告					事前：レジメ用意 事後：研究テーマを考える		演習	
9～14	日本語関係・日本語教育関係資料輪読発表 各自研究テーマに即したデータ収集					事前：授業箇所を読む 事後：疑問点を整理する		演習	
15	研究中間報告 レポート提出					事前：レジメ用意 事後：なし		演習	
16～23	日本語関係・日本語教育関係資料輪読発表 各自研究テーマに即したデータ収集					事前：授業箇所を読む 事後：疑問点を整理する		演習	
24	研究中間報告					事前：レジメ用意 事後：研究計画の見直し		演習	
25～29	日本語関係・日本語教育関係資料輪読発表 各自研究テーマに即したデータ収集					事前：授業箇所を読む 事後：疑問点を整理する		演習	
30	まとめ レポート提出					事前：レポート修正 事後：なし		演習	
教本： 授業内で伝える。					参考文献： 授業内で伝える。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、提出物・報告発表（30%）、中間発表・レポート（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各自の興味・研究テーマに応じて、授業内容を調整していきます。日本語・日本語教育について、あるいは世間話など、多くのことを語り合ひましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	4	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	演 習 I (Seminar I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鷲 尾 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	地 域 観 光 論 II (単 位 未 取 得 者 は 相 談 し て く だ さ い)							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
「調べる」、「聞く」、「書く」、「まとめる」の繰り返しを、ひとつにまとめ上げて、冊子づくりに取り組む。具体的には、松蔭大学広報誌を予定している。PCを使った活動が多くなるので、基本的なコンピューターソフト(ワード、エクセル、パワーポイント等)は使うので、指示があれば、PCを持ってくること。									
授 業 目 標 :									
ゼミの目的は、観光まちづくりに関わるいろいろな「ヒト」から学ぶこと。観光まちづくりがうまくいっているなど感じるまちで、その秘訣を尋ねると、必ず帰ってくる言葉は「たまたま」。「たまたま」、つまり「偶然ですよ」と控えめな答えの背景には、「たまたま」に導くための必然の活動があるはず。それを知る方法は、ただひとつ。お話を聞くこと。丹念な下調べと、お話を聞き、相手に共感することが大切となる。「調べる」、「聞く」、「書く」、「まとめる」を繰り返し行っていく。適宜、就活指導を盛り込む。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスを読む 事後：自分の長所とは？		演習	
2・3	自己分析と自己PR文の書き方					事前：自分の長所とは？ 事後：PR文の読み直し		演習	
4～8	インタビューの進め方、インタビューのまとめ方 ○インタビューの相手として、松蔭大学の先生や、職員、卒業生の方々の想定している。 ○インタビューの進め方 ○インタビュー記事から学ぶ					事前：誰の話聞きたいか 事後：インタビューのリハーサル		演習	
9・10	新聞から就活に役立つ記事探し ○志望業種、職種の詳細 ○新聞記事の活用法					事前：志望業種、職種は？ 事後：新聞記事の読み直し		演習	
11～14	広報誌の企画 ○先輩の企画からまなぶ ○企画書作成 ○プレゼンテーション					事前：広報誌を読む 事後：企画書の読み直し		演習	
15	前期のまとめ					事前：夏休みの目標 事後：夏休みに勝つ！		演習	
16	夏休みの活動報告					事前：夏休みを振り返る 事後：広報誌を読む		演習	
17～21	広報誌の取材と記事まとめ ○取材の依頼 ○訪問時のマナー ○訪問後のマナー ○記事まとめ ○入稿作業					事前：広報誌企画の読み直し 事後：取材のリハーサル		演習	
22・23	新聞から就活に役立つ記事探し ○志望業種、職種の詳細 ○新聞記事の活用法					事前：志望業種、職種は？ 事後：新聞記事の読み直し		演習	
24～26	自分史づくり ○これまでの学び ○これからの学び 将来の姿					事前：卒業文集の読み直し 事後：5年後の自分は？		演習	
27～29	卒論テーマと就活エントリー準備 ○自分史の活用					事前：卒論テーマは？ 事後：プレゼン準備		演習	
30	卒論テーマについてのプレゼンテーション					事前：プレゼン準備 事後：春休みに勝つ！		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。適宜、資料を配付する。					適宜、紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
カメラ好き、話好き、ヒト好き、そうなりたい学生も期待している。 学校外の活動が多くなります。学外の方ともお会いする機会が増えます。プレ社会人としてのモラルを強く求める。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語科教育法Ⅰ (TEFLⅠ)					科目分類	教職課程科目		
担当教員	廣本 和枝								
履修条件	前提科目	英語科指導法Ⅱ							
	その他	なし							
授業概要： 外国語としての英語教育について、講義だけでなく、ディスカッションをしながら要点を明確にしていく。自分の体験に基づいて考え、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。									
授業目標： 英語教育の理論や研究について学び、それらに基づいて、教案を準備できるようにすることが目標である。日本の英語教育で、英語教育の理論や研究がどのように具体的に適用し実践できるかについて考えることをテーマとする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	英語教育について					事前：教本 pp3～11・ハンドアウト 事後：ディスカッション		演習	
2	日本の英語教育					事前：教本 pp12～15・ハンドアウト 事後：ディスカッション		演習	
3	英語の国際化——共通語としての英語					事前：教本 pp16～19・ハンドアウト 事後：ディスカッション		演習	
4	英語の国際化——国際コミュニケーションのための英語教育					事前：教本 pp20～24 事後：ディスカッション		演習	
5	学習指導要領と CEFR・Can-Do-List					事前：ハンドアウト 事後：ディスカッション		演習	
6	学習者——認知的な要因と有意義学習					事前：教本 pp40～44 事後：ワークシート		演習	
7	学習者——動機づけ・学習者の誤り					事前：教本 pp45～48 事後：ディスカッション		演習	
8	英語教員——良い教師とは					事前：教本 pp49～60 事後：ワークシート		演習	
9	小学校における外国語活動					事前：教本 pp61～67 事後：ディスカッション		演習	
10	小学校における外国語指導—模擬授業					事前：教本 pp68～72 事後：ディスカッション		演習	
11	CLT とその他の教授法のまとめ					事前：ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
12	第二言語の習得について					事前：教本 pp89～92・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
13	第二言語習得と言語観					事前：教本 pp93～96・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
14	第二言語の習得と諸問題					事前：教本 pp97～101・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
15	コミュニケーション能力の育成					事前：教本 pp102～111・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
教本： 【新学習指導要領に基づく英語科教育法】 （望月 昭彦 編著 大修館書店）					参考文献： 授業に沿って、参照する資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 補助教材として英語で書かれたプリントを配布しますので、あらかじめ目を通して、理解できないところに印をしておいてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語科教育法Ⅱ (TEFLⅡ)					科目分類	教職課程科目		
担 当 教 員	廣本 和枝								
履 修 条 件	前提科目	英語科教育法Ⅰ							
	そ の 他								
授業概要： 外国語としての英語教育について、より具体的に、4技能の指導やクラス運営について学ぶ。講義だけでなく、教材を各自選んで、学んだことを実際に試み、教授法や評価法、あるいは教材そのものについてディスカッションする。									
授業目標： 英語教育の理論や研究について学び、それらに基づいて教案を作成できるようにすることが目標である。また、それらの理論や研究の成果が、教室で具体的にどのように実践できるかを考えることが、テーマとなる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	コミュニケーション活動の特徴					事前：教本pp108～111・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
2	リスニングの指導					事前：教本pp112～124・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
3	スピーキングの指導					事前：教本pp125～135・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
4	リーディングの指導					事前：教本pp136～148・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
5	ライティングの指導					事前：教本pp149～160・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
6	測定と評価					事前：教本pp171～180・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
7	テストの種類とコミュニケーション・テスト					事前：教本pp180～181・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
8	シラバスと教材					事前：教本pp195～199・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
9	教材研究					事前：教本pp199～207・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
10	EラーニングとCALL教室					事前：教本pp182～194 事後：ディスカッション		演習	
11	授業運営					事前：教本pp233～244・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
12	模擬授業・中学1年の教科書を用いて					事前：教案の作成 事後：ディスカッション		演習	
13	模擬授業・中学2年の教科書を用いて					事前：教案の作成 事後：ディスカッション		演習	
14	模擬授業・中学3年の教科書を用いて					事前：教案の作成 事後：ディスカッション		演習	
15	生徒を中心とした授業と求められる英語教師像					事前：ディスカッション 事後：ワークシート		演習	
教本： 【新学習指導要領に基づく英語科教育法】 （望月 昭彦 編著 大修館書店）					参考文献： 【タスク・ベースの英語指導 TBLTの理解と実践】 村松尚昌紀 編 大修館書店				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 補助教材としてワークシートを配布しますので、あらかじめ目を通して、理解できない所に印をしておいて下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	英語科指導法 I (TEFL I)					科目分類	教職課程科目		
担 当 教 員	廣本 和枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 日本人が英語を学ぶ場合に留意しなければならない点について、音声、文字、語彙、文法の各項目について、具体的にテキストの英文を用いて考える。この作業をしながら、特に「学校文法」についての理解を深め、生徒を指導できるに十分な英語の運用能力の基礎固めをする。									
授業目標： 英語の教員として自信をもって教壇に立てるようになるために、最低限必要な、音声、文字、学校文法をテーマとして取り上げ、それらの基礎固めをすることが目標である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	学校文法：名詞・代名詞					事前：教本 pp12～13、16～17 事後：リスニング・シャドウイング		演習	
2	学校文法：動詞・助動詞・形容詞・副詞					事前：教本 pp24～25、28～29 事後：リスニング・シャドウイング		演習	
3	学校文法：単語の役割と文・文の種類・主述の一致					事前：教本 pp34～35、38～39、42～43 事後：リスニング・シャドウイング		演習	
4	学校文法：現在形と現在進行形・過去形と現在完了形					事前：教本 pp48～49、52～53 事後：リスニング・シャドウイング		演習	
5	学校文法：過去進行形と過去完了形・動詞の変形					事前：教本 pp50～57、60～61 事後：リスニング・シャドウイング		演習	
6	学校文法：未来を表す表現・分詞					事前：教本 pp64～65、70～71 事後：リスニング・シャドウイング		演習	
7	学校文法：関係代名詞・関係副詞					事前：教本 pp74～75、78～79 事後：リスニング・シャドウイング		演習	
8	学校文法：原級、比較級、最上級・接続詞					事前：教本 pp84～85、88～89 事後：リスニング・シャドウイング		演習	
9	学校文法：前置詞・不定詞と動名詞					事前：教本 pp92～93、96～97 事後：リスニング・シャドウイング		演習	
10	学校文法：受動態					事前：教本 pp100～101 事後：リスニング・シャドウイング		演習	
11	学校文法：仮定法					事前：教本 pp104～105 事後：リスニング・シャドウイング		演習	
12	学校文法：疑問詞					事前：教本 pp108～109 事後：リスニング・シャドウイング		演習	
13	学習指導要領（中学校・高等学校）					事前：資料の構成に目を通す 事後：ディスカッション		演習	
14	CEFR と Can-Do-List					事前：資料の構成に目を通す 事後：ディスカッション		演習	
15	教材の実例：中学校の教科書概観					事前：各ユニットの構成に目を通す 事後：ディスカッション		演習	
教本： 『TOEIC テスト書き込みノート文法編』 富岡 恵 著 学研					参考文献： M. Swan, & C. Walter 著 <i>How English Works : A Grammar Practice Book</i> Oxford Univ. Press 授業に沿って、参照する資料を配布する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（50%）、定期試験（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 副教材として英語で書かれたプリントを配布しますので、目を通し、よく理解できないところに印をして授業に臨んでください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	英 語 科 指 導 法 Ⅱ (TEFL Ⅱ)					科 目 分 類	教 職 課 程 科 目		
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前 提 科 目	英 語 科 指 導 法 Ⅰ							
	そ の 他								
<p>授業概要：</p> <p>英語教育の主要な教授法について学んだ後、中学校と高校の教科書を用い、実際に教室で生徒に教える場合を想定して教案を作成し、学生同士で指導法などを検討考察する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>中学校の教科書に基づいて教案を作成し、英語教員として教壇に立てるようにすることが目標である。タスクの使用などの基礎的な指導法の実践的な習得をテーマとする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	中学校・高等学校の学習指導要領と教科書の構成					事前：教本pp25～36・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
2	教授法：口頭教授法					事前：教本pp78～81・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
3	教授法：文法訳読法・その他の主要な教授法					事前：教本pp73～78・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
4	コミュニケーション・ランゲージ・ティーチング (CLT)					事前：教本pp85～88・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
5	中学校教科書を用いての主要な教授法の実践					事前：ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
6	文法の学習と指導					事前：教本pp208～216・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
7	文法の学習の問題点を考える					事前：教本pp216～220・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
8	語彙の指導					事前：教本pp221～232・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
9	語義検索の指導					事前：教本pp228・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
10	授業運営と形態：クラス・グループ・ペア・個人					事前：教本pp95, pp123・pp129・ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
11	タスクの実践と Self-Assessment Sheet					事前：ワークシート 事後：ディスカッション		演習	
12	模擬授業の準備：中学校教科書の各自選んだ課を使用して教案作成およびその発表					事前：教案作成 事後：ディスカッション		演習	
13	英語教職課程履修学生第1グループの模擬授業実施と考察					事前：教材作成 事後：ディスカッション		演習	
14	英語教職課程履修学生第2グループの模擬授業実施と考察					事前：教材作成 事後：ディスカッション		演習	
15	各自の模擬授業の改良点についてのディスカッション					事前：教案の改良 事後：ディスカッション		演習	
<p>教本：</p> <p>『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 （望月 昭彦 編著 大修館書店）</p>					<p>参考文献：</p> <p>J. Willis 著 <i>A Framework for Task-Based Learning</i> Longman (Longman) 『タスク・ベースの英語指導 TBLT の理解と実践』(村松尚昌紀 編 大修館書店 その他、授業に応じて参照用のプリントを配布</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（50%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>副教材として、英語で書かれたワークシートを配布しますので、授業の前に目を通しておいてください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教育課程論 (Curriculum Study)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>教育課程について、我が国の教育課程の変遷や機能について学習するだけでなく、担当者が長らく公立小学校に勤務した経験を活かし、現場での具体的な教育活動について、教育課程の視点から学んでいく。教員として自ら教育課程を編成できるように、学習指導要領や小・中・高等学校の教育課程などを参考に具体的に指導する。受講生が今まで学校で経験してきたことをもとに、興味・関心を引き出して、学習意欲を高めるよう授業方法を工夫する。積極的に授業に出席して、受け身ではなく主体的に授業に取り組むことを目指していく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>教育課程の基準である学習指導要領とテキストで、学校教育の内容と方法である「教育課程」についての基礎的な知識を獲得し、教育者としての教養を高め、教育課程を自ら編成できることを目的としている。具体的には、①学校教育における教育課程の役割や機能を理解する、②教育課程編成の基本原則を理解した上で、横断的・縦断的な視野をもって実践的な教育課程・指導計画を考える力を育成する。③カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	教育課程とは何か					事前： 事後：ノート整理		講義	
2	教育課程の編成（教育課程編成の基本原則を学ぶ）					事前： 事後：ノート整理		講義	
3	学習指導要領や幼稚園教育要領の仕組みと意義について学ぶ					事前：指導要領を読む 事後：ノート整理		講義	
4	アクティブラーニングと学習指導要領					事前：指導要領を読む 事後：ノート整理		講義	
5	社会変化と幼稚園教育要領の変遷					事前：ニュース集め 事後：ノート整理		講義	
6	社会変化と学習指導要領の変遷					事前：ワークシート 事後：ノート整理		講義	
7	教育課程と学習指導要領（教育課程編成に学習指導要領をいかに活かすか）					事前：指導要領を読む 事後：ノート整理		講義	
8	教育課程と各種教科について					事前：指導要領を読む 事後：ノート整理		講義	
9	教育課程と総合的な学習の時間（教科横断的な取り組みを考える）					事前：指導要領を読む 事後：ノート整理		講義	
10	教育課程と学校（長期的な視野から、教育内容と条件整備を考えてみる）					事前：ニュース集め 事後：ノート整理		講義	
11	地域の実態を反映させた学校教育目標の設定を考えてみる					事前：資料を読む 事後：ノート整理		講義	
12	カリキュラムマネジメントとは何か？（3つの視点を理解する）					事前：なし 事後：ノート整理		講義	
13	学習指導要領を活かすためのカリキュラムマネジメント					事前：なし 事後：ノート整理		講義	
14	カリキュラム評価とは何か？（PDCAサイクルの活用を考える）					事前：なし 事後：ノート整理		講義	
15	総括					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：『中学校学習指導要領』（最新版）文部科学省、『高等学校学習指導要領』（最新版）文部科学省、『小学校学習指導要領』（最新版）文部科学省、『幼稚園教育指導要領』（最新版）文部科学省、『教育課程論』一藝社 2013年</p> <p>参考文献：参考資料等その他授業中、適宜関連図書を紹介する。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業への取り組み（課題提出や授業態度）（60%）、定期試験（40%）とし、総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 教職に就くには、必須の内容です。知っていると知らないは、大きな差になります。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教育原理 (Foundations of Education)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	米山 弘								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 「教育原理」では、教者の世界を特徴づけ、それを総括的に理解できるように授業を進めてゆく。講義の前半は、教育の本質的、歴史的、思想的視点で捉え、後半は教育の主に具体的な面を見てゆく。例えば学校の起源から今日までの形成の過程について学び、教育上野著名な教育者たちについて理解し、教育への興味・関心を持てるようにする。									
授業目標： ①「教育とは何か？」について理解する。 ②教育哲学とその主な思想の歴史を理解する。 ③教育の理想・理念とその実現努力を理解する。 ④学校教育の必要とその役割について。 以上の4点を理解し、自己の教育観を培う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	「教育とは何か？」について					事前：教師への希望理由 事後：		個別	
2	教育の理念と目的（人間の形成について）					事前：理念と目的を調べる 事後：教育理念をノートにまとめる		講義	
3	教育と環境（家庭・学校・社会）					事前：教育の場とはを考える 事後：各々の違いをノートへ		個別	
4	人間の誕生、成長・発達について					事前：発達とは何が発達？ 事後：人間の発達をまとめる		講義	
5	教育の歴史と思想 (1) 古代－ソクラテス、プラトン他					事前：(テキスト) ソクラテス予習 事後：ノートへまとめる		講義	
6	教育の歴史と思想 (2) 近代－ルソー、ペスタロッチー他					事前：(予習) ルソー、ペスタロッチー 事後：ノートへまとめる		講義	
7	教育の歴史と思想 (3) 現代－エレン・ケイ、デューイ他					事前：エレン・ケイ、デューイ調べる 事後：児童中心義についてまとめる		講義	
8	日本の教育の歴史と思想 (1) 江戸以前の教育・江戸の教育					事前：寺子屋、私塾を予習 事後：テキストの箇所をまとめる		講義と映像を紹介	
9	日本の教育の歴史と思想 (2) 明治・大正の教育					事前：明治維新を調べる 事後：当時の教育をノートへまとめる		質疑	
10	日本の教育の歴史と思想 (3) 昭和戦前と昭和戦後の教育					事前：昭和の戦前で知っていること 事後：昭和の教育の特徴まとめ		講義と質疑	
11	諸外国の教育 ドイツ、フランス、アメリカ他					事前：外国の教育で知っていること 事後：各国の教育の相違まとめ		講義	
12	日本の教育法規・制度・組織					事前：日本国憲法を配布する 事後：教育法規、組織をまとめる		講義	
13	教育の方法原理 (1) (コア・カリキュラム、プロジェクト・メソッド等)					事前：テキスト予習 事後：各方法のまとめ（ノート）		講義	
14	教育の方法原理 (2) (タクト、直観教育、労作教育等)					事前：テキスト予習 事後：方法原理の違い		講義	
15	教育の結論として教師について					事前：テキスト予習 事後：何故教師は結論（ノート）		講義	
教本： 米山編著『教師論』玉川大学出版部、2014年					参考文献： J. デューイ(著) 宮原(訳)『学校と社会』岩波文庫、1997年その他、授業で紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業への取り組み、(小テスト、ノート提出等) (60%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： テキストをよく読んで来ること。質疑時間に積極的に参加を促す。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	実習
授業科目(英文)	教育実習 I (Practice Teaching I)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	教職課程履修生しか受講できません。							
授業概要： 来年度、教育実習に行くことを前提とし、模擬授業を軸に実践的な訓練をしていきます。									
授業目標： 教育実習生として必要な知識・資質について、改めて自己認識・自己評価をし、自主的に学び成長することを目的としています。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：授業内容を整理する		講義	
2	教育実習とは					事前：配付資料を読む 事後：授業内容を整理する		演習	
3	教育実習生に必要なものとは何か					事前：配付資料を読む 事後：授業内容を整理する		演習	
4	教育実習に行くために I					事前：配付資料を読む 事後：授業内容を整理する		演習	
5	教育実習に行くために II					事前：配付資料を読む 事後：授業内容を整理する		演習	
6	模擬授業 I					事前：模擬授業準備 事後：授業内容を整理する		演習	
7	模擬授業 II					事前：模擬授業準備 事後：授業内容を整理する		演習	
8	模擬授業 III					事前：模擬授業準備 事後：授業内容を整理する		演習	
9	模擬授業 IV					事前：模擬授業準備 事後：授業内容を整理する		演習	
10	模擬授業 V					事前：模擬授業準備 事後：授業内容を整理する		演習	
11	模擬授業 VI					事前：模擬授業準備 事後：授業内容を整理する		演習	
12	模擬授業 VII					事前：模擬授業準備 事後：授業内容を整理する		演習	
13	模擬授業 VIII					事前：模擬授業準備 事後：授業内容を整理する		演習	
14	模擬授業 IX					事前：模擬授業準備 事後：授業内容を整理する		演習	
15	まとめ					事前：後期の授業内容を確認 事後：各自の課題をまとめる		演習	
教本： 授業中、資料を配付します。					参考文献： 授業中、適宜指示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、模擬授業（準備も含む）（50%）、レポート等課題（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 教育実習生として、自分が何をすべきか、何が課題なのかがわかればおのずとすべきことが分かると思います。がんばっていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	教 育 社 会 学 (Sociology of Education)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	深 谷 野 亜								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
この授業では現代の公教育を支える社会構造を理解した上で、学生一人一人が主体的に考え、答えを導き出す姿勢を身につけることを促していく。授業ではグループディスカッションやプレゼンテーションを多用し、参加型授業の実現を目指していきたい。									
授 業 目 標 :									
教師がどのような制度/法律の下でこどもの教育に携わるのかを理解し、各自が自らの見識を持てるようになることを目的としている。具体的には、以下の5つを①学校教育に与える社会の影響を理解する②制度や法律と学校教育の関わりについて理解する③学校改善のための取り組みについて理解する④地域と学校の連携の重要性を理解する⑤安心・安全な学校づくりへの取り組みを理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	社会変化と学校					事前：なし 事後：配布資料に明記		講義	
2	家族変化と学校					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
3	公教育の原理について考える					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
4	日本の教育制度とは何か					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
5	諸外国の教育改革と課題を考える					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
6	教育政策と教育行政					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
7	日本国憲法と教育基本法					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
8	学校教育法と関連法規					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
9	学級経営とは何か					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
10	教育課題と学級経営					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
11	学校評価というシステムーPDCAサイクルを考えてみるー					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
12	チームとしての学校という視点					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
13	開かれた学校ー地域の教育力の活用ー					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
14	開かれた学校ー学校評議員・コミュニティスクール・学社連携への模索ー					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
15	開かれた学校と安心・安全な学校づくり					事前：今週分の配布資料を読む 事後：配布資料に明記		演習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
事前に配付した資料を使用する。					高妻紳二郎「新・教育制度論：教育制度を考える15の視点」、ミネルヴァ書房、2014年。その他、授業中に適宜関連図書を紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 へ の 取 り 組 み (課 題 提 出 や 授 業 態 度) を 50%、定 期 試 験 を 50% と し、総 合 評 価 を 行 う。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
3年次の教職課程科目であることから、一人一人が教職課程履修生としての自覚をもち、主体的に授業に取り組んでください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	教 育 心 理 学 (Educational Psychology)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	野 々 村 新								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>テキスト及び配布する最新の資料に基づく講義が主となるが、質疑応答を取り入れて学生の主体的学習を促すとともに、小テスト等による形成的評価を実施して到達目標の達成を図る。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>教職を志す学生が幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、各発達段階の特徴及び学習成立のメカニズムと学習を促進させる要因及び学校・学習への適応、学習結果の評価の意義、学級集団の指導等に関して理解を深める。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	教育心理学の意義と領域					事前：なし 事後：ノート整理		講義	
2	発達の意義とその規定要因					事前：「教育心理学」の意義の確認 事後：ノート整理		講義	
3	発達の原理、発達段階と発達課題					事前：「発達」についての確認 事後：「発達課題」の確認		講義	
4	知的側面（知能、思考等）の発達					事前：前回のノートの確認 事後：ノート整理		講義	
5	人格的側面（興味、性格等）の発達					事前：「知的発達」の確認 事後：ノート整理		講義	
6	学習の理論、学習成立のメカニズム					事前：「人格的発達」の確認 事後：ノート整理		講義	
7	学習理論とその応用					事前：「学習理論」の確認 事後：ノート整理		講義	
8	学習成立の促進要因（レディネス、動機づけ等）					事前：前回のノートの確認 事後：ノート整理		講義	
9	学習効果の促進要因（効果的学習法、学習の転移等）					事前：前回のノートの確認 事後：ノート整理		講義	
10	教授－学習過程					事前：教授－学習課程の確認 事後：ノート整理		講義	
11	教育評価の意義と役割					事前：教育評価の意義の確認 事後：ノート整理		講義	
12	教育評価の方法					事前：前回配布資料の確認 事後：ノート整理		講義	
13	学級集団の心理と指導					事前：「集団の機能」の確認 事後：「学級集団」の確認		講義	
14	学校・学習への適応・不適応					事前：「適応」の概念の確認 事後：「不適応」の確認		講義	
15	特別支援教育					事前：「障害」の確認 事後：ノート整理		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『新訂 ころへのアプローチ』（野々村新（編著）田研出版）					授業中に適宜資料を配付する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
小テスト（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
心理学の理論を教育現場に応用することの重要性を確認すること。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教育相談 (Educational Counseling)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	野々村 新								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： テキスト及び最新の資料に基づく講義とロールプレイの導入等によって、学生がカウンセリングと学校における教育相談の意義と方法について具体的に理解し、到達目標の達成を図る。									
授業目標： 教職を志す学生がカウンセリングの意義・目的を認識し、カウンセラーに求められるスキルと基本的態度を理解するとともに、教育とカウンセリングの関係、学校における教育相談の意義と方法及びその進め方等に関する理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	カウンセリングの意義					事前：なし 事後：カウンセリングの理解		講義	
2	カウンセリングの発展とその要因					事前：前回のノートの確認 事後：ノート整理		講義	
3	カウンセリングの目的と基本理念					事前：前回のノートの確認 事後：ノート整理		講義	
4	現代社会におけるカウンセリングの必要性					事前：前回のノートの確認 事後：ノート整理		講義	
5	カウンセリングの理論と方法					事前：前回のノートの確認 事後：体験に基づいた確認		講義・演習	
6	カウンセラーに求められるスキルと基本的態度					事前：前回のノートの確認 事後：体験に基づいた確認		講義・演習	
7	教育とカウンセリングの関係					事前：前回配布資料の確認 事後：ノート整理		講義	
8	カウンセリングにおける教育相談の位置づけ					事前：前回配布資料の確認 事後：ノート整理		講義	
9	学校における教育相談の必要性					事前：前回配布資料の確認 事後：ノート整理		講義	
10	学校における教育相談の意義・目的					事前：前回のノートの確認 事後：ノート整理		講義	
11	教育相談の理論と方法					事前：前回のノートの確認 事後：ノート整理		講義	
12	教育相談のための組織体制と計画					事前：前回配布資料の確認 事後：ノート整理		講義	
13	教育相談における各教師の役割					事前：前回のノートの確認 事後：ノート整理		講義	
14	教育相談担当教師の力量形成					事前：前回配布資料の確認 事後：ノート整理		講義	
15	学校外関係機関との協力・連携					事前：前回配布資料の確認 事後：ノート整理		講義	
教本： 「改訂 生徒指導・教育相談・進路指導」 （仙崎武・野々村新・渡辺三枝子・菊池武剋 編著 田研出版）					参考文献： 授業中適宜資料を配付する。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 学校教育における相談（カウンセリング）の役割を認識すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教育方法論 (The Method of Education)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	桑原 和也								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 子どもたちを取り巻く教育環境の実情を踏まえながら、教育方法に関する基礎的理論及び技術等を学び、今日の情報化社会における各種情報機器等の活用の在り方などについても学ぶ。後半においては、単元テーマを設定した上で学習用教材の作成を行い、授業での活用の検討などについても行う予定である。									
授業目標： 教育方法に関する基礎的な理論及び技術などを学ぶことを通じて、教育方法に関する専門的知識の習得、理解の深化を深めていく。そして、各種情報機器等の活用についても学ぶ。教育方法をめぐる、具体的な教材研究の方法の習得や理論的及び実践的な課題などを通して、それぞれの状況に対応した授業展開能力の育成を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	本授業のガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	教育方法の歩み（歴史の変遷）					事前：なし 事後：なし		講義	
3	学習指導方法の歴史的展開					事前：なし 事後：なし		講義	
4	教材と教材研究					事前：なし 事後：なし		講義	
5	学習指導の構築（学習指導案）					事前：なし 事後：なし		講義	
6	学習指導要領と学習指導方法					事前：なし 事後：なし		講義	
7	学力と評価					事前：なし 事後：なし		講義	
8	情報化時代における教育1（生活と学校教育の変化、情報活用能力）					事前：なし 事後：なし		講義	
9	情報化時代における教育2（デジタル教材の活用と可能性）					事前：なし 事後：なし		講義	
10	教材の作成1（教材作成へ向けての計画書作りなど）					事前：なし 事後：なし		演習	
11	教材の作成2（基礎・基本を考慮した教材等の作成）					事前：なし 事後：なし		演習	
12	教材の作成3（興味・関心を考慮した教材等の作成）					事前：なし 事後：なし		演習	
13	教材の作成4（発展的課題へと繋げる教材等の作成）					事前：なし 事後：なし		演習	
14	作成した教材等についてのプレゼンテーション					事前：なし 事後：なし		演習	
15	まとめ（教育方法の課題と今後の在り方）					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 必要に応じて授業時に資料を配布する。			参考文献： 文部科学省「中学校学習指導要領」（最新版）、「高等学校学習指導要領」（最新版）等 ※文部科学省ホームページで閲覧可。 ※他、必要に応じて参考書・参考資料については適宜紹介する。						
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業の進捗状況及び受講者の興味・関心などを考慮し、適宜対応する予定です。受講に際し、教育関連の話題などについても視野に入れておくと良いです。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教師論 (The Study of Teacher)						科目分類	教職課程科目	
担当教員	佃 直毅								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 「教えること」と「学ぶこと」の対極をみながら、何をいかに教えるか、そのために必要な資質とは何か、さらに具体的な準備として何が必要かを認識できるように、これまで「学ぶ者として」の経験を振り返りながら、自己の求める教師像を明確にする。									
授業目標： 現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割、教員の資質能力と職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適正を判断し、進路選択に資するあり方を理解する。 「教師＝労働者論」「教師＝聖職者論」「教師＝専門職論」の歴史的背景とその問題性を明らかにしながら自分が求める教師像を形成してゆくことを目的とする。いずれにしても、教育サービスは教師の人間の・技術的・知識的な成長に依存しており「成長の論理」は教師論の本質でもある。「自らの教師像の探求」をテーマとした授業目標である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	公教育と教職の社会的意義					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
2	教師の労働者性・聖職者性・専門性の歴史的な背景とその問題性					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
3	教師の倫理綱領と専門性					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
4	教師の服務					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
5	教師の研修—自己啓発と義務としての研修					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
6	身分保障と「指導力不足教員」の問題					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
7	「教師の他位に関する勧告」と「教師の教育の自由」					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
8	教師の役割と力量（成長の論理）					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
9	教える内容と社会変化					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
10	教える内容と学習指導要項					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
11	教える技能（いかに教えるか…よい目的とよい方法）					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
12	教育活動の評価と生徒のための評価					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
13	教師と児童生徒との人間関係					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
14	学級・HRの風土づくり					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
15	教師としての役割と責任と達成するために、関連する専門家との連携と協働の必要性					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
教本： 新井保幸・江口勇治編著 [教職論] 培風館 ¥1,900					参考文献： 柴田義松他著 [教育原理] (樹学文社 2010年10月15日)				
成績評価の方法、評価基準： レポート（50%）、授業内試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： テキストを熟読し、教師の準拠枠にそった行動を体験すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	公民科教育法 I (Teaching Approach to the Civics I)						科目分類	教職課程科目		
担 当 教 員	高乗 智之									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
授業概要： 高等学校における公民科教育法の意義と現代社会の政治経済問題について述べるとともに、政治経済の基本論理と現代の経済の目標、教える上での教材の研究、指導方法・計画、授業のポイントなど、評価等を学ぶ。										
授業目標： 国際化、IT 情報化が急速に進展し、世界情勢が激動するなかで、現代社会の政治・経済の役割は益々重要になってきている。そのような状況の下、公民科教育、とりわけ政治経済の授業が実践でき、生徒にしっかり理解させるように資質を養い、必要な知識と教育技術を身につける。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	現代社会における重要課題—公民の視点から					事前：なし 事後：テキスト		講義		
2	学習指導要領の解説：公民の中の政治・経済分野に関する歴史の変遷と今後の展開					事前：なし 事後：テキスト		講義		
3	政治・経済分野の目標と内容の全体的な構造					事前：なし 事後：テキスト		講義		
4	政治分野の内容の指導上の留意点					事前：なし 事後：テキスト		講義		
5	経済分野の内容の指導上の留意点					事前：なし 事後：テキスト		講義		
6	政治・経済分野の学習評価の視点					事前：なし 事後：テキスト		講義		
7	政治・経済分野と関連する学問的領域（政治学、経済学）					事前：なし 事後：テキスト		講義		
8	政治・経済分野の発展的な学習の内容					事前：なし 事後：テキスト		講義		
9	学習指導案の作成：政治・経済分野の学習指導計画の立案と学習指導案の作成の仕方					事前：なし 事後：テキスト		講義		
10	政治・経済的分野の教材研究の仕方と模擬授業の方法（情報機器の活用方法を含む）					事前：なし 事後：テキスト		講義		
11	模擬授業と振り返り① わが国の政治					事前：模擬授業準備 事後：なし		模擬授業		
12	模擬授業と振り返り② 国際政治					事前：模擬授業準備 事後：なし		模擬授業		
13	模擬授業と振り返り③ わが国の経済					事前：模擬授業準備 事後：なし		模擬授業		
14	模擬授業と振り返り④ 国際経済					事前：模擬授業準備 事後：なし		模擬授業		
15	全体のまとめ					事前： 事後：		講義		
教本： 『高等学校学習指導要領』（最新版） 『最新現代社会新訂版』実教出版、2016年					参考文献： 濱井修・小寺聡『現代の倫理』山川出版、2016年 清水雅博『新政経ハンドブック2014 2016』株式会社ナガセ、2014年					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、模擬授業（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 自分の授業スタイルを意識し、教育のあるべき姿を常に考えて欲しい。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	公民科教育法Ⅱ (Teaching Approach to the Civics Ⅱ)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	丹野 貴								
履 修 条 件	前提科目	『公民科教育法Ⅰ』を修得済みであること							
	その他	なし							
授業概要： 高等学校学習指導要領解説公民編をもとに教科・科目の目標や内容および全体構造について理解する。 実際の授業を想定した学習指導案の作成の仕方と教材研究の方法などを学ぶ。 模擬授業を通して授業設計の重要性を理解し学習指導の技能の基礎を学ぶ。									
授業目標： 高等学校公民科の特質・目標・内容・構造を理解し、指導上の留意点・学習評価の仕方などについての理解を深める。 各科目の学習指導案の作成・教材研究の方法などに関する実践的な技能を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	公民科を学ぶ意義—現代の公共と倫理の課題					事前：なし 事後：なし		講義・話し合い	
2	学習指導要領の解説：公民科・公共と倫理に関する歴史の変遷と今後の展望					事前：予習（pp.45～52） 事後：なし		講義	
3	公共・倫理分野の目標と内容の全体的構造					事前：予習（解説pp.21～26） 事後：なし		講義	
4	公共分野の内容の指導上の留意点					事前：予習（解説pp.83～117） 事後：なし		講義	
5	倫理分野の内容の指導上の留意点					事前：予習（解説pp.27～82） 事後：なし		講義	
6	公共・倫理分野の学習評価の視点					事前：予習（pp.180～186） 事後：なし		講義	
7	公共・倫理分野と関連する学問領域（哲学、倫理学、宗教学）					事前：予習（pp.111～119） 事後：なし		講義	
8	公共・倫理分野の発展的な学習の内容					事前：予習（pp.53～82） 事後：なし		講義	
9	学習指導案の作成：公共・倫理分野の学習指導計画の立案と学習指導案の作成の仕方					事前：予習（pp.180～189） 事後：なし		講義	
10	公共・倫理分野の教材研究の仕方と模擬授業の方法（情報機器の活用方法を含む）					事前：予習（pp.207～215） 事後：なし		講義	
11	模擬授業①（公共性とは何か）					事前：指導案の作成（担当学生） 事後：なし		模擬授業・改善提案	
12	模擬授業②（より良い社会への視点）					事前：指導案の作成（担当学生） 事後：なし		模擬授業・改善提案	
13	模擬授業③（近代科学の考え方）					事前：指導案の作成（担当学生） 事後：なし		模擬授業・改善提案	
14	模擬授業④（人間の尊厳）					事前：指導案の作成（担当学生） 事後：なし		模擬授業・改善提案	
15	総括（背景となる学問領域の活用の仕方・授業改善の取り組みなどを含む）					事前：なし 事後：なし		講義・話し合い	
教本： 文部科学省『高等学校学習指導要領』（最新版）間宮陽介編 高校公民科教科書『現代社会』東京書籍					参考文献： 参考書・参考資料等 白井・柴田編『新版社会・地歴・公民科教育法』学文社				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、模擬授業（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自分の理想とする教師像を思い描きながら一つ一つ知識と技術を身につけていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国語科教育法 A (Japanese Language Educational Method A)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 国語教育史を踏まえ、中学・高校の国語科教育の目的、内容と方法、教材づくりと教材研究等の学習指導理論を理解し、教材研究活用することができる。									
授業目標： 国語教育史を踏まえ、中学・高校の国語科教育の基礎的な理論と学習指導理論を、現行教科書の教材を用いて具体的に検討し、生徒の実態を視野に入れた国語授業の重要性を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	国語教師論（オリエンテーション）					事前：なし 事後：ノートを整理する		講義	
2	国語科・学習指導要領の概要					事前：予習 事後：復習		講義	
3	現代の国語と国語表現に関する目標と内容、全体構造					事前：なし 事後：復習		講義	
4	現代の国語と国語表現に関する学習内容の指導上の留意点					事前：なし 事後：復習		演習＋講義	
5	現代の国語と国語表現に関する学習評価					事前：なし 事後：復習		演習＋講義	
6	現代の国語と国語表現を支える学問領域（言語学、音声学、文学）と教材					事前：なし 事後：復習		演習＋講義	
7	現代の国語と国語表現に関する発展的な学習内容に向けて					事前：なし 事後：復習		演習＋講義	
8	言語とは何か					事前：なし 事後：復習		講義	
9	言語に関する現代の諸問題 1（わが国）					事前：なし 事後：復習		演習＋講義	
10	言語に関する現代の諸問題 2（国際化社会の中で）					事前：なし 事後：復習		演習＋講義	
11	学力論 1（態度主義的学力観）					事前：なし 事後：復習		講義	
12	学力論 2（技能主義的学力観）					事前：なし 事後：復習		講義	
13	文学教育論					事前：なし 事後：復習		講義	
14	作文教育論					事前：なし 事後：復習		講義	
15	演劇教育論					事前：なし 事後：復習		講義	
教本： ・「中学校学習指導要領解説 国語編」（最新版）（文科省） ・「高等学校学習指導要領解説 国語編」（最新版）（文科省）					参考文献： ・「国語教育指導用語辞典」田近洵一・井上尚美編（教育出版）				
成績評価の方法、評価基準： 毎授業時のレポート（30%）、発表（10%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 現行教科書を具体例に国語科教育の基礎的な教科内容を学ぶ。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国語科教育法B (Japanese Language Educational Method B)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「学習指導要領」の教科構造にそって、4 領域・1 事項の言語活動の学習指導の在り方を実践事例から学び、学習指導案を作成することができる。 ・「思考・判断・表現」を重視した言語活動の単元開発の基礎・基本を実践事例から学ぶ。									
授業目標： 中学・高校の国語科の教育目標と教科内容に基づき、国語科の学習指導理論を理解して、授業の設計をし、授業設計の方法を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	国語科の授業のあり方ー子どもの実態を踏まえてー					事前：なし 事後：復習（ノート）		講義	
2	国語科で用いる情報機器や教材の活用の仕方					事前：なし 事後：復習		演習＋講義	
3	国語科学習指導案の構想と指導案					事前：なし 事後：復習		演習＋講義	
4	「読むことー説明文・評論文」の指導（授業計画と指導案）					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
5	「読むことー文学的文章」の指導（授業計画と指導案）					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
6	「読むことー古典」の指導（授業計画と指導案）					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
7	「書くことーレポート」の指導（授業計画と指導案）					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
8	「書くことー創作文」の指導（授業計画と指導案）					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
9	「話すこと・聞くことースピーチ」の指導（授業計画と指導案）					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
10	「話すこと・聞くことーディスカッション」の指導（授業計画と指導案）					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
11	「言語」とは何か					事前：なし 事後：復習		講義	
12	「言語事項」の指導（授業計画と指導案）					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
13	「読書」の指導（授業計画と指導案）					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
14	「国語科単元学習」					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： ・「中学校学習指導要領解説 国語編」（最新版）（文科省） ・「高等学校学習指導要領解説 国語編」（最新版）（文科省） ・【中学校版】言語活動の充実に関する指導事例集」（文科省）					参考文献： ・「国語教育指導用語辞典」田近洵一・井上尚美編（教育出版）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 学習指導案を作成することで国語科教育の基本的な教科内容を学ぶ。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国語科教育法C (Japanese Language Educational Method C)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	国語科教育法A・B							
	その他	なし							
授業概要： 論理的な思考・考え方ができる生徒を育成するために、論理国語に関する目標、内容、全体構造、学習評価、関連した学問領域を学び、教材研究に活用できる力を身につけ、発展的な学習内容を展開する力を育成する。									
授業目標： 論理国語に関する目標と内容、全体構造を理解し、学習内容の指導に関する事項を学び、自主的な授業を展開する力を培う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	論理国語に関する目標と内容、全体構造					事前：なし 事後：復習（ノート）		講義	
2	論理国語に関する学習内容の指導上の留意点					事前：なし 事後：復習（ノート）		演習＋講義	
3	論理国語に関する学習評価					事前：なし 事後：復習（ノート）		演習＋講義	
4	論理国語を支える学問領域(論理学、言語学、哲学)と教材					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
5	論理的な思考を発展させるための学習内容に向けて					事前：なし 事後：復習		演習＋講義	
6	評論文・説明文の教材研究の方法（鷲田清一「聴くということ」を例に）					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
7	説明文・評論文の〈読み〉の原理					事前：なし 事後：復習（ノート）		演習＋講義	
8	説明文・評論文の「ことばの制度を覆す知見」との対話					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
9	評論文の単元構想					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
10	古典教材における言葉の論理					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
11	古典教材と現代文の〈読み〉の原理					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
12	想定された読者と現代の読者					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
13	古典教材を基礎にした、ものの見方と考え方					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
14	「言語事項」の学習活動（辞書をつくる）					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
15	「言語事項」の学習活動（語源を調べる）					事前：教材を読んで臨む 事後：復習		演習＋講義	
教本： 授業時に資料を配付する。					参考文献： ・「中学校国語科学習指導要領」（最新版）（文科省） ・「高等学校国語科学習指導要領」（最新版）（文科省） ・「国語教育指導用語辞典」（教育出版）				
成績評価の方法、評価基準： 毎授業時のレポート（30%）、発表（10%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 教育実習を想定し、板書・発問・発声などの技術と教材研究で授業する。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国語科教育法D (Japanese Language Educational Method D)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	牛山 恵								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： ・中学校・高等学校教科書の古典教材の講読の授業である。古典講読を通して言語文化、古語、古典文法、敬語法を学ぶ。さらに情報機器及び学習資料の効果的な活用法を身につける。									
授業目標： ・教科書掲載の代表的古典教材の講読し、発展単元を学習指導に位置づける。古典講読を通して日本の言語文化、古語、古典文法、敬語法の理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	言語文化と文学国語に関する目標と内容、全体構造					事前：なし 事後：資料を読む		講義	
2	言語文化と文学国語に関する学習内容の指導上の留意点					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
3	言語文化と文学国語に関する学習評価					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
4	言語文化と文学国語を支える学問領域（文学、言語学、歴史学）と教材（情報機器の活用）					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
5	言語文化と文学国語に関する発展的な学習内容に向けて					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
6	『枕草子』（第一段、第二二段）					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
7	『枕草子』（第三四段、第三八段、第七二段）					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
8	『枕草子』（第九八段）と『大鏡』（伊周・隆家）の比べ読み					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
9	百鬼夜行（『宇治拾遺物語』『大鏡』（藤原師輔）の比べ読み					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
10	『平家物語』（祇園精舎）					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
11	『平家物語』（能登殿と敦盛の最期）					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
12	『平家物語』（木曾殿の最期）					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
13	『奥の細道』（平泉）					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
14	『奥の細道』（立石寺）					事前：教材を読んで臨む 事後：ノート提出		演習＋講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 授業時に資料を配付する					参考文献： ・「中学校国語科学習指導要領」（最新版）（文科省） ・「高等学校国語科学習指導要領」（最新版）（文科省） ・「国語教育指導用語辞典」（教育出版）				
成績評価の方法、評価基準： 毎授業時レポート（30%）、発表（10%）定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回必ず予習して臨み、復習してください。ノート提出があります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社 会 科 教 育 法 I (Teaching Approach to the Social Studies I)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	清 水 健 太								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>実際の授業を想定した学習指導案の作成の仕方と教材研究の方法などを学ぶ。また、最終的には、自らが作成した学習指導案・教材もとに、模擬授業を行う。模擬授業を通して、実践的な指導力を身に付けてもらいたい。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>中学社会科分野の構造・流れを理解し、学生にわかりやすく講義を行うために必要な指導力を養うことを目的にする。具体的には、学習指導案の作成・教材研究の方法などを学ぶ。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	中 学 校 社 会 科 ・ 地 理 と 歴 史 的 分 野 を 学 ぶ 意 義					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2	学 習 指 導 要 領 の 解 説 : グ ロ ー バ ル 化 と 社 会 科 教 育 の 重 要 性					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
3	学 習 指 導 要 領 ・ 社 会 科 の 目 標 と 内 容 - 全 体 的 な 構 造					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
4	歴 史 的 分 野 と 地 理 的 分 野 の 目 標 と 内 容					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
5	歴 史 的 分 野 と 地 理 的 分 野 と 関 連 し た 学 問 領 域 (歴 史 学、地 理 学)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
6	歴 史 的 分 野 ・ 地 理 的 分 野 の 内 容 ・ 指 導 上 の 留 意 点					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
7	歴 史 的 分 野 と 地 理 的 分 野 の 学 習 評 価 の あ り 方					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
8	歴 史 的 分 野 と 地 理 的 分 野 の 発 展 的 な 学 習 内 容 に 向 け て					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 ・ 模 擬 授 業	
9	学 習 指 導 案 の 作 成 : 学 習 指 導 計 画 の 立 案 と 学 習 指 導 案 の 作 成 の 仕 方					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 ・ 模 擬 授 業	
10	歴 史 的 分 野 ・ 地 理 的 分 野 の 教 材 研 究 の 方 法 と 模 擬 授 業 の 方 法 - 情 報 機 器 を 活 用 し な が ら					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 ・ 模 擬 授 業	
11	模 擬 授 業 と 振 り 返 り ① (歴 史 的 分 野 : わ が 国 の 歴 史)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 ・ 模 擬 授 業	
12	模 擬 授 業 と 振 り 返 り ② (歴 史 的 分 野 : 世 界 の 歴 史)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 ・ 模 擬 授 業	
13	模 擬 授 業 と 振 り 返 り ③ (地 理 的 分 野 : ユ ー ラ シ ア ・ 南 北 ア メ リ カ)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 ・ 模 擬 授 業	
14	模 擬 授 業 と 振 り 返 り ④ (地 理 的 分 野 : ア フ リ カ 大 陸 ・ オ ー ス ト リ ア 大 陸)					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 ・ 模 擬 授 業	
15	全 体 の ま と め					事 前 : な し 事 後 : な し		グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
教 本 :									
<p>文部科学省 『中学校学習指導要領解説 社会編』(最新版) ・ 五味文彦編 中学校社会科教科書『新しい社会 地理』東京書籍 ・ 坂上康俊編 中学校社会科教科書『新しい社会 公民』東京書籍 ・ 田林 明編 『新高等地区』東京書籍</p>					参 考 文 献 :				
					白井・柴田編『新版社会・地歴・公民科教育法』学文社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
<p>平常点 (40%)、模擬授業 (30%)、定期試験 (30%) 等で総合評価する。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>参加意欲をもって講義に望んでください。</p>									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
<p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社会科教育法Ⅱ (Teaching Approach to the Social Studies Ⅱ)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	丹 野 貴								
履 修 条 件	前 提 科 目	『社会科教育法Ⅰ』を修得済みであること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 中学校学習指導要領解説社会編をもとに教科・科目の目標や内容および全体構造について理解する。 実際の授業を想定した学習指導案の作成の仕方と教材研究の方法などを学ぶ。 模擬授業を通して授業設計の重要性を理解し学習指導の技能の基礎を学ぶ。									
授業目標： 中学校社会科の特質・目標・内容・構造を理解し、指導上の留意点・学習評価の仕方などについての理解を深める。 各科目の学習指導案の作成・教材研究の方法などに関する実践的な技能を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	中学校社会科・公民的分野の目標、公民的分野を学ぶ意義					事前：なし 事後：なし		講義・話し合い	
2	学習指導要領の解説：公民的分野に関する歴史の変遷と今後の展望					事前：予習 (pp.33~44) 事後：なし		講義	
3	公民的分野の目標と内容の全体的な構造					事前：予習 (解説 pp.126~165) 事後：なし		講義	
4	公民的分野の内容の指導上の留意点					事前：予習 (解説 pp.165~168) 事後：なし		講義	
5	公民的分野の学習評価の視点					事前：予習 (pp.111~118) 事後：なし		講義	
6	公民的分野と関連する学問的領域 (政治学、倫理学、経済学、哲学)					事前：予習 (pp.171~189) 事後：なし		講義	
7	公民的分野の発展的な学習の内容					事前：予習 (解説 pp.188) 事後：なし		講義	
8	学習指導案の作成：公民的分野の学習指導計画の立案と学習指導案の作成の仕方					事前：予習 (pp.118~119) 事後：なし		講義	
9	公民的分野の教材研究の仕方と模擬授業の方法 (情報機器の活用方法を含む)					事前：予習 (pp.207~215) 事後：なし		講義	
10	模擬授業と振り返り① (個人の尊厳と人権の尊重)					事前：指導案の作成 (担当学生) 事後：なし		模擬授業・改善提案	
11	模擬授業と振り返り② (民主主義の意義と民主政治)					事前：指導案の作成 (担当学生) 事後：なし		模擬授業・改善提案	
12	模擬授業と振り返り③ (国際理解と世界平和)					事前：指導案の作成 (担当学生) 事後：なし		模擬授業・改善提案	
13	模擬授業と振り返り④ (私たちの暮らしと経済：資本主義経済と企業・市場経済の仕組み)					事前：指導案の作成 (担当学生) 事後：なし		模擬授業・改善提案	
14	模擬授業と振り返り⑤ (地域社会と私たち：国際社会の中での国家・国際連合の役割)					事前：指導案の作成 (担当学生) 事後：なし		模擬授業・改善提案	
15	総括 (評価の方法・授業改善の取り組みなどを含む)					事前：なし 事後：なし		講義・話し合い	
教本： 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(最新版) ・五味文彦編 中学校社会科教科書『新しい社会 地理』東京書籍 ・坂上康俊編 中学校社会科教科書『新しい社会 公民』東京書籍 ・田林 明編 『新高等地図』東京書籍					参考文献： 白井・柴田編『新版社会・地歴・公民科教育法』学文社				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (30%)、模擬授業 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自分の理想とする教師像を思い描きながら一つ一つ知識と技術を身につけていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	情 報 科 教 育 法 I (Teaching Methods in Information Study I)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	河 村 一 樹								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
4 年 次 の 教 育 実 習 に 向 け て の 準 備 段 階 と なる 科 目 で あり ます 。 そ の た め に 、 高 等 学 校 教 科 情 報 に 関 す る 学 習 指 導 要 領 改 訂 の 変 遷 、 現 在 の 指 導 要 領 の 内 容 、 情 報 化 特 有 の 指 導 方 法 (と く に 、 コ ン ピ ュ ー タ 実 習 関 連) な ど に つ い て 解 説 す る 。									
授 業 目 標 :									
高 等 学 校 教 科 「 情 報 」 に つ い て 、 学 習 指 導 要 領 の 内 容 を 理 解 し 、 そ の 目 標 で あり ます 。 (1) 情 報 技 術 を 活 用 す る た め の 知 識 と 技 能 の 習 得 、 (2) 情 報 に 関 す る 科 学 的 見 地 と 情 報 技 術 が 社 会 で 果 た す 役 割 の 理 解 、 (3) 情 報 化 の 進 展 へ の 主 体 的 対 応 の 育 成 、 を 達 成 す る た め の 授 業 設 計 の 手 法 を 身 に つ け る こ と が 本 科 目 の 到 達 目 標 と なる 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	各 国 に お け る 情 報 教 育 の 変 遷 と そ の 位 置 付 け					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 :		講 義	
2	我 が 国 の 大 学 に お け る 情 報 教 育 の 変 遷					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 :		講 義	
3	学 校 に お け る 情 報 教 育 の 施 策					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 : 授 業 レ ポ ー ト を 提 出		講 義	
4	小 学 校 に お け る 情 報 教 育					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 :		講 義	
5	中 学 校 に お け る 情 報 教 育					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 :		講 義	
6	高 等 学 校 に お け る 情 報 教 育					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 : 授 業 レ ポ ー ト を 提 出		講 義	
7	学 校 の 情 報 教 育 環 境					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 : 授 業 レ ポ ー ト を 提 出		講 義	
8	普 通 教 科 情 報 (学 習 指 導 要 領 の 解 説)					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 : 小 テ ス ト を 実 施		講 義	
9	普 通 教 科 情 報 (検 定 教 科 書)					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 :		講 義	
10	専 門 教 科 情 報 (学 習 指 導 要 領 の 解 説)					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 :		講 義	
11	専 門 教 科 情 報 (検 定 教 科 書)					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 :		講 義	
12	学 習 指 導 案 の 実 際					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 : 小 テ ス ト を 実 施		講 義 と 演 習	
13	情 報 化 社 会 の 課 題 へ の 対 応					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 :		講 義	
14	教 員 免 許 の 取 得 (教 職 課 程) と 教 員 採 用 試 験					事 前 : 教 科 書 を 講 読 の こ と 事 後 :		講 義	
15	授 業 の 総 括					事 前 : 事 後 : 前 期 レ ポ ー ト を 提 出		演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
情 報 科 教 育 法 (河 村 一 樹 他 著 、 学 文 社)					高 等 学 校 学 習 指 導 要 領 解 説 情 報 編 (最 新 版)				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : で き る だ け 事 前 に 指 定 教 科 書 を 講 読 し て お く こ と 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報科教育法Ⅱ (Teaching Methods in Information Study Ⅱ)						科目分類	教職課程科目	
担 当 教 員	河村 一樹								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 4年次の教育実習に向けての準備段階となる科目である。そのために、高等学校教科情報に関する学習指導案を作成するとともに、実際の授業を想定したロールプレイングが主になる。4年次の教育実習に向けての準備段階となる科目である。そのために、高等学校教科情報に関する学習指導案を作成するとともに、実際の授業を想定したロールプレイングを通じ、効果的な指導に繋がる授業設計やその改善方法を学習する。									
授業目標： 高等学校教科「情報」について、学習指導要領の内容を理解した上で、内容に沿った適切な学習指導案と副教材を作成し、実際に授業を行うことができるようになることが到達目標となる。4年次の教育実習においては、指導教諭の先生の指導の下に、滞りなく授業を実施できることが必要であり、そのための実践的な演習が主なテーマである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	科目「社会と情報」及び「情報の科学」の学習指導要領と学習指導案					事前： 事後：		講義	
2	学習指導案及び副教材の作成：情報の活用と表現					事前： 事後：学習指導案の提出		演習	
3	授業のロールプレイング：情報の活用と表現					事前： 事後：自己評価を実施		実習	
4	学習指導案及び副教材の作成：情報通信ネットワークとコミュニケーション					事前： 事後：学習指導案の提出		演習	
5	授業のロールプレイング：情報通信ネットワークとコミュニケーション					事前： 事後：自己評価を実施		実習	
6	学習指導案及び副教材の作成：情報社会の課題と情報モラル					事前： 事後：学習指導案の提出		演習	
7	授業のロールプレイング：情報社会の課題と情報モラル					事前： 事後：自己評価を実施		実習	
8	情報教育におけるアクティブ・ラーニングの実践					事前： 事後：		講義	
9	学習指導案及び副教材の作成：コンピュータと情報通信ネットワーク					事前： 事後：学習指導案の提出		演習	
10	授業のロールプレイング：コンピュータと情報通信ネットワーク					事前： 事後：自己評価を実施		実習	
11	学習指導案及び副教材の作成：問題解決とコンピュータの活用					事前： 事後：学習指導案の提出		演習	
12	授業のロールプレイング：問題解決とコンピュータの活用					事前： 事後：自己評価を実施		実習	
13	学習指導案及び副教材の作成：情報の管理と問題解決					事前： 事後：学習指導案の提出		演習	
14	授業のロールプレイング：情報の管理と問題解決					事前： 事後：自己評価を実施		実習	
15	授業の総括					事前： 事後：後期レポートを提出			
教本： 適宜、プリントを配布					参考文献： 高等学校学習指導要領解説 情報編（最新版）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業への貢献（80%）、小テスト及びレポート（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ロールプレイングを中心に、教育実習を想定した演習を行うので、しっかりと準備をするように。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	生 徒 ・ 進 路 指 導 論 (Educational and Career guidance)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	佃 直 毅								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>生徒指導・進路指導の意義と目的とその目的を理解し、実践力を身に付けるための授業である。生徒指導・進路指導はともに、学校の全ての教育活動を通して行われてこそ、目的を達成されるものであることを十分に理解し、一人一人の生徒に向き合い、個性尊重と人格の全人的発達を援助する視点が必要なことを学習する。特に、進路指導においてはその充実強化のためのキャリア教育が果たす役割の大きいことを学ぶ。生徒指導や進路指導と深く関係している機関や専門家との連携の重要性についても理解を深める。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長をはかりながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識や素養を身に付けることを目標としている。路指導は、児童生徒が自ら、将来の進路を選択、計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。</p> <p>進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けることができる。生徒指導も進路指導も、全教育活動を通じて、全ての教職員の協力のもとに行われなければならない活動である。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	生徒指導の意義と目的					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
2	生徒指導の必要性和集団生活と社会規範					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
3	生徒指導の年間計画と指導体制					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
4	生徒指導上の問題の理解と関係機関との連携のあり方					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
5	生徒指導と教育相談					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
6	進路指導及びキャリア教育の意義と目的					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
7	進路指導 (キャリア教育を含む) 年間計画と個別計画					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
8	進路指導 (キャリア教育含む) 組織と運営					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
9	進路学習及びキャリア教育のすすめ方展開の方法					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
10	ゲームシミュレーション法などを用いた進路学習の展開の方法					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義及び価値カードを用いたゲーミング・シミュレーション	
11	進路指導主事の役割と関係機関の連携					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
12	進路指導とキャリア・カウンセリング					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
13	キャリア教育と地域の人的・物的資源の活用					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
14	キャリア・カウンセリングの技法					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義及びカウンセリングのロールプレイ実習	
15	進路選択の意思決定のための支援と方法					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
吉田辰雄著「最新生徒指導・進路指導論」図書文化 2006年1月 ¥2,100									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 レポ ー ト (50%)、授 業 内 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 自 分 の こ れ ま で の 進 路 選 択 を 振 り 返 り な が ら、さ ら に こ れ か ら の 生 き 方 を 見 つ め て 学 習 を す す め る こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	道 徳 教 育 指 導 法 (Methodology of Moral Educaion)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	深 谷 野 亜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
講 義 の 前 半 は、道 徳 教 育 の 歴 史 や 学 校 教 育 に お け る 道 徳 の あ り 方 等、道 徳 の 基 礎 的 な 知 識 を 学 習 す る。後 半 で は、自 ら が 考 え た 道 徳 的 課 題 に 即 し て、授 業 を 計 画 し、模 擬 授 業 を 行 う こ と で、実 践 的 な 力 を 育 成 す る。									
授 業 目 標 :									
道 徳 と は 何 か を 理 解 し、学 校 教 育 の 中 で 生 徒 の 道 徳 性 の 育 成 を い か に 取 り 組 ん で い く の か を 主 体 的 に 考 え ら れ る こ と が 可 能。下 位 目 標 と し て 次 の 3 点 が あ る。①現 代 中 学 生 の 道 徳 を 確 認 し、学 校 教 育 の 中 で 道 徳 教 育 が 如 く 実 践 さ れ て い る の か を 学 習 す る。②道 徳 の 課 題 に つ い て、今 日 の 課 題 だ け で な く 歴 史 的 視 点 を も っ て 理 解 で き る。③道 徳 を 指 導 す る 際 の 教 材 の 特 性 を 理 解 し、そ れ を 活 か し た 授 業 を 計 画 で き る。④指 導 案 作 成 と 模 擬 授 業 を 通 じ て 実 践 的 な 指 導 力 を 身 に つ け る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	道 徳 と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		講 義	
2	子 ど も の 道 徳 判 断 の 発 達 - コ ー ル バ ー グ を 中 心 に -					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		講 義	
3	社 会 変 化 と 道 徳					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		講 義	
4	情 報 化 社 会 と 道 徳					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		演 習	
5	道 徳 教 育 の 歴 史 (1) 「修 身」 の 時 代					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		演 習	
6	道 徳 教 育 の 歴 史 (2) 道 徳 の 時 代					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		演 習	
7	道 徳 教 育 の 内 容 (1) 主 と し て 自 分 自 身 に 関 す る こ と					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		演 習	
8	道 徳 教 育 の 内 容 (2) 主 と し て 人 と の 関 わ り に 関 す る こ と					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		演 習	
9	道 徳 教 育 の 内 容 (3) 主 と し て 集 団 や 社 会 と の 関 わ り に 関 す る こ と					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		演 習	
10	道 徳 教 育 の 内 容 (4) 主 と し て 生 命 や 自 然 や 崇 高 な も の と の 関 わ り に 関 す る こ と					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		演 習	
11	学 校 教 育 全 体 で、子 ど も の 道 徳 を 育 む - 道 徳 教 育 推 進 教 師 / 全 体 計 画 と 年 間 指 導 計 画 -					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		演 習	
12	指 導 の 諸 方 法 - 話 し 合 い ・ 読 み も の ・ 説 話 ・ 視 聴 覚 教 材 の 活 用 -					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		演 習	
13	道 徳 教 育 に お け る 評 価 の あ り 方 を 考 え る					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		演 習	
14	道 徳 の 指 導 案 の 作 成					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		演 習	
15	模 擬 授 業 と 振 り 返 り - 反 省 を 次 回 の 授 業 に 活 か す に は -					事 前 : 今 週 分 の 配 布 資 料 を 読 む 事 後 : 配 布 資 料 に 明 記		演 習	
教 本 :					参 考 文 献 :				
文 部 科 学 省 「中 学 校 学 習 指 導 要 領 解 説 道 徳 編」 (最 新 版)					授 業 中、適 宜 関 連 図 書 を 紹 介 す る。				
そ の 他、作 成 し た レ ジ ュ ム を 配 付 す る。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
授 業 へ の 取 り 組 み (課 題 提 出 や 授 業 態 度) を 50%、定 期 試 験 を 50% と し、総 合 評 価 を 行 う。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
特 別 な 教 科 「道 徳」 は 生 徒 一 人 一 人 が 考 え、議 論 す る 教 科 を 目 指 し た 教 科 で す。積 極 的 に 授 業 に 取 り 組 む こ と で、一 人 一 人 の 道 徳 判 断 を 確 認 し ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	特 別 活 動 論 (Methodology of Special Activity)						科 目 分 類	教 職 課 程 科 目	
担 当 教 員	高 野 安 弘								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 : 本講義は、教科活動と同様、学校教育において重要な位置を占めている。望ましい特別活動のあり方・進め方を理解し、特別活動の実践の指導が出来る基礎力を養う。									
授 業 目 標 : 学校における特別活動の役割・意義を理解する。その下位目標として次の4点がある。 ①学校における特別活動の意義が理解できる。②特別活動において重視される「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という三点を理解し、特別活動の指導に活かすことができる。③「チームとしての学校」とは何かを理解し、連携して取り組むことの重要性を意識する。④特別活動における学校・地域・家庭の連携の重要性が理解できる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 の す す め 方 / 今 ま で 経 験 し て き た 特 別 活 動 を 振 り 返 る					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
2	特 別 活 動 の 意 義 や 理 念 に つ い て 学 ぶ					事 前 : 社 会 の 現 状 を 知 る 事 後 : 子 ど も の 現 状 を 調 査		講 義	
3	学 習 指 導 要 領 か ら、特 別 活 動 と は 何 か を 理 解 す る					事 前 : 特 別 活 動 の 新 旧 を 比 較 事 後 : 特 別 活 動 の 原 理 を 復 習		講 義	
4	教 育 課 程 に お け る 特 別 活 動 の 位 置 づ け					事 前 : 教 育 課 程 の 新 旧 を 比 較 事 後 : 特 別 活 動 目 標 を 分 析		講 義	
5	特 別 活 動 と 教 科 学 習 と の 関 わ り					事 前 : 特 別 活 動 目 標 構 造 図 を 書 く 事 後 : 道 徳 と の 関 連 を ま と め る		講 義	
6	特 別 活 動 と 総 合 的 な 学 習 の 時 間					事 前 : 職 場 体 験 の 経 験 を 考 え る 事 後 : 自 己 の 経 験 を ま と め る		講 義 と 演 習	
7	特 別 活 動 の 特 質 を 理 解 す る ① 学 級 活 動 ・ H R に つ い て					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義	
8	特 別 活 動 の 特 質 を 理 解 す る ② 生 徒 会 活 動 ・ 学 校 行 事					事 前 : 小 中 高 の 目 標 を 比 較 事 後 : ク ラ ブ 活 動 の 歴 史 ① を 読 む		講 義	
9	学 校 行 事 に お け る 指 導 法 の 特 徴 と 生 徒 の 学 び					事 前 : 学 校 行 事 の 経 験 を 発 表 事 後 : な し		講 義 と 演 習	
10	特 別 活 動 の 目 標 設 定 と 指 導 法 に つ い て 考 え る					事 前 : な し 事 後 : 指 導 方 法 を ま と め る		講 義	
11	特 別 活 動 の 指 導 計 画 の 作 成					事 前 : な し 事 後 : 小 テ ス ト の 準 備		演 習	
12	学 級 の 集 団 形 成 の 方 法 を 考 え る 一 構 成 的 グ ル ー プ エ ン カ ウ ン タ ー					事 前 : エ ク サ イ ズ を 作 成 す る 事 後 : 課 題 発 表 の 準 備		講 義 と 演 習	
13	特 別 活 動 に お け る 評 価 の 仕 方 と そ の 活 か し 方 を 考 え る					事 前 : 課 題 発 表 を 決 め る 事 後 : 課 題 発 表 の 準 備		演 習	
14	学 校 の 枠 を 超 え た 特 別 活 動 の 実 践 例 か ら 考 え る					事 前 : 課 題 発 表 の 準 備 事 後 : 課 題 発 表 の 準 備		演 習	
15	こ れ か ら の 特 別 活 動 の 展 望 と 課 題					事 前 : 課 題 発 表 の 準 備 事 後 : 課 題 発 表 の ま と め		講 義 と 演 習	
教 本 : 『中 学 校 学 習 指 導 要 領 解 説 特 別 活 動 編』 (最 新 版) そ の 他、毎 回 作 成 し た レ ジ ュ メ を 配 付 し、そ れ に そ っ て 授 業。					参 考 文 献 : 授 業 中、適 宜 関 連 図 書 を 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 へ の 取 り 組 み (課 題 提 出 や 発 表、授 業 態 度) を 60%、定 期 試 験 を 40% と し、総 合 評 価 を 行 う。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 授 業 記 録 を と り、い つ で も 質 問 に 答 え、提 出 で き る 体 制 を 取 る。教 育 実 習 時 を 想 定 し て 学 ぶ									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	学校図書館メディアの構成 (School Libraries and Media)						科 目 分 類	司 書 教 諭 科 目	
担 当 教 員	徳本 善彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ・学校図書館で主に使用される資料について、それぞれの用途・役割について解説する。 ・実際の資料の流れについて、分類・書誌など具体的な事項について理解する。									
授業目標： ・学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図る									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義	
2	学校図書館メディアの種類					事前：なし 事後：なし		講義	
3	学校図書館メディアの特性と学習への活用					事前：なし 事後：なし		講義	
4	学校図書館メディアの構築					事前：なし 事後：なし		講義	
5	学校図書館メディアの選択と収集					事前：なし 事後：なし		講義	
6	学校図書館メディアの選択のための情報源					事前：なし 事後：なし		講義	
7	情報ファイル資料の構築					事前：なし 事後：なし		講義	
8	学校図書館メディアの維持と発展					事前：なし 事後：なし		講義	
9	学校図書館メディアの組織化					事前：なし 事後：なし		講義	
10	学校図書館メディアの配架					事前：なし 事後：なし		講義	
11	分類の意義と機能、日本十進分類法等の解説					事前：なし 事後：なし		講義	
12	件名標目表の解説					事前：なし 事後：なし		講義	
13	目録の意義と機能、日本目録規則の解説					事前：なし 事後：なし		講義	
14	目録の機械化					事前：なし 事後：なし		講義	
15	多様な学習環境と学校図書館メディアの配置					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： 授業時に資料を配布する。					参考文献： 『学校図書館メディアの構成』（全国学校図書館評議会）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 学校図書館の資料整理について、一通りの基本的なことができるように教えます。授業の中で、分類や目録の採り方などについても実践的に取り組みます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報メディアの活用 (Practical Use of Information Media)						科目分類	司書教諭科目	
担 当 教 員	森 寛和								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 情報メディアにかかわる具体的な知識とスキルについて論じるとともに、その歴史的背景や遵守しなければならない情報倫理などについて講述します。									
授業目標： 学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図ります。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、高度情報社会と人間（情報メディアの発達と変化を含む）					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
2	高度情報通信社会の構造と特質（情報メディアの特性と選択を含む）					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
3	高度情報通信社会の倫理と法					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
4	情報通信技術と学校教育					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
5	学校図書館と情報リテラシー教育					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
6	学校図書館と情報検索（データベースと情報検索を含む）					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
7	学校図書館とコンテンツ（視聴覚メディアの活用を含む）					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
8	教科教育と情報メディアの活用（教育用ソフトウェアの活用を含む）					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
9	コンピュータを活用しての情報コンテンツの制作とそのツール					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
10	インターネットによる情報発信とコンテンツの制作					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
11	適切妥当な情報利用（インターネットによるコミュニケーション活用術）					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
12	学校図書館メディアと著作権					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
13	学校図書館をめぐるネットワーク					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
14	学校図書館と情報メディア教育の将来像					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：当該講義中指定		講義	
教本： 情報社会論 北原宗律（著） ふくろう出版社					参考文献： 講義の都度、必要に応じて紹介します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを定期試験で評価します。 授業内容への参加状況等など、平常点はこれを加味します（平常点20%、定期試験80%）。									
学生へのアドバイス： 本講義では多くの場合オムニバス形式での講義となるため、講義の内容は都度把握することが重要となります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光文化論 (Tourism and Culture)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>観光と文化（社会）の様々な関係について、観光客という視点から観光活動の現状や歴史的な経緯、各種文化の特性等を踏まえて、よりよき観光文化形成のあり方について探求する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 観光客の行動特性、観光の効果について修得する。 2. よりよき観光文化の形成のあり方について修得する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	観光文化の構造					事後：今回の需要内容		講義	
2	観光文化の関連要素					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	観光の発生の構造					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	観光の発生の要因					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	観光旅行の行動形態					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	観光ルートと観光コース					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	観光コースと旅行商品					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	観光地の構造					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	観光地の変容構造					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	世界遺産と観光地の変容					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	災害と観光					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	観光旅行の変容					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	ユニバーサルツーリズム					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	観光の波及効果					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	よりよき観光文化の形成と地域振興					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
<p>教本：</p> <p>各回プリント配布</p>					<p>参考文献：</p> <p>必要時に指示</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト等（40%）、定期試験（60%）に授業態度（授業内容への参加状況等）を加味して総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>ここで扱う観光文化は、観光客が行動することにより形成されてくる総てであり、最も基本的なことでもある。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 文 化 論 I (Business Culture I)						科 目 分 類	学 芸 員 科 目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>経営と文化との関係づけを通して現実の経営における諸問題について学習していきます。この学習は、企業活動の国際化の進展・深化ならびに社会関係の複雑化とともに重要性をより増しています。そこで、この授業では、経営と文化の関係づけの基礎となる見方・考え方・感じ方・決め方を検討し、授業計画に示した各課題をひとつずつ解説していきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>経営を文化の視座からアプローチすることにより、経営の諸問題に対応可能な実践知を身につけていきます。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	経営文化論と松蔭大学					事前：シラバス 事後：シラバス		講義	
2	経営文化論の背景					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
3	経営と文化					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
4	経営と文化の諸問題					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
5	経営における効率性原理と人間性原理に関する文化基準					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
6	二つのアプローチ					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
7	日米比較経営論と日本の経営論					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
8	経営文化の変容モデル					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
9	多文化組織の経営					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
10	国際経営組織の心理と文化					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
11	事例学習1——小糸製作所のコーポレート・ガバナンス：日本の経営者 vs 米国の株主(1)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
12	事例学習1——小糸製作所のコーポレート・ガバナンス：日本の経営者 vs 米国の株主(2)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
13	事例学習2——ソニーの海外事業買収と経営文化(1)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
14	事例学習2——ソニーの海外事業買収と経営文化(2)					事前：印刷資料 事後：ノートおよび印刷資料		講義	
15	経営文化学への構想					事前：参考文献 事後：ノートおよび参考文献		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
印刷資料を用います。					村山元英・小柏喜久夫『経営文化論序説』文真堂、¥3,800+税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 し ます。									
授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠 席 し な い こ と が 大 前 提 で す。粘 り 強 い 学 習 努 力 を 期 待 し て い ます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	歴史考古学 (Archeology)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	藤井 一二								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>日本考古学の成果と意義を学ぶため、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代など各時代の考古学について、時代特性を表象する代表的な考古・歴史資料を素材とし、人・社会・文化の諸関係を学ぶ。そこでは、遺跡・遺物に関する画像・図表・観察データを駆使して、自らレポート・解説文を書き上げる作業を積み重ねる。</p> <p>授業目標：</p> <p>考古学は、遺跡や遺物をつうじて人類の歩みを学ぶ学問であるので、日本文化の発展段階を各時代の生産・生活・社会の特色と変化を中心に把握し、現代に残る文化遺産に凝縮された過去の人々の知恵・技術・精神文化について解釈し、理解を深める。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・理解		思考・判断		技 能		関心・意欲・態度		実 践 力	
○		◎				◎		○	
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	考古学の意義・目的・関連諸科学について					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
2	旧石器（先土器）時代の遺跡・石器・文化の特色					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
3	縄文時代の集落遺跡・貝塚・土器形態、社会と生活文化					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
4	弥生時代の生産遺跡・土器・金属器・農耕具と社会構造の特徴					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
5	古墳時代の古墳形態・葬装具・埴輪・武具・生活具					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
6	飛鳥・奈良時代の考古学（Ⅰ）—調査と保存—					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
7	飛鳥・奈良時代の考古学（Ⅱ）—宮・寺院跡の発掘成果—					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
8	飛鳥・奈良時代の考古学（Ⅲ）—壁画・木簡—					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
9	奈良・平安時代の国庁・郡衙・駅家・津遺跡（Ⅰ）					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
10	奈良・平安時代の出土銭貨と荘園遺跡・遺物（Ⅱ）					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
11	鎌倉～戦国時代の考古学（Ⅰ）—城郭・集落跡					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
12	鎌倉～戦国時代の考古学（Ⅱ）—寺院・荘園					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
13	江戸時代の考古学—城郭・窯・経塚跡					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
14	近・現代の考古（新資料）発見と埋蔵文化財の保護・活用					事前：適宜、指示します 事後：適宜、指示します		講義	
15	旧石器～江戸時代の選択課題について—ミニレポートの作成					事前：適宜、指示します 事後：なし		講義	
教本： 4月初旬に連絡します。					参考文献：				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 文化財や文化遺産（遺跡・遺物）について学びたい受講生を希望します。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学 (Sociology)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	佃 直毅								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>社会と文化は人間の行為を通して制度という標準化された行為様式によって形づくられてきたものである。標準化され、制度化された人間の行為の集積が社会構造をつくり変動させ、社会としての機能を支えている。本授業科目では、社会を人間の行為を基盤においた社会のとらえ方を、いくつかの社会的構造や機能を通して学習する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>社会学の視点で、身の回りの社会の様子を見て、社会の理解を深めることができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	社会学的なものの方					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
2	家族とは何か					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
3	家族のはたらき					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
4	家族関係の日本の特質					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
5	消えゆく「里」と「村人」たち					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
6	都市とは何か					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
7	コミュニティーの変貌					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
8	組織の中の人間労働					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
9	職場の中の緊張関係					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
10	職場生活・職業生活の変化					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
11	労働における人間の復権					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
12	歴史と社会の変動					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
13	近代化という変動					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
14	社会学と社会病理の解明					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
15	社会学の研究方法					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
<p>教本：</p> <p>秋元律郎他著「社会学入門」（新版）有斐閣新書</p>					<p>参考文献：</p> <p>姜尚中著「トーキョー・ストレンジャー」集英社 他は授業内で適宜紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>現実の社会生活に目を向けて、学んだ内容をあてはめてみること。テキストを読んでから、授業に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学概論 (Sociology)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	佃 直毅								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>社会と文化は人間の行為を通して制度という標準化された行為様式によって形づくられてきたものである。標準化され、制度化された人間の行為の集積が社会構造をつくり変動させ、社会としての機能を支えている。本授業科目では、社会を人間の行為を基盤においた社会のとらえ方を、いくつかの社会的構造や機能を通して学習する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>社会学の視点で、身の回りの社会の様子を見て、社会の理解を深めることができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	社会学的なものの方					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
2	家族とは何か					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
3	家族のはたらき					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
4	家族関係の日本の特質					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
5	消えゆく「里」と「村人」たち					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
6	都市とは何か					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
7	コミュニティーの変貌					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
8	組織の中の人間労働					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
9	職場の中の緊張関係					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
10	職場生活・職業生活の変化					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
11	労働における人間の復権					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
12	歴史と社会の変動					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
13	近代化という変動					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
14	社会学と社会病理の解明					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
15	社会学の研究手法					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
<p>教本：</p> <p>秋元律郎他著「社会学入門」（新版）有斐閣新書</p>					<p>参考文献：</p> <p>姜尚中著「トーキョー・ストレンジャー」集英社 他は授業内で適宜紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>現実の社会生活に目を向けて、学んだ内容をあてはめてみる。テキストを読んでから、授業に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会学概論 I (Sociology I)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	佃 直毅								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>社会と文化は人間の行為を通して制度という標準化された行為様式によって形づくられてきたものである。標準化され、制度化された人間の行為の集積が社会構造をつくり変動させ、社会としての機能を支えている。本授業科目では、社会を人間の行為を基盤においた社会のとらえ方を、いくつかの社会的構造や機能を通して学習する。</p> <p>授業目標：</p> <p>社会学の視点で、身の回りの社会の様子を見て、社会の理解を深めることができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	社会学的なものの方					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
2	家族とは何か					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
3	家族のはたらき					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
4	家族関係の日本の特質					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
5	消えゆく「里」と「村人」たち					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
6	都市とは何か					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
7	コミュニティーの変貌					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
8	組織の中の人間労働					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
9	職場の中の緊張関係					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
10	職場生活・職業生活の変化					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
11	労働における人間の復権					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
12	歴史と社会の変動					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
13	近代化という変動					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
14	社会学と社会病理の解明					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
15	社会学の研究方法					事前：予習（テキスト） 事後：復習（テキスト）		講義	
<p>教本：</p> <p>秋元律郎他著「社会学入門」（新版）有斐閣新書</p>					<p>参考文献：</p> <p>姜尚中著「トーキョー・ストレンジャー」集英社 他は授業内で適宜紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>現実の社会生活に目を向けて、学んだ内容をあてはめてみる。テキストを読んでから、授業に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	生涯学習概論 (Liflong Learning)						科目分類	学芸員科目		
担 当 教 員	佃 直毅									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>生涯生活全般について理解を深めるとともに、生涯学習の理論・政策や今日の社会における生涯学習の課題等について明確にするとともに、生涯学習に関する諸分野の具体的展開や事例の学習を通して、実践的な能力の基礎を身につける学習を行う。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習、社会教育の専門的な支援職員の学校教員、社会教育主事、学芸員、図書館司書等として活躍するのに必要な考え方や知識・能力の基礎を培うことを目的としている。これまでの自らの教育体験をふり返り今後の自分自身の「生き方」を探ることもこの授業の目的である。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	生涯学習とは何か (1)本講義のガイダンスと計画 (シラバス使用)					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
2	生涯学習とは何か (2)生涯学習の定義					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
3	生涯学習の現代的意義					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
4	生涯教育・生涯学習論の系譜					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
5	生涯学習論の国際的動向					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
6	生涯学習と家庭教育					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
7	生涯学習と学校教育					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
8	生涯学習と社会教育					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
9	生涯学習と学校・家庭・社会教育の連携と一体化					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
10	生涯学習振興行政の役割					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
11	生涯学習の内容と方法…生涯各期の学習課題					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
12	生涯にわたるキャリア形成と学習課題 (自己啓発の意義)					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
13	高齢社会化と生涯学習の課題					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
14	生涯学習と近代の協働的アプローチ					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
15	今後の「生涯学習を考える」まとめと今後の学習課題の明確化					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義		
<p>教本：</p> <p>「生涯学習概論」</p>					<p>参考文献：</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>できるだけ、博物館や美術館等を訪問したり、関連するテレビ番組等を見て、学芸員の仕事や社会教育主事の仕事の理解をして下さい。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	生活環境論 (Environmental issues in Living area)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	金子 勲								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>福島原発事故による放射能汚染問題は、原子力発電という非常に効率の良いエネルギー産生システムが、次世代まで影響を及ぼす環境破壊をもたらすことを現実の問題として認識させた。一方で、原子力発電は同じく環境問題である地球温暖化防止の一つの切り札とも捉えられていた。このように、我々を取り巻く「環境」は私たちの生活に大きな影響をあたえるものであるが、環境問題は相互に複雑に関係し単純ではない。この授業では現実の環境問題を提示するとともに、それに対する最新の科学技術的対応策および身近な環境を保全し、環境破壊から派生する危険性から身を守る方策についても提示する。まず、ガイダンスで、初めて環境問題を原理的に把握し、「現代」を考えるための必読の書であるレイチェル・カーソンの「沈黙の春」について紹介し、つづいて、福島原発放射能汚染、国際的な公害問題になった大気汚染、緊急対策が必要な地球温暖化、水質汚染、農薬汚染等を取り上げ、さらに、都市における環境問題、地球環境問題、環境ビジネス等に話題を広げていく予定である。なお、授業は毎回、資料を配布し、パワーポイントで説明し、その中から小テスト問題を出題する。次週にその問題の解答を説明し、理解を深めることに努める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>現代科学文明の驚異的な発展は、人類に大きな豊かさと便利をもたらしたが、その反面、当初予想していなかった地球規模の環境破壊（地球温暖化、放射能汚染等）を引き起こすことが認識された。今後も、人類が繁栄していくためには、これまでの問題点を明確に把握し、それを克服する持続可能な発展 (Sustainable Development) の確立に向けて真剣に舵を切らなければならない。本講義では、持続可能な発展 (Sustainable Development) を維持しつつ、健康な生活を保持するために、身近な環境から地球環境までの現状と問題点とその対策を科学的に理解することを目的とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：沈黙の春、レイチャル・カーソン伝記、環境問題、DTT、水俣病、日米の対応力の差、公害立国。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
2	放射能汚染：核分裂反応、原発事故、放射線量と人体への影響、福島原発事故の教訓、今後のエネルギー資源。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
3	大気汚染：大気汚染物質、大気汚染の歴史、PM2.5の健康に及ぼす影響、アスベスト、大気汚染物質の解釈拡大。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
4	水質汚染：鉱山廃液と生活排水、足尾銅毒事件、イタイイタイ病、BOD、アオコ、活性汚泥法、干潟の活用。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
5	土壌汚染と地下水汚染：スーパーファンド法、6価クロム、シアン、ダイオキシン、土壌汚染発生の特殊性。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
6	騒音、振動、悪臭：騒音によるトラブル、防音対策、臭覚と悪臭、消臭法の問題点。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
7	ヒートアイランド現象：熱中症の増加、ヒートアイランドの対策法、コジェネレーションシステム、緑のカーテン、地球温暖化との関係。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
8	地球温暖化とCO ₂ 排出：地球温暖化とは、政府間パネル (IPPC)、炭酸ガスの急激な上昇、温室効果、氷河消失、海面上昇、温暖化抑制対策、炭素税、京都議定書。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
9	光化学スモッグと光化学オキシダント：白いスモッグ、オゾン、中国からの飛来、窒素酸化物除去システム。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
10	オゾン層破壊：オゾンの役割、紫外線防御、オゾンホールの出現、フロン、一酸化窒素、地球温暖化とオゾン。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
11	酸性雨：二酸化硫黄、窒素酸化物、森林破壊、建造物・文化財破壊、越境汚染、監視体制、脱硫・脱窒素装置。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
12	産業廃棄物とリサイクル：一般廃棄物と産業廃棄物、廃棄物処理法、廃棄物減量・再利用・リサイクル。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
13	化学物質汚染：有機メチル水銀、農薬、ダイオキシン、PCB、生物濃縮、有機リン化合物、生体薬物解毒系。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
14	森林と水源：日本は森林大国、貴重な淡水、外国による買い占め、里山、環境保全、伐採機械化、耐火木材開発。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
15	海洋の汚染：廃油汚染、重金属汚染、赤潮・青潮、漂流物質汚染、炭酸ガスによる海水の酸性化。					事前：テキストの精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
<p>教本：</p> <p>教科書なし。毎回、資料を配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>1. 環境科学入門、川合真一郎等、化学同人：¥2,200。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>①毎回、小テストを行う。成績はテスト点80%、平常点20%で総合評価する。期末試験は必要に応じて行う。</p> <p>②授業中の私語、着席、居眠り、携帯メールは厳禁。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>現在、化石燃料使用等による地球温暖化が急速に進み、深刻な環境破壊が進行している現状を身近に認識し、それに対応する防止対策を学んでほしい。積極的な参加を望む。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。毎週木曜日の昼休みあるいは授業終了後15分程度。非常勤講師室。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	日 本 文 化 研 究 A (Japanese Study A)						科 目 分 類	学 芸 員 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 穂								
履 修 条 件	前 提 科 目	博 物 館 学 芸 員 履 修 者							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
1. 風 俗 学 と は な に か を 理 解 す る。									
2. 風 俗 の 歴 史 に つ い て 、 特 に 日 本 の 風 俗 史 に つ い て 共 に 学 び 、 考 え る 。									
3. 「風 俗」 に 関 し て 主 体 的 に 考 え る 力 を 養 う 。									
授 業 目 標 :									
日 本 の 風 俗 の 成 り 立 ち や そ の 基 本 的 な 衣 食 住 を 理 解 し 、 ま た 、 日 本 の 風 俗 文 化 や 政 治 と ど の よ う な 相 互 関 係 に あ っ た か に つ い て 理 解 を 深 め る こ と を 目 標 と す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 風俗とは。日本風俗の流れ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	(通史) 風俗学と風俗史					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	(古代) 古代人の生活					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	(古代) 古代人の産業					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	(中古) 平安時代の生活					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	(中古) 平安時代の信仰、陰陽師と加持祈祷					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	(中世) 禅とその文化					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	(近世) 近世の風俗と海外との交流					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	近現代における日本の風俗 (衣食住の展開)					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	近代日本における風俗					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	風俗の伝統とモダニズム					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	学生の発表1					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	学生の発表2					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	学生の発表3					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授 業 時 に プ リ ン ト を 配 布					授 業 時 に 指 示 す る 。				
					『日本風俗史事典』日本風俗史学会編 弘文堂 竹内誠編著 『江戸文化の見方』(角川選書) 角川学芸出版 2010年 竹内誠編著				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。									
発 表 と レ ポ ー ト (50%) ・ 期 末 試 験 (50%) で 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と 。 欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す 。 最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	博物館概論 (Museum Introduction)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	川添 裕子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	世界史、日本史の基本を理解していることが前提です							
授業概要： 1. 博物館の目的、方法、構成について理解する。 2. 博物館の定義について理解する。 3. 博物館の歴史と現状について理解する。									
授業目標： 1. 博物館に関する基礎的知識を理解する。 2. 博物館に関する専門性の基礎となる能力を養う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：なし		講義	
2	博物館学の目的					事前：なし 事後：教科書		講義	
3	博物館学の方法					事前：なし 事後：教科書		講義	
4	博物館学の構成					事前：なし 事後：教科書		講義	
5	博物館学の歴史					事前：なし 事後：教科書		講義	
6	博物館の定義					事前：なし 事後：教科書		講義	
7	博物館の種類					事前：なし 事後：教科書		講義	
8	博物館の目的					事前：なし 事後：教科書		講義	
9	博物館の機能					事前：なし 事後：教科書		講義	
10	博物館の歴史と現状					事前：なし 事後：教科書		講義	
11	我が国及び諸外国の博物館の歴史					事前：なし 事後：教科書		講義	
12	我が国及び諸外国の博物館の現状					事前：なし 事後：教科書		講義	
13	学芸員の役割（定義、役割、実態）					事前：なし 事後：教科書		講義	
14	博物館関係法令					事前：なし 事後：教科書		講義	
15	まとめ					事前：なし 事後：教科書		講義	
教本： 初回授業で指定する。					参考文献： 随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況とリアクションペーパー（20%）、レジュメ・レポート作成（30%）、定期試験（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 遅刻や欠席は原則として認められません。就職活動等でやむをえず遅刻、欠席する場合は、事前に担当教員に連絡し、事後に届を提出してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	博物館教育論 (Museum of Education Theory)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	石上 七穂								
履 修 条 件	前提科目	博物館学芸員資格科目							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>20世紀における博物館は主に資料（モノ）のためにあったが、21世紀の博物館は利用者（ヒト）のためにあると言われている。今日、博物館は資料の収集、保管、調査研究、展示を含む教育、広報を含む運営など、博物館機能のすべてにおいて、教育的役割を重視する必要に迫られている。本講座では、博物館利用の教育的意義と今日の課題を学び、教育的役割を中心に据えた利用者のための博物館のあり方について考察する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>利用者が主体となる博物館のあり方の可能性およびその一層の充実化を図る上での課題を考察するための能力、さらに博物館を有効に活用する能力を育成することを目的とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	博物館教育の理念					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	博物館教育の歴史と今日における意義					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	博物館展示の教育的意義					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	展示と来館者をつなぐ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	人文科学系博物館のプログラム					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	自然科学系博物館のプログラム					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	資源の蓄積と公開					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	学校と博物館					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	家族と博物館					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	地域と博物館					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	アクセス可能な博物館教育：その理念と実践					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	博物館におけるボランティア					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	教育活動の評価					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	博物館の連携					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	利用者主体の博物館教育：展望と課題					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
<p>教本：</p> <p>『博物館教育論』小笠原喜康 他編 ぎょうせい ¥3,048+税</p>					<p>参考文献：</p> <p>必要に応じて関連書式を提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>成績の評価は、平常点と発表（50%）、試験（50%）で行う。</p> <p>仔細は授業時に明示する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>予習・復習を行うこと。欠席をしないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>水曜日 昼休み</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	博物館経営論 (Museum Management)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	白澤 恵一								
履 修 条 件	前提科目	博物館概論等の他の科目を学んでおくことが好ましい。							
	その他	他館を見学しておくことが好ましい。							
授業概要： 博物館の経営基盤について学び、博物館の経営とは何かについて考える、そして博物館と地域の連携について学ぶ。									
授業目標： 博物館の形態面と活動面における適切な管理面について理解し、博物館経営に関する基礎的能力を養う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	本講義の全体について展開する					事前：なし 事後：I 頁～IV 頁精読		講義	
2	ミュージアムマネジメントとは					事前：1 頁～5 頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
3	行政制度について					事前：5 頁～7 頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
4	財務について					事前：8 頁～9 頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
5	施設・設備について					事前：10 頁～14 頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
6	組織と職員について					事前：14 頁～19 頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義	
7	使命と計画と評価について					事前：20 頁～23 頁精読 事後：実習		実践	
8	博物館倫理について					事前：23 頁～28 頁精読 事後：実習		実践	
9	博物館の危機管理について					事前：29 頁～39 頁精読 事後：討論		演習	
10	利用者との関係（広報・マーケティング、ミュージアムショップ等）					事前：41 頁～51 頁精読 事後：演習		演習	
11	市民参画（友の会、ボランティア、支援組織等）					事前：53 頁～57 頁精読 事後：演習		演習	
12	博物館ネットワーク・他館との連携について					事前：57 頁～62 頁精読 事後：他館見学		他館の見学	
13	他機関（行政・大学・類縁機関等）との連携					事前：63 頁～65 頁精読 事後：演習		演習	
14	地域社会と博物館（地域の活性化、地域社会との連携）					事前：63 頁～65 頁精読 事後：演習		演習	
15	本講義の全体について質疑やテストについて					事前：レポートの返却 事後：授業内容のまとめ		講義	
教本： 白澤恵一著『博物館経営論』青山社					参考文献： 必要に応じて指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 期末の筆記試験の成績（30%）と毎回レポート（70%）により評価する。									
学生へのアドバイス： 他の博物館を見てください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	3	時 間 数	90	授 業 形 態	実 習
授 業 科 目 (英 文)	博 物 館 実 習 (Practical Training in Museum)						科 目 分 類	学 芸 員 科 目	
担 当 教 員	白 澤 恵 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	博 物 館 概 論、博 物 館 経 営 論、博 物 館 資 料 論、博 物 館 資 料 保 存 論、博 物 館 展 示 論、博 物 館 教 育 論、 博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論							
	そ の 他	2 単 位 は 通 常 実 習、そ の 後、1 単 位 分 館 内 で 7 日 ～ 10 日 実 習 を 行 う。							
授 業 概 要： 学 芸 員 資 格 取 得 た め の 総 仕 上 げ と なる 必 修 科 目 で あり。学 芸 員 と し て 必 要 な 資 料 の 整 理 ・ 取 扱 い、調 査 ・ 研 究 方 法、視 聴 覚 メ デ ィ ア の 活 用、展 示 解 説、展 示 の 計 画 ・ 設 営、講 座 の 企 画 等 に 関 す る 実 務 技 術 を 実 習 す る こ と が 本 授 業 の 目 標 で あり。本 科 目 は 学 内 実 習 と 学 外 実 習 (本 学 は 大 学 資 料 館 で 行 う) と に よ っ て 構 成 さ れ る。現 場 等 で の 実 習 を 通 じ て、博 物 館 学 等 の 既 習 科 目 の 理 解 を 更 に 深 め る こ と を 目 指 す。事 前 学 習 で は、大 学 に て 実 習 に 必 要 な 知 識 や マ ナ ー 等 を 学 び、事 後 学 習 で は 実 習 の 成 果 を 発 表 し、相 互 に 実 習 体 験 を 振 り 返 り、学 んだ 内 容 に つ い て 議 論 す る。									
授 業 目 標： 学 内 実 習 と し て 事 前 ・ 事 後 指 導 や 見 学 実 習、実 務 実 習 を 行 う。ま た、館 園 実 習 を 行 う。到 達 目 標 は 見 学 を 含 む 学 内 実 習 や 館 園 実 習 で の 現 場 体 験 を 通 し、多 様 な 館 種 の 実 態 や 学 芸 員 の 業 務 を 理 解 し、実 践 的 理 解 能 力 を 養 う。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)		事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				授 業 形 態		
1	ガイダンス — 博 物 館 資 料 を ど の よ う に 考 え る の か —		事 前：博 物 館 概 論 等 の ノ ー ト を 見 直 す。 事 後：「博 物 館 資 料 論」で 学 んだ こ と を 踏 ま え て 考 え る。				博 物 館 概 論 等 6 科 目 の 実 習 の 流 れ を 確 認 す る と 共 に、博 物 館 の 役 割 を 考 え る。		
2	考 古 ・ 工 芸 資 料 の 種 類 と 特 質		事 前：「博 物 館 資 料 論」受 講 時 の ノ ー ト を 見 直 す。 事 後：資 料 の 特 質 と 取 り 扱 い の 注 意 の 深 い 関 係 を 確 認。				考 古 ・ 工 芸 資 料 に つ い て、基 礎 的 知 識 を 習 得 す る。		
3	調 書 作 成 の 意 義 と そ の 技 術		事 前：資 料 保 存 論 の ノ ー ト を 見 直 す。 事 後：資 料 分 析 の 確 認。				博 物 館 資 料 の 調 書 作 成 に つ い て 基 礎 的 な 知 識 を 習 得 す る。		
4	資 料 の ス ケ ッ チ — 土 器、灯 火 器 な ど —		事 前：資 料 の 取 り 扱 い に つ い て、注 意 点 の 確 認 を す る。 事 後：資 料 の 背 景 に あり 情 報 を 整 理 す る。				記 録 と し て の ス ケ ッ チ に つ い て 基 礎 的 な 知 識 を 習 得 す る。		
5	写 真 撮 影 の 方 法 と 理 論 — 土 器、灯 火 器 な ど —		事 前：記 録 と し て 写 真 に つ い て、そ の 特 徴 を 考 え る。 事 後：写 真 の 知 識 や カ メ ラ の 仕 組 み に つ い て、確 認 す る。				写 真 と カ メ ラ に つ い て、基 礎 的 な 知 識 を 習 得 す る。		
6	写 真 撮 影 の 実 践 — 土 器、灯 火 器 な ど —		事 前：資 料 の 取 り 扱 い に つ い て、注 意 点 の 確 認 を す る。 事 後：資 料 の 背 景 に あり 情 報 を 整 理 す る。				写 真 撮 影 を 実 践 す る。		
7	拓 本 の 方 法 — 考 古 資 料 (縄 文 土 器)		事 前：事 前 に 拓 本 と は 何 か、調 べ て お く。 事 後：拓 本 を 行 う う え で の 知 識 に つ い て 整 理 す る。				記 録 と し て の 拓 本 に つ い て、基 礎 的 な 知 識 を 習 得 す る。		
8	拓 本 の 実 践 — 考 古 資 料 (縄 文 土 器) や そ の 他 の 資 料		事 前：資 料 の 取 り 扱 い に つ い て、注 意 点 の 確 認 を す る。 事 後：資 料 の 背 景 に あり 情 報 を 整 理 す る。				拓 本 を 実 践 す る。		
9	工 芸 品 取 り 扱 い の 心 構 え		事 前：考 古 ・ 工 芸 資 料 の 種 類 と 特 質 で 学 んだ こ と を 見 直 す。 事 後：資 料 の 特 質 と 取 り 扱 い に つ い て 確 認 す る。				博 物 館 の 資 料 の 取 り 扱 い に つ い て 実 践 す る。		
10	掛 軸 の 取 り 扱 い と 実 習		事 前：工 芸 品 の 取 り 扱 い に つ い て 注 意 点 を 確 認 し て お く。 事 後：掛 軸 の 巻 き 方、矢 筈 使 い 方 を 確 認 す る。				掛 軸 の 取 り 扱 い 方 に つ い て 実 践 す る。		
11	美 術 資 料 の 取 り 扱 い と 知 識		事 前：書 籍 や ス マ ホ を 利 用 し 美 術 作 品 の 取 り 扱 い に つ い て 考 え る。 事 後：講 義 と 予 習 を 重 ね 合 わ せ て 学 芸 員 の 資 料 の 取 り 扱 い を 確 認 す る。				美 術 の 絵 画 作 品 を 実 例 と し て、学 芸 員 の 資 料 の 取 り 扱 い に つ い て 実 習 す る。		
12	出 品 交 渉		事 前：学 芸 員 に な っ た つ む り で、ど の よ う に 出 品 交 渉 す る の か 考 え る。 事 後：講 義 と 予 習 を 重 ね 合 わ せ て 学 芸 員 の 資 料 の 取 り 扱 い を 確 認 す る。				特 別 展 へ の 資 料 の 出 品 の た め の 交 渉 の 実 態 に つ い て 考 え る。		
13	図 録 の 作 成		事 前：図 書 館 や 博 物 館 に 赴 き 実 際 の 展 覧 会 図 録 を 見 て お く。 事 後：講 義 と 予 習 を 重 ね 合 わ せ て、学 芸 員 の 展 覧 会 図 録 の 作 製 に つ い て 確 認 す る。				展 覧 会 図 録 の 作 製 に つ い て 考 え る。		

14	展覧会の宣伝と展示計画の立案	事前：書籍やスマホを利用して、特別展について宣伝を調べておく。 事後：講義と予習を重ね合わせて、特別展の宣伝と展示計画について確認する。	特別展の宣伝と展示活動について考える。
15	出品資料の集荷と展示活動・開催活動	事前：書籍やスマホを利用して、特別展の出品資料の所在地を調べておく。 事後：講義と予習を重ね合わせて学芸員の活動について確認する。	特別展開催中の学芸員の活動について考える。
16	返納計画とトラブルへの対応	事前：返納計画とトラブルの対応について考える。 事後：講義と予習を重ね合わせて特別展の評価について確認する。	返納計画の立案とトラブル発生時の対応について考える。
17	和本・古文書の保存	事前：工芸品の取り扱いについて注意点を確認しておく。 事後：資料の特質と取り扱いについて確認する。	和本・古文書の保存について考える。
18	和本・古文書の修復	事前：和本・古文書の保存について注意点を確認しておく。 事後：和本・古文書の保存と修復について考える。	和本・古文書の修復の実習を行う。
19	実測の方法と理論 —土器、灯火器など—	事前：資料の採寸をする時にどの部分を測ったら良いか考える。 事後：実測をする上での知識について整理する。	記録としての実測について、基本的な知識を習得する。
20	実測の実践 —土器、灯火器など—	事前：資料の取り扱いについて、注意点を確認する。 事後：資料の背景にある情報を整理する。	実測図を作成し、実践する。
21	資料カードの作成 —土器、灯火器など—	事前：今までの資料情報をまとめるうえで、カードに必要な項目を考える。 事後：作成したカードを見直す。	これまでの資料の記録を基に、資料カードを作成する。
22	資料カードを基にしたプレゼンテーション	事前：プレゼンテーションの事前準備をする。 事後：他の人のプレゼンテーションと比較し、解りやすさとは何か考える。	資料カードを基にプレゼンテーションを行う。
23	展示解説 —(遺物の展示物・解説)	事前：土器、灯火器などの展示について事前に準備しておく。 事後：テグスによる土器などの固定について復習する。	地震などの災害に対して固定をどのようにしたらよいか考える。
24	展示解説 —キャプション製作(展示室の解説)	事前：展示論の復習をしておく。 事後：展示解説について復習しておく。	事物のキャプションや資料室の全体の案内について考え実習を行う。
25	外装品の梱包実習(1)	事前：博物館資料論のノートを見直す。 事後：薄葉紙を使って布団の作成について復習しておく。	梱包資材の作成を行う。
26	外装品の梱包実習(2)	事前：縄文土器を梱包する方法について学習しておく。 事後：布団を使って箱に入れ運搬に耐えることができるようにする。	外装品の梱包実習を行う。
27	大学周辺の博物館見学 —厚木郷土資料館(常設展示)—	事前：今までの館内実習を基礎にして常設展を観察する。 事後：常設展について復習しておく。	大学周辺の博物館の常設展を見る。
28	大学周辺の博物館見学 —厚木郷土資料館(企画展示)—	事前：常設展と企画展の違いについて予習しておく。 事後：常設展と企画展の違いについて考える。	大学周辺の博物館の企画展を見る。
29	館務実習に向けて	事前：プレゼンテーションができるようにする。 事後：館務実習の多様性と学芸員という仕事について考える。	館務実習に向けて、その心構えや実習日誌の記録について確認する。
30	まとめ —資料館を見る「眼」養うこと	事前：授業ノートを見直す。 事後：実習を通して学んだことを振り返り、今後の進路を考える。	学芸員という仕事の本質は何か、実習全体を通して総括する。
教本： 開講時に指示する。		参考文献： 必要に応じて関連書籍を提示する。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等(100%)、小テスト・レポート等(100%)等で総合評価する。レポート等の提出物と館務実習を加味して、総合的に判断する。			
学生へのアドバイス： 休まないこと。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	博物館情報・メディア論 (Museum Information and Media)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	安村 薫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 博物館における情報・メディアの意義を理解し、博物館情報・メディアの理論の詳細を学ぶ。さらに、博物館における情報発信の意義と現状での技術を、実際の作業も交えて学習する。また、博物館の活動に関わる知的財産の意義と重要性について学ぶ。以上を通して、博物館の持つ社会における文化的価値を情報とメディアの技術を媒介として社会と結びつける方法を学ぶ。									
授業目標： 1. 博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解する。 2. 博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、情報の意義、視聴覚メディアの理論と歴史					事前：シラバスの確認 事後：なし		講義	
2	メディアとしての博物館（視聴覚メディアの発展と博物館）					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
3	ICT 社会の中の博物館（情報資源の双方向活用と役割、情報倫理、学校・図書館・研究機関の情報化）					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
4	情報教育の意義と重要性					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
5	博物館活用の情報化（沿革、調査研究活動、展示・教育活動等）					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
6	資料のドキュメンテーションとデータベース化					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
7	デジタルアーカイブの現状と課題					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
8	映像倫理、博物館メディアの役割と学習活用					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
9	情報管理と情報公開					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
10	情報機器の活用（情報端末、タブレット、スマートフォン、新たなメディア経験等）					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
11	インターネットの活用					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
12	知的財産権（著作権等）					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
13	個人情報(肖像権等)					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
14	権利処理の方法					事前：テキストを精読 事後：ネット検索とまとめ		講義	
15	まとめ					事前：これまでの総復習 事後：レポートの作成		講義	
教本： 「博物館情報・メディア論」 日本教育メディア学会（ぎょうせい） ¥2,571（税込）					参考文献： 必要に応じて関連書籍を提示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況と授業時の活動・提出（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 遅刻・欠席をしないこと。15回の授業の毎回毎回を真剣に受講してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	博物館資料保存論 (Museum Data Preservation Theory)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	安村 薫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>資料の保存は博物館の存続生命に関わる問題である。資料の適切な保存は展示・普及活動に反映されるものである。そのための対応・解決策を指導するのが資料保存論の目的であり、使命である。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得する</p> <p>2. 資料の保存に関する基礎的能力を養う</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	博物館における資料保存の意義					事前：シラバスの確認 事後：なし		講義	
2	資料の保全（育成を含む）					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
3	資料の状態調査・現状把握					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
4	資料の修復・修理					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
5	資料の梱包と輸送					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
6	博物館資料の保存環境					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
7	資料保存の諸条件とその影響（温湿度、光、振動、大気等）					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
8	生物被害とIPM（総合的有害生物管理）					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
9	災害の防止と対策（火災、地震、水害、盗難等）					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
10	伝統的保存方法					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
11	収蔵、展示等の保存環境					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
12	環境保護と博物館の役割					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
13	地域資源の保存と活用（エコミュージアム等）					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
14	文化財の保存と活用（景観、歴史的環境を含む）					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
15	自然環境の保護（生物多様性・種の保存を含む）					事前：テキストを精読 事後：ネットで事例を検索		講義	
<p>教本：</p> <p>「博物館資料保存論」石崎武志（講談社）¥2,376（税込）</p>					<p>参考文献：</p> <p>必要に応じて関連書籍を提示する</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業内容への参加状況と授業時の活動・提出（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>遅刻・欠席をしないこと。15回の授業の毎回毎回を真剣に受講してください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	博物館資料論 (Information on the Museum)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	近松 鴻二								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>歴史系博物館の現状と課題を明らかにし、課題解決のために、資料が果たすべき役割をさぐる。歴史資料を具体的な「物」で示し、その「物」をいかに保存・活用するかを明らかにするとともに、その「物」に関わる情報収集の重要性を理解させる。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>本講義では、歴史系博物館の資料を中心に博物館資料とは何かを明らかにする。資料は博物館の血液といわれる。健康な血液の循環が博物館の価値を高めるので、博物館資料の収集および歴史的価値の深化・向上や普及の方法や技術を習得する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	博物館における調査研究活動について					事前：博物館資料に対するイメージを描いておく 事後：出席カードに該講義に対する感想・質問を記す			講義
2	調査研究活動の意義と内容（博物館資料に関する研究）について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
3	調査研究活動の意義と内容（資料保存に関する研究）について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
4	調査研究活動の意義と内容（博物館に関する研究）について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
5	調査研究成果の還元について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
6	博物館資料の概念について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
7	資料の意義について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
8	資料の種類について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
9	資料化の過程について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
10	博物館の資料の収集について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
11	博物館の資料の整理について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
12	博物館の資料の活用について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
13	収集理念と方法（情報の記録、収集の倫理・法規、受入手続き・登録等）について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
14	資料の分類・整理（目録作成を含む）について					事前：前回配布した今回の教材を一読しておく 事後：前回配布した今回の教材を一読しておく			講義
15	資料公開の理念と方法（アクセス権、特別利用等を含む）について					事前：なし 事後：本講義に関する感想を記す			講義
<p>教本：</p> <p>特に指定しない。教材は適宜配布する。</p>					<p>参考文献：</p> <p>開講時に指示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 提出レポート（60%）、平常点（40%）により評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>博物館の展示を学芸員の眼で見るようにすること。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 後期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	博物館展示論 (Theory of Museum Exhibition)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	石井 みどり								
履 修 条 件	前提科目	博物館概論を修得していることが望ましい。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>展示の目的、方法、技術を学ぶとともに、その知識をもとに展示エクササイズも実施する（展示構想、企画書、展示関連事業企画、ストーリー展開、作品調査・資料収集、出品リスト作成、広報、展示会場模型作成、プレゼンテーション等）。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 展示の諸形態に関する理論、方法、技術を理解する。 2. 展示についての基礎的能力を実践的に発揮できる（課題）。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	博物館展示の意義について					事前：なし 事後：なし		講義	
2	コミュニケーションとしての展示について					事前：なし 事後：なし		講義	
3	調査研究の成果の提示について					事前：なし 事後：なし		講義	
4	展示と展示論の歴史					事前：なし 事後：なし		講義	
5	展示の政治性と社会性について					事前：なし 事後：なし		講義	
6	博物館展示の実際					事前：なし 事後：なし		講義	
7	展示の諸形態について					事前：なし 事後：なし		講義	
8	展示の製作（企画、デザイン、技術、施行等）について					事前：なし 事後：なし		講義 (展示エクササイズ)	
9	関係者との協力（他館、所蔵者、専門業者）について					事前：なし 事後：なし		講義 (展示エクササイズ)	
10	展示の評価と改善・更新について					事前：なし 事後：なし		講義 (展示エクササイズ)	
11	展示の解説活動について					事前：なし 事後：なし		講義 (展示エクササイズ)	
12	解説文・解説パネルについて					事前：なし 事後：なし		講義 (展示エクササイズ)	
13	人による解説について					事前：なし 事後：なし		講義 (展示エクササイズ)	
14	機器による解説について					事前：なし 事後：なし		講義 (展示エクササイズ)	
15	展示解説書（展示図録、パンフレット等）について					事前：なし 事後：なし		講義 (展示エクササイズ)	
教本： 初回授業で指示する。					参考文献： 随時提示する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況・リアクションペーパー（50%）、展示模型製作（50%）で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 遅刻や欠席は原則として認められません。就職活動等でやむをえず遅刻、欠席する場合は、事前に担当教員に連絡し、事後に届を提出してください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	美 術 史 (Art History)						科 目 分 類	学 芸 員 科 目	
担 当 教 員	平 野 由 里 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
おもに西洋美術史の流れを追って、古代からスライド等で美術作品を見ていきます。また、その作品が生まれた歴史的背景についても適宜解説し、作品理解を深めます。日本美術史についても最重要項目については取り上げます。									
授 業 目 標 :									
まずは美術に対する敷居を取り払ってほしいです。半期の授業ですが、長いスパンの美術を見ていくので、おおよその流れが把握できるようになっていただきたいです。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 「オールドマスターへの誘い」・日本美術史 (1) 仏像について					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
2	日本美術史 (2) 平安・鎌倉・室町・桃山時代					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
3	日本美術史 (3) 江戸時代					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
4	西洋美術史 (1) 古代オリエント～ギリシャ・ローマ					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
5	西洋美術史 (2) 中世 I					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
6	西洋美術史 (3) 中世 II					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
7	西洋美術史 (4) 15世紀北方					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
8	西洋美術史 (5) 15世紀イタリア					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
9	西洋美術史 (6) 盛期ルネサンス					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
10	西洋美術史 (7) 16世紀イタリア					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
11	西洋美術史 (8) 北方ルネサンス					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
12	西洋美術史 (9) 17世紀イタリア・スペイン					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
13	西洋美術史 (10) 17世紀フランドル・オランダ					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
14	西洋美術史 (11) 18世紀					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
15	西洋美術史 (12) 19世紀					事前：なし 事後：授業内容復習		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし					カラー版 日本美術史／カラー版 西洋美術史 とともに美術出版社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
見 て、感 じ て、考 え て、自 分 の 言 語 で 表 現 す る こ と を 心 が け て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	文化 交 流 史 A (History of Cultural Exchange A)						科 目 分 類	学 芸 員 科 目	
担 当 教 員	安 倍 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	文 化 人 類 学 等 の 文 化 学							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 本 講 義 で は、文 化 人 類 学 を ベー ス と し て、文 化 が 接 触 ・ 交 流 す る 際 に、ど の よう な 現 象 が 生 じ る の か を 基 礎 的 な 事 項 か ら 考 察 す る。文 化 と は 何 か、そ れ が 接 触 ・ 交 流 す る と は ど の よう な こ と か と い う 視 点 を ま ず は 身 に つ け る こ と か ら 始 め て ゆ く。									
授 業 目 標 : 教 科 書 的 な 「 文 化 」 認 識 か ら 自 由 に な る こ と。自 分 が 体 験 し た 異 文 化 交 流 を 学 問 的 視 点 か ら 捉 え な お す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	文 化 の 新 た な 考 え 方					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
2	「 自 分 」 の 中 の 異 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
3	赤 坂 憲 雄 『 異 人 論 』					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
4	文 化 の 多 重 性					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
5	岡 正 雄 『 異 人 そ の 他 』					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
6	魔 性 の 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
7	異 人 歓 待 儀 礼 と は					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
8	都 市 社 会 の 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
9	エ ス ニ シ テ ィ と は 何 か					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
10	エ ス ニ シ テ ィ と は 何 か (2)					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
11	メ イ サ ー テ ィ ー ン と 多 言 語 社 会					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
12	創 造 さ れ る 「 民 族 」					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
13	文 化 交 流 と 観 光					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
14	人 口 移 動 と 文 化					事 前 : な し 事 後 : 復 習 を す る		講 義	
15	試 験 あ る い は レ ポ ー ト					事 前 : ノ ー ト の 見 直 し 事 後 :		試 験 あ る い は レ ポ ー ト	
教 本 : な し					参 考 文 献 : 授 業 中 に た く さ ん 紹 介 し ま す。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (60%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 文 化 を 理 解 す る こ と は、思 っ て い る 以 上 に 苦 労 が 多 い こ と で す。高 校 ま で の の っ ぺ り し た 文 化 の 考 え 方 を 早 く 抜 け 出 す こ と を 心 掛 け て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	文 化 人 類 学 A (Cultural Anthropology A)						科 目 分 類	学 芸 員 科 目	
担 当 教 員	安 倍 幸								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>文化人類学とは、異文化を「知る」ことにあります。でも、どのような状態を「知る」というのでしょうか。この授業の目標は、文化人類学がどのように異文化を「知ろう」としているのかを垣間見ることです。そのために「ヒトの一生」を中心テーマに文化とは何かを考えていきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>ヒトが同じような身体構造を持ちながらも、いかに多様な文化・世界観を作り上げているのかを理解する。ヒトにとって文化とは何かを自分なりに説明する能力を作る。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	文化とはどのような現象か					事前：なし 事後：なし		講義	
2	ヒトはどのように文化を持つに至ったか					事前：猿人と類猿人 事後：なし		講義	
3	ヒトは死をどのように扱ってきたか					事前：なし 事後：授業資料		講義	
4	ヒトは死をどのように扱ってきたか2					事前：なし 事後：授業資料		講義	
5	「誕生」の文化人類学					事前：なし 事後：授業資料		講義	
6	「一人前」とはどのような現象か					事前：なし 事後：授業資料		講義	
7	「古い」の人類学					事前：なし 事後：授業資料		講義	
8	日本民俗社会の「生と死」					事前：なし 事後：授業資料		講義	
9	現代日本人の死生観					事前：なし 事後：授業資料		講義 (ディスカッションあり)	
10	婚姻と社会					事前：蒲生論文 (配布) 事後：授業資料		講義	
11	婚姻と社会2					事前：蒲生論文 (配布) 事後：授業資料		講義	
12	現代日本人の婚姻観：性と婚姻					事前：なし 事後：授業資料		講義	
13	日本文化の構造					事前：蒲生論文 (配布) 事後：授業資料		講義	
14	日本文化の構造2					事前：蒲生論文 (配布) 事後：授業資料		講義	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「文化人類学 (カレッジ版)」医学書院					授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 扱 う の は 「他 人」で も、自 分 と 重 ね 合 わ せ て ト ピ ッ ク に あ た っ て ほ し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	民 俗 学 (Folklore)						科 目 分 類	学 芸 員 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 鞆								
履 修 条 件	前 提 科 目	博 物 館 学 芸 員 科 目							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 日本社会の構造や社会の中で発生する文化的要素について様々なアプローチから考察する。日本社会の機構や社会の中で起こる諸現象と生活や行動の中から生まれ、受け継がれてきた現象を民俗学の見地から考察する。古くから伝承された民間の信仰や習俗を通して日本人の生活について明らかにしていく。世代を超えて伝承されて来た習わし、言い伝えの意味を考え、日本人の心を探る。									
授 業 目 標 : 民族の歴史を通して日本人の生活と文化を学ぶ。 日本人のアイデンティティーを探る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	民俗と民俗学 民俗の意味を知り、また民俗学という学問の成り立ちを考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	民俗学の祖 日本民俗学を確立した人物、柳田国男と折口信夫。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
3	民俗学の研究法、重出立証法や比較研究法を紹介し、民俗地図の活用の仕方を学ぶ。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	神とカミ 日本固有の神観念の成立について論じ、人と神の関係を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	民俗・風俗・宗教 これらを理解する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	アニミズム・祖先崇拝・トーテミズム 人間と霊魂との関係を理解する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	ケとハレとケガレ 人間の生活が、ケとケガレとハレの三元循環とアラシ(異常)について学習する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	禁忌(タブー) 古語の忌(イミ)について学習する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	人生儀礼 人の誕生から葬送までを概観する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	衣・食・住 変遷過程と、地域身分や職業による違い学習する。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	新年の行事から師走の大晦日の主要な行事を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	神話・伝説・昔話 小さい頃からのなじんできた伝承文芸を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	海の民俗伝承 海洋民としての民俗を考える。					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	山の民俗伝承 川の民俗伝承					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教 本 : 石上七鞆『あなたの日本がもっと素敵になる8つの和ハーブ物語』 コスモの本					参 考 文 献 : 石上七鞆著『日本の民俗伝承』蒼洋社、石上七鞆著『十二支の民俗伝承』 おうふう 石上七鞆著『化粧の民俗』おうふう 石上堅『日本民族語大辞典』 おうふう 『日本風俗史事典』日本風俗史学会編 弘文堂				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 発 表 と 期 末 の レ ポ ー ト (6,400字)、平 常 点 で 総 合 評 価 を 行 う。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と。欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す。最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 水 曜 日 昼 休 み									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	吉田松陰論 (Yoshida Shoin)						科目分類	学芸員科目	
担 当 教 員	長谷川 勤								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本学の教育理念である「知行合一」を実践した吉田松陰について、その短い生涯を時代との関連に於て考察し、本学で学ぶ意義と誇りを修得する。 吉田松陰の人間形成とその行動の軌跡を考察していくが、特に松陰が主宰した「松下村塾」において塾生をどのように指導したかを学び、その教育効果と人間形成の在り方を考え、松陰の思想や現代的意義について理解を深める。									
授業目標： 1. 吉田松陰の感化力が優れていた理由を理解する。(松下村塾での人間教育) 2. 日本の西欧からの「植民地化」へんば危機感が、塾生に奮起させたが、その起爆剤となった「松陰精神」を理解する。 3. 短期間の教育で、明治期の国家指導者をおおく輩出した者は何であったかを理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	松蔭大学の建学精神と理念					事前：なし 事後：プリント配布		講義	
2	吉田松陰の生涯①前半生					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
3	吉田松陰の生涯②後半生					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
4	原典輪読「土規七則」・「松下村塾記」					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
5	松蔭大学の校是・「知行合一」について					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
6	吉田松陰の行動背景を学ぶ					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
7	吉田松陰の時代認識と「水戸学」					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
8	吉田松陰の「草莽崛起」とは					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
9	「安政の大獄」の原因と展開					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
10	日本の幕末史と世界史との関連					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
11	『留魂録』の世界を学ぶ					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
12	明治維新とは何か					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
13	日本人としての誇りについて					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
14	吉田松陰の「立志」・「実践」について					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
15	私立大学に学ぶことの意義について					事前：配布したプリント 事後：プリント配布		講義	
教本： 1. 『松陰と幕末・明治の志士たち』長谷川勤著・NHK 出版					参考文献： 1. 『留魂録』古川薫著・講談社学術文庫 2. 『吉田松陰』海原徹・ミネルヴァ書房その他は随時提示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (60%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 『教本』を必ず事前に読んでおくこと。予習してない学生は理解が困難です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。 授業終了後15分程度非常勤控室で待機。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	介 護 福 祉 論 (Care and Welfare Theory)						科 目 分 類	社 会 教 育 主 事 科 目	
担 当 教 員	白 澤 恵 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介 護 の 概 念 や そ の 対 象 及 び 介 護 の 理 念 の 等 に つ い て 学 習 す る 。 ・ 介 護 過 程 に お け る 介 護 の 技 法 や 介 護 予 防 の 基 本 的 な 考 え 方 に つ い て 学 習 す る 。 ・ 終 末 期 ケ ア の 在 り 方 (人 間 観 や 倫 理 を 含 む) に つ い て 学 習 す る 。 ・ 相 談 援 助 活 動 に お い て 必 要 と な る 介 護 保 険 法 や 高 齢 者 の 福 祉 ・ 介 護 に 係 る 他 の 法 制 度 に つ い て 学 習 す る 。 									
授 業 目 標 :									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本 講 義 の 到 達 目 標 は、高 齢 者 介 護 の 理 解 や 介 護 保 険 に 関 す る 制 度 や 法 を 理 解 す る こ と を 目 標 と す る 。 ・ 要 介 護 者 の 介 護 支 援 に お け る 介 護 課 程 や 事 例 学 習 を 行 い 要 介 護 者 や 家 族 介 護 支 援 に つ い て 具 体 的 に 理 解 す る 。 ・ 少 子 高 齢 化 社 会 に お け る 高 齢 者 福 祉 の 援 助 や 介 護 支 援 制 度 の 理 解 が 十 分 で あ れ ば 評 価 に お い て 合 格 と す る 。 									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	介 護 の 概 念 と 範 囲 及 び 理 念					事 前 : な し 事 後 : プ リ ン ト 教 材 に つ い て		講 義	
2	介 護 の 対 象					事 前 : プ リ ン ト 教 材 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
3	介 護 予 防 の 必 要 性 と 介 護 予 防 プ ラ ン の 実 際					事 前 : プ リ ン ト 教 材 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
4	介 護 過 程 の 概 要 と 技 法					事 前 : プ リ ン ト 教 材 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
5	終 末 期 ケ ア の 基 本 的 考 え 方 と 実 際					事 前 : プ リ ン ト 教 材 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
6	終 末 期 ケ ア の 基 本 的 考 え 方 と 実 際					事 前 : プ リ ン ト 教 材 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
7	終 末 期 ケ ア の 基 本 的 な 考 え 方					事 前 : プ リ ン ト 教 材 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
8	終 末 期 ケ ア に お け る 人 間 観 と 倫 理 及 び 終 末 期 ケ ア の 実 際					事 前 : プ リ ン ト 教 材 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
9	介 護 の た め の 住 環 境					事 前 : プ リ ン ト 教 材 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
10	介 護 保 険 法 の 概 要					事 前 : プ リ ン ト 教 材 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
11	国 ・ 都 道 府 県 ・ 市 町 村 の 役 割					事 前 : プ リ ン ト 教 材 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
12	指 定 サ ー ビ ス 事 業 者 の 役 割					事 前 : プ リ ン ト 教 材 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
13	国 民 健 康 保 険 団 体 連 合 会 の 役 割					事 前 : プ リ ン ト 教 材 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義	
14	事 例 研 究					事 前 : 森 の 里 介 護 施 設 集 合 事 後 : 森 の 里 介 護 施 設 感 想		見 学	
15	事 例 研 究					事 前 : 森 の 里 介 護 施 設 集 合 事 後 : 森 の 里 介 護 施 設 感 想		見 学	
教 本 :					参 考 文 献 :				
開 講 時 に 指 示 す る 。					必 要 に 応 じ て 指 示 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。									
授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (40%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社 会 教 育 演 習 (Seminar in Social Education)						科 目 分 類	社 会 教 育 主 事 科 目	
担 当 教 員	佐 々 木 尚 毅								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
「社会教育の基礎」で修得した知識を基にして、社会教育専門職員としてさらに深く「学習者」を理解する。社会教育専門職員が対象とする「学習者」は多様であり多彩である。「学習者」を理解することなくして支援は難しい。とくに社会教育が対象とする「おとな」を理解することは重要である。本演習では、超少子高齢社会の中で、「おとな」をめぐる社会教育の意義と課題を理解した上で、演習という授業形態をいかして、ディスカッションの方法、コミュニケーション・スキルを学ぶ。									
授 業 目 標 :									
テーマ：社会教育の課題理解及び「学習者」理解とその支援方法の習得。 授業の到達目標：「社会教育の基礎」（1年次開講科目）の到達目標③をさらに深め、「学習者」を理解し、その支援の内容方法について学び、社会教育専門職員として果たすべき役割やその業務内容、必要な知識を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳 細 に 記 入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	イントロダクション—何を学ぶか、なぜ学ぶか—					事前：特になし 事後：振り返りペーパー作成		講義	
2	現代社会教育の意義と課題（1）					事前：参考文献の学習 事後：課題の調査		講義	
3	現代社会教育の意義と課題（2）					事前：参考文献の学習 事後：課題の調査		講義	
4	超少子高齢社会の社会教育の役割					事前：参考文献の学習 事後：課題の調査		講義	
5	学校外の子どもの学び（1）					事前：参考文献の学習 事後：課題の調査		ディスカッション	
6	学校外の子どもの学び（2）—事例研究（映像資料）—					事前：参考文献の学習 事後：課題の調査		ディスカッション	
7	「おとな」をめぐる社会教育の現状と課題（1）					事前：参考文献の学習 事後：課題の調査		ディスカッション	
8	「おとな」をめぐる社会教育の現状と課題（2）					事前：参考文献の学習 事後：課題の調査		ディスカッション	
9	女性の学びをめぐる課題					事前：教育白書の調査 事後：レポート作成		ディスカッション	
10	高齢者の学びをめぐる課題					事前：統計資料の学習 事後：レポート作成		ディスカッション	
11	障がい者の学びをめぐる課題					事前：統計資料の学習 事後：レポート作成		ディスカッション	
12	社会教育と地域づくり（1）—グループ・ワーク—					事前：映像資料の試聴 事後：レポート作成		グループ・ワーク	
13	社会教育と地域づくり（2）—グループ・ワーク—					事前：映像資料の試聴 事後：レポート作成		グループ・ワーク	
14	社会教育と地域づくり（3）—グループ・ワーク—					事前：映像資料の試聴 事後：レポート作成		グループ・ワーク	
15	演習のまとめ					事前：振り返りペーパー作成 事後：レポート作成		講義	
教 本 :									
柏木恵子「おとなが育つ条件」、岩波新書、2013年、¥760					参 考 文 献 :				
					柏木恵子「子供が育つ条件」、岩波新書、2013年、¥760				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 「授業中の発表と授業への取り組み姿勢」(40%)、学期末課題レポート (60%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
楽しく共に学びあおう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社 会 教 育 課 題 研 究 (Studies on Issues in Social Education)						科 目 分 類	社 会 教 育 主 事 科 目	
担 当 教 員	佐 々 木 尚 毅								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本授業では、生涯学習支援のための社会教育施設の活動や運営における課題について受講者自らが調べ把握する。受講者は、社会教育施設ごとに分担を決めて、その施設の実態を調べ、その課題を見つけ出し、その課題の解決法を案出する。こうした調査研究をする過程で、グループ・ワークやディスカッションの方法も併せて学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>テーマ：社会教育施設の課題と運営 授業の到達目標：社会教育施設が生涯学習支援のためにかかえる課題を理解し、グループ・ワークやディスカッションを通じ、それらの諸問題について自ら考え発表できる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	イ ン ト ロ ダ ク シ ョ ン					事 前 : 特 に な し 事 後 : 振 り 返 り ペ ー パ ー 作 成		講 義	
2	社 会 教 育 ・ 生 涯 教 育 の 法 と 制 度 (1)					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 課 題 の 調 査		講 義	
3	社 会 教 育 ・ 生 涯 教 育 の 法 と 制 度 (2)					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 課 題 の 調 査		講 義	
4	社 会 教 育 職 員 の 仕 事 と 役 割					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 課 題 の 調 査		講 義	
5	社 会 教 育 施 設 と 指 定 管 理 者 制 度					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 課 題 の 調 査		講 義	
6	社 会 教 育 施 設 を め ぐ る 現 状 と 課 題 (1) — グ ル ー プ ・ ワ ー ク —					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 振 り 返 り ペ ー パ ー 作 成		デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
7	社 会 教 育 施 設 を め ぐ る 現 状 と 課 題 (2) — グ ル ー プ ・ ワ ー ク —					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 振 り 返 り ペ ー パ ー 作 成		デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
8	社 会 教 育 施 設 を め ぐ る 現 状 と 課 題 (3) — グ ル ー プ ・ ワ ー ク —					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 振 り 返 り ペ ー パ ー 作 成		デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
9	社 会 教 育 施 設 を め ぐ る 現 状 と 課 題 (4) — グ ル ー プ ・ ワ ー ク —					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 振 り 返 り ペ ー パ ー 作 成		デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
10	社 会 教 育 施 設 を め ぐ る 現 状 と 課 題 (5) — グ ル ー プ ・ ワ ー ク —					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 振 り 返 り ペ ー パ ー 作 成		デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
11	社 会 教 育 施 設 を め ぐ る 現 状 と 課 題 (6) — グ ル ー プ ・ ワ ー ク —					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 振 り 返 り ペ ー パ ー 作 成		デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	
12	課 題 解 決 を 目 指 し て (1) — 個 人 研 究 発 表 —					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 振 り 返 り ペ ー パ ー 作 成		プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	
13	課 題 解 決 を 目 指 し て (2) — 個 人 研 究 発 表 —					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 振 り 返 り ペ ー パ ー 作 成		プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	
14	課 題 解 決 を 目 指 し て (3) — 個 人 研 究 発 表 —					事 前 : 参 考 文 献 の 学 習 事 後 : 振 り 返 り ペ ー パ ー 作 成		プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	
15	ま と め					事 前 : レ ポ ー ト 作 成 事 後 : レ ポ ー ト 作 成		講 義	
教 本 : 参 考 文 献 :									
堀 薫 夫 ・ 三 輪 健 二 「生 涯 学 習 と 自 己 実 現」放 送 大 学 教 育 振 興 会、2006年、¥2,700									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 (1)出 席 (リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー に よ る) (30%) (2)グ ル ー プ ワ ー ク へ の 参 加 状 況 (30%) (3)期 末 レ ポ ー ト (40%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 学 び の 楽 し さ を 体 験 し て ほ し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義																																																																						
授 業 科 目 (英 文)	社会教育計画 I (The Social Education Plan I)						科 目 分 類	社会教育主事科目																																																																							
担 当 教 員	望月 厚志																																																																														
履 修 条 件	前 提 科 目	なし																																																																													
	そ の 他	なし																																																																													
<p>授業概要：</p> <p>本講義は、社会教育主事に必要な「社会教育計画」立案の基礎的資質を培うことを目的としている。社会教育法第3条に規定された社会教育の役割を果たす為に地方公共団体が立案し実行する教育行政計画を実施することが出来るようになる為に、社会教育の基礎的な理解を深めるとともに社会教育計画立案の考え方や課題について学習する「理論編」である。下記のテキストを毎時間使用して検討する。そのため、テキストは必ず準備すること（図書館等から借りた本でもよい）。また、必要に応じて補足の印刷資料を配布し解説を行う。この科目の単位修得が、後期「社会教育計画Ⅱ」の履修の必須条件となる。（予習・復習の必要性）テキストの該当箇所の予習と復習が求められます。毎回の講義ごとに指定する。</p> <p>授業目標：テーマ：社会教育主事の基礎的資質・職務能力の形成（1） 授業の到達目標：この授業の到達目標は、次の三点である。①社会教育計画を立案・実施するために求められる社会教育に関する基礎的な理解が出来たかどうか。②社会教育計画策定の方法原理について理解ができたか、③現代社会における「学習ニーズ」に関する課題や学習者の理解ができたかどうかである。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width:33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width:33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">◎</td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> </tr> </table> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">授業回数</th> <th style="width:55%;">授業内容及び計画（詳細に記入）</th> <th style="width:20%;">事前・事後学習（学習課題）</th> <th style="width:15%;">授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>社会教育計画の意味と課題（1章）—社会教育計画の種類と内容</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会教育における地域（2章）—地域課題と社会教育</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>社会教育における施設（3章）—社会教育施設の管理運営計画</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>社会教育における集団（4章）—集団活動と社会教育</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>社会教育におけるボランティア（5章）—ボランティア活用の現状と活用計画</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>社会教育における参加（6章）—住民参加の方策と活用計画</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会教育における学習プログラム（7章）—学習プログラム立案の概略と学習課題の調査</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>社会教育における学習者（8章）—学習者理解と学習ニーズ調査・診断</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>社会教育における学習支援（9章）—学習支援の方法と計画</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>社会教育における学習情報の意味（10章）—学習活動発展のための学習情報提供・活用計画</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>社会教育における大学の意味（11章）—大学の社会教育事業計画</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>社会教育における連携を考える視座（12章）—「学社連携・学社融合」計画</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>社会教育における評価を考える視座（13章）—社会教育施設と評価・計画</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>社会教育行政の変遷と行政改革（14章）—「新しい公共」のための行政改革</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>社会教育計画を考える視座（15章）—社会教育計画策定のための資質・能力・研修計画</td> <td>事前：なし 事後：なし</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p>教本：鈴木真理・山本珠美・熊谷慎之輔編著 『社会教育計画の基礎』[新版] 学文社、2012年、¥2,300（税別）（必要に応じて、印刷文献資料と映像資料を使用して授業をすすめる。）</p> <p>参考文献：白石克己・金藤ふゆ子・廣瀬隆人編『学習プログラムの革新』ぎょうせい、2001年今西幸蔵著『社会教育計画ハンドブック』八千代出版、2004年 鈴木真理・清國祐二編著『社会教育計画の基礎』学文社、2004年 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編『社会教育計画策定ハンドブック』（計画と評価の実践）国立教育政策研究所社会教育実施研修センター、2012年 マルカム・ノールズ著 堀薫夫・三輪建二監訳『成人教育の現代的実践』鳳書房、2002年 エデュアード・リンデマン著 堀薫夫訳『成人教育の意味』学文社、1996年</p> <p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業時の学習課題報告及び討論参加状況（60%）と最終学習レポート（40%）を総合して評価する。 評価は「到達目標」が基準となる。</p> <p>学生へのアドバイス： 欠席しないこと。</p> <p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	◎	○		授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態	1	社会教育計画の意味と課題（1章）—社会教育計画の種類と内容	事前：なし 事後：なし	講義	2	社会教育における地域（2章）—地域課題と社会教育	事前：なし 事後：なし	講義	3	社会教育における施設（3章）—社会教育施設の管理運営計画	事前：なし 事後：なし	講義	4	社会教育における集団（4章）—集団活動と社会教育	事前：なし 事後：なし	講義	5	社会教育におけるボランティア（5章）—ボランティア活用の現状と活用計画	事前：なし 事後：なし	講義	6	社会教育における参加（6章）—住民参加の方策と活用計画	事前：なし 事後：なし	講義	7	社会教育における学習プログラム（7章）—学習プログラム立案の概略と学習課題の調査	事前：なし 事後：なし	講義	8	社会教育における学習者（8章）—学習者理解と学習ニーズ調査・診断	事前：なし 事後：なし	講義	9	社会教育における学習支援（9章）—学習支援の方法と計画	事前：なし 事後：なし	講義	10	社会教育における学習情報の意味（10章）—学習活動発展のための学習情報提供・活用計画	事前：なし 事後：なし	講義	11	社会教育における大学の意味（11章）—大学の社会教育事業計画	事前：なし 事後：なし	講義	12	社会教育における連携を考える視座（12章）—「学社連携・学社融合」計画	事前：なし 事後：なし	講義	13	社会教育における評価を考える視座（13章）—社会教育施設と評価・計画	事前：なし 事後：なし	講義	14	社会教育行政の変遷と行政改革（14章）—「新しい公共」のための行政改革	事前：なし 事後：なし	講義	15	社会教育計画を考える視座（15章）—社会教育計画策定のための資質・能力・研修計画	事前：なし 事後：なし	講義
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																													
◎	○																																																																														
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態																																																																												
1	社会教育計画の意味と課題（1章）—社会教育計画の種類と内容	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
2	社会教育における地域（2章）—地域課題と社会教育	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
3	社会教育における施設（3章）—社会教育施設の管理運営計画	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
4	社会教育における集団（4章）—集団活動と社会教育	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
5	社会教育におけるボランティア（5章）—ボランティア活用の現状と活用計画	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
6	社会教育における参加（6章）—住民参加の方策と活用計画	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
7	社会教育における学習プログラム（7章）—学習プログラム立案の概略と学習課題の調査	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
8	社会教育における学習者（8章）—学習者理解と学習ニーズ調査・診断	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
9	社会教育における学習支援（9章）—学習支援の方法と計画	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
10	社会教育における学習情報の意味（10章）—学習活動発展のための学習情報提供・活用計画	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
11	社会教育における大学の意味（11章）—大学の社会教育事業計画	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
12	社会教育における連携を考える視座（12章）—「学社連携・学社融合」計画	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
13	社会教育における評価を考える視座（13章）—社会教育施設と評価・計画	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
14	社会教育行政の変遷と行政改革（14章）—「新しい公共」のための行政改革	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												
15	社会教育計画を考える視座（15章）—社会教育計画策定のための資質・能力・研修計画	事前：なし 事後：なし	講義																																																																												

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	社会教育計画Ⅱ (The Social Education Plan Ⅱ)						科目分類	社会教育主事科目	
担 当 教 員	望月 厚志								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>本講義は「社会教育計画Ⅰ」での理論的な学習成果をもとに、実際の社会教育計画の立案方法と立案作業を経験する授業内容で、社会教育計画立案の「方法論・実践編」である。これまでに立案・実践されてきた各種の学習プログラムの批判的な検討から始まり、「学習ニーズ」の調査方法、具体的な計画立案方法「社会教育計画づくり」を実習する。前期の「社会教育計画Ⅰ」を先修した者が履修の対象者となる。グループでの討論・活動・実習や実際の教育調査や社会教育計画立案作業が行われるので、継続的な出席と積極的な授業参加の態度が望まれる。また、学外・地域社会での実際の活動が必要な場合もある。尚、テキストはその発行年から時間が経過しているが、重要・貴重なプログラム例が豊富に収録されており解説も的確であると判断しているために使用する価値があると判断している。</p> <p>(予習・復習の必要性) テキストの該当箇所の予習と復習が求められます。毎回の講義ごとに指定する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>テーマ：社会教育主事の資質・職務能力の形成 (2)</p> <p>授業の到達目標：この授業の到達目標は、次の三点である。①社会教育計画立案の具体的な方法を理解し修得できたか、②具体的に社会教育計画の立案シミュレーションができたかどうか、③学習プログラム開発に関する課題の理解が理解できたかどうかの三点が基本である。さらに、社会活動やグループ活動を通じて集団での学習活動の実際を体験し、その支援の方法も経験的に理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	生涯学習の視点と学習計画の体系化					事前：なし 事後：なし		講義	
2	青少年の学習計画の批判的検討					事前：なし 事後：なし		講義	
3	成人・高齢者の学習計画の批判的検討					事前：なし 事後：なし		講義	
4	学習計画立案方法1—学習プログラムの基本					事前：なし 事後：なし		講義	
5	学習計画立案方法2—要求課題と必要課題					事前：なし 事後：なし		講義	
6	学習計画立案方法3—学習目標の設定					事前：なし 事後：なし		講義	
7	学習方法の理解—様々な自己学習方法の理解					事前：なし 事後：なし		講義	
8	学習方法の実際—参加型学習の体験実習					事前：なし 事後：なし		講義	
9	教育調査の理論と方法1—地域住民の「学習ニーズ」調査					事前：なし 事後：なし		講義	
10	教育調査の理論と方法2—地域住民の「学習ニーズ」の分析					事前：なし 事後：なし		講義	
11	教育調査の理論と方法3—教育調査結果の活用方法					事前：なし 事後：なし		講義	
12	学習計画立案実習1—年間計画の立案					事前：なし 事後：なし		講義	
13	学習計画立案実習2—個別事業計画の立案					事前：なし 事後：なし		講義	
14	学習計画立案実習3—展開計画の立案					事前：なし 事後：なし		講義	
15	完成した「学習プログラム」の全体検討—発表と相互の批判的検討					事前：なし 事後：なし		講義	
<p>教本：</p> <p>岡本包治著『生涯学習活動のプログラム』 (全日本社会教育連合会、1998年、¥1,500円(税別)) (必要に応じて、印刷文献資料と映像資料を使用して授業をすすめる。)</p>					<p>参考文献：</p> <p>岡本包治著『生涯学習プログラムの開発』(現代生涯学習全集4)ぎょうせい、1992年 土屋隆裕著『社会教育調査ハンドブック』文憲堂 2005年 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編『社会教育計画策定ハンドブック』(計画と評価の実際) 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、2012年</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 毎時間の学習課題及び社会教育計画立案実習へ参加状況(60%)と最終レポート(40%)を総合して評価する。評価は「到達目標」が基準となる。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 欠席しないこと。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	社会教育の基礎 (Introduction to Adult Education and Youth Activities)						科目分類	社会教育主事科目		
担 当 教 員	望月 厚志									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要： 生涯学習及び社会教育の本質を理解することを基本的な学習課題としている授業である。特に、社会教育全般についての理解を深めるとともに生涯学習・社会教育の専門的な支援職員の社会教育主事として活躍するのに必要な考え方や知識、能力、資質の基礎を培うことを目的としている。そのため、社会教育に関する総論的な内容で構成され、生涯学習・社会教育の概念・定義や関係、原則、内容・領域、方法を中心にして講義を行う。各論として、様々な教育活動・実践の連携や関係についても考察する。毎回、学習課題が課せられるので、継続的な出席が求められる。遅刻は、原則認められない。 (予習・復習の必要性) テキストの該当箇所の予習と復習が求められる。毎回の講義ごとに指定する。</p>										
<p>授業目標： テーマ：社会教育主事希望者のための「生涯学習・社会教育入門」 授業の到達目標：この授業での到達目標は次の三点である。①「生涯学習」及び「社会教育」の意味や意義を考え、理解できたか。②「生涯学習・社会教育」の政策や内容・方法について理解できたか。③「学習者」についての理解を深め、その理解をもとに学習者の支援する内容や方法を考え、さらに今後の自分自身の「学習」や「社会参加」、社会教育専門職員の果たすべき役割や内容について意識化が図れたか。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態		
1	生涯学習・社会教育の概念と定義—生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育との関係 (文書資料使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
2	生涯学習と社会教育のあゆみ—各種答申を中心に (VTR・DVD 使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
3	生涯学習と社会教育の法律—教育基本法・社会教育三法・生涯学習振興法・スポーツ基本法 (文書資料使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
4	社会教育行政組織—国及び地方社会教育組織 (文書資料使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
5	社会教育関係職員—社会教育主事・社会教育委員 (文書資料使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
6	社会教育施設 1—公民館の歴史・現状・課題 (文書資料、VTR・DVD 使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
7	社会教育施設 2—博物館・図書館の歴史・現状・課題 (VTR・DVD 使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
8	社会教育施設 3—生涯学習センター他の歴史・現状・課題 (VTR・DVD 使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
9	社会教育と学校—「学社連携・学社融合」理論とその実践 (VTR・DVD 使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
10	社会教育と地域社会—コミュニティ・スクール他 (文書資料使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
11	社会教育と学習者理解・人材育成 1—ボランティア活動の意義とその実践 (VTR・DVD 使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
12	社会教育と学習者理解・人材育成 2—「おとなの生きる力」・「成人力」・「キー・コンピテンシ」理論					事前：なし 事後：なし		講義		
13	社会教育と生涯・キャリア発達 1—青少年の学習とその課題 (VTR・DVD 使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
14	社会教育と生涯・キャリア発達 2—成人・高齢者の学習とその課題 (VTR・DVD 使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
15	社会教育の今後の課題—本講義のまとめと将来のための学習課題 (文書資料、VTR・DVD 使用)					事前：なし 事後：なし		講義		
<p>教本： 社会教育行政研究会編『社会教育行政読本—「協働」時代の道しるべ』(必要に応じて、印刷文献資料と映像資料を使用して授業をすすめる。)</p>			<p>参考文献： 生涯学習・社会教育行政研究会編『生涯学習・社会教育行政必携』(平成27年度版) 第一法規佐藤晴雄・望月厚志・柴田彩千子著『生涯学習と学習社会の創造』学文社、2013年文部科学省生涯学習政策局調査企画課編『平成23年度 社会教育調査報告書』文部科学省、2013年遠藤克弥編『地域教育論—生涯学習から社会教育へ—』川島書店、2011年立田慶裕他著『生涯学習の理論—新たなパースペクティブ—』福村出版、2011年鈴木真理・佐々木英和編『社会教育と学校』学文社、2003年日本生涯教育学会編『生涯学習研究 e 事典』日本生涯教育学会、http://ejiten.javea.or.jp/、2005年</p>							
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 各講義中での学習課題と講義後に出される学習課題レポート (40%) 及び学期末課題レポート (60%) に基づき総合的に評価する。評価は「到達目標」が基準となる。</p>										
<p>学生へのアドバイス： 欠席しないこと。</p>										
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	社 会 規 範 と 行 動 (Social Norms and Behaviors)						科 目 分 類	社 会 教 育 主 事 科 目	
担 当 教 員	長 岐 郁 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 社 会 と そ れ を 構 成 す る 個 人 の 相 互 規 定 的 な 関 係 、 そ こ に 発 生 す る 社 会 規 範 ・ ル ー ル の 機 能 と 形 態 、 社 会 秩 序 の 維 持 と 再 生 産 の 構 造 、 紛 争 と 紛 争 処 理 の モ デ ル と 実 態 、 権 利 概 念 の 実 証 的 理 解 な ど を テ ー マ に 考 察 を 進 め て い く。									
授 業 目 標 : 社 会 を 構 成 す る 規 範 概 念 を 理 解 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：なし 事後：講義の復習		講義	
2	社会と個人のつながり					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
3	社会化と社会統制のメカニズム (社会契約論)					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
4	社会規範の基本的性格 (1)					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
5	社会規範の基本的性格 (2)					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
6	法と法律 (実体法)					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
7	法と法律 (手続法)					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
8	紛争とは何か					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
9	紛争の実証的考察					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
10	権利という概念					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
11	近代的権利の生成					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
12	権利概念の多様性					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
13	権利意識の変遷					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
14	法と紛争の総合的理解					事前：配布資料の熟読 事後：なし		講義	
15	まとめ					事前：配布資料の熟読 事後：講義全体の復習		講義	
教 本 : 適 宜 プ リ ン ト を 配 布 す る					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 で の 発 言 (20%) 及 び 定 期 試 験 (80%) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 特 に な し 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	生 涯 学 習 概 論 (Liflong Learning)						科 目 分 類	社 会 教 育 主 事 科 目	
担 当 教 員	佃 直 毅								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>生涯生活全般について理解を深めるとともに、生涯学習の理論・政策や今日の社会における生涯学習の課題等について明確にするとともに、生涯学習に関する諸分野の具体的展開や事例の学習を通して、実践的な能力の基礎を身につける学習を行う。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習、社会教育の専門的な支援職員の学校教員、社会教育主事、学芸員、図書館司書等として活躍するのに必要な考え方や知識・能力の基礎を培うことを目的としている。これまでの自らの教育体験をふり返り今後の自分自身の「生き方」を探ることもこの授業の目的である。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	生涯学習とは何か (1)本講義のガイダンスと計画 (シラバス使用)					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
2	生涯学習とは何か (2)生涯学習の定義					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
3	生涯学習の現代的意義					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
4	生涯教育・生涯学習論の系譜					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
5	生涯学習論の国際的動向					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
6	生涯学習と家庭教育					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
7	生涯学習と学校教育					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
8	生涯学習と社会教育					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
9	生涯学習と学校・家庭・社会教育の連携と一体化					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
10	生涯学習振興行政の役割					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
11	生涯学習の内容と方法…生涯各期の学習課題					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
12	生涯にわたるキャリア形成と学習課題 (自己啓発の意義)					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
13	高齢社会化と生涯学習の課題					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
14	生涯学習と近代の協働的アプローチ					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
15	今後の「生涯学習を考える」まとめと今後の学習課題の明確化					事前：予習 (テキスト) 事後：復習 (テキスト)		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「生涯学習概論」					必要に応じて紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : で き る だ け、博 物 館 や 美 術 館 等 を 訪 問 し た り、関 連 す る テ レ ビ 番 組 等 を 見 て、学 芸 員 の 仕 事 や 社 会 教 育 主 事 の 仕 事 の 理 解 を し て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	スポーツ社会論 (Sports and Society)						科目分類	社会教育主事科目	
担 当 教 員	白岩 元								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 今迄のスポーツ活動がどのように変遷してきたか、スポーツの良し悪しを前提に、日本及び他国の人種、環境、宗教の違いを比較検討し、スポーツ活動が社会にどのように貢献してきたかを探求します。スポーツの持つ喜び、楽しさ、そして人間形成が日本社会に与えた影響、次回の東京オリンピック開催による社会変化を学生との討議により、やさしく理解が進捗できるように展開します。社会教育科目として、今後の社会、生涯スポーツ、少子高齢化社会、健康と体力づくりなど将来への社会構造のあり方を提案していきます。									
授業目標： スポーツとは何か？社会とは何か？社会教育とは何か？を中心に、講義資料を配布し、メモ取る必要なく、思考と判断を重視しながら、お互いに理解を深めるように質疑応答を行います。社会を構成する要因として人、物、組織があり経済発展と政治力が国及び社会を構築、現在発生している社会問題も取りあげます。今後の社会貢献に文化的役割とスポーツ活動の持つ価値を、アスリートを通じて社会評価をします。スポーツ医学の立場から、高齢化社会による健康の維持、ダイエット、体力づくりの方法と生活習慣病と認知症の予防を社会教育との関連で追求します。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	スポーツ社会論の定義・概要・目的の解説、社会とは何かを考えます					事前：なし 事後：なし		講義	
2	社会論及び社会学の始まり、社会をどうとらえるか、社会学を研究してきた方達。					事前：なし 事後：なし		講義	
3	社会学の考え方の紹介、社会学歴史の変遷（社会構成の意味、他国の社会・国づくり）					事前：なし 事後：なし		講義	
4	社会形成の課題（中国社会、英仏社会、米国社会、日本社会の比較）現在の社会は？					事前：なし 事後：なし		講義 (グループ討議)	
5	定常型社会、格差社会、資本主義社会、対立と分断、移民と差別等々の社会問題					事前：なし 事後：なし		講義 (グループ討議)	
6	スポーツの起こり（古代オリンピック、スポーツの始まり、スポーツの歴史）					事前：なし 事後：なし		講義	
7	スポーツの原典（遊びと教育、遊びと各種競技スポーツの相異）					事前：なし 事後：なし		講義	
8	スポーツ社会論（スポーツの発展による社会への貢献、スポーツの功罪について）					事前：なし 事後：なし		講義 (グループ討議)	
9	日本に於けるスポーツ界の変遷、今後の日本社会への課題					事前：なし 事後：なし		講義	
10	スポーツ産業とビジネス・プラン、アスリートの貢献					事前：なし 事後：なし		講義	
11	スポーツビジネスによる経済発展、スポーツ産業が担う社会への貢献					事前：なし 事後：なし		講義	
12	スポーツ医学による健康、体力づくり（長寿化社会、生体の働きについて）					事前：なし 事後：なし		講義	
13	スポーツ医学より、脳の働き、筋力づくり、健康との係り、サプリメントやダイエット					事前：なし 事後：なし		講義	
14	高齢化社会への対応、生活習慣病・認知症の予防、予防医学の紹介課題提案（今迄の内容を思考判断し、次回までにレポート提出）					事前：なし 事後：なし		講義 (グループ討議)	
15	スポーツ社会論のまとめ、筆記テスト実施、スポーツ活動オリンピック文化について					事前：なし 事後：なし		講義	
教本： なし					参考文献： 「スポーツ社会学」佐伯年詩雄（日本ウェルネススポーツ大学教授）他、「認知症予防のすすめ」白岩 元（国際技能・技術振興財団）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 1 筆記（理解度テスト）テストと課題レポート（70%） 2 グループ評価（30%）									
学生へのアドバイス： 将来の社会構成のあり方に関心、研究して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修		単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	博物館の施設と運営 (Management and Facilities for Museums)						科目分類	社会教育主事科目		
担 当 教 員	白澤 恵一									
履 修 条 件	前提科目									
	その他									
授業概要： 博物館の施設と運営が適切に行われているのか理解し、博物館の施設と運営に関する基礎的な能力を養う。										
授業目標： 博物館の施設と運営について学び、博物館の経営とは何かについて考える。そして博物館と地域の連携について学ぶ。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎						○				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	本講義の全体について展開する					事前：なし 事後：なし		講義		
2	ミュージアムマネジメントとは何か					事前：なし 事後：なし		講義		
3	行政制度について					事前：なし 事後：なし		講義		
4	財務について					事前：なし 事後：なし		講義		
5	施設・設備について					事前：なし 事後：なし		講義		
6	組織と職員について					事前：なし 事後：なし		講義		
7	博物館の使命と計画と評価について					事前：なし 事後：なし		講義		
8	博物館の倫理について					事前：なし 事後：なし		講義		
9	博物館の危機管理について					事前：なし 事後：なし		講義		
10	利用者との関係（広報・マーケティング、ミュージアムショップ等）					事前：なし 事後：なし		講義		
11	市民参画（友の会、ボランティア、支援組織等）					事前：なし 事後：なし		講義		
12	博物館ネットワーク・他館との連携について					事前：なし 事後：なし		講義		
13	他機関（行政・大学・類縁機関等）との連携					事前：なし 事後：なし		講義		
14	地域社会と博物館（地域の活性化、地域社会との連携）					事前：なし 事後：なし		講義		
15	本講義の全体についての質疑とテストについて					事前：なし 事後：なし		講義		
教本： 開講時に指示する。					参考文献： 必要に応じて指示する。					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 期末の筆記試験の成績により評価する。										
学生へのアドバイス：										
オフィスアワー：										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ボランティア論 (Volunteer)						科目分類	社会教育主事科目	
担 当 教 員	木原 勇								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 今日におけるボランティア活動の現状と固有の価値（当事者・活動者・社会・地域）を理解するうえで、これからの社会の一翼を担う社会人として、ボランティア・市民活動を学びます。									
授業目標： ボランティア活動は、さまざまな分野に広がりがあります。授業では、歴史・背景・多岐に渡る活動を紹介し、また、厚木市内の福祉施設等にて課外授業を行い、実際の体験から得るものを体感し、ボランティアの基礎を理解することを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：身近なボランティア		講義	
2	ボランティア活動とは何か					事前：なし 事後：テキスト用意		講義	
3	ボランティア活動の目指すもの					事前：なし 事後：なし		講義	
4	ボランティア活動の範囲					事前：なし 事後：なし		講義	
5	ボランティア活動の推進					事前：なし 事後：なし		講義	
6	ボランティア学習					事前：なし 事後：活動事例集紹介		講義	
7	ボランティア活動の実践					事前：なし 事後：課外授業アンケート		講義	
8	地域分野のボランティア活動					事前：なし 事後：なし		講義	
9	高齢者分野のボランティア活動					事前：なし 事後：なし		講義	
10	障がい者分野のボランティア活動					事前：なし 事後：なし		講義	
11	児童分野のボランティア活動					事前：なし 事後：なし		講義	
12	国際貢献分野のボランティア活動					事前：なし 事後：なし		講義	
13	課外授業に関するオリエンテーション					事前：なし 事後：訪問先確認		講義	
14	課外授業 当日					事前：訪問先事前確認 事後：レポート作成		演習	
15	課外授業の振り返り 授業のまとめ					事前：レポート提出 事後：なし		講義	
教本： 「ボランティアのすすめ」 監修 岡本栄一 ミネルヴァ書房 ￥2,400+税					参考文献： 授業中、随時提示				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 全15回終了後には、これからの学生生活や進路等を考えていく方向付けとしての一助になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

